

修士学位論文

論文題目 日本統治後期台湾における
子どものメディア体験

提出者 東北大学大学院情報科学研究科

人間社会情報科学 専攻

学籍番号 C0IM3016

氏名 林 庭瑠

2022 年度 修士学位論文

日本統治後期の台湾における子どものメディア体験

— 娯楽メディア・言語・アイデンティティの接点をめぐって —

東北大学大学院情報科学研究科
人間社会情報科学専攻
メディア情報学講座メディア文化論分野

C0IM3016

林 庭瑠

目次

凡例.....	3
第一章 序論.....	4
第1節 はじめに.....	4
第2節 時代背景.....	6
第3節 問題意識.....	11
第4節 本研究で用いる用語の説明.....	13
第5節 本論文の構成.....	20
第二章 文献レビュー.....	22
第1節 映画・漫画映画研究.....	22
第2節 漫画研究.....	27
第3節 子ども文化研究.....	28
第4節 アイデンティティ研究.....	29
第5節 まとめ.....	30
第三章 調査概要.....	31
第1節 談話会とインタビュー調査.....	32
第2節 資料の限界性.....	34
第3節 補助資料の使用.....	35
第4節 逐語録について.....	36
第四章 インタビュー内容の紹介.....	38
第1節 張陳○さん.....	38
第2節 王曾素琴さん.....	42
第3節 陳旭星さん.....	45
第4節 許金城さん.....	50
第5節 蔡焜霖さん.....	54
第五章 分析・考察.....	60
第1節 台湾の子どものメディア体験.....	60

「漫画」	60
「映画」	67
「漫画映画」	76
第2節 娯楽メディア・言語・アイデンティティ意識の接点をめぐって.....	80
「言語—娯楽メディア」	81
「娯楽メディア—アイデンティティ」	82
「言語—アイデンティティ」	85
第3節 戦後の経験によっても形づくられた「日本統治時代」と「アイデンティティ」	90
第六章 結論.....	99
第1節 研究の結果と貢献.....	99
第2節 本研究の限界と今後の課題.....	102
参考文献リスト.....	104
謝辞.....	111
付録1 インタビュー調査質問項目	
付録2 逐語録の説明および逐語録	

凡例

1. 本文における表記

() : 筆者による注記、語彙の読み方や意味の説明、補足

「」 : 文献や逐語録からの引用、重要語句

〈〉 : 引用の中の、引用者による注記

□ : 引用の中の、事実に基づく補足

□ : 引用の中の、動作についての説明

2. 脚注および参考文献リストにおける表記

本論文は台湾の文献を参照しているが、台湾の文献に関しては、台湾常用の《》と

〈〉記号を使用しない。日本語の文献と華語の文献は、書名には『』を用い、論文名には「」を用いた。英語の文献に関しては、書名は斜体で表記し、論文名には“”を用いた。

3. 付録の逐語録における表記

本論文の逐語録は華語で作成されたため、台湾の文献を引用するに際して台湾常用の記号を用い、日本語の文献には『』と「」を用いた。ほかの記号の使用については逐語録の説明文を参照していただきたい。

第一章 序論

第1節 はじめに

1895年の日清戦争において清国は日本に敗れ、敗戦後に結ばれた下関条約により台湾は日本に割譲され、帝国日本の初の植民地となった。その後から第二次世界大戦終結までの50年間、台湾は日本の統治下に置かれていた。この50年間の日本統治時代において、日本人統治者は台湾で日本内地と異なる法律を制定したり、武力で反乱を制圧したりして異族の台湾人を支配していた一方、衛生と医療環境の改善、縦貫鉄道とダムの建設などの物質面の近代化を推進していた。

自由、平等など人権面の近代化は統治者によってもたらされなかったが、日本統治時代中期、一部の台湾人は参政権の獲得を目標として自治運動を開始し、文化的な啓蒙を普及しようと動きはじめた。それぞれの目的は異なるが、日本統治時代において統治者である日本人も、自治運動の指導者である台湾人も、新聞の刊行や映画の巡回上映などで台湾人の意識に変化を起こそうとしていた。換言すれば、両者とも情報内容と情報が伝達される形、読者や観客のリアクションなどを内包する「メディア」の持つ力を認識したうえで、「メディア」を利用したのである。そのうえ、それらの方策や行動は一時的なものではなく、何年間もわたって続けられていた。ある程度の期間にわたってメディアに触れること、つまり「メディア体験」により、人の意識や考えが変わるのであれば、アイデンティティの形成上、メディアが一定の役割を果たすということも考えられる。

本題に入る前、筆者自身の子どもの頃の、あるメディア体験を述べさせていだきたい。

両親が台湾南部の出身であるため、私が中学校に上がる以前、夏や冬の休みは、だいたい台南にある父の実家で過ごしていた。山の奥にある町なので、娯楽はごく限られていた。ふだん暮らしている自宅では100以上のテレビチャンネルが見られるが、祖父母の家では民放3局しか見られない。漫画どころか、子どもだった私が理解できるような読み物さえなかったし、親による外出の許可が出ないかぎり、庭で植物に水をやったり薬草をとったりするほか、食事を待つだけの生活であった。

祖母は話がすきで、華語がうまく話せないが、いわゆる「台湾国語」（本章第4節を参

照)で話しかけてくれていた。それにひきかえ祖父は無口であった。祖父は私が大学生の頃に亡くなり、いま振り返れば、印象に残った祖父は映像のシーンみたいなものというか、とりあえず写真のようなものだ。あしながおじさんのように、伝統市場へ私をおもちゃを買いに連れて行こうと、光に背を向け、杖を持って待っていた祖父。テレビのほうへ顔を向け、日本語のカラオケを歌い終わったばかりの祖父の後ろ姿、などなど。

田舎でのつまらない日々が過ぎていく中、ある日祖父が外出した。家に戻ったとき、たくさんVHSが入った段ボールを手で持っていた。全部、日本のアニメーション映画だった。中古品に見えるVHSは、誰かからもらったものか、蚤の市で買ったものかと疑問だったが、プライドが高そうな祖父に聞いてはいけないと、幼いながらも微かに感じていた。段ボールのなかには、当時流行っていたドラえものの映画シリーズのほかに、『龍の子太郎』『チスト みどりのおやゆび』といった台湾ではあまり知られていないアニメーション作品も入っていた。

その段ボールのアニメーションは、私の記憶の中では、「無我夢中」といえる数少ない経験であった。いったい何回見たのかは、私には数えられない。アニメーションを見終わってVHSをケースに差し込み、段ボールに入れる前、段ボールのなかに入っている数十巻のVHSを目にするたびに、出どころのわからない充足感で心が満たされていた。

VHSを巻き戻すときに使う、赤いスポーツカーの形をした機器がある。VHSを差し入れて蓋を押し閉めると、スポーツカーのヘッドライトが灯り、巻き戻しが終わると自動的に蓋が開く。その夏休み、ライトは灯っては消えて、消えては灯り、赤いスポーツカーは台南の田舎から走り出し、台中にある私の家に行き着いた。子どもの頃に宝もののように扱っていたVHSは、いまでもうちの棚に納めてある。

それから十数年が経った大学時代に、私自身もアニメーションの制作をはじめた。モニターの画面のなかではじめて動き出した人形を見つめるとき、私は気づいた。いまの感覚は、小学校時代に一箱丸ごとのVHSをもらったときの、満足に近い鼓動とよく似ている、と。

そして大学卒業後に日本統治時代の映画史に触れはじめた私は、疑問に思わずにいられなかった。台南師範学校を卒業し、戦後数十年間小学校で教師を務めていた、とても、とっても厳しい祖父は、なぜその段ボールをくれたのか。祖父の他界により、いまや祖父の口から直接答えを聞くことができなくなってしまった。

若干ステレオタイプ的な思考ではあるが、私の以前の認識では、祖父母の世代の大人ら

の考えでは、アニメーションや漫画などの類のメディアは、「勉強」や「学習」などの概念と対極をなすはずであった。しかし、ひょっとしたら私の目には無口で、厳格な態度を取っていた祖父は、彼の子ども時代や青年時代、あるいは社会人になったあとも、その頃の私のように、アニメーションや漫画で心を深く揺さぶられたことが、実際にあるのではないか。台湾における言語事情の詳細は後述するが、現在の台湾の世代間では各時代の言語政策によって作られた言語面のギャップが存在している。ゆえに高齢者世代のことを理解するのも、いっそう困難となっている。日本統治時代の子どもはどのようなメディア体験をしていたのか。自分自身のことについて、どのように考えていたのか。本研究では、日本統治時代に生まれた、五人の方にインタビューをしている。その対談の分析を通して以上の問いの答えを見つけ、日本統治時代の子ども生活史に、「娯楽」という名のパズルを一枚入れようと試みる。

本研究は、子どもの頃のメディア体験がその人のアイデンティティ形成に寄与するという前提で推察を行なっていきたい。そのうえ、台湾にはさまざまな政権によって統治されてきた歴史があったため、台湾人のアイデンティティは複雑となっている。その背景説明として、やや長くなるが、以下、日本統治時代の前後を含む台湾の歴史を簡単におさえておく。

第2節 時代背景

台湾という、太平洋に位置する小さな島の最初の住民は、アウストロネシア語族（Austronesian、「南島語族」とも訳される）に属する原住民族である。大航海時代において、オランダ東インド会社は1624年に台湾の大員（現在の台南安平）を占領し、スペインは1626年に台湾の北部地域を占拠した。オランダもスペインも台湾を拠点に、日本や中国大陸との間の貿易を営んでいたが、1642年にオランダはスペインの勢力を駆逐し、台湾の北部を領有した。また、オランダ占領統治期において、オランダ人統治者は土地の開拓などで現在の中国福建地域からの移民を受け入れ漢族の労働力を輸入していた。1662年に明朝遺臣の鄭成功が兵隊を率いてオランダ人統治者を降伏させ、台湾初の漢族政権を樹立した。鄭氏政権の時期から、より多くの漢族が台湾へ移住してきた。1683年に鄭氏政権は清国によって倒され、台湾は正式に清国の領土となった。1894年に日清戦争が起こり、1895年の清国の敗戦により、台湾は帝国日本の植民地となった。

日本統治時代の初期から 1915 年頃まで、台湾では抗日蜂起事件が頻繁に発生していた。その後 1918 年に、蔣渭水などの台湾人留学生が東京で自治権の獲得を目標とする団体を結成した。この団体はのちに資金上の問題などで解散したが、1920 年に「新民会」として再発足すると同時に林献堂がその会長に就任し、同年、機関誌の『台湾青年』が創刊された。新民会は「半自治」制度の実現を目標として日本政府に「台湾議会」の設置を要求し、いわゆる「台湾議会設置請願運動」を展開した。1921 年から 1934 年までの 14 年間、計 15 回帝国議会に請願書を提出したが、いずれも却下された。最終的に総督からの圧力により、林献堂などは制限付きの協議会選挙の実施を交換条件に請願活動の中止を決議した。協議会選挙は 1939 年にも行われ、日本統治時代において計二回実施された¹。

「台湾議会設置請願活動」を支援する政治団体として、1921 年に「台湾文化協会」が設立された。その主導者は林献堂と蔣渭水、蔡培火らであり、会員の多くは中産階級の知識人であった。文化啓蒙運動の推進を通し、台湾の文化的向上を図ることが文化協会の目標であった。文化協会によって行われていた啓蒙運動に、協会誌の発行、「読報社」（新聞や雑誌の閲覧サービスを提供する機関）と講習所の設立、講演会の開催、映画の巡回上映、演劇の上演などが含まれていた²。文化協会は 1927 年に分裂して「新文化協会」として無産階級運動へと方向を転換したが、一部の幹部はその分裂に際して文化協会を脱退し、「台湾民衆党」という日本統治時代における台湾初の政党を結成した。1930 年代初頭、新文化協会は党員が当局に逮捕され、台湾民衆党は当局に解散を命じられて両者とも終焉を迎えた³。

1937 年の盧溝橋事件のあと、日本政府は台湾人の軍夫と軍属を動員しはじめ、それらを各地の戦線に送り⁴、台湾本島においても一連の皇民化運動が行われはじめた。皇民化運動を「日本的な色彩の強化」と「中国的な色彩の弱化」という二つの部分に分けることがで

¹ 何義麟・蔡錦堂（2019）『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』薛化元編，玉山社，92-94 頁。

黄昭堂（2019）『台湾総督府』，筑摩書房，130-154 頁。

末光欣也（2012）『台湾歴史 日本統治時代の台湾』，致良，253-255 頁。

² 呉密察編（2007）『文化協會在臺南 展覽專刊』，國立臺灣歷史博物館，10-27 頁。

陳翠蓮（2016）『台灣人的抵抗與認同（1920～1950）』，遠流，88 頁。

林柏維（2015）「日治時期的讀報社」『臺灣學通訊』85 号，國立臺灣圖書館，28-29 頁。

³ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』，94-96 頁、133-144 頁。

黄昭堂『台湾総督府』，135-141 頁。

末光欣也『台湾歴史 日本統治時代の台湾』，256-258 頁。

⁴ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』，172-184 頁。

きる⁵。「日本的な色彩の強化」の施策として、国語（日本語）の普及と日本的な生活様式の促進、日本神社の建設と参拝の強制、神宮大麻の祀り、「改姓名」運動（内地式姓名に名前を変える運動）の推進などが挙げられる。一方、「中国的な色彩の弱化」の部分には、公学校の漢文科目と新聞の漢文欄の廃止、台湾の伝統的な演劇と音楽の上演の禁止、「家庭正庁改善運動」（台湾の祭祀物を除き、神道の神を祀るなどして、信仰上の日本化を図る運動⁶）と「寺廟整理運動」（台湾の神を祀る寺廟を撤廃する運動）の推進などが含まれる⁷。1941年4月に「皇民奉公会」が結成され、自治運動の指導者を含む、多くの台湾人の知識人や地方の有力者は奉公会の幹部を務めていた⁸。

1941年12月に日本によって行われた真珠湾攻撃が太平洋戦争の幕開けとなった。太平洋戦争開始後の1942年2月に、日本政府は台湾において「陸軍特別志願兵」制度を制定し、漢族系の台湾人と原住民族系の台湾人を徴集し、原住民族系の台湾人を意識的に分離して「高砂義勇隊」として編成した⁹。一方、「海軍特別志願兵」制度は1943年7月に制定された¹⁰。1943年10月に日本内地において「学徒出陣」が開始され、日本内地に留学していた台湾人の学生もその対象となっており、1945年になると台湾本島においても「学徒出陣」が実施されるようになった¹¹。1945年に「台湾徴兵制度」が制定された。徴兵制に対する懐柔策として、林獻堂などの三人の台湾人は貴族院の議員に勅選され、衆議院議員選挙法の改正案が通過して台湾人による国政参加が可能になったが、それから第二次世界大戦が終結するまで衆議院選挙が行われなかったため、台湾選出の衆議員も現れなかった¹²。

1945年の日本敗戦により、日本政府は台湾を統治する正当性を失った。のちほど中国国民党政府は联合国最高司令官総司令部「一般命令第一号」一の（イ）「支那（満州ヲ除く）、台湾及北緯十六度以北ノ仏領印度支那ニ在ル日本国ノ先任指揮官並ニ一切ノ陸上、

⁵ 同上、161-163頁。

⁶ 植野弘子（2004）「植民地台湾における民俗文化の記述」『人文学科論集』41号、茨城大学人文学部、39-57頁（54頁）。

⁷ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、163-164頁。
黄昭堂『台湾総督府』、172-174頁。

⁸ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、167-169頁。

⁹ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、184頁。
黄昭堂『台湾総督府』、180-181頁。

¹⁰ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、186-187頁。

¹¹ 同上、188頁。

¹² 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、190-192頁。
黄昭堂『台湾総督府』、182-187頁。

海上、航空及補助部隊ハ蒋介石総帥ニ降伏スベシ」により台湾を「接收」したが、実際には、台湾の主権の移行は正式の国際条約によって規定されていなかった¹³。中国は軍事力が弱く、不安定な情勢にあるため、台湾を占領する責任を担えるか、判断が難しい状況にあった。中国による占領の執行が難航する場合、アメリカが代わりに台湾を占領して軍事政権を設立する、という想定もあった¹⁴。1945年10月に中国国民党が実質的に台湾を統治しはじめ、小学校の校長以外、政府機関の上級官僚はすべて外省人（本章第4節を参照）が務めていた。行政の腐敗、治安と経済の悪化などが進む中、1947年2月27日、外省人の役人が密輸たばこを販売する女性を取り締まる際に威嚇発砲をして本省人（本章第4節を参照）を誤殺した事件が起きた。それにより長い間溜まっていた民衆の不満が爆発した¹⁵。

2月28日朝の射殺事件への抗議行動において、群衆が専売局に押しよせて物品を破壊し、専売局の職員が殴られて死亡に至った。当日の午後、群衆が台湾省行政長官公署（当時の台湾における最高位の統治機構）へ請願しに集まっていたが、長官公署が発砲を命じ、多くの死傷者が出て台北地区が大混乱に陥った。政府が台北地区の戒厳令を布告したあと、市街地でデモの群衆は軍隊の銃火にさらされ、負傷者の体内から国際的に使用が禁止されたダムダム弾の破片が見つかったこともあった。台北の暴動の話が広がってから、ほかの地域においても騒動が起ころはじめた¹⁶。3月6日夜、行政長官であった陳儀は台湾全島に向け、これからはなるべく本省人を起用し、県長・市長の普通選挙を実施するようにとラジオで放送したが、実際には陳儀は3月2日に蒋介石に軍隊増援を要請しており、その許可も3月5日に下された¹⁷。

3月8日、中国大陸からの軍隊が台湾に上陸し、一般民衆にも銃口を向けた。陳儀も当日の夜に台湾全島に対する戒厳令を出し、5月15日まで台湾は戒厳令下に置かれた¹⁸。1947年12月10日と1949年5月19日にも戒厳が発令され、三回目の戒厳令が1987年7月15日に解除されるまで38年間続いていた。戒厳令が施行されていた期間において、移

¹³ 薛化元（2009）「從歴史文獻看台灣的定位問題」台湾國際地位研討會論文（シンポジウム論文），87-100頁（93-94頁）。

¹⁴ 陳翠蓮（2017）『重構二二八：戰後美中體制、中國統治模式與臺灣』，衛城，50-51頁。

¹⁵ 陳世昌（2015）『戰後70年臺灣史』，時報，41-45頁。

¹⁶ 黃惠君（2017）『激越與死滅：二二八世代民主路』，遠足文化，111-117頁。
陳翠蓮『重構二二八：戰後美中體制、中國統治模式與臺灣』，204-212頁。

¹⁷ 黃惠君『激越與死滅：二二八世代民主路』，149頁、158-162頁。

¹⁸ 同上，163-173頁。

動、言論、通信、集会、結社などの自由がさまざまな法規則で制限されていた。戒厳令がしかれていた時期を「白色テロ」と呼ぶこともある。台湾における「白色テロ」の定義とその時期について、解釈が統一されていないが¹⁹、広義では、戦後、中国国民党による独裁統治の下で政治的弾圧が行われ、不当な人権侵害が多く発生していた時期を指す。したがって、この白色テロの時期が実質的には植民地統治期だったとする考え方も存在する²⁰。また、白色テロの受難者は本省人のみならず、外省人にも多くいる。

中国国民党は1949年に中国大陸から撤退し、中央政府を台湾に移すと決議したが、実際には1951年の『サンフランシスコ平和条約』が締結されるまでに、日本降伏後の中国国民党による台湾の領土接収と領土統治権を規定する国際条約は結ばれなかった²¹。1950年に朝鮮戦争が始まり、アメリカ大統領のトルーマンはアメリカ軍を台湾海峡に派遣し、「フォルモサ（引用者注：台湾）の将来的な地位の決定は、太平洋の安全の回復や日本との和平合意、または国連による検討を待たなければならない」²²とした。これにより、事実上、存在していた「台湾地位未定論」が明言された²³。日本は1951年に締結された『サンフランシスコ平和条約』第二章第二条（b）「日本国は、台湾及び澎湖諸島に対するすべての権利、権限及び請求権を放棄する」により、台湾の統治権を放棄した²⁴。1952年に結ばれた『日本国と中華民国との間の平和条約』においても台湾の帰属が規定されず、第十条で「この条約の適用上、中華民国の国民には、台湾及び澎湖諸島のすべての住民及び以

¹⁹ 台湾における「白色テロ」の定義とその内実については、以下の文献を参照していただきたい。

侯坤宏「戦後臺灣白色恐怖論析」『國史館學術集刊』12号、國史館學術集刊編輯委員會、139-203頁。

²⁰ その一例として呉叡人は、清帝国と日本、中国国民党による統治期を植民地期とみなし、それらの植民地期において、宗主国（外来政権）、異なる社会集団（漢族、日本人）の移民、原住民が併存する、階層的な支配構造が形成されたとしている。

呉叡人（2021）『台湾、あるいは孤立無援の島の思想——民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて』駒込武訳、みすず書房、16-17頁を参照。

²¹ 薛化元「從歴史文獻看台灣的定位問題」、91-92頁。

²² United States Government Printing Office Washinton D. C., (1965), *Public Papers of the Presidents of the United States: Harry S. Truman (1950)*, 492. 日本語訳は筆者による。
薛化元・戴寶村・周美里（2005）『台灣，不是中國的——台灣國民的歷史』，財團法人群策會，149-150頁。

²³ 薛化元「從歴史文獻看台灣的定位問題」、96頁。

²⁴ 薛化元「從歴史文獻看台灣的定位問題」、96-97頁。

前にその住民であった者並びにそれらの子孫で、台湾及び澎湖諸島において中華民国が現に施行し、又は今後施行する法令によって中国の国籍を有するものを含むものとみなす²⁵と規定するのみにとどまる²⁶。これについて、日本国会における同条約の審議に関わった、外務省アジア局長であった倭島英二は、参議院外務委員会で「従来台湾籍民と言われておった人たちの国籍の問題ということも、最終的にきまっておらない」としていた²⁷。さらに、1971年に中華民国が国連から追放されてから、「台湾」は主権国家として国際的に承認されていない。

第3節 問題意識

こうした複数の政権に植民・統治された歴史が、台湾人のアイデンティティ問題を複雑化してきた（アイデンティティについては本章第4節を参照）。1930年代前後に生まれた台湾の子どもは、子どもから大人になる過程においてアイデンティティの変容を経験すると同時に、激しく変動する世の中を目にしていた。かれらにとって、「日本人」「中国人」「台湾人」といった言葉はそれぞれ、何を意味するのか。また、そのアイデンティティ形成の過程において、メディアがどのような役割を果たしていたのか。

台湾映画史研究・中国映画史研究では、1990年代にいたるまで「〈引用者注：中国国民党の〉革命史」という文脈が支配的であった一方、日本映画史研究にも「帝国史」的視角が持ち込まれていたことが指摘されている²⁸。戒厳令が解除されたあと、台湾は再び民主化の道を歩みはじめ、それまで制限されていた日本統治時代の映画に関する研究においても多様化が図られてきた。ただしそれらの先行研究に、一つの不在がみられる。それは「日本統治時代の映画研究における漫画映画の不在」である。

映画研究と比べると、日本統治時代の漫画や子ども文化に関する研究は数が限られている。詳細は後述するが、漫画研究の多くは台湾人の漫画家と台湾の新聞に掲載されていた台湾在住の内地人の作品に焦点を当て、子ども研究は童話など文学面の考察に重点を置いて

²⁵ この条文における「国民」と「住民」の使い分けについては、以下の文献を参照していただきたい。

彭明敏・黄昭堂（1976）『台湾の法的地位』、東京大学出版会、156-169頁。

²⁶ 薛化元「従歴史文獻看台灣的定位問題」、97頁。

²⁷ 彭明敏・黄昭堂『台湾の法的地位』、161-163頁。

²⁸ 三澤真美恵（2010）『「帝国」と「祖国」のはざま——植民地期台湾映画人の交渉と越境』、岩波書店、16-19頁。

ている。日本内地において、1910年代から『少年倶楽部』や『アサヒグラフ』などの雑誌が創刊され、漫画作品を多く掲載した。その一部の雑誌は、日本統治下の台湾においても発行されていた。これは、台湾においても内地人の漫画家が描いた漫画に一定の読者数があつたことを物語っている。映画に関する先行研究が指摘したとおり、日本統治時代において日本映画が台湾の観客によって見られていたのであれば、日本雑誌の読者には、内地人の子どものみならず、本島人の子どものも含まれていたと筆者は推論する。現在の台湾において漫画は年齢を問わず幅広く支持されており、「国立漫画博物館」の設立計画が練られ、台湾の漫画史が構築されつつある。しかし、現在の台湾における漫画の人気の、日本統治時代にさかのぼれるのであれば、台湾の漫画史に関する研究は台湾人の漫画家の作品や台湾の新聞に掲載されていた作品だけでなく、台湾現地に流通していた内地の漫画作品をも視野に入れるべきではないだろうか。ここに、先行研究における、二つ目と三つ目の「不在」が現れる。「日本統治時代の漫画研究における日本漫画の不在」、「日本統治時代の子ども文化研究における漫画の不在」である。

先行研究の構造的不均衡を反映する、この三つの「不在」の原因は何であろうか。不在の原因になる可能性として、以下の三つを示したい。第一に、研究者の言語事情である。すなわち、台湾のメディア研究者のうち、日本統治時代のメディアを研究するのに十分な日本語能力を備えている人はそれほど多くないことだ。第二に、「台湾主体性」の強調によって研究視野から日本人とその作品が消失したことである。戒厳令が解除されたあとの台湾社会は徐々に戒厳令下の党国体制から脱却していき、台湾の歴史を書きはじめると、各分野の研究においてもいわゆる「台湾主体性」（台湾を中心としてなされる政治的や文化的言説）が取り戻されつつあつた。しかし主体性を強調した反面、日本統治時代に日本内地から輸入された作品や在台内地人による作品に対する注目度が低下したのである。第三に、台湾のメディア研究において漫画と漫画映画は長い間、とるに足らないものとして見過ごされていたことである。総じて言えば、台湾のメディア研究の今後の課題は、「台湾主体性」を失わずに文化的多元・多様性を尊重することにある。

メディアの力は、社会の隅々まで浸透し、さりげなく人々の考えに影響することにあると筆者は考える。また、このような強い力を持つメディアとして、ニュースや新聞のほか、漫画と映画、漫画映画を包括する娯楽メディアがある。したがって、上記の不在を埋めるため、娯楽メディアに焦点を当てて考察を行う必要があると考えられる。当時台湾の子どもは、学校の教科書や政府がすすめる読み物・映画のほかに、どのような流通形態

で、いかなる娯楽メディアに触れていたのか。メディアが総動員体制に組み込まれていた1940年代以降も、子どもにどういった娯楽メディアに触れる権利があったのか。また、植民地台湾において、それら読み物や映画を見ることは、かれらのセルフ・アイデンティティに影響を与えていたのか。本研究は、台湾の子どものメディア体験を明らかにすることを通し、以上の問題を解いていきたい。

第4節 本研究で用いる用語の説明

本節の内容は第1節と第2節で述べられたこととやや重複するが、本研究が用いる用語を本節でより詳しく説明する。本節では、はじめに本研究が扱う範囲と関わる「日本統治時代後期」「子ども」「メディア・娯楽メディア」「アイデンティティ」の概念規定と用語説明を行う。続いて、本研究が対象とする日本統治時代から本研究が行われた時点（2020年～2023年）までの台湾の社会背景に関わる「公学校／小学校」「本島人／内地人」「本省人／外省人」「華語／台湾語／国語／母語」について説明する。

【日本統治後期】

台湾の「日本統治時代」とは、1895年から1945年まで、台湾が日本の植民地として扱われていた時期である。当時、台湾総督府は最高位の統治機構であり、台湾総督府の長官である台湾総督は日本天皇によって任命される。台湾の歴史上、植民政権が複数存在することを踏まえ、本論文では、学界で台湾の「日本統治時代」を議論する際によく使われる「植民地期」という語彙を使用しない。

日本統治時代は統治の方針によって以下の時期に分けることができる。「始政期（1895～1915）」、「同化期（1915～1937）」、「皇民化期（1937～1945）」の三つである。本研究の指す「日本統治後期」は、三つ目の「皇民化期」と重なる。

ではなぜ本研究では「皇民化期」という語彙を使わないのか。第一に、「皇民化」という用語の使用により、当時の台湾人を「皇民」として扱う印象を与えることが懸念される。第二に、「皇民化政策」は統治者側が作り出した言葉であるのに対し、本研究は被統治者のメディアに対する考えを考察するものであるため、統治者側の論理から距離を置く必要があると考える。よって本研究は「日本統治後期」という歴史の一時期を指す言葉を

用いる。「日本統治後期」を「日本統治時代後期」と書き換えることもあるが、言葉の意味に変わりがない。

なお、台湾においては「日本時代」という言い方も存在しており、本論文および付録の逐語録にもよくみられる。

【子ども】

本論文では「子ども」を「6歳以上15歳以下の者」と定義する。戦前と戦後初期の社会背景や経済状況は現在のそれとはかなりの差があり、したがって当時の「学校教育から離れて社会へ進出する者の年齢」についても、現在の認識とだいぶ異なる。「子ども」のみでなく、「大人」の定義でさえ今日広く認識されるのとは別様だと言えるだろう。

日本統治時代の台湾は、植民地特有の言語問題と政治問題により、教育制度は日本内地と大いに異なっていた。台湾における義務教育制度は1943年になってはじめて施行され、日本内地と比較すれば遅かったが、台湾総督府の統計資料を見ると、1930年代以降、本島人学齢児童の就学率が前と比べて著しく上昇したことがわかる²⁹。

教育制度や進学実態において台湾本島と日本内地の間では大きな差異が存在したが、その差異は外的条件に由来すると考えている。ここでは自立する力、つまり社会で独立して生活できる力を有するかどうかにかぎりに重きをおいて考えたい。よって、本論文では「子ども」を、読み書きができるが中等教育修了前の「6歳以上15歳以下の者」とする。

【メディア】【娯楽メディア】【映画】【漫画】【漫画映画】

吉見俊哉によれば、メディアとは「私たちの社会的経験世界の技術的な次元と意味的な次元を同時に媒介し、またそうした次元によって媒介されながら、個別のメディアの布置や編成を可能にしていく、テクノロジーと意味、それに語りや解釈、接触といった社会的実践の構造連関的な場のこと」である³⁰。本論文における「メディア」も、単に伝達技術や装置のことを指す言葉ではなく、その伝達技術が創出される歴史的な背景と、テキスト

²⁹ 当時の教育実態や教育政策の分析に関しては、以下の文献を参照していただきたい。
許佩賢（2015）『殖民地臺灣近代教育的鏡像——1930年代臺灣的教育與社會』，衛城。

駒込武（1996）『植民地帝国日本の文化統合』，岩波書店。

³⁰ 吉見俊哉（2012）『メディア文化論（改訂版）』，有斐閣，3頁。

が生産され消費される形、またテキストの生産と消費によってなされる社会的な相互作用を含めるものである。

本研究は主に「映画」「漫画」「漫画映画（アニメーション）」といった、学校以外の場でもみられる三つのメディアを扱い、それらを「娯楽メディア」と総称する。この三つのメディアの呼称は当時、統一されていなかった。しかし一般的にいうと、「映画」「漫画」「漫画映画」は戦前、最も使われていた呼び名であるため、本論文では以上の「」の中の表記を使用する。

各メディアのほかの呼び名の例のいくつかを、以下に挙げる。図 1-1 および図 1-2 に示すように、1934 年 6 月 6 日『台南新報』夕刊 4 頁の漢文欄では、「活写」と「活動写真」を使用しており、いずれも「映画」のことを表す。漫画に関しては「ポンチ」「マンガ」「コミック」「絵本」といった別称があり³¹、漫画映画に関しては「動画映画」「カートン・コメディ」といった別称が使用されていた³²。また、新聞では「マンガ」で「漫画映画」を指すこともある（図 1-2 を参照）。区別しやすいように、本論文では紙の漫画を「漫画」、アニメーションを「漫画映画」とする。

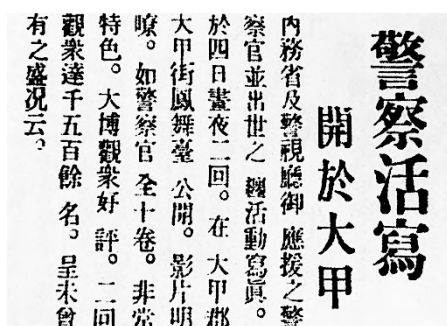


図 1-1 『台南新報復刻本』 95 卷 1934 年 6 月 6 日号 夕刊 4 頁（漢文欄）

³¹ 竹内オサム・西原麻里編著（2016）『マンガ文化 55 のキーワード』、ミネルヴァ書房、2-11 頁。

³² 山口且訓・渡辺泰（1978）『日本アニメーション映画史』プラネット編、有文社、12-13 頁。

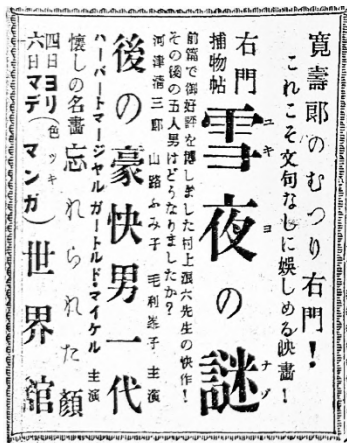


図 1-2 『台湾日報復刻本』2 卷 1937 年 6 月 4 日号 朝刊 11 頁

【アイデンティティ】

蔡英文は「個人やグループは変動し続ける生活の中で、ある恒久的な特質を探求し、それを用いてほかの人やグループから自己を区別する」ような意識を持つとして、その恒久的な特質を「アイデンティティ」(identity)と解釈する³³。なお、コミュニティ・グループは当コミュニティの価値や歴史、生活様式、言語などの文化的な要件のもとで構築されるため、その意味において個人のアイデンティティもまた、特定のコミュニティの集団アイデンティティとは密接に結びついている³⁴。本論文における「アイデンティティ」は上述の「アイデンティティ」と意味が近い、一種の感情 (sentiment) である。特定の土地やエスニック・グループ、言語などを対象とするこの感情は、社会における立ち位置を表し、共同性を帯びる「帰属意識」(a sense of belonging)を生み出す。本研究は後述する陳翠蓮の理論的枠組み³⁵を使用しており、日本統治時代に形成された「台湾人共同体意識」を一種のナショナリズムではなく、「初期ナショナリズム」(proto-nationalism)とみなす。つまり、ナショナリズムの「前身」、あるいは「土台」や「胚」なのである。よって本論文で議論するのは、ジェンダーや宗教なども含める、より広義的な「アイデンティティ」ではなく、政治や国家 (nation)、エスニシティなどを対象とする「アイデンティティ」ではあるが、日本統治時代に明確なナショナリズムが出現しなかったという歴史的な文脈から、そ

³³ 蔡英文 (1997) 「認同與政治——一種理論性之反省」『政治科學論叢』8 号, 國立臺灣大學, 51-84 頁 (55 頁)。

³⁴ 同上, 54 頁。

³⁵ 陳翠蓮 (2016) 『台灣人的抵抗與認同 (1920~1950)』, 遠流, 30 頁。

れを「ナショナル・アイデンティティ」や「政治的アイデンティティ」と呼ばず、「アイデンティティ」と呼ぶ。また、個人の「アイデンティティ」について論じる際は、「セルフ・アイデンティティ」という言葉を用いる場合もある。

【公学校】【小学校】

日本統治時代後期の初等教育機関は、内地人の学童に対する「小学校」と、本島人の学童に対する「公学校」に分かれていた。1941年の「国民学校令」により台湾全島の小学校と公学校は「国民学校」に名称を改められた。

【本島人】【内地人】

日本統治時代の台湾の住民は、統治開始前にすでに台湾で生活していた原住民族系の住民および漢族系の住民と、統治開始後に日本内地から台湾本島へ移住してきた日本人系の住民に分かれていた。本論文では日本人系の住民を「内地人」、原住民族系の住民と漢族系の住民を併せて「本島人」と呼ぶ。

【本省人】【外省人】

中国大陸における国共内戦で中国国民党が中国共産党に負け、1949年に台湾へ撤退した。台湾を拠点として「大陸反攻」を意図していた中国国民党は、台湾を中国の一つの省とし、「台湾省」と呼んだ。ゆえに「本省人」と「外省人」という用語も現れた。「外省人」とは戦後中国大陸から台湾へ移住してきた人であり、「本省人」とは戦前から台湾で居住していた漢族である。また、古くから台湾に居住していた先住民族（日本統治時代後期では「高砂族」と「平埔族」という呼称が使用されていた）の人を、今は「原住民族」と呼ぶ。

今日の台湾は政治的背景が戦後初期のそれと大きく異なり、台湾は中国大陸の一つの省なのか、中国国民党は今でも正統中国を代表する政権なのかといったことについても、議論の幅が広がってきている。それゆえ「外省人」「本省人」という用語も、少し時代遅れの間接的な感覚を与えてしまうのかもしれない。しかしこれまでに、より適切な用語に置き換えよ

うという動きもなかったため、現在に至っても使用されている。

【華語】

本論文では英語の「Mandarin (マンダリン)」を「華語」と呼ぶことにする。なぜ「中国語」という一般的な呼び方を使用しないかという点、筆者の考えでは「中国語」は実際、非常にあいまいな使い方で使用されているからである。第一に、「中国語」は現在の中国の公用語ではあるが、マンダリンを使用する民族は中国人のみでなく、シンガポールやマレーシアなど、アジアのほかの地域の住民も含まれる。第二に、台湾では大多数の人がマンダリンのことを言うとき、「中国語」ではなく「中文」という言葉を使用する。「中文」に「国」という文字がつかないため、言葉の使用者の感覚上では自然に「国家」との関連性が低くなり、ゆえにいろいろな場面で使える、扱いやすい言葉となっている。台湾ではマンダリンのことを「国語」と言う人もいるが、「国語」という用語の台湾における意義については、のちほど説明する。

近年、台湾社会では多文化共生の意識が高まってきている。2018年に施行された「国家言語発展法」という法律も、言語の文化を尊重するという目的をもつ。同法の第三条では、この法律における「国家言語」を「台湾固有のエスニックグループそれぞれの自然言語と台湾手話」とし、第四条ではそれぞれの言語の地位が平等であると規定し、各言語の保存、復興、平等な発展に関連する保障措置の強化を推進することを定める³⁶。以降、台湾金馬賞（台湾アカデミー賞）や台湾金曲賞（台湾グラミー賞）なども次々と「国語」から「華語」へと賞の部門名を改めた。そのことから、筆者は「華語」が現在の台湾社会において最もニュートラルな呼称だと考える。したがって本論文では「華語」という用語を使用する。

³⁶ 全国法規資料庫「國家語言發展法」

<https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawAll.aspx?pcode=H0170143>（参照 2022-12-20）

文化部「國家語言發展法」https://www.moc.gov.tw/jp/content_177.html（参照 2022-12-21）

文化部「國家語言發展」https://www.moc.gov.tw/content_275.html（参照 2022-12-20）

【台湾語】

日本統治時代の台湾漢族を使用言語で分類すると、台湾語を話す「福佬人（または Tâi-oân-lâng）」と、客家語（Hakka）を話す「客家人」という二つのコミュニティに分けることができる。【華語】の項で触れた「国家言語発展法」の施行まで、「方言」と位置づけられていた台湾語は実際、日本統治時代においては、漢族コミュニティの中で使用割合が最も高い言語であった。また、台湾語のことを「閩南語」と呼ぶ人もいる。ただし、「閩南語」は戦後に台湾に流入してきた用語であるのに対し、「台湾語」は戦前から存在していた用語であるため、本論文では「台湾語」という用語を使用する。

現在の台湾で使用される言語は、前述の華語と台湾語、客家語のほかに、アウストロネシア語族に属する原住民族のそれぞれの言語と、東南アジアから移住してきた住民が使用する東南アジアの諸言語などがある。「台湾語」には「台湾」という二文字がつくのだが、台湾のすべての住民がこの言語を話すということを意味しないということを、ここで説明しておきたい。本論文は「台湾語」という言葉を多用し、「台湾語」と台湾人アイデンティティの関連性を考察するが、以上のことで台湾語がほかの諸言語よりも格が高いと示したいわけではない。のちの第三章で説明するように本研究のインタビューでのインフォーマントに偏りがみられる一方、インタビューアである筆者が使用できる言語に客家語と原住民族の諸言語が入らないため、考察結果もある程度制限されている。

【国語】

国語、いわゆる「国の言語」。日本統治時代の統治者は日本であるため、当然のことながら当時の「国語」は日本語であった。第二次世界大戦における日本の敗戦により、台湾が中国国民党の統治下に置かれることとなった。中国国民党は自らのことを「正統中国」と自認していたため、戦後、台湾の「国語」は日本語から華語へと変わった。また、「国語」のほかに「北京語」という言葉も使われていた。1956年に中国国民党政府は「国語を話す」施策を推進しはじめ、公的機関や学校などの場所では華語を使用するよう定めた。1966年に、生徒の公的な場での華語以外の言語の使用を制限する賞罰制度が施行された

37。

本論文および付録の逐語録に出る「国語」という用語は、二つのニュアンスで使用されている。すなわち、前述の日本統治時代における「日本語」と、戦後における「華語」である。国語が「国の言語」と一般的に理解されるとはいえ、ここでは筆者は「国語」を言葉の使用者の「国」に対する意識を表すものとはしない。なぜかという、中国国民党による「国語運動」の長年の推進がかなりの「成果」を収めたことにより、「国語」という用語の使用は台湾社会に深く浸透し、したがって「国語」を「華語」の同義語とみなす台湾人が多くいるからである。ということで、筆者は戦後から現在にいたるまで使用される「国語」を、「外省人」や「本省人」と同じく、「長期間の使用により定着してしまった」用語だと考える。

ちなみに「台湾国語」という言葉も存在する。「台湾語訛りで標準的でない華語」のことを指すものである。使用される文脈によって違う解釈が出ることもあるが、多くの場合、褒め言葉として使われない。

【母語】

複数の言語が話される国や地域において「母語」とは何かを定義することは、決してたやすいことではない。前述の台湾諸言語事情と政治事情により、本論文では「母国語」ではなく「母語」という用語を使用し、「母語」を「最初に習得した言語／最も自在に話せる言語」と定義する。

第5節 本論文の構成

本論文は六章構成である。

本章（第一章）では本研究の背景と問題意識、および本研究が用いる用語の説明を行った。

³⁷ 臺史博線上博物館「我要說國語不說方言」

<https://the.nmth.gov.tw/nmth/zh-TW/Item/Detail/1d28a46c-4df5-43de-a79e-b2ab74a9a267>（参照 2022-12-20）

第二章では、先行研究の文献レビューを行う。先行研究を検討するに際して「映画・漫画映画研究」「漫画研究」「子ども文化研究」「アイデンティティ研究」に分け、それぞれの問題点を整理し、本研究が子どものメディア体験とそのアイデンティティ形成に注目した理由を説明する。

第三章では本研究が行ったインタビュー調査の概要について述べる。インタビュー調査の対象者にある偏りから推測された考察の限界性を示したうえで、本研究が調査内容の信頼性の確認と娯楽メディアの出版・上映状況の考察にあたって使用する新聞資料について説明を行う。

第四章ではインタビューで聞き取れた内容を、インタビューが行われた順に沿ってインタビュー別に紹介する。

第五章は本論文の核となる章である。第1節では第四章の内容を踏まえながら、子どもの「漫画」「映画」「漫画映画」体験の共通性を解明し、それら娯楽メディアの鑑賞実態についていくつかの推論を行う。第2節では「娯楽メディア」と「言語」と「アイデンティティ」との「接点」をめぐって、最初に「言語—娯楽メディア」の項で台湾の子どもはどの言語で娯楽メディアを理解していたかの実態を解明する。続いて「娯楽メディア—アイデンティティ」の項で、一部の台湾の子どもが自分自身のことを、娯楽メディアによって表象される日本人のイメージに重ね合わせていたという可能性を呈示する。最後に「言語—アイデンティティ」では、当時のアイデンティティが日本語に関係していたという事実を確認し、当時の「アイデンティティ」という概念に対する認識について推察を行う。第3節では、以上の考察を踏まえたうえで、インタビューの日本統治時代に対する感覚と、アイデンティティの変化がいかに戦後の経験によって形作られたかについて議論する。

終章の第六章では考察の結果を整理し、子どものメディア体験に焦点を当てる本研究の意義を再確認する。

第二章 文献レビュー

本章では、映画・漫画映画、漫画、子ども文化、アイデンティティに分けて、本研究に関連する文献レビューを行う。本研究は台湾の日本統治時代に焦点を合わせており、したがって本章で言及される先行研究は台湾人研究者が行なったものや、日本人研究者が台湾で行ったものが多い。

第1節 映画・漫画映画研究

本節では、日本統治時代における映画と漫画映画の歴史に触れてから、先行研究を紹介する。

映画が発明された19世紀末は、台湾の日本統治時代の幕開けでもあった。台湾における映画の歴史は1900年にまでさかのぼる。その後、都市部では映画を上映する劇場が建てられはじめ、地方では巡回上映の形で映画が上映されていた³⁸。映画はこうして一般大衆の生活に浸透していき、1910年代半ばになると広く支持されるようになった³⁹。

台湾にトーキーが出現する以前、無声映画が解説付きで上映されたことがある。台湾において映画を解説する弁士は内地人弁士と本島人弁士に分かれ、使用言語は主に日本語と台湾語であった⁴⁰。1920年代、世界初のトーキーがアメリカで上映された⁴¹。1930年代初頭、日本内地においてもトーキー技術が本格的に開発され⁴²、その後台湾本島においてもオールトーキーが上映された⁴³。

一方、映画と比べて少し遅れていたが、世界初の漫画映画は1906年にアメリカで公開

³⁸ 三澤真美恵（2002）『殖民地下的「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究（1895～1942）』、前衛、271-281頁。

³⁹ 同上、283-286頁。

⁴⁰ 同上、292-295頁、398-401頁。

⁴¹ ロ・ズカ（1956）『世界の映画史』永戸俊雄訳、白水社、65頁。

盧銀美（2019）「日本映画のトーキー移行期におけるヴォイス・オーヴァー—1930年前後の「同時性」と「非同時性」をめぐって—」『名古屋大学人文学フォーラム』2号、277-294頁（279頁）。

⁴² 笹見恒夫（1942）『映画五十年史』、鱒書房、352-354頁。

⁴³ 三澤真美恵『殖民地下的「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究（1895～1942）』、299頁。

された⁴⁴。日本初の漫画映画は1917年に制作され、初期の製作者は漫画家が多かった⁴⁵。1924年、日本内地の文部省が優れた教育映画の教材映画の製作を奨励しはじめたため⁴⁶、実写映画はもちろんだが国産漫画映画の需要も高まり、作品本数が増えていった⁴⁷。大正末期から昭和初期にかけて、『ノンキナトウサン』シリーズや『正チャンの冒険』をはじめとする人気漫画の映画化が盛んに行われた⁴⁸。1928年に世界初のトーキー漫画映画が公開されて以来、アメリカの漫画映画が次々と日本へ輸入された。日本の漫画映画は製作費が高いわりには質が低く、海外漫画映画の配給経費がより安価であったといった理由で、興行主は次第に日本製の漫画映画の配給・興業から手を引いた⁴⁹。しかし、日中戦争から太平洋戦争に突入すると、軍部による発注などで戦争を題材とした日本製の漫画映画が増え、日本の漫画映画の製作技術も底上げされた⁵⁰。

続いて、日本統治時代の映画および漫画映画に関する先行研究を紹介する。

日本人研究者の三澤真美恵は歴史学的研究手法を用い、大量の文献史料——『台湾総督府報』『台湾日日新報』『台湾教育界雑誌』『台湾芸術新報』などおよび各種法令条文——を解説しインタビュー調査を行った⁵¹。それらを通して日本統治時代の映画に関する政策や当時の社会的状況を分析し、台湾映画史の巨大な全体像を捉えようとすると同時に、それまでの先行研究における誤謬なども多く指摘した。したがって、日本統治時代の台湾映画史については、本研究は主に三澤の研究を参考にしている。

現在、日本統治時代の台湾の映画を研究するにあたって、当時刊行されていた新聞や雑誌などの文字資料を解説するほか、国立台湾歴史博物館（以下、「台史博」と称する）で所蔵されている映画フィルムと映画脚本の史料を解析することもできる。2003年に台湾の

⁴⁴ 山口康男（2009）『日本のアニメ全史——世界を制した日本アニメの奇跡』、テン・ブックス、27頁。

⁴⁵ 同上、47-48頁。

⁴⁶ 山口且訓・渡辺泰『日本アニメーション映画史』、13頁。

⁴⁷ 同上、18頁。

⁴⁸ 津堅信之（2004）『日本アニメーションの力——85年の歴史を貫く2つの軸』、NTT出版、182-183頁。

⁴⁹ 山口且訓・渡辺泰『日本アニメーション映画史』、22頁。

山口康男『日本のアニメ全史——世界を制した日本アニメの奇跡』、テン・ブックス、59-60頁。

⁵⁰ 津堅信之『日本アニメーションの力——85年の歴史を貫く2つの軸』、98頁。

古田尚輝（2016）「映画法施行下の漫画映画」『成城文藝』237・238号、至文堂、125-153頁（136頁）。

⁵¹ 三澤真美恵『殖民地下の「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究（1895～1942）』。

嘉義で映画フィルム 168 巻と検閲脚本 135 件が民間に私蔵されていたことがわかり、その後、台南に位置する台史博に収蔵された⁵²。2005 年に、台史博は国立台南芸術大学にフィルムと脚本の修復作業を委託した。2007 年にあらためて収蔵されたものの修復を含め、作業に 3 年の時間がかかった。2016 年現在で修復された映画フィルム 175 巻と脚本 138 件が台史博にアーカイブされている⁵³。戦後に製作されたものもあるが、アーカイブされた資料の多くは日本統治時代の作品と思われ、台湾映画研究においての貴重な歴史資料となっている。

三澤は 2007 年に台史博より依頼を受け、所蔵フィルムと脚本に関する内容の調査とデータ採録を行い、翌年から同資料に関する共同研究を推進した。その共同研究の成果が『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』⁵⁴に集結されている。

日本統治時代の映画に関する研究は数多く存在するのに対し、漫画映画に関しては、同書に収録されたとちぎあきらの「台湾で見つかった戦前日本アニメーション映画——フィルム・アーキビストはどう見たか」⁵⁵以外は、ほとんど触れていない。そのうえ、同論文は漫画映画の制作者側に重点を置きながら、アーカイブされたフィルム資料のうち一本のみ取り上げて検討しており、台湾における漫画映画事情については論じていない。先行研究では日本統治時代に漫画映画を見た証言が得られていないが、日本統治時代の漫画映画脚本とフィルムが発見されたことは、当時、漫画映画が上映されたことを物語っている。本研究は映画のみならず漫画映画をも検討するため、以下、漫画映画に関する台史博のア

⁵² 呉密察・井迎瑞編（2012）『片格轉動間的台灣顯影——國立臺灣歷史博物館修復館藏日治時期紀錄影片成果』，國立臺灣歷史博物館，6 頁。

三澤真美恵編（2017）『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』東京大学出版会，2 頁。

⁵³ 三澤真美恵編『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』，4 頁。

⁵⁴ 同上。

⁵⁵ とちぎあきら（2017）「台湾で見つかった戦前日本アニメーション映画——フィルム・アーキビストはどう見たか」『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』三澤真美恵編，東京大学出版会，62-87 頁。

一カイク資料を取り上げる。

表 2-1 は『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』の巻末付表に基づいて作成したものである。表 2-1 に示すように、脚本については、館蔵番号 2005.001.0018 とは同一作品とみられる館蔵番号 2005.001.0019 と、館蔵番号 2005.001.0042 とは同一作品とみられる館蔵番号 2005.001.0043 を除き、館蔵番号 2005.001.0112 とは同一作品と推測される館蔵番号 2005.001.0059 の『雀のお宿』を含め、作品数で数えると合計 23 件ある。また計 23 件の脚本のうち、19 件が日本製の作品となっている。

一方、フィルムは 16 巻ある。「外国製を日本で改変した版と思われる〈引用者注：三澤より〉」館蔵番号 2005.001.0198 と、「外国アニメーション映画の日本語字幕付きフィルムと思われる〈引用者注：三澤より〉」館蔵番号 2005.001.0285 を除き、16 巻のうち 7 巻が日本製の作品である。

表 2-1 台史博館蔵漫画映画資料

脚本			
	台史博館蔵番号	タイトル（表紙）	
1	2005.001.0003	お猿の三吉突撃隊 全 1 巻	日本製
2	2005.001.0005	のらくろ伍長 全 1 巻	日本製
3	2005.001.0006	白鼠物語 全 1 巻	日本製
4	2005.001.0010	凸之助武勇伝 全 1 巻	日本製
5	2005.001.0011	凸之助武勇伝 孝行狸の巻全 1 巻	日本製
6	2005.001.0016	猿正宗 全 1 巻	日本製
7	2005.001.0018	動物となり組 全 1 巻	日本製
8	2005.001.0019	動物となり組 全 1 巻漫画	日本製。中身は脚本 (018) と同じ
9	2005.001.0032	チュウ児の羽衣 全 1 巻	日本製
10	2005.001.0033	森の狼 全 1 巻	日本製
11	2005.001.0037	蕃地征服 全 1 巻	外国製
12	2005.001.0038	デブサンの交通係 全 1 巻	日本製
13	2005.001.0039	だんごの行方 全 1 巻	日本製

14	2005.001.0042	ミツキイの舞台裏 全1巻	外国製。脚本(042) (043)は同一作品
15	2005.001.0043	ミツキイの舞台裏 全1巻	外国製。脚本(042) (043)は同一作品
16	2005.001.0044	ミツキイの汽車旅行 全1巻	外国製
17	2005.001.0045	かちかち山 全1巻	日本製
18	2005.001.0046	子宝行進曲 全1巻	日本製
19	2005.001.0050	森の野球団 全1巻	日本製
20	2005.001.0056	文福茶釜 全1巻	日本製
21	2005.001.0059	雀のお宿 全1巻	日本製
22	2005.001.0063	小鳥と兔 全1巻	日本製
23	2005.001.0111	お山の総動員	日本製
24	2005.001.0112	雀のお宿 全1巻	日本製
25	2005.001.0125	ミッキーのカーボーイ 全1巻	外国製
26	2005.001.0127	カヘルとパラシュート 全1巻	日本製
フィルム			
	台史博館蔵番号	タイトル	
1	2005.001.0145	なし(ミッキーマウス)	外国製
2	2005.001.0152	Jungle Rhythm	外国製。ミッキーマウス
3	2005.001.0185	お猿の三吉突撃隊	日本製
4	2005.001.0191	なし(マー坊の木下藤吉郎)	日本製
5	2005.001.0192	なし(ミッキーマウス)	外国製
6	2005.001.0198	蟻の武勇伝	「外国製を日本で改変した版と思われる」
7	2005.001.0205	漫画 砂煙り高田のグラウンド	日本製
8	2005.001.0213	森のお医者と白衣の勇士	日本製
9	2005.001.0236	幸福の母	日本製
10	2005.001.0249	Animals Variety	外国製
11	2005.001.0263	森の野球団	日本製

12	2005.001.0274	動物となり組	日本製
13	2005.001.0277	Mickey's Cowboy	外国製
14	2005.001.0278	なし（ミッキーマウス）	外国製
15	2005.001.0279	Mickey Mouse Wild Party	外国製
16	2005.001.0285	カヘルとパラシュート	「外国アニメーション映画の日本語字幕付きフィルムと思われる」

三澤による 2017 年の研究成果以前には、台湾における漫画映画の上映の状況が考察されたことはなかったが、以上のデータから、台湾では日本製の漫画映画のみならず、外国製の漫画映画も当時流通していたことがわかる。本研究はこのデータを参考しながら、第三章で詳述する談話会とインタビュー調査を行った。また、これまでの映画研究は主に、台北を中心に発刊されていた『台湾日日新報』の新聞資料を用いているが、ほかの地域においては事情が異なっていた可能性があるため、本研究では、台南における日本統治時代後期の新聞を調査し、映画・漫画映画の上映事情について考察した。

第 2 節 漫画研究

第二次世界大戦終結以前の日本漫画は、一コマや四コマの形をした漫画と、ストーリー漫画に分けることができる。前者は新聞や大人向けの雑誌を中心に掲載されており、風刺性が要求されていたのに対し、後者は子ども向けの雑誌などで発展しており、冒険を題材としたり、ギャグ的な傾向が強かったりした⁵⁶。

これまでの台湾における漫画研究は、台湾出身の漫画家や、戦後台湾で流通していた漫画作品を扱うものが中心的である。日本統治時代における台湾の漫画に関して言えば、自らも漫画作品を描く洪徳麟の、日本統治時代に生まれた台湾人の漫画家、またはその作品を考察する研究が代表的と言えよう⁵⁷。しかし、近年、在台日本人の漫画家にも光が当てられるようになった。一例を挙げると、『台湾日日新報』の漫画記者を務めていた国

⁵⁶ 竹内オサム・西原麻里『マンガ文化 55 のキーワード』, 34 頁。

⁵⁷ 洪徳麟 (2003) 『臺灣漫畫閱覽』, 玉山社。

島水馬に関するものがある。国島水馬の「漫画台湾年史」シリーズ作を集結し、歴史背景を説明する文章をつけ加えた『漫画台湾年史』が2000年に出版された⁵⁸。さらに『台湾日日新報』に掲載されていた国島水馬の風刺漫画を考察するものもある⁵⁹。ただし、以上の研究を内容から判断すれば、新聞漫画や大人向けの漫画に偏在していると言える。本研究は少数のインタビューの証言にのみ基づくものの、これまで明らかにされていない日本統治時代の台湾における子ども向け漫画の流通や受容状況を把握しようとした。

第3節 子ども文化研究

日本統治時代の子ども文化に関する研究の代表的なものとして、游珮芸の『植民地台湾の児童文化』が挙げられる⁶⁰。それまでの子どもに関する先行研究の多くは、教育制度や教材の内容を研究するものであった。游は従来の研究の枠を越え、学校以外の場で行われていた文化活動の動態を視野に入れた。この研究の主眼は童話に置かれており、台湾における児童雑誌の出版実態も考察した。昭和10年代に入ると『少年倶楽部』や『のらくろ二等兵』が台湾の子どもたち〈引用者注：原文ママ。在台内地人か本島人か不明〉の心をしっかり掴んだという記述がみられるが⁶¹、それ以外、日本内地から台湾本島へ輸入された子どもの読み物についてほとんど論及していない。

ほかの子ども文化をテーマとした研究には、吉田光の修士論文⁶²がある。吉田は上述する游の研究に対し、日本内地と台湾本島の間には存在する、「読まれる文学の内容」と「読み物が読まれる環境」の違いをも、視野に入れるべきだと指摘し⁶³、台湾本島で創刊されたいくつかの雑誌を、日本内地で発行されていた『少年倶楽部』と比較して考察を行った。しかし、吉田の扱う『少年倶楽部』の年代は1917年から1932年までの間のみにとどまる。聞き取り調査の対象から『少年倶楽部』を読んだという証言を得た以外に、子ども

⁵⁸ 国島水馬漫画・戴寶村解説（2000）『漫画台湾年史』，前衛。

⁵⁹ 坂野徳隆（2012）『風刺漫画で読み解く 日本統治下の台湾』，平凡社。

⁶⁰ 游珮芸（1999）『植民地台湾の児童文化』，明石書店。

⁶¹ 同上，245頁。

⁶² 吉田光（2016）「日治時期台湾児童閱讀文化之考察——在台湾發行的兒童雜誌為例」，国立清華大学修士論文。

⁶³ 同上，3頁。

の読書実態を詳しく分析しておらず、論文における「台湾の子ども」を内地人の子どもと本島人の子どもに分けて論じていない。また、この論文の雑誌に関する記述には、年代が一致しない箇所がいくつかある一方、論述の裏付けとなる証拠の不足もみられる。二次資料や三次資料を多く引用した点において、研究方法上の不備がある。

第4節 アイデンティティ研究

これまでの台湾ナショナル・アイデンティティ研究の多くは、現在の台湾ナショナル・アイデンティティの礎が日本統治時代中期に形づくられたと考えている。1920年代初頭、「民族自決」の思潮の影響を受け、台湾でも漢族エリート・知識人が主導する自治運動が行われていた。総督府と交渉したり対抗したりする中、漢族は自らのことを「台湾人」と名乗りはじめた。この「台湾人」意識は、従来の血縁や地縁に基づいて分けられる「福佬人」「客家人」の境界線を越えたものであり、日本という「他者」によって形づくられ、漢族が共有する歴史的経験や近代的市民意識のもとで成立した意識だとされている⁶⁴。

台湾ナショナル・アイデンティティの研究に努める研究者は多く、研究者の立場や研究が扱う時代も多岐にわたるが、陳翠蓮の研究⁶⁵は日本統治時代のみならず、戦後初期の政治的・社会的背景を視野に入れたことから、本論文は主にそれを参考にしてしている。陳は、日本統治時代に形成した「台湾人」意識が実は、今日の台湾ナショナル・アイデンティティとは少し異なると考える⁶⁶。戦後になっても台湾人は相変わらず権力体系から排除されていたことから、日本統治時代に形成した「台湾人」意識はさらに強められた。それが二・二八事件につながり、その後、全島規模の反抗意識の集結を加速させた要因の一つだとしている⁶⁷。つまり、今日の台湾ナショナル・アイデンティティの形成の鍵が、「祖国」からきた中国国民党による統治の中で台湾人が覚えた挫折であるという見方である⁶⁸。

陳は同書で日本統治時代の台湾人が中国に対して持っていた感情と台湾人のアイデンティティの変化を文献から分析しようと試みる。謝春木（1902～1969）、黃旺成（1888～

⁶⁴ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、100-101頁。

⁶⁵ 陳翠蓮（2016）『台灣人的抵抗與認同（1920～1950）』、遠流。

⁶⁶ 同上、16-18頁。

⁶⁷ 同上、16-17頁、382-385頁。

⁶⁸ 同上、385頁。

1978)、呉濁流(1900～1976)、鍾理和(1915～1960)といった「祖国経験」(引用者注: 日本統治時代に中国を訪れた、あるいは一定期間以上居住していた経験)を持つ四人の文化人を例に挙げ、彼らの紀行や文学作品で彼らの「祖国」に対する印象や感情を考察する。陳はこの四人とも当時の台湾人が祖国に対してある程度の愛着を持ち、祖国のことを寛容的に考える傾向があったと推測する⁶⁹。台湾人アイデンティティの変化については、陳は林獻堂(1881～1956)、呉新榮(1907～1967)、葉盛吉(1923～1950)などの知識人の日記で分析を行った。その結果、戦争期の台湾人の政治的アイデンティティは固着したものではなく、時局によって変動していたという結論を示す⁷⁰。林獻堂と呉新榮は比較的強い「漢族アイデンティティ」を持つのに対し、植民教育を受けていた若い世代の葉盛吉は日本人アイデンティティを持っていたが、日本へ留学した後中国人アイデンティティを持つようになる。三人とも、アイデンティティが中国と日本と台湾との間で変動したり葛藤したりすることを経験しており、彼らのことを「日本人」だと短絡して結論づけるべきではないのではないかと疑問を呈する⁷¹。

陳の研究は、台湾人のアイデンティティ意識を考察する手立てを講じたが、調査対象が日本統治時代前期・中期に生まれた、本島人の上流階級であったという点から考えると偏りがある。本研究は当時の台湾人アイデンティティを包括的に捉えるものではないが、上流階級には属さない、日本統治時代に生まれた子どものアイデンティティ意識に焦点を当て、アイデンティティ研究に多様性をもたらすものとなっている。

第5節 まとめ

第一章でも少し触れたが、以上の文献レビューを通し、先行研究がある特定の方向へ偏っていることがわかった。つまり、映画研究では漫画映画がほとんど扱われておらず、子ども文化研究では漫画が視野外になっており、漫画研究は大人向けの漫画に偏在する傾向にあり、アイデンティティ研究では成人のみが研究対象となっているのである。よって、本研究はあえて子どもが触れていた娯楽メディアと、子どものアイデンティティに重点を置き、考察を行いたい。

⁶⁹ 同上, 220-221 頁。

⁷⁰ 同上, 277 頁。

⁷¹ 同上, 277 頁。

第三章 調査概要

本研究は日本統治時代後期の台湾の子どものメディア体験を考察するものである。したがって、今回は日本統治時代当時、娯楽メディアに触れた経験を持つ台湾人を研究対象とし、半構造化インタビューを行った。先行研究では日本統治時代に漫画映画を見た証言が得られていないため、資料収集の段階でフォーカス・グループ・ディスカッションを行い、漫画映画が見られていたかどうかを明らかにしたうえで、インタビューの質問項目を設計し、インタビューの参加者を募集することにした。

だがインタビュー参加者の募集はやや難航した。第二章で述べた台史博所蔵史料が日本統治時代の台南州にあたる地域で発見されたので、日本統治時代に台南州に住んでいた方にお尋ねすれば、当時漫画映画を見ていたという証言が得られる可能性があると考えた。日本統治時代の台南州は、現在の台南市、嘉義市、嘉義県、雲林県にあたる。しかし調べたところ、それらの地域においては本省人のみの高齢者施設・団体はほとんど見つからなかった。たとえ高齢者介護施設があったとしても、戦後から75年以上も経った現在、加齢や認知症などで記憶障害が生じた人が多くいて、実際に調査に協力してくださる方はそれほど多くいないことが予想される。なお、戦後に産業構造の変化や職業柄などで、台南以外の地域に移動した人口が多かったことも背景にあるため、今回は「台南州に住んでいた」という絞り込み条件を外した。

その後、台北市大安区に所在する「玉蘭荘」という団体とコンタクトをとることで、インタビューが可能ながたに出会うことができた。「玉蘭荘」は1989年に発足した、日本語で講演会や礼拝といった文化活動を行うデイケアセンターである⁷²。会員は現在台北市に居住する人であるが、出身地はまちまちである。日本人の親を持ち日本生まれの人もいれば、戦後に台湾のほかの地域から台北へ移住した人も多くいる。現在の会員は台湾人が多く占めるが、ボランティアには台湾人女性のほかに台湾へ移住してきた日本人女性がいる。本研究のインタビュー調査は六人の方からお話を聞かせていただいております、その中の五人は「玉蘭荘」の会員である。

⁷² 社団法人台北市松年福祉會玉蘭荘「玉蘭荘の紹介」
http://www.gyokulansou.org.tw/about_us_j.htm (参照 2022-09-02)

第1節 談話会とインタビュー調査

インタビューは2021年4月に実施したが、その前の3月には玉蘭荘で一時間程度の談話会を開催し、談話会が開始する前にアンケートをとった。参加した会員の中には加齢性難聴を患った方もいたので、アンケート項目をスライドで見せ、口頭で説明を加えながらアンケートを記入していただいた。そのあとアンケートの回答に沿って日本統治時代の娯楽メディアに触れた経験について会員らに語っていただいた。台北の公会堂では毎週の土曜日にニュース映画が上映されており、ニュース映画のあとに漫画映画が見られ、それが子ども時代の楽しみだったという証言、学校から公会堂へ映画を見に連れて行かれており、そこで見た映画は戦争ものが多かったという証言、アメリカ製と思われる「ポパイの飲み会」と「のらくろ二等兵」の漫画映画を見たという証言などが得られた。当日の談話会は時間が限られていたため、詳しいお話を聞くインタビュー調査への協力をいただけるかどうかを尋ねる意向調査も同時に実施した。

意向調査で同意してくださった七人の台湾人の方に連絡を差し上げ、全員にインタビューをする予定であったが、のちほどご自分やご親族が病気で入院した方がいて、最終的に五人の方からお話を聞かせてもらうことになった。全てのインタビューにおいて、レコーダーを使用して内容を記録した。ただし、インタビューを実施したところ、一名の方の回答はインタビューの質問の意味をじゅうぶんに理解せずに答えたものだと判断したので、今回扱う資料から取り除くことにした。インタビュー調査の基本データは下記の表3-1の通りである。一名のインタビューーから部分匿名の要望があったため、その方に関わる部分のみを匿名化処理している。

表 3-1 インタビュー調査の基本データ

名前	生年	出身・生活場所	実施日	実施場所	その他
張陳○	1929年	台中州大甲郡	2021. 4.13	ご自宅	当時 92 歳
王曾素琴	1929年	台南州西螺	2021.4.15	ご自宅	当時 91 歳 同行者一人（ご子息）

陳旭星	1934年	台北州台北市大 稻埕	①2021.4.16 ②2021.4.19	①玉蘭荘 ②玉蘭荘	当時 87 歳
許金城	1932年	台南州北港	2021.4.21	玉蘭荘	当時 88 歳
蔡焜霖	1930年	台中州大甲郡清 水街	①2021.4.17 ②2021.4.19	①台湾国 家人権博 物館白色 テロ景美 記念園区 ②ご自宅	当時 90 歳

張陳さんと王曾さん、陳さん、許さんなど玉蘭荘の会員のほかに、蔡焜霖という方からもお話を伺うことができた。蔡さんは戦後、出版社の仕事に従事し、子ども雑誌の創刊に関わった。『王子』などの雑誌を通して多くの日本の漫画や文学作品を台湾読者に紹介し、2021年に外国人叙勲で旭日双光章を受章した⁷³。蔡さんは白色テロの受難者でもあり、戒厳令が解除されたあとは人権運動に努め、台湾国内外の多くの講演会で活躍している。ご自身が子ども雑誌の出版に携わっていたことにより、蔡さんのインタビューとしての性質は、ほかのインタビューと異なるという点をここで明記しておきたい。

インタビューの質問項目は、付録1の通りである。ただし、形式は半構造化インタビューであるため、インタビュー中、質問の順番を変えたり、話をさらに掘り下げたりしたことがある。それに、インタビューを行っていく中、筆者による質問の聞き方に変化が起きたことも留意しなければならない。インタビューの質問は当時のメディア体験という軸に基づいているが、アイデンティティに関わる話の聴取が事実確認型のそれよりセンシティブと思われるため、本研究のインタビューにおいてはなるべく強い表現や質問方法を避けていた。よって、「使用頻度」で言語の使用状況について、「国」ではなく「どこ」という言葉を用いてアイデンティティについて尋ねた。

また、本論文での蔡さんへのインタビューの分析においては、『逆風行走的的人生：蔡焜

⁷³ 公益財団法人日本台湾交流協会「蔡焜霖氏に旭日双光章を伝達」
<https://www.koryu.or.jp/about/taipei/chief-representative/izumi/activity-report/20210915/>（参照2023-01-19）

霖口述生命史』⁷⁴という蔡さんの著作の内容の一部を補助資料として使用している。

第2節 資料の限界性

本研究の扱う資料には、偏りがいくつかある。第一に、インタビューの五人のうち、台北州出身者が一人、台中州出身者が二人、台南州出身者が二人いる。出身地域は台湾全島に行き渡るのではなく、西部に集中している。そのうえ、インタビュー全員が漢族で、しかも福佬人のみで、同じく台湾本島人に属していた客家人と原住民族が今回のインタビュー対象から外された。

第二に、家庭の教育や経済状況などにより、子どものメディアに触れる実態が異なると思われる。また、教育水準が子どものメディア・リテラシーにもたらす影響も無視できないであろう。日本統治時代の台湾における六年義務教育の全面的な施行は1943年であった。しかし、今回のインタビューは全て、中学校教育と同等の教育を受けている。

第三に、日本統治時代が終わってから何十年もの歳月が経過しているので、この間にインタビューの考えに何らかの変化が起こった可能性に注目すべきであろう。高齢者のインタビューは75年以上も前のことについて語る際、その記憶が歴史的事実と一致しないことがある。その場合、付録の逐語録ではできるかぎり脚注などで補足説明を加えるが、筆者には補えない部分があることも想定される。また、インタビュー中、同じ質問に対する回答に不一致がみられることもあるが、どの回答を本論文に取り入れるかも筆者の判断に委ねられている。

第四に、インタビューによって少し状況が違うが、今回インタビューで使用された言語は、使用頻度順で並べると台湾語と日本語、華語になる。インタビューの母語である台湾語の使用は研究方法上の問題にならないと考えられるが、子ども時代に学んだ日本語を現在でも使用していることから、今回のインタビューは日本文化・日本語に対してある程度の親近感を持つ人だと言えよう。

第五に、インタビューの中に、ほかの研究のインタビューを受けた方もいる。よって、自らのライフストーリーを語ることに慣れている可能性がある。その記憶がまとまっ

⁷⁴ 蔡焜霖 (2017) 『逆風行走的的人生：蔡焜霖口述生命史』 薛化元・游淑如 (聞き書き), 玉山社。

この本は、ほかの研究者によって行われた、蔡さんへの聞き取りの内容を集結したものである。

た形で述べられると同時に、インタビューの文脈から少し離れた話もなされていたことは、一つの特徴として観察される。

以上の偏りがあるゆえ、本研究のみで日本統治時代台湾の子ども娯楽メディアの全体像をつかむのは難しいと推測される。ただし、本研究は量的研究ではなく質的研究であり、統計などで実態を把握するよりもインタビューを通し、当時の台湾人の子ども生活の断片を拾う試みである。本研究では以上の点を考慮し、過度の一般化をしないように留意し、考察を行なっていきたい。

第3節 補助資料の使用

インタビュー内容の信頼性を確認するためと、娯楽メディアの出版・上映状況を考察するため、本論文は日本統治時代に刊行されていた『台湾日日新報』と『台湾日報』の娯楽欄と広告を補助資料として用いる。日本統治時代の台湾における新聞事情について、ここで紹介しておく。当時、「三大新聞」とされるものがあつた。一つ目は、台北を中心に発行されていた『台湾日日新報』である。『台湾日日新報』は1896年創刊の『台湾新報』と1897年創刊の『台湾日報』が合併したあとに発行されたものである。1944年4月台湾において戦時新聞統制が実質的に始まるまでの日本統治時代において、『台湾日日新報』は発行部数が最多で、かつ刊行期間が最も長い新聞であつた⁷⁵。現在、『台湾日日新報』は紙本の復刻版が出版され、オンラインデータベースも構築されている。

二つ目は台中を中心に発行されていた『台湾新聞』であり、三つ目は台南を中心に発行されていた『台湾日報』である。『台湾日報』の前身は1899年に台南で創刊された『台湾日報』であり、のちの1903年に『台南新報』へと紙名を変更し、1937年には『台湾日報』へと変更した⁷⁶。『台南新報』は2009年に、『台湾日報』は2011年に復刻され、合わせて167冊ある⁷⁷。

⁷⁵ 文化部臺灣大百科全書「臺灣日日新報」

<https://nrch.culture.tw/twopedia.aspx?id=3829> (参照 2022-12-20)

⁷⁶ 政府出版品資訊網「台南新報復刻本」

<https://gpi.culture.tw/books/1009801056> (参照 2022-12-20)

⁷⁷ 葉建良 (2011) 「臺灣日報復刻出版序」『臺灣日報復刻本』總目錄, 7頁。

北部の『台湾日日新報』と中部の『台湾新聞』、南部の『台湾日報』のことを、それぞれ「北報」「中報」「南報」と呼ぶことがあり、また官報の色彩が濃いという側面があるため、それらを合わせて「御用三紙」と風刺的に言うこともあった⁷⁸。

現段階では中部の『台湾新聞』は復刻されず、また南部の『台湾日報』の復刻は出版されたが比較的最近のものであり、データベースも構築中であるため、先行研究の中、『台湾日日新報』を扱うものが圧倒的に多かった。しかし、最高位の統治機構が置かれた台北は経済の中心となっており、映画館や書店などの施設数がほかの地域より多かったことから、『台湾日日新報』は必ずしも台湾全島の状況を反映していたとは限らない。そのため、本研究は『台湾日日新報』と『台湾日報』両方を併用し、先行研究の不足を補おうとした。

第4節 逐語録について

インタビューの逐語録を本論文の付録2に添付した。インタビューの際、筆者は台湾語を主に使用するよう心がけていた。だが台湾語は筆者の使い慣れた言語ではないため、説明や補足では華語や日本語で行うこともあった。インタビュー現場をなるべく忠実に紙面に再現したいので、付録の逐語録はいわゆる「素起こし」で作成され、録音データにあった口癖や意味のない言葉はもちろん、録画は行なっていないが筆者の覚えているかぎり話者の動作なども文字に起こされた。インタビュー内容を部分的ではなく、なるべく全部を載せたのは、文字起こしの担当者による誤訳を避けるため、対話の前後の文脈を明確に示すためである。

逐語録は台湾の学界で最も使われている華語で作成されたが、台湾語の言語感覚を再現するため、または一部の台湾語の言葉は華語に訳すことが不可能だと校閲者が判断したため、一部の台湾語の語彙や台湾語特有の言い方を翻訳せず逐語録に残したことがある。日本語で語られていた部分は、日本語の文章の後ろに華語の翻訳を入れている。詳細は逐語録の説明文を参照していただきたい。本論文に取り入れられた内容は筆者によって日本語に訳されている。

⁷⁸ 李承機 (2015) 「日治時期的報業發展」『臺灣學通訊』85号, 國立臺灣圖書館, 4-7頁 (5頁)。

なお、逐語録の作成上、なるべくインタビュー内容そのままを残そうとしたが、インタビューの希望に沿ったり、インタビューのプライバシーを保護したりするため、一部のデータには削除や黒塗りの処理を施した。

第四章 インタビュー内容の紹介

本章は、インタビューの内容を紹介する章である。インタビューで聞き取れたことを、インタビューが行われた順（張陳さん、王曾さん、陳さん、許さん、蔡さん）に沿って紹介していく。また、それぞれの節では内容を「家族背景・学校教育」「映画や演劇の鑑賞」「ほかの芝居鑑賞」「読み物」「使用言語」「セルフ・アイデンティティ」「日本統治時代に対する印象」などに分けてまとめている。

第1節 張陳○さん

家族背景・学校教育

張陳さんは1929年に台中州大甲郡（現在の台中市大甲区）に生まれた。家族は魚の漬物などを扱う卸屋を営んでいて仕事が忙しく、子どもだった張陳さんも店番をしていた。張陳さんは四人きょうだいの長女であり、伯父などの親戚と同居していた。

日本統治時代の台湾においては「保甲制度」と「壯丁団」という行政組織があった。「保甲制度」とは、十戸を一甲とし、十甲を一保とし、甲に甲長を、保に保正を設置する制度であった。「保甲」は「壯丁団」を編成し、両者とも防災と警備の協力義務を負う⁷⁹。張陳さんの伯父は甲長を務めたことがある。伯父が甲長を務めていた頃、時々夜に家に年配者が集まって日本語の授業を受けていた。

張陳さんは大甲女子公学校（1927年創立、1941年に「大甲南国民学校」へと校名変更した⁸⁰）で初等教育を受けたあと、大甲家政女学校（1930年創立。1944年に「大甲農業実

⁷⁹ 沖田哲也（1984）「台湾における地方制度の沿革——日領期 軍・民政と地方制度」『政経論叢』53巻、2-3号、明治大学政治経済研究所、59-95頁（78頁）。

蔡秀美（2015）「殖民統治網的尖兵——派出所與保甲、壯丁團」『臺灣學通訊』第88号、國立臺灣圖書館、15-17頁。

何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、21頁

⁸⁰ 臺中市政府教育局「臺中市立大甲區文昌國民小學 詳細資料」

践学校」へと校名変更した⁸¹⁾に進学した。女学校で国語、マナー・エチケット、生け花、茶道、裁縫などを学び、授業内容は「女向き」(引用者注：原文ママ。いわゆる「花嫁修業」)である。学校の教員は日本人の先生が多かったと記憶しており、担任の先生も日本人であった。女学校卒業後、学校で一年間事務員として働いていた。

映画や演劇の鑑賞

小さい頃は「まちの広場」と「大甲戲園」という二つの場所で映画と演劇を鑑賞していた。映画のほとんどは広場で見た。広場で映画を上映する際、主催者である部落や役場は椅子を設置するが数が少なく、後ろに立って映画を見る人もいれば、自分でスツールを用意する人もいる。張陳さんは映画が広場で上映されると聞くたびに大喜びし、急いでご飯を食べ、スツールを持って場所を取りに広場に向かう。兄弟などの子どもと一緒に見に行っていたが、映画を見る人の中に大人もいて、しかも男性のほうが多かった。「昔は女性は家庭だから、出かけて広場で映画を見ることは比較的少ない」と述べていた。

大甲戲園は大甲地域における唯一の劇場であった。映画を放映するが、歌仔戲(台湾語を使った舞台音楽演劇)や話劇の上演もあった。入場料が必要であるが、大人に連れて行ってもらっていたため、どれくらいかかったのかわからない。

日本統治時代には無声映画もトーキーも見たことがある。無声映画が放映されるとき、白い布に映像が映され、時にはマイクを持って映画の内容を解説する弁士がいた。放映が始まると、周りが真っ暗になり、闇の中で弁士が解説するのだが、どこで解説するのかかわからない。「こっちに影があつて、そっちに影があつて、裏にも影があつたりして、その人は後ろで解説するかもしれないが、私たちは映画を見ているだけで、その人を見ていない」と述べていた。弁士は台湾人で、ほとんど台湾語で映画を解説する。トーキーの時代になると、弁士の姿がみられなくなる。一回の上映は一本の映画のみであった。映画の種類・ジャンルに関しては、恋愛映画や支那事変などの戦争映画を見ていたが、大東亜戦争の映画は見たことがなく、アメリカ映画を見たこともない。時には、李香蘭が出演する

<https://www2.tc.edu.tw/school/list/detail/id/472> (参照 2022-12-29)

⁸¹⁾ 臺中市立大甲高級中等學校「校史簡記」

<https://djsh.tc.edu.tw/p/405-1073-46842,c11026.php> (参照 2023-01-01)

「中国の映画」も上映されていた。「中国の映画」の中で俳優は北京語を話し、弁士が映画を解説する際に日本語か台湾語を使用していたという。「日本語で解説してもいいし。解説する人〔による〕。何らかの言語を話して、〔映画のことを〕理解させる。だいたい台湾語」と述べていた。

纏足の伯母がいて、伯母の行動に制約があるため、伯母が出かけるときはよく付き添っていた。伯母も張陳さんも映画より歌仔戲のほうが好きで、映画より歌仔戲をよく見ていた。歌仔戲は「連続ものなので、見ると惹かれる」と説明していた。大甲戲園のほかに、大甲媽祖廟（1730年建立の、媽祖という神を祀る道教の寺⁸²）のほうでも歌仔戲がよく上演され、入場料無料で皆に好かれていた。観客の中で立って見る人が多いため、スツールを持って媽祖廟に行ったりし、見えないときはスツールの上に立って歌仔戲を見るという。

ほかの芝居鑑賞

布袋戲（台湾式人形芝居）と紙芝居があった。紙芝居より布袋戲のほうがよく上演され、観客は大人も子どももいた。それに対し、紙芝居の観客は子ども（5、6歳から10歳台まで）のみであった。

読み物

絵本も漫画も読んだが、絵本より漫画のほうをよく読んでいた。漫画を読むのを親に見られたら怒られ、親に漫画を買ってもらえなかった。小説ならどのような内容が描かれるかについて親はわからないが、「漫画は『人形』〈引用者注：原文は台湾語の「尪仔」〉を描くから親は〔それが漫画だと〕わかる」。親は反対であったが、自分は漫画が面白いと思っていた。「どうして面白いと思いましたか」という質問に対し「とにかくその絵を見て喜んで。それから文章も面白かった」と答えた。読んだ漫画本に文学作品などが入らず、内容が全て漫画だったということから、単行本で読んだと推測される。

⁸² 大甲鎮瀾宮「建廟沿革」

<http://www.dajiamazu.org.tw/content/about/about02.aspx>（参照 2023-01-01）

経済的に恵まれた子どもは毎月漫画を購読しており、読み終わったらそれを学校に持っていき、クラスメートはそれをまわし読みする。人が購読して読み終わったものは不要になり古本屋に流通するが、お金を出して買ってもいいし、借りることもでき、借りるほうが多かった。当時の生活は貧しかったので読み物を買う余裕がなく、張陳さんはほかの人が漫画を読んでいるのを見ると、「え！次貸してくださいよ！」と言って借りる。読んだ漫画は「日本から」〈引用者注：もともと日本語〉来たものであった。「台湾人が描くのは誰も見たくない。絵が下手だから」と言う。（「台湾人の描くものは見たことありますか」という質問に対し「いいえ」と答えた。）家政女学校に入ってから恋愛小説などを読むようになる。

使用言語

日本統治時代において、学校で先生と話す時は日本語を話していたが、友達とは日本語と台湾語を混ぜて「ちゃんぽん」で話し、家でも台湾語を話していた。日本統治時代に中国の書物や漢文で書かれた本に出会ったことがない。玉蘭荘では「桃太郎」「さくらさくら」「はな」など日本語の童謡を皆で歌っているが、それらの童謡は日本統治時代に学んだ曲である。

戦後になっても夫とはだいたい日本語で話していたが、夫が2020年に亡くなったため、今は玉蘭荘でしか日本語を話さない。今はほとんど台湾語で話しており、「私は華語を話すのが得意じゃない」と言い、孫は普段華語を話すため、孫とはコミュニケーションが取れないことが多い。

セルフ・アイデンティティ

日本統治時代では自分のことを台湾人だと思っており、日本人だと思っていなかった。「そういう考えがなかった。[そういう考えのある人が] いるよ。玉蘭荘に『私、昔は日本人だよ』と言う人もいるけど、私はそれを考えていなかった」と述べていた。戦後、中国国民党が台湾に来る前、皆は「祖国が[台湾を] 管理しに来る！」と言っていたが、「その頃私は『祖国』なんか考えていなかったし、そういう思いがなかった」と回想していた。今は自分のことを台湾人だと思っている。

日本統治時代に対する印象

当時、各家庭で一年に二回大掃除をすることになっており、掃除が終わると警察が検査に来たが、これは環境衛生面では良かったと思う。ただし警察のことを怖がっていた。泣いている子どもに「警察来るよ」と言ったら、子どもがすぐ静まったという。学校の先生も厳しいが、嫌うほどではなかった。総じて言えば日本統治時代の生活は楽しみもあったが、苦しみもあった。

戦後、中国の住民が台湾に来たのが嫌であった。「その人たちが来て、むちゃくちゃするから。とにかく、日本時代と比べたらね、天と地の差。第一、衛生も悪い、行儀も悪い、何も悪い」と理由を述べ、「日本教育を受けていた私たちは、やばし〈引用者注：もともと日本語〉日本時代を思い出す」と結論をつけた。

第2節 王曾素琴さん

家族背景・学校教育

王曾さんは1929年に台南州虎尾州西螺街（現在の雲林県西螺鎮）に、八人きょうだいの長女として生まれた。家族はたばこや酒を扱う専売店を経営し、経済的に恵まれていた。父方（曾）の祖先は清朝時代の「進士」（科挙で殿試に合格した者）であり、母方（詹）の祖先は「秀才」（科挙で童試に合格した者）であった⁸³。日本統治時代の台湾において街庄制度（日本内地の町村に相当）が施行されており⁸⁴、街庄長の多くは地方の有力者が務め、学歴・経歴または経済力が任命要件になっていた。また、任命によって街庄長

⁸³ 台湾文化部臺灣大百科全書「功名」

<https://nrch.culture.tw/twpedia.aspx?id=3678>（参照 2022-10-23）

⁸⁴ 文明基（2021）「植民地台湾と朝鮮の基層行政運用——行政人員の数量的検討を中心として」『北東アジア研究』別冊第6号（2021年3月）、島根県立大学北東アジア地域研究センター、89-129頁（92頁）。

を務める人が専売特許を取ったケースもある⁸⁵。王曾さんの母方の大叔父は日本統治時代に街長を務めたことがあり、父方の叔父や叔母など家族の多くも日本に留学していた。

王曾さんは西螺女子公学校（前身は1901年創立の「西螺公学校」。1927年に「西螺女子公学校」へ、1941年に「西螺東国民学校」へと校名変更した⁸⁶）で初等教育を受けた。全体的に見れば西螺女子公学校は日本人の教員が多いが、低学年児童の中に日本語がわからない子どもが多いため、王曾さんが一年の頃先生はほとんど台湾人であった。四年以上だと教員は全員日本人であった。中等教育は台南州立虎尾高等女学校（1940年創立⁸⁷）で受けており、生徒100名のうち台湾人生徒が15名で、日本人生徒が85名であり、教員は全て日本人だったということである。

高等女学校卒業後に日本へ留学する予定だったが、戦争が勃発し、日本行きの船便が運休となったため行けなかった。戦後に台北女子師範学校に推薦されて入学の許可をもらったが、二・二八事件が起こったあと、台北の社会情勢が不安定になり、「台北で進学するのが怖くて来れなかった」と述べていた。

映画や演劇の鑑賞

学校で映画を見たことがなく、「西螺座」と推測される⁸⁸西螺の「戲園」で映画を見てい

⁸⁵ 葉昕（2020）「地方制度改正後の臺灣人街庄長」『臺灣學通訊』117号，國立臺灣圖書館，14-15頁。

⁸⁶ 雲林縣西螺鎮中山國民小學「學校簡介 中山國小校史」

<http://tw.school.uschoolnet.com/?id=es00002096&mode=editor&key=126826787189570>（参照2022-10-05）

國立臺灣歷史博物館 校園生活記憶庫「西螺女子公學校校舍」

<http://tw.school.uschoolnet.com/?id=es00002096&mode=editor&key=126826787189570>（参照2022-10-05）

⁸⁷ 開箱虎中 Open HWSH「虎尾高中校史」

<https://hwshsee.lionfree.net/history.php>（参照2022-10-05）

⁸⁸ 國家文化記憶庫「西螺戲院」

https://memory.culture.tw/Home/Detail?Id=20011031000005&IndexCode=BOCH_CountryCultur

た。家族と映画館に行ったことがないが、映画を見ることについて親は反対しなかった。学校の友達と一緒に見に行き、自分のお小遣いやお年玉で切符を買っていた。

王曾さんは無声映画を見た記憶がなく、トーキーのみ見ていたが、トーキーが上映される際、弁士が映画を解説するという。見た映画のほとんどは日本製でモノクロが多く、また、一回の上映は一本の映画のみであった。

「西螺座」で歌仔戲が上演されていた記録があるが⁸⁹、歌仔戲を見ていたかという質問に対して王曾さんは「私たちは映画だけを見ていた。歌仔戲を見たことがない」と答えた。漫画映画に関しては、漫画映画があったということを知らなかったということである。

読み物

絵本や漫画、雑誌などを読んでいた。小学校時代は漫画を比較的によく読んでいたが、女学校に上がると『婦人倶楽部』『主婦之友』などを読むようになった。漫画を読むことに対して親は反対せず、父親は書店で漫画や雑誌を買ってくれていたのに対し、女学校の頃に読んでいた雑誌は、自分で買っていた。また、日本統治時代に読んだ雑誌は全て日本語の雑誌だったという。

使用言語

日本統治時代において家では台湾語を話すことが多く、今も台湾語を一番よく使用する。インタビュー中、筆者に対してはよく華語に日本語を混ぜて話し、たまに台湾語で答えるが、息子に対してはだいたい台湾語で話す。

玉蘭莊に行く時は日本語と台湾語を使用する。華語は戦後に学んだが、結婚する前(1946～1950年頃)は荊桐小学校(現在の雲林県荊桐国民小学校)の教員を務め、六年生

e_12 (参照 2022-10-06)

⁸⁹ 國家文化記憶庫「西螺戲院」

https://memory.culture.tw/Home/Detail?Id=147720&IndexCode=Culture_Place (参照 2022-10-06)

の算数を華語で教えていた。

セルフ・アイデンティティ

日本統治時代では自分が半分台湾人、半分日本人だと思っていた。というのは、当時は「台湾人」と自称していたが、日本式の名前に変えたからと説明を加えていた。

日本統治時代に対する印象

今、日本統治時代のことを思い出そうとすると、戦時の思い出が先に浮かび上がる。日本統治時代の生活はあまり楽しくなかったと言ひ、当時列車に乗り、列車が虎尾空港に通過した時に空襲警報が鳴り、「私たちはね、5、60人いてね、みんなでお互いにしがみついて泣いていたよ」とある戦時下の経験を語っていた。インタビュー中、戦後に広島と長崎で被爆建物を見た話をした際に言葉に詰まり、「戦争がないのが一番よ」と言ひ、会話が一段落した。

第3節 陳旭星さん

家族背景・学校教育

陳さんは1934年に台北州台北市大稻埕に四人きょうだいの長男として生まれた。父親は台北放送協会でラジオ受信機を販売する公務員であり、職場で日本人と一緒に仕事をしていたが、プライベートでは日本人との交流がなかった。

日本統治時代後期において台湾総督府は「国語常用家庭の認定」や「改姓名」（内地式姓名に名前を変える）などの政策を積極的に推進していた。「国語常用家庭」とは家族全員が日常生活において日本語を常用する家庭のことであり、「国語の家」とも呼ばれる。国語常用家庭出身の者は、政府機関などで優先雇用されたり、子どもが内地人の学校で教

育を受けられたりする優遇措置があった⁹⁰。陳さんが小学校五年の頃に家が「国語の家」と認定されたが、台湾人生活圏と日本人生活圏が別々であったため、日本人の友達がいなかった。家は日本様式的生活習慣を取り入れており、父親は考え方も話も文化も「日本人思想」〈引用者注：原文ママ。「日本人」みたいという意味であろう〉であった。

小学校六年以前は河合公学校（1939年創立、1941年に「河合国民学校」へと校名変更した⁹¹）に在籍していたが、小学六年で終戦を迎え、戦後に台北市東門へ引っ越したため、東門に位置する東門国民小学校に転入した。

日本統治時代では小学校の校長先生、教務主任、訓導主任は全員日本人であった。台湾人の教員もいたが、日本人の教員が多いと感じており、担任の先生も日本人であった。生徒のほうは男子クラスと女子クラスに分かれており、一つの学年に三、四つのクラスがあったということである。

映画や演劇の鑑賞

陳さんは小学校四年以降映画を見るようになり、映画を見る場所は、永楽座という劇場と、第一劇場という劇場と、小学校との三つであった。

永楽座（1924年落成）も第一劇場（1935年落成）も大稻埕に位置し、台湾人が出資して建てられた現代式劇場であった。二つの劇場とも四階建てで1500以上もの席が設置される劇場であり、映画も演劇も上演されていた⁹²。無声映画が上映される時、台湾人の弁士がスクリーンの前で映画を日本語で解説するという。

⁹⁰ 林呈蓉（2010）『皇民化社會的時代』，台灣書房，64-72頁。

⁹¹ 臺北市延平國小「學校簡介」

<https://web.ypps.tp.edu.tw/2009about/2009about.htm>（参照 2022-10-24）

臺灣歷史博物館典藏網「臺北市延平國民小學第25屆畢業紀念冊」

<https://collections.nmth.gov.tw/CollectionContent.aspx?a=132&rno=2010.006.0663>（参照 2023-01-03）

⁹² 葉龍彦（2006）『台灣的老戲院』，遠足文化，52-53頁。

李道明（2019）「永樂座與日殖時期臺灣電影的發展」『動態影像的足跡——早期臺灣與東亞電影史』李道明編，國立臺北藝術大學，85-127頁（87頁）。

終戦が近づく頃は、台北もアメリカ軍による空襲にさらされるようになり、台湾人学校である河合国民学校と大橋国民学校の生徒たち（合わせて3、40人くらい）は、日本人学校（一校）の生徒たち（4、50人）とともに集団疎開で陽明山へ行った。集団疎開の頃、たまに週末に映画が上映された。また、上映される映画は戦争に関するものがあったり、理科の実験映像や、森林や河川を紹介する映像があったりしたという。

陳さんは日本統治時代に見た映画として、アンケートとインタビューで『鞍馬天狗』と、チャップリンやエノケンの喜劇などの映画を挙げていた。好きなジャンルはチャンバラであり、『忠臣蔵』（無声映画とトーキー両方）、宮本武蔵や丹下左膳のチャンバラ映画を見ていた。これらの映画は生徒の間で人気になっており、モノクロもあればカラーもあり、無声版もあればトーキー版もあるという。当時、チャップリンの作品などのアメリカ映画もあったが、日本経由で輸入したもので、すでに日本語に翻訳されていた。ニュース映画は学校ではなく劇場のほうで上映され、本編の映画が始まる前に上映される。戦争もののほかに衛生教育の宣伝などに関するものもあったと述べていた。

浦島太郎や桃太郎など童話の漫画映画（短編）を映画館で見っていた。見た漫画映画のほとんどは短編もので、複数本立てで上映された。実写映画とともに上映されたこともあると記憶している。また、漫画映画の観客には子どもも大人もいたという。

映画を見る頻度はそれほど高くはなかったが、映画を見ることに対して親は反対しなかったという。お小遣いをもらっていたが少なく、映画を見る場合は親から切符代をもらっていた。そのため、親がある映画が有益なものではないと考える場合、その映画を見ることができない。家族（引用者注：親のことであろう）は映画に興味がないし、時間もなくて映画を見ないがゆえに、陳さんはほとんど、友達と一緒に映画を見に行っていた。また、現在とは違い、昔は皆映画を見ることを大切にしていたという。

読み物

小学校三、四年生の頃に絵のある読み物をよく読むようになり、漫画のチャンバラも多く読んでいた。アンケートでは、「のらくろ」と「牛若丸」といった漫画を見たことがあると答えている。特に漫画が好きだったというわけではなく、文学のほうが比較的が好きで文学作品をたくさん読んだという。

小学校四年生の頃に講談社が出版した有名人の伝記を読んでおり、「講談社の絵本」も

何冊か読んだことがある。『少年倶楽部』を読んだことがあり、それを読んでいた頃は戦争の時代であったため内容的には政治に関するものが多く、自分も戦争ものを読むのが好きであった。また、『日本はもう勝ったよ』『少年倶楽部』は日本が] 負けたなんて全然言わない、[日本は] 勝ってばかりいる」と、『少年倶楽部』は読者に日本の戦勝の姿を見せていたことを語っていた。

入手方法に関しては、父親はよく職場でもらった日本雑誌や小説を家に持ち帰ってくれたという。本屋から小説や漫画を借りたことがあり、そこから皆〈引用者注：友達であろう〉の読んだことのない『婦人倶楽部』を借りて読んだことがあるという。

子どもが『少年倶楽部』などの読み物を読むことについて、父親は賛成の態度を示した。父親はそれらの読み物に漫画が入っていることを知っていたが、「[父はそれが実際に] どんな読み物なのかをよく知らなかったみたい」と陳さんは述べていた。

そのほか、新聞もたまに読んでいたが、内容が大人のことばかりなので、興味がそれほどなかったという。

使用言語

日本統治時代においては日本語を多用していた。「国語の家」であったため、家でも家族とは日本語で話していた。日本語力が高いことが認められ、学校を代表してスピーチコンテストに出たことがあるという。

現在、玉蘭荘では日本語を話すのが、生活上の場面では使用頻度が最も高い言語は華語であり、子どもに対しては台湾語に華語を混ぜて話す。「私の子ども、台湾語があんまりわからない」と陳さんは言い、四人の孫はアメリカに住んでいるためなおさらだということである。インタビューでも筆者に対してほとんど華語を話していた。

セルフ・アイデンティティ

陳さんは現在、自分が台湾人だと思っているが、日本統治時代には自分が日本人だと思っていた。ただし、集団疎開の際に日本人と待遇が違うことに気づき、「彼たち〈引用者注：日本人のことを指す〉はとてもさ〈引用者注：差別を言いたかったと推測する〉・・・とても台湾人を排斥していたよ」と当時の不平を示していた。

集団疎開の時、日本人小学生とは授業も食事も別々であったが、台湾人小学生は日本人小学生が食事をするのを見ることができた。「〔日本人の〕食事はよかったよ、毎食天ぷらを食べて。魚もあれば、肉もあった」。物資が不足していたはずなのに、日本人は不足で困っていなかったという。「私たち台湾人はね、満足な食事ができなかったよ」食べるものは一つの鍋に米や野菜を入れて作られたもので、汚くはないもので食べられるものではあったが、日本人の食事と比べると「天と地の差」であった。

満足な食事ができなかったためお腹が空いて仕方がなく、夜にほかの生徒と一緒に隣の農園で桃を盗んでいたという。そして数回盗んだあげく、陳さんたちは園主に捕まった。そのことを知った教務主任は、陳さんたちに一列に並ばせ、列の先頭から最後尾まで、生徒をボコボコ叩いた。その後、生徒を倉庫に閉じ込めた。「倉庫には桃がいっぱい入ってたよ、全部桃だったよ。ひと袋ひと袋、全部桃 [笑]。でも食べるもんか [笑]。〔倉庫の〕中で泣いてたよ。ああ [嘆く]、今でも覚えてる」と当時のことを述べていた。

父親は職業柄、時々受信機を家に持ち帰っていたが、受信機を設置すると近所の人らはラジオを聴きに集まってきていたという。玉音放送の時におよそ 100 人が家の前で集まり、聴きながら泣き、陳さんも泣いていた。日本人に日本は絶対勝つと思いきまされ、負けるとは思わなかったからであり、「悔しかった」と述べていた。

日本敗戦後、陳さんは街中の日本人を見て彼らを同情していた。日本統治時代には厳しかった河合国民学校の校長先生は、ほうきで街を清掃していたり、長老教会の信者の家庭はお金に困って路上で自製のお餅を売ったり、その子どもは靴磨きをしたりしていた。それを見て悲しくなったという。

日本統治時代に対する印象

前述の差別経験を持つ陳さんは、「〔日本が〕台湾で統治してた頃は、本当に台湾人・・・台湾のために考えてくれて、建設してくれたし、文化も交流もあって〔中略〕でもやはり〔台湾を〕植民地として扱ってたね」と複雑な気持ちで語っていた。

第4節 許金城さん

家族背景・学校教育

許さんは1932年に台南州北港郡に五人きょうだいの長男として生まれた。父親は穀物の担ぎ屋であり、同業の日本人の友達を複数持っていた。大叔父は「壮丁団」の団長を務めたことがあり、警察と仲が良く、巡査警察はよく家を訪れてきた。

6歳で嘉義高等女学校附属の幼児教育施設〈引用者注：原文は台湾語の「国語補習班」〉に入り、7歳のときに「北港公学校」に入学した。インタビューで許さんは自分が小学校二、三年生の時（1940～1941年頃）に「北港公学校」が「宮前公学校」へと校名変更したと述べていた。より正確には、宮前公学校の前身は1927年創立の北港女子学校で1939年に「宮前公学校」へと校名変更したと同時に男子の入学を認めるように制度を変え、1941年に「宮前国民学校」へと校名変更したとされる⁹³。小学校卒業のあと、南陽国民学校の高等科に進学し、高等科二年生の頃終戦の日を迎えた。教師になりたくなかったため、戦後進学しなかった。学校では台湾人教員は全教員の三分の二を、日本人教員は三分の一を占め、訓導の中に台湾人教員もいたが、日本人教員のほうが比較的に多かったという。

映画や演劇の鑑賞

7～9歳の頃に見た映画は字幕付きのモノクロ無声映画で、それを「活動写真」と呼び、音声がつくものを「映画」と呼んでいた。活動写真のほとんどは祝日の夜に北港公会堂の前の広場で無料上映され、スツールや服などで席を取っておく人が多かった。また、映画を解説する人はいなかったという。

家の隣に「旧戲園」と呼ばれる劇場があり、そこで映画が上映され歌仔戲が上演されていた。郡役所の日本人が旧戲園を好まなかったため、のちに「新戲園」（正式名称は「北

⁹³ 蔡元隆・張淑媚・黃雅芳（2017）「日治時期北港女子公學校教育史之研究」『市北教育學刊』56号，臺北市立教育大學，1-28頁（5頁）。

港劇場」) が建てられた。

旧戲園は歌仔戲と映画を上映したが、新戲園は映画のみ上映した。許さんは両方で映画を見ていた。切符の価格は変動し、大人は 10 銭で子どもは 5 銭と最初は安かったが、戦争に入って映画を見る人が減少したら、少し高くなったという。

許さんが 11、12 歳の頃、街の 17、18 歳の青少年らは切符を買うお金がなく、それらの青少年らと戲園の外で「piann-tōo」（人が人の肩に乗ること）で映画を見たことがある。街のおばさんをお願いして戲園の中に連れて行ってもらうことがよくあった。

許さんは映画を見るのが好きであり、特に戦争の映画を好んで見ており、小さい頃の遊びとして兵隊ごっこもしていたという。「その時映画を見て、私、映画を見に行くときは戦争物を見るよ。戦争〔の映画〕は子どもに戦争を見せるためのものなんだ。『日本人、勇ましい』と私たち子どもを思わせる。ああ〔嘆く〕、子どもにはわからない」と述べていた。俳優の上原謙と高峰秀子、片岡千恵蔵が主演の映画を見たことがあり、真珠湾攻撃の映画も見ていた。戦争を題材にした映画であれば、本編が始まる前に「君が代」を歌い、大本営発表⁹⁴を上映するという。戦争の映画を見ることに對し、母親は反対であったが、父親は賛成であった。父親も映画館に行っていたが、見るものは「三国志」の物語などであり、許さんが見るものとはジャンルが違っていた。

アメリカ映画がなかったが、日本映画のほかにイタリアとドイツの映画があり、日本語字幕付きで原語で上映されたという。

許さんは幼稚園の頃に漫画映画を見はじめ、漫画映画の上映場所は劇場と北港公会堂であった。戦争が始まったあと、映画を放映する時は国歌と海軍の軍歌を流すようになる。歌のあとに漫画映画が出て、字幕付きで上映される漫画映画が多かったと記憶している。

⁹⁴ ニュース映画と推測される。

参考資料：

NHK 戦争証言アーカイブス「ニュース映像 第 230 号」

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300358_00000&seg_number=003 (参照 2023-01-05)

NHK 戦争証言アーカイブス「ニュース映像 第 231 号」

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300359_00000&seg_number=003 (参照 2023-01-05)

漫画映画は単独上映もあれば、複数本立ての上映もあった。また、漫画映画を見る人には大人も多くいて、許さんは子ども同士で「piann-tōo」で見たことがある。

歌仔戲の鑑賞について、「歌仔戲は素養が低い。歌仔戲は中国式〔のもの〕で、素養が・・・私たちみたいな人はね、歌仔戲を見ない。私みたいな人、日本人らしい人は歌仔戲を好まない、好まないよ」と述べていた。

ほかの芝居鑑賞

小学校で人形芝居を鑑賞したことがある。人形芝居は日本語か台湾語で上演され、字幕付きのものであった。

読み物

インタビューで許さんは『少年倶楽部』『読切倶楽部』『講談倶楽部』などの雑誌名を挙げていた。また、『のらくろ二等兵』（「のらくろ」ではなく）を言及した回数が非常に多かった。

許さんは小学校二年の時から『のらくろ二等兵』を読んでおり、『のらくろ二等兵』を読み終わってから『少年倶楽部』を読んだ。小学校高学年のとき、学校の先生が壁新聞を見ていた許さんを見かけたのがきっかけで、許さんに『少年倶楽部』をすすめた。太平洋戦争が始まる頃には『のらくろ二等兵』を読む人が少なくなっていき、高学年の生徒は『少年倶楽部』を読んでいたということである。『キング』も高学年の頃に読んだという。

許さんは漫画が面白いと感じていて、好んで読んでいた。一方、子どもが漫画や絵本を読むことに対し、母親は不賛成であったが、父親は賛成であった。

漫画や雑誌以外の読み物として、『御民新聞』という子ども新聞があり、「支那兵」を描く漫画が掲載されていたという。

読み物の入手方法に関しては、親は6歳年上の姉を養子に出したため、姉とは同居していなかったが、子どもの頃姉から雑誌などをもらっていた。姉は人が読み終わったものを拾って読み、許さんは姉や親戚のいところから不要となった雑誌などをもらって読んでいた。『のらくろ二等兵』はそれらの雑誌で読んだということである。

まちには日本雑誌のみを扱う「ともえ」という書店があり、北港公会堂には書物をレンタルする「クラブ」があり、日本語の書籍をも扱っていた。また、北港媽祖廟の隣に図書館があり、日本語の図書のみを所蔵していた。その図書館は図書の貸し出しをしておらず、所蔵の図書を読みたい場合は館内での閲覧になる。管理員は日本人で、入館の際に名簿に自分の名前を記入することとなっていた。

使用言語

日本統治時代には日本語を一番よく使用していたが、家族とは台湾語で話していた。母親は日本語がうまく話せないが、父親と大叔父は日本語が話せて、よく日本語で時局などについて日本人の警察と意見を交わしていた。それらの話を聞くのが好きで、それで日本語力を身に付けたという。学校では日本語を話すことになっており、台湾語を話してしまうと罰せられると述べていた。今は台湾語を一番よく使用する。

セルフ・アイデンティティ

日本統治時代において北港には日本人住民が多く住んでいた。小学校が別々であったため、許さんに日本人の友達はいなかったが、球場の場所取りで日本人の子どもと喧嘩したことがある。その際に日本人の子どもに「ちゃんころ」と嘲罵されていた。

それでも許さんは第二次世界大戦が終わるまで、自分のことを日本人だと思っていた。日本が敗戦した時、悲しかったという。現在、自分は台湾人だと思っている。そのアイデンティティの変化はなぜ起こったのかという質問に対し、自分の日本精神がのちほど「台湾化した」と答えていた。自分の「台湾意識」〈引用者注：原文ママ〉は李登輝が総統に当選した頃に現れ、戦後からそれまでの間は「国民党を倒してやりたかった」と思っていたが、戒厳令が下されていた期間において政党の結成などが禁止されており、台湾独立の団体・運動に参加する機会がなかったと、その後の対談で経緯を明らかにした。

日本統治時代に対する印象

日本統治時代のことを思い出すと「いい」と思うという。許さんはインタビューで戦後

中国国民党の統治に対する不満を示し、中国国民党のことと比べながら日本統治時代に対する印象を述べていた。「日本人、日本精神は・・・比較的にもともとだから」「〔日本人は〕気まぐれで前言を翻さない。日本精神がまともで、人をいじめない、比較的にいじめない・・・そんなに弱肉強食の世界じゃない」などと言う。また、日本統治時代の治安が比較的によく、窃盗などの罪を犯す人を罰する際、その人のプライドを守ってくれる処置をとることに對し、好意的な感情を表していた。

第5節 蔡焜霖さん

家族背景・学校教育

蔡さんは1930年に台中州大甲郡清水街に生まれ、十人きょうだいの四男である。保正を務めたことのある⁹⁵父親は「梅芳商店」という和洋百貨店の経営者であり、家族は経済的に比較的恵まれていた。蔡さんは6歳の頃に清水幼稚園（1930年創立⁹⁶）に入園し、翌年に清水第一公学校（前身は1897年創立の「台中国語伝習所」。1921年に「清水第一公学校」へ、1941年に「清水南国民学校」へと校名変更した⁹⁷）に入学した。清水第一公学校では生徒のほうは男子クラス（三組）と女子クラス（二組）に分かれており、教員のほうは女性も男性もいたが、男性の教員が多かった。また、教員のうち本島人教員のほうが多かったという。

1943年に台中州立第一中学校（戦後の1945年に台湾省立台中第一中学へと校名変更し、高等部を増設した⁹⁸）に入学し、三年生の時学徒兵として徴兵され、最初は母校の清

⁹⁵ 蔡焜霖『逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史』、40-41頁。

⁹⁶ 臺中市清水區清水國民小學附設幼兒園「清幼歴史」

<https://sites.google.com/mail.cses.tc.edu.tw/kid1/%E9%A6%96%E9%A0%81/%E6%B8%85%E5%B9%BC%E6%AD%B7%E5%8F%B2>（参照 2023-01-02）

⁹⁷ 臺中市政府教育局「臺中市清水區清水國民小學 詳細資料」

<https://www2.tc.edu.tw/school/list/detail/id/453>（参照 2023-01-02）

⁹⁸ 臺中市立臺中第一高級中等學校「簡介」

水南国民学校に駐在していた。のちに水湳空港に派遣され、機関砲手の訓練を受けることになっていたが、訓練が始まる前に戦争が終わった。1946年に台湾省立台中第一中学の高等部に進学し、1949年に高校を卒業した⁹⁹。

高校時代に読書会に参加し、左派の書籍を読んでいたことを理由として、1950年に蔡さんは政治犯扱いされ逮捕された。十年後に出獄し、出版社などで翻訳や編集を務めていた。1960年代半ば以降からは、『王子』『公主』など子どもや少年少女向けの雑誌の創刊に関わっていた¹⁰⁰。

映画や演劇の鑑賞

小学校二、三年以降映画を見るようになり、日本統治時代に見た映画はアメリカ製のものもあったが、日本製のほうが多かった。蔡さんはだいたい、①「清水座」という映画館と、②清水役場の建物の中にある「社会館」という施設と、③小学校の講堂で映画を見ていた。

①「清水座」

最初は父親に連れて行ってもらっていたが、やがて学校から映画館へ国策映画を見に連れて行かれるようになった。清水座では話劇などの戯劇も上演されていたが映画の上映が多く、映画の長さは一時間以内であった。文芸映画や恋愛映画、喜劇、戦争のドキュメンタリーなど多くのジャンルの映画を見ていたが、はじめて漫画映画を見たのは戦後のことだったという。支那事変のあと、ニュース映画がほかの映画とともに上映されるようになったが、太平洋戦争勃発以降はほとんど毎回、ニュース映画を見てからほかの映画を見ることになっていた。また、戦争が始まって以降、恋愛映画、喜劇（エノケン、古川ロッパ、チャップリン）など「面白い映画」の上映が減少したという。

弁士付き上映があったのは映画館だけで、映画放映時には弁士の姿が見えなくて声しか聞こえなかったということである。内地人弁士と本島人弁士がいたが、本島人弁士が多いと感じた。台湾語で映画を解説する弁士に出会ったことがなく、内地人弁士も本島人弁士

<https://tcfsh.tc.edu.tw/p/426-1076-1.php>（参照 2023-01-03）

⁹⁹ 蔡焜霖『逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史』44-82頁。

¹⁰⁰ 同上、88-234頁。

も日本語で映画を解説する。のちにトーキーの時代に入ると弁士の姿が見られなくなった。

②小学校の講堂

小学校四、五年以降に見た。授業などで生徒を集めて放映したこともあれば、休日や夜に放映したこともある。内容としては花が開花する過程など、理科に関するものが多い。スローモーションで撮られた開花の映像を見るだけで感動していたという。小学校（四～五年生の頃）で見たものはほとんどトーキーであった。

③社会館

小学校四、五年生の頃以降、社会館で映画を見るようになった。そこでデコちゃん（高峰秀子）が主演の『釣鐘草』を見たと言っていた。入場料なしで文化活動の一環として映画が放映されていたが、のちに戦局が一層悪化していき、空襲が多発し、映画を放映する余裕がなくなった。

中学校に上がると、集団で映画館で映画を見るのも、学校の講堂などで映画を見るのもなくなった。また、中学校時代に学校の友達と「台中座」と「天外天劇場」といった台中市にあった映画館に行ったことがあるという。

ほかの芝居鑑賞

小学校で紙芝居を見ていた。講堂に生徒を集めて見せてもらったこともあれば、教室で先生が演じてくれたこともある。その頃に見ていた紙芝居はだいたい二種類に分けることができ、一つ目は「御伽噺」であり二つ目は「講談」である。低学年の頃に見ていた紙芝居は桃太郎や金太郎などの「御伽噺」がほとんどであったが、上の学年になると岩見重太郎や真田幸村、猿飛佐助や霧隠才蔵など「講談」に出てくる物語の紙芝居を見ていた。

小学校では、たまに「御伽噺の先生」が巡回興行を行いに来て、物語を語ってくれる。また、清水公学校に校内放送設備が整っており、昼休みの時に昔話や名曲のレコードが放送されていたという。

読み物

蔡さんは子どもの頃に「講談社の絵本」を読んでいた。豊臣秀吉や「狸親父」の徳川家

康のことは「講談社の絵本」を通して知ったという。

「講談社の絵本」以外、漫画や雑誌もたくさん読んでおり、インタビューでは『譚海』『キング』『少年倶楽部』『少女倶楽部』『幼年倶楽部』『冒険ダン吉』など多くの雑誌名や作品名を挙げていた。漫画の「のらくろ」シリーズは『のらくろ二等兵』から触れはじめ、『冒険ダン吉』は単行本で読んでいたと記憶している。当時、面白い漫画があれば皆はそれを読み、男の子でも『少女倶楽部』を読み、小学校低学年なら『幼年倶楽部』を、高学年なら『少年倶楽部』を読み、『少年倶楽部』を知らない人はいなかった。

そのほか、『セウガク一年生』『セウガク二年生』から『小学六年生』までである「小学館」が定期的に刊行した学習雑誌シリーズ¹⁰¹を読んでいた。雑誌の中には漫画、物語などが載っており、内容は他社の雑誌と比較して学校の教科書の内容と合わせているように見えたという。

中学校に上がると、「小学館」の雑誌や『少年倶楽部』などを読まなくなり、大人向け雑誌の『キング』や受験雑誌である「旺文社」の『蛭雪時代』¹⁰²などを読んでいた。

当時台湾に流通していた日本雑誌は、日本内地で印刷・装丁されて台湾に送られてきていたという。1943年以降、戦局が悪化し、台湾にも空襲が来るようになり、雑誌の出版統制も行われていたと記憶しているが、当時雑誌が市場に流通したかどうかは覚えていない。

読み物の入手方法に関しては、図書館で借りたり、友達でまわし読みしたり、3歳年上の兄がまわし読みで家に持ち帰ったものや兄が購読する『キング』を読んだりしていた。比較的になかったが、お小遣いを貯め、自分で「金村書店」という本屋に行って買ったこともある。また、父親が経営する店は『台湾新聞』『台湾日日新報』などの新聞を購読しており、双葉山や羽黒山などについての相撲の新聞を読んでいたが、新聞に載っていた大人向けの一コマ漫画は面白くないからあまり読まなかったという。

蔡さんの親は自分の子どもが漫画を読むことに対し、学校もそれらの読み物を認めるため、賛成であった。「だから雑誌を作ったのもそういう目的があった。漫画は軽視される

¹⁰¹ 小学館「会社情報 沿革・歴史」

<https://www.shogakukan.co.jp/company/history>（参照 2022-09-04）

¹⁰² 旺文社「旺文社の歩み」

<https://www.obunsha.co.jp/pr/change/history/>（参照 2022-09-14）

ものだから、児童の〔雑誌〕を通して・・・『王子』みたいな雑誌を通して、〔漫画を〕学校か家庭に入らせるかを試したかった。漫画はもともと良いものだから」と子ども雑誌を創刊した目的を語っていた。また、「小さい頃に日本の『少年倶楽部』や講談社の絵本を読み、これらの書籍の内容が良くて、参考にする価値がある」と勤め先の社長に話し、日本の出版社の経営モデルを参考にして子ども雑誌の出版社を運営することにした、という経緯を著作で述べている¹⁰³。

日本統治時代にはロシア文学、アイルランド文学、スコットランド文学、アメリカ文学を読んだが、漢文の文学は読まなかった。「台湾人によって書かれたものに対してそれほど興味がなかったみたい」という。

王朝基など台湾人の漫画家がいるのを知ったのは、戦後出版業界に入ってからだったということである。

使用言語

幼稚園の頃は、「桃太郎」や「おててつないで」などの童謡を通して、日本語力を身に付けた¹⁰⁴。学校では台湾人の教員に対しても日本語を話し、「なるべく親に日本語を話している」と学校に報告していたが、実際は、家族とは台湾語で話していた。

戦後も家では台湾語を話していたが、学校などで友達と話す時、日本語を使用することが多かった。しかし次第に台湾語と日本語を混ぜて「ちゃんぽん」で話すようになっていった。学校で北京語を学んでいたが、それが「国語」だと思っていなかった。なぜかというところ、蔡さんの思う「国語」とは日本語だったからである。本省人の中で比較的北京語が話せる人であったため、高校卒業後役場の事務員を務めていた頃、よく役場の代表として軍人送迎していた¹⁰⁵。しかし拘置所にいた時は、「国語」がわからないとよく言われ、外省人軍人の輦轎を買ったことがある¹⁰⁶。監獄に入ったあとは、話の内容を密告されないように「ちゃんぽん」で話していたという。

¹⁰³ 蔡焜霖『逆風行走の人生：蔡焜霖口述生命史』、145-146頁。

¹⁰⁴ 同上、25頁。

¹⁰⁵ 同上、83頁。

¹⁰⁶ 同上、108頁。

釈放されたあとも、複数の言語を使用していた。妻と話すときは「ちゃんぽん」で、職場では台湾語と華語を使うが、使う頻度は華語のほうが高かった。自分の子どもと話すときは華語を使うことが多かった。今と比べると、そのときの「台湾人アイデンティティ」〈引用者注：原文は台湾語の「台湾人認同」〉はそれほど強くはなかったという。

セルフ・アイデンティティ

蔡さんは当時、祖先が福建省から台湾に来たのを知っていたが、自分のことを日本人だと認識していたという。日本人ではあったが、内地人とは違う存在の日本人である。自分の日本人アイデンティティを疑っていなかったが、自らが二等国民であることをも知っていたと述べていた。

また、日本統治時代において蔡さんが用いていた「台湾人」という言い方は、現在の用法とは違い、出身地を表すものであった。当時、中国のことを見下しており、天皇のために戦うという覚悟をしていたという。

蔡さんは戦争が終わっても「台湾人」と自称する。戦後の社会に広がっていた「祖国意識」について、蔡さんは「私は15年戦争の落とし子だから、〔日本統治時代に自治運動を行っていた林献堂などのような〕『祖国意識』は持っていなかった。『祖国意識』を持ったのは、戦後、「祖国復帰」と聞いたからだった。当時の「祖国」は戦勝国で、日本は戦敗国だったから、それだけでもうれしかった」と当時の自分の思いを語っていた。

日本統治時代に対する印象

蔡さんは今、「故郷を懐かしく思うように」懐かしい気持ちで日本時代のことを思い出す。「特に子どもの頃の生活は楽しかったから。楽しいというのは終戦後、すべてが変わってしまったから。〔戦後は〕凄惨だった。だから、子どもの頃のことを思うと楽しい気持ちになる。惜しいよ、だから『少年倶楽部』とか何かを読むと、戦争を鼓舞するものなんだけれども——『少年倶楽部』を読むとそれが戦争を鼓舞するものだとわかるが——記憶の中では・・・楽しかったことだよ〔中略〕のらくろも面白かったね。軍に入るけれども、二等兵から。実際、軍に入ることも苦しいことだよ。私たちが軍に入った頃も苦しかった。でも漫画の中では楽しいこと」と語っていた。

第五章 分析・考察

第1節 台湾の子どものメディア体験

前章でみたように、日本統治時代後期に台湾の子どもが触れていた娯楽メディアのほとんどは、日本経由で台湾に輸入されたものである。この節では「漫画」「映画」「漫画映画」の三つの部分に分け、台湾の子どものメディア体験を考察する。第三章で述べたように、考察にあたり、『台湾日日新報』『台湾日報』を補足資料として用いる。

「漫画」

五人のインタビューは全て、漫画を読んだ経験を持ち、またそれらの漫画は日本内地で発行されたものである。『少年倶楽部』など月刊誌のほかに、単行本版の漫画も市場に流通していたことがわかる。

子どもが漫画を読むことに対する、それぞれの親の態度は一致していないが、インタビューらは漫画が「面白い」と思っていた。漫画の入手方法に関しては、友人などとまわし読みする、自分で購入する、他人が読み終わったものをもらう、書店あるいはほかの施設で借りるといった方法があった。王曾さんや蔡さんのような、経済的に恵まれた家庭の子どもは、自分で書店で購入したり親に買ってもらったりした経験を持つ。インタビューの内容からみれば、1930年代後期において、日本内地の出版社によって発行された読み物は、台湾人生活圏においても一定の知名度があったと言えるのではないか。また、新聞でもインタビューで言及された「講談社の絵本」(図 5-1、5-2)『幼年倶楽部』『少年倶楽部』(図 5-3)『キング』(図 5-4)『婦人倶楽部』(図 5-5)『主婦之友』(図 5-6)などの広告がみられていた。それに対し、日本統治時代に台湾人の漫画家が描く作品を読んだインタビューは一人もいなかった。戦後に漫画の出版に携わっていた蔡さんでも、日本統治時代に台湾人の漫画家がいたと知らなかったと述べていた。



図 5-1 『台湾日報復刻本』 8 卷 1938 年 6 月 24 日号 朝刊 4 頁

図 5-2 『台湾日報復刻本』 15 卷 1939 年 2 月 28 日号 夕刊 1 頁

図 5-3 『台湾日報復刻本』 57 卷 1944 年 2 月 22 日号 朝刊 2 頁



図 5-4 『台湾日報復刻本』15 卷 1939 年 3 月 6 日号 朝刊 6 頁

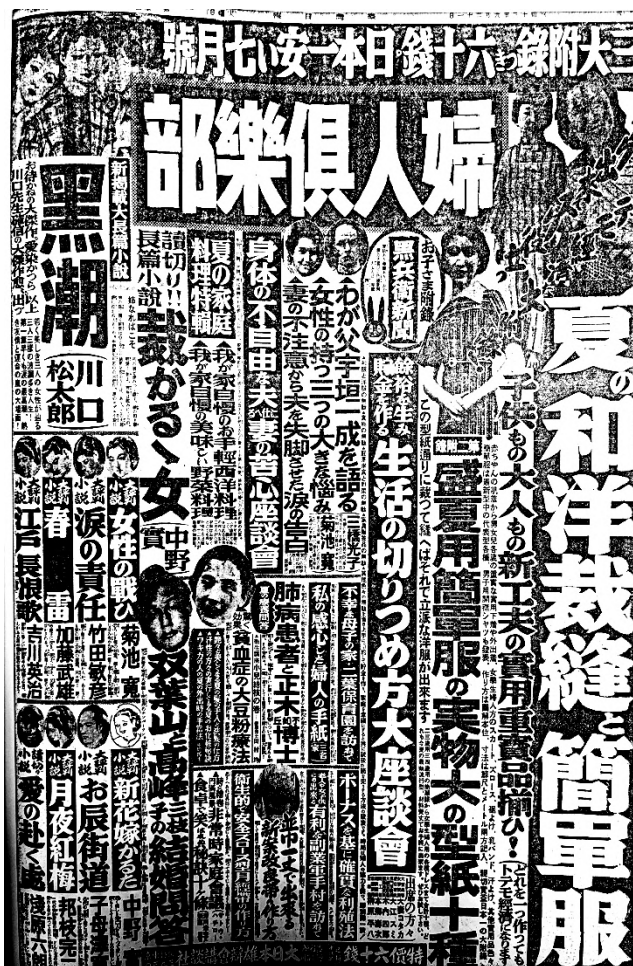


図 5-5 『台湾日報復刻本』8 卷 1938 年 6 月 21 日号 朝刊 6 頁



図 5-6 『台湾日報復刻本』 56 卷 1943 年 10 月 3 日号 朝刊 4 頁

ところが、当時「漫画」と呼ばれたものはいったい、どのようなものなのか。漫画の形について、張陳さんは詳しく説明しなかったが、当時の漫画は今「漫画」と呼ばれているものと「同じではない」と言った。陳さんは、2021年4月16日のインタビューでは「絵本は漫画」と言い、「小説に絵がつくものが絵本で、絵本は漫画だ」と説明を加えていたが、2021年4月19日には「漫画とはのらくろの漫画と同じ形のものだ」と言っていた。他方、許さんも『冒険ダン吉』のことを「絵本」と言いながら、漫画はキャラクターだけを描く、文章がないもので、「のらくろ〔の漫画に〕文章がない。キャラクターだけが描かれる。そのキャラクターを見るだけなんだ」と述べていた。しかし実際には、のらくろシリーズは最初から文章付きのものであった（図 5-7）。



図 5-7 田河水泡 (1975) 『のらくろ漫画集 1』, 講談社, 28-29 頁

陳さん、蔡さん、許さんのインタビューでは、筆者は昭和 16 (1941) 年 8 月号の『少年倶楽部』や 1976 年に出版された『冒険ダン吉』をそれぞれに見せていた。『冒険ダン吉』は 1933 年から『少年倶楽部』にて六年間連載されており¹⁰⁷、1970 年代に講談社はその連載の復刻本を出した。

蔡さんは『冒険ダン吉』をめくっていた際に、子どもの頃に読んでいた『冒険ダン吉』は「『漫画』のようなものだった〔と記憶している〕」と訝しそうな顔であった。記憶の中の『冒険ダン吉』(図 5-8) は、のらくろの漫画と同じくページが複数のコマに分かれているものなのに、今見るものは現在の「絵本」に近い形をしていたという。

¹⁰⁷ 島田啓三 (1976) 『冒険ダン吉 1』, 講談社, 4 頁。



図 5-8 島田啓三 (1976) 『冒険ダン吉1』, 講談社, 6-7 頁

第一章では当時、『漫画』というメディアには複数の呼び名があったと述べたが、以上のことから、台湾人の子どもは日本統治時代に『冒険ダン吉』など、今で言う「絵本」または「説明付き漫画絵物語」を「漫画」と呼んでおり、当時の「漫画」は現在のそれと比べると、より広範囲のメディアを包括する言葉であったと推測する。また、復刻本の『冒険ダン吉』は実際には当時の「絵物語」の形を残して出版されたものであるため、「記憶の中のと違う」と蔡さんが言ったのは、当時の台湾では『冒険ダン吉』のような読み物を「漫画」と呼んでいたからだと思われる。

聞き取り中、子ども雑誌の名前が多く言及されていたのに対し、漫画の作品名がそれほど挙げられていなかった。蔡さんは『少年倶楽部』を見ていた際に、『日の丸旗之助』は印象に残っていたと述べた。また、蔡さんも許さんものらくろについて語っていた際に、「のらくろ二等兵」というように作品名を挙げていた。しかし実は、のらくろシリーズが『少年倶楽部』に連載されはじめた当初から、「のらくろ二等卒」という作品名が使用されており、単行本版も「のらくろ二等卒」という題名で出版された。物語の中で主人公である「のらくろ」が二等から一等へと進級した最初も、『少年倶楽部』昭和7(1932)年1月号では「のらくろ一等卒」という作品名で連載されていたが、2月号になってはじめて「のらくろ一等兵」という作品名が使用されるようになった¹⁰⁸。

のらくろの漫画映画もあった。図 5-9 が示すように、当時の作品名は「のらくろ二等

¹⁰⁸ 宮本大人 (2002) 「ある犬の半生—『のらくろ』と〈戦争〉—」『マンガ研究』2 巻, 日本マンガ学会編, 50-71 頁 (51-52 頁)。

兵」であった。許さんも、のらくろは漫画映画を見て興味が湧いたから、漫画のほうをも読んだと言い、「〔漫画映画〕を見てから〔漫画〕を読むんだ。子どもは本を読まない。〔漫画映画〕を見て面白さを感じたから本を読むんじゃない？」と話していた。

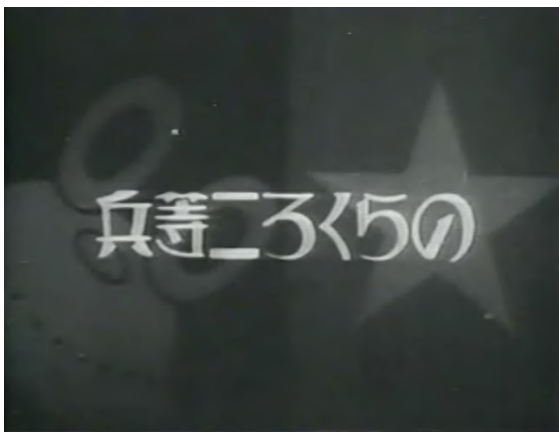


図 5-9 昭和漫画映画大行進：元祖アニメーション 第1巻

以上のことから、「のらくろ二等兵」という漫画の呼び方は、のちほど出版された「のらくろ一等兵」や漫画映画に影響されて生まれたと言えるのではないだろうか。

また、1934年1月15日の『台南新報』にも、のらくろが描かれたキッコーマンの醤油広告（図 5-10）がみられる。漢文欄に掲載されたこの広告には、漢文の文章も載せられている。漢文欄の読者は台湾本島人であったため、のらくろの作品は1934年当時、台湾人生活圏においても一定程度の知名度を獲得していた可能性が否めない。



図 5-10 『台南新報復刻本』90 卷 1934 年 1 月 15 日号 夕刊 4 頁 (漢文欄)

「映画」

三澤は日本統治時代における台湾総督府のメディア検査統制を「消極的行政＝検査」と「積極的行政＝統制」とに分けている¹⁰⁹。「消極的行政」とは、統治初期から、警察機関が検閲や輸入制限などの手段で、総督府がネガティブと判断したメディア内容を取り締まることである。一方、「積極的行政」とは、1937 年以降、消極的行政を継続するほかに、「臨時情報部」「情報課」などを設置し、教育映画の制作と上映などの手段を用いて積極的に宣伝政策を実施することである¹¹⁰。

1936 年末に総督府は各種の統制法を制定しはじめ、1937 年の日中戦争以降、検査統治機構は一層強い姿勢を示し、日中戦争がきっかけで映画の上映においてもニュース映画の流行がみられていた¹¹¹。第一章でも述べたように、1937 年に新聞の漢文欄が廃止されたのだが、その当時、映画界においても台湾語による映画解説を禁止する議論が一時期現れていた¹¹²。

積極的行政時期の 1942 年に、台湾においても「台湾興行統制株式会社」と「台湾映画

¹⁰⁹ 三澤真美恵『殖民地下的「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究 (1895～1942)』, 78-81 頁。

¹¹⁰ 同上, 81-120 頁、123-191 頁。

¹¹¹ 同上, 315-319 頁。

¹¹² 同上, 319-320 頁。

協会」が設立され、内地と同様の配給制度が施行された¹¹³。三澤はこの配給制度の実施により、映画館は映画を自由に上映できなくなり、当時の台湾映画界と映画視聴者は「総力戦体制」の下に置かれるようになったと結論を示した¹¹⁴。

また、三澤は台湾人を対象とした聞き取りを行い、その考察を通して、台湾人が日本映画を排斥し中国映画を好んで見ていたという通説に対する、懐疑的な立場を表明した¹¹⁵。映画統制下に置かれていても「台湾人は時には自主的に日本映画を見ていた」という観点を示しながら、民族（日本内地人か台湾本島人）、生活地域（都市部か地方）、好きなジャンル（恋愛やチャンバラなど）などの要因によって鑑賞映画が異なっていた可能性があるとしている¹¹⁶。

漫画と比較すると、インタビューが見ていた映画の制作地は日本にとどまらず、アメリカやドイツ、中国などがあり多様性がみられる。ただそれらは全て、日本内地から輸入されていた映画であり、また外国映画より日本映画の上映が多かったということがわかった。前述の映画統制制作の影響により、太平洋戦争が始まって以降は許さんが述べたように、枢軸国以外の国で作られた映画の放映は、大幅に減少したはずであるが、今回のインタビューで太平洋戦争が始まったあともチャップリンの映画を見ていたという証言があった（陳さん）。同じくチャップリンの映画を見ていた蔡さんは1938～1939年頃に映画を見はじめたが、太平洋戦争以降、チャップリンの喜劇などが減少したと述べていた。しかし、陳さんが映画を見はじめたのは、1944年以降と推測される。しかもこの話をしていた時、陳さんは華語の訳名ではなく日本語の「チャップリン」を使用したことから、見たチャップリンの映画は戦前に上映されたものと判断することができる。

日本内地では太平洋戦争開始後、アメリカ映画の上映が停止された¹¹⁷。しかし、なぜ1944年に台湾本島ではアメリカ映画が見られていたのか。このことに対し、二つの可能性を示したい。第一には、台湾本島ではアメリカ映画の上映禁止が行われていなかったという可能性である。第二には、台湾本島でもアメリカ映画の上映禁止が布告されたが、ある特殊な事情でアメリカ映画が見られていたことである。『植民地期台湾の映画——発見さ

¹¹³ 同上、337頁。

¹¹⁴ 同上、334-340頁。

¹¹⁵ 同上、375-404頁。

¹¹⁶ 同上、404-407頁。

¹¹⁷ 古田尚輝「映画法施行下の漫画映画」、136頁。

れたプロパガンダ・フィルムの研究』の巻末付表を見てみると、ほぼ全ての検閲は有効期間が三年間となっており、検閲脚本の中にアメリカ映画が入っていたことがわかる。前述の「特殊な事情」とは、上映禁止の布告が行われる前に検閲を通過して上映の許可を得たアメリカ映画は、上映禁止が行われたにもかかわらず、実際には有効期間が満了するまで上映されていたことである。すなわち、陳さんが見たチャップリンの映画は、太平洋戦争開始前に上映の許可を得たものだった可能性がある。以上の可能性を検証するには台湾で施行された法律の条文が必要であるが、統治者側によるメディアの統制規制は本研究が主に扱う対象ではないため、今後の課題とする。

インタビューの分析に戻るが、映画を見る場所は、歌仔戲など台湾演劇も上映する「戲園」と現代風の劇場以外、公会堂や学校、張陳さんの言う「まちの広場」や蔡さんの言う「社会館」などの地域集会所なども含まれる。映画鑑賞の同行者は友人が多いが、父親と見に行く、または学校から見に連れて行かれるといったこともあった。

ここでは、自分で切符を買い劇場で映画を鑑賞する「自発型」と、公共の場で無料放映されるものを見たり、学校から見に連れて行かれて映画を鑑賞したりする「半自発・非自発型」に分け、映画の鑑賞実態を論じたい。

「自発型」の論考に入る前、台湾語の「戲園」(hi-hâng)と「戲院」(hi-înn)¹¹⁸について少し説明したい。「戲園」(hi-hâng)は、一般的には歌仔戲などの伝統戯曲を上演する場所を指すが、今で言う「映画館」を指すこともあり、映画館のことを「電影戲園」(tiān-iánn-hi-hâng, 映画戲園)と呼ぶこともある。「戲院」(hi-înn)は普通、映画館のことを表す言葉であるが、時には「戲園」(hi-hâng)と同じく、映画館の意味で使用される。本研究のインタビューにおいても、「戲院」(hi-înn)と「戲園」(hi-hâng)を同時に使用して映画館のことを表すことがよくあった。インタビューの文脈から判断すれば、第四章に出ている、張陳さんの言う「戲園」と、許さんの言う「旧戲園」は、舞台などが屋外に設置され、映画と演劇を上演する施設である。ということで、許さんが述べたように戲園の外で映画を鑑賞することも可能であった。

葉龍彦の考察によれば、インタビューにおいて言及された「第一劇場」「永樂座」(陳さん)「西螺座」(王曾さん)「北港劇場」(許さん)「清水座」「台中座」「天外天劇場」(蔡さ

¹¹⁸ ここは台湾語の説明であるため、台湾語の漢字表記にしたがって「戲」という漢字を使用する。また、本論文ではこの段落においてのみ、「戲」という表記を使う。

ん) といった映画館は、映画と演劇が交互に上演される混合型劇場である¹¹⁹。「台湾興行統制株式会社」などの設立や内地と同様の配給制度の施行以前、これらの劇場における映画の上映は、一定の自由度があったと考えられる。また経営者の出身地（日本内地か台湾本島）により、違う制作地の映画が上映されていた可能性もある。

全面的統制が施行されてから、ニュース映画が毎回上映されたということは、インタビューで検証されている。また、同じく 1943 年 10 月 3 日に上映された映画を例に挙げると、『台湾日報』の映画時刻表（図 5-11）と『台湾日日新報』（図 5-12、図 5-13）から、台南州と台北州の各劇場は、本編の映画とともにニュース映画を上映していたことがわかる。また、「面白い映画が減った」と蔡さんが話したことは、視聴者の映画鑑賞が一定程度に制限されていたことが要因であると思われる。しかし、筆者は、劇場の運営は上映収入によって支えられているため、日本統治後期においてこれらの劇場が経営悪化で閉館しなかったということからすれば、一定数の視聴者があったと考える。また、配給された映画に興味を持たなかったということであれば、インタビューが太平洋戦争開始以降も自主的に映画を鑑賞することもなかったであろう。ということで、「自発型」の視聴者は自らが見たいものを選べる、という部分的な自由を有していたと言えよう。

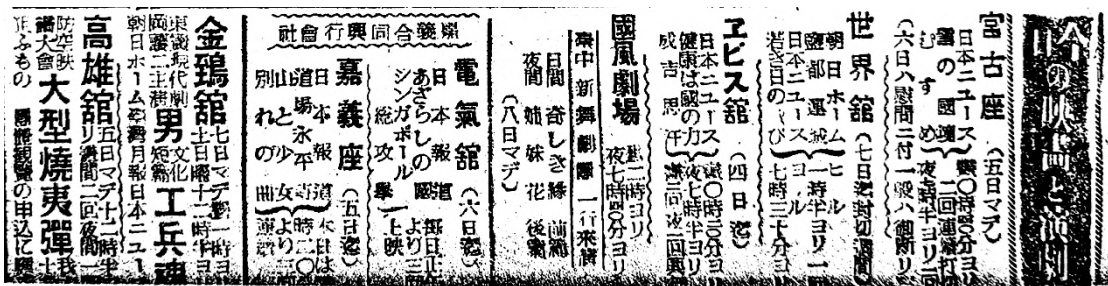


図 5-11 『台湾日報復刻本』 56 巻 1943 年 10 月 3 日号 朝刊 3 頁

¹¹⁹ 葉龍彦『台灣的老戲院』, 104-108 頁。

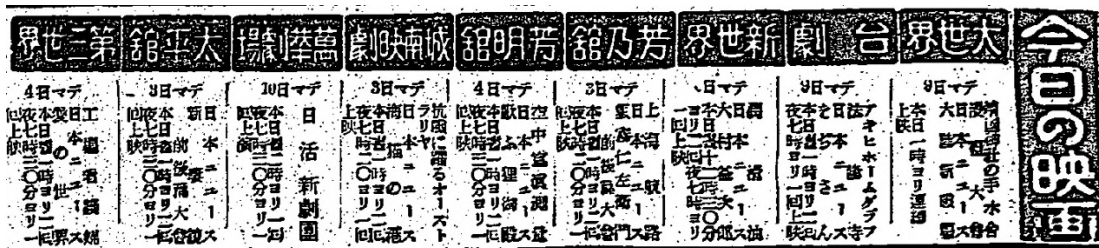


図 5-12 『台湾日日新報』1943 年 10 月 3 日号 朝刊 3 頁

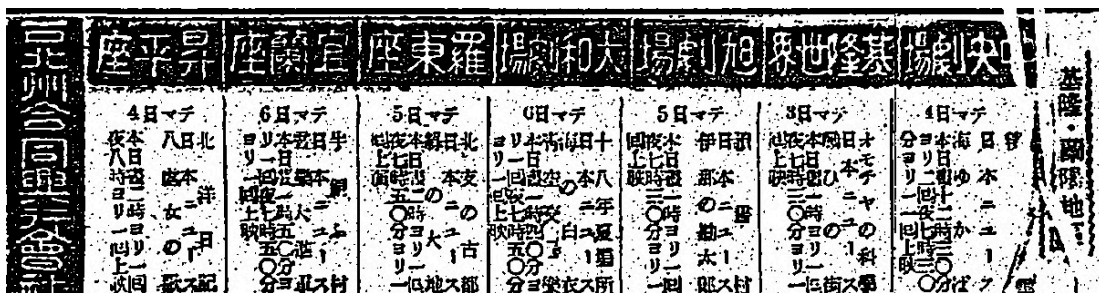


図 5-13 『台湾日日新報』1943 年 10 月 3 日号 朝刊 3 頁

一方、「半自発・非自発型」の鑑賞は「自発型」と比較して自由度が下がる。インタビューでは生徒集団で劇場で映画を見たり、学校で映画を見たりするのは自由に参加できる活動だったかどうかを尋ねなかったが、ここでは、張陳さんの語りにも焦点を当てたい。映画より歌仔戯を好み、主に「まちの広場」で映画を無料鑑賞していた張陳さんは、「好きな映画はどのような映画でしたか」という質問に対し、「好きか好きじゃないかという話じゃない。とにかく見るものがあれば、それだけでじゅうぶんうれしかった。そのときは選んでいなかった。戦争映画もいいし、恋愛映画もいい」と答えていた。このことを通し、当時映画は子どもにとって非常に魅力のある娯楽メディアであったことがわかる。それほど経済的に恵まれていない家庭の出身かつ、それほど映画を鑑賞する機会がない子どもは、映画が無料鑑賞できるだけで、映画のジャンルや内容を気にしていなかったであろう。統治者もそのことを利用し、地方集会所などにおける教育映画の上映を行っていた。このような教育的色彩は、学校で理科映像や戦争ものが上映されていたことと、劇場へ生徒を国策に沿って作られた映画を見に連れて行く行動にうかがえる。

総じて言えば、「半自発・非自発型」の鑑賞は比較的に自由度が低いですが、七十数年も経った現在も、映画の作品名や内容をはっきりと述べられたことから、無料上映の「半自発・非自発型」は国策宣伝においてそれなりの影響力を発揮していたと言えるのではない

だろうか。

映画を解説する弁士のことについて、三澤によって行われた聞き取りでは1917年に生まれ、中学校時代に台南州嘉義で映画を鑑賞していた男性は、弁士が日本語と台湾語両方を使用していたと述べたが、弁士が内地人か本島人については触れていない¹²⁰。1924年生まれの男性と1927年生まれの女性を対象とした聞き取りにおいて、台北都市部ではトーキーの上映であっても、台湾人弁士が台湾語で解説していたという証言がみられる¹²¹。それにひきかえ、本研究のインタビューには台北都市部の劇場で台湾人弁士が日本語で解説していたという証言がみられる。この違いは、各対象者が映画を鑑賞していた時期が異なることにより、映画を解説する弁士の出身地と使用言語も変化したことによると捉えられるのかもしれない。

第四章でみたように、弁士は映画館のほかに、地方の上映会でも映画を解説しており（張陳さん）、地方においても、台湾人弁士が台湾語ではなく日本語で解説したり（張陳さん、蔡さん）、日本人弁士が解説したりすることがみられる（蔡さん）。筆者は、これらの事象が存在していたのは、以下の三つの原因があったからと推察する。第一に、弁士が地方の上映会で台湾語や日本語を使用して映画を解説していたのは、視聴者の年齢層が広がったからであると推測する。日本語の教育を受けていない上の世代の視聴者は日本語で映画のことを理解できないため、台湾語で解説したと思われる。第二に、張陳さんが「解説の人による」と述べたように、弁士自身も、台湾語か日本語かどちらか一方だけを使用する傾向があったのかもしれない。第三に、映画の上映時代に差があり、日本統治後期になると大衆の日本語の理解力が上がったため、台湾人弁士が日本語で説明したり、日本人弁士が解説したりしても視聴者がその内容を理解していたという解釈が可能である。

三澤は日本統治時代において台湾の映画館は「台湾人が行く」映画館と「日本人が行く」映画館に分かれていたと指摘する¹²²。しかしそれを論じる際に使用した資料はほとんど、1930年代の出版物であるため、筆者は1940年代以降、変化が生じた可能性があるのではないかと考える。というのは、小さい頃から日本語によって行われる学校教育を受けていた台湾人の子どもにとって、映画の音声が日本語になっていても、映画内容に対する

¹²⁰ 三澤真美恵『殖民地下的「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究（1895～1942）』、376-377頁、386頁。

¹²¹ 同上、390頁、400-401頁。

¹²² 同上、303-308頁。

理解を妨げなかったと考えているからである。今回のインタビューでは言及されなかったが、1940年代以降、台湾人の子どもが日本人の映画館に映画を鑑賞しに行っていた可能性は、否めないのではないだろうか。

葉は日本統治時代の弁士が「講古仙」と呼ばれていたとしているが、その裏付けとなる参考資料を挙げていない¹²³。筆者はこの説に対し疑問を抱き、インタビューを通してその実態を検証してみた。

弁士を「講古仙」と呼んでいたかという質問に対し、『講古仙』じゃない。『講古仙』は、その人〈引用者注：弁士〉は写真、映画を解説する。『講古仙』と違う」（張陳さん）
『講古仙』は『講古』よ。〔中略〕『講古』、昔話」（王曾さん）とインタビューーらは答えていた。また、蔡さんは以下のように「講古」について説明していた。「講古」は日本の「講談」に近いものである。日本の講談は、源義経が平家と交戦する話や、猿飛佐助のような忍者物語を語る。歴史上にあった事件を語るが、誇張表現を用いるため、いわゆる「正史」ではない。中国文学でたとえると、『三国志』ではなく『三国志演義』である。

インタビュー中、全てのインタビューーが弁士を言及する際、日本語の「弁士」や「活弁」、あるいは台湾語の「辯士」(piān-sū)などの言葉を使用し、「講古仙」で弁士を呼んでいたことは観察されなかった。

許さんは映画の切符代は時期によって変動していたと述べていたが、筆者が新聞を調査した際に、当時の映画鑑賞料金は統一されていなかったことに気づいた。統一されていなかった理由として、映画館の設備や映画の長さの違い、物価水準の変動などのことが考えられるが、筆者はここで、もう一つの推測を行いたい。

1943年7月8日付「台湾日報」の広告を見ると、台南州の「エビス館」「電気館」の二館で別々の作品が上映され、それぞれ鑑賞料金も異なっていたことがわかる。(図5-14)。また、同じ映画館で同年同月に、違う鑑賞料金で映画を上映していたことも観察される。たとえば広告に掲載される「エビス館」の鑑賞料金は7月8日には25銭になっており、7月19日には40銭(図5-15)で7月22日には29銭になっていた(図5-16)。一方、広告に掲載される「電気館」の鑑賞料金も7月8日には35銭になっており、7月17日には40銭に上がり(図5-17)、7月30日には35銭に戻っていた(図5-18)。

¹²³ 葉龍彦(1998)『日治時期台湾電影史』, 玉山社, 184頁、187頁。

また、7月8日に宣伝された「エビス館」「電気館」それぞれが上映する映画のジャンルを見ると、「エビス館」が上映するのは記録映画であり、バタアンとコレヒドール島といったフィリピンの領土の攻略といった内容となっている。一方、「電気館」は東映、松竹など日本内地の映画制作会社によって作られた、劇映画と思われる映画を上映していた。このことを加味して筆者が推測したいのは、宣伝するためにより低価格で国策映画を上映することは、実際にあったのではないかということである。仮にこのような上映戦略が背後にあったとしたら、その上映形態を、誘導的でソフトなパワーを持つ、国策宣伝手法の一種とみなすこともできたのではないだろうか。このことを深く探究するには、当時映画館の放映設備や作品の内容分析、社会経済状況を視野に入れることが必要だと思われるが、この研究の主要目的ではないため、ここでは考察の結果として簡潔に述べることにした。

図 5-14 『台湾日報復刻本』53 卷 1943 年 7 月 8 日号 朝刊 3 頁



図 5-15 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 19 日号 朝刊 3 頁

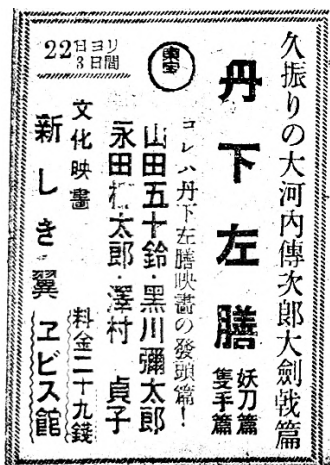


図 5-16 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 22 日号 朝刊 3 頁



図 5-17 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 17 日号 朝刊 3 頁

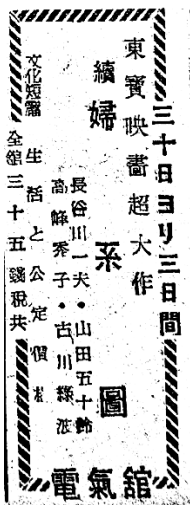


図 5-18 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 30 日号 朝刊 3 頁

「漫画映画」

日本統治時代に漫画映画を見ていた経験を持つ方は、陳さんと許さんのみであった。人氣を博していたのらくろの漫画シリーズをもとに制作された漫画映画以外に、桃太郎や浦島太郎などの昔話を描く作品もあった。上映場所は劇場と、無料公開で映画を上映していた公会堂であった。上映の形式はほかの映画との同時上映と単独上映という二つがある。

また、二人とも、漫画映画の視聴者には子どもだけでなく大人もいたと述べていた。

漫画と漫画映画の関係性について、「漫画」の項においてすでに述べた。しかし、筆者は、陳さんが「桃太郎」の漫画映画を見たと言いながら、日本統治時代に見ていた漫画は全て短編映画であると話していたのに対し、許さんは長編の漫画映画が上映されたと言ったが、作品名またはその内容について触れていなかったことに引っかかった。

実は、1943年の日本内地においては、二人の言う「桃太郎」「長編」といったキーワードと関連性を持つ、漫画映画史上における大きな出来事があった。『桃太郎の海鷲』の公開上映なのである。日本初の長編漫画映画『桃太郎の海鷲』は長さが37分で、真珠湾攻撃の成功を宣伝するために制作されたものである¹²⁴。日本内地において、『桃太郎の海鷲』は1943年3月に「白系」の映画館で公開されて以来、65万円の興行成績と巨大な成功を収めた¹²⁵。しかし、果たして日本内地に広く支持されていた『桃太郎の海鷲』は、台湾本島においても上映されていたのか。

その答えは、「上映されていた」である。1943年6月23日号の『台湾日日新報』3頁にある映画時刻表(図5-19)によれば、『桃太郎の海鷲』は同日「台湾劇場」¹²⁶という映画館で上映された。同号4頁に『桃太郎の海鷲』の映画広告が掲載されており(図5-20)、広告の中の「23」という数字は、映画の上映が23日から始まることを示しているであろう。「台湾劇場」における『桃太郎の海鷲』の上映は、6月30日まで続いた(図5-21)。台湾南部において、『桃太郎の海鷲』は最初、高雄州の「金鷄館」¹²⁷で上映されていた。図5-22と図5-23が示すように、上映期間は1943年7月9日から7月15日までとなっている。翌日の7月16日の『台湾日報』においても台南州の「宮古座」という映画館による広告がみられ(図5-24)、上映期間は7月16日から22日までとなっている。

¹²⁴ 津堅信之『日本アニメーションの力——85年の歴史を貫く2つの軸』, 104-105頁。

¹²⁵ 山口且訓・渡辺泰(1978)『日本アニメーション映画史』, 40頁。

¹²⁶ 葉龍彦『台湾的老戲院』, 58-59頁。

¹²⁷ 同上, 78-79頁。

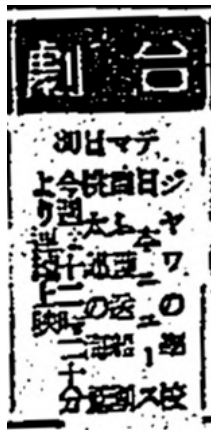


図 5-19 『台湾日日新報』1943年6月23日号 朝刊3頁



図 5-20 『台湾日日新報』1943年6月23日号 朝刊4頁

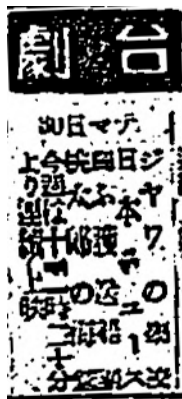


図 5-21 『台湾日日新報』1943年6月30日号 朝刊3頁

小女待望の桃太郎の海
 連ふ蜜な新劇本口より上味金羅箱

図 5-22 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 9 日号 朝刊 3 頁

長編桃太郎の海鷲の
 學校と闘ふ護送船團本日限定公開

図 5-23 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 15 日号 朝刊 3 頁

海の記念日逸聞に際し
 海洋思想の啓發並航空・體育思想
 想昂揚映畫會！

桃太郎の海鷲
 海軍省推薦
 文部省推薦

國技大相撲
 十八年夏場所後半戦
 鍛練成果篇

藝映畫社
 製作

院務海劃企
 送護ふ開
 のひ輝るざれる知
 が夜を渡る影を
 を戀努の團聲返響
 ！く情

桃太郎の海鷲の
 長編 桃太郎の海鷲の
 學校と闘ふ護送船團本日限定公開

十六日より二十一日まで公開

企劃海軍省推薦

座古

60
 豆ん 共取

宮古座 二千二百マシ
 每日 19時45分
 21時15分
 23時15分
 25時15分
 27時15分
 29時15分

世界館 毎日12時
 14時15分
 16時15分
 18時15分

エビス館 十八日迄
 日本ニュース
 毎早午後
 〇時半より
 三人組れば
 知天

國風劇場 三時三十分
 五時三十分
 七時三十分
 九時三十分

電氣館 三時
 五時
 七時
 九時
 十一時

嘉善座 三時
 五時
 七時
 九時
 十一時

日本ニュース
 毎日12時
 14時15分
 16時15分
 18時15分

桃太郎の海鷲
 十八日迄

図 5-24 『台湾日報復刻本』 53 卷 1943 年 7 月 16 日号 朝刊 3 頁

高雄州の「金鷄館」と台南州の「宮古座」における上映実態から見れば、筆者は、上映日程が近かったうえ、同じく南部地方で上映されていたことから、二つの映画館での上映に用いられた映画フィルムは実は、同じフィルムできないかと考える。さらに、同一フィルムが各州間で移動していたことが確実であれば、台南地方で使用されていた映画フィルムが、台北の「台湾劇場」での上映に使われていたフィルムであると推論できるのではないだろうか。もちろん、同一のフィルムではない可能性もあるが、同一フィルムである場合、映画館において上映される映画のフィルムが各州間で移動することは、台史博の所蔵映画フィルムについても言えるのではないか。そうであれば、もともと台南州で上映されていたと思われる台史博所蔵映画資料は、実際には日本統治時代に台湾各地で上映されていたとも考えられる。

また、『台湾新報』の映画広告（図 5-25）を見ると、一部の漫画映画が上映される際はほかの実写映画と違い、作品名は書かれていなかったことがわかる。これは、インタビューにおいて、漫画映画の作品名がほんのわずかししか言及されていないことの一因となるであろう。

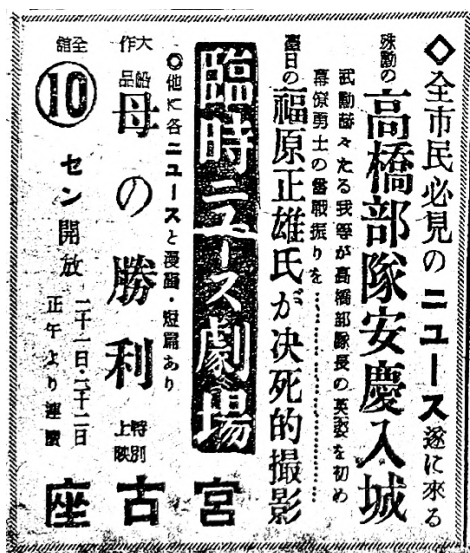


図 5-25 『台湾日報復刻本』9巻 1938年7月21日号 朝刊7頁

第2節 娯楽メディア・言語・アイデンティティ意識の接点をめぐって

第1節で台湾の子どものメディア体験を検討した。しかし、国に認められ「国策」に沿

って作られたメディアであっても、それらメディアに対する読みにおいては「個人差」があると思われる。換言すれば、全ての受け手（読者や視聴者）が、送り手（日本内地の政府、台湾総督府）の意図通りに、漫画や映画の内容を読み取っていたとは限らない。また、メディアテキストを読み取るということは、言語と深いつながりを持ち、言語もまた個人のアイデンティティ形成と切っても切れない関係にあると考えられる。

したがって、この節では「娯楽メディア」と「言語」と「アイデンティティ」との「接点」に重きを置き、「言語—娯楽メディア」「娯楽メディア—アイデンティティ」「言語—アイデンティティ」に分けて考察する。

「言語—娯楽メディア」

第1節でみたように、日本統治時代に台湾の子どもが触れていた娯楽メディアのほとんどは、日本語で上映されたり書かれたりするものである。漫画は日本内地で発行された読み物であり、映画は制作地が日本以外の地域のものもあるが、インタビューの文脈から見れば、言及された映画の全ては、日本内地または日本統治下の地域を経由して台湾に輸入され、日本語版として再編されたものであったということがわかる。また、「中国映画」が上映され、映画の中で使用される言語は北京語であったという証言がみられるが、李香蘭が出演したということをあわせて考えると、その「中国映画」は満洲国などの日本占領地で制作された可能性が高いと推測される。

映画は音声の有無によってトーキーと無声映画に分けられる。張陳さんは、無声映画が弁士付きで上映されるとは限らず、弁士がいない時は「パントマイムを見る」ようであり、映画のストーリーを自分で捉えようとしていたと述べていた。しかし弁士付きの無声映画上映や、トーキーの上映なら無理なく話が理解できた。1920年代後半から日本内地においてトーキーが登場し、台湾本島においても1930年代前半にトーキー上映の動きがみられていた。

以下は、トーキーが上映された時に弁士が映画を解説していたかどうかについての、王曾さんとの対話である。

——〔前略〕トーキーの場合、映画を解説する人がいたりしましたか。

王曾：わたしは小さい頃から日本語が話せるよ。

一見、王曾さんの回答が少し唐突に思えるかもしれないが、これと似た反応は、ほかのインタビューでもみられる。

——あなたが見た映画は、日本の映画か、ヨーロッパの映画か、アメリカの映画か、それとも台湾で作られた映画ですか。覚えていますでしょうか。

張陳：そのときはアメリカのがなかった。

——アメリカのがなかった？

張陳：なかった。わたしたちは・・・わたしたちは日本の映画を多く見ていた。わたしたちが読むのも日本語でしょ？華語のものなんか読んでないし、わたしたち・・・わたしたちは一切合切、はじめから終わりまで日本語だった。全部日本教育だから〈引用者注：「日本教育だから」はもともと日本語〉。

この二つの対話から見れば、張陳さんが強調されたかったのは、上映面のことであったことがわかる。当時、日本語によって行われる教育が普及し、上映されていた映画も日本の映画が多く占めていたということである。一方、王曾さんは自分が日本語がわかるため、トーキー版の日本映画が上映されていた時に、内容を理解できないことはなかったとおっしゃりたかったのであろう。総じて台湾の子どもは日本語の字幕や音声、あるいは弁士が台湾語か日本語で行った解説で映画の内容を理解していた。それに対し、日本語で描かれた漫画は、最初から日本語で理解していた。

しかし、これらの娯楽メディアの内容は、台湾の子どものアイデンティティにどのような影響を与えていたのか。続いて娯楽メディアとアイデンティティの関連性を検討したい。

「娯楽メディア—アイデンティティ」

今回のインタビューではある興味深いことが観察される。日本統治時代には男性のインタビュイーは自分が日本人だと思っていた一方、女性のインタビュイーは当時、アイデンティティについてあまり考えていなかったということである。

1937年に日中戦争が始まり、当時の台湾人の心境を、黄昭堂は以下のように推察してい

る。

だが、宣戦布告はなくとも、〔日中〕両国間の戦いは戦争そのものであることに相違はない。満州事変とはちがって、これは本格的な全面戦争であり、台湾人にとって二重の意味をもっていた。中国大陸といえば、大半の台湾人の祖先はここから台湾に居を移してきたのである。台湾人はどちらに加勢すべきなのか。他方、日中戦争によって、日本帝国は台湾人を敵視しないか。……台湾人は踏み絵の前に立たされた心境にあったであろう。

大陸の漢族人を相手にして戦うことに、心を痛めた台湾人もいた。そのいっぽうで、「われわれはかれらによって切り捨てられ、日本帝国に売り渡されたのだ」という考え方をするものもいた。

〔中略〕

台湾人一般大衆は、身を大勢にゆだねた。「戦争は日中間のことであって、われわれには関係のないことだ」。おそらくこれが、台湾人大衆の偽わらざる心境ではなかったろうか¹²⁸。

しかし、台湾の子どももそのような心境だったのか。日本統治時代を通して行われていた公学校教育は、台湾人を日本国民に育成するという基本方針にあった¹²⁹。太平洋戦争が開始したあと、教科書の中にも主人公が台湾人の「戦争美談」が入るようになっていった¹³⁰。学校教育は台湾の子どもの「日本人アイデンティティ」に大きな影響をもたらしていたことは想像に難くない。

では、インタビューの「日本人アイデンティティ」は、娯楽メディアとどのような関係にあったのか。ここでは蔡さんがご自身の著作で述べた話を引用して考察したい。なお、以下の引用で蔡さんが用いている「私たち子ども」という表現は、必ずしも台湾の子どもたちだけを念頭においたものではないという点に注意されたい。

戦局が厳しくなると、学校での学習のほかに、私たち子どもも雑誌や漫画で、日本人

¹²⁸ 黄昭堂『台湾総督府』、161頁。

¹²⁹ 陳虹彬（2017）「日本統治下台湾人児童の日常生活について（その2）——国語教科書を手掛かりに」『平安女学院大学研究年報』18号、平安女学院大学、13-22頁（16頁）。

¹³⁰ 何義麟・蔡錦堂『典藏台灣史（六）台灣人的日本時代』、204-211頁。

が私たちに教えたいことを理解するようになる。一番印象深かったのは、

①〔漫画のなかの〕中国兵。大刀や傘を背負う敗残兵で、戦いが始まる前に逃げるような恥ずかしいふるまいをする

②「冒険ダン吉」という名の子どもが、南洋へ冒険に行つて土人の王様になる長篇漫画

③田河水泡が描く漫画で、主人公である「のらくろ」という黒の野良犬が頑張つて軍人になるシリーズ〈①②③は引用者による〉

である。とりあえず、その当時日本政府は多くの単行本漫画の物語を通して、それら勇敢な主人公のような勇ましさと正義を学ばせ、国家のために奮闘するよう私たち子どもを鼓舞していた¹³¹。

この文章から、学校の教科書以外に、子どもが娯楽メディアからも「自己」である日本人と「他者」である中国人や南洋の住民のイメージを認識していたことが明らかである。同じことはほかのインタビューにも観察される。許さんはインタビュー中、「日本精神」という言葉を多用しており、のらくろの漫画に対するご自身の解釈にも言及した。

〔漫画は〕支那人をろくでないものとして描く〔声を小さくする〕。のらくろではろくでないもの。

のらくろはガキに見せるものなんだ。10歳の、7、8歳〔の子どもは〕日本語を覚えるんだ。のらくろは私たちに日本精神を覚えさせるためのものだ。

それに対し陳さんは自分のことを日本人だと思っていたことは、日本統治時代に見た漫画映画や映画とは無関係だと述べていたが、当時のアイデンティティは『少年倶楽部』などの子ども雑誌から影響を受けていたことは次の対話で判明する。

——〔前略〕戦争が終わる前、あなたは自分がどこの人だと思っていましたか。あなたは

¹³¹ 蔡焜霖『逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史』，玉山社，36-37頁。日本語訳は引用者による。

どこの人でしたか。

陳：そのとき私は自分のことを日本人だと思っていました。

——日本人？

陳：私たちは大日本帝国の公民だって先生に思想を吹き込まれて。

——うんうんうん。公民。

陳：ええ、ええ、ええ、国民。

——そのときにこのようなお考えを持っていたことは、当時読んだ雑誌、あるいは見た映画と何らかの関連があると思いますか。それとも影響されたりしていましたか。なくても大丈夫ですよ、考えてみてください。

陳：そのときは・・・こんな雑誌〈引用者注：『少年倶楽部』〉をたくさん読んでたせいか、ほとんど同化されたよ。

以上のことから、子どものアイデンティティ形成上において、娯楽メディアが無視できない役割を果たしていたと言えるのではないだろうか。また、男性のみが「日本人アイデンティティ」を持っていたことについては、『少年倶楽部』などの雑誌の載っていた作品の多くは、主人公が日本人少年となっており、作品を読む際に自らを物語の登場人物に代入していたことから影響されていたのが、一つの解釈として成り立つのではないだろうか。次の項では、それぞれのインタビューが生活の中で使用する言語やメディアで触れる言語が、かれらのアイデンティティとどのような関わりを持つのかを論じたい。

「言語—アイデンティティ」

公学校で日本語を教授することは、日本統治時代の法律によって規定されていた。インタビューの内容からしても、日本統治時代後期において、学校では台湾の子どもはほぼ日本語を使用していたことが明らかである。本島人の友人と話す際に使う言語は台湾語のみならず、日本語と台湾語を同時に使用してコミュニケーションをとることもあった。使用言語の割合から見れば、日本統治時代後期の台湾の子どもは、公学校教育を受けたとは限らないかれらの親と比べると、日本語を使用する割合が高かった。台湾の子どもが日本語の使用に対して顕著な排斥感情を持たなかったことは、インタビューを通じてわかった。さらに、自分が日本人だと思っていた三名の男性は、当時の日本語力の高さに対して誇り

に思ったり、自分の「国語」が日本語であると思ったりすることが観察される¹³²。第三章でも述べたとおり、第二次世界大戦終結から長い年月が経っても、引き続き日本語を使用することは、日本語の使用に対して一定程度の好意的な感情を持っているからと推察される。

戦後の台湾社会において華語が共通語と規定されており、学校教育が華語で行われていたほか、職場においても職場の規程や外省人の従業員がいたため、インタビューーは共通語である華語を使用していたことがみられる。一方、インタビューーによる台湾語の使用は日本統治時代から続けられてきた。調査の聞き取りにおいて、張陳さんと許さん、蔡さんは台湾語を主に、日本語を部分的に使っていたのに対し、王曾さんと陳さんは華語を主に、日本語を部分的に使用していた。もちろん、インタビューーである筆者の世代の台湾人の多くは、学校においても生活においても主に華語を使用するため、筆者によりよく理解させるように、あえて華語で述べることにした可能性がないとは断言できない。ただし、筆者がなるべく台湾語で応答をしていた際も、王曾さんと陳さんは華語を使用していたことから、インタビューーにおいて使用されたそれぞれの言語の割合に、各インタビューーの日常生活における言語の使用実態がある程度反映されるとも考えられる。

中でも、王曾さんへのインタビューの際に、以下の興味深く感じさせる対話があった。

——今は・・・一番使っている言語は台湾語ですよね？い——。

王曾児：うん。

王曾：うん、台湾語。

王曾児：そうそう、家では台湾語を話すことが多い。

——家では台湾語を話す。

王曾：私たち台湾語が・・・台湾語がより良いから。

翻訳を行う際、筆者は台湾語の原文「咱台語較……台語較好啊」を「台湾語がより良いから」に訳したが、実際、原文には以下の二通りの解釈がある。

- ①「私たちは台湾語・・・比較的に台湾語をうまく話せるから」
- ②「私たちの台湾語が・・・台湾語がより良いから」

¹³² 蔡さんのことに関しては、蔡焜霖『逆風行走的的人生：蔡焜霖口述生命史』、31-32頁、40頁を参照。

両者の間に少しニュアンスの差がある。②の意味で話されたのであれば、華語より台湾語を使用したいという話者の意思がみられる。

次に、王曾さんの「アイデンティティ」に関わる対談を見てみよう。

——〔前略〕戦争が終わる前は・・・自分のことをどこの人だと思っていましたか。自分が日本人だと思ったりはしませんでしたか。

王曾：ないよ。〔笑〕

王曾児：そのとき、心の中では自分のことを日本人か台湾人のどちらだと思ってた？

王曾：半々よ。

——「半々」。なぜ「半々」ですか。

王曾児：意識上・・・意識上、あなたの意識上、あなたの頭と体はわたしは台湾人、それともわたしは日本人だと言うの？「半々」——。

王曾：〔笑〕

——「半々」——。

王曾児：どうする？

——いや、「半々」とおっしゃったのはなぜなのかと思ひまして・・・日本語が話せるから・・・自分が・・・半分の日本人だと思ったのか、それとも・・・？

王曾：違うよ。そのときは・・・日本式の名前へと姓名を変えたよ。

——ええ。なぜ日本式の名前に変えましたか。

王曾：そのときは日本式の名前に変えたらね、試験には早く受かるよ。

——自分が〔半分の〕日本人だと思っていたのは、日本語が話せるからですか。

王曾：そう。

〔中略〕

——自分が中国人だと思ったりしていましたか。そのとき、戦争以前、日本時代のとき。

王曾児：日本時代は・・・彼女は・・・彼女はそう思っていなかったでしょ、その意識がなかったかもしれない。

王曾：ないよ。私たちはそのときは「台湾人」とだけ言った。

王曾児：「台湾人」。

——「台湾人」。戦後は？

王曾児：そう思っていなかったみたい。今も自分が台湾人だと思っている [笑]。

——戦前も戦後も自分が台湾人だと思う。華語を話すことが嫌だったりとかは・・・？

王曾児：そんなにかな。使うときも・・・外省人がいるときも・・・中国語〈引用者注：原文は華語の「中文」〉を使うからね。

——ええ。

王曾：話さないといけないでしょ。

王曾児：仕方ないよこれは——。

王曾：教師を務めるときも〔華語で〕教えるから。

第四章の張陳さんの紹介と以上の対話から、当時の「アイデンティティ」に対する認識は、今日の認識とは異なっていたことがうかがえる。「アイデンティティ」概念の変化とその背景について、フランシス・フクヤマは『IDENTITY 尊厳の欲求と憤りの政治』において以下のように示唆する。

現在のアイデンティティ概念は、古来の伝統的な人間社会では生まれることはなかった。人類史上、過去一万年のほとんどの期間には、大多数の人間は固定された農業共同体に暮らしていた。そのような社会では、社会的役割は限定され固定されていた。年齢と性別によって厳密に階層が決まっており、全員が同じこと（農業あるいは子育てや家事）をして暮らしていたのである。限られた友人や隣人とともに、ひとつの小さな村で生涯ずっと過ごし、宗教や信仰はみんな同じだった。社会の流動性はほぼ皆無で、村から離れたり、違う職業を選んだり、親が選んだ相手以外と結婚したりすることはできなかった。そのような社会には、多元性も多様性も選択肢もない。選択肢がないのだから、「ほんとうのところ自分はだれなのか」などと考え込むこともない

133。

フクヤマは同書でハンスという名のドイツの小作農が鋼鉄工場の仕事に就きに、村を離れて急速に産業化する地域に行ったという例え話をする。ハンスはさまざまな方言を話す人とのみならず、外国人とも暮らすようになった。しかし、個人生活の自由を感じると同

¹³³ フランシス・フクヤマ (2019) 『IDENTITY 尊厳の欲求と憤りの政治』山田文訳、朝日新聞、59-60 頁。

時に、大企業や共産主義者と向き合う中、ハンスは戸惑いを覚え、他人との関係について考えはじめた。

人生で初めて自分の生き方を選択できるようになったのに、自分がほんとうのところ何者かわからず、何になりたいのかもわからない。故郷の村では問題にならなかったアイデンティティが、ここでは中心的な問題となる¹³⁴。

換言すれば、「アイデンティティ」に対する認識の度合いは、産業構造や社会の流動性、「他者」の有無といった条件によって左右されるのである。王曾さんと比較すれば、ほかのインタビューーは日本統治時代には生活上における、日本内地人との交流がさほど多くなかった。内地人という「他者」が生活圏に入らなかったため、台湾の子どもは自分のアイデンティティについて考える機会があまりなく、内地人との差異を実感することが少なかったと言えるであろう。一方、差別的に扱われた経験を持つ陳さんは、自分が「二等国民」〈引用者注：「国民」の原文は華語の「公民」〉であったと述べ、インタビューでも「本島人」「内地人」ではなく「台湾人」「日本人」といった言葉を用いていたにもかかわらず、はっきりと自分が日本人と自認していたと述べていた。

また、一部のインタビューーが華語の使用に対して抵抗感を持つことは、インタビューにもみられる。

——Shirley Temple。あ、Shirley Temple。私たち・・・華語では『雪莉・譚寶』と言うじゃないでしょうかね。そうですか？

蔡：我不知道欸 〈引用者注：日本語訳は「わからない」。この文のみ華語で話した。ほかは台湾語〉。私の一番できないことは華語だ。華語って一番苦しい。

——今の・・・あの頃のいわゆる『北京語』を学んだことありますか。

許：学びたくない。戦後、私、〔北京語を〕学びたくなかった。

——でも・・・戦争のとき——。

許：できるだけ、学びたくなかった。

¹³⁴ 同上, 98 頁。

以上の対話から、話者が華語の使用に対して排斥に近い感覚を持っていることが明白である。そのほか、華語ではじゅうぶんに自分を表現できない理由として、張陳さんのように学校で華語を教わっていなかったり、華語の学習期間が比較的に短かったりすることが挙げられる。

しかし、第一章で述べたような、日本統治時代も戦後の中国国民党による統治も、いずれも植民地期であったとみなす考え方にもとづけば、なぜ植民者の言語を使用することに対し、日本語と華語の間に異なる反応が表されるのであろうか。第四章でインタビューの日本統治時代に対する印象を紹介したが、次節では戦後に台湾に来た中国国民党と、その統治に対する印象について論じたい。

第3節 戦後の経験によっても形づくられた「日本統治時代」と「アイデンティティ」

日本統治時代を戦後の時代と比べてどのように考えるか、とお尋ねした際に、一部のインタビュー（または同行者が代わりに）は、かれらの「祖国」に対する印象と戦後に失望を覚えた体験を述べていた。

張陳：戦後中国が代わりに来て、これは嫌い。これ・・・〔日本人による統治と〕同じく

ない〈引用者注：「同じくない」はもともと日本語。以下同じ〉。

——というのは・・・その人たちは中国人で、自分は台湾人だと思っていたからですか。

張陳：違う違う違う。その人たちが来て、むちゃくちゃするから。とにかく、日本時代と比べたらね、天と地の差。第一、衛生も悪い、行儀も悪い、何も悪い。今は台湾に来てから、台湾人に教わって、今はよりあれになった。

——はい。でもそのとき——戦争が終わったあと——国民党が台湾に来るのを聞いたら——

張陳：え！みんな・・・私もそのとき・・・幼くもない、16、7歳だった。まあみんな喜んでよ、「あ！祖国が〔台湾を〕管理しにくる！」と言う。その頃私は「祖国」なんか考えていなかったし、そういう思いがなかった。〔だが〕その人たちが来たのを見て、〔みんなは〕「ああ、こんなものか」と言う。鍋や湯おけとかを背負ったりして、傘も背負う。〔嘆く〕それと日本兵とはほんと天と地の差。同じくない。そのと

きからだんだん中国が嫌いと思うようになっていく。

〔中略〕

張陳：たとえば、中国人が〔台湾を〕管理する時代を日本時代に比べると、私たちは日本時代のほうが好き。

——戦後国民党が来て、そのときの台湾は治安が悪かったから、日本時代の統治がよりいいものだったということですか。

張陳：それもあるけれど〈引用者注：もともと日本語〉、やっぱし・・・まあとにかく中国人にいじめられていて、好きじゃない。〔中国人が〕何をやっても・・・自分勝手だと感じる。そう、自分勝手。

——そのとき、国民党が台湾に来ると聞いたとき・・・どんなふうに考えていましたか。

王曾：私はそのとき、推薦・・・台北女子師範学校に推薦されて入学の許可をもらったんだけど、台北に来るのが怖かった。

——どうしてですか。

王曾：推薦入学の定員は一人で、来るのが怖くて来れなかった。

——来れなかったというのはなぜですか。

王曾：蒋介石——。

王曾児：1945年・・・1945年に日本が敗戦したよね。

——ええ。

王曾児：1947年に二・二八事件が起こったよね。

——ええ。

王曾児：1946、1947年のあいだ、国民党の・・・中国大陸で・・・敗戦して、国民党のことを見てごらん、兵士たちはね、むちゃくちゃだよ。

——ええ。

王曾：むちゃくちゃ。人のにわとりなんか盗んでね。

王曾児：規律なんかあんまりなかった。

王曾：人の——。

王曾児：彼女たちの思うに、日本人がより規律正しくて、敗戦しても規律正しくて。国民党の兵士は——。

王曾：〔規律が〕ない。むちゃくちゃ。

王曾児：——適当に人を軍隊に入れたりしたのよ。〔軍隊の中に〕田舎者が入ってて、わらじ履いたり裸足だったり、鍋を背負ったり、ない・・・軍人のあるべき姿じゃない。

——うんうんうん。

王曾：だから台北で進学するのが怖くて来れなかった。

許さんは自分が中国国民党の軍隊を迎えに行った時の情景を生々しく語っていた。

陳儀が台湾を接收しにきたら——台北から接收するね——みんな歓迎してたよ。諱（引用者注：台湾語の感嘆詞。発音は「hooh」。以下同じ）、私たちは北港にいたんだけど、〔国民政府〕来たときに、諱！みんなも新聞も「諱！接收、台北から接收・・・」って言うのよ。昔列車・・・列車が少なくて、日本時代の縦貫線は本数が少なくて・・・公道があったんだけど陸軍用の道路だし、トラックもなかったから、列車に乗る〔しかなかった〕。諱！新竹から接收しにきて、台中から・・・〔中略〕接收しに来たとき、脚絆をつけてて、短パン履いて脚絆つけててろくでもない格好。路傍で直接排泄なんかして、不衛生なのよ。〔中略〕わらじを履くんだよ、わらじ、靴じゃない。裸足の人もいる、物乞いみたい。歓迎しに行ったら「諱！中国兵来た！中国兵来た！」ってみんな言うの。私たち北港の人は嘉義に、嘉義を迎えに行くのよ。道が塞がれて、徒歩で行った人もいるんだよ、列車に乗れなかった人。行ったら「おお！来た来た！中国兵来た！」って聞くんだけど、〔中国軍が〕降りたら、諱！みんな拍手して、〔中国軍が〕嘉義駅から出たら、〔みんな〕「へえ？なんでそんな格好？」って。・・・昔日本人が描いた『のらくろ二等兵』と一緒に。〔中略〕ゆるい綿入れを着てて、短パン履いてて、あばた面で。天然痘だよ天然痘。汚く見える。

〔中略〕

私たち子どもは列車に乗れなくて、列車は人でいっぱいだったから、私たちは徒歩で嘉義に向かった。25キロ歩いた、中国兵を見るために。見たら「やばい！こんな・・・中国兵ってこんなものかよ」天秤棒を担いで綿入れを着て、老人男性もいて、こんなの〔おどけた顔をする〕もいて、親子もいて。・・・女の子はね、女の子はハサミを持って、袖口はね、袖口ぴかぴか、ぴかぴか。それは・・・鼻をかんでなくて、「カーッ、ペッ！」〔鼻水をすすってたんを吐く動作をする〕と。

許さんは台湾人は最初、中国から来た人を歓迎していたが、来て一か月も経たないうちに、新聞に中国から来た人のよくない話が掲載されはじめたと述べ、その新聞の例をいくつか挙げていた。中国兵から性的暴行を受けた女性の話、蛇口はどこで買ったかと台湾人に聞いて蛇口を買い、家の壁に蛇口をつけて回すと水が出てこなかったため台湾人を殴った中国兵の話、お金をよこせと恐喝したり、人を騙したりする中国兵の話などである。許さんは自分が次第に中国国民党による統治に対する不満を持つようになり、台湾独立運動に参加するという考えが生まれたと、自らの考えの変化を述べていた。

また、白色テロの受難者である蔡さんは、自分の戦後のアイデンティティについてこう話していた。

蔡：45年の頃まだ中学生だったが、50になると政治犯になる。大きな変化があった。

[笑] 私たちの時代はそうだった。だから、いわゆる『アイデンティティ』は、この間ずっと……。

——ずっと変化していました？

蔡：ずっと変化していた。身分も。中学生から——私の場合は特にはやかった——15歳で国民党の党员になった [笑]。すぐに模範生になり、すぐに級長になり、すぐに読書会に参加して、すぐに政治犯になった [笑]。

——うん……では戒厳令が解除されたあとは……。

蔡：1987年によく——。

——はい、戒厳令が解除されたあともこのような考えは変化していましたか。それともそのとき——。

蔡：意識の変化？そのときはこう思っていた。戒厳令が解除されたあと、私たちが政治犯になって釈放されたあと、この台湾……中華民国は偽物なのだ。中華民国はすでに滅亡したよ、1949年に。だから偽物だ。統治の正当性のために「中華民国」と言い、「中華民国の憲法に沿う」なんて。

蔡：〔前略〕だからこの……白色テロは長い間続いていて、1992年に刑法100条が修正されたあとようやく、思想、あるいは言論で反乱罪に問われなくなった。真の言論自由、思想の自由はそのときから始まり、白色テロはなくなった。その間、私たち人間のあ

の・・・アイデンティティは、その間ずっと変化していた。民主化運動の形勢によって変化する。

——今〔アイデンティティは〕定着しましたか。それともまだ変化していますか？

蔡：定着した。多分ね。台湾人でしょ。

第四章の紹介と以上の証言から、筆者は、インタビューの言う、日本統治時代と戦後における「台湾人アイデンティティ」は、確かに陳が示唆したとおりに、戦後の経験によって強化されたり形成されたりしたものだと考える。つまり、日本統治時代に内地人と区別するために「台湾人」という言葉を使って自称していたインタビューが戦後に、日本統治時代の生活を中国国民党に統治された経験と比べてはじめて、日本による統治への肯定感が強まったのである。そのうえ、戦後になると「台湾人」という言葉に、ある意味的な変化が起こりつつあったこともうかがえる。

そのほか、陳は日本人統治者による「コロニアル・ディスコース (colonial discourse)」が構築した世界観では、被植民者の台湾人はもっとも下層にある階級に当たるため、知識人自身も、「低能・奴隷根性・未開」などの自己認識に囚われていたと指摘する¹³⁵。こうした自己卑下の論理に関しては、今回のインタビューにも似たようなことが観察される。

唯一の心残りは、陽明山に行ったら私たちへの待遇が違かったことに気づいて、ちょっと失望したことだ、あのとき。実際、私はずっと日本人が大好き、日本文化も。

(陳さん)

〔日本人は〕台湾に来て台湾人を統治するが、台湾人をこっち側の人だと思っていない。台湾人を〔被〕植民〔者〕、〔台湾を〕植民地として扱う。そのこと私たちにも理解できるよ。私たちは〔被〕植民〔者〕だから、不平等な扱い〔をされる〕も当然なことだろう。(陳さん)

日本人が来てはじめて南部に用水路ができた、水を引き入れて。サトウキビも、製糖会社も来た。日本人のおかげだった。日本人が台湾を管理していなければ、〔台湾

¹³⁵ 陳翠蓮『台湾人的抵抗與認同 (1920～1950)』, 85 頁。

は] 海南島みたいになっていた。(許さん)

陳さんは、日本の台湾への扱い方に対して不満を示すと同時に、日本政府が台湾を植民地として扱うことを理解する姿勢を取り、日本による植民統治を合理化しようとしていた。許さんは内地人の子どもに「ちゃんころ」と罵られていたが、自分が日本人だと自認し、植民地建設をありがたく思っていた。このような矛盾をはらむ叙述は、日本統治時代に統治者によって思いこまれた考えからきていると思われる。

しかし筆者は、陳の台湾人アイデンティティに対する考察に一定程度の限界がみられると考えている。なぜなら、陳の考察対象は、日本統治時代に日本内地へ留学していた経験を持つ知識人であるが、当時、内地へ留学することのできる本島人が極めて少なかったからである。言い換えれば、台湾で教育を受けていた大部分の本島人にとって、日本内地へ留学しに行った知識人の「狭く限られた世俗的な旅」(cramped pilgrimage)¹³⁶という挫折経験を持つことが極めて難しい。本研究のインタビューは、清国統治時代を経験し、「祖国」とより深くつながりを持つかれらの上の世代とは違い、「祖国」という言葉は周囲の人に言われて使うようになった一方、中国に対する認識は、学校教育以外に、メディアに表象される中国のイメージと、自分の目を見た事象によって構築されていた。

ただし、本研究が行ったインタビューも、日本統治時代に行われた調査ではなく、本論文も日本統治時代に書かれた日記などをテキストとして分析するものではないため、考察するにあたって日本統治時代リアルタイムではないという制限がかかる。つまり、日本統治時代が終わってから今日までの何十年間ものあいだに、インタビューご自身の考え方や台湾社会の日本統治期への認識に多くの変化が起きた可能性は否定できないのである。それらの変化によって、過去に経験した事柄に対するインタビューの評価が変動することが考えられる。このことを説明するため、ここではインタビューによって語られた自

¹³⁶ 植民地に生まれ育った役人が上位の官職を得る際に、植民母国のスペインに行って旅をして、その旅で自分が任命されうる最高の行政的中心は、植民母国ではなく、植民地の首都であるということに気づくのと同時に、この「狭く限られた巡礼」において、役人は旅の同伴者と巡り合い、何らかの共同性を見出す。すると、旅の同伴者たちは、植民地を彼らの「祖国」として想像し始め、植民地の住民を彼らの「国民同胞」と意識的に再定義する。
ベネディクト・アンダーソン (2007) 『想像の共同体——ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、92-118 頁を参照。

分自身の過去を「物語」とみなすことにしよう。筆者はその「物語」を見る目線を、「物語の外」からの目線と「物語の中」からの目線に分けることができると考える。「物語の外」から物語を見る、当事者ではない人は、「物語がすでに完結した」という視点に立ち、ゆえに物語られる事象や登場人物のことについて分析したり批判したりすることができる。その一方、「物語の中」にいる人はどうだろうか。おそらくその多くは、外の世界があることに気づかず、あらゆる事象に対してかれらなりの理解をもとに反応を示したり行動をとったりするであろう。だがかれらが合理的な選択と考えることは、時には「物語の外」で非難される。その例として、本研究のインタビューが持っていた「日本人アイデンティティ」が挙げられる。植民地統治を批判する立場でなされる、日本人統治者が本島人を日本人へと「改造」しようとしていたという言説は今でも見かけるが、筆者は台湾の子どもの「日本人アイデンティティ」が、日本人統治者のみによって吹きこまれたのではなく、子ども自身もそれを認めていたと考える。

話が少し本題から逸脱したが、筆者は、インタビューらが実は、「物語の中の者」と「物語の外の者」両方の目線でかれらの生活史をめぐり、それを語っていたと考える。たとえば、学校で映画が上映されていた時、学校が戦争や衛生教育の宣伝映像をも生徒に見せていたことを回想する際に陳さんがこう述べていた。「だから日本人が台湾を統治するのも、非常に規律正しくやっていたよ。かれら・・・かれらが物事を進めるとき、事前に計画を立てるの。映画を上映するからには、政治的なものを見せるべきだと。視聴者を洗脳するよ、洗脳」。筆者は、インタビューの経験は、複数の時代におけるかれらの視点が混在して語られていた一方、インタビューのアイデンティティは、現在から過去を振り返り、その過去と比較して現在を眺めるという過程の中で、しだいに鮮明に形作られていったと考える。ゆえに、インタビューの証言を見る時に、「現在」の目線で「過去」を語るという、時代が一致しない錯覚や、「現在」の自分とうまく繋がるように、「過去」の自分を弁護しようとする感覚が与えられるのである。

日本統治時代の台湾の子どもの「日本人アイデンティティ」について、筆者の見解を述べたい。ベネディクト・アンダーソンは、新聞が各地の事件を、同じ新聞紙面に並置することで、これら事件が独立に起こっていても、何らかのつながりが想像されるとしている。この想像のつながりは暦の上の偶然から生まれるほか、出版物の一形態としての新聞とその市場との関係にもある。すなわち、同じ新聞が同じ時間帯で、異なる地域にいる、個人としての読者によって消費されると同時に、ある共同体が読者に想像され創り出され

るのである¹³⁷。アンダーソンもまた、出版語を論じる際に、口語では互いに理解しあうのが困難だったり不可能であったりする人々は、印刷と紙によって相互理解できるようになったと述べ、出版によって結び付けられた読者らは、自分以外にも同じ出版語で出版物を読む、複数の人があるということを意識しはじめ、しだいに国民的なものと想像される共同体の胚を形成したとしている¹³⁸。本研究のインタビューは清朝統治時代のような私塾教育を受けておらず、公学校の漢文科目も1937年に正式に廃止された¹³⁹ため、日本統治時代には中国漢文の読み書きの能力を備えていなかった。さらに、学校教育に入った時期が、日中戦争勃発後の時期と重なり、太平洋戦争開始後に各メディアも台湾総督府によって厳しく統制されたため、台湾の子どもに漢文で書かれたメディアに触れる機会があまり与えられていなかった。日本統治時代において、台湾の子どもは娯楽メディアについても日本語で読んだり理解したりしていた。要するに、日本語の使用は学校に限らず、娯楽メディアに触れるなどの生活場面にも及んでいたのである。台湾の子どもには、本島人と内地人が受ける待遇が異なることを認識していたのであるが、このように日本語を全面的に使用中、「私は国語（日本語）を使う、私も日本人」という認知が形作られていったのかもしれない。

筆者のこのような見解に対して、子どものうちはアイデンティティの意識がそれほど成熟していないという反論もあるかもしれない。子どもの（ナショナル・）アイデンティティに関する先行研究がごく限られているため、筆者はインタビューの証言を信用し、できるかぎり最大限の推測と考察を行わなければならなかったのである。しかし、上のような反論に対する筆者の見解は以下のとおりである。アイデンティティが成人したあとも引き続き変化し、その変化が定着する時点が個人の特性や時代背景、生まれ育ったり居住したりする国や地域などによって異なるとすれば、子どもが自分なりの基準で何らかの帰属意識をはぐくんできた（またはその感じを後年まで記憶している）という可能性がある」と筆者は考える。

ここで、ジェンダー・アイデンティティに関する近年の研究を参照しつつ、本研究におけるアイデンティティの概念をスペクトラムの上で移り変わる点のようなものとして捉え

¹³⁷ 同上、59-62頁。

¹³⁸ 同上、84頁。

¹³⁹ 洪郁如（2021）『誰の日本時代——ジェンダー・階層・帝国の台湾史』、法政大学出版局、38頁。

る見方を提示したい¹⁴⁰。この見方によれば、アイデンティティには流動性があり、複数のファクターに導かれ、スペクトラムの上で移動してはまた移動しなおす。長時間の停止を経てその動きが止まる人もいれば、一生を通じてさまざまな可能性を探る人もいる。なお、筆者は、過去のどの時点におけるアイデンティティも、将来のある時点のアイデンティティの土台になると考える。したがってアイデンティティの形成を研究する上で、特定の時代におけるアイデンティティを検討することも、非常に重要なアプローチだと考えられる。

また、上述する流動性と関連を持つこととして、「台湾人」という言葉の使用がある。筆者は、「台湾人」という自称は日本統治時代、戦後まもない時期、戒厳令が解除された直後、2023年の現在といった異なる時点において、必ずしも同一の意味を表す言葉ではないと推察する。時代や政治体制、あるいは話者の主観などに応じ、言葉の特定の側面が強調されたり隠されたりする。「台湾人」と比較される語彙を一部列挙すると、「日本人」「(日本) 内地人」「(中国) 大陸人」「(中華民国) 大陸(地区) 住民」「外省人」「中国人」「中国台湾人」などがある。異なる文脈や時空間において、変わらなかったのは「台湾人」であり、刻々と変化を遂げているのも、「台湾人」である。

¹⁴⁰ アン・ファウスト-スターリングは1993年に人間のセックス〈引用者注：原文は英語の「sex」。この意味では日本語の「性別」に近い〉を五つ (males, females, herms, merms, ferms) に分けるという捉え方を提供した。また、2000年の論文では、1993年以降、社会は五つのセックスという分類から脱却し、ジェンダー多様性を一般的なものとする認識へと移行しつつあるとした。Anne Fausto-Sterling, (1993) “The Five Sexes: Why Male and Female Are Not Enough.” *The Sciences*, 33(2):20-24; Anne Fausto-Sterling, (2000) “The five sexes, revisited.” *The Sciences*, 40(4):18-23 (22). アン・ファウスト-スターリング (2018) 『セックス／ジェンダー——性分化をとらえ直す』福富護・上瀬由美子・宇井美代子・立脇洋介・西山千恵子・関口元子訳, 世織書房, 53-123 頁も参照。

第六章 結論

第1節 研究の結果と貢献

インタビューの内容とその分析から、日本統治時代後期の台湾において、漫画と漫画映画が市場で流通していたことがわかった。日本内地において広く支持されていた漫画作品や雑誌出版物の一部は、台湾人生活圏においても一定の知名度を獲得していた。映画については、太平洋戦争開始後でもアメリカ映画が上映されうる可能性を示したほか、映画の鑑賞実態を「自発型」と「半自発・非自発型」に分けて考察を行った。太平洋戦争開始後でも「自発型」の鑑賞が行われていたことから、映画の視聴者がどのような作品を見るかについての部分的な主体性を有していたと推測した。「半自発・非自発型」の映画鑑賞については、三澤などの考察と一致した結果が観察される。つまり、統治者は映画の上映を教育の手段として使用していた。また、漫画映画『桃太郎の海鷲』の上映期間と上映地域からみれば、同じ映像フィルムが異なる地域で使用されていた可能性が考えられる。このような上映形態は、台史博所蔵の映画資料についても言えるのかもしれない。

娯楽メディアに対する理解の面においては、当時、日本語で行われていた公学校教育を受けた台湾の子どもは、中国式漢文の読み書きの能力を備えておらず、日本語か弁士による台湾語の解説で映画の内容を理解したり、日本語で漫画作品を読んだりしていた。このような生活場面における日本語の使用は、当時台湾の子どものアイデンティティに一定の影響を及ぼしていたと推察した。要するに、あらゆる場面における日本語の使用により、台湾の子どもは自分が日本人だと認識し、ゆえに「日本人アイデンティティ」を持つようになったケースが見られたのである。

アイデンティティの考察に関しては、先行研究では陳は戦後の中国国民党による統治を、「同族による再植民」と位置づけ¹⁴¹、その「同族」意識は漢族の血縁関係に基づくとしていた¹⁴²。筆者は台湾の漢族が中国大陆にルーツを持つことを否認するつもりはないが、中国国民党が台湾に来るまで、一部の台湾の漢族住民はほかの住民（原住民族など）と婚姻関係を結んだりして、生活様式も風土や日本に統治されていたことによって中国大

¹⁴¹ 陳翠蓮『台湾人的抵抗與認同（1920～1950）』、25-26頁。

¹⁴² 同上、185頁。

陸のそれと異なっている可能性があることを提示したい。そのうえ、生物学的な証拠なしに血縁関係を論じることは難しいと考えられる。遺伝子の研究分野においては検査方法と判断基準の違いによって結果が変わるため、今日まで多くの論争が解決されていない¹⁴³。

また、陳の考察対象にあった、祖国のことを寛容的に考えるという傾向は、本研究のインタビューには観察されなかった。筆者の考えでは、インタビューの言う「中国」「支那」「祖国」は、比較的になじみのない言葉であった。というのは、当時の台湾の一般の子どもは、内地人とすら接触する機会が少なかったため、台湾海峡の向こうにいた中国の住民とは接点を持っていなかったことは想像に難くないからである。日本統治時代に台湾人コミュニティの語りの主導権を握っていた台湾人知識人は、台湾人コミュニティを代表して統治者側に声を届け、著作や日記などで自分の考えを残そうとしていた。しかしその反面、知識人以外のコミュニティの声が記録される機会はほとんどなかったため、当時の台湾人における「祖国」観が多様であったことが認識されてこなかった。そのため、本研究はあえて子どもの考えに注目して考察を行なった。筆者は、1930年代前後に生まれた台湾の子どもの言う「祖国」は、かれらの「自分の国」として想像される対象ではなく、インプットされた情報のようなものだと考えている。日本統治時代、台湾の子どもは学校教育のみならず、漫画、映画、漫画映画などの娯楽メディアをも通して中国のイメージを学習したり構築したりしていた。戦後に中国の移民が台湾に来たあと、本省人はさまざまな場面で外省人という「他者」と直接に関わっていく中、「中国」や「中国人」に対するリアルな感覚を持つようになっていった。こうして他者との差異を経験する過程で、自分は台湾人であるという認識が次第に強化され、形作られていったのである。

筆者の観察では、台湾の若者世代は、実際、高齢者世代のアイデンティティに対してじ

¹⁴³ 台湾人の遺伝子解析をめぐる論争については、以下の文献を参照していただきたい。
林媽利（2010）『我們流著不同的血液：以血型、基因的科學證據揭開台灣各族群身世之謎』，前衛。
陳叔倬・段洪坤（2008）「平埔血源與台灣國族血統論」『台灣社會研究季刊』72号，台灣社會研究雜誌社，137-173頁。
林媽利（2009）「再談85%帶原住民的基因回應陳叔倬、段洪坤的〈平埔血源與台灣國族血統論〉」『台灣社會研究季刊』75号，台灣社會研究雜誌社，341-346頁。
<http://dx.doi.org/10.29816/TARQSS.200909.0011>
陳叔倬・段洪坤（2009）「台灣原住民祖源基因檢驗的理論與統計謬誤回應林媽利的〈再談85%帶原住民的基因〉」『台灣社會研究季刊』76号，台灣社會研究雜誌社，347-356頁。
<http://dx.doi.org/10.29816/TARQSS.200912.0008>
蔡友月（2014）「基因科學與認同政治：原住民DNA、台灣人起源與生物多元文化主義的興起」『台灣社會學』28期，中央研究院社會學研究所，1-58頁。

ゆうぶんに理解していない。なぜなら、アイデンティティに対する理解と分析はよく、歴史学や政治学、心理学、社会学などの理論、および世論調査のような膨大なデータなしには行いづらいと想像されるからである。そのうえ、高齢者のアイデンティティを理解しようとする、世代間のギャップという一つの壁に突き当たると思われる。現在の台湾における世代間のギャップは、価値観の違いのほかに、各時代の言語政策によって作られてしまった言語面のギャップも存在する。よって、高齢者世代に対する理解、あるいは日本統治時代の台湾人の生活に対する認識を深めることを、若い世代が拒否していると考えよりも、それらの課題は若い世代にとっては着手しづらいものとみなしたほうが適切だと筆者は考える。本研究は日本統治時代の子どもメディア体験を明らかにすると同時に、複数の植民地期を経験した、かれらのアイデンティティとその変化の形をつかもうとした。それを通し、アイデンティティ研究上の、より着手しやすいアプローチと、各世代を繋ぐ、理解の架け橋を提供したいと考えた。第五章でみたように、メディアに触れることで、視聴者や読者が娯楽を享受するとともに、未知の物事を学習したり認識したりもするということは、80年前も今もさほど変わっていない。その一方、自分を表現する時に使用される「台湾人」という言葉は、表面上は変化していないように見えるが、本質のところ時代とともに変化がある。よって、いわゆる「台湾人アイデンティティ」がいったい何を指すのかを明らかにするには、深くて緻密な探究が求められる。

近年の台湾選挙には、若い世代の政治への関心を引き寄せようとする各政党の動きがうかがえる。しかし、台湾の若者の政治離れは、社会課題を解決できない政党への不信感に関係するだけでなく、台湾の過去——日本統治時代に差別的に扱われていた経験、戦後の白色テロ時代における政治的な抑圧、数百年にわたる原住民族への圧政を含め——を理解することが苦痛と怒り、無力感を伴うということからもきていると筆者は考える。本研究は個人の生活史と娯楽メディアの考察という視点から歴史に踏み込み、これをもってその苦悶を少しでも解消しようとするものである。

世界中の多くの国民的な運動において先頭に立つのは知識人であるが、ほとんど全ての社会運動は民衆の関与がなければ、政策に影響を与えるほどの推進力は生み出せないであろう。さらに、政策決定に関わる大人は誰もが、かつては子どもであった。したがって、共同体意識の変化とその形成を検討するには、あらゆる社会階層の、あらゆるエスニック・グループの、あらゆる年齢層の人の思想に対する考察が不可欠なのである。そのうえ、思想の構築は、決して統治者の政策を検討したり、知識人の志向を考察したりするの

みで捉えられるものではない。こうしたことを踏まえると、本研究におけるインタビュー調査は、これまでじゅうぶん光が当てられてこなかった台湾の子どものアイデンティティ（日本統治時代後期の、福佬人コミュニティのみという限界はあるものの）について考察を行い、その形成過程を明らかにするものであったと言える。

第2節 本研究の限界と今後の課題

本研究はインタビュー調査で日本統治時代後期の台湾の子どものメディア体験を考察し、その体験をもとに娯楽メディアと、言語と、アイデンティティとの相互作用を議論した。筆者が調査を行っていた時期はコロナ禍と重なり、一時期海外への渡航が制限されていた。インタビューを探す作業も、コロナ禍で交流の場が減少したことにより、いっそう困難になっていた。時間的制限と筆者の能力的な制限により、本研究では五人の方へのインタビュー内容を分析のテキストとして扱うことにした。

なお、第三章でも述べたように、本研究は研究方法上の限界がある。本研究におけるインタビュー資料の扱い方は、もともと日本語であったインタビューをそのまま日本語で扱うのではなく、インタビューそれぞれが台湾語と日本語、華語で語られたことを日本語に訳して論文に取り入れたのである。したがって文字起こしと翻訳の精度に限界があると考えられる。また、今回のインタビューは高齢者なので、当然ながら記憶違いが起こりうる。さらにインタビューは漢族の中の福佬人のみで、同じく本島人に属していた客家人と原住民族は今回のインタビュー対象から外された。今後、日本統治時代の台湾の子どものメディア体験とアイデンティティを検討するにあたって、ほかのエスニック・グループや地域、社会階層、教育水準にあたる調査対象者を研究視野に入れると、サンプルと結果の多様性を増やすことができると予想される。

現在、日本統治時代に関するインタビューは、高齢者世代の逝去により、いっそう行いづらくなってきている。しかしその一方、日本統治時代の新聞の復刻とデータベースの構築により、文献資料がいっそう充実してきたため、新聞で娯楽メディアの流通実態を考察できる研究環境が整いつつある。

文献資料のいっそうの整備により、今後は以下のような課題への取り組みが可能になるだろう。たとえば、日本統治時代の新聞をみれば、日本統治時代前期にすでに雑誌の出版と映画の上映の動きがあったことがわかる。1910年にもなれば、『台湾日日新報』に日本

内地の時事新報社の『少年』という雑誌と、実業之日本社の『日本少年』『少女の友』といった雑誌の広告が掲載されていた。したがって研究の対象期間を長くすると、より豊富な研究成果が出るのが考えられる。また、台湾日日新報社は1930年から1937年の間、『台日グラフ』という月刊誌を刊行しており、日本人の漫画家の作品以外に、ミッキーマウスの漫画なども掲載されていた。流通実態のほか、掲載作品の内容分析で台湾の住民の読書傾向を考察することも可能である。映画（漫画映画を含め）に関しては、本研究が行ったいくつかの推測をもとに台湾全島の上映実態と国策映画の普及方策を検討するほか、日本内地版と台湾本島版を比較対照してどのような内容が消去されたかを確認し、台湾総督府の検閲がどのように映画のテキストを再構成させ、帝国日本のパワーストラクチャーを再生産していたかの実態を探究することができる。

言語とアイデンティティの研究に関しては、今後は調査対象者による混成言語の使用を分析したり、政治学など他分野の理論を用いてさらなる議論を行ったりして、言語とアイデンティティの相互関係を考察していきたい。

参考文献リスト

【英語文献】

Anne Fausto-Sterling, (1993) “The Five Sexes: Why Male and Female Are Not Enough.” *The Sciences*, 33(2):20-24.

Anne Fausto-Sterling, (2000) “The five sexes, revisited.” *The Sciences*, 40(4):18-23.

United States Government Printing Office Washinton D. C., (1965), *Public Papers of the Presidents of the United States: Harry S. Truman (1950)*.

【日本語文献】

ベネディクト・アンダーソン (2007) 『想像の共同体——ナショナリズムの起源と流行』
白石隆・白石さや訳, 書籍工房早山

植野弘子 (2004) 「植民地台湾における民俗文化の記述」『人文学科論集』41号, 茨城大学
人文学部, 39-57頁

遠藤広之 (2016) 「マンガ史はどのように記述されてきたのか?——その問題と展望」『マ
ンガ研究 13 講』小山昌宏・玉川博章・小池隆太編, 水星社, 49-83頁

沖田哲也 (1984) 「台湾における地方制度の沿革——日領期 軍・民政と地方制度」『政経
論叢』53巻, 2-3号, 明治大学政治経済研究所, 59-95頁

加藤厚子 (2003) 『総動員体制と映画』, 新曜社

スタイナー・クヴァール (2016) 『質的研究のための「インター・ビュー」』能智正博・徳
田治子訳, 新曜社

洪郁如 (2021) 『誰の日本時代——ジェンダー・階層・帝国の台湾史』, 法政大学出版局

黄昭堂 (2019) 『台湾総督府』, 筑摩書房

呉叡人 (2021) 『台湾、あるいは孤立無援の島の思想——民主主義とナショナリズムのデ
ィレンマを越えて』駒込武訳, みすず書房

駒込武 (1996) 『植民地帝国日本の文化統合』, 岩波書店

坂野徳隆 (2012) 『風刺漫画で読み解く 日本統治下の台湾』, 平凡社

- 桜井厚 (2012) 『ライフストーリー論』, 弘文堂
- 島田啓三 (1976) 『冒険ダン吉 1』, 講談社
- ロ・ズカ (1956) 『世界の映画史』 永戸俊雄訳, 白水社
- 鈴木淳子 (2005) 『調査的面接の技法【第2版】』, ナカニシヤ
- 須長史生 (1999) 『ハゲを生きる—外見と男らしさの社会学—』, 勁草書房
- 竹内オサム・西原麻里編著 (2016) 『マンガ文化 55のキーワード』, ミネルヴァ書房
- 田村志津枝 (2000) 『はじめに映画があった——植民地台湾と日本』 中央公論新社
- 陳虹彪 (2017) 「日本統治下台湾人児童の日常生活について (その2) ——国語教科書を手掛かりに」 『平安女学院大学研究年報』 18号, 平安女学院大学, 13-22頁
- 津堅信之 (2004) 『日本アニメーションの力——85年の歴史を貫く2つの軸』, NTT出版
- 筈見恒夫 (1942) 『映画五十年史』, 鱒書房
- アン・ファウスト-スターリング (2018) 『セックス/ジェンダー——性分化をとらえ直す』 福富護・上瀬由美子・宇井美代子・立脇洋介・西山千恵子・関口元子訳, 世織書房
- フランシス・フクヤマ (2019) 『IDENTITY 尊厳の欲求と憤りの政治』 山田文訳, 朝日新聞
- 古田尚輝 (2016) 「映画法施行下の漫画映画」 『成城文藝』 237・238号, 至文堂, 125-153頁
- 文明基 (2021) 「植民地台湾と朝鮮の基層行政運用——行政人員の数量的検討を中心として」 『北東アジア研究』 別冊第6号 (2021年3月), 島根県立大学北東アジア地域研究センター, 89-129頁
- 彭明敏・黄昭堂 (1976) 『台湾の法的地位』, 東京大学出版会
- 三澤真美恵編 (2017) 『植民地期台湾の映画——発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』 東京大学出版会
- 三澤真美恵 (2010) 『「帝国」と「祖国」のはざま——植民地期台湾映画人の交渉と越境』, 岩波書店
- 宮本大人 (2002) 「ある犬の半生—『のらくろ』と〈戦争〉—」 『マンガ研究』 2巻, 日本マンガ学会編, 50-71頁
- 山口且訓・渡辺泰 (1978) 『日本アニメーション映画史』 プラネット編, 有文社
- 山口康男 (2009) 『日本のアニメ全史——世界を制した日本アニメの奇跡』, テン・ブックス

ス

- 游珮芸 (1999) 『植民地台湾の児童文化』, 明石書店
- 游珮芸・周見信 (2022) 『台湾の少年 1 —— 統治時代生まれ』 倉本知明訳, 岩波書店
- 吉見俊哉 (2012) 『メディア文化論 (改訂版)』, 有斐閣
- 盧銀美 (2019) 「日本映画のトーキー移行期におけるヴォイス・オーバー—1930 年前後の「同時性」と「非同時性」をめぐって—」『名古屋大学人文学フォーラム』2号, 名古屋大学大学院人文学研究科図書・論集委員会, 277-294 頁

【華語文献】

- 三澤真美恵 (2002) 『殖民地下的「銀幕」——台湾總督府電影政策之研究 (1895～1942)』, 前衛
- 末光欣也 (2012) 『台湾歴史 日本統治時代の台湾』, 致良
- 吉田光 (2016) 「日治時期台湾兒童閱讀文化之考察——在台湾發行的兒童雜誌為例」, 国立清華大学修士論文
- 何義麟・蔡錦堂 (2019) 『典藏台湾史 (六) 台湾人的日本時代』 薛化元編, 玉山社
- 呂訴上 (1991) 『台湾電影戲劇史』, 銀華
- 吳密察・井迎瑞編 (2012) 『片格轉動間的台湾顯影——國立臺灣歷史博物館修復館藏日治時期紀錄影片成果』, 國立臺灣歷史博物館
- 吳密察編 (2007) 『文化協會在臺南 展覽專刊』, 國立臺灣歷史博物館
- 宋錦秀編著 (2000) 『中縣口述歷史 (第六輯) ——日治臺中婦女的生活』, 臺中縣立文化中心
- 李承機 (2015) 「日治時期的報業發展」『臺灣學通訊』85 号, 國立臺灣圖書館, 4-7 頁
- 李道明 (2019) 「永樂座與日殖時期臺灣電影的發展」『動態影像的足跡——早期臺灣與東亞電影史』 李道明編, 國立臺北藝術大學, 85-127 頁
- 国島水馬漫畫・戴寶村解説 (2000) 『漫畫台湾年史』, 前衛
- 林呈蓉 (2010) 『皇民化社會的時代』, 台灣書房
- 林柏維 (2015) 「日治時期的讀報社」『臺灣學通訊』85 号, 國立臺灣圖書館, 28-29 頁
- 林媽利 (2009) 「再談 85% 帶原住民的基因回應陳叔倬、段洪坤的〈平埔血源與台灣國族血統論〉」『台灣社會研究季刊』75 号, 台灣社會研究雜誌社, 341-346 頁

<http://dx.doi.org/10.29816/TARQSS.200909.0011>

林媽利 (2010) 『我們流著不同的血液：以血型、基因的科學證據揭開台灣各族群身世之謎』, 前衛

侯坤宏 「戰後臺灣白色恐怖論析」『國史館學術集刊』12 号, 國史館學術集刊編輯委員會, 139-203 頁

洪德麟 (2003) 『臺灣漫畫閱覽』, 玉山社

許佩賢 (2015) 『殖民地臺灣近代教育的鏡像——1930 年代臺灣的教育與社會』, 衛城

陳世昌 (2015) 『戰後 70 年臺灣史』, 時報

陳叔倬·段洪坤 (2008) 「平埔血源與台灣國族血統論」『台灣社會研究季刊』72 号, 台灣社會研究雜誌社, 137-173 頁

陳叔倬·段洪坤 (2009) 「台灣原住民祖源基因檢驗的理論與統計謬誤回應林媽利的〈再談 85%帶原住民的基因〉」『台灣社會研究季刊』76 号, 台灣社會研究雜誌社, 347-356 頁

<http://dx.doi.org/10.29816/TARQSS.200912.0008>

陳翠蓮 (2016) 『台灣人的抵抗與認同 (1920~1950)』, 遠流

陳翠蓮 (2017) 『重構二二八：戰後美中體制、中國統治模式與臺灣』, 衛城

黃惠君 (2017) 『激越與死滅：二二八世代民主路』, 遠足文化

葉昕 (2020) 「地方制度改正後的臺灣人街庄長」『臺灣學通訊』117 号, 國立臺灣圖書館, 14-15 頁

葉建良 (2011) 「臺灣日報復刻出版序」『臺灣日報復刻本』總目錄, 國立臺灣歷史博物館, 7 頁

葉龍彥 (1998) 『日治時期台灣電影史』, 玉山社

葉龍彥 (2006) 『台灣的老戲院』, 遠足文化

劉維瑛·李衣雲·翁稷安·蘇微希·陳涵郁·曾曉玲·陳中勳 (2020) 『臺漫時代：臺史博漫畫特展專刊』, 國立臺灣歷史博物館

蔡元隆·張淑媚·黃雅芳 (2017) 「日治時期北港女子公學校教育史之研究」『市北教育學刊』56 号, 臺北市立教育大學, 1-28 頁

蔡友月 (2014) 「基因科學與認同政治：原住民 DNA、台灣人起源與生物多元文化主義的興起」『台灣社會學』28 期, 中央研究院社會學研究所, 1-58 頁

蔡秀美 (2015) 「殖民統治網的尖兵——派出所與保甲、壯丁團」『臺灣學通訊』第 88 号,

國立臺灣圖書館, 15-17 頁

蔡英文 (1997) 「認同與政治——一種理論性之反省」『政治科學論叢』8 号, 國立臺灣大學, 51-84 頁

蔡焜霖 (2017) 『逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史』薛化元・游淑如 (訪問記錄), 玉山社

薛化元 (2009) 「從歷史文獻看台灣的定位問題」台灣國際地位研討會論文, 87-100 頁

薛化元・戴寶村・周美里 (2005) 『台灣, 不是中國的——台灣國民的歷史』, 財團法人群策會

【新聞資料】

『現存臺日畫報復刻』, 國立臺灣歷史博物館 (2017)

『臺南新報復刻本』, 國立臺灣歷史博物館 (2009)

『臺灣日日新報』データベース, 大鐸

『臺灣日報復刻本』, 國立臺灣歷史博物館 (2011)

【参考 URL】

NHK 戦争証言アーカイブス 「ニュース映像 第 230 号」

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300358_0000&seg_number=003 (参照 2023-01-05)

NHK 戦争証言アーカイブス 「ニュース映像 第 231 号」

https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300359_0000&seg_number=003 (参照 2023-01-05)

大甲鎮瀾宮 「建廟沿革」

<http://www.dajiamazu.org.tw/content/about/about02.aspx> (参照 2023-01-01)

小学館 「会社情報 沿革・歴史」

<https://www.shogakukan.co.jp/company/history> (参照 2022-09-04)

公益財団法人日本台湾交流協会 「蔡焜霖氏に旭日双光章を伝達」

<https://www.koryu.or.jp/about/taipei/chief-representative/izumi/activity-report/20210915/>

(參照 2023-01-19)

文化部「國家語言發展法」https://www.moc.gov.tw/jp/content_177.html (參照 2022-12-21)

文化部「國家語言發展」https://www.moc.gov.tw/content_275.html (參照 2022-12-20)

文化部臺灣大百科全書「臺灣日日新報」

<https://nrch.culture.tw/twpedia.aspx?id=3829> (參照 2022-12-20)

台灣文化部臺灣大百科全書「功名」

<https://nrch.culture.tw/twpedia.aspx?id=3678> (參照 2022-10-23)

全國法規資料庫「國家語言發展法」

<https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawAll.aspx?pcode=H0170143> (參照 2022-12-20)

旺文社「旺文社の歩み」

<https://www.obunsha.co.jp/pr/change/history/> (參照 2022-09-14)

社團法人台北市松年福祉會玉蘭莊「玉蘭莊の紹介」

http://www.gyokulansou.org.tw/about_us_j.htm (參照 2022-09-02)

政府出版品資訊網「台南新報復刻本」

<https://gpi.culture.tw/books/1009801056> (參照 2022-12-20)

國立臺灣歷史博物館 校園生活記憶庫「西螺女子公學校校舍」

<http://tw.school.uschoolnet.com/?id=es00002096&mode=editor&key=126826787189570>

(參照 2022-10-05)

國家文化記憶庫「西螺戲院」

https://memory.culture.tw/Home/Detail?Id=147720&IndexCode=Culture_Place (參照 2022-10-06)

國家文化記憶庫「西螺戲院」

https://memory.culture.tw/Home/Detail?Id=20011031000005&IndexCode=BOCH_CountryCulture_12 (參照 2022-10-06)

開箱虎中 Open HWSH「虎尾高中校史」

<https://hwshsee.lionfree.net/history.php> (參照 2022-10-05)

雲林縣西螺鎮中山國民小學「學校簡介 中山國小校史」

<http://tw.school.uschoolnet.com/?id=es00002096&mode=editor&key=126826787189570>

(參照 2022-10-05)

臺中市立大甲高級中等學校「校史簡記」

<https://djsh.tc.edu.tw/p/405-1073-46842,c11026.php> (参照 2023-01-01)

臺中市立臺中第一高級中等學校「簡介」

<https://tcfsh.tc.edu.tw/p/426-1076-1.php> (参照 2023-01-03)

臺中市政府教育局「臺中市立大甲區文昌國民小學 詳細資料」

<https://www2.tc.edu.tw/school/list/detail/id/472> (参照 2022-12-29)

臺中市政府教育局「臺中市清水區清水國民小學 詳細資料」

<https://www2.tc.edu.tw/school/list/detail/id/453> (参照 2023-01-02)

臺中市清水區清水國民小學附設幼兒園「清幼歷史」

<https://sites.google.com/mail.cses.tc.edu.tw/kid1/%E9%A6%96%E9%A0%81/%E6%B8%85%E5%B9%BC%E6%AD%B7%E5%8F%B2> (参照 2023-01-02)

臺北市延平國小「學校簡介」

<https://web.ypps.tp.edu.tw/2009about/2009about.htm> (参照 2022-10-24)

臺史博線上博物館「我要說國語不說方言」

<https://the.nmth.gov.tw/nmth/zh-TW/Item/Detail/1d28a46c-4df5-43de-a79e-b2ab74a9a267>
(参照 2022-12-20)

臺灣歷史博物館典藏網「臺北市延平國民小學第 25 屆畢業紀念冊」

<https://collections.nmth.gov.tw/CollectionContent.aspx?a=132&rno=2010.006.0663> (参照 2023-01-03)

【映像資料】

『昭和漫画映画大行進：元祖アニメーション 第1巻』, ビクターエンタテインメント
(1993)

謝辞

本研究を遂行するにあたって、多くのかたがたにサポートしていただきました。この場を借りて感謝の意を述べさせていただきます。

東北大学大学院情報科学研究科メディア情報学講座メディア文化論分野の森田直子准教授（指導教員）には、終始あたたかく見守っていただき、多くのご指導とご支援をいただきました。深く感謝申し上げます。東北大に来てよかったです。また、本論文の審査をお引き受けくださいました、同講座の堀田龍也教授、長濱澄准教授、坂田邦子講師、および社会政治情報学講座の徳川直人教授には、入学当初から、研究面で大変お世話になりました。ありがとうございました。

ご退職されました、メディア情報学講座の窪俊一先生には勉学面だけでなく、生活面でもお世話になりました。窪先生は、学術研究に馴染みのない私からの素朴な質問に対し、丁寧にお答えくださり、また、豊富な研究資料を提供してくださいました。北海道大学でご指導をいただいた藤野陽平准教授には、私が北大を離れたあとも研究室の活動やイベントにお声掛けいただきました。心より感謝しております。日々の研究生生活においては研究室の皆様と秘書の立花優依さん、および森田・オーリガ自主ゼミのメンバーから、たくさんのご助言とご支援をいただきました。ありがとうございました。

本研究のインタビュー調査に快くご協力くださいました、インタビューーと玉蘭荘のかたがたには、感謝してもしきれません。皆様のおかげで、本研究を遂行することができました。本当にありがとうございました。読書会で切磋琢磨してきた大学時代の友人、および逐語録の校閲者の盧さんに感謝をお伝えします。皆様と多くの時間を共にし、お互いに意見を闘わせたからこそ、ここまで来ることができました。また、日本台湾交流協会から受給される奨学金により、私は勉学に集中することができました。このことに深く感謝しております。真に平等な日台関係を築くのに、本研究が少しでも貢献できたら幸いです。

最後に、台湾という土地にこの論文を捧げます。

2023年2月 林庭瑀

インタビュー調査質問項目

1. 請問該如何稱呼？
お名前はなんとお呼びしたらいいですか。
2. 請問您是幾年、在哪裡出生？
何年に、どちらでお生まれになりましたか。
3. 在哪裡長大？
小さい頃はどちらにお住まいでしたか。
4. 戰爭結束之前是在哪裡生活？
戦争が終わる前にはどちらにお住まいでしたか。
5. 可否簡述家族成員、家庭狀況？
当時の家族構成はどのようなものでしたか。ご家庭はどんな様子でしたか。
6. 曾經上過什麼學校，學校名為何？
日本時代にどんな学校に通っていましたか。学校の名前は何かですか。
7. 小時候的休閒活動？
小さい頃は何かをして遊びましたか。楽しみだったことは何かですか。

【映画について】

1. 日本時代有看過電影嗎？
日本時代には映画を見たことがありますか。
2. 是哪裡拍的電影？日本？中國？歐美？台灣？
(台灣電影是總督府還是台灣人做的電影？)
どこの映画なのか覚えていらっしゃいますか。
日本の映画か、中国の映画か、欧米の映画か、台湾の映画ですか。
(台湾映画の場合、それは総督府などが作った映画それとも台湾人が作った映画ですか？)

3. 是在哪裡看的電影呢？

どこで映画を見ましたか。

【映画を見る場所について】（映画館／学校／公会堂など）

1. 電影票價大約為多少？會因為電影長度不同而價格不同嗎？

チケットの値段がどれくらいか覚えていらっしゃいますか。

映画の長さによって値段が変わることはありましたか。

2. 當時電影有分級嗎？有分成「大人看的電影」或是「小孩看的電影」嗎？

レイティングシステムありましたか。

「大人が見る映画」や「子供が見る映画」みたいな分け方ありましたか。

3. 當時看的電影是無聲電影還是有聲電影呢？

当時ご覧になった映画は無声映画かトーキーですか。

4. 若是有聲電影，電影的語言為何？（歐美電影有無重新配音成日文？）

トーキーの言語は何でしたか。（たとえば洋画は日本語への吹き替えでしたか。）

5. 若是無聲電影，是旁邊有人說明或是有電影字幕？

無声映画の場合は、弁士がいましたか。字幕はありましたか。

6. 辯士是用什麼語言？辯士是內地人？本島人？

弁士の使った言語は何でしたか。弁士は内地人？本島人？

7. 有聲電影也有辯士在一旁做解說嗎？

トーキーの場合は弁士いましたか。

8. 看電影的時候，現場呈現什麼樣的狀態呢？（觀眾是否會聊天講話？）

映画が放映された場所はどんな雰囲気でしたか。（どのような光景でしたか。）

（視聴者らはおしゃべりしながら映画を見ていましたか。）

9. 要如何知道當時正在上映什麼電影？

どんな映画が上映されるかは、どうやって知りましたか。

付録 1

10. 您看過的電影種類及內容為何？（劇情片、紀錄片、ニュース映画、動畫電影、其他……請自由敘述）

その時にご覧になった映画のジャンルとその内容は？

（実写映画、記録映画、ニュース映画漫画映画、その他・・・自由に述べてください。）

11. 喜歡看的電影？

お好きな映画などありましたか。

12. 當時是和誰一起去電影院的呢？

誰と一緒に映画館に行っていましたか。

13. 當時家長對於電影的看法是？會一起去電影院看電影嗎？

親御さんは当時、映画についてどう考えていましたか。

映画館に行くときは親御さんも一緒でしたか。

14. 是怎麼決定當時要看什麼電影的？

どの映画を見るかは、どうやって／どなたが決めていましたか。

15. 當時有理解電影的內容嗎？

当時は映画の内容を理解していましたか。

【読み物について】

1. 日本時代的讀物？

小説？文學作品？漫畫？繪本？會看報紙嗎？

日本時代にどんな読み物を読んでいましたか。

小説？文学？漫画？絵本？新聞紙は読んでいましたか。

2. 小學時候的讀物？中學時代？

小学校時代の読み物は？中学校時代は？

3. 是日文的作品嗎？還是漢文？

それらの作品は日本語で書かれているものですか。それとも漢文ですか。

付録 1

4. (有看過的話) 漫畫或是繪本の書名為何?

(読んでいた場合) 漫画や絵本の書名は何ですか。

5. 内容? 或是印象最深刻的一些主題?

作品の内容、あるいは印象深かったテーマは何かありましたか。

6. 各種的讀物是如何入手的?

老師推薦分享? 爸媽買的? 向同學借的? 其他?

そういう読み物は、どうやって手に入れたのですか。

先生から本をもらったことがありますか。

親が買ってくれましたか。友達が貸してくれましたか。その他?

7. 如何得知書籍的出版消息的?

読み物の出版情報はどうやって知りましたか。

8. 當時的讀物是在台灣印刷的嗎?

それらの読み物は台湾で印刷されたものでしたか。

9. 當時家長對於各種讀物的想法是? (有被禁止閱讀的讀物嗎?)

親御さんは、〇〇さんが読むものについて、どう考えておられましたか。

(読んではいけないと言われたものがありましたか。)

10. 你自己當時對漫畫怎麼想? 繪本呢?

漫画について、ご自分のお考えはどうでしたか。絵本については?

【漫画映画について】

1. 日本時代有看過漫画映画嗎?

日本時代に漫画映画を見たことありますか。

2. (有看過的話) 是否記得內容? 或標題? 是什麼樣的漫画映画?

(見たことがある場合) 漫画映画の名前と内容などを覚えていますか。

どんな漫画映画ですか。

付録 1

3. 是日本製作的嗎？還是歐美？

邦画ですか。洋画ですか。

4. (沒看過的話) 是否有聽過「漫画映画」？從哪裡得知？

(見たことがない場合) 「漫画映画」という言葉聞いたことありますか。

どこから聞いたのですか。

5. 漫画映画是從什麼時候開始上映的呢？

漫画映画はいつから(年代)上映されるようになりましたか。

6. 漫画映画是和其他電影一起放映的嗎？還是單獨放映？

漫画映画は他の映画と一緒に放映されましたか。それとも単独上映でしたか。

7. 當時看漫画映画の觀眾裡有大人嗎？

当時漫画映画を見ていた人には大人もいましたか。

8. 第一次看到漫画映画的印象如何？

初めて漫画映画を見たときの印象を教えてください。

【各メディアについて】

1. 漫畫或繪本的内容，和電影（或是漫画映画）是否有類似的主題？

漫画や絵本と映画・漫画映画とで、似たようなテーマはありましたか。

【「国」について】

1. 當戰爭還沒結束時，您認為您是哪國的人？

戦争が終わる前に、ご自分のことをどの国の人だと思っていましたか。

2. 當時這樣的想法和您接觸過的媒體有關聯嗎？

続いて、そのお考えは、当時触れていたメディアと関係ありますか。

3. 您認為您現在是哪裡（避免使用「國家」一詞）人？

今はご自分のことをどこ（「国」という言葉を避けて）の人だと思っていますか。

付録 1

4. 當您就稍早的問題嘗試回憶日本時代的事情時，是以什麼樣的心情去回憶的？

先ほどの質問で日本時代のことを思い出そうとすると、どのようなお気持ちになりましたか。

5. 當您在回憶小時候發生的事時，是以什麼樣的心情去回憶的？

小さい頃の思い出を振り返る時は、どのようなお気持ちで振り返るのですか。

6. 您現在最常使用的語言為何？為什麼？

今（使う頻度として）一番使っている言語は何語ですか。なぜですか。

7. 日本時代最常使用的語言為何？為什麼？

日本時代に一番使っていた言語は何語でしたか。なぜですか。

8. 當時是怎麼分開使用日文、台語與中文（或是漢文）的？現在如何？

日本時代には日本語と、台湾語と華語（または漢文）をどう使い分けていましたか。

今はどうですか。

9. 到了戰後，看電影的方法有改變嗎？

戦後になると、映画の見方は変わりましたか。

逐語録の説明

本研究のインタビュー調査は主に台湾語で行われたが、インタビュー中、華語や日本語など他の言語が使用されることがよくあった。読者に内容をよりよく理解してもらうため、逐語録は主に華語で作成されており、日本語で語られていた部分は日本語で表記され後ろに華語の翻訳が入れている。ただし、台湾語の言語感覚を再現するため、または一部の台湾語の言葉は華語に訳すことが不可能だと校閲者が判断したため、一部の台湾語の語彙や台湾語特有の言い方を華語に翻訳せず逐語録に残したことがある。その部分に関しては、台湾教育部（日本の文部科学省にあたる）『臺灣閩南語常用詞辭典』（台湾語常用語辞典）を参考にしつつ、語の後ろに括弧をつけてその中に読み方と翻訳を入れている。詳細は下記の【凡例】をご参照ください。

なお、逐語録は複数の担当者によって作成されたが、各言語の表記を統一したり注を入れたりするため、また文字起こしの内容を再確認するため、校閲の作業も行なわれた。日本語と華語の校閲担当者は筆者で、台湾語と華語の校閲担当者が盧品辰（Lô Phín-sin）さんである。下記の【台語語助詞説明】（台湾語の助詞の説明）の内容も、盧さんが提供してくださった。また、【台語語助詞説明】で扱われる助詞とその意味は、本逐語録に使われているものに限る。

本研究的訪談調査主要以台語進行，但過程中參雜華語、日語等其他語言，為方便讀者理解，逐字稿以及本說明稿主要以華語製作，並特別標示日語語句及詞彙、標注翻譯。惟為保留台語語感，或校稿者判斷若干台語詞彙無法精準翻譯為華語，部分台語詞彙則以台語文標示，並參考台灣教育部《臺灣閩南語常用詞辭典》內容，在詞彙後的括號中標注讀音及釋義。詳細說明請見下方【凡例】。

另外，雖各份逐字稿的製作者不一，但為統一標示用法、插入註腳以及再確認轉錄內容是否正確，亦有進行校稿作業。日語、華語校稿者為筆者，台語、華語校稿者為盧品辰（Lô Phín-sin），下方【台語語助詞説明】內容亦為盧品辰提供。【台語語助詞説明】中僅針對本逐字稿中出現的語意做説明。

【凡例】

- 一、日語詞彙統一在上方標示說話者當時的讀音，日語語句則在後方以括號（）標注華語翻譯。
- 二、若是台語或華語語句中參雜大量日語，則在語句結束後換行，並在括號（）中標注華語翻譯。
- 三、逐字稿製作者判斷未有對應的詞彙或語句時，日語使用圓形符號○標示，台語及華語使用方形符號□標示。
- 四、雖未有對應的詞彙，但校稿者判斷應有特定意思時，則在○或□後加註米字號*，並在括號（）中標注釋義。
- 五、六角括弧〔〕中為文意上的補充。

六、肢體語言或表情等，在後方以括號（）標注。

七、語句被打斷時，以破折號——在句尾標示。

八、訪談內容若有口誤，或敘述與歷史事實不一時，則盡量在當頁下方以註腳說明。惟因作業時間不足或標注者相關知識不足等限制，亦可想見有標注不周全之處，敬請見諒。

【台語語助詞說明】

編號	華語習慣用字	台語用字及讀音	字義	例句
1	嘸	乎 (--honnh)	反問語助詞	是去遐乎 (--honnh) ?
2	吼	諄 (hooh)	1. 表達不耐煩之感的語氣詞 2. 表示驚訝或反應激動的感嘆詞	諄 (Hooh)，彼當陣美軍一直空襲台灣，逐家攏干焦會當覘佇厝裡。(2.之意)
3	嘿	嘿 (hennh、heh)	1. 表示肯定應答的語氣 2. 表示驚訝的語氣	嘿 (Hennh)，著，就是國民學校。(1.之意)
4	膩、逆	呢 (--nih)	表示確認的語氣，「是不是、是嗎」之意	恁攏做伙去的呢 (--nih) ?
5	餒	呢 (--neh)	表示讚許、得意或強加強語氣的語助詞	你足厲害的呢 (--neh) !
6	(無)	諾 (hioh，句尾：--hioh)	表示領悟的感嘆詞	諾 (Hioh)，原來是按呢喔！
7	囉	囉 (looh，句尾：--looh)	表示已經完成的語氣	時代已經改變囉 (--looh)。
8	喔	喔 (ooh，句尾：--ooh)	1. 置於句末，用以加強或完結語氣 2. 表示勉強應答或不樂意的語氣 3. 表示驚訝或領會的語氣	喔喔 (Ooh-ooh)，原來是按呢喔 (--ooh)。(3.及1.之意)
9	(無)	毋 (--m̄)	用在句尾時，表示反問的意思	伊自細漢就受日本教育是毋 (--m̄) ?
10	蛤	啥 (hannh)	表示驚訝的反問	啥 (Hannh) ? 有這款代誌？

付錄 2

11	咧	咧 (--leh)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 用於加強語氣 2. 表示動作持續 3. 表示時間短暫 4. 與「較」字連用，表示祈使語氣 5. 放在句尾，表示疑問 	<p>逐家攞是恬恬咧 (leh) 看電影。(2.之意)</p> <p>是為什麼咧 (--leh) ? (5.之意)</p>
----	---	-----------	--	---

補充說明：

1. 許金城習慣以「hannh」來表示應答的語氣，在逐字稿中以「啥 (hannh)」標示。
2. 在語尾作為無意義的語助詞使用的「--honnh」，在逐字稿中亦以「乎」標示。

張陳○20210413

林：請問妳的名字是什麼？

張陳：張陳○。

林：嗯。啊……我今天是怎麼稱呼妳才好？

張陳：不要緊，妳的年紀叫我「阿媽（a-má）」就好。

林：阿媽（笑）。

張陳：（笑）

林：「^{けん}研さん」じゃなくて、「阿媽」でもいいですか？

（不是叫「研さん」，叫「阿媽」也沒關係嗎？）

陳：對對。

林：（笑）好。若這樣阿媽妳是幾年、在哪裡出生的？

張陳：我是大甲人。

林：大甲人。台中的大甲人。

張陳：嘿，大……

林：是爸爸媽媽就……從以前就住在大甲嗎？

張陳：大甲，原仔（^{uân-nā}，也是）大甲。

林：在大甲……所以妳囡仔（^{gín-á}，小孩、兒童）的時候都是在大甲過的嗎？

張陳：嘿對，我到……住〔大甲〕到嫁（結婚）才去月眉（^{Guéh-bài}）。

林：「月眉」，怎麼寫？可以寫給我看嗎（遞筆記本）？

張陳：^{しゅじん}我主人（先生）他們〔家〕的〔地方〕（寫）。不要緊，你這もつたいないじゃない（你這樣很浪費不是嗎）？

林：^{ぜんぜん}全然、^{たいじょうぶ}大丈夫ですよ（完全沒關係喔）。歹勢。不然我有便條紙可以嗎？

張陳：喔，可以。（寫）^{げつび}「月眉」。

林：喔「月眉」，那個^{ゆうえんち}遊園地のあるところ（那個有遊樂園的地方）？

張陳：現在有那個……まあ……那個給囡仔（gín-á，小孩、兒童）玩的。

林：嘿、嘿。是那裡乎。什麼時候到月眉的？

張陳：嫁的時候諾（--hioh）？你是……我——

林：嘿，嫁的時候。

張陳：——嫁……我先生是月眉人。

林：嘿，是什麼時候結婚的？

張陳：〔民國〕38年。

林：民國38年？

張陳：民國38〔年〕。

林：38年（寫）。所以妳說妳38年以前都是在大甲？

張陳：嘿，都大甲。

林：我可以請問說妳那時候的，妳的家庭的一些狀況乎，妳有幾個兄弟姊妹這樣？

張陳：喔，是這樣啦，我們是時候是和……較早的人都大家族嘛，和阿伯囉那些都住一起。啊現

在是要問，是要問……我們自己〔家〕？

林：嘿，爸爸媽媽生幾個這樣。

張陳：這樣就好喔。

林：嘿。

張陳：這樣我們〔家〕是一個姊姊……現在是一個姊姊，一個妹妹，一個弟弟，4個〔小孩〕。

林：4個喔。啊可以方便借問說妳們家裡是做什麼的嗎？

張陳：可以咧。我們開雜……^{ざっ}□□*（hiòng--ê）那個^{おろしや}卸屋，^{おろしや}卸屋。

林：「^{おろしや}卸屋」。

張陳：^{ざっか}雜貨の^{おろしや}卸屋。「大賣」就是了啦，大賣啦，不是小賣。

林：嘿，「大賣」。若這樣……妳說妳是民國幾年生？

張陳：我那個……18年。

林：民國18年。

張陳：18 年。

林：民國 18 年的……？

張陳：2^{がつ}月。

林：18 年 2 月。2 月……大正^{たいしょう}？大正^{たいしょう}でした？

（18 年 2 月。2 月……大正？是大正〔時代〕嗎？）

張陳：違^{ちが}う、違^{ちが}う違^{ちが}う。大正^{たいしょう}は我（^{guan}）主人^{しゅじん}，我^{しょうわ}昭和。

（不是、不是不是。大正是我先生，我是昭和〔出生的〕。）

林：昭和^{しょうわ}。昭和^{しょうわ}何^{なん}年^{ねん}ですか？

（昭和。昭和幾年？）

張陳：昭和^{しょうわ}4^{ねん}年。

林：昭和^{しょうわ}4^{ねん}年。所以今年是 90……

張陳：2 月 4 日。我 2 月 4 日。

林：所以妳今年是……？歹勢我……

張陳：這個昭和^{しょうわ}，昭和^{しょうわ}來就平成^{へいせい}，啊那個昭和^{しょうわ}到幾年まで（為止）我就知道了。啊那個

〔平成〕幾年那個我也不知道。那個你自己去算。

林：好（笑）。今年是民國 110 年乎。

張陳：嘿，110 年，喔這我們民國這個我會算啦。

林：所以妳現在 92 歲？是嗎？

張陳：92 啊，嘿、嘿、嘿。

林：92 歲。所以民國 18 年，算說是 1929……

張陳：29，嘿、嘿，1929〔年〕。

林：啊到戰爭結束是 1945 年乎？

張陳：結束是幾年這個我就……

林：差不多是那時候啦。

林：所以在……想要問一些戰爭以前的事情啦乎。妳那時候是……我算一下，〔在妳〕10 幾歲的時

候戰爭結束，是嗎？

張陳：結束。你說……

林：是妳 10 幾歲的時候嗎？

張陳：10 何歲かな……我 (guá) 女学校出て乎，我 (guá) 女学校出て学校で 1 年的 (ê) 職務め
た，乎。啊好像再翻轉年 (huan-tńg-nî，再隔年) 就光復了的樣子。だから……這樣是民國幾
年なるかな……這個我就較□□* (phah-séh，不會) 算。

(是 10 幾歲嗎……我女學校畢業，我女學校畢業後在學校做了一年工作，好像再隔年就光
復了的樣子。所以這樣是民國幾年啊……這個我就比較不會算。)

林：嗯，不要緊、不要緊。啊妳上過的學校，那個學校的名字是什麼？

張陳：阮 (guán，我) 小時候，我們那個是男女分班，我們那叫做「女子國小」，「女子」。

林：「女子國小」。

張陳：只有 (kan-na) 女^{おんな} だけ、男^{おとこ} 嘛 (mā，也) 全然^{ぜんぜん}ない。

(只有女生而已，也完全沒有男生。)

林：是叫做「大甲……」？

張陳：「大甲女子公學校」……「国民学校」。

林：「国民学校」。欸？若這樣「国民学校」以前不是叫「公學校」嗎？

張陳：欸？還是「女子學校」？我写真^{しゃしん}あるよ (我有照片喔)。

林：喔！可以借我看嗎？

張陳：可以咧，我〔去〕拿 (起身進房翻找)。

〔中略〕

張陳：あ、すみません (啊，不好意思)，真的要的〔時候〕乎……〔照片〕不知道放到哪裡去
了。

林：不要緊、不要緊、不要緊。

張陳：我都放在一起的說。

林：都不要緊、都不要緊。

張陳：欸這樣……應該〔是叫〕「女子」，「女子學校」的樣子。日本時代だから（因為是日本時代）。

林：不要緊，我也可以去找資料。

張陳：乎，好像是女子（lí-tsú）^{がっこう}学校的樣子。女^{おんな}だけ。查埔（tsa-poo，男性、男生）的叫做公^{こう}学校^{がっこう}。

（好像是女子學校的樣子。只有女生。男生的叫做公學校。）

林：是「公学校」^{こうがっこう}是查埔（tsa-poo，男性、男生）讀的學校——

張陳：查埔（tsa-poo，男性、男生）的。啊我們是女子（lí-tsú）^{がっこう}学校らしい（女子學校的樣子）。

林：這樣妳說妳小學、國小畢業之後是……？

張陳：我還去讀「大甲家政女学校」^{たいこう か せいじょがっこう}。

林：家政……大甲……？

張陳：「家政」^{か せい}。家政就……（寫）

林：歹勢，再請妳寫一次，歹勢。

張陳：「大甲家政女学校」^{たいこう か せいじょがっこう}（遞便條紙）。

林：（接過便條紙）多謝，多謝。「大甲家政女学校」^{たいこう か せいじょがっこう}。家政女学校はどんな学校^{がっこう}（家政女學校是怎麼樣的學校）——

張陳：我們第二期的。

林：嗯？

張陳：第二期的。

林：第二期的。

張陳：嘿、嘿、嘿。第二回、第二期。

林：家政女学校^{か せいじょがっこう}，那是普通……和普通的國中是不一樣呢？

張陳：欸……不同。我們這個是專門，まあ……好像說一句較那個的就變做……都裁縫方面啦、家事^{じ ほうめん}方面啦，你家庭的事情啦。

林：家庭的事情。

張陳：嘿，^{か せいじょがっこう}家政女学校。

林：啊在那裡幾年？

張陳：^{ねん}3年。

林：^{ねん}3年。所以那個……那種學校是有……譬如說也是有學國語嗎還是說——

張陳：也是有啊。

林：也是有。

張陳：國語，啊禮數，都……それから^{い ぼな}生け花もある（然後也還有插花）。^{ちや}お茶……

林：^い入れかたとか？

（泡茶的方法之類的？）

張陳：そうそうそう。啊裁縫、^{さいほう おも さいほう}主に裁縫か、乎。都有啦，這個……也較^{おんなむ}女向き啦。

（對對對，裁縫，主要是裁縫吧。都有啦，這個……也是比較女性向啦。）

林：嗯，好。這樣妳小時候乎，會和朋友一起玩嗎？

張陳：會啊。

林：妳們都用什麼玩？是玩什麼？

張陳：^{てたま}お手玉（沙包），乎，還自己做的，^{てたま}お手玉，乎。啊和一些有的□□*（hiòng--ê）珠子乎，

（作彈珠子狀）這樣彈。

林：彈珠子這樣？

張陳：珠子一粒圓圓，就まあとにかく這樣彈（作彈珠子狀），^{おもしろ}あたる（笑）。種種啦，面白かつた。

（珠子一粒圓圓，就總之這樣彈（作彈珠子狀），射中（笑）。很多種啦，很有趣。）

林：那個時候有那種……歹勢，那時候有那種尅仔標（ang-á-phiau）嗎？

張陳：尅仔標，好像……好像沒有咧。還有若那個是……一些……とにかく畫那個乎まる^か描いて，跳這樣（用手指比劃）（笑），和那個^{たかと}高飛びと言おうか。

（尅仔標，好像……好像沒有。還有如果那個是……一些……總之畫那個圓圈，跳這樣（用手

指比劃)(笑)，和那個應該說是跳高嗎?)

林：喔喔 (Ooh-ooh)，若這樣我想問一些關於電影的事情啦，妳〔那時候〕有看過電影嗎？

張陳：有。

林：有嘛乎。因為上次妳寫給我的這個〔問卷〕也有寫說妳有看過。

張陳：有看過但是，^{なまえ}名前も^{わす}忘れてるよ (名字也忘記了)。乎，若是較有名的……

林：那妳看過的，妳有印象那是日本的電影還是說是歐洲、美國的电影，或是說台灣做的電影？

張陳：我們那時候沒有美國的。

林：沒有美國的？

張陳：沒沒沒。我們也……我們看是都看日本的較多，我們讀的〔書〕都已經在讀日語的でしょ

(啊、嘛，表確認語氣)？我們沒有讀到華語的也沒讀到什麼，我們……我們^{いつさいがつさい}一切合切從頭
到尾都是日語的，都是日本^{にほんきょういく}教育だから (因為都是日本教育)。

林：所以那時候的電影是有聲音的嗎？還是說只有日本人在搬 (puann, 演) 這樣〔只有影像沒有
聲音〕？

張陳：はじめは (最開始是) 無聲音。乎，ただ (只有)〔影像〕它放出來，無聲音，用口*

(koh) 講的，有一個人拿著麥克風在講。

林：那個拿麥克風在講的，妳們怎麼叫那個人？

張陳：^{なまえ}名前？諱 (hooh) ……

林：不是^{なまえ}名前。他的……我有聽過一種說法是叫做說「講古仙」？

張陳：也不是「講古仙」，啊講古仙就……他那是在解釋，解釋，他是在解釋那個^{しゃしん}写真 (指「活動
寫真)、那個電影，和講古就不……不一樣。

林：不一樣。

張陳：不同不同。

林：所以無聲音的電影的時候，是會有一個人會解釋說電影現在在搬 (puann, 演) 什麼這樣？

張陳：嘿，對、對。

林：他會拿マイク (麥克風) 呢？

張陳：你就電影從開始做（播）的時候就真^まつ暗^{くら}（全黑）的嘛，啊真^まつ暗^{くら}他在講，他在哪裡在講
我們也不知道咧，他講我們就——

林：就是妳看不到那個人在哪裡這樣嗎？

張陳：乎、乎、乎，^{だいたい}大体是在旁邊だけらしい（大概是在旁邊而已），還是在後面在……乎，有沒
有？我們這個電影它弄那個白布でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？以前都簡單的，這邊……
這邊也有影子、那邊也有影子、裏^{うら}（裡面）也有影子——

林：所以他〔講話的人〕知道現在在搬（puann，演）什麼？

張陳：——啊搞不好他是在後面講，乎，根本我們是只有在看那影片，沒有在看那個講話的人
（笑），だから（所以）較不知道，乎。

林：若這樣電影是差不多在幾年的時候開始有聲音的？

張陳：諄（hooh），這個……

林：講幾年可能有一點困難，但是說，譬如說妳國小畢業的時候開始有聲音，有這種年代的部分
嗎？

張陳：嗯……那時候我沒有去想……沒有去注意到〔那麼多〕……較沒什麼……沒有辦法回答你，
嘿，這個較不知道。

林：這樣，那時候看的電影啊，是去電影院看的嗎？還是說是在學校看的？

張陳：欸……電影院也有啦乎，啊大部分是都……我們這個……乎我們那個大甲所在（sóo-tsāi，地
方）就較田庄……說較田庄也不是像台北這麼……那個的乎，較庄跤（tsng-kha，鄉下）就對
了乎。啊都……可比（khó-pí，好比）說原仔（uân-nā，也）有一個^{ひろば}廣場乎，啊它會弄一個白
布仔，白布這樣纏（hân，掛）著乎，啊就在那邊做〔電影〕。從後ろから（從後面）都，有
沒有？以前都會有人在那邊不知道怎麼弄乎，怎麼調整那些我是那我都不知道，啊就影
〔像〕就跑出來，啊就看是要站著看，有時候椅子放幾張啦乎——

林：那個椅子是人家準備的嗎？

張陳：人家準備的啦。可比（khó-pí，好比）說……你若可比說那個^{ぶらく}部落的就是^{ぶらく}部落會準備啦，啊
若是公所的話就是公所就會準備啦乎。啊那個沒幾張啦，那是讓你坐前幾排而已，後面的都

去站著。

林：啊人很多嗎？看的人很多嗎？

張陳：啊（ah）……（嘆氣）較早沒有什麼那些……原仔（uân-nā，也是）不少啦（笑）。

林：「不少」是差不多有一百多個人這樣嗎？

張陳：そんな多^{おほ}くない（沒有那麼多）。不到那麼多。

林：十幾個這樣？還是說幾十個？

張陳：不只啦，不只〔十幾個〕啦，〔有〕幾十個。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊看電影的時候，是也有大人也有囡仔（gín-á，小孩、兒童）這樣？

張陳：有、有、有。

林：還是有說囡仔（gín-á，小孩、兒童）或是說大人較多？

張陳：沒，沒分啊，沒分。

林：沒分。

張陳：沒分。它就放下去，你大人囡仔（gín-á，小孩、兒童）隨便，看你要什麼人去看都〔可以〕……也沒有收錢でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？它那個又沒有收錢。

林：那是沒收錢的？

張陳：那個沒有收錢啦，你若電影院才有〔收錢〕。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以沒收錢——

張陳：那沒收錢，那只有說一些部落^{ぶらく}でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？這樣的那個。

林：喔喔（Ooh-ooh），原來如此。

張陳：嘿，那個沒收錢的，誰^{だれ}が行^いってもかまわない（誰去都沒關係）。

林：所以妳說是在像一些那個廣場^{ひろば}的地方在放的嘛。

張陳：啥（hannh）？

林：像那個廣場^{ひろば}的地方放的嘛？「廣場」。

張陳：若是戲園（hi-hńg，戲院）就要〔收錢〕喔，若……若是戲園就要喔。

林：戲園就要。

張陳：嘿、嘿，若是這個^{ひろば}広場就不用。

林：啊那時候的電影院是，它只做電影，還是說是「戲園」？

張陳：欸，不一定。它若是做電影的就電影的，啊若有……以前有歌仔戲，有什麼戲，它就可比

（khó-pí，好比）說歌仔戲要來做，它就不弄電影啊。我們那時候也たった一つの……あのう
……一個戲園だけ（只有一個戲園），我們那邊小所在（sóo-tsāi，地方）——

林：那間戲園的名字妳還記得嗎？

張陳：好像是「大甲戲園」而已。

林：「大甲戲園」，喔喔（ooh-ooh）。

張陳：那個時候沒有說什麼……我們那是只有……一個大甲所在（sóo-tsāi，地方）是只有那間戲
園だけ（而已）。

林：所以那時候也有歌仔戲？

張陳：有啊、有啊，啊也有那個叫做「話劇」〔的〕，「話劇」也有啊，有一些「話劇」。

林：「話劇」。

張陳：「話劇」就是，乎，這樣……歌仔戲不就都打扮這樣出來唱，都唱那些歌仔戲乎。啊「話

劇」就是「わけき」，「話劇」，乎。まあとにかく（總之）起來……出來做、講話乎，「話
劇」乎，就是像我們普通時在學校，乎，在……生徒在做話劇那種一樣。講話乎，「話」。「會
話」の「会話」，「話劇」乎。

林：啊有那個「紙芝居」嗎？有嗎？

張陳：「紙芝居」也有時候有。それから（還有）——

林：啊那是……紙芝居是在哪裡弄的？

張陳：啊□□*（kiat-kō）紙芝居是較沒有在戲園，那……都^{ひろば}広場だけ（都只有在廣場）。

林：^{ひろば}広場だけ。紙芝居は、なんか、^{かねはら}お金払っていました？

（只有在廣場。紙芝居有……有付錢嗎？）

張陳：いいえ。

（沒有。）

林：いらないですか。

（不需要嗎？）

張陳：いいえ、^{ひろば}広場はいらない。

（不用，廣場〔的話〕不需要。）

林：喔喔（Ooh-ooh），看紙芝居^{かみしばい}的人是都，差不多是囡仔（**gín-á**，小孩、兒童）嘛？

張陳：那差不多是囡仔（**gín-á**，小孩、兒童）較多，嘿，^{こども}子供較（**khah**）^{おほ}多い（小孩較多）。

林：啊囡仔（**gín-á**，小孩、兒童）是差不多幾歲的囡仔？

張陳：まあ……差不多會看（看得懂）ぐらい（左右）了。就是都差不多 5、6 歲到 10 何歲^{なんさい}まで

（10 幾歲為止），啊年紀再大的話就較沒人要看那種的了。

林：紙芝居^{かみしばい}の——

張陳：那個較罕（**hán**，難得）的。

林：較罕（**hán**，難得）？

張陳：ときたまだけ。

（偶爾而已。）

林：嗯嗯，若這樣妳說戲園在搬（**puann**，演出、放映）的電影是要錢的嘛乎？妳還記得那時候的

電影票的錢差不多是多少？

張陳：哇！^{わす}忘れてるね（忘記了）（笑）。

林：我有看當時的那個報紙，但是我想說……它們都寫幾錢嘛乎那時候，但是我看有 20 錢就可以

看的，也有 70 錢能看的——

張陳：我們那時候可以說還是囡仔（**gín-á**，小孩）乎，根本〔都是〕大人帶我們去看的，〔因為

是〕大人拍票（**phah-phiò**，買票）〔所以〕我就全然^{ぜんぜん}わからない（完全不知道），乎，不知道

說^{かね}お金どれくらいかかった（花了多少錢）。那個你們可以查啊，查得出來。

林：嘿、嘿。我想說是……那時候搬（**puann**，演出、放映）的電影是都只有一個作品這樣而已？

還是說好幾個〔作品〕一起放？

張陳：電影？

林：嘿，電影。

張陳：哪有好幾個一起放？

林：像是可能時間較短的啊，是不是說時間較短，它就幾個湊……湊做一個這樣放？

張陳：沒有啦，□□* (kiat-kō) 那個一片就是一片啊。

林：一片就是一片，一片收一次錢這樣嘛乎？

張陳：沒啦那是……彼个 (hióng--ê, 那個) ……彼个 (hit ê, 那個) 戲園才有啊。

林：嘿。

張陳：啊若〔是〕^{ひろば} 廣場〔就〕沒有啊，沒在收錢。

林：^{ひろば} 廣場沒有嘛。啊現在是想要問戲園的事情——

張陳：啊是……若〔是〕那種的較少啦，啊大部分我們大甲有一個叫做媽祖廟，那裡都常常會做
戲啦，做戲是做歌仔戲。

林：做戲是做歌仔戲。

張陳：嘿，那都不用錢，那都沒〔收〕錢。

林：啊媽祖廟那裡有放電影嗎？

張陳：較罕 (hán, 難得) 的。

林：較罕 (hán, 難得) 的。

張陳：較罕 (hán, 難得) 的，都……大部分都做歌仔戲。

林：喔喔 (Ooh-oo), 所以囡仔 (gín-á, 小孩、兒童) 也會去看歌仔戲嗎？

張陳：會喔！大家愛看甲 (kah, 到……的地步) 喔。囡仔 (gín-á, 小孩、兒童) ……我們那時囡
仔時代都，諄 (hooh)！以前要拿那個椅條 (í-liâu, 板凳) 乎，那站得較多〔人〕乎，你若
看不到就站著〔在板凳上〕，站著的較多，椅條拿著就去了啊 (笑)。

林：若這樣那時候有布袋戲嗎？

張陳：布袋戲也是有。布袋戲……也是有啊。

林：也是有。啊看布袋戲——

張陳：布袋戲〔的話〕它那時候就有寫啊，那就〔是〕布袋戲啊。創手弄的 (tshòng tshíu lāng--

ê，用手把玩的)。

林：嘿、嘿、嘿，那種的。那是有說囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）較愛看？還是說大人也愛看？

張陳：啊，就……我跟你說啦，都有啦（笑）。

林：都有。

張陳：都有啦。

林：只有紙芝居是囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）較多嘛？

張陳：紙芝居較沒有〔大人〕啦。紙芝居是普通你若，可比（*khó-pí*，好比）說……這樣小小的所在（*sóo-tsāi*，地方）這樣乎，可比說一個小小的部落乎，才有那個啦乎。啊你若說像大甲，小是小也是很……這樣就大部分都是這個……布袋戲啦。

林：嗯嗯，那妳還記得說……因為我看妳應該是看不少電影乎？若是在廣場放的——

張陳：我……大部分我看的是都歌仔戲較多。

林：歌仔戲較多。是為什麼——

張陳：啊若……若〔是〕那個電影就都在廣場看的。

林：嗯嗯，所以沒有什麼說去戲園看電影的經驗？

張陳：那較……較少。

林：較少，但也是有啦乎？

張陳：也是有啦，那是偶爾啦，沒有說常……我是去看，是都大部分都這個歌仔戲較多。歌仔戲，大人帶我們去的乎。

林：大人〔帶妳們去的〕。電影也是大人帶去〔看〕的嗎？

張陳：對啦，這個是沒有錯啦，啊不過那時候較不愛看電影，那個……まあ像可比（*khó-pí*，好比）說，我是都我一個阿姆（*a-m*，伯母）帶我去乎，啊她……她較不愛看那個電影，她愛看歌仔戲。啊歌仔戲你可比說今天做，喔啊做得很好看的話，啊明天就要再□□*（*tsò-sit*）。結果按怎乎（*án-tsuánn--honnh*，怎麼樣呢），啊老人都較愛去看。啊去就都……就像說叫我做伴就對了啦，我那個阿姆縛跤（*pák-kha*，纏足、纏小腳）でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？啊她都是要出去較不方便，啊這種帶我去就像做伴，這樣啦。

林：這樣說那時候的電影有無……剛才說有無聲的，啊有聲的時候——

張陳：也不知道……也不知道什麼時候才有聲音，這個我就較沒什麼知道。

林：不要緊、不要緊。那個有聲的時候，也同樣有人在那邊解說嗎？

張陳：沒有啦，若有聲〔電影〕就沒有了啦。

林：就都沒了？

張陳：沒有〔人在旁解說〕了啦。

林：啊那時候……無聲的時候在做解說的人，是講什麼語言咧？是說日語還是——

張陳：台……台語，大部分〔都是〕台語。

林：所以他們是台灣人？

張陳：嘿，台灣人，大部分都說台語。

林：是台灣人就對了。啊若是有聲的電影，那個電影的語言是什麼？

張陳：什麼？那個……妳說電影名諾（--hioh）？

林：沒，電影的……電影裡面的人在講的話是什麼——

張陳：都台語毋（--m̄）？

林：電影呢（--neh）？

張陳：喔電影喔！

林：嘿，有聲音的電影。

張陳：沒啦，啊就看那個嘴巴開開合合，聲音はないでしょ（沒有聲音不是嗎）？是這個解說的
人在講啊。

林：嘿啊、嘿啊。我想說到後來不是有有聲音的電影嗎？

張陳：有聲音不知道怎樣……這個我就不太知道了。

林：不太……就不記得就對了？

張陳：嘿啦。我是……〔不記得〕。

林：若這樣，若是有人在解說的時候，有說旁邊有字可看嗎？像我們現在看——

張陳：沒有、沒有。

林：沒有喔？

張陳：沒沒沒。

林：就是沒字幕這樣。

張陳：嘿，啊也不一定說每回，你若在那個^{ひろば}廣場那是，給你看免費的，也不一定說每回都有人在解說。有時候沒人在解說，啊它只有放著這樣讓你看，就像在看啞口戲（é-káu-hi，啞巴劇）啦，這樣啦，你自己去猜啦乎。若沒人解說，大家就會說：「來看啞口劇喔！」這樣啦。

林：啞口戲（é-káu-hi，啞巴劇），喔喔（ooh-ooh），會這樣說喔？

張陳：嘿、嘿、嘿。

林：我想問「啞口仔（é-káuá）」在台語是什麼意思哈（hannh）？

張陳：「啞口仔（é-káuá）」，「^{おし}啞」乎，「^{おし}啞」毋（--m）乎。

林：啞口戲。

張陳：啞口仔戲乎，沒人說明。啊^{なに}だた（只有）……だた有看那個影子在跑，在走在那個……何を……在做什麼你自己去猜啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊若有人在說〔電影〕，是差不多都可以理解說這部電影在搬（puann，演）什麼這樣嗎？

張陳：對啦，他就會知道說：「現在什麼什麼什麼」乎，他說我們就看……我們就看得懂。啊你若

是啞口戲就……你自己去猜啊，猜對就對，啊猜不對就不對啊。

林：若這樣有聲音的電影的時候，他們不是那個電影裡面的人都會講話嗎？

張陳：他就嘴巴……□□*（kiat-kō）無聲音的時候，□□*（kiat-kō）若沒有人去解說，□□*（kiat-kō）電影也是有在講話啊，裡面的人也是有在講話啊，那是精差（只差，tsing-tsha）沒有發音出來だけ（而已）。

林：是有聲音的電影，啊他們（演員）講話的時候，妳印象中啦，妳有聽……妳有聽懂他們在講什麼嗎？有看懂這個電影在搬（puann，演）什麼嗎？

張陳：有啦，那個有聲音〔的話〕就是和……和現在一樣啊，乎。

林：所以是不是說日語較多啊？有聲音的——

張陳：不一定啦，你〔要〕看那個……^{にほんご}日本語的或是台灣^{りこうらん}的乎，有的有時候，以前也有做那個，什麼李香蘭^{りこうらん}囉什麼，那好像就我們中國那邊的喔，它那也不一定說〔是〕會講日語的，乎。

林：所以他們……若是中國的電影，他們可能都是講華語這樣嗎？

張陳：也是講……講……北京話啊。

林：北京話，啊那時候聽得懂北京話嗎？

張陳：也〔是〕加減啦。我們中國人就是變做……你台灣人也聽……多少聽得懂啦。

林：啊妳有那種說……比……和日本的電影比起來妳較——

張陳：不一定啦，你〔要〕看講的人啦，他若要給你解釋說台語也可以啊，乎，啊他若要跟你講北京語也是可以啊，乎，這樣啦。

林：你說那個……解說電影的人，是嗎？

張陳：嘿啦，解說的，嘿。啊你若……他若要給你解說日本語，就〔隨〕解說的人，他要和你說什麼語啊乎，讓你看得都懂。大部分是台語較多乎。

林：大部分是台語較多。

張陳：啊你說日語，也是這些讀……受過日本教育，^{だけど}（但是）有的較老那些都沒受到，像我媽媽她們那些都沒受到日本教育，你和她說日語，她也看不懂啊，乎。啊就要看，看你這個場面，乎，你要拍這個給人看的這個，有合在什麼……什麼節目的這樣啦乎，這樣啦。

林：所以那時候家裡，在家裡的時候大家都是用台語在說話嗎？

張陳：大部分是都這樣啦，我們也是。

林：但是在學校是——

張陳：它是說「^{こくご}国語^{かてい}の家庭」乎，啊大家要講那個〔日語〕。^{だけど}（但是）那些老人家哪會講？

林：「^{こくご}国語^{かてい}家庭」是……？

張陳：「^{こくご}国語^{かてい}の家庭」也沒有說大家都有啊，乎，它是發一個，可比（^{khó-pí}，好比）說……你若說〔是〕^{こくご}国語^{かてい}の家庭它就較……以後配給東西とか（之類），いろいろ（許多）乎，較優先啦。

林：嘿。啊妳們家那時候是^{こくご}國語家庭嗎？

張陳：我們沒有被選成^{こくご}國語家庭啦。

林：那是用選的喔？

張陳：欸……大概不知道是去申請還是他們選的我是不太知道啦乎。我們那時候大家族だから

（所以），我們那時候我們阿伯乎，要做……以前叫做里長，現在的里長，以前叫做……也是叫做里長かな（嗎，表疑問語氣）……不知道。とにかく（總之）……啊！「甲長」！甲長，甲長，^{いぜん}以前の甲長。甲長，我們阿伯當甲長。甲長就是像現在的鄰長みたい（一樣）啦，乎。里長是管那個里的嘛，啊那個甲長是管那……可比（**khó-pí**，好比）說那區幾十戶這樣啦乎，這樣啦。

林：所以你阿伯家是國語家庭？

張陳：也沒有呢（--neh）。我們沒……

林：沒親戚是——

張陳：它那個不知道是要去申請還是什麼，我わからない（不知道）。我們是沒……我們是沒有被選做說國語家庭。

林：所以在家裡講台語是不會被——

張陳：都不要緊啦。

林：都不要緊呢？

張陳：那個沒關係啦，那都沒關係。它也沒有阻止你啊，嘿。它盡量，是給你すすめてるだけけれど（給你推薦），你老人沒有辦法講〔日語〕啦。啊那時候我阿伯在當甲長乎，它那個……那是政府設的啦乎，^{よる}夜乎，來我們那，晚上時候，不知道幾點から幾點まで（從幾點到幾點），那些老人^{あつ}集まって（聚在一起），在那邊叫一個來在^{こく}教國……這樣講我們日語的啦。

林：嘿。所以在學校是說日語較多？

張陳：我們若在学校^{がっこう}定著（**tiānn-tiòh**，一定）是說日語啦乎，那時候就那個……回來家裡也都是〔說〕台灣話啊。

林：就是學校的朋友不是都是台灣人嗎？

張陳：都台灣人啊。

林：嘿啊，若這樣囡仔（gin-á，小孩、兒童）在玩的時候也是用日語嗎？

張陳：啊你那時候的日本人，一個叫做しょうがっこう小學校，那個……那個他們另外有一個がっこう學校，沒有和這些混呢（--neh）。

林：但是普通的，就是台灣人在讀的學校是日本人的老師較多嗎？

張陳：當然喔，日本老師。

林：全部都是日本人嗎？

張陳：そうね……我知道那時候給我們うも受け持ち（班導）都日本人啦，啊不知道有沒有再混到台灣人沒。

林：所以在學校要跟老師講話的時候是用日語——

張陳：嘿、嘿。

林：但是若說朋友之間這樣要做什麼的時候是用台語？

張陳：也是ちゃんぽん（混雜）啦，都這樣濫濫摻摻啦。

林：若這樣說……也是再回到這個電影的問題啦，就是說妳要怎樣說……怎麼知道說……像那個妳說ひろば廣場在放電影，妳是從哪裡知道這個消息的？

張陳：我跟你講，我們那大甲所在（sóo-tsai，地方）說闊不闊說小不小啦，啊就絕對就都風聲都會跑進來。啊那時候較……做囡仔（gin-á，小孩、兒童）〔的〕時代，就聽到說那個〔有電影要放映〕也歡喜甲（kah，到……的地步）毋（--m̄）？趕快吃，吃飽飯後就趕快椅子拿著，就趕緊要去佔位子了。

林：拿家裡的椅子呢（笑）？

張陳：嘿囉。そうでしょ（當然是這樣啊）。

林：是家裡離那邊很近呢？

張陳：沒……那個庄不是說很……像台北說這麼大啦乎，だから（所以）就……說小也不小，說大也不大啦。就とにかく（總之）若有一個什麼那個乎就說，以前是，我們那邊是精差（tsing-tsha，只差）沒有弄回覽板啦乎，啊也是好像〔有人說：〕「今天哪裡有要放電影喔！」乎這

樣，有一個消息〔的話〕就都會傳來啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），原來是這樣。若這樣妳還記得那時候電影的內容嗎？是說……譬如說男女在談戀愛的片啊，還是說是那種打鬥，那個要怎麼說……現在是叫做說「動作片」啦。

張陳：沒口*（hióng）……沒有像現在的動作片那麼厲害。都大部分都……まあ較……談戀愛那些的啦，好像說較情的毋（--m）（笑）？我們就大家講話的那個也不用啦。不像現在這個，大家都這樣，好像這樣乎，手腳都直直去（笑），そうじゃない（不是這樣嗎）？

林：所以那時候就是，是不是差不多到 40 年代之後，會有ニュース映画（新聞電影）？

張陳：啊？

林：就會放說和一些有戰爭〔、和戰爭〕有關係的？

張陳：喔還沒。

林：還沒。

張陳：喔那個戰爭那就較慢的事情了，那〔要在〕我嫁〔人〕之後了。我——

林：嫁〔人〕之後？

張陳：我……我嫁去那時候正好光復まもなく乎，啊那時候哪有戰爭片？乎。戰爭片就……有啦有一些，支那事變とか乎……也是原仔（uân-nā，也）有啦，その以前の啦。啊若這個大東亞戰爭這就沒有啦。

（我……我嫁去那時候正好光復過後不久，那時候哪有戰爭片？戰爭片就……有啦有一些，支那事變之類的……也是有啦，在那之前的啦。如果是這個大東亞戰爭這就沒有啦。）

林：若這樣有……不是說戰爭啦，有一些政府要宣傳什麼所做的片、所放的片嗎？

張陳：好像較沒有，我們——

林：較沒有。

張陳：我們那田庄較沒有在弄這些的。

林：所以是不是說田庄放的電影和，乎，市區放的電影——

張陳：那是精差（tsing-tsha，只差）……好像說一種放那個給你娛樂だけ（而已）啦，〔電影〕在做而已，意味がない（沒有意思）乎。娛樂だけ（而已）。

林：嗯嗯，娛樂。

張陳：嘿，娛樂乎。

林：嗯嗯，「娛樂」ですよ。

（嗯嗯，是「娛樂」嘛。）

林：若這樣妳那時候是喜歡看什麼樣的電影？妳有印象嗎？

張陳：まあ……沒什麼……沒什麼說喜歡不喜歡啦，とにかく（總之）有可以看就歡喜甲（kah，到……的地步）（大笑）。那時候就沒〔在〕選，戦争片也好，恋愛片也好，根本沒說什麼啦。

林：嘿。若這樣電影和歌仔戲比起來，妳較喜歡哪一種？

張陳：啊我是較愛看歌仔戲（笑）。

林：是怎樣咧？為什麼？

張陳：啊就……我就跟你說我那個姆仔（m--á，伯母）都愛看歌仔戲でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？啊都常常要叫我要和她做伴去看，啊看了就牢咧（tiâu--leh，上癮、入迷）啊。

林：它們是有那種劇情的，是嗎？就是說是連續的？今天——

張陳：對對對對。乎，今天可比（khó-pí，好比）說做（演）得讓你看到說：「喔！真激烈（kik-liát，精彩）」啊就終わり（結束）。啊明日你就再來了。

林：喔喔（Ooh-ooh），原來是這樣喔。啊那時候若是看電影，就是妳說去広場看電影，是大家一起去嗎？朋友一起去還是說是和——

張陳：囡仔（gín-á，小孩）啊。囡仔若……若〔是〕電影，老人較不愛看，我媽媽她們那輩較不愛看。

林：爸爸媽媽就不會去看？

張陳：不會，那是囡仔（gín-á，小孩）〔在看的〕。

林：囡仔（gín-á，小孩）這樣？

張陳：嘿、嘿。

林：是和自己的兄弟姊妹去看，還是說學校的朋友也會一起去看？

張陳：對啦對啦，那是較囡仔（gin-á，小孩）乎。大人……有啦，大人是原仔（uân-nā，也）有，查埔（tsa-poo，男人、男性）的較多，查某（tsa-bóo，女人、女性）的……早期查某〔以〕家庭為主でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？較沒有……好像說沒那個出去這樣……看那種彼个（hióng--ê，那個）在広場在看的乎，那較沒有啦。

林：若這樣那時候就是有聽到說有做電影就會去看這樣？

張陳：嘿。

林：有閒暇就會去看這樣？

張陳：嘿、嘿。那是田舎較有啦，啊若……若像這台北市我想是大概沒有啦是……我不知道。這裡較發展でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？啊那都騙田庄囡仔（gin-á，小孩、兒童）的（笑）。

林：啊怎麼說妳……妳說妳先生是那個月眉的人，若怎麼現在住在台北？

張陳：啊就……他在月眉学校教差不多3年還是4年，啊我們就……那時候娶我之後乎，啊それで、まあとにかく轉……轉勤乎，轉去台中，啊台中那……他們教員可以30年就可以退休，到30年退休，啊子供都長大了でしょ？我們囡仔（gin-á，小孩）都長大了，啊都……大部分都在台北，乎，大漢的來台北做生意，大女兒是去美國，啊這二女兒也來台北做工作，そしたら只有我們兩個在……在那個台中乎，他就說退休了だから就搬上來，それでそのうちを売って來台北買這間，這樣啦，嘿。

（啊就……他在月眉學校差不多3年還是4年，啊我們就……那時候娶我之後，然後……總之轉……調職轉去台中，啊台中那邊……他們教員可以〔教到〕30年就退休，到30年退休，小孩都長大了啊，我們小孩都長大了，都……大部分都在台北，大的來台北做生意，大女兒是去美國，啊這二女兒也來台北做工作，結果這樣就只有我們兩個人在……在那個台中，他（指先生）就想說退休了所以就搬上來，就把那邊的房子賣掉來台北買這間，這樣啦。）

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。那差不多是幾年的事情？

張陳：啥（hannh）？

林：差不多是幾年的事情？搬來台北？

張陳：搬來台北……搬來……そうね……我好像有寫起來的樣子，我看看（起身）。我不知道你今天要問這個，不然我那時候就把它找出來了。

林：（笑）不要緊妳慢慢來。

（張陳拿出記事本，坐下）

張陳：（翻閱記事本）72年。

林：民國 72 年的時候。

張陳：嘿，72 年。

林：所以妳在台北生活也很久了乎？

張陳：嘿，在這裡也很久了乎。

林：啊妳差不多是在幾年的時候，開始參加這個玉蘭莊的活動的？

張陳：參……^{ぎょくらんそう}玉蘭莊就……1993 年〔開始參加的〕。

林：1993 年，差不多 27、28 年前左右？

張陳：1993 年，這個我是有寫起來。

林：好，多謝、多謝。

張陳：1993 年正月，^{ぎょくらんそう えん むす}玉蘭莊と縁を結んだ（和玉蘭莊結緣）。

林：是因為說妳也是信——

張陳：啊^{ぎょくらんそう}玉蘭莊1989 年 9 月開始乎，だから我們慢……慢差不多 3 年沒去乎，這樣，沒有說它是

じ……開始我們就去了。我們也是來，乎，啊那個……聽人說，說那邊有一個「^{ぎょくらんそう}玉蘭莊」

乎。啊我們是那個……我們^{きょうかい}教會的人啦，在^{ぎょくらんそう}玉蘭莊在教毛筆，啊それで他在和我主人說——

——我主人就愛寫毛筆字でしょ——說：「啊^{ちよう}張さん^{ちよう}張さん，你愛寫毛筆的來^{ぎょくらんそう}玉蘭莊。」

乎，他說：「不要啦『玉蘭莊』，賣花的我是去那邊要做什麼？」他以為是賣花的啦，乎，

^{ぎょくらん}玉蘭^{はな}の花^うを売^{おも}つてると思ったの，乎。他就說：「不是啦，那是那個名字だけ啦。」啊就招

我主人^{しゆじん}，啊我才順便跟著他來乎。啊看了看就說，乎，啊他就在那邊寫毛筆，啊我是選一個

牧師娘，有一些手工藝的乎，それで^{はじ}始^{はじ}まったの。

（玉蘭莊 1989 年 9 月開始，所以我們慢……慢差不多 3 年沒去，沒有說它開……一開始我們

就去了。我們也是來，啊那個……聽人說，說那邊有一個「玉蘭莊」。我們是那個……我們教會的人啦，在玉蘭莊教毛筆，然後他在和我先生說——我先生就愛寫毛筆字啊——說：「啊張先生張先生，你愛寫毛筆的來玉蘭莊。」，他（先生）說：「不要啦『玉蘭莊』，賣花的我是去那邊要做什麼？」他以為是賣花的，以為是在賣玉蘭花的。他（教會的人）就說：「不是啦，那是那個名字而已啦。」就招我先生〔去〕，我才順便跟著他來。〔來了之後〕看了看就說，他就在那邊寫毛筆，我是選一個牧師娘，有〔教〕一些手工藝的，才開始〔參加玉蘭莊〕了。）

林：若這樣我想問說日本時代的囡仔（gin-á，小孩、兒童）會看的書……

張陳：看的書？

林：嘿，有這種東西嗎？

張陳：有啦，也是有^{としよかん}圖書館，^{だけど}（但是）我們這……這些貧^{pin-tuānn}懶^懶讀書的（笑），我不曾去過^{としよかん}圖書館（笑）。

林：那個看的書不只是說像那課本這樣的，還是說教科……那個教科書這樣，有沒有一些妳是有興趣才讀的書？

張陳：諄（hoooh），那我就不太……

林：^{ang-á-tshch} 厝仔冊（ang-á-tshch，漫畫）也算啊。

張陳：都查埔（tsa-poo，男性、男生）都玩^{ang-á-tshch} 厝仔冊（ang-á-tshch，漫畫），看^{まんが} 厝仔冊啦，^{まんが} 漫画。

林：那時候都叫「^{まんが} 漫画」嘛乎？

張陳：「^{まんが} 漫画」。那……它〔和〕現在的^{まんが} 漫画就同じくない（不一樣）（笑）。

林：嘿。那會看那個^{えほん} 繪本嗎？

張陳：^{えほん} 繪本也是會啊。

林：會，啊妳還記得說那時候的^{えほん} 繪本或是說^{まんが} 漫画的名字是什麼？

張陳：我不記得^{なまえ} 名前啦，^{だけど}（但是）^{まんが} 漫画我是較有在看啦。

林：就是^{まんが} 漫画和^{えほん} 繪本這樣。啊妳會看報紙嗎？

張陳：啊，那時候沒有啦，沒有在看報紙。

林：沒在看報紙。那會看小說嗎？會嗎？

張陳：^{しょうせつ}小説は見るよ（^み小說的話會看喔）。簡單的啦。那時候也才 15、6 歲，也是沒有說多那個……

林：啊有說小學的時候有特別愛看^{まんが}漫画，但是就是進去國中後開始愛看小說這樣嗎？有嗎？

張陳：喔那定著（^{tiānn-tiōh}）時代的，^か家政女^{せいじょがっこう}學校那時候較大了でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？才會看那些^{れんあいしょうせつ}戀愛小說見る啦乎。だけど（但是）^{ぼん}罔（姑且、將就）看而已啦（笑）。

林：罔（^{ぼん}，姑且、將就）看（笑）。那……啊那時候^{まんが}漫画是……我看一下，妳上次寫的這個〔問卷〕是〔寫說〕，妳說是在學校看到的？

張陳：什麼啊？

林：^{まんが}漫画。

張陳：^{まんが}漫画の？那個……你說電影那個？

林：不是、不是，^{まんが}漫画，書的^{まんが}漫画，^{ang-á-tshch}尪仔冊（^{ang-á-tshch}，漫畫）。

張陳：^{まんが}漫画喔，那就可比（^{khó-pí}，好比）說，原仔（^{uân-nā}，也）○○○啦。可比說他看完之後乎，啊不知道那個從哪裡來……那個從哪裡傳來也わからない，啊他就說：「^{つぎ}次、^{わたし}私。^{つぎ}次、^{わたし}私。」這樣まわし^よ読み啦。いつたい誰買的也わからない，ただまわし^よ読みしてる。（漫畫喔，那就好比說，也是○○○啦。比方他看完之後，啊不知道那個〔漫畫〕從哪裡來……那個〔漫畫〕從哪裡傳來的也不知道，他就〔會〕說：「下個換我、下個換我。」這樣傳閱啦。到底是誰買的也不知道，就只是傳閱著。）

林：但家裡會說爸爸媽媽會買給妳看嗎？

張陳：啊不可能啦。

林：不可能？

張陳：不可能啦！你看那個，爸爸媽媽會罵喔，說：「^{gín-á-lâng}囡仔人（^{gín-á-lâng}，小孩子）看那些要做什麼！（^{おこ}模仿生氣語氣）」怒られるよ（會惹他們生氣喔）。

林：是看什麼書他們都會這樣，還是只有^{ang-á-tshch}尪仔冊（^{ang-á-tshch}，漫畫）而已？

張陳：不是不是，他們知道說那〔是〕^{まんが}漫画乎，他們是不會看だけど（但是）他們知道，他就說：「書不讀你還看那個要做什麼！（模仿生氣語氣）」這樣啦。

林：他是覺得說那個^{まんが}漫画就是較無定著（tiānn-tiòh，穩重）的東西這樣？

張陳：對啦、對啦、對啦。你顧〔著〕看那個就是書沒讀啦。

林：若是^{しょうせつ}小説は？

張陳：啊^{しょうせつ}小説他們不知道啊，他們根本わからない，啊^{まんが}漫画那個就畫^{まんが}廷仔だからわかるでし

よ？啊我們也沒那個ひま啦，我們うち，我就和你說我們開那個……那個^{おろしや}卸屋でしょ？回去喔，都說：「顧店！」，也是要幫忙。

（小説他們不知道啊，他們根本不知道，啊漫畫那個就畫人偶所以會知道啊。我們也沒有那個空閒啦，我們家，我就和你說我們開那個……卸屋嘛，回去喔，〔家裡的人〕都說：「顧店！」，也是要幫忙。）

林：就要幫忙^{かん}扞（huānn，掌管）家裡這樣。

張陳：幫忙看〔顧〕啦。就可比（khó-pí，好比）說，他們查埔人（tsa-poo-lâng，男人）你要吃飯啦乎還是做什麼啦乎，店沒有人顧就不行咧。我們做那種的^{いそが}多忙しい（忙碌）的。

林：所以是有看過^{まんが}漫画，啊是……那個^{まんが}漫画是說一本裡面全部都是^{まんが}漫画，還是說是——

張陳：都……整本都^{まんが}漫画。

林：整本都^{まんが}漫画。

張陳：嘿，整本都^{まんが}漫画。

林：啊那是說一個月會出一次的那種嗎？

張陳：まあ…わからない（不知道）。とにかく（總之）就都是和人借來看啦，自己買的沒有。

林：還是說有看過說那種書，說裡面有^{しょうせつ}小説也有^{まんが}漫画的那種嗎？

張陳：□□□□就可比（khó-pí，好比）說彼个（hióng--ê，那個）^{にほん}日本から（從日本），乎，什麼什麼「^{くらぶ}俱樂部」、《^{ふじんくらぶ}婦人俱樂部》とか（之類）那種的啦。那種的差不多來到^{じょがっこう}女學校才會去看那些。

林：欸……國小的時候就開始看《^{ふじんくらぶ}婦人俱樂部》呢？

張陳：沒沒，都差不多來到女^{じょがっこう}学校才有〔看〕。那時候小^{しょうがっこう}学校較沒有，那時候都看^{まんが}漫画啦乎。後來到女^{じょがっこう}学校才會看那些《婦人俱樂部》とかいろいろな（之類的很多）……啊那個我自己沒有買啦，我都那個……まわし^よ読み（傳閱）啦。

林：要怎麼知道有這種書？

張陳：啊拿來看啊，人家若在看就說：「え！次^{つきか}貸してくださいよ（欸！等一下借我）」這樣まわし^よ読み（傳閱）。

林：「我也要看」這樣（笑）。

張陳：嘿、嘿、嘿，這樣啦。

林：所以不會說去……像說我們現在都去書店這樣看？

張陳：沒沒沒，好像較沒有。它那個乎，它那個有的有錢人乎，都まあ^{まいつき}毎月有訂，^{まいつき}毎月，啊他就□□*（kiat-kō）他看完，看完就拿來^{がっこう}学校，就大家まわし^よ読み（傳閱）這樣啦。

林：原來是這樣乎。所以妳當時，妳對於^{まんが}漫画是怎麼想的？因為妳說妳爸爸媽媽是反對妳們看嘛，啊妳自己是怎麼想的？

張陳：自己覺得面白^{おもしろ}い（笑）。面白^{おもしろ}が^みって^{べつ}見てるだけ、別に。

（我自己覺得有趣（笑）。覺得有趣所以就^み看，沒有特別）

林：なんで面白^{おもしろ}い^{おも}と思いましたか？

（為什麼覺得有趣呢？）

張陳：まあ、絵^え乎……とにかく乎，その絵^えを^み見て^{よろこ}喜んでる（笑）。

（畫……總之看那個畫覺得開心（笑）。）

林：就是很心適（sim-sik，有趣）、很趣味這樣啦乎？

張陳：嘿、嘿，趣味。それから（還有）那個字句也趣味趣味乎。

林：啊那樣的書、那樣的^{まんが}仔冊（ang-á-tshch，漫畫）是、^{まんが}漫画是台灣人畫的嗎？還是說是日本人畫的？

張陳：日本^{にほん}からよ。台灣畫的就，誰^{だれ}も^み見たくない（笑），畫得不好看。

(是從日本來的。台灣畫的就，誰也不想看(笑)，畫得不好看。)

林：不好看？

張陳：不好看，那都是日本^{にほん}から(從日本來的)。

林：所以妳看過台灣人畫的東西嗎？

張陳：沒啦，都是日本^{にほん}から(從日本來的)。我就跟你說，人家那個每月都有那個何^{まいつき}何^{なんごう}何^{なんごう}何^{なんごう}何^{なんごう}號
這樣。

林：那是在台灣……就是台灣也看得到啦，但是那個書是在台灣印的嗎？

張陳：對對……沒啦，就可比(khó-pí，好比)說人家去日本訂的，啊結果看完了でしょ？看完有
的就まあ淘汰書でしょ？だから……好像說有一個古^{ふる}……古本屋^{ふるほんや}あるでしょ，借來看就較安^{やす}
い
でしょ？

(對對……沒有啦，就好比說人家去日本訂的，啊結果看完了嘛，看完有的就淘汰書，所以
……好像說有一個舊……舊書店吧，借來看就比較便宜啊。)

林：欸？所以那時候看，可能也會有那種「貸本屋^{かしほんや}」？

張陳：我們那時候說都叫做「古本屋^{ふるほんや}」。

林：「古本屋^{ふるほんや}」。那是可以和他們借，還是說就是花錢這樣買這樣？

張陳：都可以，你想怎樣，跟〔他們〕借也可以，お^{かね}金^だ出してもいい(付錢也可以)。啊大部分
都借的較多啦。

林：借的較多。那是用囡仔(gín-á，小孩、兒童)的錢就可以借的嗎？就是沒有很……說很貴這
樣？

張陳：我是不曾去借啦，我是都まわし^よ読み^みで見てるだから(傳閱著來看)。

林：所以他們(別人)借來的漫画^{まんが}也是可以說大家這樣，まわし^よ読み^み(傳閱)這樣看？

張陳：可以啦，可以啦。

林：喔喔(Ooh-ooh)。

張陳：阮(gún，我)学校^{がっこう}時代^{じだい}是都まわし^よ読み^みしてる啦。那時候哪有那個余^{よゆう}裕？大家不是像現
在，大家都有那個余^{よゆう}裕でしょ？較早的人乎，おかしいね，較早怎麼會大家都那麼窮，我也

不知道。

（我學生時期是都傳閱著看啦。那時候哪有那個餘裕？大家不是像現在，大家都有那個餘裕嘛。以前的人，很奇怪呢，以前怎麼會大家都那麼窮，我也不知道。）

林：啊那時候有零用錢嗎？

張陳：零用錢……我們是大甲的人乎，まあ要零用錢就要做工作啊。我們たいこうぼう你知道嗎？「大甲帽」。たいこうぼうし。

林：ぼうし。

張陳：有名だよ！たいこうぼうし！

（很有名喔！大甲帽！）

林：あれ、なんですかね？

（那是什麼？）

張陳：ぼうしをかぶる帽子よ。

（ぼうし就是戴的帽子。）

林：大甲帽？

張陳：あのう……那就一個……好像草蓆仔，草蓆仔你把它剪下去，あれで編んで乎，啊かぶる。

大甲帽。

（那就一個……就是用草蓆你把它剪下去，用它編織然後戴的，大甲帽。）

林：大甲帽。

張陳：大甲帽。あれ有名だよ！台湾的（え）大甲帽有名だよ！

（大甲帽。那個很有名喔！台灣的大甲帽很有名喔！）

林：失礼いたしました。

（不好意思。）

張陳：嘿，啊お金……可比（khó-pí，好比）説明日学校要交什麼お金，和有一個人討乎，他就會說：「好啊，」比方說大甲帽人做好了，大人做好了，這個墘（kinn，邊緣）要編むでしょ？

「這 10 頂你去勾一勾，再來領錢。」這樣啦。沒有說那麼隨便說：「私、10円欲しい」すぐ

にあげられない。啊就作^{つく}ってきたらお金^{かね}もらえる。

（啊錢……比方說明天學校要交什麼錢，和有一個人拿，他就會說：「好啊，」比方說大甲帽人家做好了，大人做好了，但是這個邊緣要編啊？〔那個人就會說：〕「這 10 頂你去勾一勾，再來領錢。」這樣啦。沒有說那麼隨便說：「我想要 10 元。」沒辦法馬上給你。啊就做好拿來，就可以拿到錢。）

林：就是要自己有做什麼才可以得到乎？

張陳：そうそうそう（對對對）。你有出那個力才可以領到錢。我們是這樣啦，我們是這樣長大的啦。啊不一定說大家都是這樣啦，嘿。

林：若這樣那時候看的，就是漫画^{まんが}以外的，譬如說小說^{しょうせつ}、譬如說繪本^{えほん}，那是在圖書——

張陳：我們那時候都是說漫画^{まんが}、漫画^{まんが}啦。

林：都是講漫画^{まんが}、漫画^{まんが}。妳不是說妳有看戀愛……戀愛的小說？

張陳：小説那是なにに《婦人俱樂部》とか、なに俱樂部とかいろいろ乎，那種的才較有那些〔小説〕。若是漫画^{まんが}就是漫画^{まんが}。

（小説那是什麼什麼《婦人俱樂部》之類什麼俱樂部之類的很多，那種的才筆記有那些〔小説〕，若是漫畫就是漫畫。）

林：原來是這樣。

林：啊妳……所以妳有……妳日本時代有聽過「漫画映画^{まんがえいが}」嗎？

張陳：漫画映画^{まんがえいが}我們大甲較無看〔到〕『呢（--nch）。

林：就是電影……它是電影但不是真正的人——

張陳：好像較沒有咧乎，我們在田舍^{いなか}較沒有那種的。我們是都，まあだいたい（大部分），只有在說

戦争映画^{せんそうえいが}那是その以前的日本的戰爭的片，乎，可比（khó-pí，好比）說……啊それから（還有）恋愛^{れんあい}乎……恋愛^{れんあい}的那個映画^{えいが}這樣乎，差不多是〔這樣〕。啊若說這個〔漫画映画^{まんがえいが}〕好像較稀罕，較沒有。あとは本^{ほん}見るだけ（還有就是看書）。

林：所以你那時候是沒聽過說電影的漫画^{まんが}嗎？是這樣嗎？

張陳：有是有啦乎，較無……我們那邊好像較沒有在放。

林：就是自己沒看過這樣？

張陳：我較少在看。我好像そういう印象は残ってない乎。

（我比較少在看。我好像沒有那種印象。）

林：啊是在哪裡知道有這種東西的？

張陳：漫画？

林：嗯，電影的漫画。

張陳：喔，原仔（uân-nā，也）也是那個……まあとにかく我們那邊是較稀、較沒有啦。較沒有だ

から一半擺仔（tsit-puànn-pái-á，偶爾），可比（khó-pi，好比）說学校としては也沒要做給你看啦乎，学校哪有說做漫画給你看？絕對沒有的嘛乎。啊哪知道？這個就……我感覺說，電影として看漫画我較……好像較沒有。

（喔，也是那個……總之我們那邊是比較少、比較沒有啦。比較沒有所以偶爾，好比說學校也沒有要做給你看，學校哪有說做漫畫（指漫画映画）給你看？絕對沒有的嘛？啊怎麼知道？這個就……我是覺得看漫畫的電影我比較……好像比較沒有。）

林：好。若這樣……普通的電影妳說沒有……啊歹勢、歹勢。我想要問說妳看過的電影，和漫画，妳看過的漫画，有沒有什麼相同或是相似的主題？

張陳：你說漫画和什麼？

林：漫画和電影。

張陳：你是看本？你說本……漫画本和那個——

林：漫画的（ほん）本，和那個妳們會在広場看的電影，有沒有什麼相似的主題？

張陳：相似題……まあとにかく，你若看電影的漫画加減動くでしょ？啊這個看本的就動かない。這樣，差不多是這樣啦。

（相似〔的主〕題……總之，你如果看電影的漫畫多少會動嘛？啊看這個輪的就不會動。這樣，差不多是這樣啦。）

林：若這樣我想要問在戰爭結束之前，妳覺得妳是哪一國的人？妳是哪裡的人？

張陳：……你說？

林：日本時代的时候——

張陳：嘿。

林：——妳覺得妳是哪裡的人？

張陳：啊我們就台灣人，你是要問什麼哪裡的人？

林：嘿，我想說〔那時候〕台灣人會不會覺得說自己是日本人這樣？

張陳：喔喔（Ooh-ooh），那是有的有覺得說：「^{わたし にほんじん}私は日本人だ（我是日本人）」，我是沒想。我連去想那些都沒有。

林：連去想那些也沒有……是太忙沒去想到那裡還是？

張陳：不是啦，也不是說忙，^{かんが}そういう考えがなかった（沒有那種想法）。有啦，有的現在在^{ぎょくらんそう}玉蘭莊有的也說：「^{ほお}諄（hoooh），我較早……^{にほんじん}日本人だよ（我以前是日本人喔）！」乎這樣，我也沒去想那些的。

林：就覺得自己是台灣人？

張陳：自己是台灣人這樣乎。有啦，有人……^{おも}そういう思いもある人がある（也有人那樣想）。

林：なんか聞いたことありますよね。

（好像有聽過。）

張陳：あります。たくさん……いつも……^{ぎょくらんそう}玉蘭莊よく……

（有。很多……總是……玉蘭莊很……）

林：〔妳〕現在也是覺得說自己是台灣人嗎？

張陳：もちろん（當然是）台灣人。

林：若這樣妳剛剛去這樣想日本時代的事情的時候啊，妳是用什麼樣的心情去想的咧？是說感覺說很歡喜，還是說……？

張陳：你是說日本時代和現在的時代？

林：不是，就是妳剛剛不是都講妳小時候的事情嗎？啊妳小時候是日本時代嘛，啊日本時……妳剛剛去想那些妳小時候所發生的事情，是用什麼樣的心情去想的？

張陳：嗯……警察見たら怖い（笑）。囡仔（gin-á，小孩）若是在哭乎，你說「警察來囉」すぐ就安靜了。這個警察這個真有那個……現在的警察若警察咧，沒人在怕啦乎，這個就差在那啦乎。啊それからとにかく不要說那個……とにかく乎，它這個大……這個日本時代有這個大掃除，乎，一年兩次乎，決定東西都要搬搬出來，もうとにかく要弄得乾乾淨淨，過一下警察來，會來巡乎。這樣感覺說這個對這個……まあ日本時代有這個制度，我也覺得說悪くない。乎，較沒有那些蚊子蟲，啊它大掃除のあと就要我們這個「灰」乎，「灰」，有沒有？我們這個抹壁（buah-piah，水泥牆壁）的灰乎，これをまく。大掃除のあと那個壁角都要これをまく。これ對衛生いい。第一，感覺日本時代衛生也好，乎，啊還有警察見たら怖い這樣乎。啊感覺說……

（嗯……看到警察就怕（笑）。小孩如果在哭，你說「警察來囉」他馬上就安靜了。這個警察這個真有那個……現在的警察像警察的，沒人在怕啦，這個就差在那。還有總之不要說那個……總之它這個大……這個日本時代有這個大掃除，一年兩次，規定東西都要搬出來，總之要弄得乾乾淨淨，過一下警察來，會來巡。這樣感覺說這個對這個……日本時代有這個制度，我也覺得說不壞。比較沒有那些蚊蟲，大掃除之後就要我們這個「灰」，「灰」，有沒有？我們這個水泥牆的灰，撒這個。大掃除之後那個壁角都要撒這個。這樣對衛生好。第一，感覺日本時代衛生也好，啊還有看到警察會怕。啊感覺說……）

林：學校的生活呢？

張陳：学校の生活……学校、先生は厳しい。厳しい。很嚴的。

（學校的生活……學校老師很嚴格。很嚴格。很嚴的。）

林：所以就怕嗎？

張陳：會怕啊。

林：會怕，但不會說到不喜歡這個……不喜歡日本人的先生（老師）嗎？

張陳：それはそう。怖い、その先生を見たらもう怖い、嘿、嘿、嘿。啊だけど他厳しい、可比（khó-pí，好比）說，不要說什麼□□*（tshing-kóng）跳那個高飛び，他有弄一個高高的那個給你跳，我對這個體操我就很預顛（hân-bân，沒有才能、不在行）的，跑跑跑……就止ま

つてしまって不敢跳上去，怒られるよ！他就會說：「もう一回！」

（對。恐怖，看到那個老師就覺得好恐怖。啊但是他很嚴格，比方說，不要說什麼□□，跳那個跳高，他有弄一個高高的那個給你跳，我對這個體操我就不在行，跑一跑就停下來不敢跳上去，會被罵喔！他就會說：「再一次！」）

〔中略〕

張陳：再跳也跳不上去。這個給我印象（笑）……だから（所以）我感覺說我對這個……まあ体操方面我實在很預顛（hân-bān，沒有才能、不在行）。跑也預顛，□*（thiann）也預顛，嘿，沒辦法。

林：但是妳現在說妳去回想那個日本時代的記憶的時候，妳會覺得說有痛苦，或是說有歡喜這種的心情？

張陳：まあ……痛苦もある（嘛……也有痛苦），歡喜也是這樣，都……

林：和戰爭結束之後的生活比起來咧？

張陳：戰爭現在〔結束後〕換中國來，これは嫌い（笑）。這……同じくない。

（戰爭現在〔結束後〕換中國來，這個就不喜歡（笑）。這……不一樣。）

林：是……是因為妳覺得說他們是中國人，妳是台灣人這樣嗎？

張陳：不是不是不是，他們來，亂來。とにかく乎，日本時代と比べたらね、天と地の差。第一，來就衛生也悪い，行儀も悪い，何も悪いよ。現在是來台灣，給這些台灣人教到說，現在有較那個了啦。

（不是不是，他們來，亂來。總之和日本時代相比就是天差地遠。第一，來了衛生也差，規矩也差，什麼都差。現在是來台灣，給這些台灣人教到說，現在有比較那個了啦。）

林：嘿。但是那時候，就是戰爭結束之後，聽說國民黨要來台灣的時候，妳們是——

張陳：欸！みんな……那時候我也差不多……說細漢（sè-hàn，年齡較小）也不細漢了啦乎，差不多16、7歲了。まあみんなよろこんでるよ，說：「啊！祖國要來管了。」乎，我那時候我也沒有在想說祖國若祖國咧，そういう思いがなかった。啊看那些他們來，這就說：「ああ、こんなものか。」揸著鍋子囉、面桶（bīn-tháng，臉盆）囉有的沒的乎，啊傘乎，也都用koh

揸的這樣。唉，看那個就和日本兵就ほん^{てん}と天と地^ちの^さ差，就不一樣。啊那個時候就感覺漸漸就說，啊^{きら}嫌い^ね，這^{ちゅうこく}中國。

（欸！大家……那時候我也差不多……講年紀小也不小了，差不多 16、7 歲了。大家很高興喔，說「啊！祖國要來管了。」我那時候我也沒有在想說祖國不祖國的，那時候沒有那種想法。啊看他們來，這就說：「啊是這樣的啊」揸著鍋子啦、臉盆啦有的沒的，啊傘也都用揸的這樣。唉，看那個就和日本兵真的天差地遠，就不一樣。啊那個時候就漸漸感覺說，啊不喜歡這個中國。）

林：尤其是戰後又有發生一些事情乎？

張陳：我們這些受到日本教育的感覺就說，やばし^{にほんじだい}日本時代^を思い出す^{おも}（果然會想起日本時代）。

林：だからこう、日本時代のことを思い出すと、何らかの、そういう……

（所以想起日本時代，就會有什麼……那個……）

張陳：我們可比（khó-pí，好比）說現在，譬如說現在中國仔管的和日本時代就，我們是較喜歡日本時代。

林：所以是因為……妳感覺說是不是因為戰後國民黨來台灣，那時候台灣較亂，才會覺得說日本時代的統治較好這樣？

張陳：それもあるだけれど乎、やっぱし……まあとにかく這個中國仔欺負我，不喜歡啦。何を^{なに}やつても覺得乎……自私啦。嘿，自私啦。

（也有那個原因啦，但是果然……總而言之這個中國仔欺負我，我不喜歡啦。做什麼都覺得……自私啦。對，自私啦。）

林：就是因為台灣已經說乎，在台灣這個島嶼已經生活好幾年、幾百年了乎，生活習慣都和中國較不相同這樣乎？

張陳：嗯嗯，對啦。

林：若這樣妳現在所用的語言，就是妳說的話，是差不多都是台語較多？

張陳：台語，嘿，我華語較不會講。我沒讀到ㄅㄆㄇㄏ，だから你說看是だいたいわかる（所以

你說看是大致看得懂) 啦乎——

林：因為都是漢字嘛乎？

張陳：啊□□* (kiat-kō) 叫我用□* (koh) 讀的就沒辦法。

林：嗯，我也不太會，說用華語的文章用台語讀這樣。

張陳：嘿，沒辦法。光是這三字「你、我、他」這個我就分不清了呢 (--neh)，這三個字我真的
分不清。

林：但是台語的「你、我、他」不是更多？妳看像「我 (guá)」這樣講，我也可以說「阮
(gún)」這樣講，啊「阮」也可以說是「阮兩人」——

張陳：「我們、你們」，這個還分得清，啊這個「你、我、他」我就□□* (kan-na) 分不清。

林：所以是大部分和……若這樣妳和妳囡仔 (gín-á, 小孩)、和妳孫子講話也都是用台語嗎？

張陳：諄 (hooh)，這就是很麻煩的事，我們那些孫子乎，都講華語乎，啊それで (所以、然
後) 我若有時候打電話給他乎，若問他說：「啊吃飽未？」他わかるよ (懂喔)。

林：聽是聽得懂這樣？

張陳：〔他會回說：〕「我吃飽了」乎，わかる (他可以懂)。啊這若再講下去乎，他就說：「阿
媽，你講什麼？我聽不懂。」這就……這就阿媽和孫子就又再這樣了。感覺だけ (感覺而
已) 就好。啊若〔是〕我囡仔 (gín-á, 小孩)〔就〕都知道，都和我講台語。

林：所以是妳囡仔 (gín-á, 小孩) 和妳孫子講話的時候是都用華語嗎？

張陳：他們都華語で話してる (說華語)。我第一，媳婦是外省 (がいしやう
がいはい) でしょ (啊、嘛，表確認語
氣)？

林：所以她聽不懂台語呢？還是說聽得懂，只是不會講？

張陳：台語會，我媳婦不是說完全都不會講，她媽媽是台灣人，爸爸是中國仔，中國兵仔的乎，
だから我媳婦會講。だけど在家裡她就是和他們都講華語，不和他們講台語，だからこの点
よくない。啊若我兒子是會和她講台語，だけど他是去在 中国 (ちゆうこく) 在做生意乎，較少在家裡，
是現在為了……現在這個コロナ (かえ) 咧，帰ってきてるでしょ？乎，不然不敢再去乎，這樣だ
け。

（台語會，我媳婦不是說完全都不會講，她媽媽是台灣人，爸爸是中國人，中國兵，所以我媳婦會講。但是在家裡她就是和他們都講華語，不和他們講台語，所以這點不好。啊如果是我兒子是會和她講台語，但是他是去中國在做生意，比較少在家裡，是現在為了……現在因為 corona 回來啊？不然不敢再去，這樣而已。）

林：若這樣現在可以用日語講話的時候，真的是都〔只有〕在玉蘭莊的時候？

張陳：玉蘭莊。以前我……我主人^{しゅじん}去年^{さくねん}亡^なくなつたでしょ（我先生去年過世了嘛）？他若在家，我們兩個是都大部分講日語較多。

林：喔～是這樣喔。

張陳：乎這樣啦。啊現在他^な亡^なくなつてる（去世了）我是要和誰說日語？說日語就沒人聽懂啊。

〔中略〕

張陳：啊跟我這個外勞，又更〔說〕不通。

林：她是說華語呢？還是？

張陳：華語她聽較懂，啊華語我就較不會講，台語她就完全聽不懂。啊都……まあ、とにかく手^てで、「こうしなさい」「あれしなさい」這樣，これだけ。啊聞^きいてわかるかわからないか（笑）……まあとにかくこれでもう3年^す過ぎたから、まあまあ……

（華語她聽比較懂，啊華語我就較不會講，台語她就完全聽不懂。都……總之用手〔比〕「做這個」「做那個」這樣，這樣而已。啊〔她〕聽懂還是聽不懂（笑）……總之這樣過也已經3年了啦……）

林：喔，已經3年了喔？

張陳：啊她來顧我主人^{しゅじん}（先生）啊，我們那時候請的時候來顧3年。啊3年後現在換到，換成顧我啦。

〔中略〕

張陳：我是說不要啦，我就還可以走，啊我那些子^{こども}供（小孩）就說，和我做伴啦，叫我和……叫她和我做伴啦。

林：嘿啦，也是會怕說——

張陳：啊實在是也不用啦，不用做伴啦，我兒子就上^{むすこ}住^{うゑ}上^す住^すんでるでしょ？2階^{かい}に住^すんでる。我這裡頂樓^{うゑ}でしょ？上^{うゑ}まだ還有再建起來。

（實在也是不用啦，不用作伴啦，我兒子就住在上面嘛？住在二樓。我這裡頂樓啊，上面還有再建起來。）

林：喔～原來是這樣。

張陳：嘿、嘿、嘿。

林：好啊，我還想要問一些戰爭後的事情。就是戰爭之後妳較……是不是較有機會可以看電影？

張陳：そうそう（對對）。我嫁我主人^{しゅじん}（先生）那時乎，我這個……他在學校^{がっこう}在教書乎，啊那個……かちようさん乎，他的家長啦乎，在那個電影院……他那稅捐處^{すゑくわんしゅ}（suè-kuan-tshù）的人，稅捐處你知道乎？

林：「稅捐處」。

張陳：そうそうそう稅捐處的人乎。他們都要去這個……那個電影院乎，要去……票喔，要去^{しら}調べる。啊都……他去給它坐在那邊，そしたら人就不會……好像說不會說沒錢就把它從（tsông，跑）進來啦，だからいつも切符^{きっぷ}もらってる，無論哪一齣都看到齊著（tsiâu-tiòh）。（對對對，稅捐處的人。他們都要去這個……那個電影院，要去……票喔，要去調查。都……他去給它坐在那邊，這樣人就不會……好像說不會說沒錢就給它跑進來啦，所以一直都有拿到票，無論哪一齣都不會看漏。）

林：若這樣那時候看的電影——

張陳：那時候我的電影看不少，嘿，那時候看不少。

林：啊那時候看的電影是，都是中國的電影嗎還是說——

張陳：ちがちが^{ちが}（不是不是）。也是……也是也有日本的^{にほん}，不一定說——

林：有日本電影？

張陳：有喔有喔！我們較喜歡看日本的^{にほん}喔！有啦是也是有那個（指中國電影）だけど（但是），我們是你若切符^{きっぷ}（票）給我們，我們就看在做什麼，若日本的^{にほん}我們很愛看。

林：很愛看是因為說，那是有感覺說看完會懷念還是因為——

張陳：啊對對對對。啊中國的（^{ちゅうこく}é）見ても……都是可比（^{りこうらん}khó-pí，好比）說李香蘭とか乎，那些較出名的啦乎，那種才較有看。啊他原仔（^みuân-nā，也）看我們這台灣片我就見たくない。

台灣片は見ない、台灣人だから台灣片は見たくない。做得較……水準較差啦。

（啊對對對對。啊中國的就算看了……都是好比說李香蘭之類，那些比較出名的啦，那種才較有〔在〕看。啊他也看我們這台灣片但是我就不想看。不看台灣片，因為是台灣人所以不看台灣片。做得比較……水準比較差啦。）

林：水準較差……那個水準是說什麼的水準？是說劇情還是……？

張陳：とにかく較沒有那麼會……你電影你見てごらん，你美國片和那個……我們這個中國片，你比べてごらん，美國片是做到真……讓你看到這樣もうとにかく說……諄（^みhoo）……

（總之比較沒有那麼會……你電影你給它看，你美國片和那個……我們這個中國片，你給它比看看，美國片是做到真……讓你看到這樣總之就是說……諄……）

林：整個人都陷進去這樣。

張陳：嘿。啊你若中國片你看得你會喜歡嗎？我不……我わからない。我們不知道是（笑）……不是說水準那麼高けどもう，やばし那個^{あたま}頭^{なか}の中都灌那些思想在那。

（是。如果你看中國片你看了會喜歡嗎？我不〔喜歡〕……我不知道。我們不知道是（笑）……不是說水準那麼高但是，果然那個頭腦裡都灌那些思想在那。）

林：但是說戰爭之後看的「台灣人做的電影」，妳說的「台灣人」是說，「外省人」做的電影還是？

張陳：不要說外省仔啦，我現在在看テレビ乎，若那個台灣齣（^みtshut，戲）我見たくない，我們都看日本的呢（--neh）。

（不要說外省人啦，我現在在看電視，如果是那個台灣劇我不想看，我們都看日本的呢。）

〔中略〕

張陳：啊本來我息子（^{むすこ}兒子）都說：「啊媽妳都看這些，我看不懂啦。」乎，他都會下來和我，陪伴我看電影啦乎，啊我就說：「啊你看不懂。」欸現在它旁邊有解說，弄華語解釋，だから（所以）他看懂了，他也會跟著我這樣看啦，嘿。

〔中略〕

張陳：哪知道，我就都〔看〕日本台較多，我就不太愛看那些。有啦，現在我們這個……請的這

個愛看彼个（hióng--ê，那個）外國台，她看日本台就見てもわからないでしよ（看也看不懂嘛）？嘿啦，她若那個……若有閒就去給我切，換那外國台在看。

林：若這樣說，說日本時代妳們看的書有中國的書，或是說漢文寫的書？有嗎？

張陳：我是沒遇到。

林：妳沒遇到，都是日語寫的？

張陳：就以前說什麼「人之初」什麼「性本善」，那我全然わからない。那我主人較知道，他大

我3歲乎，啊又在做教員乎，比較起來這較……他較熟，我較不知道。我們較早查某人

（tsa-bóo-lâng，女人）就是查某人的工作がある，較對這個……對外的都較沒有什麼那個……

とにかく家庭は這樣……好像講家庭顧好，就好像說別的較沒有在理啦。

（就以前說什麼「人之初」什麼「性本善」，那些我完全不懂。那些我先生比較知道，他大

我3歲，又在做教員，比較起來……他〔對這個〕較熟悉，我比較不知道。我們以前女人就

是有女人的工作，對這個比較……對外的都比較沒有什麼那個……總之家庭是這樣……好像說

家庭顧好，就好像說別的就比較沒有在理啦。）

林：所以是結婚之後妳就做……日語是講那個「專業主婦」，就是做家庭？

張陳：家庭，嘿，家庭，家庭做好。只有顧囡仔（gín-á，小孩）、看那些囡仔。

林：啊這樣我想問妳有對「桃太郎」有什麼印象？

張陳：桃太郎那是……那也不是說實在的啦，那也是一種的……「御伽噺」みたいだ（類似童話

／民間故事啦）！你給它想，我是都覺得像這樣。較早哪真的有什麼桃太郎（笑）？

林：我是有聽過說，是不是那時候學校的課本裡面有桃太郎的故事？

張陳：也是有啊乎，也是有啦。是在說這個……這就像一種的「御伽噺」啦，乎，它好幾齣那我

給它看那是都御伽噺。だけど面白い，別に給你……也沒去想那個……我們自己わかつて

る，說：「啊這個御伽噺啦。」だけど面白い，趣味趣味這樣。不是說做到這樣讓你すぐに

就那個啦乎……

（也是有啊，也是有啦。是在說這個……這就像一種「御伽噺」啦，它〔有〕好幾齣那我看都是「御伽噺」，但是很有趣，沒有特別給你……也沒去想那個……我們自己知道，說：「啊這個〔是〕『御伽噺』啦。」但是很有趣，很有趣味這樣，不是說做到這樣讓你馬上就那個啦……）

林：那會唱那個桃太郎的歌嗎？

張陳：會啊！「桃太郎さん桃太郎さん～」那個會啊，只是……欸？在玉蘭莊也有唱啊！

〔中略〕

張陳：〔桃太郎的歌是〕說以前のこと（以前的事情），啊〈浦島太郎〉〔也有〕（笑）。

林：啊「浦島太郎」。

張陳：嘿，這也是都口*（gé）一個故事啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），若這樣是……那個桃太郎的歌，是像現在玉蘭莊在唱的一些日本歌，都是
在日本時代學的？

張陳：そうそうそうそう（對對對對），都是在〔日本時代學的〕……啊這些……我們這些年紀的
人較喜歡以前的歌。

林：昔の歌って——

（以前的歌是指——）

張陳：〈桃太郎〉とか、〈浦島太郎〉とか這些乎，啊〈さくらさくら〉、これもいいし。

（〈桃太郎〉之類、〈浦島太郎〉之類的這些，啊〈さくらさくら〉這個也很好。）

林：昨日のそれ、いいですね。

（昨天的那個，很不錯呢。）

張陳：有啊，昨天也有唱〈花〉，也有唱〈さくらさくら〉乎。不會啦昨天唱那些……だいたい較

（大多較）……

〔中略〕

林：我有一件事情忘記問。就是上次那個……上次那個アンケート（問卷），妳有寫一個……在哪
裡？歹勢，我找一下（翻找）。這裡，妳有寫一個這個（指問卷），「少女画報」。這是什麼

啊？這是雜誌的名字嗎還是？

張陳：嗯？這……

林：這妳寫的啊，乎？後面有妳的名字。

張陳：乎。那個啦，有沒有？較早看彼个（hióng--ê，那個）都看少女，有的漫画みたいな（像漫畫的）乎……那種的……

林：這是本……這是書的名字嗎？還是說只是一種種類這樣？

張陳：書的名前啦。

林：書的名字喔？喔喔（Ooh-ooh）。

張陳：嘿，它們都較做這些少女時代の……那是和□□似てる。還有弄那個乎……

林：多謝、多謝。

付錄 2-1 張陳○20210413

20221121 追記

- 家裡經營的「卸屋」有在販賣魚類醃漬品。

王曾素琴 20210415

林：若這樣請問妳是幾年、在哪裡〔出〕生的？民國還是說——

王曾兒：昭和 4 年啦。

王曾：^{しょうわ ねん}昭和 4 年……

林：^{しょうわ ねん}昭和 4 年。

王曾：……^{がつ}8 月 1 日。

林：^{がつ}8 月 1 日。

王曾兒：8 月 1 號乎。

王曾：8 月 1 號。

林：是〔在〕西螺〔出生〕嗎？

王曾：西螺。

林：西螺乎。

王曾兒：^{しょうわ ねん}昭和 4 年就是 1929 年，民國 18 年。

林：啊妳是在西螺長大的嗎？

王曾：對。

林：好。若這樣妳〔在〕戰爭結束之前，都是在西螺嗎？是嗎？還是有換別的地方？

王曾：我有去當老師。

王曾兒：不是啦！戰爭之前，^{せんそう}戰爭之前都在西螺啦，當老師不管（無關）嘛，妳也都住西螺啊！

她是結婚之後才離開西螺的。

林：這樣是幾年結婚的啊？

王曾：那時候幾年我也不記得，^{さい}23 歳のとき（23 歲的時候）。

林：^{さい}23 歳のとき。

（23 歲的時候。）

王曾兒：^{さい}23 歲，那時候不就……19……我看看……19……可能大概 1950 還是 51 吧！因為我姊姊是

1952 年生的嘛，可能 1950、51，妳就要再查一下才知道，民國幾年。

林：不要緊、不要緊。

王曾：不要緊啦！

王曾兒：要再查一下啦，要再查一下啦，大概 1950、1951 啦！以後沒關係，以後可以，如果有

錯誤的話再改就好了，也許她以後可以……就那時候啦！應該是……

林：若這樣妳可以和我說妳們有幾個兄弟姊妹嗎？

王曾兒：8 個。

林：8 個。喔！是……妳是算〔排行〕第幾個？

王曾：老大。

王曾兒：她最大，男女她最大，8 個中她最大，她大姊，弟弟妹妹都比她小。

林：這樣弟弟妹妹有……是有幾個弟弟幾個妹妹啊？

王曾兒：3 個弟弟、4 個妹妹。

王曾：3 個弟弟、4 個妹妹，大家都有受……高……高〔等〕……教育。

林：若這樣那時候，可以方便借問說那時候家裡是做什麼的？

王曾兒：你們家裡在做什麼的啦。

王曾：家裡很有錢啦！

王曾兒：做什麼的啦，不是很有錢啦！妳爸爸、媽媽、阿公啊。

王曾：公賣局。

林：公賣局？

王曾兒：就是那個以前那個……專賣，公賣局有賣菸酒那個專賣，雜貨店之類的啦，它那個專

賣，以前妳應該也知道嘛。

林：嘿，我知道。

王曾：以前公賣局是私人做不是政府做，現在就是政府做的。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾兒：沒有啦一樣公賣局，它們也是都有，都有分超商，也是都有……

王曾：對啊，嘿啊。

林：若這樣妳在日本時代有去上過什麼學校？

王曾兒：妳讀過什麼學校，有啊，讀到高中畢業啊。

林：嘿，讀過什麼學校。

王曾兒：虎尾女高啊，高中的虎尾女高。

王曾：^{こび こうとうじょがっこう}虎尾高等女学校。

王曾兒：啊小學，小學……妳小學是哪一間咧？

王曾：後面那間——

王曾兒：後面那間是哪一間？後面？

王曾：^{せい ら じょがっこう}西螺女学校。

林：^{じょがっこう}是女学校？^{しょう}小……？

王曾：^{しょうがっこう}小学校。

王曾兒：因為她那時候好像日本有分公學校、小學是不是？有些日本人讀的，有些台灣人讀的還是怎麼樣我不知道。

林：啊妳是讀……妳是和日本人一起讀書這樣？

王曾：沒有，那時候都只有台灣小孩。

林：都台灣小孩？

王曾：嘿。

王曾兒：小學啦乎。

林：所以是^{こうがっこう}公学校還是說^{しょうがっこう}小学校？

王曾：^{こうがっこう}公学校。

林：^{こうがっこう}公学校。

王曾：^{こうがっこう}公学校。

林：啊就是完全都沒有日本人就對了？

王曾兒：一開始沒有啦，後來才有。

王曾：^{じょがっこう はい}女学校に入ってから。

(進了女學校之後〔才有日本人〕。)

林：喔喔 (Ooh-oo)。

王曾：^{じょがっこう はい}女学校に入って……^{こび こうとうじょがっこう}虎尾高等女学校でしょ？^{めい}100名のうち^{たいわんじん}台湾人が^{めい}15名で、^{にほんじん}日本人が85名。^{めい}台湾人が15名しかない。

(進了女學校……虎尾高等女學校嘛，100人之中台灣人只有15人，日本人有85人。台灣人只有15人。)

林：それは^{ちゅうがっこう}中學校のことですよ。

(這是中學的事情嘛？)

王曾：そうそう。

(對對。)

林：^{ちゅうがっこう なまえ}中學校の名前はなんでした？

(中學的名字是什麼？)

王曾：^{こび こうとうじょがっこう}虎尾高等女學校。

林：^{こうとうちゅうがっこう}高等中學校？

王曾：^{こうとうじょがっこう}高等女學校。

林：^{じょがっこう こうとうじょがっこう}女學校，高等女學校，就是「虎尾女高」這樣？

王曾：嘿，^{こび こうとうじょがっこう}虎尾高等女學校。

林：就全部都是^{おんな こ}女の子(女孩子)這樣？

王曾：都是女孩子，嘿，みんな^{おんな こ}女の子(大家都是女孩子)。

林：原來是這樣。妳說有100位學生，〔其中〕只有15位是台灣人這樣喔？

王曾：對，^{たいわんじんせいせきよ}台灣人成績良くなかった、^{はい}入れない。

(台灣人成績不好，進不去。)

林：(笑) そうですね。

((笑) 是這樣嘛。)

王曾兒：可能日本人他們家庭的條件比較好啦，比較有能力讀書嘛是不是？啊台灣人的話也要看
啦，你家裡要有錢才有辦法讀書啊，那個時代一般人大部分都是……能讀到小學畢業就差不
多了，她們能到……能讀到女高的話大概家裡也要有一點……要有一點錢，經濟可能是這樣
啦。是不是這樣我不知道。

林：若這樣……小時候有什麼^{あそ}遊び（遊戲）？

王曾：^{あそ}遊び。

林：^{あそ}遊び。

王曾兒：什麼是^{あそ}遊び？

王曾：^{てだま}お手玉。

（沙包。）

林：^{てだま}お手玉（沙包）。（對王曾兒說）就有玩什麼遊戲，還是說……

王曾兒：乎，玩什麼遊戲（笑），你聽她講。

王曾：我本來要去日本留學，但是後來^{せんそうぼつぱつ}戰爭勃發，うちのおばちゃんもあの……おじちゃんも，
みんな^{にほんりゅうがく}日本留學。おばさん、おじさん、うちのお父さんの^{とう}弟、^{いもうと}妹，みんな^{にほんりゅう}日本留
^{がく}學。

（我本來要去日本留學，但是後來戰爭勃發，我家的姑姑也……叔叔也是……大家都去日本留
學。姑姑、叔叔，我爸爸的弟弟妹妹，大家都去日本留學。）

林：でも^{せんそう}戰爭の^{かんけい}關係で^い行けなかった。

（但因為戰爭所以去不了。）

王曾：行けな……^{ふねつう}船通じないでしょ？そのときはね，^{ひこうき}飛行機ないの。みんな^{ふね}船。

（去不……船沒有通啊？那個時候也沒有飛機，大家都是搭船。）

林：じゃ^{せんそう}戰爭つていうことで、^{ふね}船もこう……^{けっこう}欠航とかしてて、そうなんですか……じゃ、歹勢，
我要用台語講（笑）。

（就是因為戰爭，船都停駛，是這樣啊……那，不好意思，我要用台語講。）

王曾兒：好，不要緊，妳隨時可以轉換頻道（笑）。

林：好好好。妳在日本時代有看過電影嗎？

王曾：有啊。

林：有，那妳是……妳還記得說那是哪裡的電影？是說日本——

王曾：《^{あいぜん}愛染かつら》。

王曾兒：日本時代（--neh）？

王曾：嘿啊！

王曾兒：《^{あいぜん}愛染かつら》是我們……妳進來斗六的時候才有那個……那時候不是日本時代啊！不是不是不是。《^{あいぜん}愛染かつら》我也有看啊，那時候是——

林：但是我看那時候的報紙都有那個〔《^{あいぜん}愛染かつら》的〕廣告呢（--neh）！

王曾兒：不是，那個已經是 19……我看，搞不好是 1960 年代的事情囉！《^{あいぜん}愛染かつら》，我們有去看啊！所以那不是日本時代啊，日本時代是 19……1945 年以前才叫日本時代啊！那時候……不是那個 1945 年妳在日本時代——

王曾：我忘記啦！（笑）

王曾兒：日本時代妳有看過電影嗎？

王曾：還有——

王曾兒：沒啦，《^{あいぜん}愛染かつら》是後來啦！

林：沒沒沒，日本時代也有一齣片叫做《^{あいぜん}愛染かつら》。

王曾兒：但是她有沒有去看我就知道了，我沒聽她講過。

林：喔喔（Ooh-ooh），好啊不然我這樣括號〔標注起來〕——（做筆記）

王曾：啊有那個《^{なんごくときあと}南国土佐を後にして》——

王曾兒：妳不要把我們看過的電影當做妳〔在〕日本時代看過的呢（--neh）！（笑）

王曾：好啦，不要緊啦！

林：嘿啊，妳說還有什麼？

王曾：《^{なんごくときあと}南国土佐を後にして》。

林：^{なんごく}南国……？

王曾：「土佐」。

林：「とさ」って？

王曾：「土佐」。

王曾兒：「土佐」，對不對「土佐」？中文叫「土佐」，「南國土佐」什麼那個。

林：啊還有……？

王曾：差不多就這樣而已啦！啊《支那の夜》（笑）。

林：《支那の夜》。

王曾兒：日本時代有電影——

王曾：啊沒啦！『支那の夜』はね、日本時代じゃない。戦後らしい。

（啊沒啦！《支那の夜》不是日本時代。好像是戰後。）

王曾兒：日本時代妳在西螺有電影？

林：沒有，那日本時代的片子啊！那……那個誰？山口——

王曾：李香蘭。

林：嘿、嘿、嘿，李香蘭。

王曾兒：李香蘭，李香蘭啦。現在是在問說日本時代喔，不是國民黨來的時代呢（--neh）。

王曾：對啦。

林：沒有！其實李香蘭是日本人乎？

王曾兒：對啦對啦日本人，對。李香蘭啦！

林：所以看的電影都差不多是日本人拍的電影乎？

王曾：對。

林：沒有其他——

王曾兒：日本時代那時候西螺有電影戲園嗎？

王曾：有喔！

王曾兒：有喔？喔喔（Ooh-ooh），有就好，我不知道（笑）。

林：嘿啊，啊是在電影院看的嗎？

王曾：對。

林：戲園（hì-hîg，戲院）這樣嗎？

王曾：是。

林：叫什麼名字？（王曾沈默）就也是同樣在西螺就對了？

王曾：嘿。

林：戲園這樣。啊那個戲園是只會搬（puann，演）電影還是說有搬歌仔戲怎樣的？

王曾：我不知道呢（--neh）！我們都看電影而已，我不曾看歌仔戲。

王曾兒：那時候不知道咧，我不知道。

林：都看電影。那個電影院是像現在這樣的電影院？一樣嗎？

王曾：是，啊沒有說很寬敞啦。

林：沒有說很寬敞。

王曾：對，不像現在這樣。

林：可以做（tsò）一百多個這樣。

王曾兒：可以「坐」（tsē）一百多個，不是「做」（tsò）一百多個。坐啦，可以坐。

林：喔，「坐」（tsē），嘿嘿嘿，多謝多謝。

王曾兒：不是「做」（tsò）一百多個（笑）。

林：「坐」（tsē）一百多個。

王曾兒：嘿，可以坐一百多個。

林：啊在學校有看過電影嗎？還是說影片這樣的？（王曾搖頭）學校沒有？

王曾：ない。

（沒有。）

林：學校沒有。那有沒有在那種^{ひろば}廣場看過電影？也沒有？

王曾：沒有。

林：就是看電影只有在——

王曾：そのときの^{べんとう}弁当みんな，^ひ日の^{まるべんとう}丸弁当。あの^{せんせい}先生ね，^{けんさ}検査するよ^{べんとう}弁当。

（那個時候的便當，大家都是帶日之丸便當。老師喔，都會檢查喔）。

林：なんで検査けんさするんですか？

（為什麼要檢查？）

王曾：日ひの丸弁当まるべんとうイ持もっててきててるか。

（〔要檢查〕有沒有帶日之丸便當來。）

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾：だけどみんな下したにあの、野菜やさい（笑）隠かくしててるののが多いおほのよ。

（但是很多人在〔便當〕下面藏青菜喔。）

林：（笑）面白おもしろいですね（好有趣喔）！若這樣妳們那個時候去看電影的時候，妳還記不記得說
電影票差不多〔多少錢〕？

王曾：不記得了。

林：不記得了。是跟厝內……厝內……

王曾兒：「厝」內的人……「厝」內的人啦。

林：……的人一起去看的嗎？

王曾兒：家裡的人啦，「厝」內的人啦。可能是大人帶他們去的吧。

林：全部的兄弟姊妹一起去看的嗎？

王曾：沒沒沒。

林：若這樣一次差不多幾個人去看？

王曾：我和友ともだち達。

林：友ともだち達也有。

王曾：嗯。

王曾兒：這些事情我都不知道，因為我不是西螺人（笑）。她那時候還在西螺，還沒結婚，所以
我都不知道。所以我們沒有辦法幫她回答，比較後面的事情我比較可以（回答）。那現在……
日本時代的事情妳要找她（笑）。

林：好。啊那個時候的電影有分成說，大人看（*khuánn*）的電影和小孩看（*khuánn*）的電影？

王曾兒：大人看（khuànn）的電影還是小孩看（khuànn）的。

林：看的（khuànn--ê），好。

王曾兒：（笑）不是款（khuánn）的，看的。

王曾：沒有啦。

林：沒有，大家都一起看這樣？

王曾：對，比較多〔是這樣〕啦。

林：啊那時候的電影是有聲音的還是無聲音的？

王曾：有啊。

林：有。啊有看過沒聲音的嗎？

王曾：沒有。

林：沒有，印象中是沒有？

王曾：嘿。

林：有聲音的……若這樣有聲音的電影有人在旁邊做解釋嗎？

王曾：啊我就從小我就會說日語啊。

林：嘿啊嘿啊。但是一起看電影的人是不是有比較不懂日語的人？

王曾：有啦，原仔（uân-nā，也）有人在解釋。

林：有人在解釋喔？那解釋電影的人是叫什麼？妳們都叫他什麼？我有聽過一種說法是叫說「講古仙」，有這種說法嗎？

王曾：沒有啦、沒有啦。

林：還是說「弁士」？

王曾：「講古仙」就「講古」了咧。

林：「講古仙」是……

王曾：「講古」。^{むかしばなし}昔話。

林：日本時代也有嗎？

王曾：還是我沒有那個……

林：所以妳看的電影都是日本電影就對了？

王曾：日本電影。

林：啊都有聲音這樣？

王曾：嘿。

林：都說日語這樣？

王曾：嘿。

林：若這樣……看電影的時候啊，那旁邊人會……旁邊的人會聊天嗎？就會講話這樣嗎？還是說大家都恬恬（tiām-tiām，安靜）地看？

王曾：恬恬（tiām-tiām，安靜）〔看〕比較多啦。

林：恬恬（tiām-tiām，安靜）〔看〕比較多。啊妳要怎麼知道說在做什麼電影？現在在做什麼電影？

王曾：知道啦。

林：嘿啊，怎麼知道的？

王曾：啊就看它在講什麼這樣，就知道了。

林：啊不是，我是說，譬如說……可比（khó-pí，好比）說今天是做什麼〔片〕名的電影，明天是做什麼〔片〕名的電影，妳要怎麼知道說今天是要看什麼電影？

王曾：知道，但不過……不知道什麼那個我就不記得了（笑）。

林：是大人帶妳去看妳就看，還是說，妳會說「我想要去看電影」大人〔就〕會帶妳去看？

王曾：^{ともだち}友達と^{いっしょ}一緒（和朋友一起）。

林：^{ともだち}友達って^{がっこう}学校の^{ともだち}友達ですか？

（朋友是指學校的朋友嗎？）

王曾：そうそう（對對）。

林：所以差不多……妳有沒有看過那種「^{えいが}ニュース映画」（新聞電影）？

王曾：啊？

林：^{えいが}ニュース映画（新聞電影）。

王曾：ニュース？

林：嘿，是不是說有一些戰爭——

王曾：喔，戦争ある（有戰爭）。

林：それはありますよね。

（那個的話有嘛。）

王曾：はい（是）。

林：はい（是）。啊還有一些其他的電影，像是那紀錄片什麼〔的〕，有嗎？

王曾：較沒啦。

林：較沒。好，若這樣妳最喜歡看的電影是什麼類型的電影？（王曾無回應）很多喔？（笑）

王曾：《愛染かつら》。

王曾兒：不是啦！是什麼類型的電影，看是戰爭片還是什麼片什麼片。

林：欸？《愛染かつら》是戀愛的電影嗎？

王曾兒：應該是愛情片吧？《愛染かつら》就是……《愛染桂》啦。

王曾：愛染かつらの～咲く春を～¹（唱）

王曾兒：日本時代就有《愛染かつら》這部電影？

林：有。

王曾兒：妳有看過嗎？

王曾：有。

王曾兒：啊那時候我們在斗六，有看過《愛染かつら》，那是後來再拍的嗎？

王曾：不同的吧。

王曾兒：不過有時候一部電影它會拍好多次也不一定啦……有可能啦，所以那個事情只有問她，

因為我不知道（笑）。

林：好（笑）。啊那時候妳們家裡的大人對電影是有什麼看法？會覺得說囡仔人（gín-á-lâng，小

¹ 歌曲〈愛染桂〉。

孩子) 不能看還是說?

王曾: 沒有, 不會。

林: 都沒有?

王曾: 不會。我們又不是隨便那個啊! 啊也不是說每天都在看嘛。

林: 差不多多久會看一次?

王曾: 看看那個……電影的那個那個啦。

林: 電影的……?

王曾: 那有時候——

王曾兒: 大概看好不好看吧! 想看的是不是? 好不好看還是怎樣。妳們那時候都是誰帶妳們去看的? 妳老爸 (lāu-pē) 老母 (lāu-bú)? 還是妳阿媽?

王曾: 沒有啦那時候——

王曾兒: 阿祖?

王曾: 都——

王曾兒: 妳同學找的這樣嗎?

王曾: 嘿啊。

王曾兒: 友達大家招 (tsio, 相約) 來招去啦, 「啊, 今天有什麼片?」(模仿呼朋引伴的樣子)

林: 嘿啊, 要怎麼知道說同學……同學要怎麼知道說現在在做什麼片咧? 是大家會看新聞²說——

王曾: 廣告^{こうこく}する。

林: 廣告^{こうこく}?

王曾: 嘿。

王曾兒: 廣告啦、廣告啦。

林: 嘿。在哪裡的廣告? 電影院外面的廣告嗎?

王曾: 廣告。外の、あれ、廣告^{こうこく} (外面的那個廣告)。

² 指「報紙」。

林：就戲園外面的廣告啦乎。

王曾：嘿。

（王曾兒接電話）

林：那妳那時候看的電影是彩色還是說黑白的？

王曾：黑白啦。

林：都黑白的，全部都黑白的這樣嗎？

王曾：黑白比較多。

林：那時候會看那種乎……不是說……所以不會跟說弟弟妹妹去看電影？

王曾：和誰？

林：弟弟妹妹，比較沒有？都沒有？

王曾：都^{ともだち}友達。

林：都^{ともだち}友達。跟爸爸媽媽一起去看也沒有？（王曾搖頭）那時候是用自己的錢去納（láp，付錢）
那個電影票嗎？

王曾：お^{としだま}年玉ちゃんとあるよ。

（都有壓歲錢喔！）

林：はい（是）。（笑）

王曾：おじいさんくれるおばあちゃんも^{かね}お金くれる。

（祖父會給，祖母也會給錢。）

林：お^{こづか}小遣いもらってました？（王曾點頭）

（也都有拿零用錢嗎？（王曾點頭））

林：お^{としだま}年玉とお^{こづか}小遣い（做筆記）。

（壓歲錢和零用錢。（做筆記））

〔中略〕

林：じゃ^{ちい}小さい頃は^{ころ}楽しみだったことは^{なに}何？^{たの}楽しみごとはなんかありました？

（那小時候有什麼好玩、有趣的事情嗎？有什麼樂趣嗎？）

王曾：^{たの}楽しみ……（思考）^{ゆうげいかい}遊芸会。

（樂趣……（思考）遊藝會。）

林：^{ゆうげいかい}遊芸会。

王曾：^{ゆうげいかい}遊芸会就……あの〇〇があるでしょ？

（遊藝會就……不是有那個〇〇嗎？）

林：はい（是）。

王曾：^{わふく}和服して。

林：（笑）^{ゆうげいかい}遊芸会。

王曾：うちのお母^{かあ}さんも、おばあちゃんもみんな和服^{わふくつく}作れるのよ。浴衣^{ゆかた}ね。だから小さい時^{ちい}—

—

（我家的媽媽、姑姑們都會做和服喔。浴衣啦。所以小時候——）

林：啊妳剛剛說有看過那個戰爭的片是……那是真正的戰爭還是說人搬（puann，演）的？

王曾：人搬（puann，演）的啦。

林：人搬（puann，演）的乎。

王曾：^{ほんとう}本当の^{せんそう}戦争だったの。

林：喔～但是是不是有……是不是有……就是說……譬如說美國還是哪裡的戰爭，都有那個紀錄

片，那是沒有看過？

王曾：對。

林：沒看過。

〔中略〕

林：若這樣日本時代妳有沒有讀過什麼課本以外的書？

王曾：有。

王曾兒：課外讀物看有沒有？

林：嘿啊。

王曾：^{ふじんくらぶ}《婦人俱樂部》、^{しゅふとも}《主婦の友》。

林：《主婦の友》。

王曾兒：嗯，看有沒有湯姆歷險記什麼有的沒有的……有沒有聽過？（笑）

王曾：あれ見たらね、服作れる。

（看了那個之後就會做衣服。）

林：喔喔（Ooh-ooh），服作れる……〔服を〕作ることはご趣味ですか？

（喔喔，會做衣服。妳的興趣是做〔衣服〕嗎？）

王曾：。うち、この〇〇も自分で作ったの。ポケットもね。〇〇で作ったらもつと……

（嗯。這個〇〇也是自己做的。口袋也是喔。〇〇做了之後就更……）

林：すごいですね！（笑）

（好厲害喔！）

王曾兒：うちの子供小さいときね、うちの作った着てるでしょ？みんなかわいって言うの。

（我家的小孩小時候，都穿我做的衣服啊。大家〔看了〕都說好可愛。）

林：（笑）いいですね（好好喔）！若這樣妳有沒有看過那種……絵本？

王曾：絵本？

林：嘿，有看過嗎？

王曾：捌（bat，曾經）〔看過〕啦，啊不記得了，絵本。

林：啊絵本……是說不記得那個絵本的〔書〕名，還是說不記得內容？

王曾：内容不記得了。

林：内容不記得了。好，妳那時候會看報紙嗎？

王曾：報紙較罕（hán，難得）在看啦。

林：若這樣報紙是什麼人在看的？

王曾：我爸爸他們。

林：都是大人在看就對了。

王曾：嘿，大人在看。

林：喔喔（Ooh-ooh），大人在看的報紙，啊報紙是什麼……西螺是什麼報妳知道嗎？不記得？

王曾：不記得了。うちのお母さんの……あの……うちのお母さん……外婆啦！うちの……あの

ばあさんの 弟 はね、日本時代の西螺街長。街長。

（不記得了。我媽媽的……那個……我媽媽……外婆啦！外婆的弟弟喔，是日本時代的西螺街長。街長。）

林：街長？

王曾：嘿。西螺でしょ？西螺だけでしょ（西螺嘛？只有西螺而已嘛），西螺大橋。

林：嘿。

王曾：西螺。

林：西螺、西螺大橋（做筆記）。

王曾：嗯。西螺，西就是西。西螺大橋從我們樓上後面就可以看到。我們住的都是樓上。

林：喔喔（Ooh-ooh），幾樓啊？妳們住的地方。

王曾：那時候蓋的都是一、二樓。

林：一、二樓。

王曾：欸？我有相……照片，不知道放到哪裡去了？（翻找相片）

王曾：我家的囡仔（gín-á，小孩）乎，小時候都很會讀書。

林：看得出來。

王曾：才會老師說□□上台北考〔試〕。（翻找相片）

王曾兒：妳在找什麼？

王曾：沒有啦！西螺。

王曾兒：西螺□□□□。

王曾：小さい時住んでおった家。

（小時候住的家。）

林：全部、おうちでした？

（全部都是妳們家嗎？）

王曾：2階だつて、中で寝るときはね、あの……はしご登つてうえいくの。

(二樓，在裡面睡覺的時候……要爬梯子上樓去。)

林：(笑) 這個現在還有嗎？還是說……

王曾兒：房子還在啦！但是可能有些——

林：算是老家這樣？

王曾兒：對對對，但剩下兩戶吧！有些它好像本來……本來有四戶是不是？賣了兩戶了是不是？

王曾：我不知道呢 (--neh)。

王曾兒：好像是這樣，好像是，所以剩兩戶啦，□□□□剩兩戶而已！

王曾：(指照片) 這是我弟弟他們……^{ねんせい}1年生の時の^{とき}写真^{しゃしん}……^{ねんせい}4年生の時の^{とき}写真^{しゃしん}。

林：妳在哪裡呀？

王曾：^{ねんせい}1年生。

林：這個乎？好可愛喔！

王曾：^{ようちえん}幼稚園の^{しゃしん}写真もあるよ！^{ようちえん}幼稚園の^{しゃしん}写真あるけどね、うちの^{ともだち}友達はね、ないって。だから、^{ねん}2000年^{ちようど}ちょうど……^も持って^い行ってみたら、^{ほんとう}なくしたって。本当^{ほんとう}だらしない。

(也有幼稚園〔時期〕的照片喔。雖然也有幼稚園的照片，但是我朋友說沒有。所以 2000 年就帶去〔日本〕，〔朋友〕卻說她弄丟了。真的做事很隨便。)

林：^{おし}惜しいですね(好可惜)。啊這張咧妳在哪裡？這是四年級的照片嗎？

王曾：^{せんせい}先生の^{うし}後ろ。(笑)

林：喔喔(Ooh-ooh)，(笑)

王曾：(指照片) これ^{ねんせい}5年生の^{とき}時、^{しゅうがくりょこう}修學旅行。

(這個是五年級的時候，去修學旅行。)

林：去哪裡……去哪裡呀？

王曾：^{へいとう}屏東。^{たかきごぞく}ほら、高砂族。

(屏東。就是那個高砂族〔在的地方〕。)

林：喔喔(Ooh-ooh)。

王曾：屏東。

林：那時候是都叫做「高砂」^{たかさご}？

王曾：^{たかさごぞく}高砂族。

林：不是……我有聽說過人家都……比較早的時候人家都叫做「蕃人」^{ほんじん}這樣。

王曾：喔，對啦！你看他們都穿這種衣服。

林：嗯。

王曾：啊屏東都種那個……檳榔啦！那整棵那個都是檳榔。

林：你們說「檳榔 (pun-nîg)」？

王曾：嘿。

王曾兒：檳榔啦！那張是在屏東拍的嗎？妳們去屏東畢業旅行諾 (--hioh)？

王曾：嘿啊，嘿。

王曾兒：後面還有寫屏東？都沒有寫？

王曾：沒有寫。

〔中略〕

王曾：これね、台北の日本人学校の遊芸会にも参加……見に行った。玉蘭莊みんなで見に行つたの。

(這個是，也去參加……去看台北的日本人學校的遊藝會。玉蘭莊的大家一起去看的。)

林：みんなで？

(大家一起去？)

王曾：行く人はね……行かない人……行かなくてもいい行ってもいい、自由なのよ。だけどわたし毎年³参加してる。遊芸会だけで面白いの。ほら。(笑)

(去的人……不去的人……可以不去也可以去啦，自由〔參加〕。但是我每年都有參加。只要有遊藝會就很有趣了。你看。(笑))

林：(指照片) 小学生が……小学生が作ったものですかね？

³ 一般是唸作「まいとし」，此處受訪者唸「まいねん」。

(小學生……是小學生做的東西嗎?)

王曾：^{しょうがくせい}小學生、^{にほんじんがっこう}嘿。日本人學校。

林：どこの^{にほんじんがっこう}日本人學校ですか？この^{ちか}近くですか？

(哪裡的日本人學校？這附近嗎?)

王曾：^{たいほく}台北、^{たいほく}台北。いや、まだ^{こども}子供のつてくよ。

(台北、台北。還有小孩子□□□□喔。)

王曾兒：在天母那邊。

林：在天母那邊。

王曾兒：在中……欵中……欵那個……中山北路六段……六段再更那個天母……天母東西路那邊，

這邊是美國學校，這邊是日本人學校，在那個角落邊。

林：(笑) 台灣的日本人學校是不是只有台北有？

王曾：對對。

王曾兒：好像別的地方也有，好像高雄還是台中都有的樣子。

林：欵？台中有嗎？

王曾兒：好像有。

林：沒印象說有聽過。

王曾兒：不知道我不是很清楚，但是好像高雄至少……高雄有。應該有啦！日本人學校……應該到

處都有日本人的公司還怎麼樣的……

王曾：^{たかお}高雄もあるらしいよ。

(高雄好像也有喔。)

[中略]

林：欵？啊怎麼會去……最早的時候怎麼會去玉蘭莊？怎麼會想說要去那？

王曾：她(玉蘭莊以前的手工藝老師)到台灣唸書啦，啊認識了一位台灣人。

林：嘿，沒沒，我是說妳。

王曾兒：是說妳為什麼會去^{ぎょくらんそう}玉蘭莊？是○○(人名)還是什麼給妳介紹？

王曾：^{ぎよくらんそう}玉蘭莊喔？對，〇〇（人名）給我介紹的。〇〇（人名）いまの——（〇〇現在的——）

王曾兒：她的親戚啦！她的親戚表妹，她有一個親戚她兩個表妹，一個在裡面當彈鋼琴的老師。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾兒：〇〇〇（人名）。

林：嘿、嘿、嘿。

王曾兒：是她的表妹。啊〇〇〇（人名）的姊姊——

王曾：合唱團的老師啦！她的姊姊和我同歲。

王曾兒：啊她的姊姊……也是……也是……介紹她進去的啦！

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾：她叫我去，但是她已經過世了。

林：嗯。

〔中略〕

林：啊妳小的時候看的那些雜誌或是說是仔冊（ang-á-tshch，漫畫）是自己買的嗎？還是說跟人家借的？

王曾：沒有啦！都自己買的。

林：都自己買的。自己去哪裡買啊？書局這樣喔？

王曾：我爸爸他們都會買。

林：爸爸買給〔妳們的〕……？

王曾：嘿。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

林：^{しょうがっこう}小學校的時候都……已經在看《^{しゅふ とも}主婦の友》？

王曾：いや、^{ちが}違うよ。^{じょがっこう とき}女學校的時候。

（不是喔。是女學校的時候。）

林：そうなんですよね。

(是這樣嘛。)

王曾：^{じょがっこうそつぎょう}女學校卒業^{あと}の^{ふじんざつし}後も^み婦人雜誌なんか見てる。

(女學校畢業後也有在看婦人雜誌什麼的。)

林：所以是——

王曾：『^{ふじんくらぶ}婦人俱樂部』と『^{しゅふのとも}主婦之友』。あつちもね……あの……^{ふく}服はね、どんな^{きせつづく}季節作るかちゃん
と説明してる。だからうちの^こ子ね、^{ちい}小さい^{とき}時もいつもかわいい^{ふくき}服着てる。

(《婦人俱樂部》和《主婦之友》。那個也是……那個……都會說明什麼季節要做什麼衣服。所以我家的小孩，小時候都是穿很可愛的衣服。)

林：はい(笑)。『^{ふじんくらぶ}婦人俱樂部』のほかにもなんか《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》とか《^{しょうじょくらぶ}少女俱樂部》とかありま——

(是(笑)。^{ふじんくらぶ}《婦人俱樂部》之外有^{しょうねんくらぶ}《少年俱樂部》還是^{しょうじょくらぶ}《少女俱樂部》——)

王曾：『^{しゅふのとも}主婦之友』。

林：『^{しゅふのとも}主婦之友』？

王曾：『^{しゅふのとも}主婦之友』もある。

(也有《主婦之友》。)

林：あ、はい。じゃ^{えほん}繪本の^{こうだんしゃ}ほうは、^{えほん}講談社の^み繪本とか見たことありますか？

(啊，是。那繪本的話，有看過講談社的繪本嗎？)

王曾：なんの？(什麼的？)

林：^{こうだんしゃ}講談社の^{えほん}繪本。(王曾搖頭)ない？

(講談社的繪本。(王曾搖頭)沒有？)

[中略]

林：若這樣妳國小的時候都看什麼？若說女學校的時候是看^{しゅふのとも}《主婦之友》還有^{ふじんくらぶ}《婦人俱樂部》。

王曾：那是^{そつぎょうご}卒業後。

林：嘿啊！^{そつぎょうご}卒業後……^{じょがっこうそつぎょうご}女學校卒業後——

王曾：^{ちい}小さい^{とき}時はそんなのあまりない。

（小時候不太有那種的。）

林：あまりないですか。

（不太有嗎？）

〔中略〕

林：所以妳國小的時候會看^{まんが}漫画嗎？

王曾：^{まんが}漫画？あるよ。

（漫畫，有喔。）

林：那是國小的時候在看的，還是說？

王曾：^{じょがっこう}女学校の時。

林：^{じょがっこう}女学校の時。所以國小的時候是……都沒有看什麼——

王曾：あまりない。

（不太有〔看〕。）

林：あまりない（不太有）。那個^{まんが}漫画是什麼樣的^{まんが}漫画啊？

王曾：たくさんあるよ。あの……（開始翻照片）

（有很多〔種〕喔。那個……（開始翻照片））

〔中略〕

王曾：那個時候假如沒有第二次世界大戰，我也到日本去留學。

林：嗯，啊妳本來去……想要去日本留學是想要讀什麼？

王曾：不然我叔叔、我舅舅、我姑姑，大家都在那邊讀。

林：如果說可以去，是去讀大學還是說？（王曾點頭）大學？

王曾：嘿，^{だいがく}大學。

林：那時候去之前，有要〔先〕決定說妳要，在大學要讀什麼嗎？要讀——

王曾：還沒。

林：還沒。

〔中略〕

林：所以是，那時候讀的……看的雜誌都是日本的雜誌嗎？

王曾：そう、日本語^{にほんご}。

（對，日語〔的〕。）

林：所以用漢文寫的书……什麼都沒有看過？

王曾：也是……カタカナ（片假名）也有。

林：カタカナ？

王曾：嘿。

王曾兒：カタ，片假名。

林：是漢文但是用カタカナ〔寫〕這樣？

王曾：對。

林：那是什麼呀？那是小説^{しょうせつ}？

王曾：小説^{しょうせつ}、そう。

（小説、對。）

林：所以讀日本的……作品是讀日本的雜誌這樣，啊讀漢文的作品是讀漢文的小説^{しょうせつ}這樣？

王曾：嘿。うちの子^{こちい}小さいとき、うちこれ^か買ってね、^{つく}作ってあげてみんなかわいいのよ。これ
日本^{にほん}……

（對。我家小孩還小的時候，我買了這個（指雜誌），做給他們大家都好可愛。這個日本
……）

〔中略〕

王曾：（意指照片）這是剛才那個西螺的。

林：西螺的乎。

王曾：西螺的厝。

王曾兒：這如果沒寫不知道，妳這個——

王曾：這……這裡有寫曾（tsan）乎，曾。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾：這是古蹟乎，啊這邊，再過來一點這邊乎，有一個福興宮在。

林：嗯。

王曾：有一個廟啦。

林：嘿。

王曾兒：福興宮啦福興宮！媽祖廟，現在很有名的媽祖廟。

王曾：啊廟……廟這個這個柱子是阮起予伊的（*gún khí hōo i--ê*，我們幫它建的），我們祖先建的。

〔中略〕

王曾：（意指照片）這是五年級的……五年級的時候。五年級，老師高浜先生。^{たかはませんせい}這兩張乎，我……我爸爸他們家裡就是……進士啦。

王曾兒：進士啦！較早清朝時代大概有那個……什麼什麼進士啦，狀元進士什麼……什麼什麼什麼

——

王曾：這是我媽媽她們那邊……秀才。

林：秀才。

王曾：秀才。

王曾兒：嘿，秀才、秀才。

王曾：這就是剛才我們——

王曾兒：她爸爸姓曾啦，曾國藩的曾啦，她媽媽姓詹啦，詹天佑的詹啦。

〔中略〕

王曾：當老師的時候 23 歲，23 歲——

林：妳說妳這時候……這……是這時候結婚的呢？

王曾：不是啦！

林：這個之前？

王曾：之前。

林：之前。

王曾：當老師的時候拍的。

王曾兒：她應該是，大概是 1952 年……欸？大概 1951 年還是 50 年年尾還是 1951 年初結婚的吧。

王曾：這衣服都是我自己做的喔。

林：啊做老師是什麼時候？

王曾兒：做老師的時候可能還要更早。

王曾：嘿，更早。

王曾兒：比這個還早，大概 1950……搞不好 49、48 年都有可能。

林：是哪裡的老師啊？

王曾兒：荊桐（tshì-tông）。

王曾：荊桐。

王曾兒：西螺旁邊荊桐。

王曾：那校長和我——

王曾兒：西螺、荊桐。

林：嘿。

王曾：校長乎——

王曾兒：斗六。

林：嘿。

王曾：——校長和我爸爸是同學。

王曾兒：這邊林內。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾：他那個時候很……老師都……缺老師啦！

王曾：我這穿去玩的衣服乎，穿一穿……我這件也給我妹妹，但是帽子還在。

王曾：（看照片）這個不知道去哪，都沒寫（笑）。

王曾兒：對啊都沒寫就是一個問題啊。

王曾：嘿啊！

王曾兒：沒有做記錄起來。

〔中略〕

王曾兒：（指地圖）西螺在這裡。荊桐，旁邊那個鄉。啊斗六在這裡。林內，這裡過去是南投、
濁水溪。西螺大橋在這裡，西螺……我媽媽西螺人……斗六……她在荊桐國小教書。

〔中略〕

王曾：他們……那個音樂^{おんがく}の先生^{せんせい}ね，遊^{あそ}びにきたの。台灣^{たいわん}へ。

（他們……那個音樂的老師，來台灣玩。）

林：喔喔（Ooh-oooh）。

王曾：^{たかみやせんせい}高宮先生、ここ（手指照片）。

（高宮先生在這裡（手指照片）。）

〔中略〕

王曾：也是我們同學會去的。（手指照片）這個過世了，這個過世了，這個過世了……喔！死好幾個了（笑）。

王曾兒：都那個了，都出國去了，都沒辦法了。

王曾：剛好那時候——

王曾兒：他們來台灣的時候是嗎？來台灣的時候是嗎？

王曾：台灣去……去啊……去日本玩。

王曾兒：你們去日本玩。

王曾：嘿啊。

王曾兒：這邊都是日本仔嗎？

王曾：沒有啦，都台灣人啦，那邊都是台灣人啦！這是才是那個啦，音樂老師啦，^{たかみやせんせい}高宮先生。

王曾兒：日本仔，日本仔。

林：啊妳日本朋友是〔在〕哪裡認識的？

王曾兒：高中嘛。

林：高中。

王曾兒：以前虎尾高中的同學，對不對？

王曾：^{こうとうじょがっこう}高等女學校。

王曾兒：嘿，以前虎尾女高的同學。

林：嗯。

〔中略〕

王曾：那個時候台灣人只有 3 個，這個我先生，^{はねだ ひこうじょう}羽田飛行場，羽田飛機場。

林：嗯嗯嗯。

王曾：空軍。

林：他是空軍喔？

王曾：嘿啊，台灣囡仔（*gin-á*，小孩）考試上三個。

〔中略〕

林：好，這樣我要繼續問喔。

王曾：好。

王曾兒：再繼續問好。

林：欸……我再確認一下喔，妳說妳……欸……國小的時候較……看^{まんが}漫畫較多乎？

王曾：^{まんが}漫畫，嘿。

林：^{まんが}漫畫比較多。啊那個漫畫都是妳爸爸媽媽買給妳的？

王曾：嘿啦。

林：那妳會借同學（*tâng-òh*）看嗎？

王曾兒：同學看，「*tông-òh*」，不是「*tâng-òh*」。

林：同學（*tông-òh*）。

王曾：有啊！同學也是——

王曾兒：妳爸爸媽媽會買^{まんが}漫畫給妳看？

王曾：嗯。

王曾兒：真的還假的？

王曾：真的啊！

王曾兒：我從來沒有聽妳說過。真的喔？

王曾：啊那小的時候，國民學校……

王曾兒：妳有時候聊天會講啊，沒有聽妳說過。確認乎？（王曾無回應）

〔中略〕

林：若這樣那時候妳爸爸媽媽買給妳的^{まんが}漫畫是……什麼內容妳還記得嗎？

王曾：不記得了。

林：不記得。

王曾：那都淺淺的而已。

〔中略〕

林：所以爸爸媽媽不會覺得說^{まんが}漫畫不能給小孩子看，不會這樣……不會這樣覺得？

王曾：沒有啦！那就不是是……那個^{まんが}漫畫就……那個古錐（kóo-tsui，可愛）的、心適（sim-sik，有趣）的啊。

林：嗯，啊爸爸媽媽怎麼知道說要買什麼書？他們會去——

王曾：會啦，他們都有讀書。

林：他們是去哪裡買的啊？

王曾：我不知道（笑）。

林：不知道。

王曾：書店啦。

王曾兒：那時候有……那時候有^{まんが}漫畫的書嗎？

王曾：有。

王曾兒：這樣喔？西螺呢（--neh）？

王曾：嗯。

王曾兒：還是去日本買回來的？

王曾：沒有啦！

王曾兒：沒有喔，都在西螺？

王曾：都在西螺啦。

林：可能是去書店乎，書店買的？

〔中略〕

林：啊中學時候讀的那個小說^{しょうせつ}也是自己買的嗎？

王曾：嗯。

林：爸爸媽媽都沒有買——

王曾：沒有啦，那個小說^{しょうせつ}也不是說很那個——

林：很……很怎麼樣？

王曾：健康啦。

林：很……健康？（笑）

王曾：嘿啊。

〔中略〕

林：所以妳日本時代妳就沒有看過那種電影的漫畫^{まんが}？（王曾搖頭）沒有，啊妳知道說有這樣的東西嗎？

王曾：不知道。

林：都不知道，嗯。啊妳那時候看的電影啊，那都是一支一支這樣放嗎？就是很多支同……一場這樣看很多支，還是說……一場就只有一支而已？

王曾：一支而已。

林：一支而已。

王曾兒：放一片而已啦乎？

王曾：一片而已啦。

林：那電影的主題和——

王曾：不記得了（笑）。

林：不記得了。若這樣想要問說在戰爭還沒結束之前，妳會……妳覺得妳是哪裡的人？會不會覺得說自己是日本人？

王曾：沒有啦（笑）！

王曾兒：妳那時候妳心裡妳自己想說，妳是台灣人還是日本人？

王曾：一半一半咧！

王曾兒：「一半一半」。

林：「一半一半」，嗯，為什麼「一半一半」？

王曾兒：妳意識上……意識上意識上，妳自己的意識上，妳頭腦跟身體說我是台灣人還是我是日本人？「一半一半」——

王曾：（笑）

王曾兒：這樣要怎麼辦……要怎麼……要剖半嗎？「一半一半」要剖半？

〔中略〕

林：「一半一半」——

王曾兒：（笑）那怎麼辦？

林：沒有，想說怎麼會說是「一半一半」？是因為講日語才會覺得說……自己是不是……是一半的日本人這樣嗎？還是？

王曾：不是啦！那時候有改……改做日本名字嘛。

林：嘿，為什麼會改做日本名字？

王曾：那時候如果改做日本名字乎，要去考試乎，較快考上。

林：是喔！

王曾：嘿啊，你不知道喔？

王曾兒：（笑）

林：我不知道啊。

王曾：還有游泳不會也不行喔！

林：為什麼游泳不會也不行？

王曾：也不行，體育——

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾：啊游泳我就是去那個……一個那個……那個獨立……^{どくりつうんどう}獨立運動乎，那個娶……那個美國老婆乎，他們家有游泳池，在我們旁邊而已，去他們家游泳。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾兒：諄（hoo）！西螺那有那麼有錢的人喔？還有游泳池。

林：嘿啊。

王曾：廖文毅啊！他們家有游泳池啊。

王曾兒：說廖文毅你可能不認識，以前在……以前的——

王曾：^{どくりつうんどう}獨立運動、^{たいわんどくりつうんどう}台灣獨立運動。

王曾兒：他是美國 MIT 的博士，他以前是搞台灣獨立運動。他以前在日本啊，就是台灣的，他自己自稱大統領啊、總統啊。台灣總統，廖文毅啊！你去 google 查，這個人還蠻……小有名氣的。

林：好。

王曾兒：以前跟國民黨對抗的，廖文毅，在日本，他……他長期住在日本，後來才回來台灣，在日本搞台灣獨立運動。

王曾：現在已經過世啦。

王曾兒：嘿，已經過世了，嘿。

王曾：唉。

林：不過說戰爭開始的時候，差不多是……40 年代嗎？是嗎？40 年代的時候。

王曾：我小時候——

王曾兒：^{せんご}戰後是 1945 年，日本戰敗是 1945 年——

林：嘿啊嘿啊。

王曾兒：大概 8 年，19……1927 年開始——

林：1937。

王曾兒：27。

林：就是中日戰爭那時候嘛乎？

王曾兒：啊 37 37，37 對對，開始……因為國民黨那時候 8 年抗戰嘛！所以他們是 19……37，就是……就是民國 26 年開始算，算 8 年嘛。26、27、28、29、30，大概……大概差不多 8 年啦。啊 1945 年戰爭才結束嘛！

林：嘿啊。

王曾兒：對啦 37 啦，37 到 45 啦！1937 到 1945。

林：那時候台灣有沒有什麼戰爭的宣傳還是什麼？

王曾：沒有啦！那時候只有……也沒有什麼戰爭的什麼那個啦。

王曾兒：日本時代怎麼會沒有？那時候都調一些——

王曾：只有那個——

王曾兒：都調一些……不是都調一些……台灣人調一些去做南洋。

王曾：啊對！去南洋。菲律賓啦，啊那個——

王曾兒：有些可能調去做苦工吧！

王曾：屯伙啦。

王曾兒：啊有些年輕人當兵嘛。有些可能年紀大了搞不好去……軍伙啊，什麼煮飯啦還是做後勤的應該是，軍伙啦！我們一般講軍伙啦！那有些女孩子就調去當護士啊。

王曾：到中國乎，我大舅舅去當兵，在廣東，那個水溝仔乎，水溝喔都是血喔！都血喔！但是沒有水或……沒有辦法弄起來喝。（笑）我大舅舅啊！

〔中略〕

林：若這樣妳現在，在想日本時代的事情的時候啊，是用怎麼樣的心情去想的？是會覺得說乎，很快樂，還是說……？

王曾：沒有說很快樂那時候，每日就戰爭，有時候我們到虎尾，那個虎尾站……空襲警報。

王曾兒：那時候虎尾有機場——

王曾：飛機場啊，要來那個啊。那我們火車……到虎尾要一個鐘頭喔——

王曾兒：——美國會來轟炸，那都美國人來轟炸的。台北其實也有轟炸過，只是我們歷史課本沒有教我們。美國的飛機啊，有炸過台北，還有機場，嘿。

王曾：——啊我們到機場下面乎，有一次空襲警報，諄（hoo）！我們大家喔，5、60 個〔人〕喔，都攞咧在哭呢（--neh）！那真的如果說——

王曾兒：如果炸到就死一大堆了。

王曾：炸到就全部都……全部都死了（笑）。

王曾兒：這國民黨的歷史都沒有寫的啦。

林：嘿啊。

王曾兒：但是你去應該有，這個檔案應該找得到。它有飛機來炸日本的……它應該可能有什麼戰鬥機什麼在那邊，炸炸炸，虎尾以前有機場。

王曾：那時候都 B-29⁴啦。

王曾兒：虎尾以前有機場。

王曾：「予科練」⁵啦！那時候「予科練」。「予科練」就是 17、18、19 歲這些人呢（--neh），都是年輕人呢（--neh），啊都穿白的喔。諄（hoo）！這樣……

王曾兒：以前的什麼……飛行員啦，有神風特攻隊的什麼對不對？

林：嘿，那個神風特攻隊有台灣人嗎？

王曾兒：不知道，就不知道有沒有也不知道，可能沒有，搞不好他們用日本人。

王曾：不是，我先生也是特攻隊，台灣人——

王曾兒：沒有啦！他是做後勤而已啦。

王曾：後勤啦。

王曾兒：還沒有飛上飛機。

王曾：但是……他們喔……日本人就是自願的，自己自願去的喔。

林：嘿。

⁴ 轟炸機名稱。

⁵ 指「海軍飛行預科練習生」。

王曾：實在是很感心（kám-sim，感動）的。

王曾兒：那不是自願的啦！

王曾：自願都……去都一定死的。

〔中略〕

王曾：啊後來去菲律賓啦，啊馬尼拉啦那些的，都是差不多台灣人。

王曾兒：那是……那是……那是都去當陸軍的啦！

王曾：對啦陸軍啦。

王曾兒：空軍沒有飛到那邊去啦！

王曾：陸軍，嘿。

王曾兒：嘿，空軍都是日本本土出來的還是怎樣。

林：嗯。

王曾兒：當陸軍的啦！

王曾：那個時候——

〔中略〕

林：啊妳認識的日本朋友是日本時代認識的還是說戰後？

王曾兒：應該是虎尾……女高的時候吧？

王曾：女高的時候才認識的。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

王曾兒：17、16，她 1929 年生嘛，1929 年大概 16 歲，1945 大概……1945 年以前認識了啦！那時
候還是日本時代嘛對不對。

〔中略〕

林：這樣妳國民學校的時候……欸？是……是叫做說國民學校嘛？

王曾：嘿，國民學校。

林：國民學校的時候，那老師都是日本人嗎？還是有台灣人？

王曾：沒有，台灣人。

林：(聽錯) 也有台灣人？

王曾：很少啦！

林：台灣人較少，較多日本人這樣？

王曾：我一年級的時候〔老師〕就〔是〕台灣人，一年級的，一年級的時候。

王曾兒：小學一年級就有台灣人。

王曾：一年級的時候……大家都太會……不太會講日語嘛。所以——

林：嘿，那是因為大家都在家裡都是講台語較多這樣嗎？

王曾：較多毋 (--m̄)。

林：嘿。

王曾：所以去讀一年級的時候乎，像那個……老師都是台灣人比較多。

林：啊升二——

王曾：五、六年，四年以上就是日本老師。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，啊那女學校じょがっこう的時候咧？

王曾：都是日本老師。

林：全部都是日本人？

王曾：都是日本人，沒有台灣人啦，台灣人就是那個……辦事的……辦——

林：喔，じむいん事務員就對了？

王曾：嘿，じむいん事務員，嘿。

王曾兒：事務人員啦，大概辦一些甚麼總務啦什麼之類的嘿，庶務總務的那些的。

林：所以是……妳當老師是日本時代的事情嗎？

王曾：沒有啦！

王曾兒：不是不是。

林：還是戰後的事？

王曾：戰後啦！

王曾兒：戰後戰後嘿，應該是 1945 年以後的事，大概在 19……應該大概算 1946 到 1950 年、51

年中間嘛，還沒有結婚嘛，大概……她大概 51 年還是 50 年尾還是 51 年初結婚的嘛，那 4、5

年期間大概……不知道做……不知道妳那時候做多久？

王曾：我那個時候都教那個六年級數學。

林：數學？

王曾：嘿，啊要補習嘛。沒有要再考試……對不對？

林：嘿。

王曾：啊要考試，○○（人名）他爸爸啦，校長啊。

王曾兒：嗯。

王曾：所以那個時候要補習喔，我都沒有拿他們的錢，因為鄉下人都沒有什麼錢。

王曾兒：那時候大家都很窮啦。那時候那個時代大家都很貧窮，嗯。

林：嗯。

王曾：所以我都沒有給人家拿〔錢〕啦。

王曾兒：讀書都快沒辦法了哪裡還能夠補習？

王曾：所以我沒有給人家拿〔過錢〕啦。

王曾兒：這是應該應該……這是 1945 年以後的事情了啦。

王曾：所以我結婚了以後，有些人來找我，說：「老師，謝謝妳。」

林：很感謝這樣。

王曾：嘿。

林：欸？若這樣妳那時候教……就當老師的時候，妳是用什麼語言在教？台灣話？

王曾：不是啦！

王曾兒：中文吧？

林：都華語喔？

王曾兒：沒有，妳日本時代有教過書嗎？

王曾：沒有啦！

王曾兒：對嘛乎。妳是……國民黨來的時候才——

林：嘿啊，就是戰後啊——

王曾：就那個……那個用……用什麼……中……中國的啦。

王曾兒：中文啦中文啦。

王曾：中文啦。

林：北京話這樣。

王曾兒：嘿啦嘿啦，北京話啦。中文啦。

王曾：啊不然乎，那時候戰後乎，從四川調來的那邊老師乎——

王曾兒：那時候很多外省人那個口音很重，四川那些有些口音我們都聽不懂，都聽不懂。

王曾：他們都聽不懂啊。啊六年級乎，沒有……沒有給我們台灣人的老師〔教〕不行，要考試
嘛，升學考試。

林：嗯。

王曾兒：那時候比較隨便啦。只要你有點資歷了就可以當老師了，現在不行了現在。

王曾：啊我……啊我……欸！我補習都沒有跟他拿錢呢！

林：嗯。

王曾：我都沒有跟他拿錢，鄉下人都沒有什麼錢嘛。

林：但是妳日本時代不是都說台語跟日語嗎？

王曾：嘿啊。

林：啊妳北京話什麼時候學的？

王曾：戰後才學的啊。

林：才學的？

王曾：嘿啊。

林：戰後才學的，嗯嗯。

王曾：戰後才學的啊！

林：啊妳那時候，國民黨說要來台灣的時候妳是……什麼想法咧？

王曾：喔我那時候保送……台北女子師範乎，我不敢到台北來。

林：為什麼？

王曾：保送一個，我不敢來。

林：怎麼會不敢來？

王曾：蔣介石——

王曾兒：1945 年……1945 年日本戰敗嘛。

林：嘿啊。

王曾兒：1947 年發生二二八嘛。

林：嘿啊。

王曾兒：啊那段期間 1946、47 的話，國民黨的……應該在中國大陸打敗……敗仗啦，你給國民黨
看，他們的那些兵，很亂七八糟。

林：嘿。

王曾：亂七八糟，都給人家偷抓雞。

王曾兒：沒有什麼紀律啦。

王曾：乎，啊給人家——

王曾兒：她們的印象是說日本人比較有紀……日本人比較有紀律，就是連戰敗都會有紀律。國民
黨的兵就它——

王曾：沒有，亂七八糟。

王曾兒：——隨便抓兵的，有的鄉下人這樣，穿草鞋還是打赤腳，銅鼎仔（tāng-tiánn-á，不鏽鋼
鍋）揸著，不像……不像一個軍人的樣子。

林：嗯、嗯、嗯。

王曾：所以我就不敢到台北念書。

林：嗯。啊西螺那邊就較沒有中國兵這樣？國民黨的。

王曾：有喔，也是有。

林：也是有。

王曾兒：也是加減有，可能不知道，他們比較清楚。

王曾：有啦，很少啦。

林：比較少啦乎？

王曾兒：嗯，剛開始比較少啦。

林：嗯。你們都會說他們是「外省仔人」嗎？「外省仔」。

王曾：對啊。

林：嗯，所以……若說——

王曾：所以那些那些外省的……的那個中國話的老師乎，諱（hooh），都在給我們逐（jiok，追）
毋（--m̄）乎，我就說 NONONO。（笑）

林：（笑）

王曾：疍的（siáu—ê，瘋子）。我……我下面還有 4 個妹妹，我要是嫁中國……嫁給他們外省的
乎，差不多整個都嫁給外省了，就差不多這樣。

林：若這樣妳……是怎樣跟妳先生認識的？是怎麼樣？別人介紹呢？

王曾：他建築……他建築工程師嘛。

林：嘿。

王曾：乎，啊去那邊……學校蓋教室，他設計的。

林：喔喔（Ooh-ooH），就這樣認識這樣？

王曾：也不是認識啦啊就——

王曾兒：那時候我爸是——

王曾：哈（Hannh）？

王曾兒：是在縣政府工作嗎？那時候啊。

王曾：嘿啊！

王曾兒：在西螺做的時候是在縣政府工作嗎？

王曾：荊桐啦。

王曾兒：去荊……我爸在荊桐？在縣政府啦。

王曾：沒有啦去縣政府啦，啊荊桐設計啦，舅舅我舅舅乎，標到啦。建商就是我……我媽媽的那

個……

林：弟弟嗎？哥哥？

王曾：不是啦，弟弟——

王曾兒：妳舅舅是哪一個？妳舅舅〔是〕哪一個？

王曾：那個算做說……不是很近的那個舅舅啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），嘿。

王曾：叔伯〔表〕啦。

王曾兒：不是親舅舅啦。

林：嗯。

王曾兒：可能是表舅還什麼之類的。

林：較遠的。

王曾兒：較遠的，就較遠的，對。

王曾：剛才那個……有些那個老師就是蔞桐的。

王曾兒：嗯。

王曾：我第一次當老師就是〔在〕這。

林：那個是……學校的名字是叫做「蔞桐國小」這樣乎？

王曾：嘿、嘿、嘿。

王曾兒：這個學校現在應該還有喔，蔞桐國小應該還有。

王曾：還有啦。

林：嗯，蔞桐國小。

〔中略〕

林：若這樣妳現在最……就是用最多的語言就是台語嘛乎？最——

王曾兒：嗯。

王曾：嗯，台語。

王曾兒：對啦對啦，在家裡都講台語較多。

林：在家裡都講台語。

王曾：我們台語較……台語較好啊！

王曾兒：我們如果去玉蘭莊就是……台語、日語都有啦，玉蘭莊的話。

王曾：台語、日語。

林：為什麼會想說要用日語這樣做禮拜咧？（王曾搖頭）有〔做禮拜〕嗎？

王曾兒：不是，他們……他們——

林：不是……玉蘭莊不是——

王曾兒：沒有，日本人辦的啊！

林：嘿啊，每次都會這樣講課。

王曾兒：他們也是有日本老師啊，日本人老師，日本人的老師。

林：嘿啊嘿啊。

王曾：啊牧師也是有的有台灣人啦，但是也是用日語。

王曾兒：穿插啦，穿插啦。以前是為了日本人辦的，因為以前很多日本人，像這種年紀的嫁到台灣來嘛。

林：嘿。

王曾兒：大概年紀大了都沒有……他們可能辦個玉蘭莊給他們，後來現在……現在台灣人比日本人還多。

〔中略〕

林：為什麼……為什麼〔名字〕叫和子咧？

王曾兒：那時候怎麼取的？

林：誰取的？爸爸媽媽取的？

王曾：他取的啦。

王曾兒：什麼什麼叫他取的？

王曾：我爸爸，他那時候想說——

王曾兒：誰給你取的啦，和子誰給你取的？

王曾：^{かずこ}和子啦。

王曾兒：喔，^{かずこ}和子。

王曾：啊對，日本天皇的……不知道什麼那個〔也〕叫做^{かずこ}和子，一個^{かずこ}和子。

林：嗯嗯。

王曾兒：日本天皇那的，親戚那〔邊〕啦乎？

王曾：嘿、嘿，有一個叫做^{かずこ}和子。

王曾兒：要查一下。

王曾：啊我二妹是^{のぶこ}信子。

林：^{のぶこ}信子。

王曾兒：のむこ。

林：則嗎？

王曾：^{のぶこ}信子，信用的信。

林：啊^{のぶこ}信子。

王曾：^{のぶこ}信子。

王曾兒：乎，^{しんしゅう}信州，信——

林：ノブ……那個ドラマのノブ⁶、それ……それでしょう？

（信……那個連續劇的信嗎？是嗎？）

王曾：そう（對）。

林：嗯。

王曾兒：信子喔？

林：嗯、嗯、嗯。

王曾：嘿。

林：就阿信的那個信啦乎？

⁶ 指日劇《おしん》，台灣翻作《阿信》，和受訪者妹妹的名字使用同樣漢字。

王曾：信用……信用的信。

王曾兒：喔，信用合作社的信？喔，信任的信啦。喔！二姨的名字叫信子喔？

王曾：嘿。

王曾兒：喔，^{しんしゅう}信州啦，^{しんしゅうみそ}信州味噌、^{しんしゅうみそ}信州味噌。

王曾：那個……讀做「のぶこ」。

王曾兒：のむこ。

林：のぶこ。

王曾：啊三姨讀做那個……她就口口的毋（--m̄）？さだこ。

王曾兒：貞子還是什麼那個？

王曾：さだこ。

王曾兒：さだこ哪一個字？

王曾：素貞那個貞就是さだ。

〔中略〕

王曾：^{やすくにじんじや}靖国神社乎，它們每……每年一次喔。

王曾兒：靖國神社那個。

林：嘿。

王曾：嘿啊，都有在紀念喔。啊我先生也去嘛，他那時候也是……阿兵哥嘛，他帶我去，喔

（ooh）！我看了它……那個很多人，喔……

王曾兒：怎樣？很多人怎樣？

王曾：看了很難過的。

〔中略〕

王曾：就說不要戰爭最好啦。乎？

林：嘿啦不要戰爭最好。

〔中略〕

王曾：他們如果不丟原子彈乎，戰爭乎，不會……不會停啦，又又……

林：啊那時候台灣是怎麼知道說原子彈的消息的？

王曾：知道啦，怎麼會不知道。

王曾兒：美國原子彈以後你們怎麼……住在台灣怎麼知道說美國人在那邊〔丟了原子彈〕？

林：是廣播還是什麼嗎？

王曾兒：可能後來……後來天皇有一個……有一個收音機，有一個廣播。

林：嘿、嘿、嘿。

王曾：對啊廣播啊。

〔中略〕

王曾兒：差幾天嘛，一個 8 月幾號、一個 8 月——

林：一個 8 月 6 號一個 8 月 9 號，是嗎？

王曾兒：我也不太記得。

王曾：差 3……差不多這樣而已啦。

王曾兒：反正我看過就忘了，查一下都有……檔案都有啦。

林：差不多，嘿。

王曾兒：嘿，那個就兩個應該差很近。

王曾：喔！我去看乎，那樣……好難過的。

王曾兒：那也沒辦法啊對不對，那就——

王曾：我去^{ひろしま}廣島跟^{ふく}福——

王曾兒：^{ながさき}長崎。

王曾：和^{ながさき}長崎乎，諄（hooh）……

王曾兒：原子彈太厲害了，那個炸下去。

〔中略〕

林：是看像那個博物館那種？還是？

王曾：不是喔。

林：不是喔？

王曾：看它炸下去那個……那個——

王曾兒：它應該都有……照相起來吧，都有檔案。蒐集起來……那個那個戰爭紀念館嘛。

王曾：我們就是去……去那個現場，我們就去現場——

王曾兒：沒有啦現場沒……剩沒多少啦，只有那個——

王曾：剩沒多少對啦。

王曾兒：只有那個……只有^{ひろしま}廣島那個那個留下來，那個每次都照一個那個有沒有？一個圓弧形那個。

林：嘿，一個圓頂的那個。

王曾兒：它就不改建也不拆，就放在那邊，就說原子彈炸的。

林：提醒大家這樣子。

王曾兒：對對對對。

林：嗯。啊——

王曾：還是不要戰爭好啦。

林：嘿啊，不過我還是想要請問說，剛剛提到那個「一半一半」是怎麼樣？怎麼會覺得說——

王曾兒：喔！那時候妳……妳自己認為說妳是一半台灣人一半日本人，那時候妳的想法？我看她們的……一般一般老百姓的政治意識大概沒那麼強，她不會那麼強烈啦。

林：嗯，但是會覺得說自己是日本人，是因為自己會講日語嗎？

王曾：對啊。

王曾兒：她大概……她們那時候大概意識也沒有那麼強。有些人在台灣他會認為他是中國人。那時候有沒有？很多嘛，他那個時候……他那個意識比較強。啊真正說他日本人……可能他會說日……他認為說他是日本人搞不好人家認為他是……日本走狗，會不會？他也不能太明顯，他們每個人想法不一樣啦。她為什麼說一半一半我也不知道（笑）。

林：嗯。但……但是會覺得說自己是中國人嗎？那時候，戰爭之前，日本時代的時候。

王曾兒：日本時代可能……她可能沒有……她可能沒有喔，可能沒那個意識。

王曾：沒有啦，我們那時候都只有說台灣人。

王曾兒：台灣人。

林：台灣人。啊戰後呢？

王曾兒：好像也還不會，現在還是認為自己是台灣人（笑）。

林：都是覺得說是台灣人。會不會說不太喜歡講華語？

王曾兒：也還好呢（--neh）！要用的時候還是要……有時候也是有一些外省人大家會……會……還
是用……要用中文嘛。

林：嘿啊嘿啊。

王曾：啊你不講也不行啊。

王曾兒：也沒辦法，這個是——

王曾：當老師也要教啊。

〔中略〕

王曾：（指照片）我們這個老師，○○先生，^{せんせい}這個也很美。四年級的，這是日本人。

林：嘿啊嘿啊，日本人？

王曾：嗯。這在西螺大橋旁邊那邊拍的，那時候還沒口*（khi）造橋啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），看起來好像海咧。

王曾：還沒〔有〕海啦。

王曾兒：它那個是國民黨後來……後來來才再重建的，好像不……好像美援建的樣子還是怎樣？西
螺大橋有建過……有〔重〕建過。

林：這〔照片〕是國民學校的時候乎？

王曾：四年級啦。

王曾兒：喔四年級，她說四年級。喔！這些都是妳們同學喔？聯絡的沒幾個，都沒在聯絡了。

王曾：沒有啦，哪有在連絡，六年〔級〕的都沒有在聯絡了還……

林：可以再借我看一下嗎？

王曾兒：不知道都跑去哪裡了，那些同學都不知道跑去哪裡，有的可能去……出國去了。

王曾：不知道，我看差不多都出國去了啦。

王曾兒：沒啦，可能有的還在，還活著啦。

林：那時候的——

王曾：現在……（笑）現在出國就是……

王曾兒：出國就是到天國去了（笑），不是到美國。

王曾：到天國去了，叫做出國。

林：去天國。

王曾：我打電話到我同學〔家〕，我說……他女兒乎，我問她：「妳爸爸呢？」〔對方就回：〕「他出國去了」（笑）

王曾兒：講死掉了，台語講死掉了較不好聽啦，出國去了、出國去了。有的人不知道還問：「到那裡啊？美國啊？英國？出國。」（笑）

林：這樣那時候國民學校是有分成說，男孩子讀的國民學校和女孩子讀的國民學校嗎？

王曾：嘿，不同學校。

林：沒有這樣混合這樣？

王曾：沒沒。

林：都沒有？

王曾：教到後來就有了。

林：後來是差不多是什麼時代咧？

王曾：我讀那個虎尾女中之後我就——

王曾兒：沒有啊，國民黨時期也都還是分開的，小學應該是男女合校啦，初中就男女……就分開了。

林：但是這是國民學校的時候乎？

王曾：嘿啊。

王曾兒：都是女孩子你看。

林：這小學了乎？

王曾：四年級。

林：(問王曾兒) 你說戰後？

王曾兒：我是說我們啦，國民黨時代，對不對？是後來才慢慢地……像以前這個是長安女中啊。

林：喔，是喔！

王曾兒：對，只有女孩子讀。現在改成長安國中，男生也可以進去，國民黨時代都還這樣。

〔中略〕

王曾：一年級好可愛喔！

林：(笑) 那制服也很可愛的。

王曾：對啊。

林：日本式的制服。

王曾：嗯，都□□□啦。

林：(指照片) 這是老師乎？

王曾：對，這台灣人的老師。

林：這台灣人？那剛剛那個是日本人？

王曾：校長是日本人。

林：這是校長？

王曾：嘿，校長。

林：校長。喔喔 (Ooh-ooh)，還有留鬍子。

王曾：嘿啊，那日本人很愛留這個〔鬍子〕。

陳旭星 20210416

林：請問你的大名？

陳：陳、旭、星。

林：陳旭星。

陳：^{ひよくせい}旭星です。

林：請問你是幾年、在哪裡生的？

陳：出生乎？

林：嘿，出生。

陳：我是 1934 年 11 月 20 日，在台北市的大稻埕。大稻埕你知道嗎？

林：大稻埕。

陳：嘿，大稻埕，就這樣，大同區啦。大稻埕出生。

林：所以就是囡仔（*gín-á*，小孩）的時候都一直在台北，這樣？

陳：對啊、對啊，就在台北橋附近。我記得那個時候，有一次颱風啊，那為了要……因為那個時候，我們住在台北，但是我們在三重也有房子。

林：嘿。

陳：那台北好像是我阿媽啦，阿媽的家，她住在那個那個透天的，那種房子。

林：嘿。

陳：那我們三重的房子是比較簡陋，那三重會淹水。所以颱風一來的話呢，諄（*hooh*），我們就幾個小孩子，我們還小，差不多國小二年級、三年級那時候。啊過那個台北橋，颱風在刮乎，過來台北那多危險啊！啊那個時候的台北橋有那個鐵……鐵橋你知道嗎？那個時候是鐵橋。

林：嘿。

陳：我跟我 2 個弟弟跟姊姊 4 個人，從三重這樣這樣，一直抓那個鐵桿啊（笑）。跑過來那個、

那個.....

林：不然會被沖走是不是？

陳：延平北路那邊，靠近橋那邊，□□□那個百貨。

林：嗯。

陳：我現在還印象很深。

林：很辛苦的呢（--neh），那時候。

陳：唉，那個時候.....不過那個是日本時代啦。

林：嗯。

陳：日本時代啦。

林：嘿。所以你在戰爭結束之前都是在台北生活？

陳：對，都在台北市。

林：若這樣，方不方便說借問你那時候，你有幾個兄弟姊妹？

陳：喔，就是我有 2 個弟弟 1 個姊姊。

林：2 個弟弟 1 個姊姊。

陳：我們總共 4 個。3 個兄弟，啊 1 個姊姊。

林：啊方不方便問說你家裡是做什麼的？

陳：我爸爸那時候剛好在那個，放送局。

林：放送局？

陳：就是.....台.....

林：放送局？^{ほうそうきょく}放送局？

陳：對，^{たいほくほうそうきょうかい}台北放送協會。就是現在的 NHK 的前身啦。

林：嘿、嘿、嘿。

陳：NHK 的台北分局啦。那個時候那個辦公廳在新公園裡面。現在的新公園裡面。

林：嘿。

陳：啊我爸爸在那邊上班。那我爸爸的職務就是，那個時候呢，收音機呢，在賣。

林：嘿。

陳：那買收音機就要跟政府登記，那我爸爸就是做推銷員。而且那個時候收音機市內很少有人有，大概幾家、幾家而已。很少很少，幾乎沒有。那我爸爸就是因為他在賣那個收音機，他常常都帶一兩三個收音機回家，然後就把它裝起來，然後附近的那個鄰居呢，諄（hooh）！都跑來喔，來聽，聽放送、放送。就像現在我們在看電視一樣，電視剛剛出來的時候那個同樣的情況，很好奇嘛，大家很好奇。那我比較印象深的就是說，在那個時候日本〔被〕打敗，啊天皇不是有廣播嗎？

林：嘿。

陳：有玉音放送，^{ぎよくおんほうそう}玉音放送。喔！我家前面差不多有 100 多個人在那邊……在聽。

林：你家前面喔？

陳：我家、我家。啊我爸爸在賣收音機啊（笑），啊大家都來、都來聽，大家都來哭（笑）。

林：但是大家這樣聽都聽得懂嗎？

陳：日本時代我們都講日語啊。

林：嘿啊，但是我是之前是有聽說——

陳：而且鄰居的人通通都講日語啊，啊我家是國語家庭。

林：啊，是國語家庭。

陳：所以都講日語。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：所以那個時候我的日文程度很好。我還記得……日本時代我還代表學校去廣播比賽，演講比賽。

林：那個國語家庭是有什麼樣的資格才能拿到啊？

陳：就是像我爸爸在放送局^{ほうそうきょく}啊。

林：就要是政府有關係的人嗎還是？

陳：沒有，對，因為他跟放送局，都是日本人。

林：嘿、嘿。

陳：有接觸，跟他們都很熟，所以自然就……就是被他同化了嘛。

林：嗯。

陳：那時候我爸爸都是非常日……生活習慣都是學日本的。

林：這樣穿的衣服呢？

陳：一樣啊，也是……穿的衣服當然是照普通……因為那時候物資很缺乏，也沒有什麼，沒有什麼去買什麼衣服，沒有啊，就是一般公務員那種穿著而已。

林：喔喔（Ooh-oo），啊你日本時代有曾上過什麼學校？

陳：那個時候……我們上的，我上的小學叫做「河合」。

林：かわあい？

陳：「河合」。

林：可以寫給我看嗎？歹勢，我準備一下。

陳：就是那個「河合」，piano 那個「河合」。

林：「河合」嗎？是「河合」嗎？

陳：對。這個「河」嘛，「合」嘛（寫字），国民学校。

林：国民学校。

陳：就是現在的延平國小。

林：啊你那時候是一年，就是……

陳：這是日本時代了啦。

林：嘿啊，那是……你剛進去的時——

陳：那個時候……四年級。

林：嘿。

陳：四年級。

林：四年級？

陳：我記得那個時候是四年級，去比賽的時候。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿，然後五年級就開始戰爭，六年級就光復了。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：但是我六年級就搬到東門來了，所以就轉到東門國小。所以、所以——

林：欸？所以是戰爭結束之前你就到東門，這樣嗎？

陳：東門是蔣介石來的時候才去的。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：但是日本時代我是在這裡，所以這個是在延平北路。

林：所以你一開始去國小的時候，它就是叫做「國民學校」這樣。

陳：對，^{こくみんがっこう}国民学校，「^{かわあいこくみんがっこう}河合国民学校」。

林：喔喔（Ooh-ooh），「^{かわあい}河合」。

陳：光復以後它叫做延平國小，國民小學。

林：「^{かわあい}河合」（做筆記）。

陳：那在日本時代校長、教務主任、訓導主任都是日本人喔，全都是日本人，我的班導師也是日本人啊。

林：這樣學校的……老師都是？

陳：對啊，日本人。

林：沒台灣人的老師？

陳：有啦，有台灣人，有台灣老師，有啊。

林：台灣老師跟日本人的老師——

陳：比較少，我覺得日本人比較多，那個時候。

林：啊教的東西有差嗎？還是說——

陳：就是日本政府，那個〔時候〕日本在統治台灣，日本規定的教科書啊。

林：嘿啊，啊有沒有說台灣人的老師教什麼科目這樣？

陳：喔喔（Ooh-oooh），在這個學校裡面都是一樣。

林：都一樣。

陳：嘿，但是我的了解啦……乎，啊就實際上也是這樣，日本時代台灣人唸（--hannh）（在紙上寫字），這個，這個是台灣人念的學校。

林：嘿。

陳：那日本人呢，他們唸的學校叫做「小學校」。

林、陳：小^{しょうがっこう}學校。

陳：小^{しょうがっこう}學校。

林：嘿。

陳：但是這個台灣人不能進去。但是有例……有 exception，有例外。什麼樣的例外？就，比如說像我老爸，他在放送局上班，那個等於是日本人的公務員的子弟可以去，但是要考試，日本人不要考試，台灣人去要考，啊考的不一定過，真正有實力才行。

林：嗯。是考什麼？

陳：就是……入學考試啦。考什麼我……因為我沒去考我不知道。

林：喔喔（Ooh-oooh）。（笑）

陳：我是讀國民學校，但是我的弟弟小我 3 歲，我有 2 個弟弟嘛，我的二弟，就是我下面那個。

林：嘿。

陳：他去考，考取了。

林：嗯嗯。

陳：我那個弟弟很厲害喔，他考取了他就……就去，那個時候的小學校叫做「^{ことぶき}壽」。

林：ことぶき？

陳：「壽」，^{ことぶき}壽小學校，只有一個字。

林：嘿，「^{ことぶきしょうがっこう}壽小學校」這樣？

陳：「^{ことぶきしょうがっこう}壽小學校」。現在好像是……西門吧，西門國小。

林：西門國小。

陳：不曉得是不是，我不太清楚。

林：好，不要緊，我再查。

陳：因為我弟弟乎，只進去一年啦，就光復了，好可惜喔，我覺得好可惜喔，可惜，不然的話我弟弟現在不得了，一定……一定是，若不是政治人物就是……因為念日本學校出來的喔，都是非常優秀。

林：嗯。

陳：非常優秀，對，但是他運氣不好只有念一年就光復了，沒有了（笑），是這樣。

林：若這樣你們小時候——

陳：那我還有一個很……很懷念的經歷就是，在打仗的時候，光復之前。

林：嘿。

陳：快要終戰的時候，那個空襲有沒有，最厲害的時候，我沒有跟我家人去，疏散去鄉下。

林：嘿。

陳：那台北市幾乎是空城喔。

林：嘿。

陳：通通疏散到鄉下去了。

林：是。

陳：那我家呢，是疏散到那個社子，社子現在是跟台北市一樣，啊，人很多，車子很多。可是日本時代不是喔，日本時代的社子是一個孤島，是一個島，旁邊那個都是淡水河。

林：嗯。

陳：啊你要涉水要坐渡船，所以是很鄉下、很鄉下。那在那個地方我們陳家的老家有個房子在那裡，所以我老爸就疏散到那邊去。但是我老爸又是在放送局啊，他跟日本人打成一片，想法、講話、文化都是日本人思想，那那時候他們日本人呢，就在提倡這個集團疏散，集團^{しゅうだん}疎開^{そかい}。

林：嗯，はい（是）。

陳：啊集團^{しゅうだん}疎開^{そかい}是什麼呢？就是把幾個學校，小學，不管是台灣人念的還是日本人念的，他們

合在一起，就是老師帶著學生去，住在疏散的地方。

林：喔，啊那個疏散的地方是差——

陳：就陽明國小¹現在。

林：喔，陽明國小。

陳：現在的陽明國小。那，山上啦。那，那個時候參加的有三個學校，一個是河合，一個〔是〕大橋，也是台灣人念的學校，國民學校，還有一個是延平，欸不是延平啦，叫做……就是以前的台北市政府在那個……在那個長安東路有沒有？

林：嗯。

陳：長安東路有一個古早的台北市政府的地方，那個地方，那間國小現……我怎麼雄雄（hiông-hiông，突然）煞（suah）不記得了，反正就是只有日本人可以念的學校，就這 3 個學校的學生，不多啦，每一個學校大概有……1、20 個，所以我們這個河合跟大橋合起來差不多有 3、40 個，啊日本的，乎，日本人的學校，去的差不多有……喔日本人較多喔，日本人也是差不多 4、50 個喔，啊集體去住在陽明國小上面。

林：住？是住幾天？

陳：就是疏開嘛，疏散嘛，避難啦避難。因為台北市，美軍就一直來轟炸啊，不能住啊。

林：那是美軍還是說，那個國民黨的也有來？

陳：No, no, no, no, no, no.

林：都美軍？

陳：日本時代沒有國民黨，日本時代只有日本人啊，台灣全部都是日本人管的。

林：我是說轟炸的那個飛機，那是美軍？

陳：轟炸的〔是〕美軍、美軍，沒有、沒有、沒有……〔中略〕那，那個時候我記得跟日本人去，去那個什麼，陽明國小住。那他們教育的方式乎，就是分開啦。他們還是很歧……很排斥台灣人喔，日本人，日本人自己小學校也是小學校的，不會讓我們參加他們上課，分開，

¹ 應指「陽明山國小」。

啊吃住通通分開。那我們可以看見他們在吃飯，他們吃得很好喔，每餐都是吃那個天^{てん}ぷら
(天婦羅)啦，都有魚，也有肉。

林：在戰爭的時代他們還吃那個？

陳：嘿，雖然是物資很缺乏，在我的印象裡，他們還是沒有什麼缺。可是我們就慘了，我們台灣
人喔，三餐不繼喔，啊吃的是大鍋菜，不是說有飯有菜，沒有。我們吃那個是飯跟菜混在一
起的，煮的。

林：好像是菜尾這樣嗎？是嗎？

陳：就是……就是那個鹹粥啦。

林：鹹粥。

陳：燻(sā, 用滾水煮)來煮鹹粥，但是還是可以吃啦，也是乾淨的啦，但是跟他們比起來就
是……

林：就差一截這樣。

陳：天壤之別。

林：天壤之別。

陳：啊那個時候我小小的心靈喔，我對日本人是印象非常好，因為他們很有紀律，我非常喜歡日
本人。可是唯有這個，就是說，你來台灣統治台灣人，你並沒有把台灣人當做你們自己人，
你是把台灣人當做殖民、殖民地。那我們也可以理解啦，就是因為我們是殖民嘛，當然是差
別嘛，對不對。所以台灣的好處，他們日本人通通搜刮。比如說啦乎，台灣最有名的ひのき
(檜木)，台灣的森林裡面那個ひのき很多，很好的，通通被日本人採，搬到日本去。那不
是光ひのき啦，還有台灣的煤礦啊，金礦啊，鐵礦啊。

林：還有樟腦啊……

陳：欸，那個，就是國家認為珍貴的東西，台灣都有啊。

林：鹿皮是嗎？也是？

陳：台灣人、日本優先，通通刮。

林：若這樣你小時候有沒有日本朋友？

陳：倒是沒有欸。

林：都台灣人，都跟台灣小孩一起玩？

陳：但是因為我們沒有跟……沒有辦法跟日本人住在一起啊，沒有辦法住在他們的社區。

林：但是你爸爸——

陳：日本、日本時代，台灣人跟日本人是分得很清楚的。

林：但是你爸爸不是有日本人的……朋友？

陳：他是公〔務員〕啊。

林：嘿啊。

陳：他只是上班在日本人的地方上班，回家還是在台灣人〔的社區〕——

林：所以私底下不會有交流這樣？

陳：對。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣喔。

陳：住還是……因為，可能我爸爸……沒有受到很高的教育吧，我在想啦。但是你看看那個時候日本時代，你台灣人能夠享受日本的高等教育的……

林：沒幾個乎？

陳：非常少，那個都是非常、非常有錢的人才會有辦法。

林：嗯、嗯。

陳：但是我爸爸只是一個小小的窮公務員（笑）。

林：啊可不可以方便借問說你媽媽咧？

陳：啊我媽媽是鄉下人。

林：你媽媽是哪裡的人？

陳：台中后里。

林：台中后里。

陳：后里的人。

林：嗯。

陳：諱 (Hoooh)，我媽媽是純粹的鄉下人，但是我媽媽還是有唸書啦，還是有唸書，而且我媽媽非常漂亮。

林：有相片嗎 (笑)？

陳：我沒有，沒有相片。為什麼我說我媽媽漂亮，因為我媽媽生的小孩，包括我啦乎，我們不管搬到哪裡，人家都說我們是像外國人一樣，啊這種鼻子比較高，我從初中到大學，很奇怪，每個同學都叫我阿啄仔 (a-tok-á，外國人的別稱)。阿啄--ê、阿啄--ê，鼻子高啊。啊所以我姊姊很漂亮，校花。她小學、中學、大學都是校花。

林：すごいですね (好厲害) (笑)。

陳：(笑)とても美人 (非常漂亮)。還有一個原因就是我們家裡的血統，有西班牙的血統。

林：喔喔 (Ooh-ooh)。

陳：因為我媽媽那邊，她的阿公，就是西班牙有來統治台灣一陣子嘛。

林：嘿，所以算是你的阿祖這樣。阿祖是西班牙——

陳：有西班牙的血統，西班牙的血統。

林：是阿公有，是阿公是西班牙人還是？

陳：阿公再上去，阿祖吧。

林：喔，原來是這樣。

陳：嘿啦、嘿啦。不過這個跟你要的資料都沒關係 (大笑)。

林：不要緊啊，我聽也是覺得說很心適 (sim-sik，有趣) 的，嘿啊。若這樣你小的時候啊，有什

麼遊^{あそ}び (遊戲) 嗎？

陳：遊^{あそ}び？

林：嘿。

陳：我記得我小時候，因為我個人比較……比較內向。

林：嘿。

陳：啊同學也是台灣同學，沒日本……也沒日本人啊。

林：啊感情好嗎？跟同學。

陳：感情很好啊！跟同學都，同學都若要上學都會來相招啊，一起去上學啊。

林：你們一班差不多多少人啊？

陳：喔，不少喔，一班差不多 4、50 個喔。

林：4、50 個。啊一個學校有幾……啊一個年級啦乎——

陳：像這個河合^{かわあい}，我記得那個時候好像滿多的喔，而且……而且班次²也很多。

林：有沒有到 20？

陳：沒啦，沒有那麼多啦。

林：10 幾個這樣？

陳：喔你說幾個諾（--hioh），幾個有啦，幾個……

林：沒、沒，我說班級的個數。

陳：班級的個數，差不多 7、8 班啦。

林：7、8 班。

陳：因為那個時候人口還是不多啊。

林：嘿，啊一個班差不多有……

陳：啊一班有……3、40 個喔。

林：3、40 個人……這樣是 3、40 個人一起玩，還是說也是分成乎……

陳：都分開吧。

林：喔喔（Ooh-oo）。

陳：也不一定啦。

林：差不多 5、6 人或是說 3、4 個人這樣嗎？

陳：嘿、嘿、嘿，對、對、對。

林：啊你們都玩什麼？

陳：可是我的印象乎，我的印象，在小學時候的印象乎，就是同學跟同學之間乎，會結黨。

² 可能是要說「班數」。

林：結黨？

陳：會結黨。然後……會變成強勢的在一起，弱勢的在一起，啊強勢的常常欺負弱勢。而且我記得我的印象裡面，我在弱勢裡面，常常被欺負。那你也沒辦法打啊，打不過他啊，而且那些強勢的人都是家裡有錢人啊，就是做生意的啦或是政治的、政府的高官。

林：你說台灣人但是他們——

陳：所以在那個時候，我心裡的印象，我很氣他們，我說為什麼要這樣子，強的要欺負弱的。

林：是只有你們班這樣還是說……

陳：每一班都是這樣。欸，為什麼呢（--neh）？因為日本時代他們日本人的教育精神就是……

やまとだまし
大和魂 嘛，就是軍隊式的教育〔所〕形成，我想啦，應該是這樣啦。

林：但是你家不是說〔是〕國語家庭？

陳：雖然，國語家庭來說，因為我自己不強勢啦，我不會去跟人家……去欺負別人，啊反而被別人欺負啊。

林：嘿。嗯……若這樣你小時候都玩什麼？

陳：小的時候是都，因為爸爸在放送室嘛。

林：嘿。

陳：所以他有，常常有拿一些日本雜誌啊、小說啊，小說看得最多。

林：雜誌小說、雜誌小說？

陳：嘿，所以……小說都看得懂。

林：嗯，是什麼樣的雜誌或是說小說？

陳：喔，很多喔、很多。日本小說啊，像寫那個少年，少年的那種……戰爭的故事啦，那個時候太小了還不會看那個戀愛小說，還看不懂，但是小時候就是喜歡看那種……戰爭的啦，那一類的。

林：啊有玩什麼遊戲嗎？有嗎？

陳：我記得遊戲……同學還是會互相找啦，互相找。然後有時候他來我家，〔有時候〕我到他家去。那玩的遊戲……撲克牌吧。

林：撲克牌？那時候就有玩撲克牌？

陳：有啊，那時候有撲克牌，嘿啊，撲克牌，かるた（歌牌），有かるた。

林：かるた，喔喔（ooh-ooh），啊會不會下棋還是怎樣？

陳：下棋……沒有，我沒有學過，有的人會，沒有，我沒有學〔過〕。

林：啊有那種鬼^{おに}ごっこ（鬼抓人）還是什麼嗎？

陳：那個太小……那個是很小的學生。

林：那是小學生？

陳：我們三、四年級不會玩那個啦，那個是幼稚園在……（笑）鬼^{おに}ごっこ，那個很小的才會。嘿
啦，嘿啦。

林：嗯，喔喔（ooh-ooh），是這樣。啊我看上次你給我寫的那個アンケート（問卷）上面有寫
說，你日本時代有看過電影？

陳：對啊。

林：啊你有寫電影的名字，你寫那個《鞍馬天狗^{くらまてんぐ}》，乎？

陳：對對對對對對對。

林：還有チャップリン（卓別林）？

陳：而且我非常喜歡他們那個チャンバラ（武打劇）。

林：喔，チャンバラ（武打劇），嗯。

陳：就相殺的那個啊，很好看欸。

林：那是在做……搬（puann，演）什麼的？

陳：都搬（puann，演）那個日本的英雄啊。

林：英雄是……？

陳：就是民間英雄啊。

林：是什麼年代的英雄？

陳：就是像那個……^{とよみひでよし}豐臣秀吉啊，那一類的。就是相殺啊，古裝的啦。

林：相殺，是這樣拿刀子還是什麼的，相殺這樣喔？

陳：對啊，就是、就是……

林：那個囡仔人（*gín-á-lâng*，小孩子）可以看喔？

陳：可以啊，有……電影你也可以，你有錢就可以買票去看啊。

林：欸？啊所以那時候的電影沒有分成說是大人看的電影和細漢（*sè-hàn*，年齡較小的）……和囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）看的電影這樣？

陳：大概是那種談情說愛的大人在看吧，那我們就是看相殺的——

林：啊但是，你囡仔人（*gín-á-lâng*，小孩子）你若要去那看那種戀愛的電影，會有人阻擋你嗎？

陳：會啊、會喔。

林：會喔？是電影院的人呢？

陳：而且我們也不會去看啦，因為還不懂嘛。

林：喔喔（*Ooh-oo*），是電影院的人呢？還是說家裡的大人？

陳：沒啦，都……都我們自己都去看廣告啊。

林：喔喔（*Ooh-oo*），欸，啊所以你要知道說現在在搬（*puann*，演）什麼片，是看那個戲園外面的廣告這樣？

陳：嘿，廣告、廣告，嘿，還有同學在講啊就會去看，「喔這齣很好看」這樣就會去看。

林：同學這樣互相找這樣？

陳：大家會……會討論啦，然後互相在討論的時候，「喔這個很好看」啊就去看這樣（笑）。

林：（笑）

陳：就這樣，滿好玩的。

林：啊那時候是去，你說是哪一間戲園啊？

陳：很多啦，呃……「第一劇場」隔壁有一個「永樂劇場」。

林：「永樂劇場」。

陳：嘿，「永樂」。還有那個延平北路再過來一點乎，有一家在巷子裡面，叫做……名字我忘記了，好像也有一家戲院。

林：嘿，延平北路巷子裡就對了。

陳：嘿，巷子裡，嘿、嘿、嘿。

林：那時候就叫延平北路嗎？

陳：那個時候不是叫做延平北路，那時叫做……延平北路是^{しょうかいせき}蔣介石來了以後才叫的啊。

林：嘿啊、嘿啊、嘿啊。

陳：古早，古早是叫做……就是用日本人取的名字啊。

林：欸？日本時代的路有路名嗎？

陳：沒有，沒路名，日本時代都是什麼區，啊幾番，幾……什麼幾番地這些這樣。

林：嘿、嘿、嘿，就跟我們現在，在日本住的那個地方一樣嘛乎？

陳：嘿，跟日本一樣，跟日本一樣，嘿。街道沒有名字，沒有，那個是光復以後才有。

林：是乎？啊你那個時候看的電影，你說チャンバラ（武打劇），チャンバラ乎？チャンバラ

……啊那個《^{くらまてんぐ}鞍馬天狗》——

陳：啊那個《^{あいぜん}愛染かつら》那個是戀愛的啦（笑）。

林：喔，那個你也有看喔？

陳：那個是比較大啦，那個是……

林：那個也是在日本時代看的？

陳：那個不是日本時代，那個都是光復以後了，我們比較大才會看那個。但是我光復前我才小學

四年級喔，小學四年級……當然也會懂一點啦，但是沒有……沒有那麼成熟。

林：嗯。チャンバラ（武打劇），啊還有你說チャップリン（卓別林），是嗎？

陳：那個時候有……有那種連續劇。

林：連續劇？

陳：欸……不是連續劇啦，那個日本時代沒有連續劇，都是單元劇。但是……

林：是不是說它是短片，但是它做好幾個這樣。

陳：嘿，都是チャンバラ（武打劇），都是講那個武士的故事。

林：チャンバラ（武打劇）就是這樣，就是——

陳：就是講那個、那個、那個……

林：它一片都短短的這樣？

陳：嘿，都講一個日本的民間，不是有一個非常……好像……好像好萊塢那個……那個羅賓漢
啊。對，就是……那算什麼？劫富濟貧啦，那種故事，很多啊。

林：喔，チャンバラ（武打劇）是做這種？

陳：有啊、有啊、有啊、有啊。

林：啊那個《鞍馬天狗》呢？

陳：還有一個那個年輕的，那個……

林：啊，那個我們仙台的那個乎？我們仙台的那個……^{まさむね}政宗，是嗎？伊達正宗，乎？

陳：嘿，那個也有，對，就是看那些。

林：所以說チャンバラ（武打劇）它是一個……好像是總稱這樣啦，還有好幾種的？

陳：對啦、對啦、對啦，就武打片啦，就武打片。然後武打片裡面有分很多，很多，像那個宮本^{みやもと}
^{むさし}武藏啦。

林：はい（是）。

陳：還有民間故事的一個……^{たんげ さげん}丹下左膳，^{たんげ さげん}丹下左膳那個也很出名。還有……忘記了，很多。

林：你有看過エノケン（榎本健一）的電影嗎？

陳：エノケン（榎本健一）也有，エノケン也有。

林：エノケン（榎本健一），啊エノケン搬（puann，演）的是什麼樣的電影？

陳：エノケン（榎本健一）不是チャンバラ（武打劇）喔，エノケンの電影是那個喜劇。

林：那算喜劇？

陳：那個算喜劇的。

林：那是……日本時代就叫做說喜劇了嗎？

陳：是啊，喜劇啊。

林：エノケン（榎本健一）……

陳：エノケン（榎本健一）。

林：エノケン他是，都是……就算是說，我們華語說的丑角這樣嗎？還是不是？是丑角呢？

陳：對啦、對，丑角、丑角、丑角，嘿啦，エノケン，很有名欸。

林：嘿啊，啊你那時候是只有看到日本的電影，還是說，乎，美國的或是歐洲的〔電影〕你都看？

陳：喔那時候沒有，沒有美國的啦，日本時代怎麼會有美國，沒有啦！

林：沒有喔？

陳：沒有啦，美國都是蔣介石來了以後啦。

林：因為你……你有寫一個チャップリン（卓別林），我想說是日本時代看的嗎還是？

陳：チャップリン（卓別林）是……對，可是チャップリン是從日本來的，不是從美國來的。

林：什麼意思？

陳：那就很古早的電影乎，但日本時代我們就沒有……沒有跟日本……沒有跟美國人在打交道，美國人是對敵啊。

林：嘿啊、嘿啊，那都是從日本——

陳：所以哪有那個……那是從日本的，日本又再傳到台灣來，送來台灣看的，都已經有翻譯過了。

林：沒，我說的意思是說，你看的電影是……譬如說是日本人在演的，還是說是……？

陳：啊也有美國……美國演的，那是日本來的美國的電影。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊若說美國來的，是什麼樣的電影？

陳：美國的喔？

林：嘿啊，就美國人在搬（puann，演）的是什麼樣的電影？

陳：卓別林以外的就沒什麼了啊，那〔是〕默片啊呢（--neh），那沒說話啊呢（--neh），沒有聲音呢（--neh）（笑）。

林：嘿啊，啊你小——

陳：我們那個時候都看沒有聲音的啦。

林：你小時候就看沒聲音的電影？

陳：嘿啊、嘿啊，那時候……那時候有聲音的就很稀奇啊咧。

林：欸？但是沒聲音的電影的時候，會有人在旁邊解釋嗎？

陳：有，那叫做辯士（piān-sū），叫做辯士。

林：那些你們都……辯士？

陳：嘿，戲院裡面有辯士在……在說明。

林：辯士，啊那個辯士是站在哪裡啊？

陳：坐在那個……螢幕的最前面啊。

林：他會遮住螢幕嗎？

陳：在現場啊，在現場，他就在那裡，我們就看到他在說明啊。

林：就是所有看電影的人〔都會〕看到他這樣，都可以看到他這樣？

陳：嘿啦、嘿、嘿。

林：啊有說很有名的辯……你說弁士^{べんし}喔？辯士？

陳：嘿，辯士的意思就是說，他在說明……說明這個電影的人啦。

林：嘿、嘿、嘿，啊那種人是——

陳：他不是演員喔，他不是演員。

林：我知道、我知道。是日本人還是說是台灣人？

陳：沒有、沒有，台灣人、台灣人。

林：台灣、台灣人，啊他是用什麼語言在做解釋咧？

陳：我記得……我記得都用日語喔。

林：都用日語——

陳：日本時代啊，用日語解釋啊。

林：嗯、嗯、嗯。

陳：當然鄉下的也有用台語的啦，對啊。

林：嗯，日語……因為你是住市區嘛乎。

陳：對啊，日本人統治的時代啊。

林：所以若是有聲的電影，那個電影的，乎，他們說的語言也是都是日文嗎？這樣？

陳：對、對。

林：啊美國的電影他們也是重新把它配音，配做說日語這樣。

陳：配做日語啊，像チャップリン（卓別林）那些都配做日語啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），但是チャップリン（卓別林）不是沒說話嗎（笑）？

陳：啊都默片較多啦，都默片啦，嘿啦。

林：（笑）喔喔（Ooh-ooh），所以說，啊你們會不會為了要聽什麼辯士、弁士^{べんし}？會……就是會指定說我要聽他講？

陳：沒有、沒有、沒有，辯士的那個地位不高啦。

林：喔，是這樣喔？

陳：嘿啦、嘿啦，他只是一個……一個工具而已。

林：喔喔（Ooh-ooh），原來，原來是這樣喔。所以有聲音的電影就沒有他們了乎？

陳：對。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊你們在看電影的時候，不然我分成說有聲音的電影跟沒聲音的電影說……來問好了乎？有聲音的電影的時候，是那個觀眾，會說話嗎？

陳：不會啊，大家都靜靜地看啊。

林：都靜靜地看，啊沒聲音的電影也是這樣？

陳：一樣啊。

林：都一樣。所以不會說有人，乎，一邊吃東西一邊看電影，不會？

陳：吃東西會啊，買東西來吃有啊，大家也都在買東西來吃。

林：但不會說話這樣子啦？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿啦，靜靜地看啦。

林：所以在電影院裡面——

陳：但是看到好笑的大家會笑啊（笑）。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。啊那時候是除了說你朋友說，跟你說現在在搬（puann，演）什麼電影，啊你才去看——

陳：我才去看，嘿啦。

林：你有沒有什麼方法說，〔能夠〕知道說現在在做什麼電影？

陳：那個時候還細漢（sè-hàn，年齡較小）乎，當然有時候我爸爸那邊會拿一些雜誌啦，啊雜誌裡面有廣告。

林：喔？雜誌裡面都有電影的廣告這樣？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：有啊、有啊，而且也有評論啊。

林：影評這樣乎？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿.....

林：啊那個時候你會看新聞嗎？就是你會看報紙嗎？

陳：有啊，會看啊、會看啊。

林：小的時候就會看報紙？

陳：會看，但是不是很有興趣，就都是大人的事情。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：跟自己沒有什麼關係嘛。

林：嗯。啊那時候電影的那個，電影票的錢差不多是多少？

陳：哇（笑），不記得了。

林：（笑）啊，不然這樣問好了，你那個時候有零用錢嗎？

陳：有啦、有啦。

林：啊你去看電——

陳：但是零用錢很少啊，你要看電影都要另外跟父母要。

林：是用自己的零用錢是——

陳：所以父母不同意你看，你就沒得看了，他覺得說這影片對你沒有好處〔的話〕，他不會給你〔看〕。

林：嗯、嗯。原來是這樣。

陳：對。

林：喔，啊若說去看電影是差不多大部分都是跟家裡人一起去看嗎還是？

陳：沒、沒，自己，跟同學。

林：自己跟同學，就是你要決定說你看什麼電影，啊你再跟你爸爸媽媽講，乎，說我要去看這齣電影？

陳：嘿，約同學……嘿，跟爸媽說，啊跟〔他們〕拿錢。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣，所以不會說跟家人——

陳：沒啦、沒那種，很少、很少啦、很少。

林：啊跟那個……你說你有 1 個姊姊，跟 2 個弟弟，乎？你說你有 1 個姊姊跟 2 個弟弟，就是兄弟姊妹。

陳：對啦，嘿、嘿、嘿。

林：兄弟姊妹也不會——

陳：沒有啦，兄弟姊妹各看各的啦（笑）。

林：是這樣喔？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿啦、嘿啦，沒有、沒有，沒有跟他們去。

林：啊你有知道……欸……記得說，有什麼你最喜歡的電影嗎？

陳：チャンバラ（武打劇）（笑）。

林：就チャンバラ（武打劇）？啊チャンバラ那個，查某囡仔（tsa-bóo gín-á，女孩子）愛看嗎？

陳：有的愛看喔。

林：大家都愛看這樣？

陳：都……都很普遍喔。

林：所以チャンバラ（武打劇），那個電影院也是都是大人……有大人、有囡仔（gín-á，小孩）這樣？

陳：大人、囡仔（gín-á，小孩、兒童）都有，都有，嘿啊，都有。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以你爸爸媽媽不會覺得說乎，囡仔（gín-á，小孩）不可以看電影，這是沒有？

陳：不會，他不會，他不會這樣限制。而且也不是常常在看啦……

林：差不多幾——

陳：偶爾看一下啦，不是常常在看呢（--neh）。

林：差不多多久看一次？

陳：嗯……最多一個禮拜一次喔。

林：一個禮拜一次？欸，這樣很多呢（--neh），不會嗎？

陳：欸……就一個禮拜一次算多啦。

林：嘿啊、嘿啊、嘿啊。喔喔（Ooh-ooh），啊這樣，你那個時候看電影，啊電影裡面的人都是說日語，啊因為你也是學日語的，所以差不多內容……差不多內容你都可以理解這樣？

陳：都看得懂啦，對啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），若這樣我想換問說，你讀的乎，不管說雜誌還是しょうせつ小說這樣。你那個時候是看什麼樣的？欸，因為你……戰爭結束之前你還是小學生嘛乎，學生啦、學生，乎，四年〔級〕。四年〔級〕的囡仔（gin-á，小孩）是差不多都看什麼樣的書？

陳：四……四年〔級〕的學生喔看……看小說。大部分來說都是，都是那個名人啦，名人的傳記啦。

林：那名人的傳記是不是……因為我有聽過說那個，こうだんしゃ講談社的えほん繪本？

陳：對啊，こうだんしゃ講談社啊。

林：那個……你說的名人傳記就是こうだんしゃ講談社？

陳：對。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：こうだんしゃ講談社出真多喔，我爸爸常常拿回來給我看。

林：喔，是爸爸買給你的？

陳：啊他就在ほうそうきょく放送局啊，啊日本朋友很多啊，啊人家會給他啊，看過的就給他，他就拿回來給我看啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。啊你說しょうせつ小說就是那種少年、戰爭還是什麼的？

陳：對、對、對、對。

林：嗯嗯，所以你會看……那種しょうせつ小說，可以算說是文學嗎？

陳：不到。

林：是文學？

陳：沒，我看得很……會很熱³，很喜歡看。

林：那是連載的嗎？還是……？

陳：也有連載的，也有單……

林：有單篇的這樣？

陳：都有、都有。

林：啊也會看えほん繪本？

陳：えほん繪本，まんが漫畫。

林：啊漫畫是看什麼樣的まんが漫畫？

陳：也是都チャンバラ（武打）……

林：まんが漫畫有チャンバラ（武打）？

陳：有喔、有喔，很多喔。

林：チャンバラ（做筆記）。那個まんが漫畫是說一本，就一個作品在裡面，還是說一本有好幾個作品在裡面？

陳：欸……應該都有吧。

林：都有？

陳：都有。

林：喔喔（Ooh-ooh），就是說那個一本若是有一個作品，就現在就說單行本嘛，たんこうぼん單行本。

陳：嘿啦，當然它如果是某一個有名的人的傳記的話，它就講那個人嘛，整本。

林：那是えほん繪本，不是嗎？

³ 推測可能為「熱衷」之意。

陳：繪本^{えほん}也有啊。

林：啊那時候說繪本^{えほん}跟說漫畫^{まんが}是有——

陳：沒啦，繪本^{えほん}就是漫畫^{まんが}。

林：繪本^{えほん}就是漫畫^{まんが}？

陳：對啊！

林：啊，是這樣子喔？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿啊，漫畫就繪本^{えほん}啊，在我們的……我們的印象裡面就是這樣。

林：喔喔（Ooh-ooh），繪本^{えほん}就是漫畫^{まんが}。

陳：嘿啦，繪本^{えほん}就是漫畫^{まんが}。

林：喔喔（Ooh-ooh），欸？但是你是不是說你有看過のらくろ？是你，還是別的先生^{せんせい}？

陳：のらくろ不是我，不是我。

林：喔喔（Ooh-ooh），嗯。啊你看報紙是看什麼樣的報紙，你記不記得它的名字？

陳：日本時代的報紙諾（--hioh）？

林：嘿。

陳：哈（笑）！不記得了啦。

林：台北是不是都那個《台灣日日新》？

陳：都日語的，啊像是我們現在的日本的報紙，但是沒那麼多張啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），嘿。

陳：古早才一頁^{ページ}還是兩頁^{ページ}而已有沒有。

林：那麼少？

陳：那麼少啊。

林：欸？喔喔（Ooh-ooh），是這樣？

陳：蔣介石剛來的時候，中文的報紙兩面而已呢（--neh）。

林：嗯嗯。

陳：《中央日報》只有兩面而已呢（--neh），那是後來再——

林：是這樣喔？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：剛剛來的時候也沒什麼好報導啊，後來就多啦。

林：啊你是，嗯，你是差不多什麼時候可以，就是用……自己可以看一本書這樣？差不多是幾歲開始？

陳：看小說我^{よねんせい}4年生〔的時候〕我就在看了，那時候就在看了。

林：嗯。啊^{えほん}繪本的——

陳：^{えほん}繪本也一樣啊。

林：^{えほん}繪本……因為^{えほん}繪本不是有圖嗎？

陳：圖也一直看，我就看得很快。

林：嘿啊，啊圖是……是不是說較細漢（*sè-hàn*，年齡較小）的時候也會看？

陳：會啦，啊三年級就看了嘛。

林：三年級，差不多三年級……

陳：三、四年級。

林：不然啊你一、二年級的時候有看——

陳：一、二年級較不會。

林：較不會看書這樣喔？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：嘿啦、嘿啦。

林：三、四年級啦乎。所以那些的作品都是日語的作品嘛乎？

陳：都是日語，日本時代嘛。

林：嘿，日本時代。所以不會說有機會能夠……能夠看到那個漢文寫的作品這樣，都沒有？

陳：沒有、沒有，完全零、零、零。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：因為蔣介石來我們還不能適應呢，一下子，哇！那個時候學校不准講日語了，停了。

林：嘿啊、嘿啊、嘿啊。

陳：那就開始推國語啊，那個時候國語有三種，一個叫做正規的國語。一個叫做國語會話，

conversation。一個是漢文啦。

林：漢文就是——

陳：我們那個學校念三種啦。

林：漢文就是教你們怎麼讀文——

陳：人之初、人之初，三字經。

林：喔喔（Ooh-ooh），就是——

陳：還有四書，四書五經那些啊。

林：就算這樣經典這樣啦乎？

陳：對、對、對……喔，那個很難，都看不懂。

林：嗯，我現在也看不懂（笑）。

陳：喔！那個時候，那個外省人乎，很厲害，他們一來乎，寫字都毛筆字（笑），都毛筆在寫字。

林：喔喔（Ooh-ooh），欸？所以戰後是……你是……五年〔級〕？六年〔級〕？

陳：六……六年級。

林：啊那時候就是跟外省——

陳：那時候我已經轉到東門國小。

林：喔，在東門的時候是跟外省囡……外省——

陳：嘿，那時候就有外省囡仔（gín-á，小孩）了啦。

林：〔跟〕外省囡仔（gín-á，小孩）一起上課這樣？

陳：一起上課，不多啦，不多。

林：啊你說，你河合的那個學校是只有——

陳：都台灣人。

林：啥（hannh）？都台灣人嘛，但是是都……是只有查埔囡仔（tsa-poo gín-á，男孩子）這樣嗎？還是說——

陳：都男女、男女分班。

林：那是分班而已但是——

陳：男生跟女生分開的，上課。

林：但是就是學校有好幾個班嘛乎，啊男女在不同班這樣？

陳：男女分開，不像現在說男女一起上，沒有，那個時候沒有，都分開。

林：但是都算是說同一個學校的學生這樣啦乎？

陳：對啦、對啦。

林：因為我是有聽過說——

陳：我這個要糾正一下，那個時候學生不多，沒有，我剛剛說是有 6、7 班，沒有那麼多。

林：嗯，欸？你說是……我看一下。

陳：就是 3、4 班而已，3、4 班而已。

林：你說 3、4 班？

陳：日本時代，我是說日本時代喔，嘿，沒有那麼多，沒有那麼多。3、4 班而已。

林：差不多 3、4 班，啊一個班差不多 3、40 人這樣乎？

陳：嘿啦，3、40 個人而已，不多，那時候人口也不多吧。

林：嗯，所以你記不記得說你看的作品，還是說，乎，^{えほん}繪本的名字？^{えほん}繪本的名字，是不是就是那個講談社？
こたんしゃ

陳：哇，都不記得了呢。

林：不要緊、不要緊。

陳：(笑)

林：就想起來可以跟我說這樣子，乎(笑)。

陳：嘿啦，都不記得了。

林：^{まんが}漫畫乎。所以你，乎，有一些那個印象較深的主題嗎？那些的作品裡面。

陳：若是那個武俠小說，就是那個武俠〔小說〕的主角吧。

林：嘿，但是你說的武——

陳：如果說^{たんげ さぜん}丹下左膳就是^{たんげ さぜん}丹下左膳那個人嘛。

林：嘿，但是你說的武俠是日本……日本人的那種武俠乎？

陳：チャンバラ。

林：喔，啊若……欸？有沒有那種乎，就是較趣味的，就是不是只有這樣相殺的，有較趣味的，這樣滑稽一點的……作品，有嗎？

陳：那個時候的，滑稽的……有啦，但是，沒有什麼印象了呢（--neh）。

林：嗯，就搞笑作品這樣。

陳：搞笑……好像，現在想起來只有チャップリン（卓別林）了喔。

林：喔喔（Ooh-ooh），就電影了乎？

陳：都外國的、外國的啦。

林：啊你……所以你……譬如說……你讀しょうせつ小說，那些是除了你爸爸會帶回來給你，那學校的老師會給你們嗎？

陳：學校老師不會給我們啦。

林：為什麼不會給……？

陳：他……都是日本的老師，他們對台灣人有歧視啊，他們也不會說給你特別……啊學生那麼多啊。

林：所以老……那時候的老師是，日本人的老師是會說對台灣的學生有這樣……

陳：很嚴格喔。

林：是嚴格啦？會說到欺負嗎？

陳：會打人喔、會打人喔、會打人喔。

林：會打人這樣。

陳：嘿、嘿，會喔，我記得我去疏散，〔在〕陽明山，那個還是日本時代啊，那時在空襲啊。啊他們日本人吃得很好嘛，我剛剛有講嘛，那我們都吃不飽啊。啊吃不飽肚子會餓啊，怎麼辦？啊我們住的〔地方〕旁邊乎——

林：去採……去採它的草嗎？

陳：——都桃子啊，不是菜園，沒有菜園啊。桃園，桃，桃，桃，桃、桃、桃，整個都桃園，啊會結子

(kiat-tsi) 嘛乎，啊但是……但是我們去的那個時候那還不是很熟，可以吃但是很酸，不好吃。

林：嘿、嘿，可是餓還是要吃乎？

陳：但是可以吃，啊我們會去偷……去偷，啊偷……偷了會抓呢 (--neh)。啊那個園主，園主會顧啊，會怕人去偷拿啊，啊我們這些學生囡仔 (gín-á, 小孩) 肚子餓沒辦法啊，跑去……晚上大家在睡覺〔的時候〕經常跑出去，去偷來吃，被逮到。啊逮到那個園主就去跟老師講啊乎。

林：欸？是那個桃園的主人把你們抓到這樣？

陳：抓，抓來……抓來去給我們的……

林：日本人的老師？

陳：日本人，日本人就教務主任嘛，教務主任他在管紀律的啊，諄 (hooh) 那教務主任很兇喔。排隊，排……這樣，我們那個時候差不多成 (tsiann, 大約) 10 個喔，成 10 個，10 個就排直的喔，這樣，啪、啪、啪！〔從〕頭打到尾啊，大家都〔被〕打得歪膏擱斜 (uai-ko-tshih-tshuah, 歪七扭八) (笑)。打完不打緊還被抓去關，啊學校有倉庫啊，小倉庫，然後我們 10 個人大概分……5、6 間吧，一個間……一間就關 2、3 個這樣，關在倉庫裡面，啊倉庫裡面都是桃啊，都桃子啊，一包一包都桃子 (笑)，都不敢吃 (大笑)，在裡面哭。啊 (嘆氣)，我現在都還記得。所以日本時代給我的印象乎，我雖然在玉蘭莊常常跟日本人講說乎，你們日本人是很好喔，在台灣統治的時候，真的是台灣人……有為台灣設想，有建設嘛，有文化，有交流都有，〔中略〕可是還是〔把台灣當〕殖民地啦……

林：還是會感覺說——

陳：我們是二等公民，你們是一等公民，嘿。你們在吃飯都吃天^{てん}ぶら，我們吃大鍋飯，所以這點我不服氣 (笑)。

林：嗯，可以了解啦乎。

陳：對啦、對啦。

林：但是那時候國……國語家庭是不是有日本名字？

陳：那時候要開始要改了。

林：要開始要改了？

陳：那時候，我們姓「陳」嘛。

林：嘿。

陳：啊陳，叫做……叫做たがわ。

林：たがわ？喔喔（Ooh-ooh），為什麼是——

陳：所有，所有姓陳的，他們有規定喔。

林：喔，是喔？

陳：他們要改的——

林：不是只是參考而已喔？

陳：不是……不是隨便改的，都是說你姓什麼就要改什麼，都有……都有規範。那個時候我們姓陳的規定要改做たがわ。我們〔那時候〕就已經要申請，要實行了，就光復了。要不然我就是たがわあきら，這個日本名字。

林：嗯，喔。啊你那時候讀的，不管是說漫画還是說繪本還是說小説，有跟朋友借的嗎？

陳：有。

林：有，啊朋友也是他們——

陳：用借的，就互相借來借去啊。

林：喔～朋友也是——

陳：嘿啊，我看完給你看，你的給我看。

林：朋友也是他們自己買的嗎？還是說他們爸爸媽媽給他們的？

陳：都不一定啦，說不定家庭〔經濟狀況〕較好的人就有能力買啊。

林：爸爸媽媽，喔喔（Ooh-ooh），是這樣乎，就這樣まわし読み（傳閱）這樣啦乎？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：對、對、對……啊那個時候我就，我爸爸在放送局嘛。

林：嘿。

陳：啊他日本朋友很多啊，都常……幾乎每天都有拿東西，不是雜誌就是小說，就拿來，啊我就跟同學 share。

林：啊這樣是有看過那個《少年俱樂部》嗎？

陳：有啊。

林：《少年俱樂部》也有？

陳：有有有，《少年俱樂部》也有。

林：我其實今天有準備喔，那個……

陳：你有《少年俱樂部》是吧？

林：嘿。

陳：嘿、嘿、嘿（笑）！

林：我把它弄做就是你用平板可以看的。

陳：對、對、對、對。

林：想說給你看看，看有什麼回憶沒有。

陳：《少年俱樂部》。

林：把它（意指平板）用亮一點。

陳：當然不是說每一期都拿啦，斷斷續續的這樣子，嘿啊。

林：是這種《少年俱樂部》嘛乎？

陳：後面，對啊，《少年俱樂部》，就是這個，就是這個。

林：嗯。但是因為我看說乎，它裡面啊，欸？歹勢、歹勢。我記得是最後的……

陳：這報紙喔？

林：嘿，這我買的時候……

陳：新聞。

林：它裡面，它裡面夾的報紙。我看的時候我有看到一個……のらくろ……

陳：這，這是……のらくろ的漫画嘛。

林：嘿，但你這……這你沒看過？

陳：有啊。

林：のらくろ你也有看過？

陳：有看過啊，有看過啊。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：のらくろ就一隻狗嘛。

林：嘿，狗，のらくろ也有看過？

陳：有啦有啦……

林：因為我想的「^{まんが}漫画」是較像這種（指のらくろ）的。

陳：對、對、對。

林：啊你說「^{えほん}繪本」是不是說……「^{えほん}繪本」是不是較像……（找作品）

陳：「^{えほん}繪本」是……

林：這種的。不是？

陳：啊這〔是〕「^{しょうせつ}小説」啊。

林：這叫「^{しょうせつ}小説」？

陳：就是……小説有帶畫的，我們叫做「^{えほん}繪本」嘛。

林：啊這種的也是……這種也是「^{しょうせつ}小説」？

陳：嘿啦、嘿啦，這種就是「^{しょうせつ}小説」啦。啊若我們在說「^{えほん}繪本」，就是「漫畫」啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以兩項……就兩個詞都是相同的東西就對了？

陳：都相同東西啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊這個就「^{しょうせつ}小説」？

陳：這「^{しょうせつ}小説」啊。這種我看最多了！

林：這種的——

陳：就是因為我看多了，所以老師就，他發現就是我对文學很有興趣，所以就把我叫去跟幾個
人……

林：參加比賽這樣？

陳：給他選啦，啊後來我選……選到我代表學校去比賽。

林：嗯。

陳：就是……就是我喜歡文學啦。

林：嗯。

陳：而且我的發音也很好。

林：にほんご ^{はつおん} 日本語の發音？

陳：^{はつおん} 發音，嘿。

林：所以這種的咧？就是圖較多，但是它寫的文章較少，這種的要叫什麼？

陳：這種就「^{えほん} 繪本」，「^{えほん} 繪本」。

林：這叫……這也是叫^{えほん} 繪本？

陳：「^{えほん} 繪本」。

林：這前面的……

陳：啊這古早的，古早的這個小說，其實它的型態跟現在那個……《^{ぶんげいしゆんじゆう} 文藝春秋》都差不多啊，
那個樣……那個格式一樣、一樣啦，我覺得沒有什麼改變。

林：嗯。所以，若這樣，這本裡面還有另外一個作品是這個。

陳：這個^{まんが} 漫畫喔？

林：嘿，這個你有看過嗎？

陳：這誰？

林：欸……〈^{せみのから} せみのから〔^{ねけ} ねけ〕〉⁴……

陳：不知道呢（--neh）。

林：嗯。

陳：嗯，わからん（不知道）。不知道。這些都《^{しょうねんくらぶ} 少年俱樂部》裡面的諾（--hioh）？

林：嘿、嘿、嘿，這個咧？

⁴ 漫畫名。

陳：喔……《日の丸旗之助》諾（--hioh）？

林：嘿。你有看過這個漫畫家的名字嗎？

陳：應該是有，但是我都不記得了啦，都不記得了。

林：喔，嗯。

陳：像這種都很多啊，那《少年俱樂部》都有這種東西啊。

林：嘿啊、嘿啊，就是一本的《少年俱樂部》裡面，它有小說，它有漫畫這樣……繪本這樣。

陳：它有很多，很多方面，對啊。

林：喔，所以比較不會說像——

陳：而且它的裡面乎，寫的東西常常會介紹一些名人啦。

林：嗯，有、有、有。還有，是不是還有介紹一些軍隊的事情？

陳：對、對、對、對。所以我……以我那個時候的水準，我覺得非常喜歡。

林：嗯。啊你看，譬如說你看這些漫畫，你會不會說期待說它接下來的劇情是怎樣？劇情啦，劇情，劇情。

陳：喔，它那個連續的，連續劇嘛，當然會想像啊（笑），會期待啊。

林：就會期待說不知道——

陳：對啊對啊，下一次會怎麼樣，會，當然會，會、會。

林：但是都有連續在看嗎？還是說不見得——

陳：斷斷續續，沒有、沒有、沒有。

林：——不見得說每一次都可以拿到？

陳：對、對，因為我爸爸不是自己買來的，都是跟他同事要來的，所以有時候沒要到的話會斷
嘛。

〔中略〕

林：嘿啊。啊你那時候有沒有那種貸本屋？

陳：欸……有本屋。

林：有本屋？

陳：嘿，就是借，可以借。

林：嘿。但是本屋就是用買的嘛乎？

陳：但是……不是、不是、不是。

林：欸？不是？

陳：借……舊書店喔，以前有舊書店呢（--neh），啊你可以去借呢（--neh）。

林：所以它是叫說「古本屋」，還是叫做「貸本屋」？

陳：「古本屋」。

林：「古本屋」，但是可以用借的？

陳：可以借。我記得小的時候有去借過。

林：是都借什麼書？

陳：捌（pat，曾經）……小說啊，漫畫啊這些。

林：喔喔（Ooh-oooh），小說、漫畫。

陳：就是我們看的那個。但是因為要花錢嘛，老爸不肯付，所以不鼓勵（笑）。

林：所以那個，若說你要借，你要借——

陳：若有錢你就有辦法借啦。

林：乎？那很貴嗎？那算說是很貴嗎？

陳：也說……應該是不會多貴，我在想啦。但是因為我們家是窮……窮公務員啊，不富裕啊。

林：差不多是，若說我要借一本差不多是多少錢？

陳：那些……不記得了啦。但是以我那時候的程度，吃飯都吃不飽了，怎麼可以去借那個。

林：嗯，所以有借過，但是沒有借過很多次這樣？

陳：有……有那個，書店有啦，但是很少去。

林：啊會這樣立ち読み（站著看書）？可以這樣嗎？就是你——

陳：立ち読み是偶爾啦，偶爾去。

林：偶爾，不會被人趕呢？

陳：但是不鼓勵，父母不鼓勵，因為你會迷啊，你會迷就是要來要錢去借啊，啊家裡三餐不繼了

還要……不可能。

林：所以不會說自己去乎，書店，書店這樣，看有什麼作品這樣，是不會？

陳：沒有、沒有，嘿。

林：喔。啊你也不知道說……像是我剛才給你看到的那個《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ}啊，它其實是有《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ}和那個《幼年俱樂部》^{ようねんくらぶ}乎？

陳：對啊、對啊、對啊。

林：那個你都也有看過乎？

陳：有啊，都給它看啊。

林：啊那個，雖然它叫做說《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ}，但是查某囡仔（tsa-bóo gín-á，女孩子）會看嗎？這個你知道嗎？若說你姊姊，還是什麼——

陳：看啊，也看啊。

林：也都會看？喔喔（Ooh-ooh）。

陳：因為那個兒童的書嘛，少年的書嘛，所以沒什麼關係，沒有，沒有什麼……

林：若這樣你會看說《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ}？若有《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ}？

陳：什麼叫做《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ}？

林：它就是……它有分做《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ}嘛。

陳：少年^{しょうねん}，嘿。

林：啊年紀較小一點的就是看那個《幼年俱樂部》^{ようねんくらぶ}。

陳：喔，幼年，嘿，再來咧？

林：啊少年^{しょうねん}以外還有《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ}。

陳：少女^{しょうじょ}、少女^{しょうじょ}。

林：都有？

陳：有啊、有啊。

林：你都看過？

陳：但是我沒有看過，我沒有看過這個，我都是看少年的。

林：是你沒看過，還是說你家沒出現過？

陳：我家沒出現過。

林：所以你們……啊你有看過這個《幼年俱樂部》嗎？

陳：《幼年俱樂部》……可能不多啦。

林：可能不多。

陳：不多、不多。嘿，比較沒有印象，因為我爸爸的立場來說，他要拿給我一定要拿這個（指《少年俱樂部》）啊，他不會去拿這兩種啊。

林：欸？所以他不會說拿書給你姊姊看喔？

陳：不記得了呢（--neh），不記得了。

林：嗯。啊那時候因為這些都是日本的那個出版社——

陳：我的印象裡我姊姊不愛看書。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：我姊姊很聰明但是她不愛看書。

林：嗯。是說——

陳：我們兄弟就是我最喜歡看書，我 2 個弟弟也不喜歡看書。所以我的印象就是，我那個時候我爸爸拿回來只有我在看，他們都不看。

林：嗯嗯，是這樣喔，不然他們都在幹嘛？

陳：他們沒有……他們對文學沒有興趣吧，我不知道。反正，我的個性就是，我比較內向，我 2 個弟弟都外向，喔都在外面玩，哪有時間看書（笑）。

林：啊你知不知道說，因為這是日本，在日本本島，內……欸，你們那個時候是說內地人嗎？

陳：知道啊，知道這是內地來的啊，台灣沒有這個啊。

林：內地、內地，是內地的書嘛。

陳：對啊、對啊，日本來的。

林：但是是在台灣印的嗎？還是不知道？

陳：我不知道，應該……應該都是日本印的吧，台灣那個時候很落後啦。

林：喔，沒有那種印刷廠那種？

陳：有啦，印刷廠是有啦，但是這種東西好像不是台灣印的，我的印象中都是從日本來的。

林：所以你爸爸媽媽不會說特別乎，反對你讀這些《少年俱樂部》？

陳：喔，他鼓勵啊，怎麼會反對。他……

林：會說鼓勵喔？

陳：我愛看書他最高興了（笑）。

林：喔喔（Ooh-ooh），但是他知道說裡面有漫畫嗎？

陳：知道啦，但是他就不懂啦。我媽媽她也沒讀什麼書啊。

林：嗯，喔喔（Ooh-ooh），啊你自己是，就很喜歡看那些書？

陳：嘿，我就是文學方面很喜歡，我一直都是這樣。我到大了以後也是，我喜歡文學。

林：什麼樣的文學咧？

陳：就是喜歡看小說。

林：國中的時候也是嗎？

陳：嘿啊、嘿啊，一直到大人啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），有什麼最喜歡的作品嗎？

陳：我什麼都看啊，沒有什麼特別的。

林：還是說特別喜歡的作家？

陳：（思考）嗯……不太記得了呢（--neh）。

林：不要緊、不要緊、不要緊。

陳：什麼都看，什麼都看。

林：所以你在日本時代你有看過漫畫映画嗎？就是那種動畫片那種？

陳：有啦、有喔。

林：那是有喔？

陳：有啦、有啦。

林：那是在電影院看的嗎？

陳：電影院、電影院。

林：啊，我剛才忘記問說，你看的電影都是去電影院看的，還是說學校會放？

陳：欸……學校會放比較少。

林：學校會放？

陳：學校偶爾在週末會放給大家看。

林：週末？就是沒上課的時候它會放？

陳：對對對對對對，偶爾啦，偶爾。

林：是學校在放還是說——

陳：學校、學校。

林：——是政府在放，但是借學校這個〔場所〕放？

陳：學校、學校。

林：是學校在放。

陳：嘿，學校。但大多數都是私下去看啊，去電影院去看啊，花錢去看啊。

林：嗯。啊有沒有說學校之外還有什麼樣的地方可以放？

陳：沒，沒有，沒有印象。

林：所以那個公會堂也沒有嗎？公會堂？

陳：公會堂就是那個中山堂現在那邊諾（--hioh）？

林：嘿、嘿、嘿，有嗎？

陳：欸……很少啊，很少、很少……

林：很少？你沒印象說你有去那邊看過？

陳：這個是幾乎沒有欸。

林：好。所以學校放是在你的學校放，還是說在別的學校放？

陳：我們的學校。

林：喔，啊你學校在放的時候，是老師會跟你說，說這禮拜有放電影要來看這樣？

陳：對、對、對，比如說……比如說，我們是疎開乎，集團疎開，有時候就會放電影給我們看

啊。

林：欸？疎開^{そかい}的時候？

陳：嘿啊。

林：就放電影給大家看這樣？

陳：嘿啊，嘿啊。很少啦，偶爾啦。

林：啊那時放的電影跟電影院放的電影有什麼不一樣？

陳：不一樣、不一樣、不一樣。那個都是……都是那種戰爭的，那個政府在宣傳戰爭的電影。

林：你說學校放的是那種宣傳戰爭的電影？

陳：對對對對。

林：啊但是電影院的片就是——

陳：電影院不是，電影院都是……

林：你可以自己選擇說你要看什麼，這樣？

陳：對對對對，不一樣。

林：喔，但是我看有說……我有看那時候的上映紀錄啦，啊有看說那個電影院的廣告都有寫說ニ

ユース映画^{えいが}（新聞電影）。

陳：那只是片段吧？

林：那只是片段？

陳：不是整個啦。你……比如說啦，你去電影院你去看，它正片還沒有放的時候，它會放一些預

告有沒有，那預告裡面有時候會放一些這種政治的電影。

林：那個政治是也是跟戰爭有關——

陳：那政府的、政府的，跟戰爭有關。

林：還是說會宣傳一些說，衛生啊還是什麼？

陳：有啊、有啊，都……

林：都有喔？

陳：有啊，有，政府的有，不多，不長啦。

林：不長？喔喔（Ooh-ooh），啊那都是日本做的嗎？日本製作的。

陳：日本的。對對對，有那種。

林：好，多謝，多謝。諄（Hooh），很有幫助的呢（--neh）。啊——

陳：（笑）所以我跟你說啦，日本人來統治台灣乎，他們也是非常有紀律啦。他們……他們做事情乎，都是計畫得好好的。他既然要給你^看電影，當然他要放一點政治的給你，要洗你的腦啊，要來洗腦啊。

林：啊會有放一些教育影片，就是譬如說那個……理科實驗影片，那種有嗎？

陳：不多，但是有。

林：但是有？

陳：不多，有有有。

林：沒有很多，但是有就對了？

陳：有有有，當然有。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊除了理科以外還有什麼？

陳：像……像那個自然課之類的。

林：嗯、嗯、嗯。

陳：比如說介紹森林啦……

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：介紹河川啦那種的也有。

林：那種介紹的影片就對了乎？

陳：對，有有有。

林：好，若這樣我再繼續問^{まんがえいが}漫画映画喔。

陳：嘿，^{まんがえいが}漫画映画。

林：啊^{まんがえいが}漫画映画你第一次看到的時候，差不多是什麼時候你還記得嗎？

陳：就懂事以後，四年級以後吧。

林：四年級以後？

陳：三年級以前都不看電影，不懂啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），四年級以後。嗯……

陳：四年級才開竅啦（笑）。

林：（笑）國民學校四年級的時候，對乎？

陳：嘿、嘿。我覺得那個時候腦筋最清楚。

林：嗯，啊那個^{まんがえいが}漫画映画的名字你還記得嗎？

陳：不記得了，那麼久了，那麼久了。

林：啊你還記得說內容是什麼，還是說^{まんがえいが}漫画映画裡面出現的角色是什麼樣的，是動物還是什麼？

陳：沒、沒、沒，都是人。

林：都是人？

陳：嘿，^{まんがえいが}漫画映画它也都搬（puann，演）一些那個……出名的童話啊、劇啊。^{うらしまたろう}浦島太郎。

林：^{うらしま}浦島也有？

陳：嘿啊，^{ももたろう}桃太郎那個都是啊。

林：^{ももたろう}桃太郎也有？

陳：有啊有啊有啊，我很愛看的喔。

林：我其實有準備，但是我今天沒帶，我有找到一個就是，應該是在台北也有放過的，

欸……194……可能差不多是 43 還是什麼時候，6 月還是 7 月的時候有放過一個，有放過一

個作品就是，它是日本第一個乎，第一個乎，長……就是算說^{ちょうへんえいが}長編映画，嘿，那個也是桃

陳：ちょうへん？是什麼？

林：那個長篇。

陳：喔喔（Ooh-ooh），^{ちょうへん}長編。

林：嘿，長片這樣。不知道說是不是……你說^{ももたろう}桃太郎是不是那種的？

陳：^{ももたろう}桃太郎不是長篇啦。

林：是短的這樣喔？

陳：短的、短的，單元劇啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），那個都是好幾支一起放的這樣子？

陳：對。

林：喔喔（Ooh-ooh），^{まんが えいが} 漫画映画，^{ももたろう} 桃太郎還有^{うらしま} 浦島。

陳：古早很多這種童話都有映……都有這種^{まんが} 漫画啊。

林：嗯。

陳：嘿，我們都很喜歡看啦。

林：還有什麼的……其他的童話？

陳：嗯……^{ももたろう} 桃太郎、^{うらしまたろう} 浦島太郎……我現在想不起來，反正……童話的故事都有^{まんが} 漫画，都有^{まんが} 漫画在畫。

林：嗯。所以沒有看過說是，角色是動物這種樣子的角色是沒看過？

陳：不是，動物也有啦，比較少啦，都是像^{ももたろう} 桃太郎這一類的比較多。

林：有看過但是^{ももたろう} 桃太郎〔這一類〕較多啦乎？

陳：嘿、嘿。

林：嗯嗯，所以全部都是日本片嗎？

陳：對，當然喔。

林：因為前一次^{だん わ かい} 談話會的時候，那個^{せんせい} ○先生有說，他有說他有看過卜派。

陳：卜派那個不是日本時代啊。

林：那個不是日本時代？

陳：啊（笑），那個現代的啊，啊那些老人都不記得了啦（笑）。卜派是很好玩，我很喜歡。

林：我小時候也有看。

陳：這個我很喜歡。Henry Mancini⁵ 做的嘛，那個很出名。

林：嗯。啊你第一次聽到說有這種^{まんが えいが} 漫画映画是差不多什麼時候？

⁵ 《大力水手》漫畫家為 Elzie Crisler Segar，訪談中提到的 Henry Mancini 是《頑皮豹》配樂的作曲家。

陳：也是差不多三、四年級喔。

林：三、四年級的時候。是怎麼知道的啊？朋友跟你說的嗎？朋友跟你說，還是說……

陳：對啊，同學之間在討論啊。

林：還是說電影院前面的廣告有看到，可能都有？

陳：對啦，對，都會預告，嘿。

林：啊你看電……你看這種^{まんがえいが}漫画映画的時候，跟你看普通的^{えいが}映画的時候有什麼不一樣的感覺？

陳：漫畫……不一樣啊，因為漫畫是比較……怎樣，比較活潑吧，而且它不是實際的人演的嘛，它是畫的吧，就有多一層有一種好奇。

林：好奇？

陳：有時候我看一看，在家裡也想要畫欸。雖然我沒有學畫，但是會想。

林：但是看電影的時候不會覺得說我——

陳：會想……會想說來，欸，來畫畫看。

林：看普通的電影的時候不會覺得說我自己也要來創作這樣？

陳：嘿，有時候我爸爸會拿那個漫畫書回來，我也拿去學一下，會啦、會啦，好奇嘛。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以大部分的你看過的^{まんがえいが}漫画映画都是短的就對啦乎？

陳：短的、短的。

林：啊好幾支一起放。

陳：對。

林：啊會不會說跟一般的，乎，短的電影一起放，就是^{まんが}漫画也有，啊一般的那個^{じっしやえいが}実写映画也有？

陳：應該是分開吧？

林：我不知道。

陳：漫畫的都漫畫。

林：你若是記不清楚，你就跟我說記不清楚，不要緊，乎。

陳：但是有我的印象裡面，好像它會插短篇的漫畫，也有，不是每一次啦，但是偶爾會有，我的

印象是有。

林：嗯嗯，啊那時候看^{まんが えいが}漫画映画的人裡面，有大人嗎？有大人嗎？還是說都是囡仔（gín-á，小孩）在看？

陳：大人也是有啊，電影片它都大人囡仔（gín-á，小孩）都有啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），有沒有說囡仔（gín-á，小孩）較多，大人較少這樣？

陳：（笑）

林：還是說沒注意？

陳：我想通通有啦，通通有啦，沒有什麼哪邊特別多。因為喜歡卡通不一定只有小孩子嘛，大人也喜歡卡通。

林：但是現在就是說，有很多大人會覺得說，那個動畫還是說^{まんが}漫画都是乎，囡仔（gín-á，小孩）在看的東西，較不正經這樣。像我爸爸媽媽就是這樣想啦，嘿啊，不知道說你們那個時候父母是怎樣——

陳：那就要看那個漫畫本身啦，有的漫畫它是大人也可以看的漫畫，對不對？那也很多啊。嘿啊，那如果那個大人也能看啊，不只限於小孩，對。

林：啊那個^{まんが えいが}漫画映画是彩色的，還是說黑白的？

陳：古早都是黑白的。

林：都黑白的。

陳：嘿、嘿。彩色……到終戰一直都沒有。

林：一直都沒有？

陳：彩色是光復以後才有，日本時代沒有彩色的，都是黑白，全部都黑白。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。啊你們那時候蓋的電影院，有沒有會分成說日本人去的電影院跟台灣人〔去的電影院〕——

陳：沒沒沒沒……

林：都沒有？啊電影院是只做電影嗎？還是說有歌仔戲什麼都有？

陳：不行。那個……電影院跟戲院不一樣。

林：喔，戲園（hì-hng）就是戲園？

陳：戲院有舞台，那個〔電影院〕沒有舞台啊，分開的、分開的。

林：喔喔（Ooh-oooh），是這樣。我有聽——

陳：除非像那個中山堂，乎，那個公會堂^{こうかいどう}，它有很大的舞台，但是它也放電影，對。但是一般電影院沒有舞台啊，舞台很小。

林：欸？但是……我有看過說那時候的上映紀錄，是不是台北有一個叫……那個華語是叫做芳乃館跟世界館？

陳：芳乃館？

林：嘿，我稍微……（寫字）芳……乃可能是這個乃。

陳：啥（hannh）？這在哪裡？

林：我不知道啊，我就是只看到名字。

陳：啊還有什麼？

林：還〔有〕世界館。

陳：這有一個「大」〔字〕吧，有一個「大」〔字〕吧，「大世界」。

林：喔，是喔？

陳：嘿，這個（指「大世界」）有啦。

林：這有？這在哪裡啊？

陳：這電影，這在西門町啊。

林：這在西門町。

陳：嘿，但是這個（指芳乃館）我沒印象欸。

林：啊你知不知道說是什麼人會去這裡看？

陳：一般的人啊，就是現在——

林：一般的人是日本人跟台灣人，還是說台灣人？

陳：都有都有都有……

林：都有。

陳：都有。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣子喔。

陳：對、對。

林：喔喔（Ooh-ooh），好，若這樣……

陳：ほうないかん⁶，欸好像聽過喔，ほうないかん（笑）。

林：還是〔唸做〕說芳乃館^{ほうのかん}，有嗎？

陳：不知道，不知道。

林：嗯，我再查一下，不要緊、不要緊。啊你看的這種乎，不管是漫画^{まんが}，還是繪本^{えほん}還是說電影，你覺得說你所看過的作品裡面有沒有相似、相同的主題？就是那時候大家較喔，大家較愛看什麼樣的主題，有嗎？

陳：主題有各方面啦，那要看個人的喜好，不一樣。你愛看什麼就看什麼。

林：就算是有很多種類可以讓你選擇這樣嗎？

陳：對啊，可以選，嘿。

林：啊它一支片差——

陳：但是我那個時代，沒有那麼多選擇啦。

林：嗯，啊它一支片差不多放多久？

陳：喔，放很久喔。

林：放很久是？

陳：放整個月喔。

林：整個月？

陳：嘿啊，那若較好看的乎，欲罷不能喔，直直搬（puann，演）喔。

林：喔，啊若比較沒人看的它就較——

陳：就都會下片啊，嘿啊，對。

⁶ 芳乃館當時的讀音為「ほうのかん」。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣，嗯。好，若這樣我要繼續問，這可能比較嚴肅一點的話題。

陳：沒關係、沒關係。

林：嘿，那個戰爭還沒結束的時候，你覺得你自己是什麼人？

陳：戰爭怎樣？

林：還沒結束的時候——

陳：還沒結束的時候怎樣？

林：——你覺得自己是哪裡的人？是什麼人？

陳：日本時代我覺得我是日本人啊。

林：你覺得你是日本人。

陳：嘿，所以我才會看他們好像沒……感覺待遇〔不同〕……我覺得很……很不平衡。因為我都跟

你同樣的思想啊，我也很愛國啊，我也喜歡日本啊。我喜歡日本文化啊，那為什麼你們在吃

^{てん}
天ぷら我會在那吃大鍋飯。

林：嗯，就是這樣——

陳：心裡會痛。

林：被人差別待遇這樣啦乎。

陳：嗯。

林：啊你覺得說你認為說你那時候是日本人，跟你看的電影還是說你所讀的這種乎，小說還是說

^{まんが えいが} ^{まんが}
漫画映画、漫画有什麼樣的關係嗎？還是說全部都沒關係？那是分開的這樣。

陳：你是說^{まんが えいが}漫画映画跟什麼？

林：^{まんが}漫画啊，還是說電影啊，跟你覺得說自己是日本人有沒有關係？

陳：沒，沒關係。

林：沒關係。

陳旭星 20210419

林：我們上次是……我看看喔，你說你日本時代有看過電影，啊大部分都是日本的電影乎？

陳：對。

林：啊喜歡看一些エノケン（榎本健一）啊，還是說チャップリン（卓別林）乎？

陳：嘿、嘿、嘿，我說的話チャップリン（卓別林）啦。

林：嘿，啊還有——

陳：（指自己查過帶來的資料說）啊這個《椿姫（^{つばきひめ}茶花女）》這個也是外國的喔。

林：嘿，那個有在台灣在做……搬（puann，演）過嗎？

陳：有、有，有來，有來。

林：你有看？

陳：有來，我應該有看啦。

林：應該有看。啊……你都是在戲園，是叫做第一——

陳：乎，還有我要講的就是說，童年時期看默片乎，就是這個年間，就 40 年到 45 年乎，5 年裡面，7 月到 12 月，那個時候還有默片。

林：這是你自己看過的呢？

陳：嘿。

林：你說 40 年到 45 年之間你有……？

陳：嘿，那個時候、那個時候。那個時候有這個。

林：你有看過無聲的電影這樣？

陳：對、對、對。

林：喔喔（Ooh-ooh），也是在……你說在哪一間看的啊？

陳：也是在那幾間嘛，就是在第一劇場啦，第一劇場啦，或者永樂劇場啦。第一劇場と永樂劇場。
じょう
場。

林：你說你差不多看過幾支啊？

陳：幾支……就這些啊，チャップリン（卓別林）啊，啊這個《椿姫》啦乎。

林：嘿。

陳：還有那個チャンバラ（武打劇）乎，就是忠臣蔵啦。

林：忠臣蔵是不是有好幾齣？有嗎？

陳：忠臣蔵很多喔，很多，很多版本，很多版本。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

陳：但是也有默片的版本，這個我都看過，啊——

林：你說你忠臣蔵有看過無聲的電影跟トーキー（有聲電影），都有看過？

陳：都有看、都有看。那時候就都有了嘛，默片也有，啊那個無聲的〔電影〕都有。啊還有宮本

武蔵，還有丹下左膳。

林：丹下左膳？

陳：丹下左膳就連續劇喔，這都一集、一集喔，很多的喔。

林：所以你若說連續劇要怎麼做、要怎麼放啊？

陳：要怎樣？

林：要怎麼放啊？它是一次就放完還是？

陳：沒囉、沒囉，它現在丹下左膳來都一集一集嘛，啊這集若完了之後，這片下……下片以後，新的又來了。

林：嘿。喔喔（Ooh-ooh），所以是連續的這樣？

陳：所以它連續、它連續，嘿。

林：啊是每個禮拜嗎？

陳：但是連續不一定一起啦，有的時候過一陣子、過一陣子這樣。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊差不多它換別的片差不多是多久換一支？

陳：喔，差不多一整個月喔，一整個月。

林：一整個月？

陳：它一支就搬（puann，演）了差不多幾十天了呢，十幾天這樣。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

陳：そう、そう、そう（對、對、對）。

林：好，我做一下メモ（筆記）。

陳：我記得那個時候的這種片，很風行啦，^{にんきもの}人氣物。學校的學生都很愛看。

林：你說^{ちゅうしんぐら}忠臣蔵和……？

陳：^{ちゅうしんぐら}忠臣蔵啦，^{みやもとむさし}宮本武蔵啦，^{たんげさぜん}丹下左膳啦，這種的啊。

林：^{みやもとむさし}宮本武蔵。

陳：^{ちゅうしんぐら}忠臣蔵是都單元劇啦，沒連續的啦，乎，^{みやもと}宮本也是，^{たんげさぜん}啊若丹下左膳也可能連續的啦，這很長的，敢若（kán-ná，好像）……不是我們童年的時代，再大一點之後，敢若有一個日本很出名的……チャンバラ（武打劇）的明星，雄雄（hiông-hiông，突然）我煞（suah）……名字我煞不記得了。喔那個也很多喔，那個也很多的。敢若^{たんげさぜん}丹下左膳那個……連續，連續劇。

林：嗯，有聲的，啊還連續。

陳：對對，那有聲的，那有聲的，還有彩色的。

林：彩色？你說^{ちゅうしんぐら}忠臣蔵是有彩色有黑白的，也有有聲的，有無聲的這樣？

陳：都有、都有、都有。

林：喔喔（Ooh-ooh），為什麼它弄這麼多版本咧？

陳：啊因為台灣人愛看啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），大家都愛看這樣。

陳：都非常喜歡啊。

林：嗯。啊這個（陳帶來的筆記）方便我拍個照片嗎？這張。

陳：Of course. 你可以參考啦。

林：好、好、好，多謝哈（hannh），多謝。啊你上次說那個叫做辯士，辯士、辯士？^{かつべん}活弁。

陳：辯士就是^{かつべん}活弁啊。

林：哈（hannh），嘿，那時候是叫做^{かつべん}活弁還是叫做辯——

陳：我們台灣都要叫做辯士啦。

林：辯士。

陳：嘿，啊日本話，^{にほんご} 日本語就是活弁^{かつべん}。

林：^{かつべん} 活弁。

陳：這是我剛剛去那裡面看的啦，網站裡面看。但是 internet 裡面在說的是說日本的啦，啊若……

它說是在日本，這個活弁^{かつべん}都好像……好像明星一樣被崇拜，很喜歡。但是我的童年的印象，對這個活弁^{かつべん}沒有特別的印象。

林：沒什麼有名的人這樣？

陳：他只是在戲院坐在螢幕下面在那裡講。

林：啊都是台灣人這樣？你說都是台灣人？

陳：都台灣人、都台灣人、都台灣人，用台語講，不是用日語講，都用台語講。

林：啊他是只有解釋而已，還是說他會搬（puann，演）——

陳：不會不會，只是講，解釋而已，只是講。

林：喔喔（Ooh-ooh），嘿、嘿、嘿。喔喔（Ooh-ooh），啊我們上次還有說——

陳：他就跟著那個戲在走啊，一直講、一直講，講講講……講不停。

林：嗯。我們上次還有說你日本時代看的書，乎？一些小說還是什麼的，乎？

陳：嘿，你說書怎樣？

林：就你有看繪本^{えほん}跟漫畫^{まんが}，啊都是你爸爸從他——

陳：對對，^{ほうそうきょく} 放送局拿來的。

林：嘿，拿來的。啊今天我有帶，想要說——

陳：我印象比較深的就是《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》啦乎，《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》。

林：小等我一下乎。我今天有帶一本。

陳：嘿啦，對對對對對，就是這種，《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》。

林：給你看看咧。

陳：^{なつ} 懐かしい（好懷念）。

林：（笑）

陳：哇！啊這黃掉了，古早的。

林：嘿啊。

陳：啊你怎麼有底（ū-té）拿到這個？

林：這在日本買的。

陳：喔，日本買的。日本現在也還有很多那種舊的本屋乎？^{ほんや}

林：嘿啊。どうぞ（請）。

陳：（笑）它的這個格式跟現在的那種，有沒有？那個……日本的雜誌差不多啦，都是這樣呢（--
neh），這個樣子。（翻閱）這樣乎，一些廣告啦。

林：嘿。

陳：一些廣告，一些……差不多的。現在的紙比較厚，顏色比較漂亮而已嘛。以前是比較粗末^{そまつ}
（粗糙、品質差）乎。

林：這個是粗末嗎？^{そまつ}

陳：粗末^{そまつ}，這個那個……（用手來回摸雜誌頁）

林：粗粗。

陳：粗啊，很粗啊。當然它們現在也是有再生紙啊，但是這古早不是再生紙喔，這是新的喔，新
的紙喔。嘿啦……這很好。懐かしい^{なつ}（好懷念）。

林：這是 19……43 年的¹。

陳：1943。

林：嘿。

陳：對啊，我 34 年生嘛，43 年我才 10 多歲，少年時代。嘿啊。

林：那時候叫這種是叫漫畫呢？還是不是？^{まんが}

陳：這繪本。^{えほん}

林：這繪本。^{えほん}

¹ 口誤，實際上是 1941 年。

陳：嘿，我看這是繪本^{えほん}，漫畫^{まんが}是全部都漫畫^{まんが}，一格一格的啊，那叫做漫畫^{まんが}，啊這繪本^{えほん}啦。喔，最愛看這種的，小……

林：小說^{しょうせつ}？

陳：人物的介紹。嘿……啊我們在看的^{那時候}乎，就是戰爭時代嘛，喔！都在說那個政治話〔題〕較多。

林：喔喔（Ooh-ooh），《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》也會說政治的事情？

陳：也會喔，會喔會喔。「日本已經殺贏了喔」，都沒在說輸喔，都贏喔（笑）。

林：（笑）

陳：嘿啊嘿啊。皇太子殿下^{こうたいしでんか}……這個人，有來台灣呢（--neh）。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

陳：那時候……

林：什麼時候啊？

陳：昭和少年的時候啦。

林：少年的時候，所以已經是戰後的事情嗎？

陳：沒有。

林：戰爭之前？

陳：戰前、戰前，戰後他沒來了啦，戰後就輸掉啊。

林：喔，嘿啊、嘿啊。

陳：嘿，戰前啦。他年紀很小欸，我一個同學乎，我北商（？）的一個同學，他的哥哥，就是昭和來的時候²，他代表台灣所有的學生獻旗。

林：獻給天皇這樣？

陳：天皇。常常也在跟我展（tián，炫耀）（笑）。說他那大哥很會讀書，嘿啊，啊都說日本……思

² 昭和天皇還是皇太子時，於 1923 年訪台。

參考資料：

中京大学社会科学研究所台湾史研究センター編（2009）『台湾行啓記録』，創泉堂出版。

想。

林：啊這種的（指雜誌內頁），這是叫做「^{えほん}繪本」還是叫做說，這是「^{さしえ}挿繪」這樣？

陳：我的意思是說「^{えほん}繪本」啊，圖、有圖的戰時都叫做「^{えほん}繪本」啊。

林：都叫做「^{えほん}繪本」。

陳：嘿啊，不是嗎？

林：我不知道啊，嘿啊。

陳：嘿啊，是啦。

林：所以就問問看這樣。

陳：嘿啦，啊這就チャンバラ（武打劇）啊。（指雜誌中的作品）

林：這就チャンバラ（武打劇）？

陳：對，這チャンバラ（武打劇），這古早的……（翻頁）這也很有趣啊，這也連載的啊，一集一集嘛。啊這個啦！^{まんが}漫画就這個啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），那種的就叫做「^{まんが}漫画」。

陳：這叫做「^{まんが}漫画」，這叫做「^{まんが}漫画」，乎，這叫做「^{まんが}漫画」。

林：啊你對這個^{まんが}漫画的名字，或是說^{まんが}漫画家的名字有印象嗎？

陳：但是我記得我那個時候在讀乎，這種書較多，這種的較少（手指雜誌），^{まんが}漫画較少。

林：^{まんが}漫画較少？

陳：我不是特別喜歡^{まんが}漫画。我喜歡看文學，看整篇文章，我都喜歡。

林：就是看文章這樣就對了。

陳：喜歡看，嘿、嘿。我那個時候看很快喔，看得很多喔，嘿啊。我後來看到乎，我那個整本的那個小說，都……都去書店借來看，很好看。

林：去書店就是你說那個「^{ふるほんや}古本屋」嗎？

陳：舊書店、舊書店。

林：舊書店。

陳：^{ほんや}本屋。

林：不是叫做說「貸本屋」，是叫做「古本屋」？

陳：「古本屋」。

林：「古本屋」。

陳：「古本屋」，嘿啊。啊雜誌就這種的，《少年俱樂部》啊，啊還有一個婦女在看的《婦人俱樂部》。

林：《婦人俱樂部》。

陳：（笑）把它借來看，啊大家沒看過。

林：啊它最後面啊，有這個我們上次那個談話會有說到的……這有一點點花掉……

陳：後面喔？

林：嘿，有一個……這你有印象嗎？《日の丸旗之助》。

陳：《日の丸旗之助》。

林：旗之助、旗之助。

陳：我沒有特別〔記得〕。

林：啊還有一個是……我看一下囉，這個，《のらくろ探検隊》。

陳：のらくろ這個のらくろ啦，較出名。

林：這個你也有看？

陳：有喔、有喔、有喔……一隻狗嘛。

林：若這個漫画家的名字你有印象嗎？

陳：不記得了啦。

林：不記得了。都較記得說角色的名字這樣乎？

陳：嘿、嘿，沒在注意這些。

林：啊它後面有這個廣告啊，想要借問說，欸……我看看喔……

陳：廣告很多喔，都在前面吧？

林：沒、沒，它後面是書的廣告，乎，同一個出版社的。

陳：講談社の絵本。

林：嘿。這你有看過嗎？

陳：有，有一半本仔（表數量較少的幾本），我爸爸會拿回來。

林：嘿。

陳：他會拿回來。

林：喔喔（Ooh-oo），就是有什麼你就看什麼就對了乎？

陳：對啦，哈哈，みやげ、おみやげ（複誦雜誌內容）。

林：嗯，差不多是這樣。啊會不會看一些說那個……欸，我看一下喔，キン……

陳：「キングレコード」。

林：嗯。

陳：那時候最出名的唱片，叫做「キングレコード」。

林：啊有一個雜誌叫做《キング》你知道嗎？

陳：雜誌叫做《キング》？有、有、有。

林：有？也有？有看過嗎？

陳：看過，但是沒什麼印象了啦，沒什麼印象。我都看……看那個童年的。

林：嗯，好啊，這本差不多這樣。

陳：《少年俱樂部》。

林：嘿啊，我們上次，上禮拜是差不多說一些——

陳：那……那是哪一年代的？有寫？昭和……0

林：這……昭和18……16年，16年の8月。

陳：昭和16年乎？

林：嘿、嘿、嘿，所以是 1941……

陳：乎……16年7月，7月8號。

林：1941年乎？

陳：嘿、嘿、嘿，8月。

林：嘿。

陳：嘿，昭和 16 年，昭和 16 年就是 1927.....1927 諾 (--hioh) ？不對。

林：1941 ？是嗎？差 25 年嘛乎。

陳：喔，對對對對.....就加 25 乎，1941，對對，1941 對啦差不多啦，我 34 年〔生〕嘛，41 年我 7 歲了。

林：嗯，7 歲的時候。

陳：7 歲，二年級啊（笑）。

林：嗯。二年〔級〕的時候有在看這個嗎？

陳：沒啦，還沒啦。

林：還沒。

陳：到我三.....四、五年級看最多，三年級還小啊。

林：嗯。所以，好，我現在要換一個問題就是說，戰爭還沒結束之前，你覺得說你是哪裡人？就是說你是哪裡的人？

陳：那時候我都認為說我自己是日本人。

林：日本人？

陳：老師就給我們灌輸思想，說我們是^{だいにっぽんていこく}大日本帝国的公民啊。

林：嗯、嗯、嗯。公民啦這樣。

陳：嘿、嘿、嘿，^{こくみん}国民。

林：啊你覺得說你那時候，這樣的想法，有和你那時候讀的乎，不管說雜誌，還是說你看的電影，有什麼關係，還是說有受到影響？沒有也不要緊喔，就想想看。

陳：那個時候就.....可能我看這個雜誌看很多，所以幾乎被同化了喔。

林：嗯，所以.....喔.....

陳：好像以日本人為豪，為.....驕傲。

林：嗯，啊若電影呢？

陳：敢若（kán-ná，就像）我跟你講的，唯一一個遺憾就是說，乎，等到有一天我跑到陽明山去，就發現說他們對我們的待遇不一樣，有點失望啦乎，那時候。其實我一直都非常喜歡日

本人乎，跟他們的文化。

林：嗯、嗯、嗯，現在也是嗎？

陳：現在也是。

林：但是現在是認為——

陳：〔前略〕日本人就きちんとしてるよ（做事嚴謹、謹慎），就是一分一毫都照步來（tsiàu-pōo-lâi，按部就班）。〔後略〕

〔中略〕

林：戰爭……我想看看喔，戰爭結束後是 45 年的時候，你是幾歲？你是……

陳：我六年級啊。

林：差不多 12 歲的時候嗎？

陳：蔣介石來的時候六年級。

林：11、12 歲的時候。

陳：12 歲，嘿。

林：所以那個時候就有覺得說，就是戰爭結束之後，你覺得說原本是日本人嘛——

陳：對。

林：——啊雄雄（hiông-hiông，突然）聽到說那個玉音放送，你有聽到嗎？

陳：有啊，有聽到、有聽到、有聽到。

林：啊那時候聽玉音放送，有理解說他在講什麼嗎？

陳：知道喔。

林：知道？

陳：聽得懂。

林：啊聽到——

陳：很多人都來哭啊，包括我啊（笑）。

林：都在哭喔？啊是什麼樣的心——

陳：很悔くやしい（不甘心）。

林：嘿，悔^{くや}しい。

陳：嘿、嘿……

林：啊後來不是——

陳：大家都被日本人灌輸說是一定會贏，沒有想到那麼快就輸掉了。

林：喔，所以在戰爭結束的……就是我們現在說的直前^{ちよくぜん}（即將要……之時）啦，也是覺得說日本會贏這樣嗎？

陳：對啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

陳：而且直前^{ちよくぜん}他們還是一直在說他們會贏啊，雖然那個時候是假消息啦乎，這是他們的策略吧。

林：嘿，喔喔（ooh-ooh），若這樣戰爭就剛結束的時候，就聽說中國兵要來的時候，你心裡是怎麼想的？

陳：啊就特別是對要被遣送回去的那些日本人，我覺得很同情他們。

林：很同情？

陳：嘿啊，覺得好可憐喔。因為原來是我們的校長^{かわあいこくみんがっこう} 河合国民学校的^{こう}（&）校長^{ちようせんせい} 先生^{こうちようせんせい}，那個校長^{ちようせんせい} 先生^{こうちようせんせい}日本時代^{やき}的時候，喔，很威嚴的，很靜啦，很靜啦，啊也很優^{やさ}しい（溫和、親切），對人很好。哇！一個光復之後，拿一支掃帚在掃街仔路啦，啊都不說話。

林：都靜靜的這樣。

陳：都靜靜的這樣，啊才會回去。啊還有我在教會嘛，啊我那個時候住在三重埔嘛，啊三重埔教會——

林：三重埔？

陳：三重埔教會的牧師，三重埔教會日本時代也有牧師呢。

林：是怎麼寫？是怎麼寫？三重埔……

陳：三重埔，現在也叫做三重埔啊，さんじゅうほ（寫字）。三重啦，三重長老教會。

林：嗯。欸？所以你在日本時代就是信教的？

陳：對啊。

林：喔喔（Ooh-oooh），是這樣，是家裡爸爸媽媽——

陳：我記得……那個時候不是日本的牧師啦，是日本的信者啦乎，信基督教的人，在教會。那時候也這樣，喔，一整家人都為了生活喔，他們沒錢呢（--neh），自己做麻糬乎，去街仔路在賣，蹲在路邊在賣，要不然就是給人擦皮鞋，那個日本孩子乎，擦皮鞋，好可憐喔。嘿啊，啊那個時候看了很毋甘（m̄-kam，難過、不忍），嘿。

林：啊對自己的生活是怎麼想的？有沒有想到說，那些從中國那裡來的人之後，自己的生活有怎樣變化還是——

陳：他們那個，蔣介石還沒有來之前，他們〔日本人〕正在要回去嘛。〔中略〕就是同情他們啊。每天都看到他們……等著要回去嘛。〔後略〕

〔中略〕

陳：那個時候還想說自己〔是〕日本人。啊就日本人比較好……〔後略〕

林：啊你現在是覺得說自己是哪裡的人？

陳：嗯？

林：現在覺得說自己是哪裡的人？

陳：現在？

林：嘿，現在。

陳：現在台灣人啊。

〔中略〕

林：啊你……所以你去，現在就去想日本時代的事情的時候啊，你是用著什麼樣的心情去這樣回憶的？

陳：看日本的東西喔？

林：啊，心情，就是會覺得說，像你覺得說……剛才說，看日本人要回去日本，就是戰爭結束之後要回去日本，你會覺得很毋甘（m̄-kam，難過、不忍）。

陳：對。

〔中略〕

林：〔前略〕我問一些關於語言的事情好不好？

陳：可以啊。

林：就是你現在最常用的語言是什麼？

陳：當然是中文啊。

林：就是中文，但是你現在是跟我說台語啊。

陳：台語是平時跟家裡人在溝通，我們台灣人互相在溝通是都用台語啊，乎，啊還有對小孩也是說台語，但是也是有說一些國語嘛，因為小孩台語有的聽不懂嘛。像我的孩子台語就聽不太懂了，尤其是我的孫子，他們住在美國嘛，我在美國有 4 個孫子，啊他們回來啊，啊跟我講話.....都不會.....我也會講啦，但是講得不好喔，就用台語講，台語溝通。

林：嗯，台.....啊日語就是在玉蘭莊才說？

陳：啊日語是在玉蘭莊，對。就看電視，看 NHK 啊。

林：啊上次可能也有問過，就是問題可能會有一點重複，但是日本時代你最常用的語言是.....？

陳：日語啊。

林：日語，啊跟家裡的人在說話是說.....

陳：也是說日語啊。

林：也是說日語？啊跟朋友也是日語？

陳：我們是國語家庭啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），是因為是國語家庭乎。喔喔（Ooh-ooh）。

陳：對啊，而且都幾乎要改姓名了。

林：嘿。若這樣你那個時候，就是現在我們先來回想一下乎，就是你日本時代看電影的方式，跟你戰後看電影的方式有沒有改變？

陳：喔，不一樣，不一樣喔。

林：哪裡不一樣？

陳：最大的不同就是，日本時代的電影就是那個.....那個戲院很大，一次就會坐.....好幾百個

喔。那現在的戲院不是這樣，現在的戲院是一間一間的。

林：就是——

陳：一間最多是 30 個位置啊，不會超過啊。

林：現在？

陳：嘿！

林：現在的？

陳：現在，現在你要看電影……

林：嘿啊。

陳：那個……

林：你是說座位還是說看的人？

陳：看的人啊。

林：看的人嘛，啊座位的——

陳：現在好像……現在已經沒有那種戲院吧，那個那個日本時代的戲院沒有了吧？

林：日本時代的戲院是長什麼樣子啊？

陳：就……就沒有現在這種的啊，就是大家去一個地方看，啊它的廣告乎，今天要搬（puann，
演）什麼就都去看，所以人很多啊，好幾百個啊。

林：它是也是一個密閉的空間這樣嗎？

陳：對，啊它座位比較多個。

林：啊有一個スクリーン（螢幕）這樣？

陳：它有一樓二樓，都坐滿滿。

林：有二樓喔？

陳：有喔、有喔。

林：喔喔（Ooh-ooh），有二樓。

陳：嘿啊，以前都是這樣啊。

林：你說好幾百個人在看喔？

陳：嘿啊，好幾百人在看，較大間的啦乎，嘿啊，啊現在不是啊，比如說我現在要看電影，我就
比方說我去……微風，那微風 7 樓……一間一間一間。

林：7 樓那是什麼？國賓嗎還是？

陳：國賓、國賓、國賓。

林：國賓嘛乎。

陳：現在較沒有還有那個以前的那種二樓的，沒有了啦。

林：我是沒看過啦。

陳：啊電影街還有嗎？電影街那是還有喔。

林：在西門町那邊乎。

陳：西門町，還有嗎？沒了啦，關起來了。

林：那都重新有裝潢過了，乎，就說老——

陳：我沒去過、我沒去過，沒有啦、沒有啦。

林：嗯。不要緊，我再查。

陳：如果有的話，也人不多，除非說這個電影非常轟動。現在也沒有什麼特別轟動的電影。

林：嗯。所以戰——

陳：因為現在選擇多嘛，不像以前說很珍惜乎，相爭要看。現在不是啊，現在看電影到哪裡都可
以看啊。

林：隨時看，嘿啊。

陳：而且座位都很舒服啊，可以買飲料、popcorn 在那裡吃，以前哪裡有？以前沒有啊。

林：所以以前不能說你看電影——

陳：不行喔，以前你不行拿飲料進去，會把裡面弄髒啊。

林：是這樣喔？你說日本時代就這樣喔？

陳：我的印象是這樣啦。

林：就不能說話，也不能吃東西、喝東西這樣。

陳：可能吃東西還可以，喝東西不行啊，會把場地……

林：會怕翻倒這樣？喔喔（Ooh-ooh），是這樣。啊所以說，你說你那時候看電影的時候是跟什麼人去看的？日本時代。

陳：跟同學。

林：跟同學。

陳：很少說跟家人看，家人不看電影。

林：家人不看電影。喔喔（Ooh-ooh）。

陳：啊弟兄姊妹沒有啦，各人……

林：啊家人不看電影是因為說他們不喜歡看電影還是……

陳：沒興趣吧。也沒時間。

林：沒興趣，但是你自己是有興趣嗎？還是說是別人招，你才去看？

陳：我有興趣啦，我有興趣。

林：你有興趣。

陳：常常都在注意說，欸？現在是要演什麼（笑）。

林：（笑）會有預告嗎？

陳：我那個時候乎，很那個……很喜歡看那個電影的雜誌。

林：嘿，喔喔（ooh-ooh），電影的雜誌的名字你——

陳：那個不是日本時代了啦，那是光復以後了。

林：戰後。喔喔（Ooh-ooh）。

陳：光復以後了。日本時代沒有，日本時代哪有什麼電影的雜誌，沒有啦。

林：沒有呢？

陳：沒有、沒有、沒有。

林：就都是〔讀〕《少年俱樂部》這樣。

陳：《少年俱樂部》那個裡面也沒有〔電影相關的內容〕啊。

林：嗯、嗯、嗯。所以就在電影院看，啊你說沒有那種公會……公會堂？

陳：公會堂。

林：^{こうかいどう}公会堂。也有？

陳：^{こうかいどう}公会堂是官方的啦，政府的啦。

林：嘿。那是老師會帶你們去看還是說那個自由可以選擇？

陳：那都老師、那都老師、那都老師，團體的。

林：喔，那都老師。那是假日去看還是說平常上課——

陳：不一定啦。

林：喔不一定。上課的時候也有可能去看這樣。

陳：有喔有喔有喔，老師會帶去看喔。

林：帶去看是說，跟別的學校的人一起看這樣？

陳：有可能、有可能，那滿大的啊，裡面——

林：差不多可以坐幾——

陳：差不多幾千個喔。

林：幾千個？

陳：^{こうかいどう}公会堂很大呢（--neh），現在還是一樣啊，它也沒有……

林：那個 size 就是現在的那個 size 嗎？

陳：對對對，以前就是很大了。

林：是這樣，嗯、嗯、嗯。好啊，啊！你上一次有說那個^{ももたろう}桃太郎跟^{うらしまたろう}浦島太郎，我想要問說是課本有，你才知道說有——

陳：^{うらしまたろう}浦島太郎跟^{ももたろう}桃太郎那些乎，都是^{まんが}漫画。

林：都是^{まんが}漫画？你說的^{まんが}漫画是真正說一格一格這樣的一コマコマ（一格一格）的^{まんが}漫画這樣？

陳：對，啊若電影就是那個……卡通啊。

林：喔，^{うらしまたろう}浦島太郎也有卡通嘛乎？

陳：有啊，有卡通啊，あるよ（有喔）。

林：啊學校的課本有嗎？

陳：有啊。

林：這種故事也有？那是正式的課本還是說——

陳：那是正式的課本，但是短短的啦。

林：喔，就是稍微說一下這樣嗎？

陳：嘿啦、嘿啦……

林：喔，就是這種日本的……要怎麼說？民間童話嗎？還是要怎麼說？

陳：應該是民間童話喔。

林：民間童話。

陳：嘿、嘿、嘿。但如果是電影的話，它就是比較戲劇化嘛。啊你若在教科書裡面，就是比較很

短啊，它故事很簡單啦，就是說有一個農夫啊碰到了一個……

林：桃。

陳：嘿，然後跟牠，牠就帶他去海底下啊，去參觀啊（笑）。

林：喔，你說浦島^{うらしま}。喔喔（Ooh-ooh），嘿、嘿、嘿。

陳：浦島^{うらしま}，浦島^{うらしま}。

林：啊想要問說，你那個時候有說「少^{しょうこく}國民^{みん}」這個詞？「少^{しょうこく}國民^{みん}」，有聽過嗎？沒有？

陳：「小國民」？沒有。

林：「少國民」，還是「小國民」？

陳：「少年國民」嗎？

林：嘿，沒聽過？

陳：沒有、沒有，國民就國民啊，哪有……

林：國民就國民。好，我差不多問到這樣，啊我看看有沒有……

陳：還有補充。

林：嘿、嘿、嘿。啊，這個啦，就是你說這上次那個……

〔中略〕

林：就是你上次有說有一個「牛若丸^{まんが}」，這是漫畫？

陳：「牛若丸^{うしわかまる}」啊。

林：這很有名呢？

陳：這也是……也是教科書裡面有呢（--neh）。

林：教科書裡面有。這是不是那個弁慶的故事，是嗎？

陳：這個其實在日本的那個……歷史上面是真的有這個人啦乎，有呢（--neh），有這個人。就是講一個少年，他武藝很高強，然後他們那個時代，就要去征服一個……另外一個族，對敵啦乎。然後另外一個族都是又高又粗的，所以裡面有一個特別高大的人，沒有一個人打得過他，那這個^{うしわかまる}牛若丸就去把他征服啊。就是這樣的一個故事。

林：啊這是^{まんが}尅仔冊（ang-á-tsheh）？這是漫畫？

陳：對、對、對。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣喔，我沒聽過有人說有看過。

陳：^{うしわかまる}牛若丸他有名字欸，他有真正的名字，就是那個武士的名字，我忘記了。

林：所以這只是一個這樣……稱號這樣，是嗎？

陳：這是……這是他們日本人古早戰國時代乎，兒童乎，不叫他的真名，都叫他這個什麼^{まる}什麼^{まる}。

林：喔喔（Ooh-ooh），原來是這樣。

陳：小名，都叫小名。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊這是，就是也是在雜誌上面看到的嗎？

陳：對、對、對。

林：還是說是^{たんこうほん}單行本。

陳：教科書有啊。

林：教科書有？

陳：教科書有。

林：嗯、嗯。沒啦，我說^{まんが}漫畫。

陳：喔，^{まんが}漫畫喔？^{まんが}漫畫就是雜誌啊。

林：嗯，啊上次是說你有看過^{たんこうほん}單行本那種嗎？較沒有？

陳：你說什麼？

林：^{たんこうほん}單行本 那種，就是——

陳：什麼^{たんこうほん}單行本？

林：欸……就是，現在就是雜誌是好幾個作品結做一本嘛，啊^{たんこうほん}單行本 就是說一本書裡面只有一個作品，那種。

陳：就是沒別項，只有一種？

林：嘿。

陳：那個故事沒有那麼多啊，沒有那麼長啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以差……應該是在雜誌看到的？

陳：對啦、對啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），這樣我就知道了。好，這樣訪問差不多到這邊。

20221121 追記

- 日本時代被認定為國語家庭的期間很短，大概是從小學五年級開始。
- 在集團疎開至陽明山以前，受訪者並未在學校看過電影。日本時代，日本人住的地區是「城內」，北門到西門町都屬於日本人的區域，現在的成都路也是以前的「城內」。受訪者表示當時會去的電影院名稱叫做「永樂戲院」及「第一劇場」。永樂戲院在巷子裡，而第一劇場在延平北路上，兩間都是台灣人去的電影院，受訪者去觀賞電影時，影廳裡也都是台灣人。
- 日本時代沒有看過長篇漫画映画，都是短短的，和預告片一起放。
- 戰前沒有在西門町的「大世界」看過電影，但戰後有。
- 受訪者表示當時幾乎不看歌仔戲。

許金城 20210421

林：請問我怎麼稱呼才好？我叫你金^{きんじょう}城さん可以嗎？

許：啊，好！金^{きんじょう}城さん。大家都叫我金^{きんじょう}城，啊「Khóo--ê」（老許、姓許的）也不要緊啦。

林：「Khóo--ê」（笑），沒有啦，我是晚輩耶，怎麼能……

許：沒有啦，他們大家叫我金^{きんじょう}城さん啦。

林：金^{きんじょう}城さん，好。請問你是幾年、在哪裡出生的？

許：我民國 21 年乎，6 月 15〔日〕，啊在北港鎮出生的。

林：北港的？

許：北港。〔中略〕我現在〔戶籍〕地址也還在那邊，我的〔戶籍〕地址還在北港。

〔中略〕

許：舊戲園後面。媽祖……媽祖……北港媽祖廟的後面有一個大復……舊戲園後面¹。〔中略〕你

如果要找我：「我要來北港找舊戲園後面，許金城。找這個人。」我們那條……我們那條

街，〔中略〕是這個古早名，日本時代的這個舊戲園啦，後面。啊我們〔家〕隔壁就是舊戲園啦。

林：舊戲園？

許：我隔壁就是舊戲園啦。舊戲園你知道嗎？

林：不知道呢（--neh）。

許：你不知道戲園喔？舊戲園就是戲臺啊，搬（puann，演）歌仔戲的啊。

林：那是歌仔戲，不是說看電影的地方呢（--nih）？「戲園」——

許：電影也有。

林：電影也有。

¹ 指 1927 年建立的「北港座」，後改名為「大復戲院」。

參考資料：

文化部國家文化記憶庫「北港大復戲院」

https://memory.culture.tw/Home/Detail?Id=147672&IndexCode=Culture_Place（參照 2023-01-04）

許：啊那個時候是，有這個戲園喔，日本人來乎，〔原本〕我們還沒有戲……還沒有電影、也沒有戲院喔，啊來，清朝時代，我們這個就是清朝時代〔才有的〕。用□□*（清彩 tshìn-tshái，隨便）搭一搭，啊搭起來就來搬（puann，演）歌仔戲。「欸，來，〔一起〕去那邊。」去那邊〔結果〕說搬（puann，演）歌仔戲，我就不愛（不太喜歡）。歌仔戲跟□□□*（ki-tian-in）。啊日本人來乎，日本人想用一個戲院乎，就用舊戲園下去改，下去拆掉、啊颯（iānn，揮、驅趕）掉、拿起來啊。啊之後乎，日本人……我們北港的日本人有製糖會社啊。^{せいぞうがいしゃ}製造会社你知道嗎？啊郡役所裡日本人那些兵，他去舊戲園不合（不適應），啊才加一個新□□*（ke-hak），「北港劇場」，啊你……他，就是北港的乎，新□□*（ke-hak）啦，他大地主的啊。他才去開……蓋一間戲園要給日本人看，啊新□□*（ke-hak）都、全部都在砍甘蔗做日本人的生意，啊他結果……我昭和 10 年，我剛好……我剛好 4、5 歲的時候，我還記得啊，〔北港劇場〕就建好落成。啊落成〔的時候〕我，日本人在落成〔的時候〕這樣擲餅啦、喝酒啦，在〔慶祝〕落成。啊我當時 4、5 歲想去撿餅、撿錢乎，啊被人揀（giat，丟擲）到，用那種仙零仔（sián-lân-á，零錢）有沒有？1 仙、2 仙（1 分、2 分錢），揀到眼睛，啊〔我〕掩住〔眼睛〕、哭出來，我都還記得。啊那就是舊戲園，就是「北港劇場」，^{ほっこうげきじょう}北港劇場。諄（Hooh）！啊日本人很多。啊我們〔家〕隔壁就是舊戲園，啊旁邊就是新戲園，新戲園就是北港劇場，啊現在沒（不在了）。啊北港劇場〔剛〕建起來那時候乎，全台灣乎……北港劇場乎，現在叫做北港戲園。

林：〔北港劇場〕現在也還有嗎？

許：有喔！有，但是關起來了，沒人要看了。啊被電視打倒了啊。啊那個乎，我們北港那時候乎，如果要省運（台灣省運動會）乎……省運，戰後那時候乎，民國，我差不多 23、4 歲，23、4 歲乎，要辦省運啊，那時候大陸乎，大陸還沒被……國民政府還沒被共產黨打掉，那時那邊東北還在戰爭，啊勝敗還不知道。啊之後乎，我們的政府乎，我們的這個國民黨政府乎，從以前到現在都不曾說……因為大陸人比較恂（sông，粗鄙），不會打球，又不會 pan-kiû（排球），啊野球也不會，台灣那些、台灣人都日本傳〔來的〕。啊它就□□*（ong-sit）全國的運動會，在北京。這有記錄的喔！你歷史可以寫下來喔，〔只有〕我會而已喔，我不

能黑白……再〔繼續〕說起來喔，啊〔運動會在〕民國 37、38 年，37 年辦的。啊 35 省，35……啊台灣省在□□□，啊大陸福建省……啊在那〔辦〕運動會。但是也有……也有這個……慢跑、馬拉松……馬拉松你聽得懂嗎？慢跑，乎。也有短距離，100 公尺、200 公尺的那種短跑，啊也有 400 公尺、也有 1600 公尺的接力。啊接力辦了，那時候北港乎，最□* (i) 了，北港公園就是〔當時〕全台灣最好的公園。那時候乎，啊後來中央政府乎，台灣□□□□，宣傳北港，幾十年。我 23、4 歲的那時候就，喔！台北人乎，四處都□□□□，旅社睡不下就都去嘉義囉，啊有的去台南再往這邊啦，大家說：「諄 (Hooh)！（拍手背）北港你看，日本時代乎，你看，很豐（豐富、繁盛）。」他們有看到北港戲園在演，別的〔地方〕打成這樣，北港戲園，那劇場啦。啊還有郡役所啦。郡役所你知道嗎？北港郡的郡役所。郡役所就是現在的縣政府管的時候……郡役所光復還沒有啦，郡役所。啊公會堂啦，中山堂就是公會堂。

林：那邊也有公會堂？

許：喔！那〔北港〕公會堂是全台灣最好的喔！那個公會堂乎，啊門口一邊在……在打バレー，pan-kiû（排球）叫做バレー，啊一邊在打野球^{やきゅう}，野球就是棒球。啊都是日本人跟台灣人在用〔公會堂〕，啊所以在北港的運動選手很厲害。啊下去〔參加〕全國 35 省，35 省的運動會乎，台灣省拿一等賞，冠軍！啊〔分數〕總共有 600 多分，總共〔就是指〕全分（總分），也有馬拉松、也有慢跑、也有跳び箱^{とぼこ}、也有跳箱的，也有跳懸、跳高的，600 多分被台灣拿 340 多分（拍手背），台灣是拿……啊 340 幾分乎，大陸……那就是日本人傳下來的，我們台灣就是被日本人管，啊所以才讓你……日本人的時代，我們有那個……公會堂那邊有一個球場，有一個什麼，啊糖廠也有一個球場，啊大家都在那邊，日本人放（釋出、留下）的技術。啊那個棒球（pāng-kiû）你知道嗎？棒球、野球乎，〔省運〕的時候乎，諄（hooh）！〔拿〕冠軍！啊還有……100 公尺和 200 公尺的短跑，短跑乎，一等的！（拍手背）台灣北港人〔拿到〕！啊 400 公尺的這個……400 公尺的也有北港人，仍然是這個北港……北港人拿去，啊 1600 公尺的接力〔冠軍〕也是被北港人拿去，那個……北港很出名。啊所以乎，160 幾分，只有台灣拿 160 幾分，啊北港人就……光是北港人就拿 100 公尺、200 公

……啊 400 公尺陳英郎！（拍手背）寫下來不要緊，陳英郎若不準（如果不是陳英郎），你共我鑿頭（kā guá tsām-thâu，不對你砍我頭）。那時候民國……我今年 90 歲了，差不多 21 歲的時候、23、4 歲的時候，辦了 5、6 年，啊我們台灣的戲園乎，可以〔辦〕運動會的公園乎，只有北港有而已（拍手背），台北還沒有喔。台北的公園沒有的喔！到後來那時候台北發展起來，日本來建交發展，台北才弄了一個口*（thùn）跟一個公園，啊新聞才看到。啊陳英郎，北港陳英郎，全國 400 公尺的……一（冠軍）。啊 1600 公尺的接力，リレー、リレー你知道嗎？リレー叫做接力，接力就是我〔跑完〕換你這樣，這樣接力。〔冠軍〕也是被台灣北港人拿去。啊 100 公尺、200 公尺〔冠軍〕也被北港人拿去，啊擲球啊，擲那種叫做……跳遠，跳遠北港也拿〔冠軍〕，啊 1500 公尺被嘉義人拿去。

林：（笑）嘉義人。

許：啥（Hannh），嘉義人，你看我還記得喔！……啊北港以前培養很多呢（--neh），斲人（gâu-lâng，厲害的人）。啊北港人乎，去……日本時代去日本讀書乎，早稻田讀早稻田乎，北港人也幾十個的喔，那些街上……也啊有帝國大學，這個日本的帝國大學，李口口*（Sun-ik）沒讀畢業啊，很口口啊這種。啊我們北港人王吟貴，讀日本帝國大學畢業啊，也是北港人啦，啊李口口*（Sun-ik）才讀 1 年、2 年而已，這大家都知道，不再說了。所以，北港的程度以前很高。啊我們乎，我們那時候是怎麼樣，我怎麼會愛講這些？我小時候乎，差不多、我 6 歲讀幼稚園的，啊 7 歲讀一年級啦。

林：欸啊你的幼稚園的名字是叫做什麼？

許：我們以前叫做……叫做「家政女」^{かせいじょ}，家政女子學校，高女的再來（往下）。

林：可以幫我寫一下嗎？歹勢。

許：早期的學校乎，分成嘉義高女啦乎，高女的乎……高等，高女叫做高等……我們這裡面也好幾個。

林：嗯。

許：五年的乎，五年制啦。

林：喔，要讀五年這樣？

許：哈（Hannh），那五年制啊，啊、戰爭〔的時候〕改四年〔制〕了，戰爭就要〔分出〕輸贏了——

林：戰爭是差不多，你說 19……？

許：19……昭……民國……我……這 1932〔年〕。

林：1932？

許：跟中國戰爭。支那事變。

林：啊那〔戰爭〕不是 1936²？還是說 3——

許：1945。1932 乎，1932 乎，跟美國戰爭 4 年啦，啊 1945 日本投降，乎。啊我現在和人在說這種說會離（kóng-ē-lī，說得盡、說得完整）。これ（這個）就我說〔的〕，五年〔制〕的乎。啊家政女^{か せいじょ}，三年〔制〕的啦。我阿姊也有讀家政女^{か せいじょ}。

〔中略〕

許：三年〔制〕的啦。

林：嗯。欸？但那時候查埔囡仔（tsa-poo gín-á，年輕男孩、男孩子）是讀——？

許：啊，啊我們查埔（tsa-poo，男人、男性、男生）的乎，的國民學校、小學乎……我現在寫「國民學校」乎，好不好？小學……小學 6 年啦，啊之後再去讀高等科 2 年啦。啊〔高等科〕要考啦，啊我讀、我考……我考有上。啊讀到第 2 年乎，啊兩年（二年級）乎，結果快要到 8 月 15〔日〕投降。啊以前日治時期畢業是 3 月 18〔日〕。

林：啊啊。

許：乎，你知道。

林：嘿，我知道。

許：以前都 3 月 18〔日〕、3 月 20〔日〕左右畢業，4 月初一入學啦。啊我讀高等^{こうとう}，「高等科」，我正要畢業，啊日本卻戰敗了。啊光復之後有日本人要回去再繼續教，所以有再教，啊半薪水啦。啊等來中國政府……欸，12 月 25〔日〕乎，乎，12 月 25〔日〕。我們 8 月 15

² 口誤，實際上為 1937 年。

〔日〕日本投降對不對？啊 12 月光復節就是……陳儀……陳儀你知道嗎？陳儀來接收〔台灣〕啦。

林：我知道、我知道，那時候是不是講「司令」？是嗎？

許：不是啦。陳儀，我現在、你若要〔我〕講乎，我再講給你聽啦乎，比較少講，我現在……從戰後再講陳儀來給你聽，陳儀的如何〔是個〕壞人、如何殺死人。講這個會濫著（lām--ê，摻雜、混和）。啊你之前中午問我乎，問我〔的時候〕速度比較快，我才開始從日本快要戰爭，在空襲那時候，快倒了〔的時候開始講〕。啊再之前再講就是長了，是怎樣到戰爭，要來講到戰後，日本人那時候對台灣人，實情如何，啊我再說給你聽。

林：好、好。

許：現在這裡沒人能夠講。

林：嗯、嗯。

許：啊之後、後來，換中國人來接收，來接收是……接收是不而過（put-lî-kò，但是、不過），來接收〔是〕12 月 25〔日〕陳儀來接收的啊，坐飛機來接收的啊。啊接收起來乎，台灣總督乎，安藤利吉，安藤利吉，安藤利吉，最後的總督，啊頓（tng，蓋章）投降書。投降你知道嗎？〔蓋〕投降的印章，在公會堂，台北市公會堂你知道嗎？現在也還在。

林：嘿、嘿，我知道。

許：在公會堂蓋印章（拍手背）。這有紀錄，不能黑白講。啊蓋了〔章〕（簽署投降書）之後乎，蓋了之後乎，啊他們就、日本兵就武裝解除了，武裝解除你知道嗎？那時候在台灣的日本兵差不多 20 萬〔人〕喔。諱（Hooh）！

林：這麼多喔？

許：要守台灣啊，那是從滿洲、東北派來的，那種關東軍啊，關東軍要對付蘇聯啊。啊日本打算跟蘇聯打 5 年〔的和平契約〕，不能互相……不可侵……不可侵……不能打 5 年啊，啊不能○○○。啊蘇聯不守……俄羅斯不守規矩啊。日本 8 月 15〔日〕投降乎，它還沒投降之前，8 月 11、12〔日〕〔的時候〕，俄羅斯就……就給人拚進來（殺進來）了，拚滿洲啦。啊拚進來滿洲，日本兵都……啊以前有跟你〔蘇聯〕打 5 年的契約不能打仗呢（--neh），啊蘇……

它結果打來，〔日本就要〕守著台灣。啊有的〔士兵〕派〔去〕レイテ島（雷伊泰島），菲律賓有一個レイテ島。啊若是派來台灣的比較幸運，都派那種精英部隊啦，啊精英部隊也有什麼一師兩師。以前的〔第〕一師團就是現在的〔第〕一師啦，差不多 1 萬 5000 個〔人〕啦。乎，啊我們……我們北……我們台灣廳也有一師啦，啊也有來分來北港，啊我們這邊大家都體格很好喔。那之後乎，□□□□日本人乎，被打死。啊一些……你也稍微……歷史你也讀過，有一些日本婆仔（pô-á，婦人、婦女）都被人損（sng，糟蹋）了了。這是歷史有的喔。光復後那時候，戰後那時候我日本書不時在看喔，電視也曾〔播〕出來喔。電視〔播〕出來那些查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）都 90 多歲，它說：「實在說到底很丟臉，有 20 萬……差不多 100 萬的日本人在關……在滿洲啦，〔被〕殺死至少 20 萬，啊剩的查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）都丟著，沒一個□□*（su-inn）的啊，這樣你聽得懂嗎？みんな（大家），大家都有被損去（糟蹋），強制（強暴）啊。像夫妻若要走，蘇聯兵竟然〔把〕她丈夫殺死啊，丈夫殺死，他妻子給它損（糟蹋）啊。這是事實的喔，這〈異國的歌〉……我們這裡也不時在〔唱〕。「今日も暮れゆく異国の丘に……（唱）」我是這邊最會唱了，大家也叫我唱，早上總幹〔事〕，他說：「我不要唱啦。」啊他們大家都說，叫我唱一遍。啊若在唱歌乎，他們那邊唱歌的組長會說：「我也來唱一塊（意指一首，塊為歌曲量詞）乎，唱戰爭〔時〕日本乎，戰敗很丟臉的歌啦。」這塊〔〈異國の丘〉〕是，日本戰敗真丟臉的歌呢（--neh）。啊我這是另外講的，啊看你要不要問台灣的事，不要再說，現在再講下去又惆悵了。乎，你問！

林：你小時候，就是戰爭之前啦乎，到戰爭結束……之前，你都是在北港？

許：啥（Hannh），我〔就是〕北港小孩啊，啊我就是今天會比別人更懂這些……歷史啦乎……啊這些台灣的事情、和日本戰爭時代的事情，我就國民學校兩、三年〔級〕的啦，啊我大姊就高女的，我講過的。啊她高女伴的人乎（在高女的朋友），〔高女〕的學生、〔她〕的同窗，不時來說，啊我大姊很會讀書，叫她「ゆうさん」啦，那個ゆう〔是〕有沒有〔的有〕。我們這裡一個……坐在那邊西螺那個叫做……漂漂亮亮、戴眼鏡的那個，西螺人，她也說她讀虎女（虎尾女中）的，啊我大姊讀嘉女（嘉義女中）的再讀台南師範，她又讀……

讀比較高啊，啊當老師。啊她（大姊的朋友）也做老師，〔說〕：「啊你是ゆうさんの小弟
啦！」我說：「啊妳也知道ゆうさん！啊妳……」

林：「ゆうさん」？

許：ゆうさん，こう啊，ゆうさん〔是〕我大姊的名字。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：啥（Hannh），ゆうさん啊，ゆうさん，大家叫她ゆうさん啊。啊坐在那邊不是有一個西螺
……西螺的查某？漂漂亮亮的、戴眼鏡有沒有？坐在窗戶旁邊啊。

林：戴眼鏡？

許：啥（Hannh），戴眼鏡，坐在那個窗戶旁邊，後邊那個。

林：她有戴眼鏡嗎？

許：啥（Hannh），戴眼鏡、漂漂亮亮的那個。西螺人啦，她叫做一個名字……叫做……〔有〕
改名字啦，日本的名字。那個西螺人，有錢人啦。那個叫做……那個叫做……台灣獨立的那
個叫做……很出名的，〔住在〕她隔壁。不講那些政治的，他仍然□*（siok）在台灣。那就
是……那天才認得啦，我愛唱歌啦，啊來我們北港，啊她就說……她才說怎樣去……她讀虎女
的，啊她也當老師啦。啊我大姊比較多歲（年紀較長），她日本□□她說得很好，□□啊。啊
後來去斗六，去縣政府乎。「啊你是ゆうさんの小弟乎？」我說：「啥（Hannh）。」說ゆ
うさん她認識。啊就不能隨便講，你若黑白歎（pûn，吹牛）就漏氣（糗）了，啊我也不愛
歎啊。乎，有沒有，有一個漂漂亮亮的，坐在那邊，那個名字叫做廖……廖什麼，姓廖的
啦，姓廖那個啦。啊我就小時候乎，我大姊乎，出出入入都說日本的那些同學，啊她那個做
級長喔，級長就是班長啊，^{きゅうちょう}級長啊，乎，啊從國民學校一年級到六年級的，就^{きゅうちょう}級長啊，
啊還有女子學校的^{きゅうちょう}級長，還有台南師範也……台南師……查某（tsa-bóo，女人、女性、女
生）才……北港才考〔上〕2個〔女生〕啊，啊有沒有厲害？好幾百個才2個考上，這樣啊，
啊出名。啊不時有一些人去〔跟大姊〕說日本話啊、講事情，啊小時候聽啊……小時候有沒
有，不時聽到「喔，ゆうさん、ゆうさん。」啊都說〔那些〕，啊慢慢聽。啊我6歲就去讀
幼稚園了。

林：啊你幼稚園的名字是叫什麼？

許：我們幼稚園，以前沒有幼稚園。以前就是家政女子學校 3 年所屬的國語補習班，以前沒有幼稚園。

林：「國語補習班」？

許：哈（Hannh），家政女，「家政女子學校」的裡面的……不對啦，「嘉義女子學校」3 年所屬的……（寫字）以前沒有幼稚園啦。以前沒有幼稚園，日本時代沒有幼稚園啦。

林：喔，是這樣喔！

許：嗯，啊我……這就在女子學校裡面，啊就他們家庭好的喔，家庭好的才可以〔就讀〕啦。啊就因為大姊，像我大姊有讀，她有讀這個女子學校，把我帶去才能進去喔。

林：喔，是這樣！喔喔（Ooh-ooh）。

許：哈（Hannh），就要家庭好喔，家庭中上才可以的喔。好比說我很會讀書乎，很會，啊我老爸（lāu-pē）在做粗工啦，在做粗工啦，在賣糧食、在路邊在賣糧食。

林：你說賣什麼？

許：它（日本校方）就不〔同意〕啦，日本人就不〔同意〕啦，不收你啊。啊我老爸是普通啦，我老爸是在做雜穀（tsáp-kok）商啦，雜穀（tsáp-kok）知道嗎？

林：不知道，（笑）歹勢。

許：你不知道？五穀啦，雜穀是在吃土豆（花生）啦，土豆油。啊去鄉下有人在採土豆、花生豆，啊採下來就跟人家買下來，來打。啊這邊以前沒有機器，啊剝一剝再用成土豆仁（花生米）配給日本人，日本〔人〕再配來台北。北港的土豆仁很讚的喔。這樣你有聽懂嗎？啊有時候做彰化的生意啦，啊所以才……所以我們家的人才，做雜穀的人都有識字的人。早期要讀……像我老爸這樣□□的，170 個。像那時候要讀國民學校的人很少。我老爸來（我老爸那時候），他們多五、六年級〔是〕那時候才設的啦，再來才是四年級。啊我老爸有讀的那時候乎，校長兼損鐘（主理人一手包辦大小事務）啦。我們現在聽到的「校長兼損鐘」就是，我們北港沒有半個會講日本話的，啊一個日本人來做學校長，才有年級制啦。那時還沒去學校的，年級制了，啊〔去〕對人姑情（koo-tsiânn，懇求）。姑情若說日本話……啊姑情是有

的小孩乎……我老爸也不去讀，會怕日本人怕到，喔，看到日本人會怕。啊□□* (ba-khi)
了，啊實在不要緊啦，日本人出來說……啊去讀……讀這個，以前是四年〔制〕的，啊後來才
改六年〔制〕的啊。啊讀的時候實在很淺啦，很淺啦，淺你知道嗎？あいうえお、かきくけ
こ，啊読み替え^{よ か}乎，較淺啦。當時較淺啊，啊較淺而已，之後乎才，要做雜糧乎，有時候日
本人……我叔公在這個「壯丁團」，壯丁團，「壯丁団」，〔等於〕現在的義警。壯丁團團
長就跟警察〔關係〕很好啦，啊那些巡查警察不時來我們家。啊來我們家乎，啊我大姊她們
那些就掃地囉，〔因為〕警察要來。啊□□一兩桌，啊放在那邊。啊他們在講日本話的時
候，小孩都躲著聽。啊小時候，小時候 6、7 歲、7、8 歲，啊在那邊聽，啊還有讀幼稚園
的。幼稚園，幼稚園就是國語補習班啦。乎，以前沒有幼稚園的啦，幼稚園ない（沒有幼稚
園），啊幼稚園是現在的，以前會說國語補習班，就是家政的學校啦，高女學校裡面的附屬
啦。只收 1 班 2 班而已。啊就是有錢人才——

林：1 班 2 班而已喔？

許：啊而已！

林：啊 1 班差不多多少人？

許：50〔人〕（拍手背）。

林：50。

許：啥（Hannh）。

林：所以〔總共〕差不多有 50 到 100 個人？

許：沒有沒有，一班 50，啊有時候收 1 班有時候收 2 班。啊收一陣子，到戰爭那時候就沒收囉
（拍手背）。以前那時候在缺人乎，啊缺人就我們這陣子乎，我們這陣子，〔人力〕可以配
就不收了。

林：嗯，啊你那個國小是讀什麼國小啊？

許：我讀北港……北港宮前的啊。「宮前」就是神社口啊。

³ 「読み替える」意為「換別的唸法讀」。推測此處有可能是要說「読み書き（讀書寫字）」。

林：「宮前」？

許：「宮」就是皇宮的那個宮啦，皇宮、朝天宮的「宮」啦。

林：（寫字）這個「宮」乎？

許：「宮」。啊宮前，「前」……前進、前進、前進的砲（唱歌）的前進啦，^{すす}進め啦，前進啦你有聽過——

林：喔～宮進。這樣……這樣呢（--nih）（寫字）？

許：啥（Hannh），進行，進行曲啦。啥（Hannh）。

林：「^{すす}進む」の〔「進」〕？

許：不是不是（拿過紙筆）。乎，「^{みやまえ}宮前」，要寫嗎？寫み啦乎，你看乎，「^{みやまえ}宮前」。

林：不要緊，那個^{よ かた}読み方（唸法）我知道。

許：よみまえ⁴……^{こくみんがっこう}国民学校。

林：「^{こくみんがっこう}国民学校」。那時候，就是你一年〔級〕的時候就叫做「^{こくみんがっこう}国民学校」這樣嗎？

許：我講給你聽乎，你看這種。「^{こくみんがっこう}国民学校」乎，就是台灣人的學校，叫做「^{こくみん}國民」，啊若「^{しょうがっこう}小学校」，日本人學校叫做「^{しょうがっこう}小学校」。小^{しょうがっこう}学校〔有〕一年級到六年級的，這是日本人小孩才能讀。啊一間若〔有〕50個以上乎，台灣人要進去才……1班1個到2個而已。很好的家庭〔才能讀〕乎，他老爸〔是〕醫生不然就大口*（si），有跟日本人很有關係的人，啊才可以——

林：才可以進去^{しょうがっこう}小学校這樣？

許：啥（Hannh），小^{しょうがっこう}学校，進去跟日本人〔一起上課〕。但是進去乎，不快活啦，他們日本人看台灣人乎，不起啦。看到你說：「ちゃんころ！」，「ちゃんころ」。「ちゃんころ」你知道嗎？

林：沒聽過呢（--neh）。

許：啥（Hannh）？

⁴ 口誤。

林：沒聽過呢（--neh）。

許：「清國奴」啊。

林：喔，「清國人」，喔喔（ooh-ooh）。

許：清國「奴」！

林：「奴」？

許：奴才的那個「奴」。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

許：他叫……他叫……我不知道該不該寫下來，很難聽的。若日本人叫中國人他們不是叫人啊，叫支那人、支那兵，諺（hoo）那個很難聽。啊再來，最難聽，〔就是〕「ちゃんころ」。啊你若跟外省人說ちゃんころ，每個都聽得懂。ちゃんころ就是清國奴、奴才，沒有在用人〔來稱呼〕啦。國府乎，去日本叫……□□□⁵去日本，啊他說，自己說，都清國奴啦，說〔要不就是〕給英國管的，啊不然就是給德國管的，都是奴才啦，ちゃんころ。

林：所以你，就是戰爭結束之前，你都是在北港讀書這樣？

許：啥（Hannh），都在北港讀書，啊我們家裡人都講日本話。

林：家裡都說日本話？

許：我們家裡就是我老爸都有那種日本朋友乎，做雜穀商，啊來〔家裡〕，啊還有我四叔公，「○○○⁶」，做壯丁團的團長。壯丁團團長……就是管一群〔人〕的團長乎，跟現在的義警一樣啦，是日本人的附屬啦，日本警察的附屬啦，啊所以日本人不時會來找我四叔公啦。啊我就是，我們姓「○○○⁷」啦，啊很出名啦。啊戰後就失勢囉，日本回去就失勢了，北港不敢住，才跑到□□⁸，□□⁹那叫做……那邊叫做……□□¹⁰啊。啊就我們家裡就是，啊小時候都會學〔日語〕的啊。啊所以才我4、5〔歲〕、5、6歲〔的時候〕就愛聽大人在說……戰爭

⁵ 推測此處是表人名。

⁶ 讀音為「コウタ」或「コウダ」，日文姓氏。

⁷ 同上。

⁸ 地名。

⁹ 同上。

¹⁰ 地名。

說……那時候說戰爭的事情啊乎，很就很愛聽。啊還有和我大姊乎，他們那整群都說。還有……還有我姑婆的兒子乎，〔姑婆〕生了 9 個啦，啊 5、6 個去日本乎，讀書啦。啊那個……有一個蘇東風¹¹乎，也讀日本的早稻田，啊我們台灣人日本時代做郡守乎，郡守只有兩個而已。蘇東風一個，啊一個〔來自〕清水啦。清水〔那個人〕說是李登輝他……聽說是李登輝的女婿的老母那邊的。啊跟我姑婆的兒子叫做蘇東風啊。啊這個蘇東風曾經做過郡守，也曾經在台灣總督府做……最後才做郡守。啊郡守乎，把他派去羅東做郡守，羅東郡的郡守。啊戰後乎，就改……中國政府來接收乎，郡守它就改區長啦。啊區長做一做乎，到民國 40 年，陳誠那時候……陳誠那時候要這個……要政治改革乎，省政區要改革乎，就像台南州乎，拆做 5 個縣市啦。以前台南州把它拆成現在的雲林縣啦、嘉義市啦、嘉義縣啦、台南市啦、台南縣就是台南州啦，不是台南縣。

林：欸，所以你說你——

許：啊所以我會知道這些就是〔因為〕這樣啦。

〔中略〕

許：啊……裡面乎，你就要寫……要給它寫一個……日本人給你弄個草乎，那種不知道什麼的，把你放在那個戶口板上，就是意思說「日本家庭」。

林：那個「日本家庭」是不是說「國語家庭」？

許：「國語家庭」歸「國語家庭」。

林：那是另外〔一種〕的呢（--nih）？

許：對，另外。啊這「日本家庭」就是說，你老爸（lāu-pē）老母（lāu-bú）會說日本話。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：啊但是我老母（lāu-bú）不會，不太會〔講日語〕，我老爸（lāu-pē）會，但是四叔公來在裡面很會講，騙過他們。啊乎……啊那個公媽（祖先）你知道乎？

¹¹應為「蘇東啟」。關於此段內容，實際上蘇東啟在日本時代應無擔任過郡守。詳細資料可參考以下文獻：

蔡蕙頻（2020）「史上唯六的臺灣人郡守」『臺灣學通訊』第 117 期，國立臺灣圖書館，16-17 頁。

林：嘿。

許：我們的公媽你知道毋（--m̄）？

林：嘿，我知道。

許：那個公媽□□□□*（到現在還在），那個公媽乎，在中間乎，祀（tshāi，設立牌位供奉）我們媽祖婆啊，坐在那種神主〔牌〕……神桌，神桌有沒有？神……以前媽祖婆□□□在這。啊我們的祖先，我們的祖先日本人不敢把我們廢掉，不敢……我們的祖先放在……我們這個右側^{みきがわ}，向內，好比說向……啊放在桌上，我們「頂桌」你知道嗎？我們「下桌」在吃飯的，啊「頂桌」，早期的頂桌，才放媽祖，他們日本人也尊敬媽祖。啊左^{ひだり}還是右^{みぎ}放這個……叫做日本的神社，神社給你用這樣。神社，やしろ¹²，やしろ，啊那個鳥居^{とりい}，兩支都柱子，給你用著。啊那個打開，啊才寫說「 」（住址），啊神社，寫一個「神社（sîn-siā）」。

林：「sîn-siā」？

許：神啦，「神社」。神社就是……就是日本人來乎，有看到說，啊你有認真……〔日本人會〕比較客氣。這樣你知道嗎？

林：喔喔（Ooh-ooH），你說「sîn-siā」是怎麼寫？

許：「神社」你不知道喔？

林：不知道啊。那種不懂。這邊、這邊，歹勢。

許：（寫字）我寫北港神社乎。在公園旁邊啦。「北港神社」。……神社啦，差不多日——

林：就「神社^{じんじや}」這樣嗎？喔，神社^{じんじや}！好好好。

許：啥（Hannh），「神社^{じんじや}」啦。啊兩個鳥居^{とりい}啊，我再來乎，前^{まえ}に（前面）……前^{まえ}に^{じんじや}喔，神社の^{まえ}前……鳥居^{とりい}就是……

林：鳥居^{とりい}，我知道，像這樣。

¹² 社（やしろ），意為「神社」。

許：啊啊（表同意）。啊我們北港的還在，我們北港鳥居還在呢（--neh）。啊神社被那些外省兵來，放火燒掉了，啊現在變游泳池。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。但是你說你就〔讀完〕幼稚園，啊就……接下來就進去國民學校嗎？

許：啥（Hannh），國民學校是台灣人在讀的。

許：台灣人在讀的叫做國民學校。

林：嘿，你是〔讀〕國民學校嗎？

許：啊我到……我到國民學校，以前我入學，不是國民學校，〔是〕公學校。

林：喔喔（Ooh-ooh），一開始進去的時候是叫做公學校——

許：我老爸他那時候的公學校，啊我大姊多我 6 歲，她進去也是公學校，啊寫著「北港公學校」，啊就分成兩個，我寫做北港公學校。はじめ（一開始），你就說 114¹³年前乎，來是北港……北港公學校。啊後來才……戰爭時代乎，公學校是……公學校是殖民主義。啊日本人那時候要跟台灣人說「一視同仁」乎。到昭和……我那時候國民學校二、三年級的乎，才有分說北港宮前學校，宮前，啊搬桌子搬來到，喔！搬來到這個神社建成了，啊公學校弄好了。啊宮前，宮前宮前學校我北港二年級〔才〕搬進去。

林：北港二……？

許：啊北港，宮前，宮前，就是神社的門口才……在神社的旁邊才跟你說「北港宮前」。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：啊我們……啊公學校……啊它那個公學校才改成「南」，「南」。

林：喔喔（Ooh-ooh），是……你說是——

許：「南」就是南邊，啊我們宮前就是現在的「北辰」，他們現在就是「南陽公學校」。啊我們日本時代那個，宮前就是最北的啊，啊才會自己說□□*（Siā-bué）。這個宮前就是，戰後蔣介石來，就不讓叫做「宮前」啊，才給你〔改名〕叫做「北辰」。

¹³ 與史實不符，可能為口誤或記錯。

林：嗯。啊你剛剛有說你姊姊的事情，那你家裡是幾個兄弟姊妹啊？

許：5 個啦。

林：5 個，是你姊姊……啊你算第幾個？

許：我第二的啊。

林：你第二。

許：啊有些給別人的那些不算啦，〔有些人〕大姊啊給人啊，就給草地人（鄉下人）啊，之後沒讀書，很怨嘆（輕笑）。有的以前很會生的啊，有的都生幾十個你忘記了？啊有的生查某（tsa-bóo，女人、女性、女生），啊我大姊生出來是查某，很□□*（siu-sing）啊，結果給別人照顧，讀那麼高啊。啊第二胎，一個〔叫做〕鳳仔，生出來，我外公在看風水的：「生查某要死，抨抨—ê（phiann-phiann—ê，丟一丟）。」以前有的生查某乎，生出來看……啊生出來看到是查某的乎，啊就這樣往□□插下去，就拿去丟掉，古早人（早期的人）都這樣，古早人都這樣。這是聽我阿媽說的喔，我阿媽跟我講的，我阿祖乎，我阿祖死掉□□□□，啊我老祖公就是我老祖的丈夫，就是這樣啊。啊她生……諱（HooH）！以前的人也有生 1 斤（指 16 個），1 斤多少你知道嗎？16 兩。

林：嘿。

許：以前的人也有生 16 個。啊也有人生 1 打，1 打 12 個，哈（Hannh）。啊若戰爭時代乎，大家以前有的節（節育）〔生得〕不多啊，啊戰爭時代日本人中間說，你若生 1 打乎，有得補助。需要人嘛。

林：喔喔（Ooh-ooH），是這樣。

許：哈（Hannh），需要人。你問我就，我鄰居……鄰居一個□□也生 1 打，啊還有他內姊乎，2、3 個去海外做……給日本人召去做軍伕，諱（hooH），啊給他們用一個名譽（bīng-ī）的家庭，名譽（bīng-ī）你知道？的家庭。啊若……家裡若爸媽乎，若在生病，啊日本人的那種扶輪會啦，扶輪會就去給他們鬥跤手（tàu-kha-tshiú，幫忙），因為這個家庭是日本……是嫁給日本人的台灣人。問我當然會知道，就在我們家對面啊。

林：欸？啊你說你姊姊、你，啊你下面是？

許：往下是……小妹，小我 4 歲，她小我 4 歲，啊她國民學校二年級。

〔中略〕

林：所以 1 個妹妹……你不是說你兄弟姊妹總共 5 個人嘛？

許：啥（Hannh），啊 1 個小弟，小我 7 歲啊，我 90 歲他 83 歲啦。他好像……讀一年級〔的時候〕剛好光復啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），欸，所以是你姊姊、你、啊你妹妹跟你弟弟這樣？

許：啊還有 1 個，我弟弟〔往下〕還有 1 個……還有 1 個小妹啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），是最小的囉？

許：小妹……她叫做……民國 30 年生的啦，在空襲那時候生的啦。生的啦，生的啦，啊死去囉，他們這些都死去囉，死到剩我跟我小弟而已。啊我大姊也是死去囉，她也是……就是那種……アルツハイマー（阿茲海默症）你知道嘛，〔她〕也是讀到畢業。啊我們的有那種〔遺傳〕啦，也死 3、4 年了。她〔讀的〕叫做台南師範喔，很出名喔。

林：嗯嗯。欸？所以那時候，你說你姊姊是讀台南師範，啊你是讀……你高——

許：高等科。我國民學校——

林：畢業之後是——

許：〔畢業之後〕又 2 年高等科。

林：那個、那個要怎麼……高等科？啊那間學校的名字是叫做什麼？也是宮前——

許：高等科……不是宮前，我那邊宮前沒有高等科。我們北港郡乎，才一間高等科而已。啊北港五鄉鎮，我們北港街、北港鎮，乎，現在有□□□，□□，北港鎮、水林鄉、口湖鄉、元長鄉跟四湖鄉，5 鄉鎮 1 郡、5 鄉鎮 1 郡啦，啊郡現在沒有了。啊〔以上行政區〕才收一間高等科而已，啊要考 300 多個人考，要收 50 個有 300 多人去考。啊都……我們北港 3 間國民學校啊，一間南^{みやま}啊，那個南陽現在分開叫做南^{みやま}啊，它還在啊。啊我們比較北邊的，兩、三年〔級〕我有搬起來，搬椅子來宮前。日本人設置宮前^{みやま}，國民 9 年的新的學校啊，啊新公園啊。啊學校的旁邊也有這個……神社，啊神社旁邊所以才叫宮前^{みやま}，宮前。

林：嘿。所以你高等科是？

許：讀「南陽」的。

林：嘿，「南陽」？那個「南陽」就是這……

許：就太陽的那個「陽」啦。「陽」是太陽那個字「陽」啦。

林：「南陽」……（寫字）這樣寫嗎？

許：哈（Hannh），太陽啦，太陽那個「陽」，太陽是這個字啦（寫字）。

林：這個字嗎？「南陽高等科」這樣嗎？

許：哈（Hannh），「南陽」啦，「南陽高等科」。啊它宮前^{みやまへ}也要去那讀，啊海口的（海邊的人）也需要去那邊讀。300 多個考，考〔取〕50 個啦，不好考喔。

林：嗯，嘿啊、嘿啊。

許：不好考喔。你若說……你若說問以前老一輩的人，〔會說〕若有高等科就……出來吃〔頭路〕（出社會）就不錯看了，出來吃〔頭路〕就不錯看了。啊若讀中學的乎，就又更高，五年〔制〕的。若中學出來要不就當醫生啦乎，要做醫生啦，要不然就要考這個……啊若讀工業的出來都……以後要考的都是電力公司啦，啊土木系那種啦，這樣啦。啊讀農〔業〕出來是在糖廠啦，北港糖廠的那種農務課啦。不然你去阿里山啦，乎，農林的林業啊，啊進去阿里山啦。啊不然就去做水利〔方面的工作〕啦。

林：啊你小的時候，上次談話會^{だんわかい}的時候你有說，說有一些遊^{あそ}び（遊戲），就是囡仔（gín-á，小孩、兒童）都在玩什麼？

許：囡仔（gín-á，小孩、兒童），這我說給你聽乎。我讀一個叫做お伽話^{ときばなし}啦，お伽話^{ときばなし}就是囡仔話、囡仔在聊天啦。〔以及〕搨牌仔（尪仔標一類的遊戲）。以前的人都穿開跔褲仔（khui-kha-khò-á，開襠褲）啦……開跔褲仔你知道？

林：我知道、我知道（笑）。

許：〔穿著〕開跔褲仔乎（笑），啊蹲著搨牌仔，這樣啦。啊灌杜猴（tōo-kâu，蟋蟀）啦，灌杜猴、コオロギ（蟋蟀）啦。杜伯仔（tōo-peh-á，螻蛄）你知道嗎？灌蟋蟀啦、啊抓□□*（竹sī）啦，キリギリス（螽斯）啦，啊鮮鮮的（活蹦亂跳），啊去甘蔗園、去豆仔園（種豆子的地方）抓大隻的，啊你抓 1 隻、我再〔讓它們〕打架，互咬，啊你若咬輸我乎，你若咬輸

我乎，啊你就〔拿點〕什麼賠我這樣啊，叫做キリギリス啦。啊〔以及〕「^{へいたい}兵隊ごっこ¹⁴」啦，「^{へいたい}兵隊ごっこ」是兵隊のごっこ。

林：嘿、嘿，「^{へいたい}兵隊ごっこ」。

許：ごっこ，日本語很少人會講喔，ごっこ就是在標啦，乎。啊「^{おに}鬼ごっこ¹⁵」，癩鬼仔殼（*siáu-kuí-á-khak*）啦。おに就是癩鬼……おに就是鬼啊，啊ごっこ就是戴個癩鬼仔殼閉眼睛，這樣啦，啊大家在打架啊。啊〔以及〕^{きばせん}騎馬戰啦。

〔中略〕

林：那這樣日本時代你有看過電影嗎？

許：……啊就隔壁電影院 2 間，剛才有講（笑）……〔例如〕北港劇場。

林：嘿嘿嘿，我要錄音，所以得要問，嘿。

許：啥（*Hannh*），我講日本語摻台灣話講，好嗎？

林：嘿……欸……台灣話就好。

許：我的……家隔壁就是……現在的地址就是 [REDACTED]，乎，啊舊戲園後面的人，[REDACTED] 就是舊戲園後面的となり（隔壁），後面的人就是許金城。你若去北港，若去媽祖廟後乎，去問說舊戲園後面的一個許金城，[REDACTED] 許金城，就是那就問到〔我〕了，不用問地址。[REDACTED]……以前很熱鬧，啊現在光復後，路開下去乎，有些人不要了。我們那個戲園，以前有說都演北港劇場的電影，現在有了電視出來，你知道乎？有這電視出來，全倒了。他們台北也是這樣，到處都……台北也有好幾間劇場也是關起來囉，不是只有北港而已。

林：你還有記得說你是在差不多幾年的時候看的電影？差不多從幾年開始看的？

許：我差不多……要看電影看免錢的啦，就隔壁戲園啊，〔隔著〕一條巷子而已。我不用拍票（*phah-phiò*，買票）啊，我這個囡仔（*gín-á*，小孩）伴（*phuānn*，此處表帶著）箱子去的啊。一條巷子喔，是我們家那邊，啊一條巷子再過去就是舊戲園了。舊戲園以前日本時期很

¹⁴ 「扮兵隊」。

¹⁵ 「鬼抓人」。

□* (tsian 或 kiät)，你若說要跟老爸老母討錢乎……大人 1 角，啊囡仔 5 仙，1 角你知道乎？啊囡仔 5 仙。啊你若跟老爸老母討乎，討電影看，一半擺 (tsit-puàn-pái) 會〔願意〕，你若每天跟他討乎，他哪會給你。「猴死囡仔 (kâu-sí-gín-á)，錢又沒那麼好賺。」我是講什麼東西，用「piànn-tōo」的。「piànn-tōo」這句話是古早話，「piànn-tōo」就是我囡仔不用「piànn-tōo」。我在那條巷子乎，莊稼後面是戲班住的，戲班你知道？在搬 (puann，演) 戲的，那種搬劇場的戲班，在我們後面一個空地，他們都弓蠓罩 (king-báng-tàu，架蚊帳)。戲班都是夫妻，夫妻……像我們這間很大間，可比說 20 對夫妻，都合咧睏 (háp-leh-khùn，一起睡覺) 呢 (--neh)，啊合咧睏掩 (om，遮) 一個蠓罩弓 (báng-tàu-king，蚊帳) 而已，啊夫妻都□* (khui) 在那。我做囡仔時擊擊 (giät-giät，頑皮、作擊) 乎，講這個話就比較難聽，爬上去……那些死囡仔大家說 17、8 歲，我那時候差不多 11、2 歲，17、8 歲的現在多我 5、6 歲、6、7 歲，17、8 歲都猴囡仔乎，他們都沒有沒有錢可以拍〔票〕……他們都「piànn-tōo」，「piànn-tōo」就是偷爬…叫做這個「銀行やぶれ」^{ぎんこう}16、「ギヤング」(gang，幫派；殺人或強盜的犯罪團體)。「ギヤング」就是搶銀行或是「銀行やぶれ」^{ぎんこう}，就是「ギヤング」。「那時候」我們就爬牆，爬上去騎 (gí，將小孩舉在肩膀上) 著。「騎著」知道嗎？我這樣站著，啊……騎著看。騎著牆頭，站著，騎著。騎馬 (應指騎馬打仗遊戲) 也是用騎的，啊騎著看。「現在你看一看啊 5 分鐘來換我喔！」現在才換我。我那時候是猴死囡仔乎，被人家利用去了。「來，你給我騎著讓我看。等一下再……」現在騎著他歡喜了乎，他現在看了卻……不給我……不要下來了。我小時候就被人利用了。啊我就料想……小孩有時候……顧戲口的你知道？以前有那個顧戲口、在顧門票的乎，〔票口〕是我們鄰居兩個歐巴桑在顧，兩個……兩個在顧。我就說，躲在那邊，人家老闆若不在那，有時候會看啊，我就偷問一下：「讓我進去嘛。」啊有時候，有時候，我這個囡仔乎也是說不笨。2、3 個〔小孩〕就跟那邊的歐巴桑乎，有的……□□街大客戶的歐巴桑，有的化妝嬌妍妍 (suí-kian-kian)，來看電影都□□□□，都來看。我說：「阿嬤啊、阿姆啊，你把我……把

¹⁶ 日語中無此單詞，推測可能是要說「金庫破り (きんこやぶり)」，意為「破壞金庫盜取財物」或是「破解金庫之人」。

我……把我拉進去、把我拖進去好不好？」你若要自己進去，他還會出來把你拉住。夭壽仔
戇（iáu-siū-á-gōng，有夠笨）、夭壽仔戇，不想要放你去。啊我就……乎，若不時在那邊
等，人家會認得你猴死囡仔，很「鬼骨」（kúi-kut，此處應指狡猾）。「鬼骨」你知道嗎？
太巧（khiáu，聰明；奸詐），鬼啦，鬼骨啦，都在那看乎。所以我才跟日本婆仔（pô-á，婦
人、婦女）說：「おばさん、おばさん、私をね、ついて¹⁷ください。（阿姨、阿姨，帶我
進去嘛。）」她看我講，她就把我拉進去。拉進去乎，裡面〔放著〕電影暗眠摸（àm-bîn-
bong，伸手不見五指）乎，她（指顧戲口的）就看不到我們啊。那邊的死小孩偷「piann-
tōo」，她們那些顧戲口的，用竹竿，「竹篙鬥菜刀（tik-ko-tàu-tshài-to）」的竹篙，竹篙綁
一個尖尖的。那些猴死囡仔用□□*（ki-kim），「piann-tōo」爬上去乎，都用撞的，他都……
箱子太高打不到，就用竹篙撞。小孩子要看到底，被你撞哪有關係，拚進去，進去人群她就
抓不到了，人群這麼多人，以前劇場。我就想說，小時候都愛看電影，看戰爭〔題材〕的。
諄（Hooh）！若戰爭的——

林：戰爭〔題材〕的是說都日本的電影嗎？

許：諄（Hooh）！〔那時候〕哪有中國電影？

林：沒，會不會說有アメリカ（美國）或是說歐洲的？

許：沒有，美國實在……啊就……啊就……這你不會嗎？日本三國同盟啊，三國同盟對付聯合國
啊。三國就是德國、義大利，加日本三國同盟對付聯合國啊。啊跟中國的戰爭，昭和 12 年 7
月初 7，昭和 12 年 7 月初 7，「支那事變」，支那事變就是盧溝橋事變。現在講你知道乎？
再來昭和 14 年，「ノモンハン^{じもんはん}事變（諾門罕戰役）」，ノモンハン（諾門罕）就是在滿洲
乎，中國東北靠近ロシア（俄羅斯），那叫做……□□你知道嗎？ロシア（俄羅斯），俄國
的隔壁乎，那邊的國界就是ノモンハン（諾門罕），□□。啊日本兵從鴨綠江這邊去ロシ
ア，ロシア叫「吳國」¹⁸啊，ロシア，以前叫「ソビエト（蘇維埃）聯合」……「ソビエト

¹⁷ 推測為口誤，原應要說「つれて」。

¹⁸ 推測為口誤，原應要說「俄國」。

連邦共和國」。他們那邊的兵乎，□□□□。啊打一次戰爭，打一次，イサガキサン¹⁹，日本有這個のイサガキサン中將啦，那是□□□□，他們□□□□啦。過了一年多，過一年乎，你看，日本沒輸沒贏（沒分出勝負）。日本喔，要給人家侵入，侵入西伯利亞，西伯利亞操煩（tshau-huân，煩惱、擔心）啊。但是打贏後有給人家……給人家侵入到裡頭，ロシア放給他們進來，啊□□□。啊日本士兵背著水，那個時候□□□□□，要背水背 3、40 公斤、背子彈、背毯子，背這些東西怎麼不用背。啊水乎，背著喝不夠，□□*（tai-tshau）外面哪有多少水。啊晚上睡覺的時候，白天很熱，晚上很冷，冷喔……得感冒的很多，所以生病的很多。你把人家打到……ロシア打退了，但是那邊ロシア的莫斯科……莫斯科你知道乎？連到西伯利亞，鐵路已經造好了。

林：你這些故事都是在電影看到的，還是說你讀書讀到的？

許：讀……小時候……我就說大姊會「拾い読み」²⁰，我〔還是〕小孩哪有辦法買那些。我大姊比較年長，我大姊他們那邊，還有姑婆的兒子們，蘇治芬他們的爸爸是我叔叔，他們都讀公學校，去日本讀，買一些雜誌。啊看一看就丟了，我這邊小孩子 2、3 個，買尪仔（ang-á，人偶），拾い読み。拾い読み聽得懂嗎？撿書起來給它〔看〕……叫做拾い読み，有這個拾い読み，撿這些《のらくろ二等兵》它們一起，〔從〕它們開始的。

林：好，那些我等等再問，我現在先問電影的事情，歹勢。

許：好，我這邊停，我這邊停。

林：啊，那個，你說戰爭的電影是日本片——

許：日本片我不是剛剛才說——

林：日本片啊，那是不是叫「ニュース映画（新聞電影）」，還是不是叫做——

許：「映画」。

林：都只叫做「映画」而已？

¹⁹ 此處放上訪談中的讀音，目前查不到姓名吻合的軍官相關資料。

²⁰ 「拾い読み」意為「找想看的部分看（文章）；選著讀」。此處用法和日文中普遍用法不同，推測應為「撿來看」之意。

許：初初（tshoo-tshoo，起初；剛開始）乎，說活動写真^{かつどうしゃしん}，映画^{えいが}是戰爭……活動写真是支那事變，跟中國事變跟滿洲……支那事變，昭和時代啦，我說昭和你知道乎？

林：嘿，我知道。

許：昭和元年，〔昭和〕1年還2年，開始是叫……都說是叫這個……以前說滿洲事變啦，滿州事變是昭和5年²¹發生的乎。啊第一次世界大戰，昭和的這個……大正7年發生的，它們這些是說，以前那時候是看了都說「活動写真^{かつどうしゃしん}」啦，活動啦。

林：嘿，活動寫真這樣乎？

許：活動写真^{かつどうしゃしん}啦，我在說的不會有錯喔。後來跟美國打的戰爭比較大，就才改做「映画^{えいが}」。

林：你說差不多幾年的時候改做……大家都說「映画^{えいが}」這樣？

許：映画^{えいが}我差不多14、5歲喔。

林：你14、5歲的時候？

許：啊我……欸……啊不是，12、3歲，12、3歲——

林：12、3歲。

許：我14歲的時候日本戰敗啊，14歲日本戰敗我有講過。所以——

林：所以是戰爭結束前幾年才又改叫做「映画^{えいが}」這樣？

許：跟美國打仗的時候。

林：和美國打仗的時候。喔，是這樣——

許：跟美國打了4年嘛，跟中國打8年，你不記得？4年後日本才打人家珍珠灣，它有美國在援助，蔣介石口緬甸那邊，啊轉下來到重慶啊，日本有先警告，它不聽，它武器都好的武器，用武器，對付中國……對付日本兵啊。所以說……後來才對它空襲啊，〔結果〕空襲打不到，〔因為〕它山頂……山，在緬甸的山，好幾百多公尺，從緬甸下來到重慶。打不到，日本才空襲重慶，不過空襲怨仇（uan-siù，仇恨）更嚴重，美國後來才對日本經濟制裁。

林：所以，空襲的時候——

²¹ 實為昭和6年。

許：日本才打珍珠港——

林：那空襲的時候，你還有得看電影嗎？

許：有喔！

林：有？在哪裡放的？也是在劇場呢（--nih）？

許：北港劇場看的。

林：喔，是這樣。啊，你除了在——

許：北港劇場看的，還有……還有一種那個活動寫真^{かつどうしゃしん}是政府在戰爭，有那種黑白的，黑白的那時候沒有彩色的〔電影〕。

林：沒彩色的。

許：沒彩色的，那時候差不多一二年級、二三年級而已，若要去看不免費的，現在它會選一個日子，什麼好日子、什麼紀念日。在北港公會堂。

林：在公會堂放呢（--nih）？

許：在公會堂放給……公會堂的外面門口埕（m̄ng-kháu-tiann，前庭、前院），啊放給人看。都……都會吃下暗飽（tsiā-enn-àm-pá，吃完晚飯）才去看。白天大家戰爭〔的事〕在忙，差不多〔忙到〕7點多。啊人，人就扛椅子，有一個草坪，啊我……我都嘛去口著。有的扛椅子去坐，啊……有的用小的椅條（i-liâu，長凳），以前有長凳，〔用長凳〕去佔著啊，去佔著，還丟衣物在那邊，要佔位啦。

林：公會堂差不多是可以坐多少人——

許：啊……啊它就……活動寫真^{かつどうしゃしん}用白布，一個白布仔乎，給我們口口口，用白布仔。啊映画^{えいが}乎——

林：就有那些機器乎——

許：照常理……拍電影就是要拍出來，要給大家看啊。

林：嘿、嘿、嘿，差不多都有多少人在看？在公會堂。

許：諄（Hooh）！人很多喔！

林：有幾百個這樣嗎？

許：什麼才，諄（hooH），毋但（m̄-nā，不只）喔，不只喔，北港的〔公會堂〕很大喔。大家要看戰爭啊，啊實在（sit-tsāi，真實的、實際的）的戰爭啊，日本去打……打南京喔，去打上海喔，打仗都嘛有〔播放〕出來。諄（HooH）！日本兵舉□□□□□，對方「支那兵」（小聲），中國兵叫做「支那兵」（小聲）。諄（HooH）！整個……のらくろ這種的就是，我直接跟你說，のらくろ就是日本兵啦乎，它那邊都是尪仔（ang-á，人偶，此處指漫畫人物角色），我國民學校二年級就有，國民學校二、三年級，差不多昭和 11、2 年的時候。那時候和中國戰……要〔開〕戰了所以才之前感情就不好，啊那些……日本人，在上海的被……日本人被蔣介石的國民黨政府打死。〔被〕打死〔後〕抗議不贏，抗議不贏所以才開始偷偷抓、偷偷抓，才〔導致〕盧溝橋事件。毋才（m̄-tsiah，才）是日本兵出來初頭仔（一開始）被……盧溝橋那邊被失蹤了，說是中國兵把他抓走的。中國兵不信，所以日本才〔從〕盧溝〔橋〕才打去，就是發生支那事變。蔣介石說，發兵說全國，全部宣戰，對日本抗戰就是那時候來的。啊後面美國才撞（攻擊）它的。

林：嗯，歹勢，請問說你有沒有在學校有看過〔電影〕？你說你在……那個——

許：都在公會堂看的。

林：所以學校是沒有放，放電影給你們看——

許：學校放是放「人形芝居」，人形芝居你知道？

林：嗯，「人形芝居」。

許：人形芝居，芝居，尪仔（ang-á，人偶）。

林：嘿。

許：也有這個人形芝居就是有這個……放那種尪仔……人乎，啊下去剪……布袋戲啦布袋戲。

林：喔！像布袋戲這樣，然後是日本的人形這樣。喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：哈哈！人形芝居你知道，叫做布袋戲，我剛剛想不出來。布袋戲叫做人……布袋戲乎，

〔在〕日本時代在放，也有講日本話的，也有全部說台灣話的。啊它若說日本話乎……說台灣話是都在講這個徳川……徳川幕府的□□*（tai-lam）武士的。都……都講這個……講這個

日本話的。若和.....若說這個跟美國戰爭乎，較大國，大□□，講日本話，下面再寫字。這樣你聽得懂嗎？

林：嘿，我知道。

許：要寫字，要寫漢字給大家看，有些沒讀日本書（受日本教育）的〔人〕漢文也略略仔（liòh-liòh-á，稍微）看得懂啊。它寫日文話乎，寫日本話出來，下面再寫漢字。啊我□□□□*
（tak-tau leh siunn）——

林：就漢文這樣嗎？

許：.....全是漢文，日文話〔裡面〕漢文也很多，〔要〕看，看得懂啊。啊漢文.....我現在講到落勾去（làu-kau-khi，遺漏）。跟中國的戰爭〔時〕，漢文不讓人讀。漢文你知道？我們這種漢語啊、北京語喔，我們古早.....我沒有讀到漢文啦，到我大姊〔的時代〕才有。跟中國戰爭之前，有「漢學仔仙（hàn-òh-á-sian，民間教漢字、漢學的老師）」啦。你若國民學校讀日本的乎，就要去私人的啊，私人的讀那種漢學仔仙他們家乎，看是一個2塊啊3塊啊，我老爸也去讀幾十年，會漢文，所以才會漢文。「人之初，性本善」你知道？「性相近，習相遠」這就是漢文的。啊漢文不是白話文喔，光復之後，我們學北京話是白話體，我爸.....
（拍手背）就看不懂，說：「啊～不一樣了！」北京語跟漢文不一樣啦。

林：啊所以，那時候的電影票你好像.....你有講說子供是5錢，這樣？

許：啥，啊大人.....1仙（tsit-sián，1分錢），錢（tsinn）啦，不是円啦，元是中□.....啊1仙，叫做「1角」也可以說（也有這個說法）。

林：啊那個.....價格都是固定的嗎？

許：價格.....剛開始那時比較便宜，後來戰爭.....的時候電影都沒人要看，有比較高一點。

林：喔是這樣。有比較高是差不多多少，還記得嗎？

許：差不多，好比說1角起（漲）〔到〕3、5仙而已。

林：喔，是這樣。

許：啊你〔漲〕太多也沒人要看。

林：啊，會不會——

許：它就是要看……都要……我們那時候在看，我會去看都看戰爭的喔。戰爭〔電影〕就是要讓這些小孩去看戰爭，啊鼓勵我們這種〔小孩子〕：「諄（Hooh），日本人，真勇（表讚嘆）。」唉，小孩子不懂。啊美……啊支那人畫得不間不界（put-king-put-kài，不三不四）、鬼毋成鬼（kuí-m̄-tsiânn-kuí，不人不鬼、鬼都不如）（小聲），のらくろ〔漫畫裡面〕畫得鬼毋成鬼，啊中國……日本兵穿黃衣服，啊穿那種軍衫——

林：你不是說那時候都是黑白的，怎麼說穿黃衣服？

許：啊……我是說這個……

林：喔喔（Ooh-ooh），雜誌啦，還是說漫畫——

許：雜誌啦，雜誌啦，看雜誌才會準。

林：所以你那時候看的電影全部都是黑白的呢（--nih）？

許：啥（Hannh），黑白的。

林：都，啊那有聲音嗎？

許：聲音？那時候都用出字的。

林：喔，都字幕嗎——

許：到後來才有聲音。

林：到後來是差不多幾年的時候？

許：我差不多7、8歲、8、9歲的時候，在看是都〔只有〕出字（字幕）的，到戰爭來乎，跟美國戰爭啦，才有出現……出現這個它講說日本話，下面才出漢文啦。它都不是我們這種漢文，〔是〕日本的漢……

林：嘿嘿嘿，是日本時的漢文嘛——

許：日本的文也是這些。老頭子才聽得懂，沒有在翻譯啦。

林：所以那時候有聲音的電影也是叫做「ト一キー（talkie，有聲電影）」嗎？是嗎？

許：什麼？

林：是不是叫做「ト一キー」？還是不是這個講法？有聲音的電影。

許：有聲音的電影就……「活動写真」啦。

林：有聲音的電影叫做「活動写真」？

許：不是啦，「映画」。沒聲音的是「活動写真」。

林：喔，是這樣分喔？

許：……戰爭越擴大啊，時局越變越驚（嚇人）。啊……啊這個時局，戰爭的話也會改啊。

林：嘿，喔喔（Ooh-ooh），所以那時候電影是……我說你去電影……去劇場——

許：活動写真啦，看活動写真。

林：去劇場，你看的時候是？

許：後來說「映画館」啦。

林：「映画館」嘛乎？

許：「映画館」就是現在會說電影院啦。「北港映画館」啦。

林：「映画館」喔乎？

許：「映画館」也可以。

林：啊……這個跟你之前說的那個……欸？怎……怎麼講？「劇場」，是不同的地方呢（--nih）？「映画館」跟「劇場」是不同的地方呢（--nih）？

許：不同啦。

林：不同？

許：啥（Hannh）。

林：啊你說……你剛剛說有舊的還有新的，是說新的是「映画館」這樣嗎？

許：「映画館」是戰爭，和美國戰〔的時候〕〔大家〕都說「映画館」。我那時候……那時候跟美國在戰爭，那時候日本快要口的 4、5 年前都說「映画」，「映画みにいくよ」，「映画みにいく」〔意思是〕來〔去〕看電影。啊「映画館」就是北港劇場，這種叫做「映画館」。

啊「映画館」也可以搬（puann，演）電影，也可以搬布袋戲，也可以搬新劇。「新劇」你知道？「新劇」。

林：啥（Hannh），我知道，我知道。

許：新劇。啊歌仔戲不讓搬（puann，演）。

林：嗯，喔，是這樣。

許：〔如果演〕歌仔戲抓到會被關喔。歌仔戲——

林：所以沒有說專門放電影的地方跟專門——

許：歌仔戲是都……歌仔戲是都說，大陸說哀爸叫母（ai-pē-kiò-bú，如喪父喪母般呼天搶地）。

「我來去～來去啊你在什麼人～人講你會明仔載喔～（唱）」啊這種乎，這種中國化，禁止啦，這種我媽媽她們這輩就會唱啦。啊我……啊現在你如果唱了，警察就會來抓喔。啊燒金〔紙〕也不行。

林：燒金〔紙〕也不行？

許：戰爭燒金〔紙〕，它（政府）說迷信啊。燒金的乎，它那個金〔紙〕是竹子下去做的，啊竹子是這個棍的原料可以拿的啊。

林：歹勢，所以你那時候看的電影都是黑白的，沒看過彩色的，這樣？

許：彩色是……戰爭的時候〔電影〕才變彩色的。

林：你說跟美國戰爭的時候才變彩色的這樣——

許：啥（Hannh），還是……啊要美國電影〔也〕沒得看。要看德國跟義大利〔的電影〕。

林：所以德國跟義大利也有電影在北港放——

許：有喔有喔！啊全日本〔都有〕囉。

林：也是戰爭的電影嗎？

許：都是戰爭的，啊像日本□□。

林：是說〔因為〕電影院只做（tsò，播）戰爭片，還是你想要看的——

許：都看イタリア（義大利）映画^{えいが}——

林：還是說你想要看的都是戰爭片？是哪一種？

許：啥（Hannh）？イタリア（義大利）、德意志，德國跟日本就三國同盟啊。

林：嘿、嘿、嘿。

許：啊美國、英國乎，啊蘇聯、啊中國它們這 4 個就是聯合國啊，啊對付三國同盟啊。啊イタリ
ア先倒〔台〕啊，イタリア先投降啊，再來才是德國啊，德國倒，再來才換日本啊。這樣
啊。

林：所以那時候你除了戰爭片，你沒有看過其他類型的電影這樣嗎？

許：也是有啦。

林：也是有？像什麼樣的？

許：《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》啊。

林：《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》？喔喔（Ooh-ooh）。

許：《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》是戰後……我們戰後乎，戰後第一支出來的就是《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》，啊《バナナ
^{むすめ}娘》，《バナナ^{むすめ}娘》。啊，再來才是《燃える〇〇〇〇》，我記得的〔是〕這樣啊。啊再
來，諄（hoo）！□□□，到什麼時候才可以你知道毋（--m）？我到差不多 20……20 歲還
21 歲那時候乎，日本和……日本和國民黨政府建交，^{よし たしげる}吉田茂□□*（kiat-ting）啊，跟蔣介石
建交啊，建交就仲^{なかよ}よし（關係好，感情好）囉，〔關係〕很好，啊變同盟國。之後，日本的
……

林：電影？

許：先進來〔台灣〕的就是日本電影先進來。

林：喔，是這樣。

許：啥（Hannh）。啊日本電影（拍手背），以前的人在^{まつたけ}看日本電影喔，□□□你知道嗎？不是說
很多，那時的日本也是說很□，都^{まつたけ}松竹²²。「^{まつたけ}松竹」你知道嗎？「松竹」。啊〔還有〕「^{とう}東
^{えい}映」。

林：嘿、嘿。

²² 「松竹」在 1937 年松竹キネマ和松竹興行合併以前都唸作「まつたけ」，合併之後改稱「し
ょうちく」。

參考資料：

松竹「松竹の歴史」

<https://www.shochiku.co.jp/company/profile/history/>（參照 2022-11-07）

許：啊口口進來的是……《バナナ娘^{むすめ}》先進來。諄（Hooh）！《バナナ娘^{むすめ}》，我們北港劇場隔壁乎，兩間戲園乎，都客滿喔（聲音高亢）。若要拍票（phah-phiò，買票）乎，就〔需要〕很早去排啊。啊姓みどり²³……《バナナ娘^{むすめ}》就是在台中拍片啦，那個《バナナ娘^{むすめ}》你知道乎？是在台中拍片的。

林：嘿。

許：美空ひばり^{みそら}，美空雲雀——

林：嗯嗯嗯，唱歌的那個嘛，乎？

許：美空ひばり^{みそら}，死去了。美空雲雀啦，美空ひばり^{みそら}跟タカオカシゲゾウ來台中拍片的²⁴。

林：是這樣喔？

許：啊拍片我就有去看。啊有那種農夫啊，農夫啊，農夫在……在這個バナナ担ぎ^{かつ}（香蕉）啊，有的擔香蕉。用天秤棒^{てんびんぼう}啊，天秤棒^{てんびんぼう}你知道？扁擔，扁擔。用天秤棒^{てんびんぼう}，啊在擔香蕉，戛咧戛咧（sim--leh-sim--leh，形容柔軟有彈性之物上下晃動、上下彈動）。啊這個電影來台灣拍，啊再賣到日本才出名。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊——嘿，歹勢，那個日本時代的電影你說你都看戰爭片，還是說其他

許：啊日本時代都戰爭片啊。

林：嘿，啊那時候戰爭片有分做說，小孩看的還是大人看的？還是都一起看？

許：沒有，一律，一律。

林：所以電影院差不多，它一場電影是差不多坐多少人？

²³ 推測為口誤，原應要說「美空」。

²⁴ 推測為記錯，《バナナ娘》是由並木路子等人主演。

參考資料：

映画.com「映画『バナナ娘』」

<https://moviewalker.jp/mv28519/>（參照 2022-11-07）

許：諄（Hoooh），這哪好說。以前不是這種椅子乎，我們北港劇場是用椅條啊，椅條，啊麗咧（the-leh，身體半躺臥）啊。諄（Hoooh），高級的喔。ひのき（檜木）的喔。以前的時候有錢人還有ひのき在那。啊〔一張〕坐差不多 5 個啦。

林：一排坐 5 個啦，這樣？

許：啥（Hannh），坐 5 個。啊……可以這樣麗咧。乎，啊之後乎，電影是□□乎，6、7 個也擠得下。啊擠一下，啊有的好看的，像說《バナナ^{むすめ}娘》，〔大家〕來看〔覺得〕好看乎，我也看 2、3 次，明天還會延〔長〕呢（--neh）。啊明天要延下去乎，他們差不多 4 點開始要看乎。下午……2 點開始看到 4 點多啦乎，啊 5 點它那門就開給人拍票，人們就去佔位啦。啊佔位怎麼佔？拿我的衣物、啊囡仔苴（gín-á-tsū，小孩用的鋪墊）……「囡仔苴」你知道？拿比較沒在用的衣服丟一丟，啊拿枕頭。まくら叫做枕頭。好比說啊我佔這個位子。不然你們人在那邊排……2、3 個小時，空氣又差。啊或是〔剛〕要開始而已，啊他們家如果 5、6 個，啊一個人再去坐〔就好〕。啊如果人家要坐，〔就說：〕「這我爸媽要來〔坐〕的」。

林：喔喔（Ooh-oooh）。

許：還有人冤家相拍（uan-ke-sio-phah，吵架、打架）。

林：就是幫我們……給人幫忙佔位這樣。

許：幫我們家裡人，啊有人爭搶佔位還打架……啊後來，如果沒有〔位子〕他就站著啊。站位你知道？

林：也可以站著看喔？

許：啊……啊不然椅子哪夠坐？站著才坐得下——

林：（笑）沒啊，你說一排可以，最多可以坐到 6、7 個人乎？

許：5 個啊，啊擠一下 6 個啊。規定是 5 個啦——

林：嘿啊，總共有幾排咧？

許：那有寫 12345 乎，但是 6 個也擠得下。

林：啊整個電影院差不多有幾排咧？

許：諄 (Hooh)！那邊，我們那邊，喔！你看……1、2，我算算看……差不多有 17、8 排喔。

林：17、8 排，喔喔 (ooh-ooh)。

許：啊橫乎，橫的你看喔，6、7 列的喔。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，橫的在看的有 6、7 排，這樣？

許：6、7 列 (liát)，啥 (Hannh)，6、7 列喔。啊還有——

林：6、7 個 (ê)，是 6、7 個人，還是 6、7 排？

許：列 (liát)，列啦，啊 6、7 排啦。排，以前……以前日本時代說列啦、列啦，^{れつ}一列就是列。

林：列嘛，乎？

許：啥 (Hannh)，^{れつ}列就是排啊，啊排是中國仔來了才說「排」啊，我們剛剛說「排」我也聽不懂。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，欸，台語不是說「排」嗎？

許：啊排、排……排，台語是說……台語說這個……以前是說「排列」啦。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，是這樣。

許：排列、排列啦，排列就是佔位、照著排啦。佔位的排就是這個排列。

林：嗯，喔喔 (ooh-ooh)，啊你剛剛說有沒聲音的電影它有字幕嘛乎，^{しまく}啊那個有人在解說、旁邊有人解說——

許：沒有啦！

林：都沒有人在解說？

許：沒有，以前就說……我剛剛就有跟你說過，沒人在翻譯啦。

林：所以在看電影的時候，大家都是這樣安靜地看嗎？還是說會——

許：啊就會……它那個地方就是戲園，日本人很多啊。啊在看〔電影〕的地方都是日本人比較多。再來台灣人要看〔的話〕乎，中上〔階層〕以上才有辦法。如果是沒讀書的〔人〕去看，哪會看得懂？啊他也進不去。看你這草地崁 (tsháu-tē-sông，鄉巴佬) 啊，不讓你進去。啊你〔若是〕做工的人、拿扁擔的，在走從 (tsáu-tsông，奔波) 的、去賣東賣西，你哪有條件還能看電影？偶爾 1、2 次啦，有啦，也不會看 (看不懂)。

林：嗯，啊所以說那時候的電影是……都是用……若有聲的都是日語嘛乎？

許：講日語啊，哪會講台語？

林：我是……嘿啊，因為你說有德國、還是有義大利的電影，那也是都用日語在做（tsò，播）的呢（--nih）？

許：那……那個乎，它現在講イタリア語（義大利語）、イタリア人（義大利人），我們聽不懂，但是下面寫日語。

林：喔喔（Ooh-ooh），它有字幕就對了？喔，是這樣。

許：啥（Hannh）。它那下面都有寫日語，是日語啦。啊我們看乎，他（意指日本人）在看……義大利語日本人也聽不懂啊。

林：嘿啊嘿啊，所以就，它就翻成日語這樣——

許：啊他就看下面的啊，下面，諱（hooh）！真大字喔。好比說乎，我們這個螢幕這樣乎，啊下面的字啊，啊這邊一點、那邊一點（比劃）。

林：嘿、嘿、嘿、嘿。

許：要自己看。像現在一樣，□□□□□□□□，要看那些字啊。

林：嗯，所以說，看電影的時候，就很多人在看，但是大家都……不管說是日本人還是說台灣人，大家都靜靜的這樣看？

許：啥（Hannh），不會吵架啦。但是乎——

林：不會吵架，但是會講話嗎？會聊天講話嗎？

許：講話、聊天若在放不行。自己遵守。它有規定，但是大家不太管，啊講話就聽不到了，會去吵到人。

林：嘿啊、嘿啊，嗯。

許：講話就有聲音啊。啊若是歌仔戲乎，素質就比較低。歌仔戲就是中國式，素質比較……歌仔戲乎，像我們這種的不看。像我這種乎，比較日本性的，歌仔戲我不愛看，不愛看啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。啊歌仔戲的那個價錢，票的價錢跟……那個映画（えいが）一樣嗎？還是說——

許：那個在看差不……差不多啦，看歌仔戲，歌仔戲的人啦。啊歌仔戲就是我們隔壁的舊戲園才有啦。舊戲園比較舊啦。如果是北港……北港劇場^{ほっこうげきじょう}，北港戲院喔，北港劇場就不收歌仔戲啦。啊我們那個舊戲園就是比較舊，有要收歌仔戲，也去收電影。有的另一邊客滿，才又……新劇場……旁邊新劇場若沒位子，才會再分來舊戲園，這樣啊。

林：啊你剛剛說你除了戰爭片，你還有看一些別的類型的片，有「戀愛電影」這種有嗎？那時候？

許：以前「戀愛電影」有些……有些，像現在就都沒有啦（小聲）。在那邊啊。像這種不間不界（put-tsián-put-kài，不三不四）的乎，人家你不間不界的沒有啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），那時候不放……不放這種的呢（--nih）？

許：沒有啦，會抓去打死喔！

林：喔，（笑）啊你有看過其他類型，不是這樣……像這樣紀錄片、戰爭片的？

許：反正我是都愛看戰爭。大家都愛看戰爭片，愛看「時局」、看報紙……較早不是講「報紙」，較早說講「新聞」^{しんぶん}，以前……報紙是中國口的，你要看新聞。新聞也分做好幾種的，有這種講談新聞^{こうだんしんぶん}，乎，講口新聞……

林：好，這些我等等會再問，乎。啊你那時候最喜歡看的電影你還記得電影名嗎？最喜歡看的電影。

許：看電影我那時候……日本時代嘛。看戰爭就是《真珠灣攻擊》^{しんじゆわんこうげき} 25。真珠灣攻^{しんじゆわんこう}……珍珠灣攻擊。

林：可以寫給我看嗎？歹勢。

許：就是珍珠灣攻擊，你不知道？美國給人家攻擊夏威夷啊。夏威夷就是珍珠灣啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），珍珠灣攻擊這樣嗎？

許：啥（Hannh），珍珠灣啊。真珠灣攻擊^{しんじゆわんこうげき}啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），那電影的名字就叫這個？

²⁵ 推測有可能是指ニュース映画（新聞電影）。

許：哈（Hannh），《^{しんじゆわんこうげき}真珠湾攻撃》啊。

林：那是演的還是說它是紀錄片？

許：演的也是這樣，啊新聞也是這樣，啊學校老師在說也是這樣，都說《^{しんじゆわんこうげき}真珠湾攻撃》。啊再來就是說，大東亞戰爭已經開始囉。^{だいとうあせんそう はじ}大東亞戦争の始まり（大東亞戰爭的開始），^{しんじゆわんこうげき}就是从真珠湾攻撃。啊它現在就寫乎……它現在就是說，電影如果是寫戰爭〔題材〕的乎，就會唱〈^{きみよ}君が代〉你知道乎？「^{きみよ}君～（唱）」，啊唱完乎，再來才是「^{だいほんえいはつびょう}大本營發表」，大本營發表，乎。大本營發表你知道嗎？大本營就是日本的講戰爭的，大本營發表，是皇帝（天皇）再下來，大本營發表，乎。啊大日本帝國天皇……帝國海軍乎，今日早上是□□□□*，乎，啊現在是西南群島。西南群島就是……地圖掀起來就是珍珠灣啊。你おいで在那，它已經跟……美國日本……日本的海軍攻擊美國的，□□艦在交戰中，這樣。啊我是講台語啦，啊若講日語我講給你聽，日語你聽得懂嘛，你都聽得懂。「^{だい}てい……大……」電影看來的，我這些都是〔從〕電影看來的喔。電影學起來的，小孩學比較快啊。啊現在，差不多唱……唱到這個〈^{きみよ}君が代〉，再來才唱……我在唱：「^{まも}守るも^せ攻むるも^{くろがね}黒鉄の^う浮かべば^{しろ}城くためになる～^う浮かべば^{しろ}その城^ひ日の本に～^{あだ}仇なす^{くに}国を守る^{まも}べし～^{まがね}真鉄の^{ふね}その艦^ひ日の本に～^{あだ}仇なす^{くに}国を^せ攻めよかせ～²⁶（唱）」唱完乎，接下來才：「^{だいほんえいはつびょう}大本營發表！^{だいほんえいはつびょう}大本營發表！」寫字出來，再用日語講大本營發表。「^{ていこくかいぐん}帝国海軍……」我照電影說的喔，我沒有嚟滿（hau-siâu，說大話、吹牛）喔。

²⁶ 歌詞源於〈軍艦行進曲〉，但和原曲歌詞有出入，逐字稿按照受訪者當時唱的歌詞標示，原曲歌詞為：

「守るも攻むるも黒鐵の 浮べる城ぞ頼みなる 浮べるその城日の本の 皇国の四方を守るべし 真鐵のその艦日の本に 仇なす国を攻めよかし 石炭の煙は大洋の 龍かとはばかり靡くなり 弾丸撃つ響きは雷の 声かとはばかりどよむなり 万里の波濤を乗り越えて 皇国の光輝かせ」

引用資料：

世界の民謡・童謡「軍艦行進曲（軍艦マーチ） 歌詞の意味—守るも攻むるも鋼鐵の 明治時代後期に成立した海軍行進曲—」

<https://www.worldfolksong.com/songbook/japan/gunkan-march.html>（參照 2022-11-07）

〔中略〕

林：好，你剛剛說那個發表……

許：我要用日語講，還是用台語講？

林：嘿、嘿、嘿，你用日語講好了，那個電影是講日語的嘛。

許：嘿，日語講，啊我學起來了喔，一句都不差喔。

林：嘿，好，どうぞ（請）、どうぞ。

許：前面唱〔過〕君が代，不要再唱了乎。接下來唱「^{まも}守るも……」這海軍的……海軍的聯合艦隊，海軍，大日本帝國海軍的艦隊，會說「主力艦」有沒有？這□□*（tsian-ui）啦，在唱的。啊後來……後來這個唱完……就換……唱完喔，才〔接〕「^{だいほんえいはつびょう}大本營發表」，字才出來。那個螢幕的字才……下面才說「^{だいほんえいはつびょう}大本營發表」。〔後面是〕用講的，我學一下。「^{ていこくかいぐん}帝国海軍航空隊は、^{こうくうたい}ホンニチ〇〇〇〇、^{ちゅうぶたいへいよう}中部太平洋〇〇方面において、^{ほうめん}米國小²⁷艦隊と^{べいこくしょう}交戦中^{かんたい}なり」^{こうせんじゅう}諱（Hooh）！大家〔心想〕說：「壞了喔，慘了喔，大東亞戰爭沒辦法了。（拍手背）」10月初8，6點乎他說話，8點的ラジオ（收音機、廣播）就出來了。啊皇帝說的，皇帝出來……皇帝是日本皇帝，出來說……皇帝的日語叫^{ぎよくおん}玉音^{ぎよくおん}啦，玉音是皇帝。

林：我知道，我知道。

許：他怎麼說啊？我現在還記得一點，說什麼……說什麼「^{てん}天……」他就說「^{てんゆう}天佑を^{ほゆう}保有し」，^{てんゆう}天佑就是天……看天保佑乎，啊就是（拍手背）□□*（puann-poo）的意思啊。「^{てんゆう}天佑を^{ほゆう}保有し^{ばんせいいつけい}万世一系の^{こうそふ}皇祚を^{だいにっほんていこくてんのう}大日本帝国^{ちん}天皇は^{ちん}朕。^{ここ}茲に^{べいこくおよ}米国及び^{えいこく}英国に^{たい}対し^{たたか}戦いを^{せん}宣す。^{ちん}朕か^{りくかいしょうへい}陸海將兵は^{ぜんりょく}全力を^{ふるつ}奮て^{こうせん}交戦に^{じゅうじ}従事し。そもそも^{とうあ}東亜の^{あんてい}安定を^{かくほ}確保し。」〔再〕唸下去就要再想，再來後面這幾句我還要再想，不記得了。這麼久了啊，這麼久了，啊那個……國民學校二、三年級就會唸了到現在。我講給人家聽，大家都鼓掌。諱（Hooh），〇〇〇〇さん也愛聽。要講這種的乎，啊軍人有的也不會講，這種的。

林：嗯？欸？啊，所以那時候有說——

²⁷ 訪談中受訪者發音「シロ（shiro）」，但查無「白艦隊」等詞，推測可能為「小」的口誤。

許：大東亞戰爭，跟美國〔打〕之前的大東亞〔戰爭〕。

林：就你……你看這種電影，啊你爸爸媽媽對你看電影有什麼想法嗎？

許：樂意我看喔……

林：樂意你看喔？

許：我老母就不〔讓我看〕……。我老母就說：「啊！不要看這，小孩子〔去〕讀書啦。」啊我老爸就愛講這種啊，我老爸就跟我四叔公啊，來坐在那邊，老大人（lāu-tuā-lâng，老人家、高齡的長者）圍〔坐〕起來都在說時局的事情。以前時局你知道？時局、戰爭。在外面不能黑白講的你知道乎？啊〔那時候家裡長輩〕就偷講：「壞了，日本人敗得很壞囉。」啊看新聞就知道，哪裡又^{ぎよくさい}玉碎、哪裡又……我還是小孩子就曉得：慘了，美軍越打，從太平洋越打，越打越近，一直靠近過來。就是說，哈（hannh），日本……那些日本人，日本人和美國戰爭，我聽我爸爸講的，跟中國戰爭〔時〕，有日本人乎，來這裡當雜穀商啦。雜糧商你知道？收〔購〕台灣的這個米啦乎，收〔購〕台米啦，啊收〔購〕花生豆，回去日本賣。啊他這些〔手上的〕若賣完就再跟台灣的大盤〔商〕，大盤〔商〕你知道？大賣的（tuā-buē-á，批發商），五穀大賣的。

林：啊啊，我知道，那這樣講我就知道了。嘿、嘿、嘿。

許：大盤就是……我在收〔購〕的地方。好比說，啊我老爸不是大賣的，我老爸〔是〕再下來的這個。販仔啦。

林：販仔？

許：販仔你知道嗎？

林：販賣的……

許：販賣的販仔。

林：販仔乎？

許：〔爸爸〕是雜穀販仔，雜穀販仔他不是……他就是去草地（tsháu-tē，鄉下）乎，啊去跟鄉下人，人家在收成乎，去跟人家買啦，啊買來再用牛車車（tshia，動詞，以車載運）來北港曬啦。啊曬乾之後再賣日本人啦。那你知道，意思就是販仔，這種叫做販仔，雜穀販仔。

林：啊你跟你爸爸會不會一起去電影院看電影？

許：我爸爸仍有去過，但是比較不——

林：一起去的嗎？還是說別々（分開、各別）？

許：沒、沒，他大人跟小朋友看的不合。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊大人愛看什麼電影？

許：他大人……他大人也是……他是……我老爸乎，愛看□□戲。□□戲你知道？

林：不知道，可以幫我寫一下嗎？

許：□□戲就是中國的關公……這個關公那種的，扶劉備啦。關公有沒有，關公扶劉備，以前會說「三國志」啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊那不是中國電影？

許：中國電影。到後來三國志有禁止啦。但是——

林：但那是日本拍的還是說是中國拍的？

許：三國志是，當初是日本拍的，到後來禁止了。

林：喔喔（Ooh-ooh），因為是中國的故事嗎？

許：啊，三國志就中國的、蒙古的啊。

林：所以就禁止起來了這樣。

許：チンギス・カン啊，成吉思汗啊，到後來禁起來了。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以你到後來禁止之後你爸爸就不太愛去電影院了嗎？

許：他電影院就不太去了，啊但是他都看報紙。啊爬起來——

林：你說報紙是〔指〕那個漢文的報紙，不是說新聞^{しんぶん}這樣——

許：沒，都日本的，都寫漢字啊，〔爸爸〕看得懂啊。國小畢業就看得懂了啊。他那個……他那個報紙分成幾欄，有^{よき}読み切り（單篇、短篇）啦、^{よき}読み切り啦乎，啊有的講談……《講談俱樂部^{こうだんくらぶ}》的啦乎——

林：那個我等一下再——

許：啊我看這個《御民新聞^{みたみしんぶん}》，^{みたみ}，御民就囡仔（^{gín-á}，小孩、兒童）新聞啦。

林：好，我等等會問那個雜誌的事情。啊那時候你是要怎麼決定說，你要看什麼電影，還是說現在有在搬（puann，演）你就去，你若有空就去？

許：我乎，我電影有預告片……預告片你知道乎？像今天搬（puann，演）《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》嘛乎，啊後日《^{むすめ}バナナ娘》啦乎，啊它就會寫預告片乎，寫上，預告片你知道嗎？預告啦。預告片你知道？啊就差不多十幾天會上，啊在那邊啊給人看。啊人們現在就去看，啊！某時某日，□□時間。看完，喔！□□買了，啊大家就去排著，要拍票就排著。以前沒有這個……以前沒有這種電視乎，都看電影。啊也有鄉下人要來，沒有票啊，他們就看下早仔（e-tsái-á，早上）去了啊。草地人（tsháu-tē-lâng，鄉下人）啊，有的……啊草地人〔如果〕要看這電影，也要是較快活（khuinn-uáh）的人才有〔條件〕。對不對？看完再坐車回去啊。

林：所以那時候看電影都有理解說內容……那電影在搬（puann，演）什麼？都有理解？

許：沒，啊現在搬（puann，演）片乎，^{まつたけ}松竹你知道嗎？^{まつたけ}松竹電影搬一樣的，啊跟^{とうえい}東映啊，^{とうえい}東映啊，^{とうえい}東映不一樣啊。

林：不一樣？不一樣是怎樣不一樣？

許：啊人不同啊。

林：你說演的人不同——？

許：啥（Hannh），演的人不同啊。

林：喔喔（Ooh-oo），演的內容也不同？

許：我記得以前^{うえはらけん}上原謙啊，^{うえはらけん}東映有^{うえはらけん}上原謙的電影我看了很多，^{うえはらけん}上原謙。啊〔還有〕^{たかみねひでこ}高峰秀子啦。

林：^{たかみねひでこ}たかみねひでこ？

許：^{たかみねひでこ}高峰秀子啦。還有一個不知道是□□什麼的，有的忘記了。我記得這兩個喔，那麼久囉，日本時代這兩個啦，啊戰後乎，戰後這兩個也還有在搬（puann，演），啊有在——

林：沒關係，戰後的事情我們等等再講。

許：日本時代我知道說這兩個，啊〔還有〕^{かたおか ち えぞう}片岡千恵蔵。

林：^{かたおか}かたおか……

許：^{ちえぞう}ちえぞう。

林：ちえぞう。

許：啥（Hannh），かた是這個字かた（拍肩膀），啊おか就是岡山的那個字，ち就是千啦，千惠啦，ぞう就是地藏王那個字的藏，^{かたおか ち えぞう}片岡千惠藏啦。好幾個啦，啊最有名的，男的就上原^{うえはら}謙，〔女演員則是〕^{たかみねひでこ}高峰秀子啊，那時候的電影很出名的。那時候……電影……有名……諱（Hooh）！好幾項，我說不出來。

〔中略〕

林：好，那麼我要來問一些^{よみもの}讀物（讀物）的事情了。

許：好，你問我講。

林：好，你在日本時代有讀過什麼樣子的^{よみもの}讀物？

許：^{よみもの}讀物，我就說，從二年級開始就讀《^{にとうへい}のらくろ二等兵》。

林：那是^{まんが}漫畫嗎乎？

許：《^{にとうへい}のらくろ二等兵》現在是^{まんが}漫畫。

林：嘿啊。

許：畫^え尪仔（角色人物）而已乎，沒有字，乎——

林：嘿，沒有字嗎？

許：沒有，啊就，^{まんが}漫畫要給小孩子看的，^{にとうへい}のらくろ就是要給那些猴死囚仔，這些 10 歲的、7、8 歲就是要背日語。它那個^{にとうへい}のらくろ就是，要〔我們〕背日本精神啦，乎，要讓這些，看我們這些中國人、支那人真不起啊。啊我《^{にとうへい}のらくろ二等兵》看完才看《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》啦。

林：你是從《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》，從《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》上面看到〔《^{にとうへい}のらくろ二等兵》〕的嗎？

許：《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》乎，是比較……15、6 歲，高等科以上的，中學的學生在看的。

林：欸？所以國小的學生不會看《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》嗎——？

許：啊他們《^{にとうへい}のらくろ二等兵》越看越高起來啊，越看越高，啊《^{にとうへい}のらくろ二等兵》畫^え尪仔（角色人物）而已，啊《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》有字啊，啊連著（推測應是「連載」之意）的啊，到昭和 11、12 年，有〔留下〕紀錄的喔。〔昭和〕11、12 年兩個才連在一起。啊以前是分開的啊。

林：以前是……分開是のら——？

許：《のらくろ^{にとうへい}二等兵》是另外一本，乎，啊《少年^{しょうねん}俱樂部^{くらぶ}》比較大本，它都寫字比較多啦。

林：啊是一起賣的呢（--nih）？

許：啊去「ともえ」買的啊。以前的書店都是「ともえ」。

林：「ともえ」？

許：啥（Hannh），北港「ともえ^{しよてん}書店」。

林：書店^{しよてん}？喔喔（Ooh-ooH）。

許：啥（Hannh），書店^{しよてん}，「ともえ」。「ともえ」是全日本都有，日本也有「ともえ」，不信你問老一輩。

林：喔喔（Ooh-ooH），所以——

許：說北港ともえ，ともえ全都在賣日本雜誌。

林：那算是書店^{しよてん}，啊那時候有所謂貸本屋^{かしほんや}或古本屋^{ふるほんや}那種的？有嗎？

許：有什麼？

林：貸本屋^{かしほんや}或是說古本屋^{ふるほんや}。

許：沒、沒，那時候沒有這種。

林：北港沒有？

許：沒有，我沒聽過。

林：喔喔（Ooh-ooH），所以不會說去租書這樣？

許：租書有。

林：租書有？啊租書的店——

許：有，借^かり、か……借^かり。

林：喔喔（Ooh-ooH）。

許：啥（Hannh），有沒有？借^かり。

林：就叫做說「借^かり」嗎？

許：「借^かり讀^よみ」。

林：「借り読み」。那是一般的書店還是說？

許：書店乎，那個另外喔，還另外有一種，全部〔書〕在租給人家的，那叫做「クラブ（俱樂部）」，一個叫做「クラブ」的地方。是我們北港……北港公會堂のクラブ。北港公會堂有個クラブ，クラブ〔的〕日本書，走進去像這樣排整排。「支那兵」畫在那，中國士兵畫在這，支那女人畫得不問不界，之後再寫字。隨便你挑，「我要挑這個」，你再去書店買。那時候我想買《のらくろ二等兵》，進去從□□開始，才開始先看。

林：你是說，你最早是看《のらくろ二等兵》，那是一本的，後來它才在《少年俱樂部》連載這樣？

許：分開的喔。《のらくろ二等兵》……寫〔《のらくろ二等兵》〕的這個日本人喔，不知道叫什麼名字，我不曉得。戰後被中國抗……知道遠東國際軍事法庭嗎？東條²⁸差點被勒死那個。寫《のらくろ二等兵》判5年，中國告他「汙辱中國人」。〔漫畫裡把中國人〕畫成牲畜啊²⁹。

林：所以你那時候……都看《少年俱樂部》的時候，你有看它的可能一些小說這樣的文章嗎？

許：《少年俱樂部》就是小說，要給少年看的。啊のらくろ他們做了一本幼年，〔給〕幼年看的，從幼年開始的。

林：歹勢，〔除了〕《少年俱樂部》以外是不是有一個叫做《幼年俱樂部》？

許：啊！《幼年俱樂部》，幼年的那個也有。

林：那是差不多什麼歲數的人在看的？

許：也差不多一、二、三年級的，幼年的——

林：你說國民學校二、三年級在看？

許：五、六年級的在看。

林：五、六年級的在看？你說幼年有五、六年級的在看？

²⁸ 指東條英機。

²⁹ 實際上查無《のらくろ二等兵》漫畫家田河水泡被審判過的資料，推測為記錯。

許：哈（Hannh），再來讀中學，〔再〕看那個就太孩子氣了。《幼年俱樂部》，你說到《幼年俱樂部》，我剛剛講漏掉。〔還有〕《讀切俱樂部》、《講談俱樂部》。《講談俱樂部》是高級的人在看的啦。

林：《講談俱樂部》？

許：交談〔的意思〕。《講談俱樂部》是都……像我們這的《中華日報³⁰》，國民黨時代的《中華日報》，你知道吧？乎，《中華日報》，政府辦的，那是政府的啦。

林：你說《講談俱樂部》，那時候是日本政府的？

許：哈（Hannh），日本政府，等於像現在的《中華日報》一樣啦。那是國民黨……。

林：所以你說你進入那個……歹勢，我看一下（翻筆記）……就是高等科的時候就看《少年俱樂部》這樣？

許：《少年俱樂部》高等科……

林：沒看？

許：看過了還要看？那就是小孩子在看的啊，三、四年級的啊。

林：三、四年？欸？到底是……歹勢，《幼年俱樂部》是差不多國小，國民學校幾年級的時候看的？

許：《幼年俱樂部》差不多五、六年級的在看，差不多五、六年級才看得懂，一、二年級的看不懂。

林：嘿，五、六年級才看得懂？

許：啊你就越讀越深囉。啊《幼年俱樂部》下面才是《のらくろ二等兵》，《のらくろ二等兵》沒有字啊，只有尪仔而已，看尪仔而已。現在尪仔到後來乎，才看《少年俱樂部》才有注音³¹。漢字有注音你知道嗎？カタカナ（片假名）、都是標注カタカナ，沒有ひらがな（平假名），都是カタカナ。啊《幼年俱樂部》是標注カタカナ，《少年俱樂部》就標注ひらがな了。ひらがな比較難啦。

³⁰ 亦有可能是指《中央日報》，後同。

³¹ 推測意指日語的「假名」。

林：啊你那時候也會看報紙？

許：愛看的咧。

林：是喜歡看，還是被人規定要看報紙，還說是你自己要看的？

許：我自己要看的，先生（指老師）沒有在……學校哪有在賣這種的。

林：啊是在哪裡看的？

許：啊就去跟人……我喔，^{ひろ よ}拾い読み啦。這個小孩就是^{ひろ よ}拾い読み，就是大姊啦乎。啊那些親族比較少乎，我大姊大我 6 歲。啊他們來我們這……他們小時候來我們這住啦乎，啊我大姊就是我叔伯大姊（*tsik-peh-tuā-tsí*，堂姊），我姑姑，她們有讀家政的也有讀高女。高女的是說，我老爸……我大姊讀師範的，裡面就有 4 個女生讀高等學校。啊後來〔報紙〕丟、丟著啦，〔報紙〕看一看就丟著。啊還有我姑婆的兒子，蘇治芬你知道嗎？就是雲林縣——

林：有，你剛才有說。

許：蘇治芬她老爸、她叔叔那邊，他們草地人（鄉下人），啊來住在我們這讀書，不然他們草地（鄉下）沒學校啊，啊來我們這。他的外公就是我的曾祖父啊，啊來這邊讀。啊丟著啦，他們都是有錢人，諱（*hooh*），百來甲口的。

林：所以你不是自己買的，你是都撿人家看過的？

許：啥（*Hannh*），撿，^{ひろ よ}拾い読み啦。

林：喔喔（*Ooh-oo*），^{ひろ よ}拾い読み這樣——

許：我就跟你說是^{ひろ よ}拾い読み。

林：那^{ひろ よ}拾い読み你看的書裡面有沒有^{えほん}繪本？有嗎？

許：沒沒沒，嗯……^{ひろ よ}拾い読み乎，以前都有分成好幾種。有^{にとうへい}尪仔的乎，《のらくろ二等兵》那種有^{にとうへい}尪仔的；再來喚《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》乎，有寫字，寫字都寫中國兵的壞話，〔把中國兵〕寫得不間不界（小聲）。再後來要跟美國戰爭〔的時候〕乎，《のらくろ^{にとうへい}二等兵》比較沒人要看。因為中國和大東亞戰爭，比較大的都看……都看這個《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》。

林：都看《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》。

許：《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》，嗯。啊《^{こうだんくらぶ}講談俱樂部》是成人在看的。

林：啊你有看過「講談社の^{こうだんしゃ}繪本^{えほん}」嗎？

許：有喔！看過啊，講談社我沒買〔過〕，諄（hooh）！那很貴。你若要去看要去哪邊看你知道嗎？北港媽祖廟的圖書館。北港媽祖廟你知道嗎？啊你去過嗎？

林：嘿，它（北港媽祖廟）有圖書館？

許：不是啦，你有去過北港媽祖廟嗎？

林：沒呢（--neh）。

許：北港媽祖廟旁邊有一個圖書館，都是日本文的圖書，在給人看免錢的。你若進去乎……你若進去乎，有個日本婆仔（pô-á，婦人、婦女）乎，穿著日本服裝、日本婆仔衫，她在顧。啊進去乎，要簽名，我許金城就寫，啊進去。啊若……不能拿出來的喔，在裡面看。

林：喔喔（Ooh-ooh），那些書都要在裡面看這樣？

許：啊你若看一看，要出來就要給她看（檢查），不然〔怕〕你會偷帶出去，啊她才……啊你就給她看（檢查），啊她有登記。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：啊不讓人借出來的，不讓人借啦。啊大家，諄（hooh）！人們大家相爭看（sio-tsinn-khuànn，爭先恐後要看）啊。啊相……那——

林：嗯，收錢（siu-tsinn）看？

許：相爭（sio-tsinn）看，就是相爭啦，吵爭看啦。你也想看、我也想看，有時候就要等，等別人看完。啊有的就從重要的〔地方〕先看啊，不好〔看〕的就放著啊。我小時候就都在那邊。北港媽祖廟現在的金爐那邊，現在在燒金〔紙〕的金爐整條〔街〕那邊。啊……以前〔圖書館被〕掃射，那個圖書館的屋瓦被機關槍打到瓦片都破掉，再又補起來的。像有一陣子就讓大家在外面看啊，〔在〕那個媽祖宮埕（廟前面的空地）看。啊不然……它（日本官方）要大家看啊，它要培養〔大家的〕日本精神啊。我的日本精神就是在那裡培養起來的啊。

林：你的日本精神是在媽祖廟——

許：啥（Hannh），啊小時候^{ひろよ}拾い読み，給它撿我大姊、我們那些表叔啊，以前都讀高等學校。人家看完就丟著，啊小孩子就……《のらくろ^{にとうへい}二等兵》，《のらくろ^{にとうへい}二等兵》就沒有字啊，看尅仔啊。

林：啊所以說，のらくろ你只有看過^{にとうへい}二等兵嗎？還是有它後來的シリーズ（系列）你也有看過？

許：它那個就是在描寫說二等兵啦，他們……我日本人從二等兵做起。二等兵就這根〔小指〕啊，啊一等兵、上等兵啊。啊二等兵是……我怎麼戰死就是我的功勞得要……のらくろ就是日本狗啦，日本人的狗乎，那隻狗，啊穿日本軍裝乎，再掛一個像這種鍊子乎，啊寫一個「のらくろ^{にとうへい}二等兵」，有的^{じょうとうへい}上等兵，有的……啊就階級往上了。

林：所以上^{じょうとうへい}等兵とか（之類）——

許：啊……「支那兵」乎，ちゃんころ，他們說清國奴，「支那兵」就是畫得鬼不像鬼、人不像人啦。以前○○○さん，你知道有這個嘛，他曾經問〔有沒有人〕看過《のらくろ^{にとうへい}二等兵》，我舉手啦，啊他們跟我說：「沒人敢舉手，你怎麼敢舉手？」啊那是看人的，挑來看。啊我的日本精神很重了，你有看到嗎？我的日本精神很重就是因為小時候看那些書，看到牢咧（tiâu--leh，上癮、入迷）啦。

林：啊，歹勢，我其實有準備乎，那時期的《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》，我想要讓你看看這樣，可以嗎？

許：好，可以啦。

林：好，我找一下。欸……《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》……（翻找檔案）這樣從最前面開始。這是昭和^{しょうわ}16年の《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》（展示平板畫面）。

許：啥（Hannh），差不多……差不多 15 年就有了，16 年跟日本開戰，15 年日本就……^{きげん}紀元は……公元 1000……2600 年啊，公元 2600 年是昭和 15 年³²，日本準備要戰爭了。啊就是我們台灣人乎，是〔被日本人〕一視同仁乎，一視同仁不是殖民地，是昭和 15 年開始的啊。啊我們這些去海南島打仗，有沒有？昭和 10 年他們把台灣人，叫台灣人去海南島，去那邊做軍伕啊。軍伕就在……去〔和〕日本人去戰爭，也殺死很多海南島人，回來都在那邊講啊，

³² 昭和 15 年為西元 1940 年。

在講給人家聽啊。我就是愛聽這種才去海南島啊。啊開始……啊跟美國戰爭的時候就規軍伏（bih-kun-hu，躲兵役、不願入伍），諄（hooh）！通通這樣召（徵兵）……用召的。啊去海南島是有薪水的喔，是很高的喔。

林：你有印象說看過這種的嗎？

許：有，有看過這種。

林：但是這是有字的嘛乎？

許：啊有字的，（坐起身細看）喔！

林：這是《少年俱樂部》的。

許：哈（Hannh），有這種漫畫連載啦，漫畫連載就是《少年俱樂部》哈（--hannh）。哈，啊少年俱……啊！在這啦！我給你看，有沒有？我在這裡看到的，漫畫連載就是《少年俱樂部》。

林：嘿、嘿、嘿。因為《少年俱樂部》我看，它都會有一些……小、不管是說小說還是說那些人物の紹介都有啦乎。

許：嗯，都有。

林：啊也有漫畫這樣。

許：也有漫畫。

林：啊這個漫畫的タイトル（標題），這漫畫名字你有印象嗎？

許：有，這個有。

林：這個有呢（--nih）？

許：哈（Hannh）。

林：你說這個……這要怎麼唸啊（手指林田正所畫漫畫〈ほがらか王君〉）？

許：我眼睛……漫畫連載。きみワン、きみワンからかほ³³。君就是你，君啦乎。皇帝的王啊，啊からがに啦，就是那時候……以前是江戸時代，古早時代就是這樣啦。乎，從這邊看（指

³³ 受訪者將作品名稱〈ほがらか王君〉倒著唸。

橫式文章是由右看到左），「みんな愉快（漫畫中台詞）」就是從這些……小孩子玩耍的，這就是……這就是幼年時代，幼年時代的。

林：嗯，所以……欸，歹勢，我……這個你有看過嗎（指另外一個漫畫）？

許：啊這種都差不多啦，笑話啦。這都是……啊這種都有啦有啦，漫畫都有啦。

林：漫畫都有？

許：哈（Hannh），都有啦。《少年俱樂部》〔都是〕漫畫啦，漫畫啦，漫畫都有啦。這是小孩子在看的，沒讀書也會……幼稚園也看得懂，它有注音啊。

林：它最後面這邊有のらくろ，但是不是你說的那個二等兵，是那個たん——

許：《のらくろ探検隊》。《のらくろ探検隊》意思你聽得懂嗎？

林：我知道，我知道。

許：探險隊就是這個……探險隊啦。好比說我們這個步兵一連就 200 個，要去攻擊板橋乎，但不能全部都去，要先派探檢隊、探檢隊。

林：先派人去探問一下。

許：步哨啦，步哨兵。3、5 個人，3、5 個乎，有時候就躲著，若看到那種……德軍的，有的……步哨啊，步哨啊，靠近後拿個布袋乎，有時就躲著，靠近後就用布袋從後面套住再刺死，否則你會慘叫啊。刺死乎，再讓後面的士兵攻擊。意思就是這樣。

林：啊但是這……你剛剛說のらくろ是都廷仔，沒有字，這個有字是比較——

許：這個是後來跟《少年俱樂部》來合著的。

林：所以是在《少年俱樂部》連載的時候就有字這樣喔？

許：有字……以前是分開的，現在才合在一起。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣喔。

許：到昭和 12 年跟中國打仗的時候合起來的。後來昭和 10 年、11 年的時候〔還是〕分開的。

《少年俱樂部》有字的啊，啊沒有廷仔啦，啊《のらくろ二等兵》做的書不同……不同人

（單位）做的〔書〕。後來戰爭時就合起來，合字啊，合冊啊，合冊³⁴啦，合冊你知道嗎？合冊起來。

林：是寫成這樣嗎？合……冊這樣？

許：合冊啦，哈（Hannh）。啊合併也可以，合併啦，合併啦，合併也可以啦。

林：你說分開是，原本那些文字跟畫的圖是分開的？

許：《のらくろ二等兵》歸《のらくろ二等兵》，啊《少年俱樂部》歸《少年俱樂部》。啊到對中國的戰爭〔的時候〕，昭和 12 年，兩個才……兩個才合併。合併你聽得懂嗎？

林：好，這樣我知道。這樣——

許：這個我有看過的我可以講，沒看過的我不敢黑白講。

林：那時候學校的老師有跟你說おすすめ（推薦）——

許：什麼啦？

林：就是跟你說什麼……読み物要看這樣，學校的老師有沒有這樣說？

許：也……台南的先生（sian-sinn，教師）啦，有的先生愛講時局啦，有的先生不愛教。我被好的先生教到，マルザキ，四國的人。不時來我們家家庭訪問，我爸媽不時也在□□*（siàu-liām 數念，掛念）。他看我只是小孩，三四年級、四五年級的，怎麼會不時在看壁報啦。壁新聞你知道嗎？就是說學校有貼壁報，〔我〕都在看。後來到了五、六年級乎，又換了一個老師：「唉叻，我怎麼會看新聞？」〔報紙〕很貴的，都在學校的事務所旁邊的牆上貼給人看，啊我這小孩子就看得懂。後來不知道四年級還五年級，老師才說：「不然我買少年……這個《少年俱樂部》《のらくろ二等兵》給你看。」

林：你們學校的先生這樣對你說的喔——？

許：沒有，叫我去買啦。

林：叫你去買？

許：說你去……這個日本商店，剛剛說的那間日本店買。《キング》啦。

³⁴ 此處受訪者唸做「ka-tshe」，推測應是要說日文的「合冊（がっさつ）」。

林：喔，《キング》。

許：《キング》也有啦。

林：啊你《キング》有看過嗎？

許：《キング》也有看過，但是《キング》是比較大人在看的，比較難，《キング》比較難喔。

林：嘿，所以是高等科的時候看的？

許：啊啊，高等科？國民學校時五、六年級我就稍微看得懂了，因為我們有看過《少年俱樂部》，有比較淺地看過乎。啊到《キング》漢字就有注音了，有標注カタカナ（片假名）就看得懂。

〔中略〕

許：看得懂……那時候日本人回去乎，日本人回去很淒慘。我不說了。戰敗乎，啊日本兵和日本人乎，8月15〔日〕聽到日本放送（廣播），大家這樣……有的人就跪著，跪著哭到〔不行〕。

林：你說聽放送呢（--nih）？

許：玉音放送啦。

林：嘿、嘿、嘿，是都聽得懂這樣嗎？

許：玉音啦。

〔中略〕

林：嗯，啊你那時候怎麼知道說，什麼書有在書店賣，還是去圖書館——？

許：諱（Hooh）！書店〔的書〕好多種的喔。

林：所以若想要——

許：都是說戰爭的事情啦。書乎，可以說每本都……有的寫婦人俱樂部你知道嗎？《婦人俱樂部》。

林：嘿，《婦人俱樂部》。

許：那都女生在看，但是它也有……《婦人俱樂部》〔內容〕有的看身體的、有的看婦人病的，有的看什麼的啦乎，但是裡面也有慘戰時的〔內容〕。都有啦，每本都有啦。

林：啊你剛剛說你有看新聞（報紙），那新聞的^{まんが}漫画你有看嗎？

許：啊實在！看那些不問不界的還看「支那兵」……看支那那些……長成那樣……《のらくろ^{にとろ}二等^{にとう}兵^{へい}》就是——

林：沒、沒，我是說新聞（報紙）裡面有沒有^{まんが}漫画？

許：也是有啊。

林：也是有？那你也會看？

許：囡仔（gin-á，小孩、兒童）新聞啊。新聞（報紙）分成兩種，「^{みたみしんぶん}御民新聞」就是囡仔新聞
啦。

林：「みなみ」？

許：「みたみ」啦。

林：「みたみ」。

許：「み」啦，我寫給你看（寫字）。「^み御」就是皇帝，「^{たみ}民」就是百姓，就是「^{みたみ}御民」。那時候都會，日本人……

林：嘿，你說這是囡仔（gin-á，小孩、兒童）看的？

許：啥（Hannh），囡仔（gin-á，小孩、兒童）我就會……囡仔像我跟你說的，都看^{ひろ}拾^よい^{読み}讀^み啊。啊のらくろ它這個也是這邊出來的。

林：嗯嗯。所以新聞的^{まんが}漫画……新聞裡面的^{まんが}漫画你有印象都在畫些什麼嗎？

許：啊就畫「支那兵」啊。

林：也是畫支那兵這樣？喔喔（Ooh-ooh）。

許：支那啊。「^{しなへい}支那兵」很難聽，也叫^{ちゃんころ兵}ちゃんころ兵。清國奴。你如果〔亂〕說清國奴，搞不好會打架喔。

林：好好好，沒關係、沒關係。你說這是囡仔（gin-á，小孩、兒童）看的，那大人看的報紙叫什麼名？

許：《^{こうだんくらぶ}講談俱樂部》。

林：那是、那是……

許：講談。

林：沒、沒，那是雜誌啊？

許：雜誌也是有新聞。

林：不是，我是說像現在的報紙這樣的新聞——

許：哈（Hannh），都是有新聞也有雜誌。近的沒幾間啊。啊也有《^{しんせいほう}新生報》，《^{しんせいほう}新生報》，也有《^{しんせいほう}新生報》啦，也有《^{しんせいほう}新生報》。啊日本戰敗，^{しんせいほう}新生報也有。民國 38〔年〕那個李秋遠乎，蘆洲人，他去日本讀大學，啊李萬居讀《公論報》。啊國民政府乎，不讓他〔回來〕。啊這個李萬居乎，跟美國總統尼克森好朋友，〔國民黨〕不敢抓。啊李友邦被人抓走。李友邦乎，他去……寫這個……大陸的事情喔，□□□□，被抓去槍殺。李友邦，第一個戒嚴後被槍殺的台灣人就是李友邦。³⁵

林：好，那麼我想問說，你那時候你爸爸媽媽對你看不管是^{まんが}漫畫、還是說^{えほん}繪本，是什麼樣的想法？

許：樂意讓我看喔。

林：樂意你看？媽媽也樂意你看嗎？

許：媽媽是比較不樂意。

林：為什麼不樂意？

許：她說：「看那種都沒用啦，讀書比較重要啦。」

林：啊爸爸是說可以看這樣？

許：啊我爸爸就跟大人在聊戰爭的話——

林：就跟電影——

許：「壞了，日本戰敗了，啊日本怎樣怎樣，壞了怎樣怎樣。」啊他會跟日本人□□，他是做生意的，會出去外面。我四叔公是壯丁團的團長，跟日本人的警察很好，會跟日本人一直說啊。就像那個噍吧哖事件、噍吧哖事件乎，跟霧社事件，霧社事件跟噍吧哖事件。沒人懂得

³⁵ 此處敘述不完全正確。

我也懂得了。我四叔公是壯丁團團長，啊就派北港的警察去噍吧嘍，現在的玉井，去殺 6 個庄都殺光光。這說起來很長，事實啊，噍吧嘍事件。

林：好，那個我們等等再說。那你自己對那時候的漫畫^{まんが}怎麼想的？你讀完會覺得很心適（sim-sik，愉快）嗎還是說？

許：很心適啊，很愛看。

林：愛看是因為什麼理由咧？

許：愛看就愛看那些——

林：是因為它有圖嗎？還是內容很有趣味這樣——？

許：有圖啦，愛看尪仔啦。啊我會很看不起外省人就是因為〔看這些〕看到壞掉（小聲）。看到壞掉的。我也跟小孩講，大家都知道……我最有日本精神。〔討厭〕像那些外省的，像國民黨。啊就，我跟那兩個朋友說一些，我說：「《のらくろ^{にとうへい}二等兵》害死人、害死我。」看了結果就上癮啊，要拉還拉不起來。不時每天都在想，有時候晚上在睡覺也會想說，嗯，以前的「支那兵」如何如何。

〔中略〕

林：你有看過漫畫^{まんが}映画嗎？

許：有，漫畫^{まんが}映画，就跟你……看到不想看了。

林：啊漫畫^{まんが}映画是在哪裡看的？

許：啊劇場^{げきじょう}啊。

林：也是在劇場^{げきじょう}。啊公會堂^{こうかいどう}有嗎？

許：啊公會堂^{こうかいどう}也有啊。

林：也有？

許：公會堂^{こうかいどう}的歸公會堂^{こうかいどう}、公會堂^{こうかいどう}的歸……啊公會堂^{こうかいどう}，誨（hooh）！人是人山人海喔。公會堂^{こうかいどう}會用那個外面的野球場^{やきゅうば}³⁶。公會堂^{こうかいどう}就〔是指〕講堂內啊，啊它〔播放的地方〕不是在講堂內，它

³⁶ 訪談時受訪者是說「やきゅうば」，現在的通用讀音是「やきゅうじょう」。

是在^{ひろば}廣場在……我們北港^{こうかいどう}公会堂就是對面……對面乎，有一個郡役所，還有一個日本小孩學校。啊^{こうかいどう}公会堂的很大，我們台灣^{こうかいどう}的公会堂最大的就是北港，我有說過。

林：嘿，有。那你還記得說內容，還是說它電影的名字，還是說它是什麼類型的^{まんがえいが}漫画映画嗎？還記得嗎？

許：^{まんがえいが}漫画映画……那個……^{まんが}漫画就好幾十種了，要怎麼記得。只記得說……知道就是……那時候
イタリア（義大利）^{えいが}映画啦……^{えいが}イタリア映画啦。イタリ你知道嗎？

林：嘿，我知道。

許：啊，德……ドイツ（德國）的ナチス（納粹）啦。

林：所以你看的^{まんがえいが}漫画映画是^{まんがえいが}日本片還是說那個歐洲片？

許：歐洲片可多了。

林：是歐洲片比較多呢（--nih）？

許：啥（Hannh）！那個歐洲片就是イタリア、イタリア的……イタリア的那個政權啊。イタリア有個首相被人殺死，有喔，那個名字我說不出來。イタリア的首相乎，親日本啦、啊親中國，三國同盟啦。啊イタリア乎，空襲啦，空襲到受不了乎，後來那個イタリア國防部的部長乎，暗殺這個……暗殺這個……總理啦。這總理的名字乎……叫做バトリ啊。啊バトリ就是那個國防部的部長，暗殺那個總理啦，把他殺死啦。殺死〔以後〕啊那個□□乎，把他鑿（tsām，斬、切斷）起來，啊去示威啦，遊街示〔威〕。再丟到墳墓，有一些女人再去那邊撒尿（拍手背）³⁷。

林：啊你看那個^{まんがえいが}漫画映画的時候，你差不多記得說是什麼年代嗎？你記得嗎？

許：啥（Hannh）？

林：差不多是什麼年代看到^{まんがえいが}漫画映画的？

許：啊，昭和……

林：昭和差不多幾年？

³⁷ 推測此處應是指真人電影，而非漫画映画。

許：差不多……欸，12、3 年。

林：12、3 年？

許：啥（Hannh），開始。

林：開始——

許：啊更早就有了啦，更早就有，〔但〕看不懂就沒有沒注意到。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊，是——

許：啊你有讀過幼稚園的，素質才比較高。

林：嗯，所以是，那個長度是差不多多久？那個^{まんが えいが}漫画映画の長度？

許：啊較早的電影都……都差不多……我算下來差不多 2 個小時……欸 50 分……欸……1 個半、1 個半……差不多 1 個半小時而已喔，不到 2 小時喔。

林：嘿，啊^{まんが えいが}漫画映画也是嗎？

許：一樣、一樣。

林：^{まんが えいが}漫画映画也一樣？

許：有的時候一些……到戰爭的那時候乎，不是專門的。到戰爭那時候乎，^{まん}漫……會唱日本的國歌乎，唱一唱完再唱，海軍的軍歌，我之前唱過的那個。然後才看，^{まんが}漫画才出來（拍手背）。啊^{まんが}漫画都出字〔幕〕，出字〔幕〕比較多啦，出字〔幕〕……它上面^{えいが}映画乎，電影乎，啊下面……再出字〔幕〕。

林：嗯，啊那個^{まんが えいが}漫画映画的名字你有記得的嗎？

許：諱（Hooh），都跟中國戰爭，那些「支那兵」，那些片我怎麼記得起來？

林：〔電影的〕名字太多就記不得了這樣？

許：啥（Hannh），有一個^{しやんはいじへん}上海事變啦。

林：嗯，啊那些^{まんが}漫画——

許：上海事變。啊！啊^{ろこうきょうじへん}盧溝橋事變，^{えいが}盧溝橋事變的映画。

林：不是，我是說^{まんが えいが}漫画映画喔。

許：^{まんが えいが}漫画映画也有出來啊。

林：也是有喔？

許：也有啊！^{まんが}漫画就是……這のらくろ就是^{まんがえいが}漫画映画啊。

林：嘿，啊所以你也有看過のらくろ的^{まんがえいが}漫画映画？

許：什麼，就有讀過啊，我就說是用讀的才……就是用看的（看過電影）才會再去讀〔漫畫〕

啊，啊你小孩子沒看〔書〕，不就是看完〔電影感覺〕心適（sim-sik，愉快），才會要看書。

林：喔，是先看了^{まんがえいが}漫画映画，才去看那些書的^{まんが}漫画，這樣喔？

許：哈（Hannh）。我就隔壁跟你說……隔壁就是舊戲園，北港戲院也在我們旁邊。你若說要去找許金城，就〔在〕舊戲園後面，就是 [REDACTED]，你知道？

林：喔喔（Ooh-ooh），嘿、嘿、嘿。

〔中略〕

林：啊^{まんがえいが}漫画映画你說像……比如說……好比說，のらくろ是跟其他的電影一起放的嗎？還是說？

許：哈（Hannh），のらくろ□*（long）要出來，有另外〔獨立放〕的のらくろ，啊合著〔一起放〕的也有。

林：合著的也有？

許：哈（Hannh），合著也有，都有啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），都有。

許：啊^{かつどうしゃしん}活動写真，^{かつどうしゃしん}活動写真就可以看免費的啊。在公會堂的那個活動中……

林：欸？^{かつどうしゃしん}活動写真是不用錢的？

許：不用錢啊。

林：啊你不是說以前的^{げきじょう}劇場也有演^{かつどうしゃしん}活動写真？

許：^{かつどうしゃしん}活動写真以前，^{かつどうしゃしん}活動写真喔，就是從公會堂先來（開始）的。公會堂……公會堂放〔的時候〕「嗡嗡嗡」，一塊布，給大家看免費的。啊看一看之後戲園〔活動写真〕才進來。叫這個電影……以前不是叫電影院啦，以前說^{えいがかん}映画館啦。

林：^{えいがかん}映画館嘛，乎。

許：電影是光復後才會講的。

林：啊那時候看^{まんがえいが}漫画映画的人裡面，有大人嗎？

許：哎喲！很多喔。

林：最多？比小孩子還多嗎？

許：諄（Hoooh）！小孩子看不太到啊，啊就要墊腳尖啦、啊就要騎（gī，將小孩跨在肩膀上）起來，我們兩個人換我看、換你看啊，啊都站著看。啊公會堂待在裡面，外面也窄窄的啊。

林：嗯，啊你還記得你最早、第一次看到^{まんがえいが}漫画映画是差不多什麼時候？

許：^{まんがえいが}漫画映画……我說^{まんが}漫画乎，差不多幼稚園那時候就有一個印象了。

林：幼稚園的時候，啊你幼稚園是讀 1 年而已嘛乎？

許：1 年而已。

林：喔，幼稚園的時候，差不多你 6 歲的時候？

許：啥（Hannh），6 歲幼稚園，啊 7 歲讀一年級。我 6 月 15〔日〕讀的，〔原本〕應該要 8 歲，我大姊她就跟它說……把我帶過去啊，她就……我大姊就讀師範的把我帶去，〔我〕才可以進去。啊進去，家庭也要不錯才會讓你進去。不然應該都 8 歲才能進去。

林：啊你第一次看到^{まんがえいが}漫画映画的，敢若（kán-ná，好像）說印象還是說感覺是如何？

許：啊，很好啊。

林：很好是？

許：諄（Hoooh），愛看啊。

林：愛看是因為什麼〔原因〕愛看咧？

許：愛看，電影預告片啊（咳嗽）。存錢啊，存一存就去看電影。以前要討……要討錢乎……我有說過，就這樣……越哭越口，這樣啊。後來才會「piànn-tōo」啊，piànn-tōo 就是偷爬牆，啊我騎著，這樣啊，偷爬牆上去。我們就……隔壁那條巷子都偷爬啊。啊其實從前面過去也沒關係，〔但會〕歹勢啦。

林：嗯，那會不會覺得說內容很有趣？還是說內容……6 歲看的内容比較不記得了？

許：都還稍微記得。我的日本精神就是從那來的。

林：嗯，日本精神嘛乎。

許：啥（Hannh），就是看映画來的。

林：那這樣我想問說，那時候看的像是說漫畫，還是說繪本，還是說電影的主題，乎，有沒有什麼相同的主題還是說？

許：不一樣。那……

林：啊你剛剛不是說都戰爭？

許：也有松竹也有東映啊。

林：嘿，沒，我說主題，不是說那些拍電影的〔公司〕。

許：拍電影……一樣，但是不一樣，欲倚欲倚（beh-uá beh-uá，差不多、接近）。它珍珠灣攻擊也是好幾部映画在演，但也是欲全欲全（beh-kâng，很像）。

林：啊那時候的「講談社の繪本」，是——

許：《講談俱樂部》，不是本。

林：你不是說在圖書館裡看的是「講談社の繪本」？

許：那是《講談俱樂部》。

許：啊《講談俱樂部》就是……「《講談俱樂部》の本」とは言わない。《講談俱樂部》と言
う。那雜誌這麼大本，那時候□□□□。啊也有講談……也有講談的……這個新聞，講談
新聞，也有《講談俱樂部》。那是政府創辦的，像現在的德國——

林：啊你剛剛說在圖書館在看的是《講談俱樂部》？

許：都有，〔有〕《講談俱樂部》、《婦人俱樂部》，啊……《少年俱樂部》、啊《のらくろ二
等兵》もある（也有）。都有啦。裡面乎，都進去……我有說過，說要登記，〔跟〕一個日
本婆仔（pô-á，婦人、婦女），日本婆仔在顧啦，媽祖宮邊。

林：所以，我現在想要問一些說，你的……乎，不是說……應該說認同的乎，你的国，認同。就
是，你跟我說，在戰爭還沒結束之前，你覺得你是哪裡的人？哪一國的人？

許：啊戰爭結束我們就……日本人啊。

林：就是覺得說，自己是日本人喔？

許：我們就是到昭和 15 年喔，以前我們被日本人來佔領，我□□□。日本人打台灣就是キタカワ
シロノミヤヨシヒサ親王^{しんのう}³⁸，帶那個……昭和天皇的叔叔啦，〔也就是〕明治天皇的孫子，
接著乎，從哪邊登陸？從澳底登陸啦。澳底你知道嗎？南澳的那個澳底登陸啦。啊澳底登陸
乎，之後要打乎，打不進去啦乎。我那……啊打不進去，啊後來乃木大將^{のぎたいしょう}乎，乃木大臣才
來〔幫〕助他啦，乃木大臣你知道，乃木大將^{のぎたいしょう}，才帶〔軍隊〕從淡水登陸打進來。然後，
啊基隆有砲台啊，基隆法國……〔砲台是〕之前法國的。我們台灣也被法國管理過，你知道
嗎？也有被オランダ（荷蘭）、荷蘭管理。啊砲台——

林：那是スペイン（西班牙）吧？不是法國。是スペイン吧？

許：不是啦，法國就是フランス啦。

林：〔北部〕不是スペイン（西班牙）嗎？那北部是在——

許：沒有啦，那個，我們台灣也有給オランダ（荷蘭）管過啦。

林：嘿啊、嘿啊。

許：啊我們就是——

林：オランダ（荷蘭）以前是〔佔領〕南部嘛乎——？

許：那是後來，那是後來。啊之前是スペイン（西班牙）！

林：是スペイン嘛乎？

許：スペイン、エスパニア。也有被スペイン（西班牙）管理過。我現在就是說スペイン（西班牙）
的砲乎，也有給フランス（法國）管理過，フランス（法國）管理北部啦。然後……啊
我們台灣沒人要是因為有怎麼樣，有マラリア（瘧疾）啦，如果得マラリア（瘧疾）乎，
馬上就發燒就死掉了。啊日本人要管理台灣人，〔才〕管理一下乎，啊……有人過來乎，不
合（水土不服），被蚊子叮到，死掉很多。有人是他妻子不讓他來。啊八田与一^{はった よいち}、八田与一^{はった よいち}
你知道嗎？那個……曾文水庫，那個啦，就是他來開〔關〕的，開了那些水乎，來蔭〔水〕
（im，引水進田灌溉）、灌溉，他的功勞啦乎。啊他老婆要過來，他丈母娘不過來，說台灣

³⁸ 推測為口誤，應指「北白川宮能久親王（きたしらかわのみやよしひさしんのう）」。

……說マラリア（瘧疾）很多啦。但是他〔還是〕要過來，這樣啦。結果乎，結果他過來，他開了〔水庫〕，啊我們才……日本人來才……南部才有蔭水圳（im-tsuí-tsùn，同水圳）啦，蔭水（im-tsuí，引水進田灌溉），啊甘蔗，啊製糖會社才會來，也就是日本人的功勞才會。若沒有日本人管理台灣，就會像海南島那樣。

林：嗯，你是小時候——

許：我就不時聽我爸爸他們在講啦。

林：嗯，你是小時候就覺得你是日本人這樣乎？

許：啥（Hannh）、啥（hannh）。

林：啊家人也都覺得自己是日本人這樣？

許：一視同仁啦。「カシコく一視同仁の～（唱）」這是日本皇帝……昭和 15 年乎（咳嗽），變成台灣不能說是植民是……本土化啦，台灣啦，本土化啦。本土化，15……昭和 15 年開始才有〔對台灣本土化〕啦。啊就是準備要跟美國戰爭，就利用台灣人啊，才「一視同仁」啦。

林：一視同仁嘛。

許：啥（Hannh），一視同仁……台灣人也是日本人啦，乎，但它把你分成說，我們台灣人乎，我們台灣也是日本人，啊它把你分成說，在日……在日……有這個「內地人」啦。

林：「內地人」跟「本島人」嘛乎。

許：「內地人」就是日本人啦乎，啊「本島人」、「本島人」就是我們——

林：就是住在台灣的人乎。

許：我們在台灣的叫做本島人啦，本島人。啊高山是……以前叫生番啊，生番。啊皇帝（天皇）乎，到了要……到要跟美國打仗〔的時候〕乎，這生番有功勞，才叫高砂啦。

林：啊，高砂。

許：啥（Hannh），那個高砂的牌子我有看到呢（--neh），我去爬中央山脈乎，啊南大武乎，在中央山脈的……北大武乎，不是南大武。北大武有一個牌子喔，寫在裡面，牌子寫說，不能……皇帝（天皇）的牌子寫說：昭和 16 年乎，日本去攻菲律賓的巴丹半島（咳嗽），那些高砂族乎，死了、犧牲很多。背著子彈、舉著番刀，殺了□□□。啊那些日本人乎，這ッ

ヤングル（叢林）你知道嗎？樹林多的、很多□□都有功勞啦，□□□*（tse-tshau-tiunn）死了
了很多啦。才會以前講生番乎，啊皇帝（天皇）說不行，要叫做高山族。昭和——

林：所以你那時候——

許：我……啊！那塊牌子……以前那時候，我小時候老師就有教，說以前都講生番。吳鳳啦，吳
鳳你知道嗎？吳鳳廟的吳鳳說，都說生番啦，到二、三年〔級〕……啊到後來跟美國打仗了
啊，那……就不能了——

林：就都叫做高砂？

許：高砂。皇帝（天皇）說……他……啊高山族啦。啊光復……戰後乎，他們高山族你若叫生番會
被殺掉喔。日本時代說生番不行喔。後來才說是原住民啦，他們高山族說是日本人〔的稱
呼〕乎，現在我們是原住民啦。

林：欸？啊北港有原住民嗎？

許：沒有，連一個都沒有。

林：啊北港也有住著日本人乎？

許：諄（Hooh）！很多的。

林：啊所以你那時候，就是日本時代的朋友，你有日本人的朋友嗎？

許：沒有，囡仔（gin-á，小孩）哪有朋友？他們……啊跟日本——

林：就是玩在一起的囡仔（gin-á，小孩）啊。

許：啊他們就……日本囡仔（gin-á，小孩）的學校就在公會堂那邊，啊我們是宮前，啊我們在這
邊，3 個學校啊。

林：所以都沒有說每個學校彼此認識這樣——？

許：沒有，這樣會吵架就是怎麼樣，他們要爭搶球場啊。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

許：球場你知道嗎？一個球場，啊球場就在日本囡仔（gin-á，小孩）小學校的前面啊，啊我們在
宮前，啊還有一間南陽喔。啊爭搶、吵架啊，啊吵架他們說，罵我們台灣人都說是ちゃんこ
ろ，清國奴啊。

林：你說被人家罵呢 (--nih) ？

許：他們罵我們台灣人清國奴，ちゃんころ，啊我們要打他們啊。啊若在打乎，他們囡仔 (gín-á, 小孩)，日本囡仔乎，比較矮小啦，啊我們個子高比較粗壯啦，我們個子高比較粗壯啦。啊我當相偃 (sio-ián, 摔角) 的選手，也有跟日本囡仔偃 (ián, 將對方摔倒) 過。啊日本囡仔，都怕怎樣？我們大漢 (tuā-hàn, 身材高大) 較……我們發育比較快，把他們抱起來再往下頓 (tng, 搥打、跌坐)，〔他們〕就會跪著。但是日本的審判 (裁判) 不公道，說不能抱起來頓。啊現在〔打架時〕在相偃的時候抱起來這樣攄 (tim, 丟擲、砸)，抱起來這樣頓一下〔他們〕就會跪了。說這偷食步 (thau-tsiáh-pōo, 作弊、陰招)、偷食步的啦，不行啦。啊審判 (裁判) 不公平啊，審判 (裁判) 是日本人啊。我就是有把選手，〔打到〕手骨斷掉啊，我偃一下手骨斷掉啊，我〔讓他〕手骨斷掉啊。相偃的選手呢 (--neh)，日本人教我，我相偃的選手，才會這麼勇，日本人把我培養起來。啊還有空手^{からて}，空手^{からて}你知道？空手道，有學過的。

〔中略〕

林：啊我想要問說，你現在認為說自己是哪裡的人？

許：我？我北港人。

林：沒有，我說，嗯……就是^{くに}国啦。

許：啥 (Hannh) ？

林：就是你的國家〔認同〕是哪裡？現在。

許：我說，我喔？我就是台灣人。

林：台灣人。

許：啥 (Hannh) 。

林：啊你說你在戰爭還沒結束的時候，你覺得自己是日本人，啊覺得……啊現在覺得說自己是台灣人，這個想法的轉變是什麼時候開始的？

許：我轉變就……日本戰敗我那時候很難過，〔還有〕哭。日本人要回去那時候，啊大家都……一套衣物乎，啊要穿的那套，啊限的，中國政府限制的一套衣褲，啊一個人不知道 5 公斤還

3 公斤的米，忘了，還有 3、500 塊，給他們限制，讓他們回去日本。我就去，都到郡役所集合，那邊某時某日會寫告示牌出來，說日本人某時某日，幾人、幾日乎，說是範例啦，寫名字，啊大家就去看。啊就 10 點來郡役所集合，公會堂的郡役所。啊台灣人，以前住在郡役所那邊的人乎，會志願乎，再把他們帶去車站。啊車站再帶去……小車站帶到大車站，再交給中國政府的中國兵。啊用火車押〔他們〕去基隆，啊保護他們回去。不是監視他們而是保護啦，不然他們會被打。日本戰敗乎，有人被打死呢 (--neh)。

林：你說在台灣日本人嗎——？

許：沒，不是，在我們台灣的日本人乎，比較沒人敢打，我們〔是〕台灣人打台灣人。我們台灣人當日本警察的那種，被打死好幾個，壞的啦。啊我們北港有一個，我叫做許金城，〔另外有一個〕叫做林金城的，也是去海邊被人打死。啊那時候就是日本戰敗乎，隔天早上 2、3 個以前在海邊當警察，打人打得很忝 (thiám, 慘重)，那些人來報仇。大家舉著□□* (tshai-tin) 那種，以前□□□都是□□* (tshai-tin) 的，啊幾十個。結果他就牢咧 (tiâu-leh)。壞了！他們家人宿舍門口，好幾十個人去圍著，〔他就〕爬上去。啊他這樣牢咧 (tiâu-leh)，啊他一支槍，日本時代的長槍乎，搯一支長槍喔，日本警察都有一支長槍掛在牆上乎。啊他看〔他們〕來乎，要拿長槍，人家圍上來說：「我先跟你說，我是以前被你……在空襲〔的時候〕我是做闇^{やみ}的乎，做闇^{やみ}的買賣，黑市的，被你打得很忝 (thiám, 慘重) 乎。受不了，我今天來是要讓你死啦。啊你那支槍乎，若舉起來乎，〔我把你〕整家全滅 (拍手背)。啊你那支槍若不舉起來乎，我你妻兒〔我就〕不會對他們動手。」後來那支槍〔他〕就不敢舉起來啊。啊他，整群□□□，有的拿斧頭喔，有的拿刀喔，有的拿□□* (tshai-tin) 那種□□，煞 (suah) 打死。他若舉起〔槍〕來乎，結果他不敢舉〔槍〕，笑笑的，說：「體質很好喔」。打死他的那個人也給我，本身也跟我說過，說：「我先打的。我拿□□乎，我們□□* (tshai-tin) 不是有個□□？兩支拿起來³⁹，我就從他頭上砸下去。」啊砸下去〔他〕暈 (phîn, 暈眩) 了乎，啊那種□□□* (tshoo-pun-tshiam) 你知道嗎？從後面

³⁹ 也有可能是說「長支仔的乎」。

插下去乎，〔他〕叫一聲，啊還笑笑地，笑笑地回去（過世）。啊他的妻子跪著哭到〔不行〕，〔殺人者〕說：「我跟他妻子說，我是被你丈夫，日本時代那時候被他打得很忝（慘）啊。啊我不會打你啦。」啊打回來……電話打來乎，北港的警察局你知道？那時候也還有日本人，〔日本人〕也還有權力，也還有啊，諱（hooh），就帶著槍一群來了。人家他不跑，人家他那邊打□□□□，□□，〔被〕綁起來。算自首，不跑啦。要跑也沒地方跑。啊抓走，光復那時候，□□□只是一個意思啦，每天都有在打死人。

林：你說這是差不多幾年的事情？

許：啊就日本戰敗……

林：那時日本人還在台灣的時候嗎——？

許：8月15〔日〕戰敗，啊2、3（天）後就打起來了。

林：喔喔（Ooh-oo），是這樣。

許：但是日本人沒人敢動。日本人出來在……日本婆仔（pô-á，婦人、婦女）出來在賣麻糬啦乎，賣日本料理啦，〔餐車〕推出來，大家都去吃。啊日本人沒人敢打呢（--neh）乎，他們是怎麼樣，大家說日本人不錯啦，日本警察，比較不像台灣人打台灣人打得那麼厲害。啊台灣人就是這樣很會扶（phôo，巴結奉承）就是這樣啊。別的〔地方〕被打死很多呢（--neh），不是只有北港呢（--neh）。

林：我剛剛的問題是說，你在日本時代認為說自己是日本人，啊現在認為說自己是台灣人，這個轉變是什麼時候開始——

許：我的轉變喔，日本人倒〔台〕了我很難過。我日本精神煞（suah）……帶很重，這邊的人（指玉蘭莊成員）也知道，我日本精神帶很重，我現在還是〔有〕日本精神啊。啊〔後來〕台灣化，台灣化。

林：台灣……「日本精神台灣化」這樣？

許：台灣意識啦。

林：嘿，台灣意識。

許：台灣意識很重啦。台灣意識就是——

林：這台灣意識是什麼時候開始出現的？

許：台灣意識喔，到差不多……李登輝在當總統的那陣子。那時候……

林：嘿，你說他選上總統那陣子——？

許：他那時候才說……他那時才開放說，可以……民進黨成立，民進黨，以前台灣的黨制只有國民黨一黨專制喔。你如果想組黨會被抓去槍殺喔，有聽說乎？

林：嗯，我有。啊但是這……就是說這——

許：哈（Hannh），啊李登輝〔執政〕才開放，李登輝開放。

林：但是從戰後到李登輝當總統有幾十年的時間啊——

許：他才從國民大會，把國代廢止啦。

林：嘿，沒有，有幾十年的時間嘛，你說你的台灣意識差不多是在李登輝當總統的時候開始出現的，這中間你自己認為說，你的一些想法是如何的？

許：我的想法就是要國民黨倒啊。

林：要怎樣？

許：要它倒。要參加乎，沒機會啦。

林：你要參加國民黨但沒——？

許：不是啦，要參加台獨的啦，沒有機會……沒有機會啦。以前我們若……在戒嚴，民國 38 年戒嚴發布乎，蔣介石發布戒嚴。報紙有〔寫〕出來啊，禁止……也有說不能講國民黨壞話，啊禁止……不能講日本話，乎，啊禁止三眾，「三眾」意思你知道嗎？3 個人〔以上〕一組的談話是不行的。3 個人的談話乎，你在講若被特務看到了，就會被叫去問。啊過去問乎，問一問乎，你去派出所〔被〕問乎，啊你就〔要〕叫你家裡人來保你，你爸媽去保你出來。我就曾經〔這樣過〕啊，我那次是北港戲院在看預告片乎，愛看日本齣（chhut，戲劇）乎，我們 2、3 個人在那邊看預告片，一個福建人特務啊，他穿私服的啦。啊他若到電影〔院〕乎……以前我們出門就都要帶身分證，你若沒帶身分證乎，搨（siàn，掌摑）下去喔（？），民國 38 年查身分證是這樣，你若沒帶身分證，你若被他查到乎，沒身分證，他就

會把你叫去派出所。啊〔到〕派出所乎，你若說什麼啦乎，啊你就〔得〕叫你爸媽來保，啊才能帶回家。這樣你聽得懂嗎？

林：有聽懂。

許：也不能 3 個人談話，3 個人講話就會犯到「反黨」。被管得很嚴，我最清楚。我就曾經被叫去〔派出所〕。

林：這可以說是因為戰後，就是國民黨統治的時候對台灣人很嚴格嗎？

許：一開始不會，我們平常〔心〕來講，一開始日本投降了乎，啊就 12 月 25〔日〕，陳儀你知道？陳儀是福建省……啊他會講台語啊，啊他陳儀〔是〕蔣介石的……「左右人」啦，左右你知道？很重視的人。派陳儀來接收。啊陳儀來接收乎，從台北接收啦，大家很歡迎啦。諄（HooH），我們在北港乎，〔國民政府〕來的時候乎，諄（hooH）！大家說、報紙說：「諄（HooH）！接收，從台北先接收……」以前火車……火車很少，日本時代縱貫線沒幾班啊，啊也沒有……有公路〔但是〕是陸軍路，也沒有 thoo-lá-khuh（日語的「トラック」，卡車）啊，啊都〔只能〕坐火車，諄（hooH）！〔從〕新竹來接收，從台中……啊接下來，啊第 72 軍啦，第 72 軍來接，那些是土匪軍啦。啊來接收〔的時候〕乎，都穿那種紮絞紮（tsat kha-tsat，綁腿）乎，穿短褲戴紮絞紮，啊穿得不間不界（不三不四），啊在路邊屎尿黑白放（隨地大小便），不衛生啦。啊支那人，啊那些查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）乎，查某囡仔（tsa-bóo gín-á，年輕女子、女孩子）很骯髒，穿那種……查埔（tsa-poo，男人、男性、男生）穿黑……查某、老查某穿黑的啦；啊中年的穿□□□的乎，穿這個紅的啦，乎，啊〔年輕〕查某囡仔就穿青色，3 個顏色而已。還穿那種……啊穿那種草鞋啦，穿草鞋啦，沒穿布鞋啦，都穿草鞋，啊有的甚至赤腳呢（--neh），〔彷彿〕乞丐那樣。啊我們去歡迎，大家說：「諄（HooH）！中國兵來了！中國兵來了！」啊我們北港的就去嘉義啊，去嘉義接啊，大家繞不進去，有用走路去的啊，沒火車。啊去了之後：「喔！來囉來囉！中國兵到囉！」〔中國軍隊〕下來之後，諄（hooH）！大家就鼓掌，啊〔中國軍隊從〕嘉義車站出來，「哎喲！怎麼那樣子啊？」……跟以前日本人畫的《のらくろ^{にとうへい}二等兵》一樣的啊。「啊！□*（khe）囉！」就跟日本人在畫的都一樣，穿著鋪棉裘（phoo-mî-hiû，棉襖）啦，啊臉這樣……

啊……還有童兵啦、也有父子兵啦，穿著鋪棉裘（phoo-mî-hiù，棉襖），這麼鬆，啊穿短褲衩，啊〔臉〕貓疵疤（niau-pì-pà，癩臉）啦。天然痘啦，天然痘，啊長得整個骯髒樣。天然痘你知道嗎？^{てんねんとう}天然痘。

林：我知道我知道，就是像痲仔（thiâu-á，青春痘）這樣乎？

許：啥（Hannh）……噁心病啦，以前日本人叫這是噁心病啦……啊那時候日本兵還沒回去啊，乎，那時候〔國民政府〕還沒來接收，日本兵武裝解除，日本兵也在那邊看啊。啊我們小孩時……我那時候還小，啊日本兵說……我們這些用日本的……我們這些小孩乎，要去沒有車可以坐啦，〔人〕坐得〔將火車〕擠滿滿，我們用走路的到嘉義，就 25 公里用走的。為了要看中國兵，一看之下：「啊夭壽喔！怎麼……中國兵怎麼這樣？」啊有的舉扁擔，舉扁擔口*（phann）鋪棉裘（phoo-mî-hiù，棉襖），啊有的〔是〕老翁，啊有的是這樣啊（作眼歪嘴斜狀），啊有的〔是〕父子。啊……查某囡仔（tsa-bóo gín-á，年輕女子、女孩子）乎，查某囡仔都剪刀拿著乎，這個袖口乎，袖口都びかびか（亮晶晶），亮晶晶的。啊就是沒……擤鼻涕乎，「吭，呸！」這樣。

林：這樣，用手這樣在擦呢（--nih）？

許：啥（Hannh），用這手啦。跟日本人畫的說的らくろ描寫的一樣啊，^{しなむすめ}支那娘，中國女生的袖口びかびか^{ひか}光^{ひか}的啊（閃閃發亮）。びかびか你聽得懂嗎？亮晶晶啊，啊亮晶晶就是擤鼻涕〔的關係〕啊，啊鼻涕就糊著。啊現在太陽如果出來是不是會反射？

林：嘿，閃閃爍爍這樣。

許：哎喲！啊，阿山仔（á-suann-á）……（小聲）以前都叫阿山仔（外省人的貶義稱呼）。

林：「阿山仔」要怎麼寫？

許：「阿山仔」就……沒有字啦。以前說這個外省人，不叫外省人，日本時代都〔稱做〕「唐山人」啦，唐山過台灣啦，乎。啊後來中國〔軍隊〕過來才叫「阿山仔」，「阿山仔」就是看不起〔的稱呼〕啦，「阿山仔」就是崧（sông，粗鄙）啦。阿，阿山啦，阿山啦，那沒有字啦，土字啦。沒有字啦，沒有字啦。

林：喔，我寫一下^よ讀^{かた}み方（唸法）。

許：那就……那時候在叫，日本時代不是說……以前都叫「唐山人仔」乎，唐山人啦。啊「阿山仔」就是來接收那時候看到，〔覺得很〕恹（sông，粗鄙）啦！恹啦！

林：所以「唐山人」是一個比較中性的〔稱呼〕？

許：唐山人就是〔因為〕我們祖先是從唐山來的，唐山人也是比較笨，比較恹啦。唐山人、唐山人仔！比較恹啦。啊我們日本人來台……台灣被日本人管理過，被日本教育，不一樣啦。這樣意思……意思你知道嗎？啊光復後〔國民政府〕來，我們是要看祖國兵啦，啊就報紙刊得、報得嚇死人了，諱（hooh），說中國兵，中國兵喔……

林：那時候就是去看中國兵，有覺得說是很——

許：你也知道啦，阿沙不魯（a-sa-puh-luh，粗俗、不入流）的。

林：不是，我是在想說，那時候你們也叫他們，叫中國兵這樣？

許：那時候乎，叫「祖國兵」。

林：中國……「祖國兵」？

許：祖國兵〔的稱呼〕就比較好啊，祖國啊，祖國要來了。

林：原本想說〔是〕祖國的人要來了這樣——？

許：啥（Hannh），祖國，要〔回〕歸祖國啦，台灣不給日本管了啦，要回歸祖國了啦。啊那時候沒有在講獨立的啦，沒在講獨立的喔，沒在講獨立的，那時候，大家都說要〔回〕歸祖國。啊我們台灣人沒有勢人（gâu-lâng，厲害的人）啦，那時候若有勢人乎，說要獨立的，啊日本兵就……美國就把我們交……日本兵就打契約就不給它，日本兵幾十萬就不〔給〕，不給中國來管我們，支持台灣獨立。像印尼這樣啦，印尼也是被人管理啦，啊被人在□□日本兵很多人，啊日本兵就支持那些人反抗，日本兵有槍啊，反抗荷蘭啊。啊所以日本兵乎，娶荷蘭女生生子的很多啊。

林：所以，以前是叫做……最開始的時候是叫做祖國兵，啊看到他們這樣就改成叫——

許：阿山仔。

〔中略〕

許：我剛剛在說，諄（hooh）！大家很歡迎喔，大家說：「祖國兵要來囉！」祖國兵要來乎，大家還舉旗子喔，舉中國旗子（中華民國國旗）喔，喔，小支的你知道？啊大人拿大支的，小孩就拿小支的。我也跟別人〔一樣〕拿一支中華民國的那種小支國旗啊，就去嘉義要接祖國兵啊。那是我們自己志願去的喔，大家自己要去的喔。諄（Hooh）！人很……嘉義市這樣一抬頭〔看〕人很多，要看祖國兵乎。啊他就說，喔，以前縱貫線沒幾班〔車〕啊，啊也沒有公路啊，公路有縱貫的都是兵……軍路啊，沒有到，到台北也有人要用走的。那時候後來乎，後來我們也是，要去乎，火車都塞得滿滿，諄（hooh）！沒得拍票（買票）。啊我們用走的去呢（--neh），特地要看祖國兵啊，啊看……看，諄（hooh）！嘉義這樣人山人海喔。啊後來，看祖國兵，啊舉旗子出來，第一個……你看這個一個營應該有 4、500 個〔人〕啦，我看最少 4、5〔百個人〕。啊一開始出來那 2、3 個〔人〕比較好看，那 2、3 個你看，軍官啦，穿那種綠色的，啊□□□*（lun-phang-phang）啦，還有短銃啦，那些有戴軍帽啦。啊再來就不一樣了！那 2、3 個進來再來那些，就流……就擔棉被的……

林：就你剛剛說的那種乎？

許：啥（Hannh），拿扁擔的，擔棉被，啊擔子彈啦，啊擔什麼的，戛咧戛咧（sim-leh-sim-leh，有彈性地晃動），啊口水也流著，啊臉這樣那樣（作眼歪嘴斜狀）……跟日本人畫的那種《のらくろ^{じとうへい}二等兵》一樣啦。啊我們這些死小孩一整群：「啊……」《のらくろ^{じとうへい}二等兵》就是日本^{にっぽん}が^{えが}描いた，描いた就是寫出來的，就同じだ（相同、一樣）。啊日本兵乎有去……日本兵乎，有去中國戰爭過啊，啊來我們台灣乎，〔日本人〕就跟我們講：「支那兵^{しなへい}というのはこんなものだ（支那兵就是這種的）。」支那兵就是這樣子的啊。啊他沒說ちゃんころ啦，〔ちゃんころ〕有夠難聽。支那^{しな}……「支那兵」就很難聽了，中國兵叫支那兵，「支那^{へい}兵と〔いうの〕はこんなもんだ（支那兵就是這樣）。」

林：啊所以那時候就是……他們是叫做「接收台灣」啦乎，啊就是，戰爭〔結束〕以後他們〔中國軍隊〕來，啊日本兵回去——

許：是啦，啊他們從高雄接收後，啊慢慢……差不多一萬個〔士兵〕啊慢慢放〔在各地〕，在基……在台北嘛，啊在桃園放幾百個，啊在台中接收，啊放到嘉義就剩快一半，啊放到高雄就沒了，以前是這樣……

林：喔，你說一艘船這樣？喔喔（Ooh-ooh）。

許：72 軍啦，第 72 軍。你問我〔的話〕我還記得，第 72 軍來。啊第 72 軍是土匪兵，大家說蔣介石派土匪兵，要來讓台灣難看啦，這樣啦。啊土匪兵來到的時候乎……

林：你說土什麼兵啊？

許：「土匪（thóo-huí）」啦。

林：土匪？

許：土匪你不知道？強盜（kiông-tō）啦。

林：啊啊（笑）。

許：啊土匪，土你不知道喔？

林：可以寫給我看嗎？歹勢。

許：（寫字）

林：喔喔（Ooh-ooh），就是「賊仔（tshát-á）」這樣嗎？意思不太一樣？

許：土匪兵啦，強盜（kiông-tō）啦。土匪兵，那時候看到很多啦。啊大家……諱（Hooh）！沒多久還對人家……對女生用強⁴⁰喔。事實喔，報紙刊的喔，諱（hooh）！那些人如此如此用強。啊去別人家裡拉人家喔，啊去別人家乎，對別人……那種叫做……我們這種……水道（tsuí-tō，自來水）要用鎖（só，意指旋轉）的你知道乎？用來導水道（自來水）的那種鎖（水龍頭）乎，啊我們打開乎，〔就〕有水。啊現在乎，他們去……他們來問我們說：「這水道的水乎，去哪裡買的？」〔我們〕說去電器店買的，電器店，以前叫「電器店」。啊電器店買的，啊〔他們〕就去買乎。買了去敲牆壁，自己敲、自己敲，轉了〔卻〕沒水，啊就要去打人家。啊你……崧（sông，粗鄙）啦！他們大陸就沒有這種〔自來水〕啊，這樣你聽得懂

⁴⁰ 意指強暴女性。

嗎？啊也曾恐嚇人要錢啦，恐嚇要錢啦，啊也曾經說如何騙人啦。諄（Hoooh），這邊也在撼（hám，猛擊或砸），那邊也在對人家用強、對人家用強。啊大家不敢出來。啊所以才……所以台灣人才這樣〔開始〕反感啦。

林：所以就是那時候你們看到中國兵這樣，才會覺得中國兵跟我們台灣人是不同的，我可不可以——

許：一開始是很歡迎。啊到後來不用一個月……

林：不到一個月的時候——？

許：啊報紙就〔報〕出來了。啊以前報紙乎，是李萬居在刊（發行）的，北港的李萬居。啊……跟這個李秋遠，蘆洲〔人〕，我剛才講過的喔。〔這〕兩個在刊（發行）。啊刊（發行）起來乎，啊國民黨，它們都敢說不爽的壞話，它都刊說哪邊又怎樣，啊中國時報……《中央日報》它就不會刊這種的。之後，後來乎，到蔣介石來〔的時候〕乎，戒嚴宣布了，報紙都禁。啊李萬居《公論報》，他沒在怕，他背後有美國總統，尼克森。啊一個蘆洲那個……蘆洲那個……叫做李秋遠他們那時候的，姓這個……名字我不記得了，那個……好像是《新生報》。啊《新生報》〔也〕在刊這種，啊所以他……才會說，〔報紙〕禁起來之後他又刊起來，刊像那種哪裡又在對別人用強，就被陳儀乎，派兵去他家啊，抓去馬場町槍殺。馬場町你知道嗎？馬場町你不知道？

林：我不知道，我什麼——

許：台北若要槍斃台灣人，以前都在……二二八事件都在溪邊啦、在路邊、車站啦，啊二二八事件之後要槍殺乎，白色恐怖乎，若全省抓的都抓到警備總部啦、保安司令部，以前保安司令部，啊抓來的都〔判〕死刑。問一問就都推到馬場町啦。台北「馬場町」你不知道喔？很有名的。那個馬場町是日治時期的跑馬場啦，啊在……「馬場町」你不知道喔？

林：可以寫給我看嗎？漢字寫做什麼？

許：啊「馬場町」啊，在日治時期就是馬場啊。

林：歹勢，因為我比較不擅長聽台語乎。

許：反正是這個「場」，啊「町」。

林：喔喔（Ooh-oo）。

許：槍殺人的地方啦。你不要說寫槍殺，槍殺就是怎麼樣，你若報紙若寫出來，馬場町什麼人什麼人。啊那個黃昭堂你知道嗎？也有這個，國防部，國防部軍法局的局長，黃昭堂，那些如果說比較大的官犯到……後來都槍殺，士兵也槍殺。啊黃昭堂，也是在那邊被槍殺的⁴¹。黃昭堂很有名的，報紙有刊出來喔，我才□□□。

〔中略〕

林：我剛剛不是問說，就是從早上問了一些電影的事情還是說^{まんが}漫畫的事情這樣嘛乎，啊你在……就是你在想日本時代，你在回憶的時候，你是抱……你是用著什麼樣的心情在回憶的咧？

許：回憶？

林：嘿、嘿。

許：我就是照著日本時代、囡仔（gín-á，孩童）時代，讀完幼稚園那時候出來，啊聽長輩在說話，說日本比較好啦。較早以前中國人還沒來〔的時候〕乎，日本時代他就說，不時在說中國人垃圾鬼（lah-sap-kuí，髒鬼）。我們這邊有人去……有台灣人去日本……去中國當中國士兵⁴²啦乎，啊殺死中國兵，那種海南島也很多，回來後有說，說很垃圾（lah-sap，不乾淨）啦，查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）也很垃圾（lah-sap，不乾淨）啦，海南島啦。

林：沒啦，我是……我是問——

許：啊很垃圾（lah-sap，不乾淨），就印象很差啦。啊壞了！（拍手背）國府來了，慘了（拍手背），被這種人來管理了。

林：嗯，啊所以——

許：也有在說，說壞了，被這種人來〔管理〕了。

林：就是你現在，想到日本時代的事情，你的心情是如何的？

許：我會覺得很好。

林：很好？

⁴¹ 黃昭堂於 2011 年病逝。

⁴² 推測為口誤，應指「去中國當日本兵」。

許：哈（Hannh），很好。

林：很好是因為，是有什麼樣的理由咧？

許：因為日本人乎，日本精神比較……比較正。

林：比較正？

許：哈（Hannh），比較正〔派〕，比較不會……比較不會這樣，講話比較不會起起落落（khí-khí lóh-lóh，反覆無常）。日本精神比較正〔派〕，也不會欺負人，比較不會欺負……弱肉強食，比較不會。

林：是不是治安比較好這樣？

許：啊治安也比較好，治安〔好到〕沒有賊。諱（Hoooh），日治時期沒有賊的，若有賊〔被〕抓到，他都怎麼樣，我有看過啦，他現在不是用手銬，他用一種……那種紙糊的帽子，把你蓋到這裡。

林：蓋到差不多脖子這邊？

許：啊眼睛這樣遮著，這樣意思你有聽懂嗎？〔意思是〕說你做錯事情乎，來〔被〕關。但你現在在用綁著的，大家都□□*（tian-si，推測應為「展示」）出來啊，啊這個以後出來沒人耍理他。日本人會照顧說，你出來可以再改（改過自新）。

林：喔喔（Ooh-oooh）。

許：改好一點，但是讓你……

林：等於教育他這樣，是不是？

許：讓你不會歹勢，不然出來後大家會說：「哎喲！這是賊！這是賊！」做壞事。乎，這我親眼看到的喔，啊很近啊。欸！啊怎麼……那繩子乎，有稍微綁著，沒綁會讓他跑掉。用繩子乎，這樣綁著，但是他〔犯人〕都跟著走。啊跟著，繩子沒有用牽的，放在□□□*（thong-kui-a），拈（ni，捏、拿）著這樣走。啊你若突然相閃身（sio-siám-sin，擦肩而過），你也知道〔是誰〕。我就突然相閃身看到：「欸！啊怎麼戴一頂帽子？」啊就□□了：「啊，那是我的鄰居。」是壞人。賭博的也這樣，賭博被抓到也會打，賭博的。

許：做賊的如果〔被〕抓到〔會被〕打得很忝（thiám，慘）喔，做賊乎。啊以前乎，壞人乎，像

做這種對查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）的暴行乎，沒有人敢。諄（Hoooh）！那〔如果〕抓到乎，〔會被〕活活打死啦，很嚴啦。

林：啊，我想要問說，你現在最常用的語言，是台灣話嗎？

許：啥（Hannh），我台灣話啊。

林：台灣話？

許：啥（Hannh），我愛台灣話，愛台灣。

林：沒有沒有，我是問說你現在最……最常說的語言……

許：都〔說〕台灣話。

林：是……都是台語？

許：啥（Hannh），啊若遇到會講日本話的人，我喜歡說日本話。

林：喔喔（Ooh-oooh）。

許：啊那種會講日本話的人，能講整套的很少了啦，越來越少了啦。

林：你有學過說，現在說……就是那時候講的（所謂的）北京話嗎？你有學過嗎？

許：我不〔想〕要讀。戰後我不要讀。

林：但是……但你不是說你戰爭——

許：我會，但我是不要讀。

林：啊北京話是在哪裡學的？

許：北京話就是〔在〕北港，北港的地方沒有，來台北學的。

林：來台北才學的？

許：來台北……我就跟你說過，〔來台北時〕住在福華飯店，你有看到嗎？啊福華飯店都是日本人在〔住〕，但是你有時候也會遇到華僑啊，遇到華僑你不說……不會說北京話的話怎麼辦？

林：所以你剛剛說你日本時代是——

許：〔北京話〕不正（標準）啦，發音不正（標準）啦。

林：嘿，你日本時代是讀到……欸……高等科二年級嘛，

許：哈（Hannh），到二年級。

林：啊戰後你有繼續讀三年級嗎？

許：我不〔想〕要讀。

林：就不〔想〕要讀？

許：啊那三年級是我大姊要跟我〔說〕：「你若有讀高等……你若……」台南師範乎，都日本人在讀啊，台灣人〔只有〕一個半個。啊日本人回去乎，啊〔台南師範〕空空空啊。啊我大姊在當老師啊，說你直接進去就行，不用考，你考了又不去念啊。啊我老師……我不想當。你查埔……查埔囡仔（tsa-poo gín-á，年輕男孩、男孩子）當老師，跟那些孩子盤攔（puân-nuá，交際應酬，此處應指培養感情）怎麼會有效？

林：啊你日本時代最常講的話（語言）是日本話嗎？

許：哈（Hannh），就講日本話。

林：啊在家裡不會講台灣話嗎？

許：啊，家裡講台灣話。

林：啊在家裡跟爸爸是講日本話還是台灣話？

許：台灣話。但是我老爸都跟別人講日本大人……大人的日本話啦，啊囡仔（gín-á，小孩、兒童）日本話，我們小孩不一樣。啊我們都愛聽戰爭的事情，聽我老爸跟我四叔公啊，我四叔公在當壯丁團團長，啊日本的警察不時來找他啊。啊〔警察〕來時，都湊一桌啊，啊我們小孩在他們在講話，我都在那邊聽啊，〔我的日語〕在那裡培養起來的。啊我大姊，大姊又是師範的啊，學生又都〔講得〕べらべら（流暢），べらべら你知道嗎？講日本話，啊就在那邊學起來的，在那邊學起來的。

林：嗯，所以台灣話……你跟你兄弟姊妹是說日本話還是台灣話？

許：台灣話啦！我們那邊……哈（Hannh）。

林：台灣話？跟媽媽也是說台灣話？

許：台灣話啦。啊老爸也會說日本話，但是講日本話講得比較奇巧（kí-khá，奇妙、少見）的〔說法〕，我老爸才會講給我們聽。

林：喔喔（Ooh-oooh），但是若說是平常時候——

許：他會說……他會說玉井事件、噍吧哞事件，給我們聽，噍吧哞事件。我若在說乎——

林：你若說……他若說噍吧哞事件，是用台灣話還是講日本話？

許：講日……都用台灣話。

林：都講台灣話。

許：噍吧哞事件乎，□□*（lák-tshuan，有可能是指「6村」）乎，玉井你知道嗎？

林：我知道，我們家是玉井人。

許：啊夭壽囉！啊講……你們玉井有□□*（lák-tshuan），□□*（lák-tshuan）被日本人殺到沒半個人。啊你知道噍吧哞事件就在那邊。

林：我知道、我知道。

許：你有聽過喔？

林：我有。現在那個玉井的糖廠啊，就有做一個噍吧哞的紀念館。

許：乎，啊我就知道了。

林：嘿、嘿、嘿。

許：啊我從小就有聽我老爸在說，噍吧哞事件乎，啊我四叔公乎，在做壯丁〔團〕的團長乎，啊也〔也有被〕調。日本兵殺警察殺光了，警察被日本人殺光，有殺死 1、200 個喔。啊後來日本才派聯隊去，台灣聯隊去，啊台灣聯隊就是士兵啊，啊民軍，啊戰很久喔。啊後來聽說才……聽說才又從□□□那邊打上來才合著（包圍）喔。所以後來噍吧哞事件□□*（lák-tshuan）才全滅，我聽我老爸在說的。說連囡仔（gín-á，小孩）乎，查埔（tsa-poo，男人、男性、男生）查某（tsa-bóo，女人、女性、女生）都殺死啦，啊連囡仔乎，丟著，啊用□□□下去□。那是我四叔公跟我說，說是日本人跟他說的喔。日本人有的派去當兵啊，〔從〕台灣調去啊，調去當兵啊。像我們現在有事情就調兵。啊那邊……那邊回來跟我四叔公說的，平平在做……他跟我四叔公說：「很可憐，實在〔是〕。」啊不然這樣〔不做〕也不行，命令啊。啊大人都剃（phup，用刀砍）死啊。啊一個去日本乎，留學的有沒有？噍吧哞事件，留學的，去日本讀書，中學……啊大學的也吊起來殺、吊起來掙（sut，鞭打、抽打），

都猝脖子。啊但是怎樣，但是……那個玉井那邊有個車站有沒有？啊車站以前……以前〔聽〕說都埋一窟一窟在那。啊我就是那時候住在，住在福華飯店乎，啊我們門口的狗乎，日本時代的狗乎，都合落（háp-luēh，咬下去）有沒有？禱先合落。啊現在換李登輝當市長的時候乎，要裝骨起來，啊要□□。啊那些貿工（bāu-kang，承包、包攬）的人乎，貿工的人在講給我們聽，啊我剛好在那邊，在□*（án），剛好講給我們聽。說他也……他也有去參加下去挖〔骨頭〕。他就是那個，噍吧哖那個車站，以前沒有，啊他那個車站要去做，他是貿工的，做工事他貿（包攬的）的。啊貿下去乎，說骨頭乎，白骨頭整個〔都是〕，白骨頭說撿了兩個布袋。

林：兩個布袋？

許：兩個布袋的白骨啦。那些殺死就這樣丟著啊，啊有的爛掉，粗骨頭還在。細骨頭爛掉了，粗骨頭說撿了2個布袋。〔這〕兩個布袋說是用了一間廟，把他們放在那邊看——

林：啊，那個可能是我阿祖以前有在拜的廟，好像有這個廟這樣——

許：說是那邊的人在拜的。

〔中略〕

許：我是在說噍吧哖乎……

林：嘿，啊歹勢，我問一些別的問題好嗎？就是你日本時代在學校的時候，不管是說幼稚園還是說國民學校，還是你後來的讀那個高等科的時候，你在學校都是說日語嗎？

許：啥（Hannh），學校都……講台語會罰喔！

林：嘿，啊學校的先生都是台灣人還是日本人比較多？

許：一半一半。

林：一半一半？差不多一半一半？

許：欸……沒有，台灣人差不多三分之二，日本人差不多三分之一。日本人是正老師（正式老師）的，「訓導」的〔老師〕。

林：嘿。

許：「訓導 (hùn-tō)」你把它寫下來。日本老師就是台南師範學校讀出來的叫做訓導^{くんどう}，「訓導 (hùn-tō)」是正老師。

林：「訓導 (hùn-tō)」。

許：訓就是訓，訓，訓導。這個很少人會講喔。訓導乎，「訓導師」啦，乎，它以前不是講老師啦，以前說「訓導 (hùn-tō) 先生^{せんせい}」啦乎。

林：「訓導先生^{せんせい}」？

許：啥 (Hannh)，訓導。啊訓導^{くんどう}啦，訓導^{くんどう}啦。

林：訓導先生^{くんどうせんせい}。

許：訓導^{くんどう}啦，訓導叫做訓導^{くんどう}啦。

林：你說這些都是日本人？

許：啥 (Hannh)，這些，啊也台灣人也有，比較少。

林：比較少？所以差不多三分——

許：台灣人去讀的乎，就〔要〕很會讀書。啊若是國民學校去讀的，要讀 7 年，7 年的喔。國民學校 6 年的乎，啊你若〔一般〕中學讀 4 年、5 年啦，它那個要讀 7 年的喔，7 年〔畢業後〕要教〔書〕的啊。啊若高女的乎，高女的去讀的乎，助教，助教 5 年而已。高女的……去的乎，在戰爭〔的時候〕，高女的四、五年級的去讀，讀 1 年或 2 年而已。那個分成兩種，助教。啊若訓導的、正老師是……師範的，台南師範一間，高雄師範一間，啊台中師範一間，新竹師範，啊台北師範兩間，一間是日本人讀的，我們台灣人沒……第一師範台灣……台北人日本人在讀；啊第二師範的，就是台灣人在讀的，分成這樣。

林：嗯，啊你戰後就是……跟戰爭……應該是這樣講，跟日本時代比起來，你戰後乎，你看電影的方式有改變嗎？就是……好比說，你都是在電影院看的嗎？還是說你對電影這個媒體是什麼樣的想法？還是說乎，你以前就是這樣會去偷看電影嘛，在日本時代的時候，啊在戰後是〔用〕什麼樣的方法？

許：啊戰後，戰後就……那時候我〔是〕大人了啊，啊大人就會賺錢了啊。啊進去我在隔壁乎——

林：就是買票進去嘛。

許：啥（Hannh），買票，也是一半跟日本人，一半一半，一樣。啊會起價（漲價）啊，諱（hooh），像今天……

林：你說一半一半是？

許：小孩一……小孩好比說是大人的——

林：小孩子一半，大人一半——？

許：〔大人〕10 塊，啊小孩 5 塊這樣的意思啦。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

許：啥（Hannh），啊有限啦，限到 7、8 歲，啊約 10 歲去就要錢。但是識識（hām，虛而不實）啦，在顧票口的，都放給人家〔超過年齡限制的〕過。

林：喔，啊所以你都戰後也是都在……欸，電影院看的？乎，電影是都在電影院看的——？

許：啥（Hannh），看那個大漢（tuā-hàn，年長的。此處指大人看的電影）的啊。啊我白天做功夫生意（技術活）啊，我做綠豆粉、做細麵啊。啊做完 5 點再去媽祖宮有沒有？去北港媽祖圖書館去租日本雜誌啊。戰後、光復後也有一個小姐在顧，顧那些日本雜誌。

林：戰後也可以看日本雜誌——？

許：喔！整個喔！大家都愛看喔！

林：喔喔（Ooh-ooh）。

許：戰後那些，有的去海外回來，有的去日本。啊（咳嗽）……要拿回來看乎，戰後可以，〔但〕要錢給它扣。好比說這本書乎，若 100 塊乎，啊你 100 塊給它押著，啊拿去看，啊〔回〕來再〔還〕100 塊給你啊。戰後很多喔！

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣喔！

許：啊那個地方乎，到白色恐怖你知道乎？白色恐怖之後乎，國軍來台……二二八事件過身（kuè-sin）……二二八事件還很多人看喔，二二八事件那時候白色恐怖，那邊的書就〔被〕鎮公所搬去……搬走，不敢拿。拿在手上乎，被蔣介石的那種兵看到喔，啊就慘了。

林：所以你在日本時代跟戰後，你對這個，電影這個媒體是怎麼樣的想法，有沒有改變？

許：改變是……若日本時代的電影，戰爭的乎，到戰後也有濫（lām，摻、混雜）著來啊，有濫……

林：你說戰後也可以看到日本的戰爭片？

許：沒有，日本的影片也有進來。

林：喔，影片也有進來。

許：也有進來、也有進來。啊濫濫咧（lām-lām-leh，摻在一起）啊。

林：濫濫咧是什麼意思？

許：像……好比說那個《^{あお}青^{さんみやく}い山脈》乎、啊《^{むすめ}バナナ娘》乎，要……主題要演這個乎，但是要開始的時候，〔只〕放一點點這樣給你看。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

許：之後才、啊這樣才有人要看。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

許：啊這樣才有這些〔受〕日本教育的這些人〔要看〕，都台灣人、日本教育的。啊若中國人電影、外省電影沒人要看（拍手背）。

林：啊你戰後在看電影的時候你都是自己去看的嗎？還是跟朋友？還是跟家人？

許：自己來看就好了啊！拍票（phah-phiò，買票）就好了。有的〔會〕相約啦、有的相約，「喔！喔！那個……我們來看，我們來看。」〔消息〕會報來報去。

林：你說朋友會約你這樣？

許：啥（Hannh），朋友啦、厝邊頭尾（tshù-pinn-thâu-bué，街坊鄰居）啦，啥（hannh）（咳嗽），厝邊頭尾啦。阿草地人（tsháu-tē-lâng，鄉下人）比較少啦，草地人乎，素質比較低啦。

〔中略〕

林：啊！我想要問說，我還有準備一本梃仔冊（ang-á-tsheh，漫畫），也是日本時代的，想問看看說你有沒有看過。叫做……我看看喔……叫做《^{ぼうけん}冒險^{きち}ダン吉》。

許：（看向平板螢幕）^{ぼうけん}冒險^{きち}タンス啦。

林：ダン吉^{きち}啊。

許：冒險^{ぼうけん}啦乎。

林：嘿，《冒險^{ぼうけん}ダン吉^{きち}》。

許：啥（Hannh），冒險^{ぼうけん}タンス這曾看過啦。啊這些小孩都愛看這種。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊這種你是說「^{えほん} 仔書」——

許：^{えほん} 仔書啦。

林：……說「^{まんが} 漫画」還是「^{えほん} 繪本」？這種的。

許：這種的喔，叫做「^{えほん} 繪本」。

林：這種就叫做「^{えほん} 繪本」？

許：不是「^{ざっし} 雜誌」，〔是〕「^{えほん} 繪本」。「^{ざっし} 雜誌」的比較深，「^{えほん} 繪本」，^{えほん} 繪本就是小孩子在看的。

林：這樣我了解了，好。

許：這種是^{えほん} 繪本。都是小孩子，你看，^{えほん} 繪本啦，^{えほん} 繪本啦、^{うつく} 美しい^{えほん} 繪本（漂亮的繪本）啦。很好看的^{うつく} 美しい^{えほん} 繪本啦。

林：所以你是說你對這個名字有印象就對了？

許：啥（Hannh），啊「^{ざっし} 雜誌」是大人看的喔，啊這個「^{ぼうけん} 冒險」就是探險的，^{たんけん} 探檢啦。

林：嘿、嘿、嘿，我知道，我知道。

許：^{ぼうけん} 冒險^{ぼうけん} 歸冒險^{たんけん} 探檢^{たんけん} 歸探檢。冒險是冒險，啊探檢是去用探的，啊冒險是比較政治性的。

林：嘿，啊這個是不是のらくろ？

許：啥啦（Hannh-lah），^{こうだんしゃ} 講談社，對啦。のらくろ就是這樣啊。のらくろ就是……我在說的，穿^{ねずみ} 軍裝就是這樣。啊鼠乎，就是「^{ねずみ} 支那兵」啊。

林：「^{ねずみ} 支那兵」是鼠^{ねずみ} 喔？喔，沒有，因為我還沒看過全部のらくろ——

許：「^{ねずみ} 支那兵」就是中國人啦。

林：嘿，我知道，我知道，我不知道說它是畫什麼……

許：啊畫得人間不界啊。

〔中略〕

許：啊這，啊ちゃんころ就是，你如果說ちゃんころ會跟外省人吵架喔。不可以說ちゃんころ
喔，日本人取的。清國奴啊，ちゃんころ。

林：有，你剛剛有說。

許：不行不行，你若遇到外省人不能說ちゃんころ，會吵架喔。

林：好，我知道我知道，我會注意。

許：乎，啊若說^{しなじん}支那人他也會不高興喔，^{しなじん}支那人他們也說這是日本人在對他們□□* (kiong-
thinn) □□。

林：現在就要說中日戰爭乎？是……

許：中日戰爭，^{しなじん}支那事變啦，中日戰爭叫^{しなじん}支那事變啦。啊跟美國的戰爭叫大東亞戰爭啦，大東亞
^{せんそう}戰爭啦，^{だいてう あ せんそう}大東亞戰爭。

蔡焜霖 20210417

林：所以你是……1930 年在台中出、出生的？

蔡：台中清水。

林：清水嘛乎。啊……那時候清水是叫做……台中……？

蔡：州。

林：州，大甲……？

蔡：郡。

林：郡，那個字是念郡（kūn）乎？

蔡：對，大甲郡清水街。

林：清水街這樣，清水……清水街。

蔡：^{きよみずがわい}清水街。清水街。

林：家裡是做那個^{ひゃつかてん}百貨店的乎。

蔡：^{ひゃつかてん}百貨店。那陣子叫做「^{わようひゃつかてん}和洋百貨店」。和洋。

林：和……喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：「^{わようひゃつかてん}和洋百貨店」。

林：「^{わようひゃつかてん}和洋百貨店」。

蔡：はい（是）。

林：啊書裡面好像有說叫做梅（muê）芳。

蔡：嗯，梅（muí）芳。

林：梅（muí）芳

蔡：嘿，「梅芳商店」。

林：嘿，「梅芳商店」。那是同一間嗎，還是說？

蔡：對，同一間。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：「和洋百貨店^{わようひやつかてん}」というのは（所謂和洋百貨店是），它的……種類是「和洋百貨店^{わようひやつかてん}」，店的名字叫做……那個……「梅芳商店」。

林：梅芳，「梅芳商店」。

蔡：「梅芳商店」我あのう……〔是〕我們專門的店名啦乎。

林：嘿。

蔡：「和洋百貨店」是普通名詞^{ふつうめいし}，普通的名字。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

蔡：歸類（Kui-lūi）啦，歸類啦。

林：嘿、嘿、嘿。啊你，你有……10……包括你有 10 個兄弟姐妹，這樣乎？

蔡：對。6 個男的 4 個女的。

林：4 個都是姊姊嘛乎？

蔡：都是姊姊。

林：都是姊姊，啊有 3 個哥哥。

蔡：嘿，所以我第 8 個。

林：喔喔（Ooh-ooh），欸？不是說還有 2 位弟弟乎？

蔡：對啊，所以我第 8 個，還有 2 個就變做 10 個。

林：嘿。好，這樣你代……日本時代你是有讀〔過〕清水的幼稚園乎？

蔡：嘿，幼稚園。

林：幼稚園是在那裡讀 1 年？

蔡：嘿，1 年。

林：1 年而已。1 年之後結束就去，欸……

蔡：清水公學校。

林：公學校嘛乎。

蔡：清水公學校是……

林：第一公學校嗎？

蔡：哈（Hannh）？

林：第一公學校嗎？還是沒有第一就叫——

蔡：沒，沒「第一」。就只有清水公學校。

林：清水公學校。啊——

蔡：那時候小學是日本人讀的，台灣人讀的都叫做「公學校」。

林：公學校。

蔡：對，「清水公學校」。

林：啊我是有聽過……有說一段時間是所有的「公學校」就改成叫「國民學校」。

蔡：那是我五年級的時候。

林：你五年級的時候改成叫「國民學校」這樣。

蔡：對啊，就是那個……欸……太平洋戰爭開始之後。

林：嘿。

蔡：啊這個所有的學校都改成公學校。1941 年。

林：1941 年。

蔡：嘿。

林：是叫做「みなみこくみんがっこう南国民学校」乎？

蔡：ええ、そうです（對，沒有錯）。因為對面有一間小學校乎，它改成「きよみづこくみんがっこう清水国民学校」。啊我們在他的南邊，先是注重它，再來我們變成「みなみこくみんがっこう南国民学校」。

林：なるほどですね（原來是這樣）。「みなみこくみんがっこう南国民学校」。

林：啊畢業之後就進去台中一中。

蔡：一中。嘿。

林：那個時候是叫做說第一中……第一……名字是叫做什麼啊？

蔡：「たいちゅうしゅうりつたいちゅうだいいちちゅうがっこう台中州立台中第一中学校」。

林：中……那個時候是「ちゅうがっこう中学校」嘛乎。那個戰爭之後是它是變成高中嗎，是這樣嗎？

蔡：分做高中跟初中。分做……我們那個時候分成高中跟初中，所以一貫，我進去高中也是一貫

嘛乎，這樣。但是到後來卻就變成完全高中而已了。那是後來。

林：後來是差不多什麼時候？

蔡：不知道欸，忘記了。我不知道。

林：不然樣我再去查一下。

蔡：對，那時候你要去查。

林：嘿、嘿、嘿，多謝多謝。

蔡：因為我們那時在讀的時候，還是那個……高中、初中而已。

林：高中、初中就有這樣。

蔡：嘿，我們下面也還有好幾班。

林：所以是……就是戰爭之後也是在一中讀——

蔡：對，對。

林：2年？是不是2年？還是3年？那是都……

蔡：高中讀3年啊。

林：高中……3年嘛乎。

蔡：我就……那個戰爭結束的時候是在……^{ちゅうがく ねん}中學3年嘛，中學三年〔級〕啊。

林：嘿、嘿、嘿。所以——

蔡：啊三年〔級〕所以〔原本〕隔轉年（*keh-tng-nî*，明年、隔年）……應該是隔轉年的3月就三

年〔級〕結束，啊4月開始就要變成四年〔級〕的毋（*--m̄*）？但是沒變成四年〔級〕的。3

月……3月沒結束，它的學期是從9月開始嘛。

林：嘿，那個時候〔已經〕是9月開始？

蔡：中國制啦。我們的時代是4月開始嘛。

林：4月開始嘛——

蔡：日本時代是4月開始，所以3月時應該就要……4月就要升四年〔級〕了乎。啊沒升，這個三

年〔級〕讀到6月，啊才算初中畢業。我們是變成戰後，初中第一期畢業的。在台灣所有的

地方都一樣啦。那時候三年〔級〕的乎，後來煞（*suah*，怎麼、哪有；竟然）變做……中學

三年〔級〕煞變做……都是第一期初中畢業的。

林：嘿。原來是這樣。

蔡：到 6 月才畢業，所以多讀了 3 個月。

林：(笑) 對乎。

蔡：多讀了 3 個月。

林：好。這樣——

蔡：啊讀那個……然後才被人送去夏令營毋 (--m) 乎？青年夏令營。

林：嘿。

蔡：受……那個……

林：訓練。

蔡：訓練，回來。啊我們在那個夏令營的中間，它在暑假的中間嘛乎，已經高中的考試已經考過了乎。但是我們回來當作它模範生表揚嘛，所以就直接直升高中，這樣。還有官派的級長 (kip-tiunn)。

林：級長？

蔡：我們現在是叫「班長」的，那個時候是叫「級長」^{きゅうちょう}，級長。

林：那個時候也不——

蔡：已經變做中國時代了啦乎。但是我們原仔 (uân-nā, 也) 叫做「級長」，到之後才變成「班長」。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，是這樣喔。啊你在這本書¹有說到說，那個……^{こくみがっこう こうがっこう}国民学校跟公學校的時候的生活這樣啦。

蔡：嘿，對。

林：啊那個時候是一個年級都差不多是 4、5 班這樣嗎？

蔡：欸，我們就固定……清水那個……公學校那個時候是固定都 5 班。

¹ 指《逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史》一書。

林：5 班。

蔡：啊其中 3 班是查埔囡仔（*tsa-poo gín-á*，男孩子），2 班是查某囡仔（*tsa-bóo gín-á*，女孩子）。

林：就分開上課這樣。

蔡：欸分開，嘿。

林：那個時候有說，清水有說全部都是查埔囡仔（*tsa-poo gín-á*，男孩子）在讀的啊？那個公^{こうがっ}學校？

蔡：沒呢（--neh）。

林：沒？

蔡：因為清水公學校就最大啊乎，它的本身就是這樣啊毋（--m̄）乎。其他的還有三田公學校啦乎、大秀公學校乎，這都在清水街裡面的啦乎。但是原仔（*uân-nā*，也）是一樣，制度是一樣，變做說看幾間是查埔（*tsa-poo*，男生）的、幾間是查某（*tsa-bóo*，女生）的乎，可能大秀囉、三田囉較沒那麼多間，一樣乎。但是……原仔是分開啦，沒有完全查埔的，也沒有完全都是查某的，都有的乎。初等教育都是鼓勵說，後來查某囡仔（*tsa-bóo gín-á*，女孩子）就原仔（*uân-nā*，也）要來讀嘛。不然傳統的，台灣是查某囡仔沒讀書喔。

林：這樣有分成說可能查埔囡仔（*tsa-poo gín-á*，男孩子）的班級都是查埔（*tsa-poo*，男人、男性、男生）

的老師這樣？有嗎？

蔡：沒。

林：老師是都一樣這樣？

蔡：嘿，老師也可以……都可以教啦，〔不管〕查埔（*tsa-poo*，男人、男性、男生）的查某（*tsa-bóo*，女人、女性、女生）的乎，都可以來教。

林：啊那時候——

蔡：我們也有查埔（*tsa-poo*，男人、男性、男生）老師過啦乎，也有查埔老師。啊查……查某囡仔（*tsa-bóo gín-á*，女孩子）班那邊也有查埔老師。查埔老師較多嘛，所以兩面乎，他們那查某囡仔那邊查埔的老師很多。

林：所以查某囡仔（*tsa-bóo gín-á*，女孩子）班那邊就是查某（*tsa-bóo*，女性、女生）……查某人（*tsa-bóo-lâng*，女人、女性）的老師較多嗎？這樣？

蔡：不一定呢（--neh）。

林：不一定喔？

蔡：因為整個的總數量是……老師的總數量是原仔（*uân-nā*，也）查埔（*tsa-poo*，男人、男性、男生）的比多——

林：喔喔（*Ooh-oo*），原來是這樣。

蔡：所以查某囡仔（*tsa-bóo gín-á*，女孩子）〔的班級〕原仔（*uân-nā*，也）不一定是查某（*tsa-bóo*，女人、女性、女生）的老師較多這樣。因為查某的老師也可以教查埔（*tsa-poo*，男人、男性、男生）的毋（--m̄）？所以總數量女生的就較少啦，這樣……是乎。

林：若這樣，公學校的老師是日本人較多，還是台灣人較多？

蔡：我們那個時候是已經台灣人較多了。

林：台灣人較多。

蔡：因為這個……變成日本統治是……統治是 1895〔年〕嘛。我們去讀的時候是……一年〔級〕的時候，就 1937 年了呢（--neh），37 再加 10……那時候是五年〔級〕嘛乎，已經日本統治已經 42 年的時候，我才進去公學校啊。乎，もう（已經），已經都很……制度都很穩定的時代了。

林：嘿。所以清水那邊有しょうがっこう小學校嗎？就是日本人——

蔡：有，有しょうがっこう小學校。有一間しょうがっこう小學校。

林：一間而已嗎？

蔡：對，一間，一間而已。那個しょうがっこう小學校到最後就變做「きよみずこくみんがっこう清水国民學校」嘛。

林：はい（是）。啊！剛剛說的那個。

蔡：我們那就變成「きよみずみなみこくみんがっこう清水南国民學校」，啊這個戰後它煞（*suah*）變做「清水中學」。

林：「清水中學」。

蔡：啊現在是變成「清水高中」。

林：喔喔（*Ooh-oo*），現在的清水高中就是那時候的——

蔡：對、對，就是那時候的「清水小學校」，後來戰後變的，戰後就沒有日本人的學校了嘛，它就變成「清水中學校」。啊「清水中學校」最早是初中的，後來有高中的，現在就變成也是完全高中的。應該是這樣子乎。

林：好。若這樣，就是說住在清水的日本人差不多有多少？講有多少也可能一點難解釋乎？

蔡：不知呢（--neh），不知……。就要看統計，那時候的統計。我沒那時候的統計。

林：若這樣，就小時候的時候，你有沒有日本人的朋友？

蔡：沒咧。不過，我的舅舅乎，本身就是後來歸化成日本人，彼當時（hit-tong-si，那時候）。在我們清水在做牙膏的醫生嘛。啊我們のおばさん（舅媽）就日本人，2個囡仔（gin-á，小孩、兒童）也做日本人嘛乎，〔有〕日本人姓這樣。其他……應該沒有日本人的朋友，乎。啊是後來，我們隔壁來一個日本家庭來租啦乎，那日本人。因為那個時候說要做台中港，叫做「にいたかこう」，「新高港」。

林：嘿。

蔡：啊那時候有日本的技師來租在我們那邊隔壁那間房子，一個おばさん（阿姨），日本のおばさん，啊對我們也真好，那才有日本朋友，是……差不多這樣而已。

林：那個日本おばさん（阿姨）她有生囡仔（gin-á，小孩）嗎？

蔡：有，有囡仔（gin-á，小孩）。但是年紀很小，比我們還要小，那個日本おばさん（阿姨）就比我們老母（lāu-bú）還要更年輕，所以那囡仔還沒有長大乎。啊我常常也被她叫我去……我在讀小學的時候，就叫我要去陪他們……她那先生常常不在的乎，常常要出張（tshut-tiunn，出差）囉，常常去在那個……港口在那個……做那個的時候乎，啊晚上沒伴，啊叫我們囡仔跟他乎，給他在那邊……

林：在顧啦乎。

蔡：那おばさん（阿姨）顧家這樣，那おばさん真優しいおばさん（那阿姨真是一位溫柔的阿姨）。

林：啊他們也是戰後就回去日本了這樣乎。

蔡：戰……戰後就回去〔日本〕了。啊我們那個……舅舅嘛乎，我們那個日本舅舅，那時候改

〔姓〕做鈴木。鈴木這家也是還是戰爭的時代就……之後也是去日本，他想要再研究更深一點咧，回去日本又去進修，啊可能到日本也算起家（khí-ke，成家立業）啦，他是……啊戰後才又回來。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。好。若這樣我還有一些……我先問電影的問題好了。

蔡：好。

林：你在日本時代……因為前次也有跟你問嘛乎，你說你有看過那個「チャンバラ」（武打片）？
乎？是嗎？

蔡：嘿，「チャンバラ」很多啦。

林：嘿，所以有看過電影嘛乎。

蔡：嘿。

林：啊那個時候的電影都是日本製的嗎？還是說有說美國？

蔡：我們看的日本製的較多，我日本製的較多。有時候美國片會進來，很少，日本片較多。上代先（siōng-tāi-sing，一開始）是那個……「無声映画」，沒聲的。之後才有「トーキー（talkie，有聲電影）」，這樣。

林：嘿，啊所以是……你看電影都是在那個電影院看的嗎？

蔡：我們那邊叫做「清水座」，「清水座」。

林：喔喔（Ooh-ooh），「清水座」。那是像說「戲園（hì-hîng，戲院）」那樣的嗎？

蔡：對、對，「戲園（hì-hîng，戲院）」。

林：啊是會演電影以外的東西嗎？

蔡：也有表演，也有……但是普通都放電影較多。啊有其他的表演，搬戲（puann-hì，演戲）啊，
可以那個的……清水座。

林：搬戲（puann-hì，演戲）。搬戲是……？

蔡：搬……演戲。

林：嘿，搬……搬戲（puann-hì，演戲）是……？

蔡：舞台戲或什麼。

林：搬戲（puann-hi，演戲）是演什麼樣的？是說「話劇」這樣還是說？

蔡：嘿，對對對。彼陣（hit-tsūn，那時候），嘿。

林：喔喔（Ooh-ooh），電影較多啦乎。

蔡：嘿，電影較多。

林：啊有在學校看過電影？

蔡：欸有。我們那時候的……好像也不知道幾個月一次乎，可以……學校，我們有一個禮堂，叫做

「^{こうどう}講堂」，「^{こうどう}講堂」，「^{こうどう}講堂」。講堂到現在還在，^{きよみずこくみんがっこう}清水国民学校的那個講堂到現在還在。那個
建築不錯，真大間乎。欸……啊^{こうどう}講堂有當仔（^{う-tang-á}，有時候）可以〔在〕^{こうどう}講堂來搬
（puann，演出、放映）電影。

林：那是在上課的時候放的，還是說是差不多禮拜（lé-pài，星期天）乎，大家休息的時候在放的？

蔡：有當仔（^{う-tang-á}，有時候）是上課的時候，啊……刁工（thiau-kang，專程、特地）集合來去看的。有當仔是這個……休息日來放，或是晚上來放。

林：你說平時……平常可能禮拜一……禮拜一到禮拜五的晚上來放，這樣？

蔡：嘿對，有可能。

林：那你還記得說放的內容跟電影院在放的電影有什麼不同？還是說差不多都一樣？

蔡：可能喔，那個……來到學校放的乎，那樣的像是描寫自然的、生物的……成長的過程とか（之類），那樣的較多。

林：那樣的較多。

蔡：嘿、嘿。我們的讀……像說讀生物課，生物啦，那時候叫做「^{りか}理科」，啊……好像沒叫做「^し自然」呢（--neh），沒叫做「自然」，說叫做「^{りか}理科」啦乎，啊「^{せいぶつ}生物」，那課是這樣乎，那樣的片好像較多，乎。去^{きよみずざ}清水座看的，那都是那個……是劇情的嘛。

林：劇情乎。

蔡：嘿，文藝的那個……電影，那種的。

林：文藝喔？

蔡：文藝毋（--m̄）乎。不然就——

林：啊有戀愛的電影嗎？

蔡：有啊，戀愛也，電影也有啊乎。尤其是……那時候出名的何があつたか（有些什麼）……（思考）啊等一下想到再講。我現在一些名詞囉、一些人名會忘記。

林：好，不要緊、不要緊。嘿啊，我們慢慢來。那有沒有看過說紀錄片這樣的？

蔡：紀錄片有。

林：是怎麼樣的紀錄片？戰爭的紀錄片還是說？

蔡：應該是戰爭的較多啦。

林：有別種的嗎？

蔡：還有這個戰爭のニュース映画（新聞電影）乎，到末期就是都……無論演什麼電影，〔都〕要先看這個戰爭のニュース映画，有這樣的情形過。

林：喔！所以是不管你要看劇情……還是——

蔡：對，其他的，對對對。

林：都……都要——

蔡：都要先給你播ニュース映画給你，這是後來，尤其是大東亜戦争乎，大東亞戰爭，就是說太平洋戰爭開始之後。

林：太平洋戰爭開始之後。

蔡：原本是那個支那事変，支那事変就中日戰爭啦乎。開始的時候，就是開始有那個……ニュース映画乎。啊ニュース映画就真……搬（puann，演出、放映）很多戦争的啦。

林：所以支那事変是差不多在 1937 年乎。

蔡：1937 年開始。

林：1937 年開始就，開始有ニュース映画，要看ニュース映画這樣。

蔡：對對對。

林：到 40 年代的時候，那個ニュース映画就較多這樣。是不是這樣？

蔡：1941 年以後就大東亜戦争啊毋（--m̄）？那時候ニュース映画就差不多每次去看電影都要看

了。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以 1937 年的時候——

蔡：是支那事變。

林：是……不是說每次看都會有，就是有時候會有這樣。

蔡：嘿。那時候較好看的電影也有，到後來大東亞戰爭就，後來就……心適（sim-sik，有趣）的電影就較沒有了咧。

林：心適的電影是像怎麼樣的電影？

蔡：像那個……戀愛小說的那樣的電影囉，還是說過去那個あのう……喜劇ですよね乎，喜劇那種的，像エノケンとか（榎本健一之類）、古川ロッパ（古川綠波）這種的——

林：古川ロッパ。書いていただけませんか。古川什麼？

（古川ロッパ。能幫我寫下來嗎？古川什麼？）

蔡：古川……普通はね、（在紙上寫字）「ふるかわロッパ」って読んでるんですけども、後來我看說，給它寫做「綠波」と書いとつたみたいだけれども、普通は「古川ロッパ」と読むんだつたね。それからエノケン。エノケンは本名が榎本けんきち——

（古川……（在紙上寫字）平常是唸「古川 Roppa」，後來我看說，好像給它寫作「綠波」的樣子，平常是唸作「古川 Roppa」。還有エノケン，エノケンの本名叫榎本健吉——）

林：健一。

蔡：え？けんいちかけんきち？

（欸？是健一還是健吉？）

林：けんきち？けんいち？榎本……

（健吉？健一？榎本……）

蔡：はつきり覚えてない。

（記不太清楚。）

林：不要緊，我等一下再來查。

蔡：けんいちだったか、けんきちだったか。けんきちけんいち……給你查啦乎。

(是健一還是健吉。健吉健一……給你查啦。)

林：好、好，我來查。

蔡：けんきちだったかな？

(是不是健吉啊？)

林：エノケン是不是那個時候有很多電影？

蔡：有，エノケン較多。到後來ふるかわ古川原仔(uân-nā, 也)不少，這些都喜劇きげき。

林：嘿，喔……喜劇就是會……大家看了會笑的那樣——

蔡：それから(還有)、外国がいこく的那個チャップリン(卓別林)他也很多啊。

林：啊，チャップリン也有。

蔡：對，チャップリン。

林：但是チャップリン的時候……チャップリン較早還是說エノケン較早？

蔡：較早。おな ころ同じ頃おほみたいおなに覚えてる(記得好像是同一個時期)。同じ(同樣)都是乎，都是我

們小學的時候。すべ全て(全部)、原仔(uân-nā, 也)小學生時代開始有那個トーカー

(talkie, 有聲電影)，有那個有聲電影以後，だから(所以)就變做，在我們的感覺是敢若

(kán-ná, 好像、似乎)同じおなような、同じおな じだい時代かんかくみたいな感覺(在我的感覺是好像同樣的、

同時代的感覺)，どうじだい どうせだい同時代、同世代這樣。

林：所以你是……差不多是……こうがっこう公學校開始，才開始看電影的這樣嗎？還是說幼稚園的時候〔就開始看〕？

蔡：そう(對)。……幼稚園まだ(還沒)……沒在看電影咧。

林：差不多是——

蔡：しょうがっこう小學校差不多兩、三年〔級〕才有じゃないかな(不是嗎，表推測語氣)。

林：兩、三年〔級〕。嗯，是這樣。啊那個電影的電影票是要怎麼買啊？

蔡：啊那老爸(lāu-pē)去買的。然後帶我們去——

林：都是爸爸媽媽買這樣？喔，是你爸爸買的？

蔡：嘿啊，啊帶我們進去嘛。

林：所以你看電影——

蔡：就要大人帶去的。到後來是學校，集體進去看的，有時候集體帶去清水座^{きよみずざ}給它看有什麼樣的

國策^{こくさく}に乎，

沿^そった映画^{えいが}（符合國策的電影）乎，那種的是帶去看のもあるけれども（也有）、普通家庭去是……我是都……〔我的〕老爸（lāu-pē）帶我去較多。

林：帶你去看是你們全家都去看，還是——

蔡：沒沒沒。

林：只有帶你？

蔡：〔爸爸〕有時候帶我哥哥嘛，有時候帶我啊。看誰較閒，有誰有在這樣。

林：差不多電影票的那個價——

蔡：哥哥他們長大……他們就，自己會去看了啊。我就都還小，就差不多是老爸（lāu-pē）帶去的較多。

林：那電影票是差不多多少錢啊？還是說不知道——

蔡：（故作誇張語氣）不知道啦！我又沒在付錢。

林：都別人付的？（笑）

蔡：對啊對啊，爸爸媽媽在發（huat，發落，處理）的。

林：喔喔（Ooh-ooH），是這樣。好，差……那電影的長度差不多是多久？

蔡：應該是差不多 1 小時以內嘛乎。

林：1 小時以內——

蔡：50^{ぶん}分くらいかな。

（是不是 50 分鐘左右啊？）

林：都是這樣長長的嗎？

蔡：沒有那個……沒有那個長到說 2 小時那麼長的。不知道，記不太得了……沒確實記得了。

林：啊有說較短的，就是較短的〔片〕大家一起放，可能放幾支這樣？有嗎？

蔡：好像較沒有。

林：較沒有？

蔡：沒，沒好幾個一起放的。我只有……去看的都是一齣一齣的。

林：一齣一齣的。那時候有分成說大人看的電影和囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）看的電影？

蔡：沒有分呢（--neh）……應該吧，所以都是老爸帶去，沒給你分做那個囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）電影、那個大人電影。可能是只有學校帶去的，帶去那邊看的就應該囡仔電影較多。

林：學校帶去看的電影的主題，跟你平常時候你爸爸帶你去看的主題，有什麼樣的不同嗎？還是都差不多一樣？

蔡：學校帶去的……*やっぱり*（果然）*国策映画*應該較多啦乎。叫做「國策電影」嘛。

林：嘿，*国策映画*。

蔡：嘿、嘿。應該較多でしょうね（吧）。

林：啊那是說你們要納（*láp*，付）錢嗎？還是說學校帶去所以就不用付錢？

蔡：不記得有〔沒有〕在付錢啦，不記得有沒有在付錢咧。那個囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）還是它有給大人法（*khioh*，收）還有沒有，我不知道的乎。囡仔是不……乎，學校老師把你帶去，我們也不用煩惱這個電影票，還是怎樣的乎。另外一個，我們那個清水街有一個「社會館」。

林：「社會館」。

蔡：嘿，「社會館」就是這個清水……那個……*きよみずがいのやくば*（清水街の役場（公所）の頂頭（*tíng-thâu*，上面），啊我們那個建物（建築物）也較，很大間乎。那麼……社會館的……我今天那個照片不記得……沒拿來，不知道說要那個……那個那邊也是有時候會辦一些活動，啊會放一些那個……那陣子較出名的電影，它們來，乎。

林：所以就是除了說學校跟電影……學校帶你們去看電影院，和學校在放的，還有那個——

蔡：還有「社會館」。

林：「社會館」在放。

蔡：「社會館」就變成招待鎮民嘛乎，招待鎮民在看的，那原仔（*uân-nā*，也）不用錢的較多啦乎。

林：不用錢……較多啦。

蔡：嘿、嘿、嘿。

林：是這樣。

蔡：我有記得去看這個デコちゃん²乎，あのう那個……何^{なん}という映画^{えいが}だったかな（叫什麼名字的電影啊）？えっと……《釣鐘草》較晚出來。《釣鐘草》の映画。

林：《釣鐘草》。

蔡：《釣鐘草》嘛乎，《釣鐘草》という映画^{えいが}があった（有過《釣鐘草》這部電影）。很出名嘛乎。那個主役^{しゅやく}也不知道？是不是那個デコちゃん乎，主役^{しゅやく}嘛乎。

林：是寫……？

蔡：釣鐘……（寫字）

林：あ、すみません。

（不好意思。）

蔡：はい、大丈夫^{だいじょうぶ}です。

（不會，沒關係。）

林：つりがね。

蔡：「かね」は這樣寫乎。

（「鐘」是這樣寫。）

林：草^{そう}ですね。くさの草^{そう}ですか？

蔡：はい、そうです。《釣鐘草》乎。それから這個「故郷^{こきょう}の空^{そら}」³とか乎。啊「故郷^{こきょう}の空^{そら}」の主題歌^{しゅだい か}が那個……確か^{たし}アイルランド⁴的那條……唱做：「夕空^{ゆうぞらはれ}晴れて 秋風^{あきかぜ}吹き（唱）」つて。あの歌^{うた}、主題歌^{しゅだい か}啦乎。啊那個主題歌^{しゅだい か}原來是那個アイルランドの……あのう……民謠^{みんよう}。なんとかなんとか乎，（哼唱旋律）啊它那個アイルランド都……あのう……少し^{すこ}……テンポと

² 指演員高峰秀子。

³ 為歌名。

⁴ 應是蘇格蘭民謠。

か言って……少し^{すこ}変わったね。ところが來到日本它把它改做『故郷^{こきょう}の空^{そら}』あの、就變做好像^{なが}長い……那個……そういう映画^{えいが}。啊加減就都……あのう……戦争^{せんそう}と関わってくるような……ように^{おぼ}覚えてます。那時候社会館^{しゃかいかん}放的，差不多這種較多。

（對，沒錯。《釣鐘草》。還有這個〈故郷の空〉之類的。啊〈故郷の空〉的主題曲是那個……好像是愛爾蘭的那首……唱做：「夕空晴れて 秋風吹き」。那個歌、主題曲啦。啊那個主題曲原來是那個愛爾蘭的……民謠，什麼什麼的啦，（哼唱旋律）啊它那個愛爾蘭都……有一點……說是節奏還是什麼……有點變化。但是來到日本它把它改做《故郷の空》，就變成好像長……那個……那樣子的電影。啊多少就都……和戰爭有關的……我記得是和戰爭有關。那時候社会館放的，差不多這種比較多。）

林：這是社會……社會……

蔡：「社會館」。

林：「社會館」放的嘛乎。這樣我寫一下，社會……（寫）

蔡：館。

林：（寫）社會……

蔡：館。まちなね（鎮上的）。

林：是這樣嗎？「社會館」。

蔡：嘿、嘿、嘿。今^{いま}でいつたら（現在說來），好像各地文化……叫做文化館諾（--hioh），很多各地現在有那個。那時候清水街有一個「社會館」。

林：所以「社會館」……你開始有看到「社會館」放的電影的時候，是〔你〕差不多幾年級的時候？

蔡：應該是已經五……四、五年〔級〕了耶。

林：四、五年〔級〕的時候開始。啊它是一直在放還是說有停過？

蔡：沒有啦，有時候才會放啦，沒常常在放，沒一直放。

林：嘿，有講說……

蔡：因為社會館的活動不是只有看電影而已，有時候〔有〕其他的活動喔。

林：嘿，我是說，有說後來就是 40 年代的時候，戰爭來就可能……那個……要怎麼說？^{ぼっぱつ}勃發？

蔡：^{ぼっぱつ}勃發。^{せんそうぼっぱつ}戦争勃發して（戰爭爆發）？

林：嗯，那時候社會館也有放電影嗎？

蔡：剛開始的時候是有啊，然後再來^{せんきよく}戰局越來越緊張乎，就^{よゆう}そういう余裕なくなってくるんです。尤其是後來^{くうしゅう}空襲^{おお}が多くなるともう沒有那個^{よゆう}余裕了。

（〔戰爭〕剛開始的時候是有啊，然後再來戰局越來越緊張，就越來越沒有那種〔放電影的〕^{よゆう}余裕。尤其是後來空襲越來越多，就已經沒有那個^{よゆう}余裕了。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣乎。啊你剛剛說有看過說那個無聲的電影。

蔡：對。

林：那無聲的電影是日本的電影但是無聲？

蔡：日本的電影。

林：啊那它有那個^{じまく}字幕嗎？

蔡：沒，^{かつべん}「活弁」。

林：「^{かつめん}かつめん」

蔡：「^{かつべん}活弁」。

林：「^{かつべん}活弁」……啊，「^{かつべん}活弁」就是「^{べんし}弁士」嘛乎。喔喔（Ooh-ooh），「^{かつべん}活弁」。

蔡：「^{べんし}弁士」。「^{かつどうしゃしん}活動写真」の「^{べんし}弁士」、だから「^{かつべん}活弁」と呼ぶ。

（「^{べんし}弁士」。「活動写真」的「^{べんし}弁士」，所以叫做「^{かつべん}活弁」）

林：啊那個「^{かつべん}活弁」是台灣人嗎？

蔡：看起來原仔（uân-nā，也）台灣人也多啦，啊有日本人——

林：也有日本人？

蔡：嘿，對對，「^{かつべん}活弁」乎。啊台灣人也有在做這樣。

林：那個時候說日本人是說「內地人」，還是說「日本人」？

蔡：^{ないちじん}内地人だよ（是內地人）。「日本人」我們也是日本人啊，台灣人也是日本人。現在是說「日本人」，但是那陣子是「^{ないちじん}内地人」。

林：就是這種內……

蔡：^{ないち}内地、^{ないち}内地，^{ないちじん}内地人。

林：「^{ないちじん}内地人」と「^{ほんとうじん}本島人」。

蔡：あ、そうです、「^{ほんとうじん}本島人」です。對。えらい。

（啊、對，是「本島人」。對。好厲害。）

林：（笑）

蔡：叫做「本島人」沒叫做那個……。

林：所以「^{かつべん}活弁」是「^{ないちじん}内地人」と「^{ほんとうじん}本島人」——

（所以「活弁」是「内地人」和「本島人」——）

蔡：^{ほんとうじん}本島人もあります。^{りょうほう}兩方。

（也有本島人，兩邊都有。）

林：^{りょうほう}兩方あります（兩邊都有）。若這樣他們都是用日語來做？

蔡：用日語。

林：喔，連台灣人的〔活弁〕也是用日語說嗎？

蔡：對，日語說乎。因為電影是日本來的乎，那陣子〔好像〕我沒看過台灣……台語電影耶。

林：沒看過——

蔡：有或無我不知道耶，但是我們囡仔（^{gín-á}，小孩、兒童）不曾看過啦。

林：啊那時候是差不多……就是電影院裡面的狀況啦乎，就是這……是放電影的スクリーン（銀

幕）對吧？人是坐在下面這樣嗎？（畫圖示意）

蔡：對對對。

林：啊那個椅子是自己找椅子——

蔡：沒沒沒沒。

林：那電影院——

蔡：沒，那固定的。電影院固定的椅子。

林：啊社會館咧？

蔡：社會館也是……有社會館的椅子。啊社會館的椅子好像較可以移動的啦，可以活動的。啊那個清水座的椅子是固定在那的。

林：嗯。啊如果說有「活弁」^{かつべん}的是都在電影院才有，還是說社會館——

蔡：電影院才較有耶。社會館那時候沒……都已經都變成那個了。社會館本身蓋起來較晚。

林：所以就放トーキー（talkie，有聲電影）較多？

蔡：所以後來就剩トーキー（talkie，有聲電影）了。它放的都トーキー了。

林：若這樣學校放的是也有「活弁」^{かつべん}嗎？還是都沒有了

蔡：啥（Hannh）？

林：學校放的那種電影。

蔡：沒呢（--neh）！

林：「活弁」^{かつべん}就差不多都在電影院這樣。

蔡：對，啊較早期嘛。學校來巡來那時候做已經差不多是トーキー（talkie，有聲電影）的時代了。

林：啊那「活弁」^{かつべん}的人是站在差不多什麼位置咧？如果說這是スクリーン（銀幕）（指向先前畫的圖），他是會站在會讓你們會看到他的地方嗎？

蔡：え……どうだったんかな。這……はつきりしない。好像不在……沒看到呢（--neh）。

（欸……是怎麼樣的呢？這……〔記〕不太清楚。好像不在……沒看到的樣子。）

林：好像沒有看到人。

蔡：只有聽到聲音。

林：聽到聲音。

蔡：嘿。

林：喔喔（Ooh-oooh），是這樣。

蔡：嘿，聽到聲音。座位坐在哪裡不知道，我記得沒看到乎……啊舞台には上がってないみたい咧（好像沒有上去舞台）。

林：啊那他們是拿マイク（麥克風）說話，還是說沒，就是他們較大聲說話而已。

蔡：有マイクでしょう（應該有麥克風）。有マイク（麥克風），那是固定的，不是手拿的乎，那種的。

林：喔喔（Ooh-ooh），那種的マイク（麥克風）。

蔡：嘿。

林：啊你們在看電影的時候，就是電影院，或是說你學校放的時……在學校放的時候，就……大家在下面看的人，會這樣聊天講話嗎？還是大家都安靜地在看？

蔡：好像都安靜的在看咧，好像沒在吵這樣。可以看電影是あの……^{めづら}珍しい（很稀罕的）那個啦，好像乎。說起來是好像較難得的機會乎，啊大家乖乖在看。說家裡說這樣老爸（lāu-pē）老母（lāu-bú）說要帶你去看電影，也是很罕有的事情嘛乎，所以大家……乎，不會說這種的，這樣吵來吵去、大聲小聲，不會咧。

林：若這樣說，會有說跟朋友的家庭一起約，就 2、3 個家庭一起去看這樣？

蔡：我沒有那個經驗。我都自己的老爸（lāu-pē）——

林：自己家裡的人一起去看這樣。

蔡：嘿。啊是好像說去到電影館才知道說，啊他也來乎，啊朋友也有來這樣乎。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊你要怎麼知道說，還是說你爸爸要怎樣知道說，現在在做什麼電影？

蔡：不知咧！大人怎樣乎，那大人會弄，他們大人沒跟我們講。

林：啊若這樣，所以我可能去年……前年，欸？已經是 19 年的事情了乎，我們在北海道大学^{ほっかいどうだいがく}已經是兩年前的事情了乎。那時候我有問過說，你有沒有看過說「漫画映画」^{まんがえいが}那種。現在想起來是……有嗎？

蔡：なかつたでしょう（應該沒有）。沒啦，沒。那時候沒……也沒迪士尼啦。

林：欸？好像是有ミッキーマウス（米老鼠），但是有在台中放沒有這我是不知道。

蔡：嘿。台中市有還沒有我不知道啦，清水好像沒有。だからミッキーマウスは……什麼時候かな……（所以米老鼠是……是什麼時候啊……）

林：可能……是不是戰後啊？

蔡：嗯……（思考）

林：還是說ミッキーマウス（米老鼠）有電影以外的形式在放？可能說……可能漫画……

蔡：漫畫，漫画、漫画。ミッキーマウス（米老鼠）可能知道它是透過漫画的樣子。

林：嗯。所以你們……那個時候你們爸爸媽媽對電影是怎樣的^{まんが}想法咧？不會說說禁……

蔡：也不會反對——

林：不會反對。

蔡：——也不會那個……啊但是也是真嚴肅的人乎，啊去電影院就要花錢呢（--neh）乎，所以沒有常常去。

林：沒常常去。

蔡：嘿、嘿、嘿。電影原仔（uân-nā，也）是一個贅沢品^{ぜいたくひん}でしょ（奢侈品啊）？也是一個較……奢侈的東西。

林：就是要家庭經濟狀況較好才能去看電影這樣乎。

蔡：也要有空，才有那個……

林：會不會說乎，你這次考試考得不……

蔡：（笑）不到這樣啦。沒有這樣，沒有這樣，沒那麼嚴重啦。

林：啊那時候看電影，你有了解說這個電影的內容是在搬（puann，演）什麼？有說ちゃんと理解^{りかい}してました（有說很理解內容嗎）？若說……不然我們分做說沒聲的電影跟有聲的トーキー（talkie，有聲電影）來說好了。

蔡：嘿、嘿。

林：那個沒聲的，因為沒聲音嘛，你只有看到那個畫面。

蔡：啊「活弁^{かつべん}」，聽「活弁^{かつべん}」的。

林：啊，聽「活弁^{かつべん}」。

蔡：那就較了解，較沒那個可以□□。但是如果是在學校在看那個生物的啦、理科的那個電影，看這個花怎麼樣乎，長大起來怎樣，在開花乎，那個……慢動作在開花。看到就說：「喔！」這個沒辦法可以乎……這個自然的，沒辦法跟現在拍的到那麼清楚乎，那個就很感動了。那較了解。

林：嗯，所以在學校放的那種理科的影片的時候，那個就是^{がくせい}學生みんなはなんかわざわざ……わざわざじゃなくて……ちょっと……なんといふかな？^{たいわんご}台灣語で言おうかな？（那個就是學生大家會特地……不是說特地……該怎麼說？用台語講好了？）那就是都是囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）嘛，啊是學生，所以會說看到這個真心適（*sim-sik*，有趣），就會發出一些聲音還是？還是都會互相說話這樣？

蔡：不會啦，不會互相講話。不過假使啊很那個的時候……〔會說：〕「わー！すごい！（哇！好厲害！）」那時候乎，可能會〔講〕出來啦。啊^{ふつう}普通也是大家乖乖地在看這樣。

林：都安靜、乖乖這樣看。

蔡：這都是跟老師一起去的啦，不過感動的時候自然會，聲音會出來啦乎。除了這我就說^{そう}騒々しくとか、そういうことはない（很吵鬧之類的，好像沒有這樣的事）。

林：啊在學校看的……那種影片是都沒有聲音的嗎？

蔡：有聲的囉，應該是差不多都有聲的。

林：差不多都有聲？

蔡：嘿，因為較後來了。我們看的時候，已經是高學年的時候啊，差不多四五年〔級〕了。以前都沒有那個，以前我們是只有^{がくげいかい}学芸会乎，在^{こうどう}講堂都在搬（*puann*，演）的^{がくげいかい}学芸会，囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）自己在演的而已。

林：啊所以你進入中學，就是一中之後，有這種機會說學校的老師帶大家去電影院看？

蔡：中學生好像較沒有呢（*--neh*），中學生就沒有了。啊……也不記得有學校來、來學校放……中學生好像較沒有，反而是在小學校的時候、公學校的時候就較有。啊我們那個時候公學校又……也不是說只有電影而已，有時候這個巡迴的，來說^{おとぎばなし}御伽噺乎，的おじさん（叔叔、伯伯）乎，哪知道？幾個月會來一次這樣乎，啊大家等甲（*kah*，到……的地步，這裡表示等了很久）乎。ああいうのがあった（有那樣子的）。來講故事給我們聽的。

林：那個是不是說叫做「講古仙」？還是不是？

蔡：……沒呢（*--neh*）。我們是說「^{おとぎばなし}御伽噺^{せんせい}の先生」這樣來乎，啊大家^ま待^{こが}ち焦がれ（非常期待地在等）就因為也……較不用讀書嘛，啊就集合到^{こうどう}講堂乎，啊聽他這樣說心適（*sim-sik*，有

趣) 啦這樣乎。另外一方面是清水公學校有一個特……那個特徵乎，就是說有……我們那個時候就有校內放送，校內的……放送的……廣播的設備，放在校長室的裡面，一邊仔遐 (tsit pinn-á hia，旁邊、邊角)。一個小小的空間、一個廣播室這樣乎。那麼每一個教室都有スピーカー (speaker，音響、擴音器) 在……那時候說叫做ラジオ (radio) 嘛乎，那個スピーカー也叫做ラジオ乎。啊假使啊這個，下雨天的朝會、朝礼，都是透過那個ラジオ啦乎。校長會講話，大家教室來……站起來，行禮，開始朝會這樣乎。校長訓示，□□下去，啊就怎樣這樣，朝會可以那個……啊每天的弁当の時間乎，中午時吃飯的時間，他就會放那個……世界名曲啦，還有囡仔 (gín-á，小孩、兒童) 較愛的那個名曲とか (之類) 乎，啊いろいろあつて (有很多種)，那都買レコード (record，這裡指「黑膠」) 片，幾千……好像 1000 多張的レコード乎，都買在那。啊有那個お話しの (講故事的) 那個……レコード乎，來說那個昔話、御伽噺乎，レコードがあつたり (有黑膠片什麼的) ……那個清水公學校特別那個……出名的啦乎。我哥哥叫做蔡坤燦乎，就很出名啊在日本，中間乎，因為他曾經寫一本書乎，在台灣的乎，《台湾の日本精神》⁵ という本を書いたでしょ (寫了這本書)？あの本が有名になってね (那本書變得有名)，現在煞 (suah，怎麼、哪有；竟然) ……大家知道，尤其是想說李登輝學校，日本李登輝學校的 (è) 制度とか (之類) ね乎，啊あるいは李登輝の友会の人たち (或是李登輝之會的人) 乎，會變成來台灣會去清水公學校去……去參觀呢 (nenh)，現在已經變成清水國民小學校だけど (但是，表轉折語氣)。

林：啊所以一中的時候有沒有那種放……放送的設備？

蔡：一中沒有。

林：它就沒有。

蔡：一中沒咧。一中教室內也沒有那個スピーカー (speaker，音響、擴音器)，啊只有……只有清水公學校有，這是贏過內地的ね，一般的小學校的啦。

林：內地的一般的小……學校是沒這種スピーカー (speaker，音響、擴音器)？

⁵ 指《台湾人と日本精神》一書。

蔡：沒。嘿，沒有，嘿、嘿。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，是這樣喔。

蔡：^{きよみずこうがっこうとくべつ}清水公學校特別。

林：^{けんがく}見學してみようかなと思^{おも}います (我想去參觀看看)。(笑)

蔡：現在好像沒有了咧。

林：現在好像沒有喔。

蔡：現在好像沒有了……^{きょうしつ}教室は残^{のこ}ってる，那個^{たてもの}建物^はね，變^こ做^{せき}古跡^ら乎。ところが……啊その
ために我們有印一本「^{そうごうどくほん}総合読本」，啊「^{そうごうどくほん}総合読本」裡面就也有……^{どうよう}童謠^{とか}かね乎，^{うた}啊歌乎，
那時候日本人愛唱^{うた}的歌乎，いろいろあつて。それから、お話^{はなし}がある，乎。あるいは^{じどう}兒童
の劇^{げき}，乎，それを……這個腳本乎，都有印出來，叫做「^{そうごうどくほん}綜合讀本」。到高^{こうがくねん}學年^は應該是四年、
五年、六年かな，就一人會分一本給你，啊畢業的時候再……

(現在好像沒有了……教室是有留著，那個建築物，就變成古蹟了。但是……為了那個我們有
印一本「綜合讀本」，「綜合讀本」裡面就也有……童謠之類的，還有歌，那時候日本人愛唱
的歌，有很多。還有故事，或者是兒童劇，把這個……這個腳本都有印出來，叫做「綜合讀
本」。到高學年應該是四年〔級〕、五年〔級〕、六年〔級〕吧，就一人會分一本給你，畢業
的時候再……)

林：還回去？

蔡：要還回來這樣，要給下面的囡仔 (^{gín-á}小孩、兒童) 看。啊我哥哥把那本「^{そうごうどくほん}綜合讀本」，
後來給它復刻^{ふっこく}してね (復刻) 乎，啊印來分很多人，啊分給日本人。啊這次日本大使是……
去年，再來那個的乎，再來口* (^{tsiù}) 一下乎，啊去年來，今年的年初就找我去了。我說：
「你為什麼找我去？」他說你兄^{にい}さん (哥哥) 寫的那本書乎，他看了很感動。說每次……打
開就這樣，每開一頁就……打開一頁就流眼淚這樣啦乎。因為那本主要是鼓勵日本人乎，說
你不用說我說我過去把台灣當作殖民地統治乎，所以這樣乎，^{いしゆく}萎縮^{して} (這裡指「感覺不
自信」) 這樣乎，感覺抱歉。〔那本書裡〕說不用，因為你們日本人雖然把台灣當殖民地，但
是做很多好事情啦乎。例えば，這個……烏山水庫的那個乎，^{はつた}八田^{よいち}与一^ら囉乎，というみたい

にその他いろいろ建設乎。それから（還有）那個……衛生方面的（ \hat{e} ）改善とか（之類）
ね、教育方面的乎。努力鼓勵日本人乎、負けたけれど（雖然輸了）、戦争に負けたけれど
（雖然戦争輸了）、你就胸を張つてもっと（挺起胸膛）乎、較那個的乎。それで（所以、
然後）好像對日本人好像很大的影響在、給他們鼓勵很大。所以我後來在廣告公司在做工
作、我們的客戶想說統一這種的大客戶、啊就統一本身、統一食品乎、跟日本的一些公司都
有合作啊、例えば日清——

林：啊日清、那個インスタントラーメン（泡麵）の日清乎。

蔡：對對對、とかね（之類的）。所以いろんな会社と（和很多的公司）、他有那個……在合作的
時候乎、啊它那個日本的公司的……会社の（ \hat{e} ）社長來台灣乎、啊就問他們統一的總裁
乎、說：「欸、你們有沒有認識一個蔡坤燦？看可不可以跟他見面。」啊統一的那個老闆就很
開心說：「有！我們那個國華廣告公司那個蔡坤霖他阿兄啦！」叫我就要給他介紹とか（之
類）。所以いろんなことがあつて（有發生過很多事情）。這是說起說我們那陣子的清水公學
校的設備乎、不會輸日本內地的、就對！這樣。

〔中略〕

林：若這樣我想要借問說那時候、就是你囡仔（ gin-á ，小孩、兒童）的時候、有沒有紙芝居可以
看？

蔡：有。

林：那是在哪裡看？

蔡：不過紙芝居原仔（ uân-nā ，也）乎……那個……有來搬（ puann ，演）給大家看的、大家就很
開心就原仔集合在講堂、講堂乎、在那邊看的啦。啊在教室乎、老師有時候會拿來。

林：喔？老師會搬（ puann ，演）這樣？

蔡：嘿、嘿、嘿。老師會拿出來、哪知道從哪裡拿來的乎、搬（ puann ，演）給我們看。紙芝居
乎、這樣。

林：紙芝居の内容都是什麼樣的内容？

蔡：やはり（果然、還是）日本の故事較多でしょ（吧、表推測或確認語氣）？

林：像是那個可能桃太郎這樣嗎？

蔡：那是囡仔（gin-á，小孩、兒童）的啦乎，桃太郎、金太郎那是もう（已經）囡仔的乎。後來在いわゆる「講談」に出てくる（所謂的「講談」裡面出現的）……例えば岩見重太郎とか（例如岩見重太郎之類），還是真田幸村乎，とか（之類），ああいうもの紙芝居がきます（那種的會出現在紙芝居裡）。一個是御伽噺，一個是講談，講談は（是）較說那個……講一些忍者の物語とか（之類）乎，啊猿飛佐助、霧隠才蔵乎。你聽到這個名字有熟嗎？（笑）

林：有。

蔡：霧隠才蔵忍術，猿飛佐助もね（也是）乎，是嘛乎。有甲賀的，有伊賀的，乎（笑）。忍者。そういうもの（那種的）。

林：因為我沒看說，我沒有看過說那個……那是叫什麼？「講談社の繪本」。

蔡：嘿、嘿、嘿。

林：我沒有看過說它那本書到底是長怎麼樣，但是差不多可以知道說它的內容是什麼樣這樣。

蔡：啊「講談社の繪本」也很多啊，啊「講談社の繪本」也是那些的東西的毋（--m）？所以說透過那個我們才知道豊臣秀吉、徳川家康，大家徳川家康說叫做什麼「狸おやじ」とかね。那都是從「講談」とかね、那個……《少年俱樂部》とかね、《譚海》とか它有那個少年の雑誌から出てきたものです。

（「講談社の繪本」也很多啊，「講談社の繪本」也是那些的東西的不是嗎？所以透過那個我們才知道豊臣秀吉、徳川家康，大家〔叫〕徳川家康說叫什麼「狸老頭」之類的，那都是從「講談」之類、那個……《少年俱樂部》之類、《譚海》之類它有那個少年雜誌裡面出來的東西。）

林：喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：啊——

林：所以——歹勢乎。

蔡：はい（是）。

林：你剛剛要說什麼？

蔡：不要緊，不要緊啦，不要緊啦。

林：好。日本時代你會看的不管是書還是說漫画還是說繪本這樣，是……都是你自己去找的，還是說別人給你的，還是說你的老師幫你介紹的這樣？

蔡：有的是自己買的，有的是図書館去看的，啊有的是傳來傳去的。

林：就まわし読み（傳閱）這樣乎。

蔡：嘿，まわし読み（傳閱）。啊まわし読み那種的就是我兄，他大我3歲嘛，我一年〔級〕的時候他就四年〔級〕了乎，他都去借很多的乎，啊但是——

林：去哪裡借啊？

蔡：他那個朋友嘛，朋友都會まわし読み（傳閱）啊。他借來啊乎，但是他自己是一個スポーツマン（運動型的），那個タイプ（type，類型）的乎，回來かばん投げ出して（包包丟著）乎，就出去後面去玩了。啊机の上に（桌上），一定有好幾本面白い本（有趣的書）啊，啊他還沒看我就先給他看過了，大概這個情形啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。會說自己去買，有嗎？

蔡：自己去買的罕罕仔（hán-hán-á，少數時候）會。例えば（例如）《少年俱樂部》，普通是……我們自己也沒去訂嘛乎，有時候就是去図書館。啊図書館不一定……你看得啊，人家別人先借去在看了，不一定。それで（所以、然後），有時候自己有這個……有貯金（存錢）乎，說啊有50錢玉，啊就等就說那個発行日，知道說発行日什麼時候乎，就50錢玉握ってね（握著50錢），去那個我們那個「金村書店」，「金村書店」乎。

林：啊！好像在這本書裡面也有出現乎。

蔡：有寫乎。啊去說：「啊！來買！」啊就去給它買這樣乎。

林：所以你知道那個発行日とか（之類），那是也是從書——

蔡：嘿，あの頃，嘿，冊（tshch，書）とか、あるいは友達乎，在まわし読み會知道乎，那時候我們是這樣給大家知道的，乎。因為続き物があるでしょ？像子供想趕快……想趕快去看的，要讀続き物。続き物也有物語，啊也有那個那個……漫画，漫画嘛（mā，也）続き物は

あるでしょ？そういう意味で……

（對，那個時候，對，像是書啦，或是朋友在傳閱會知道，那時候我們是這樣知道的。因為是連載嘛？像小朋友想趕快……想趕快去看的，想讀連載。連載也有故事，也有那個那個……漫畫，漫畫也有連載嘛？是這種意思……）

林：嗯嗯。啊那時候會不會看新聞，就是看那個報紙？

蔡：會呢（--neh）。我們……因為我們店裡一定有訂報紙嘛乎——

林：是店裡面的報紙？

蔡：嘿，店有訂報紙，啊我們就常常去店裡面玩耍嘛乎。那個報紙就丟在那邊，不是只有一種而已耶。兩種か（吧，表推測語氣）。『^{たいわんしんぶん}臺灣新聞』と『^{たいわんにちにちしんぽう}臺灣日日新報』とかああいうようにね（《臺灣新聞》和《臺灣日日新報》之類那種的）乎，有兩種か幾種がある（有兩種或幾種）啦乎，啊會看。それから（還有）我那個兄都會訂那種很厚很厚的《キング》。

林：啊，《キング》。

蔡：嘿，《キング》。あるいは大人雜誌嘛乎，喔啊《キング》這樣每個月都看，那就有訂嘛乎，小孩有訂這樣。

林：啊《キング》算是大人在看的——

蔡：大人在看的，大人在看的。

林：——啊《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》、《^{ようねんくらぶ}幼年俱樂部》，還有「^{こうだんしゃ えほん}講談社の絵本」都是囡仔（gin-á，小孩、兒童）在看的。

蔡：那是囡仔（gin-á，小孩、兒童）的，囡仔在看的。啊還有一個，叫做《^{たんかい}譚海》。

林：《^{たんかい}譚海》。

蔡：嘿，《^{たんかい}譚海》就這個（寫字），言偏^{ごんべん}のね，「譚」，這個《^{たんかい}譚海》……^{おも}とは思ってるけれども……我現在不怎麼會寫字了呢（--neh）。

（對，《譚海》就這個（寫字），言字旁，「譚」，這個《譚海》……我是這樣想啦……我現在不怎麼會寫字了呢。）

林：不要緊，不要緊。

蔡：電腦練的。

林：因為都用打字這樣乎。

蔡：打字的乎。困^{こま}った（好困擾）。困^{こま}った。困^{こま}った……困^{こま}った。こうだったかな……（是這樣嗎……）？《譚海》^{たんかい}（寫字）。これも（這個也是）這個囡仔（gin-á，小孩、兒童）雜誌。

林：囡仔（gin-á，小孩、兒童）的雜誌。

蔡：嘿，跟《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ} 差不多的乎。啊《譚海》^{たんかい} 較小本，啊但是它那……《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ} 嘛乎，こういうな（這種的）。啊也有《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ} 嘛乎，差不多乎，《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ} ……

林：那《少女俱樂部》^{しょうじょくらぶ} 是查埔囡仔（tsa-poo gin-á，男孩子）也會看嗎？

蔡：查埔囡仔（tsa-poo gin-á，男孩子）也會看啊，面白い漫画^{おもしろ まんが} があると乎（只要有有趣的漫畫的話）。

林：就是不管是查埔囡仔（tsa-poo gin-á，男孩子）還是查某囡仔（tsa-bóo gin-á，女孩子），就有漫畫就會看這樣？有雜誌就看？

蔡：看來看去……嘿。それから（還有）……

林：《幼年俱樂部》^{ようねんくらぶ} ？

蔡：そう、『幼年俱樂部』^{ようねんくらぶ} もある（對，也有幼年俱樂部）乎。啊それからね（還有）……這都是都講談社^{こうだんしゃ} 的較多啦乎，啊……だから（所以）出名的是「講談社」^{こうだんしゃ} 乎，還有一間是「小學館」^{しょうがくかん}。

林：就是現在也有出那個仔冊（ang-á-tsheh，漫畫）的——

蔡：講談社^{こうだんしゃ}。對。

林：——的「小學館」？

蔡：「小學館」^{しょうがくかん}。

林：小……「小學館」^{しょうがくかん} 乎。でしよう（對嗎）？

蔡：そうです（對的）。「小學館」^{しょうがくかん} 乎（寫）。啊「小學館」^{しょうがくかん} 有乎，它有定期雜誌，這個小學^{しょうがく} 1年，也有小學^{しょうがく} 2年、3年，4年5年6年までである（為止都有）。3年4年乎，4年5年6年。這原仔

(uân-nā, 也) 定期的雜誌啦, 有的家庭會訂這個啦乎, 這才是「學習雜誌」乎。

林: 這算是「學習雜誌」?

蔡: 「學習雜誌」乎。

林: 啊《少年俱樂部》這種不是算是學習雜誌?

蔡: 欸……不算, 它較……包括較綜合的, 「綜合雜誌」乎, 較綜合的啦。

林: 喔喔 (Ooh-ooh), 是這樣。

蔡: だから乎, 小説があつたり, なに乎, 漫画があつたり乎。啊「小學館」にもやつぱり

……也是有お話とか、漫画とか乎, 那難免的嘛, 你……學習でも。難免だけれども, 它這

較……較嚴肅的嘛, 啊有比合那個……跟那個學校在讀的あの教科書と少し合わせてるでし

よ。数学なら数学、1年生と2年生の数学違うでしょ? 乎, 它較有合到那個, 這樣乎。較緊

密符合啦乎……こういうことですね。剛才我還要寫什麼但忘記了, 等一下想到再那個——

(所以有小説、〔有〕什麼、有漫畫。「小學館」〔的雜誌〕裡也是果然……也是有故事之類、

漫畫之類, 那個難免的嘛, 你……就算是學習。雖然說是難免, 它這個〔也算〕比較……比較

嚴肅的嘛, 有比較〔配〕合那個……跟那個學校在讀的那個教科書稍微有配合。數學就是數

學, 一年級生的數學和二年級生的數學〔程度、內容〕不同不是嗎? 它比較有〔配〕合到那

個, 這樣。比較緊密符合啦……大概是這樣。剛才我還要寫什麼但忘記了, 等一下想到再那

個——)

林: 這樣你中學的時候, 就是台中一中的時候, 也是會看這些嗎?

蔡: 欸……台中一中差不多就「小學館」這個的沒看了嘛乎, 啊……《少年俱樂部》也較沒看了

啦, 乎。もう差不多《キング》とか何か入っていくしね、それから……我剛才要說的……

(喃喃自語)「旺文社」とかといったのがあった。「旺文社」は較乎……試験勉強の乎, 他

們要去考中學囉考什麼囉, 還是要……乎……

(欸……台中一中〔的時期〕差不多就小學館這個的沒看了嗎, 啊……《少年俱樂部》也比較

沒看了啦。已經差不多進入〔會看〕《キング》或是什麼之類的〔年紀了〕, 還有……我剛才

要說的……(回想)有叫做「旺文社」什麼之類的。「旺文社」是比較……考試用書的, 他們

要去考中學啦、考什麼的，還是要……這樣……)

林：就算說是我們現在說的參考書這樣嗎？

蔡：嘿……對，參考書が多い。啊それから……現在要去考中學のための……這樣。ああいう本が……啊那參考書ですよ。そういう本が多いです。這是旺文社，旺文社原仔 (uân-nā，也) 真出名乎。差不多……我們囡仔 (gín-á，小孩、兒童) 在看的都差不多這樣啦。啊女性は、《婦人俱樂部》か、《主婦の友》，啊後來《主婦と生活》。

(對……對，參考書很多。啊還有……現在為了要去考中學的……〔書〕這樣。那種的書……啊那〔算是〕參考書。那種的書很多。這是「旺文社」，「旺文社」也是很有名。差不多……我們小孩子在看的都差不多這樣啦。啊女性〔在看的〕，是《婦人俱樂部》或是《主婦の友》，後來〔還有〕《主婦と生活》。)

林：《主婦と生活》？

蔡：生活，嘿。可能這三本□* (gàu) 傳統的女性誌。

林：那是說查某囡……

蔡：查某人 (tsa-bóo-lâng，女人、女性)。

林：查某人 (tsa-bóo-lâng，女人、女性) 會看的啦乎。

蔡：嘿，對對對。

林：差不多多少歲以上會看？

蔡：差不多家庭に入ってる、結婚したらはもう……

(差不多進到家庭，結婚了之後就……)

林：もうそれを読むことになるですよ。

(就變得會讀這種了嘛。)

蔡：そうですね (應該是這樣吧)。あの生活の……家庭になるような……這個物語 較多了毋 (--m) 乎。物語 あるいは生活の指導があるでしょ？あるいは……例えばお料理のレシピとか乎，そういうものもう知ってる……ということです。傳統的食譜這樣啦。

(應該是這樣吧，那個生活的……變成家庭的那種……這種故事就比較多了嘛。故事或是有生

活指導的吧？或是……比方說料理的食譜之類的，已經知道這些事情……這樣的。傳統的食譜這樣啦。)

林：所以你就是日本時代你就都是看日語的作品就對啦乎？

蔡：啊，當然。

林：沒有說看到漢文的作品？都沒有？

蔡：沒。文學我們也沒在看漢文的乎，というのは……反而有看到ロシア^{ぶんがく}文学、什麼アイルランドの、スコットランドの、あるいは乎，アメリカの^{ぶんがく}文学乎。ところが偏偏就不會去看那個台灣^{たいわん}の^{ぶんがく}文学，台灣^{たいわん}の^{ぶんがく}文学也有人是漢文寫的，有人是這個日文寫的，都罕得（hán-tit，很少）去看。好像記得是，好像記得說 NgTik-si 乎，黃德時先生那時候有那個……^{よしかわえいじ}吉川英治，^{よしかわえいじ}吉川英治寫《三国志》很有名嘛乎。那麼黃德時原仔（uân-nā，也）有寫《三国志》^{さんごくし}だったかな？かんこく……^{さんごくしえんぎ}三国志演義か乎，だったか……というの覚えてるけれども，好像有記得曾經看到黃德時的……日文寫的東西啦乎。其他很少看到日本，不對台灣人的，台灣人的好像……較沒有想說那個趣味（tshù-bī，興趣）在。眼睛好像向較……較向世界去了，乎，そういうことで……

（沒。文學我們也沒在看漢文的，說起這個是……反而有看到俄羅斯文學、什麼愛爾蘭的、蘇格蘭的，或是美國的文學。但是偏偏就不會去看那個台灣的文學，台灣的文學也有人是〔用〕漢文寫的，有人是〔用〕日文寫的，都很少去看。好像記得是，好像記得說 Ng Tik-si，黃德時先生那時候有那個……吉川英治，吉川英治寫《三国志》很有名嘛。那麼黃德時也有寫《三国志》嘛？三……三國志演義嗎……？是有記得這樣的，好像有記得曾經看到黃德時的……日文寫的東西啦。其他很少看到日本，不對，台灣人的，台灣人的好像……比較沒有那個興趣在。眼睛好像向比較……比較〔看〕向世界去了，這樣……）

林：啊有……我就……想要問說^{まんが}漫画的事情啦乎。

蔡：はい（是）。

林：因為我看這本書裡上面有說，說除了說《少年俱樂部》，還有《少年ダン吉》⁶。

蔡：嘿，あれはもうほとんど『少年俱樂部』に似ていた⁷漫画。連載。

（對，那個也是幾乎都連載在《少年俱樂部》上的漫畫。連載。）

林：でもその形は雑誌なのか、単行本なのか？ちょっとそれを——

（但是那個的形式是雜誌還是漫畫？〔想問〕那個——）

蔡：え……雑誌です。雑誌の中的那个……《冒險ダン吉》。連載でしょう。連載，啊のらくろ也是乎。ところが到後來它會出單行本⁸，後來會出單行本，だから單行本も読む。それから普通ははじめは從雜誌讀，啊一定的量就變做單行本出來了。

（欸……是雜誌。雜誌中的那個……《冒險ダン吉》。是連載嘛。連載，啊のらくろ也是。但是到後來它會出單行本，後來會出單行本，所以也讀單行本。還有普通是一開始是從雜誌〔開始〕讀，啊〔有〕一定的量就變做單行本出來了。）

林：其實我今天有準備喔。就我有買兩本，一本是我老師給我的。這是……已經是昭和……可能16年左右的《少年俱樂部》。

蔡：16年我剛好那個五年〔級生〕的，就是大東亞戰爭要發生了乎。

林：差不多是這樣乎（用平板展示）。

蔡：（看目次）對對對，懐かしい、懐かしい。そうですね。『少年俱樂部』の8月号乎。「波にきたへる」「軍用犬」ほら、現在戰爭就這樣が出てきてる乎。そうですね。「空襲に備へよ」空襲了嘛。因為這……你說……1941年對乎？是昭和16年還是？這8月号……

（（看目次）對對對，好懷念、好懷念。《少年俱樂部》の8月號，「波にきたへる」「軍用犬」你看，現在戰爭就這種〔內容的〕就出來了。「空襲に備へよ」空襲了嘛。因為這……你說1941年對吧？是昭和16年還是？這個8月號……）

林：16年ですね。昭和16年。

⁶ 口誤，正確為「冒險ダン吉」。

⁷ 受訪者說「似ていた」，可能為口誤，意思應為「載っていた」。

⁸ 現在的唸法是「たんこうぼん」，此篇受訪者一律讀做「たんこうほん」。

(是 16 年。昭和 16 年。)

蔡：昭和16年就 1941 年啦，啊這個 8 月還沒發生珍珠港事變。

林：嘿。

蔡：嘿，だから（所以）還有支那事變的時代啦乎。それでも（即使這樣、但是那個年代）〔竟然在講〕「空襲に備へよ」，諄（hooh）！怎麼那麼早就在講空襲？那陣子沒什麼空襲啊。

林：還是說是台灣沒，但是日本……？

蔡：也沒！

林：也沒喔？

蔡：那中國要怎麼來把日本空襲？沒什麼辦法啦。

蔡：どうして 8 月就在講「空襲に備へよ」かな……わからない。我有記得あの年に戦争が始まったはず……あのう……這珍珠港乎。「日本の仲よしタイ国」乎，「タイ国の話」「砂糖にうちこむ魂」「ドリトル先生船の旅」嘿、嘿、嘿，有。覚えています。「私たちの体と正しい呼吸」はい、はい……「少年写真新聞」「心の花たば」はい、はい……嗯……差不多要相殺了……「日の丸旗之助」「のらくら」這都漫画，這邊的都漫画。「ほがらか王君」我較不記得呢（--neh），「ほがらか王君」覚えていない。「せみのからぬけ」「本の正しい読方」「かんじ聯盟」⁹「少年部隊」「敵地の村」「海野十三」¹⁰，海野十三の戦争物很多，「錦の旗風」大倉桃¹¹……はい、はい、はい、わかりました。はい、わかりました。乎，不錯。

（為什麼 8 月就在講「空襲に備へよ」呢……不知道。我有記得那年應該是戰爭開始……那個……這〔個〕珍珠港。「日本の仲よしタイ国」，「タイ国の話」「砂糖にうちこむ魂」「ドリトル先生船の旅」嘿、嘿、嘿，有。我記得。「私たちの体と正しい呼吸」是、是……「少年写

⁹ 原標題為「遺児聯盟」。

¹⁰ 正式念法應是「うんのじゅうざ」。

¹¹ 作者名，正式念法為「大倉桃郎（おおくらとうろう）」。

真新聞」「心の花たば」……嗯……差不多要相殺了……「日の丸旗之助」「のらくら」這都漫畫，這邊的都漫畫。「ほがらか王君」我比較不記得，「ほがらか王君」不記得。「せみのからぬけ」「本の正しい読方」「かんじ聯盟」「少年部隊」「敵地の村」「海野十三」，海野十三的戰爭作品很多，「錦の旗風」大倉桃……是、是、是，我知道了。好，我知道了。乎，不錯。）

林：（笑）你如果想要看我可以把這寄給你啊。

蔡：不要緊，不用。

林：好啊，但是我想要問的是，像說它們這樣（滑到漫畫的頁面），這就是算說是漫畫嘛乎？

蔡：嘿，懐かしいね（好懷念）。這個諾（--hioh）？

林：啊若像……我找看看喔。若像這種的乎，就是有圖有文章。

蔡：對對對。

林：這種是叫做什麼？就〔叫〕「小説」了嗎？

蔡：えっと……有的是乎，外国の文学から翻譯來的（從外國的文學翻譯過來的）咧，這篇是什麼啥（--hannh）？這個題目是什麼啥（--hannh）？

林：題目是……

蔡：這外國的故事咧。

林：題目在這，是嗎？

蔡：啊，「ドリトル先生船の旅」啦，這外国の文学物……它有時候是改寫，有時候那個……有些是說囡仔（gin-á，小孩、兒童）の言葉で（「用小孩的字句」，此指改寫成適合小孩看的作品）……這外……これは外国の文学（這是外國的文學），原仔（uân-nā，也）是外国の小説よ。

林：這就算是「小説」這樣。

蔡：這篇是「小説」。嘿，「小説」。

林：啊如果說是……歹勢（滑動頁面尋找作品）。

蔡：剛剛說的說乎……那個……什麼啊，這個……これは「小説」で（這是「小説」）乎，外國的

都差不多叫「小説」，外国文学都「小説」乎。啊……有的……是那個日本の読み物這樣，
有的一些是「講談」。

林：「講談」。

蔡：嘿，「講談」就變做說，たとえば（例如）真田幸村，啊那些忍者的話乎，那個都「講談」が
多いです（那個都「講談」比較多）。

林：「講談」就是……那個講談社的（ \hat{e} ）絵本嘛乎，是嗎？

蔡：不是只有說講談社的，「講談」というのは，像說台灣有「講古仙」乎，講古給人那個……聽
啦。講古那時候是，都摻了那個……昔の言葉乎，在那個……較古老、傳統的文言文とか何
とか（文言文或什麼的）濫濫（lām，摻雜）的（ \hat{e} ）乎，啊那個……講談社乎，開始從昔か
ら伝わってきてる「講談」はね、文字にしてね乎。啊你大家就乎，不用去聽「講談」乎，
那「講談」就要去聽啦，去とか寄せ行ってね，寄せ行って去聽乎，啊它這個在雜誌給它介
紹出來，這就變成「講談」を……あの……書きものにして出來的，啊だから在雜誌出來，它
原仔（uân-nā，也）給它叫做「講談」。紙上の……雑誌の上の「講談」。啊本当は「講談」
也是……「講談」是可以壇上でね講給你們大家聽乎，啊大家聽得開心這樣，寄せ行ってね
乎，乎。

（不是只有說講談社的，「講談」是，像說台灣有「講古仙」，講古給人那個……聽啦。講古
那個時候是，都摻了那個……以前的用語，在那個……〔說話裡。〕摻雜比較古老、傳統的文
言文或是什麼的，啊那個……講談社，開始〔把〕從以前就傳承下來的「講談」化為文字。
大家就，不用去聽「講談」，那個「講談」就要去聽啦，去演藝的場合，去演藝的場合去
聽，啊它在這個雜誌〔中〕把它介紹出來，這就變成把「講談」……弄成書物出來的。啊所
以在雜誌〔上〕出來，它也是把它叫做「講談」。紙上的……雜誌上的「講談」。其實「講
談」也是……「講談」是可以在台上講給大家聽的，大家聽得開心這樣，去演藝的場合
〔聽〕。）

林：就「講談」的文章這樣嗎？

蔡：嘿，「講談」。だから「講談」は「講談」。啊文学物は……這個……「文学」というのは普通

もう外国文学を^{がいこくぶんがく}紹介して^{しょうかい}たでしょう。だから……^{ぶんがく}文学として、あるいは、在外國是^{しょうせつ}小説
嘛乎、だから、小説として^{しょうせつ}在介绍。外國の^{がいこく}小説、嘿。

(對,「講談」。所以「講談」是「講談」。文學作品是……這個……「文學」普通的話就是介绍外國文學。所以……作為文學,或是,在外國是小説嘛,所以作為小説在介绍。外國的小説,對。)

林:那日本的^{しょうせつ}小説,有嗎?

蔡:有。

林:也是都有在那個^{しょうねんくらぶ}《少年俱樂部》?

蔡:嘿……有。啊尤其是……有時候是只有一期一次啦,但是^{しょうせつ}小説是普通^{ふつうなが}長^{れん}いからね,都會連
載。啊連載^{れんさいしょうせつ}小説,連載^{れんさいしょうせつ}小説。有一些作家是為了^{さい}囡仔^{れんさいしょうせつ} (gín-á, 小孩、兒童) のために乎,
寫那個^{しょうせつ}小説,連載^{れんさい}。有名^{ゆうめい}なのはね、「^{さとうこうろく}佐藤紅緑」というのがあつてね。今でもいる、あの
^{さとうあいこ}佐藤愛子^{とう}のお父さん。

(對……有。尤其是……有時候是只有一期一次啦,但是小説普通〔篇幅比較〕長,所以都會連載。叫做「連載小説」,「連載小説」。有一些作家是為了小孩寫那個小説,連載。有名的有叫做「佐藤紅緑」的,現在還在的那個佐藤愛子的爸爸。)

林:「^{さとうあいこ}佐藤愛子」のお父さんが、^{さとう}佐藤……「^{さとうこうろく}佐藤紅緑」。

(「佐藤愛子」的爸爸是佐藤……「佐藤紅緑」。)

蔡:「^{こうろく}紅緑」,嘿。啊^{さとうこうろく}佐藤紅緑有一個是,他的^{きん}團 (kiann, 兒女、孩子) 出名,女的是^{さとうあいこ}佐藤愛子嘛
乎,男的是^{さとう}サトウハチロー。サトウハチロー^{しょうせつ}小説も書^かくし、それから^{どうよう}童謡出很多。なん
となんとか^{めえ}メエーメエーこひつじとか (哼歌) というのね、こひつじの^{うた}歌乎。這樣乎,那
都^{さとう}サトウハチロー。明^{あか}るい……あの^{うた}歌寫很多。

(「紅緑」,對。佐藤紅緑有一個是,他的小孩有名〔的〕,女的是佐藤愛子嘛,男的是佐藤
八郎。佐藤八郎寫小説,也有出很多童謡。什麼什麼咩咩小羊 (哼歌) 這樣的,小羊的歌。
這樣,那都是佐藤八郎。寫很多輕快的歌。)

林:就童……

蔡：嘿。啊都常常為了囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）寫童謠とかね，啊他お父さんは為了囡仔寫小說，佐藤紅綠。還有一位查某（*tsa-bóo*，女人、女性、女生）的作家，叫做「吉屋信子」，古屋信子¹²啦乎，那是都在寫那個センチメンタリ……センチメンタルな這個……小説。必ず誰かが死んで、涙ポロポロ，這樣。這是《少年俱樂部》、《少女俱樂部》的裡面的那個啦。

（對。都常常為了小孩寫童謠之類的，他爸爸是為了小孩寫小說，佐藤紅綠。還有一位女生作家，叫做「吉屋信子」，古屋信子¹³，那都是在寫那個感傷……感傷的這個……小説。一定會有誰死掉，〔然後〕眼淚掉不停，這樣。這是《少年俱樂部》、《少女俱樂部》的裡面的那個啦。）

林：《少年俱樂部》……若這樣就是說，少年（*siàu-lián*，年紀輕的）的就看這個？

蔡：嘿，囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）啦，學生囡仔，學生囡仔。

林：喔喔（*Ooh-oo*），囡仔（*gín-á*，小孩、兒童）就看這個。學生囡仔就看這個。

蔡：ところが、あの……中学なんかに入るともう、有時候好像《少年俱樂部》なんか読まないでね乎。旺文社の、旺文社好像有《中学生》という雑誌があつたみたい，乎。読むようになる。

（但是那個……進到中學什麼之後就已經，有時候好像就不會去讀《少年俱樂部》了。旺文社的，旺文社好像有叫做《中学生》的雜誌，〔就〕變成讀〔這個〕。）

林：（秀出報紙上講談社の繪本的廣告）這裡有那個講談社の繪本的那個……廣告。

蔡：嘿，對對乎。

林：就是像這種的嘛乎？

蔡：對對對對，我們都看很多。

林：說一些日本較早的故事啦。

蔡：對。日本的故事，還是外國的。

¹² 應為口誤。

¹³ 同上。

林：會說外國的？

蔡：這就是外國的嘛，這……應該是。

林：もどこなさん……

蔡：「^{げんき} ^{こども}元気な子供」。

林：啊，「^{げんき} ^{こども}元気な子供」。

蔡：嘿，「^{げんき} ^{こども}元気な子供」。昔は右から（以前是從右邊開始〔唸〕）。

林：喔喔（Ooh-ooh）。（笑）

蔡：我們台灣也是戰後給人規定乎，不能從^{ひだり}左から（從左邊）呢（--neh）乎。だから（所以）

《^{ぎっし}王子》雜誌也寫「王子」乎（手比方向）……從右から（從右邊）。

林：有，你辦的那個雜誌乎。

蔡：嘿，對對對對。

林：啊我想要請問說它最後就是有這種……這，這你有印象嗎？

蔡：有啊。

林：你有看過這？

蔡：有啊。《^ひ ^{まるはたのすけ}日の丸旗之助》，那個名字乎，那個^{まんが}漫画。

林：你對這個^{まんが}漫画家的名字有印象嗎？

蔡：這個較沒……のらくろ那個印象那麼重乎，但是《^ひ ^{まるはたのすけ}日の丸旗之助》は唸就唸得出來了乎。そ

ういう^{まんが}漫画があつた。好像《^{ぼうけん} ^{きち}冒険ダン吉》というふう^{まんが}にね乎，那個^{まんが}漫画的（^{なまえ}é）名前乎，都唸得出來。

（這個比較沒……のらくろ那個印象那麼深，但是《日の丸旗之助》唸就唸得出來了。有那樣的漫畫。好像《冒険ダン吉》那樣子的，那個漫畫的名字，都唸得出來。）

林：這種也是最後會出那種，那個……^{たんこうほん}单行本嗎？

蔡：會，應該會。

林：應該會？

蔡：嘿、嘿，都會。

林：這種的可能說雜誌還是單行本^{たんこうほん}は（是），是在台灣印的嗎？還是說在日本印好？

蔡：沒，日本印好的。

林：日本印好才送來台灣？

蔡：嘿，他們那個日本的雜誌都嘿，從日本から直送^{じきそう}で来るんですよ（從日本直送過來）乎。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣喔。若這樣不會……價錢會不會比在日本賣的還貴？

蔡：應該照定價^{ていか}。例えば（比方說）一本，我還記得《少年俱樂部》^{しょうねんくらぶ}一本 50 錢乎，它們日本也是 50 錢^{せん}，台灣也 50 錢^{せん}啊。

林：嘿、嘿、嘿，因為我有看這裡（秀出雜誌最後一頁），〔因為字很小〕可能看得較不清楚。就是它有說，它有在朝鮮^{ちようせん}乎，啊還有台灣，啊還有滿州^{まんしゅうこく}国嘛乎，還有支那^{しな}において（在支那）、現地^{げんち}の組合^{くみあい}¹⁴の公認^{こうにん}……

蔡：組合^{くみあい}の公認^{こうにん}売価^{ばいか}を認めます。

（承認組合的公認賣價。）

林：嗯嗯。所以我就……看到這個就想說，嗯？所以是照他們，可能說譬如說台灣的——

蔡：ほら你給它看，ここにあるでしょ（你看，你給它看，這裡有啊）？50 錢^{せん}，我說 50 錢^{せん}沒錯乎。

林：嗯嗯。所以台灣是差不多是 50 錢^{せん}這樣？。

蔡：應該我記得〔是〕50 錢^{せん}啊。

林：你印象中都是 50 錢。

蔡：都 50 錢^{せん}。就 50 錢^{せん}握^{にぎ}って、もう汗^{あせ}だらけになって。啊那個印象就很深呢（--neh）乎。だから、50 錢^{せん}を今^{いま}でも覚えてる啊。8、90 年了。

（都 50 錢。就捏著 50 錢，〔跑得〕滿頭大汗〔去買〕。那個印象就很深。所以〔價格是〕50 錢〔這件事〕到現在都還記得啊。〔都過去〕8、90 年了）

林：若這樣你有看過說一個應該是《台灣日日新》發的，叫做《台日グラフ》^{たいにち}¹⁵的雜誌，應該是

¹⁴ 「組合」意指「合作社」。

¹⁵ 台灣將名稱翻譯為《台日畫報》，由臺灣歷史博物館重製復刻版並於 2017 年出版。

一個月會發一次的。

蔡：我沒看，不曾看過。

林：沒看過？

蔡：《台日俱樂部》較大人的啦。

林：喔喔（Ooh-oo），是這樣喔。

蔡：じゃない（不是嗎）？

林：我……沒，因為我……

蔡：你看，看看。

〔中略〕

林：我有準備那個……《少年ダン吉》¹⁶的單行本，等等我……

蔡：はい、懐かしいね。

（是，好懷念。）

〔中略〕

蔡：はい（是）。喔《冒險ダン吉》の單行本啦乎。

林：嘿、嘿、嘿。這……第一集，啊、這種的就是，我是覺得說這看起來好像那個……「小説」

這樣。就是有文章——

蔡：嘿，そうですね（是這樣，表同意語氣）。文章很多。

林：文章很多乎。但是——

蔡：但是我們那時候看的好像像「漫画」耶。

林：是叫這，這叫做說「漫画」嘛乎。

蔡：嘿，對。啊看起來也是好像漫画這……あのうーコマコマ（一格一格）這樣，這樣呢（--neh）。

林：啊你看新聞，新聞，你說你看那個可能《台灣日日新》的新聞還是什麼，它上面不是都有那

¹⁶ 口誤，書名是《冒險ダン吉》。

個一コマ漫画（單格漫畫）嗎？

蔡：對，嘿。

林：那一コマ漫画是給囡仔（gín-á，小孩、兒童）看的還是給大人看的？

蔡：那大人看的，大人看的。

林：但是你也會看這樣嗎？

蔡：我還沒什麼愛看，那大人看的乎，面白くない（不有趣）。

林：（笑）

蔡：反而我們是，我在看那個相撲。

林：相撲？

蔡：對，看那個新聞都在看那個相撲啦。双葉山とか（之類）羽黒山……

林：嗯（笑），是這樣喔。喔喔（Ooh-ooh），原來，我還想說你看新聞，所以你看新聞是看那個報導呢（--nih）？

蔡：會看日本の好きな（喜歡的），那個啦，那個娛樂物較多啦。

林：所以就看相撲這樣。

蔡：ジジイなんか（什麼的）不要緊的啦。

林：喔喔（Ooh-ooh）。（笑）

蔡：啊看相撲最多啦。

〔中略〕

林：啊那時候你，你們爸爸媽媽對你們看這種可能說《少年俱樂部》，還是說剛才的那個單行本這樣的，就是……

蔡：我家庭原則上較贊成啊，啊你要看書都不錯啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），但他們知道說那是有漫画在裡面嗎？

蔡：也不要緊，也沒錯啊。

林：也不要緊？就知道也會說給你們看。

蔡：就像這個《少年俱樂部》とか（之類）那種的嘛，正經的，学校也認めてるし（學校也認

可)。学校、家庭都可以那個嘛乎。所以之後我做雜誌也是有這個目的在那，因為漫畫讓人輕視嘛乎，看有沒有辦法可不可以透過兒童的這些……《王子》這樣的雜誌，來給它……給它可以進去家庭、進去學校啊。啊漫畫本身就是很好的東西嘛乎……這樣，這個意思。

林：所以你自己那時候是因為說，那個漫畫很心適（sim-sik，有趣）的這樣，才去看這樣。

蔡：對，對對。

林：繪本也是這樣嗎？

蔡：對，就是這樣毋（--m）。

林：繪本也是這樣嗎？還是說是——

蔡：繪本也是這樣，心適（sim-sik，有趣）啦。

林：感覺心適（sim-sik，有趣）是好像說那種形式心適，還是說內容心適？

蔡：形是看到，見ても楽しいでしょ（只是看就很快樂、有趣啊）？快樂，看到很快樂啊，那種的乎。啊看書本身，乎，跟教科書不一樣，那種就很快樂啊乎。尤其是和數學的教科書就差很多啊毋（--m）。

林：嘿啊嘿啊。（笑）

蔡：啊那個……國語啊，那種的教科書，日本的國語的教科書，原仔（uân-nā，也）是楽しいよ（也是很有趣）。看到乎，新的發來我差不多從頭就先把它看完了。いろいろ面白い話があるですよ（有很多很有趣的內容）。這樣。但是數學就……あるいは（或是）理科的，教科書就沒有那麼好看了。

林：（笑）我也是這麼感覺。

蔡：（笑）

林：啊所以你在日本時代是沒看過「漫画映画」嘛乎？上次說的。

蔡：そういう印象がなかったみたいね（好像沒有那種印象），乎。

林：但是你知道說有這種東西嗎？

蔡：え……あれは……透過あの紙面的漫画で見たみたい。「ミッキーマウス」なんか、あれ。そこから覚えたみたい。

（欸……那個是……透過那個紙本的漫畫看的樣子。「米老鼠」什麼，那個。從那知道有的樣子。）

林：是看那種ミッキー——

蔡：印出來的，在——

林：你有看過「ミッキーマウス（米老鼠）」的漫画？

蔡：欸從……印象從那邊來的咧。「ミッキーマウス」という名前は，從紙……紙印的，還是……不是《少年俱樂部》啦。どういう本から出てきたかな？不一定。

（欸從……印象從那邊來的。「ミッキーマウス（米老鼠）」這個名字是，從紙……紙印的，還是……不是《少年俱樂部》啦。從哪種書裡面出來的啊？不一定。）

林：我是——

蔡：啊凡勢（huān-sè，可能）凡勢從《キング》とか那個大人の雑誌かに載ってたかしらん。
（可能可能是從《キング》之類那個大人的雜誌或什麼的，有刊在上面也說不一定。）

林：嗯，我再查看看。

蔡：好。還有那時候乎，我們囡仔（gín-á，小孩、兒童）出名的乎，有一個アメリカ（美國）一個……一個明星，子供の，「シャーリー・テンプル」と呼んでたかな（以前叫「シャーリー・テンプル」嗎）？

林：シャーリー・テンプロ？

蔡：嘿，みたいよ（好像是）。查看看，哪知道……

林：聞いたことないですね（沒有聽過）。

蔡：聞いたことない（沒有聽過）？（驚訝）啊！有名。これ知らないと不知道了（不知道這個就不知道了）。

林：大変失礼しました（非常抱歉）。

蔡：いえ、とんでもないです（不會，不要這麼說）。我查看看。因為我現在人的名字會給它忘記啦。

蔡：（用手機搜尋）シャーリー・テンプル、シャーリー・テンプル……「シャーリー・テンプ

ル」の様子。ちょっと待っててくださいね（稍等一下喔）。

蔡：ほら、これ（看，是這個）。（遞過手機）

林：シャーリー・テンブラ。あれって……

蔡：ほらほらほら，給你看。

林：ありがとうございます。女優ですか？

（謝謝。是女演員嗎？）

蔡：そう（對）。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：あの……變成我們童星嘛。今でいう（現在來說）。

林：童星シャーリー・テンブラ。

蔡：「テンプル」。

林：「テンプル」，喔！テンブラ？（笑）

蔡：テンブラじゃないよ！

（才不是テンブラ！）

林：（笑）怎麼會說テンブラ。喔喔（Ooh-ooh），看看，照片。喔喔（Ooh-ooh），她是很有名這
樣？

蔡：ええ、子供の時かわいいよ。

（對，小孩的時候很可愛喔。）

林：但是它寫說 48 年的時候呢（--neh），啊這是，這張相片是她〔19〕48 年的時候。

蔡：對啦對啦對啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），你說她是童……童星。

蔡：童星啦，嘿。多我 2 歲咧，1928 年生まれ嘛乎。アメリカ映画界で格高く、アメリカ

……1928 年，ほらね，我們 1930 年代的乎，スター俳優。子役として乎，あのう童星就是子

役として登場した嘛乎，這樣啦。啊これいつもあのう……やっぱりあのう……雑誌なんか

ね、出てくる。所以我們才會……乎。

（童星啦，對。多我 2 歲，1928 年生嘛。美國電影界，美國……1928 年，你看，我們 1930 年代的，明星。作為兒童角色，童星就是作為兒童角色登場嘛，這樣啦。這個就一直……果然……在雜誌上什麼的會出現。所以我們才會……這樣。）

林：知道說——

蔡：2014 年才……去世啦。

林：所以是，你那時候有看過她搬（puann，演）的電影？還是說只有聽過？

蔡：え……原仔（uân-nā，也）雜誌。

（欸……也是〔看〕雜誌。）

林：只有聽過她有……她是很有名的演員這樣？

蔡：嘿……我們是在雜誌上都會看到她的照片都什麼……好像……

林：所以不是說在雜誌，還是說報紙上頭有的電影，台灣就會放這樣？

蔡：好像也不知道有沒有看過電影？現在はつきり覚えてない（現在記不太清楚）。

蔡：（唸出維基百科內容）ほらね。勤勉できまじめ、温かく優雅で品行方正……（笑）伝説的な映画俳優，之後變做外交官としても……乎。

（（唸出維基百科內容）你看，既勤勉又認真，既溫柔優雅又品行方正……（笑）傳奇性的電影演員，之後變成外交官也是……）

林：這樣不是跟那個……李香蘭有相同？李香蘭是不是後來變做那個国会議員乎？

蔡：嘿、嘿。いわゆる今〔の〕アイドル啦呢（--neh），乎。

（就是現在說的偶像啦。）

林：10代からデビューしてますよね。

（10 幾歲就出道了。）

蔡：嘿、嘿、嘿，6歳から（6 歳開始〔就出道了〕）。

林：喔，6歳から（6 歳開始）。喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：開始若有這個日文的，一定有一個英文的在的啦乎。英文的見ると、はつきりすると思うんですけれども，乎。啊……どうしてこの……今までシャーリー・テンプル覚えてるか？這

……想不出來是怎樣看到，很出名啦。ちよつと子供で啊真ちぢれつ毛乎，很可愛。英語の名前は寫這樣啦。

〔〔維基百科〕如果有這個日文的，一定有一個英文的〔頁面〕在的。我想如果看了英文的〔頁面〕就會知道是怎麼樣了。啊……為什麼這個……到現在都還記得シャーリー・テンブル？這個……想不出來是怎樣看到，很出名啦。小朋友這個頭髮捲捲的，很可愛。英文的名字是寫成這樣啦。〕

林：Shirley Temple。啊，Shirley Temple，我們……華語是不是叫「雪莉・譚寶」？是嗎？

蔡：我不知道欸（特地以華語說）。我最不會的就是華語啊，華語最痛苦了。

林：我可能有看アメリカのドラマ（美國的連續劇）還是看什麼，有看到這個名字。Shirley Temple，喔喔（ooh-ooh），這……這樣我就知道了。

蔡：這樣乎，這樣知道啦乎。你再去查就知道了。但是我們怎麼會乎……這樣看起來好像曾經看過她的電影喔。啊それから（還有）、雑誌の上で常常會給她介紹啦，乎，這樣。

〔中略〕

林：若這樣，我想要問的是，那時候的台灣的報紙上面，有乎，像是你剛剛說的講談社の（絵）繪本、啊還有那個……《キング》，還是說《富士》，還是說小——

蔡：小学館の，小学1年生、2年生……何年生這樣。

林：それは……えつと……現在是在看〔的〕是《臺南新報》，跟……

蔡：嘿對，跟《日日新聞》。

林：但是那好像是……那好像是南部的人在看的新聞的樣子，就叫做說《臺南新報》。

蔡：不是《臺南新報》啦，臺灣啦，《臺灣新聞》啦。

林：啊，えつと……沒，我說我現在在看我……我現在在圖書館看的是這樣。

蔡：我有說過《臺南新報》？

林：沒沒，我說我現在在看我……我現在在圖書館看的是這樣。

蔡：這樣喔！乎、乎、乎。

林：但是因為我沒有看過《臺灣新聞》，我知道《臺灣新聞》是不是，是中部的報紙乎？

蔡：應該是全台灣的呢（--neh）。

林：全台灣的。

蔡：《臺灣新聞》跟《臺灣日日新聞^{にちにちしんぶん}》，這兩種是好像台灣全島的，不是分地域的^{ちいき}。

林：台南那新報，應該是像那個地方紙^{ちほうし}這樣。

蔡：那才是……對啦對啦，地方紙^{ちほうし}。

林：因為我現在在看那，在查說電影的一些乎，放映的紀錄這樣，所以看……越看就有看到說雜誌的廣告。啊那雜誌的廣告我想說，那是在台灣都有人在買，所以才有這些雜誌的廣告，還是說，不知道……因為我不知道說那時候大家買雜誌是怎樣買的，那時候還不知道說，是不是說學校的老師給你們介紹，啊日本人就——

蔡：沒沒沒，學校的老師好像沒有介紹呢（--neh）。

林：所以都是自己去——

蔡：也是廣告的樣子喔。

林：廣告。

蔡：廣告，對。

林：就看廣告去，就去——

蔡：已經我們如果進去學校的時候，也已經很出名了乎，沒人不知說有《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》。

林：嗯，沒人不知道。

蔡：嘿，差不多啦，沒人不知道。啊有讀到〔或〕沒讀到是不一定，大家說《少年俱樂部^{しょうねんくらぶ}》、《幼年俱樂部^{ようねんくらぶ}》，大家也知道說日本時代有那個雜誌。

林：啊若這樣你第一次，可能是戰後，你看到^{まんがえいが}漫画映画是什麼時候？是在電視中看到的，還是說是在電影院看到的？不記得也不要緊喔。

蔡：沒啦，應該是電視……でしょ（吧，表疑問語氣）？

林：電視。

蔡：我們電影沒有常常去看嘛。啊電影我不會去看那個……^{まんがえいが}漫画映画啊。

林：現在也不會去看嗎？

蔡：そうですね（應該是這樣吧）。不會去看咧。

林：那個宮崎^{みやざき}的電影不是很有名？

蔡：欸，對啦。宮崎^{みやざき}的，我們那時候是那個……なにを……光碟^きを買ってきて（買光碟來）乎，來看的咧。在……都電視去看的。

林：嗯，差不多都是在電視。

蔡：不是……不是去電影館看的。

林：你第一次看到那種就是^{まんが えい が}漫画映画，現在叫「アニメーション（animation）」乎，「アニメーション」的感覺是怎麼樣？因為我看你的書就想說，你有一段是寫說……你那時候要辦雜誌的時候，其實有想要看能不能做台灣的動畫電影？我是想要問說是怎樣的^{まんが}想法，可以……可以借問一下嗎？

蔡：那時候說……我那時候就是……遇到那些是^{まんが か}漫画家，失業去^{まんが}母（--m）？啊^{まんが}漫画的……あのう……大浩劫^{あつ}嘛乎，啊都給人^{あつ}集めて乎，燒燒去了。啊他失業去了，失業去要怎麼辦？要找他們一個出路嘛，啊結果^{まんが}漫画，就想到說就是アニメーション（animation）啊，乎。啊想是說乎——

林：都一樣是用畫的這樣？

蔡：嘿，一樣用畫的，尤其是剛好乎，アメリカのディズニー（美國的迪士尼）有沒有？較早就在出名了。那時候^{にほん}日本のアニメーション（animation）也在開始了^{まんが}母（--m）？啊連這個^{まんが}漫画家^か有名な^{てつわん}手塚治虫^{てつわん}就，開始在^{てつわん}尤其在^{てつわん}做……

林：那個《^{てつわん}鉄腕アトム》¹⁷。

蔡：對啊對啊，《^{てつわん}鉄腕アトム》の乎。那個的時候，我們說「卡通影片」嘛乎……的時候乎，台灣也，是不是乎，我們有這個^{まんが か}漫画家，有這些在乎，是不是可以走這條路。本^{ほんとう}当^{しんけん}に^{まんが}真劍^{まんが}になつて（真的很認真）有去研究，那陣子台灣就^{ほんとう}本^{ほんとう}当^{ほんとう}に（真的）會做這個アニメーション

¹⁷ 台譯《原子小金剛》。

(animation) 的乎，一個是從ハワイ^{だいがく}大学で（在夏威夷大學），修這個アニメーション的課回來的，叫做趙澤修，那時候在什麼……天主教的那個什麼……光……光什麼社¹⁸啊？

林：天主教，你說在美國的嗎？

蔡：不是，在台灣的，那個在中山北路那間叫做……我今ね、名詞^{いま}をね、人の名前^{めいし}とか、なんとか会社^{ひと}の名前^{なまえ}とかね、忘れてしまうんだよね。

（不是，在台灣的，那個在中山北路那間叫做……我現在，會把名詞，人的名字啦，什麼公司的名字啦，都會忘記呢。）

林：私は今も忘れてますよ——

（我現在也會忘記啊——）

蔡：我特別に！

（我忘得很厲害！）

林：——若者^{わかもの}なのに（笑）。

（——明明是年輕人（笑）。

蔡：妳要讀太多東西だから（所以）。〔腦袋裡〕詰め込み^{つめこみ}（背了）太多東西了。讀做光什麼社這樣。

林：光什麼事這樣？

蔡：光什麼社。社，是社。あそこに（那邊）有一個趙澤修老師在那邊，刁工（thiau-kang，專程、特地）去找他去研究還是……それから（還有），我們原本在做廣告嘛乎，啊廣告都有那個廣告影片，有廣告影片的公司，也是去那看說那廣告的那個動畫部分是怎樣做的乎，去研究，啊有需要什麼設備とか（之類）。いろいろ（很多）有去……去研究過啦。但是後來是說因為沒有那個市場，就才沒有去著手乎。

林：沒有那個市場是你覺得說，那時候的台灣觀眾不愛看這個？還是？

蔡：不是觀眾的問題，你要出去就要照那個……影片的那個〔審查規定〕嘛。那種影片要不是電

¹⁸ 指「光啟社」。

影公司就是要那個……什麼啊……那個電視台嘛，啊台灣那時候電視台只有一台而已

林：那時候是「台灣電視台」嗎？

蔡：「台灣電視台」而已，嘿。這個情形，それで（因為這樣，所以）沒市場，不是沒人要看
啦，你如果出來做得很好一定有人看啦乎。但是要給你發行的，要給你做出來的，要給你買
的、接收的乎，只有一台電視台也沒競爭，也沒那個乎，不可能，這樣。

林：我有讀書有讀到說，日本時代台灣其實也有漫画家^{まんが か}，就是台灣人的漫画家^{まんが か}這樣。

蔡：有啊。

林：啊你那時候就知道說有這件事情了嗎？還是說是戰後才知道說？

蔡：我們台灣人有漫画家^{まんが か}〔這件事〕諾（--hioh）？我是……應該戰後咧。較……因為自己開始進
去〔業界〕乎，因為台灣的漫画家^{まんが か}沒有出名〔到〕說已經在我們看的雜誌上出來とか（之
類）的沒有呢（--neh），だから（所以）那個是戰後自己去從事這個漫畫的事業，去東風少
年乎，編輯啦乎，あの頃から^{ころ}（從那個時候開始）漸漸才會知道說，喔！台灣原來原仔
（uân-nā，也）有一些漫画家^{まんが か}。啊後來這個從台南來的乎，不但是少年的來，連那個……王先
生乎，王朝基乎，先生也來，他就是日本時代就是漫画家^{まんが か}啊呢（--neh），所以我們才會直直
知道嘛。

林：那時候才會知道說，原來是——

蔡：還有看到那個漫畫週刊，《漫畫大王》，那裡的一些台灣的漫畫家就出來在那邊乎，諸葛四郎
乎……とか（之類）那些的都出てくるから（出來）。だから（所以）台灣的漫画家^{まんが か}我們反而
是，やっぱり（果然是）戰後〔才知道〕。啊還有我已經被關出來，啊有接觸才知道的。

林：所以差不多是 19……

蔡：1960 年以後。我 1960 年出來的。

林：嘿、嘿、嘿。60年代以降^{ねんだい 以降}。

蔡：そうです（沒錯）。

林：ですよ。なるほどです。

（是嘛，原來是這樣。）

蔡：日本の漫画も 60年代以降（日本的漫画也是 60 年代以後）才……站起來這樣。

林：重新又進口這樣嗎？

蔡：它……日本の漫画進口（tsin-kháu）の問題ではなくて、日本漫画の発展本身乎，1950 年代也是給人看不起的啦。

林：因為它們有那個惡書追放運動。

蔡：對對對，1955 年惡書追放運動で漫画集めて焼いてしまったでしょ？

（對對對，1955 年因為惡書追放運動就搜集漫畫然後燒掉了嘛。）

〔中略〕

蔡：そういうことが（這樣的事情）台灣是 1966 年發生的，我那時候去做《王子》啊，乎。

1966 年，但是 1966 年那時候是，政府が警察動員して，乎。

林：嗯，是不是你說的那個連環漫畫什麼辦法——

蔡：對對，輔導辦法にもとつて，不然検査印のない那個都集めて呢（--neh）乎，啊会社内也都給它們燒燒去了。

（對對，違反〔連環圖畫〕輔導辦法，不然〔就是〕沒有検査印的〔書〕都搜集起來，在公司內給它們燒掉了。）

林：我想要問說，那個「連環漫畫」這個詞是不是說，原本是中國在使用的詞？

蔡：對，對對，那就是中國的連環圖畫嘛，你有看過嘛，這個一頁一頁，啊一頁一頁這樣看的嘛。那個叫做「連環圖畫」啊。

林：那跟我們說的「漫画」是不同的。

蔡：「漫画」不一樣！但是那時候是把「漫画」乎，放進那裡面了。

林：歸類做說是「連環圖畫」這樣。

蔡：對對對對對。

林：喔喔（Ooh-ooh），啊那個連環漫畫跟我們說——

蔡：「連環圖畫」。

林：啊，「連環圖畫」跟我們說的那個パラパラ漫画（翻页漫画）也不相同乎？

蔡：不一樣，不相同。連環漫畫……「連環圖畫」是傳統的，中國的。

林：故事，一些故事這樣嗎？

蔡：沒啦，中國畫風啦，什麼都是中國的。無論故事，無論畫法還是什麼的都是中國的啦。那跟漫画完全不一樣的啦。但是它那個時候叫這個書就是乎，把「漫画」也是抓去叫做「連環圖畫」，這樣來做處理啦。

林：むちゃくちゃやってみましたね。

（那時候很亂來呢。）

蔡：むちゃくちゃですよ。

（很亂來啊。）

林：本当に大変な時代でしたよね。

（真的是很辛苦的年代呢。）

蔡：ええ。啊台灣もそういう時代続いたでしょ？禁書の時代，禁書的時代乎，ずっと這個壓制的時代，很久啊。

（是。台灣這個時代持續了一陣子嘛。禁書的時代，禁書的時代，這個壓制的時代，持續很久啊。）

林：就要到那個……戒嚴結束以後。

蔡：解嚴，解嚴以後。解嚴以後でも，你這個 1989，鄭南榕只是登一個那個……台湾の乎，台湾共和国の憲法草案だけ嘛，也是說叛亂啊，要給他抓啊。だから台灣的這個禁書啦，這個壓制，這個太久啦……太久……それで、才會之後無論漫画でも、映画でも每項都輸日本也好，輸韓國啊，還有輸香港啊。

（解嚴，解嚴以後。就算是解嚴以後，你這個 1989〔年〕，鄭南榕只是登一個那個……台灣的，台灣共和国的憲法草案而已嘛，也是說叛亂啊，要抓他啊。所以台灣的這個禁書啦，這個壓制，這個太久啦……太久……所以才會之後無論是漫畫還是電影，每項都輸日本，輸韓國啊，還有輸香港啊。）

蔡焜霖 20210419

林：我們上禮拜是差不多問到說^{まんがえいが}漫画映画乎。

蔡：對。

林：什麼時候知道說^{まんがえいが}漫画映画〔這樣〕。

蔡：嘿。

林：嘿乎。是差不多……是戰後才有看到乎。

蔡：應該是戰後才有真正看到那個……

林：嘿。啊戰後是在電視上面看到，還是說是電影院，還是說是別的地方？

蔡：應該電視咧。

林：電視。所以電視台灣差不多是在幾年的時候開始說——

蔡：1961 年有第一台，台灣電視公司嘛乎。應該是 1961 年，我記得是〔這樣〕乎，想到的。

林：所以說若普通的家庭是差不多什麼時候開始有說家裡都有一台電視這樣？

蔡：家裡都有一台喔，普及化到家裡都有一台就較晚咧乎。

林：較晚乎。

蔡：嘿、嘿、嘿。

林：啊你們家裡咧？

蔡：我是那個……一開始就有了。

林：一開始就有。

蔡：因為就是乎，我的第一台電視，我在做漫畫公司的那個嘛乎，跟我老闆，老闆很欣賞我，啊所以我要結婚的時候，他就送〔我〕一台。但是那時候是黑白的，四四角角乎，只有黑白的而已。那台後來我在公司在……拚的中間，本來住在三重埔，一層……一樓二樓的透天厝，只有兩個，我們〔夫妻〕兩個住的而已，結婚以後，自己買的房子兩個人住而已。接下來那個電視□□，被偷拿走了。之後老闆又送給我是有彩色的了。（笑）

林：那是什麼牌的啊？牌是什麼牌，電視的牌子？

蔡：應該是想起來是國際牌。

林：國際牌。所以是日本的？

蔡：現在的 Panasonic。

林：嘿啊。所以是日本製的電視嗎？製做的。

蔡：不是，國際牌在台灣做的。

林：喔喔（Ooh-ooh），它工廠在台灣這樣。

蔡：在台灣。國際牌台灣現在在中和啊，在台北的中和。所以後來我做廣告公司的……コピーライター（copywriter，行銷文案），又做業務的那個……國際牌就叫做台灣松下嘛，那松下嘛乎，台灣松下我做專戶的主任，乎。那陣子國際牌是最大牌的，彼當時還沒那個……SONY 還沒有。

林：喔喔（Ooh-ooh），SONY 是差不多幾年的時候進來台灣的？

蔡：現在算起來就算，也沒多久，原仔（uân-nā，也）是它較晚啦，SONY。最早是那個國際牌，還有一個三洋，三洋。

林：三洋是我們台灣自己的牌嗎？

蔡：原仔（uân-nā，也）是日本的牌子啊。

林：也是日本，喔喔（ooh-ooh）。

蔡：SANYO，SANYO 是日本的牌子，那是國際牌的那個松下幸之助的舅子還是什麼人創立的，源頭原仔（uân-nā，也）是……原仔是國際牌做源頭。之後國際牌那時候是叫做ナショナル（National）嘛乎，之後這個全球化的時代才變成パナソニック（Panasonic），這還有一段歷史。

林：喔喔（Ooh-ooh），那這樣我上次忘記問說，說上次有說你有看……我今天有帶這個，就是那時候的《少年俱樂部》（しょうねんくらぶ 遜《少年俱樂部》）。

蔡：（接過雜誌）はい、はい。おー、いいね！

（是、是。喔！不錯耶！）

林：歹勢，因為它較舊啦，可能就怕說會ボロボロ（破破的）這樣，可能看起來會較不方便。

蔡：我們現在《王子》雜誌乎，這個台南的歷史博物館，台南歷史博物館乎，原仔（uân-nā，也）去收藏這個《王子》雜誌啦。那日請我去看，他還不給你黑白摸欸，就要戴手套（笑）。

林：（笑）這不用，這是我自己的東西。

蔡：不要緊喔。（翻閱雜誌）懐かしいね。これは昭和何年なの？（好懐念。這是昭和幾年的？）

林：16年。

蔡：おお、16年。あの、戦争が始まった時。（喔，16年，戰爭開始的時候。）

林：そうですね。

（是這樣。）

蔡：（翻閱雜誌）8月還沒，〔太平洋戰爭〕12月才開始。但是那個中日戰爭是已經殺好幾年了，殺4年了，昭和12年開始。

林：差不多是7月開始的乎。

蔡：對，7月「支那事變」、「盧溝橋事件」。

林：那時候都叫做支那事變乎。

蔡：我們那時候叫做「支那事變」，支那事變。事件是叫做「盧溝橋事件」。

〔中略〕

蔡：戦争就很多了乎。

林：嘿。是不是那時候就是〔叫〕那個……總動員体制，是嗎？

蔡：嘿，已經開始了。体制、翼賛什麼的，開始了。

林：那是從30年代就開始了嗎？說總動員這個。

蔡：那就要查，查看有沒有。靠記憶我就好像……

林：你……就日本時代你的記憶就說，大家有在講說總動員這個詞？台灣。

蔡：国民総動員，叫做国民総動員。

林：はい（是）。

蔡：やはりね……^{たいとう あ せんそうはじ}大東亜戦争始まる前^{まえ}……在說，還是始^{はじ}まってから在說的，どっちか我現在あやふや。

（果然……是大東亞戰爭開始前在說，還是開始後在說的，是哪個時候我現在不太確定。）

林：嗯、嗯，不要緊不要緊。

蔡：就是我們讀小學校的時候就開始了。還有大政翼贊会乎……「^{しょうねん ぶたい}少年部隊」、^{てきち むら}「敵地の村」、^{かい}「怪鳥艇」^{ちやうてい}（皆為目次中出現的文章標題）……

蔡：（翻到次頁）^{いろ こうこく}こういうね、色んな廣告が……

（這種的，有很多廣告。）

林：ありますよね。

（是啊，有這種。）

蔡：^{こうこく}廣告ページ（廣告頁）啦乎。它這……喔！記憶〔中〕沒有說〔有〕那麼多廣告咧。

林：還有彩色的乎。

蔡：嘿。はじめ（開頭）要整頁啦乎。

林：好像說中間也有廣告是彩色的。

蔡：喔，這樣乎。啊這是「套色」，說這樣兩色的啦。

林：叫「套色」呢（--nih）？

蔡：「套色（thò-sik）」。

林：哪一個字啊？

蔡：套，套色，套色（thò-sik）。我們後來王子出、做的時候，也是乎……最前面是那個彩色的，

好幾頁，^{とくしゅう}特集 嘛呼，過來是套色的，然後才是黑白的、モノクロ（黑白）的乎這樣，這樣分啦。啊它這裡是沒照順序來，插在中央。

林：嗯。是為什麼要插在中央這樣咧？是說這樣整本釘起來說頭尾都有彩色的，較心適（sim-sik，有趣）這樣？

蔡：不知道呢（--neh）。

林：(笑)

蔡：它這個有特別做法。我們的做法是從前面彩色的，再兩色的、套色的啦乎，才黑白的。它那個跟印刷製版，凹、凹紙有關係，就要算說整箱的……〔譬如說〕套色的一張的時候，還是彩色的一張較好做啦，較好做乎。

林：喔喔 (Ooh-oo)，「較好做」是說哪裡較好做？

蔡：它製版可以一張啊，它這個套在後面、套在中央，製那個版就——

林：就要一面彩色。

蔡：嘿嘿嘿。就要算看看說，怎樣較可以那個……成本較……可以較便宜這樣乎。啊小孩子的時候，感覺是說喔這個《少年俱樂部》應該是很大本，很那個這樣。現在看起來怎麼小小本？(笑)

林：(笑) 那時候的雜誌都差不多是都同一個サイズ (size, 尺寸) 嗎？

蔡：嘿。講談社的啦，講談社的那個就這個サイズ (size, 尺寸)。啊那個我跟你說《譚海》乎，
《譚海》是算起來どうか (怎樣) 我不記得了，但好像較小本，較小さいサイズ (小尺寸)。

林：那你還記得你上次有說過說你……那時候也有看說那個單行本たんこうほん嘛乎？

蔡：單行本たんこうほん，嘿。

林：單行本たんこうほん你看過的てんざい仔冊，你還記得它們的名字是什麼？就像說，是不是說《少年俱樂部》
上面有連載的〔作品〕？

蔡：のらくろ有單行本たんこうほん，因為のらくろ就連〔載〕很多，連好幾次，從二等兵にとうへい一直升起來
(笑)，升到軍官咧乎。

林：所以二等兵にとうへい是有看過嗎？

蔡：啥 (Hannh) ？

林：就是のらくろ不是有好幾本嗎？

蔡：對啊。

林：你印象說你有看過說是二等兵にとうへい這樣。

蔡：從二等兵的時候，有看過啦。

林：開始看？

蔡：之後看到升到哪裡我就不記得了。

林：喔喔（Ooh-ooh），還有上次有說過說那個日的丸……

蔡：《日の丸旗之助》。對。

林：那也是單行本的嗎？

蔡：啊，沒，《日の丸旗之助》的單行本我沒看過。啊《冒險ダン吉》好像有看過單行本的樣子。

林：那個我今天也有帶。

蔡：那時候它們連載的較多啦。

林：（拿出書）這，就像這種的乎。

蔡：嘿。

林：那時候的單行本……

蔡：ところが（但是）那時候的《冒險ダン吉》我記得是漫画形的咧？

林：你說不是像這樣形的？

蔡：嘿、嘿。

林：你說漫画是像のらくろ這樣。

蔡：它都是像のらくろ這樣。みたいな（好像），那個記憶啦，還是我的記憶違（記錯）也不一定。

林：不要緊，我再來查。

蔡：那時候的記憶怎麼這樣，那天就是看到你這個說欵びつくりした。もう物語の……這就イラストレーションでもないけれども乎、標準の漫画でもない。這個做法乎……

（那時候的記憶怎麼這樣，那天就是看到你這個說欵嚇一跳。已經故事的……這就不是插畫，也不是標準的漫畫。這個做法……）

林：嘿啊。所以那時候大家——

蔡：これ少しびっくりした。

（〔看到〕這個有稍微嚇到。）

林：嗯，所以那時候大家說的「^{まんが}漫画」就是說像のらくろ這樣的^{形式}這樣？

蔡：這樣的^{一コマ}（一格）^{一コマ}很多^{コマ}這樣。

林：那如果說只有……就只有一格那種^{一コマ}漫画，也是說「^{まんが}漫画」嗎？還是說一個圖這樣。

蔡：^{一コマ}漫画は只有一幅^{だけ}でしょ（單格漫畫只有一幅而已啊），普通乎，好像一幅的，那叫做「^{まんが}漫画」對啦。但是那一幅，沒有像說連環圖畫這樣一直連一直……啊這是連的乎，這做法好像較像那個，台灣說是說「連環圖畫」，那個——

林：喔？這就是台灣說的連環圖畫這樣嗎？

蔡：みたいな^{かたち}形^でしょう（類似的^{形式}吧）。一塊圖一塊圖^{だけ}（只有一塊圖一塊圖）……不是好幾個^{コマ}（格）乎，啊好幾個^{コマ}那是あの^{コマ}割り（分格）可以變化啊，普通是6^{コマ}だけ（6格而已）這樣嘛乎，3再〔加〕3的乎。啊但是後來我們在做^{□□*}（^{bun-kiâu}）^小說的^{まんが}漫画的時候，有時候會變成……卻時行（^{si-kiann}，流行）說乎，兩格兩格乎，旁邊兩格做一格，原仔（^{uân-nā}，也）發揮它的場面乎，會變得較大這樣，就變成好像連環圖畫這樣乎。但是也是3格，一頁裡面至少有3格這樣。

林：嗯，至少有3格。

蔡：嘿嘿。

林：是這樣。

蔡：我這個^{きおく}記憶，哪知道我的^{きおく}記憶不對，還是……

林：不要緊，我們再來看。

蔡：那時候是叫這個^{まんが}漫画^{みたい}（的樣子）乎，跟のらくろの^{まんが}漫画^{みたい}這樣連的看的（和的漫畫一樣這樣連著看的）。那個記憶啦，跟那個《^ひ ^{まるはたのすけ}日の丸旗之助》也是一樣，《^ひ ^{まるはたのすけ}日の丸旗之助》也是^{まんが}漫画的那個^{ようす}樣子嘛乎。所以《^{ぼうけん} ^{きち}冒險ダン吉》我以為好像^{まんが}漫画，啊現在看……這本看好像不是乎。我們〔看〕^{まんが}漫画就是說這樣^母（--m）乎，剛剛說就是說有時候乎，變成兩格作一格這樣，這種的表現啦乎。

林：嘿。這個^{まんが}漫画的名字是什麼？這是……

蔡：好像是連載^{れんさいまんが}漫画呢 (--neh)，「愉快^{ゆかい}小僧^{こそう}」，我這個較沒有印象呢 (--neh)。應該^{しょうわ}昭和16年〔較〕有在看的欸，怎麼較沒印象？

林：它們這種雜誌還是說報紙好像有說——

蔡：我上次就是說^{さとうはちろう}佐藤八郎，他就是^{さとうはちろう}佐藤八郎是^{さとうあいこ}佐藤愛子〔的父親〕，^{さとうあいこ}佐藤愛子現在還很有名，她……^{にい}お兄さん（哥哥）。啊她們^{とう}お父さん讀做^{さとう}佐藤コウロク，紅錄¹。

林：紅錄，啊コウロク。

蔡：^{こうろく}紅綠乎，那也寫很多小說，小孩子的小說，專門為小孩子寫的，這樣。啊^{さとうはちろう}佐藤八郎是較^{あか}明るい（開朗），現在較^{あか}明るいとも，較不會那麼^{あか}センチメンタリズム（sentimentalism，感傷主義），較^{あか}明るい。

蔡：で、^{しょうねんくらぶ}《少年俱樂部》の他に（之外）還有一個^{しょうじょくらぶ}《少女俱樂部》，啊……^{しょうねんくらぶ}《幼年俱樂部》ってあったみたい（好像有叫做《幼年俱樂部》的），還有^{しょうねんくらぶ}《幼年俱樂部》，這都^{こうだんしゃ}講談社でしょ（啊、嘛，表確認語氣）應該是，這是都^{こうだんしゃ}講談社〔出版的〕。小学館才是^{しょうがくねん}小学1年、2小学〔在看的〕。啊另外，^{こどもざっし}子供雜誌還有一個^{たんかい}《譚海》，嘿。

林：^{たんかい}《譚海》，漢字是要怎麼寫？可以請你寫——

蔡：「譚」，^{ごんべん}言偏（言字旁）的那個^{たんかい}《譚海》。我現在不怎麼會寫字呢 (--neh)。

林：^{こうだんしゃ}講談社的「談」嗎？還是說。喔！是這個字。

蔡：嘿。みたい^{おぼ}に覚えてる（記得好像是這樣）。^{たんかい}《譚海》。

林：^{たんかい}《譚海》。

蔡：好像那個印象是這樣啦。

〔中略〕

（蔡翻閱雜誌）

蔡：その他^{ほか}に^{ざっし}どういう雜誌あったかな？^{suah}煞（suah，怎麼、哪有；竟然）不太記得了。啊，〔我

¹ 應為口誤，正確是「紅綠」。

們〕還有說「^{おうぶんしゃ}旺文社」。

林：「^{おうぶんしゃ}旺文社」，有，上次有說。

蔡：讀做「^{けいせつ}螢雪」だったかな（好像是讀做「^{けいせつ}螢雪」吧）？^{けいせつ}螢雪、^{ほたる}螢と^{ゆき}雪。

林：^{けいせつ}螢雪、^{ほたる}螢と^{ゆき}雪？

蔡：けい^{ほたる}是^{けいせつ}螢^い母^み（--m̄）？啊^{ゆき}ゆき，叫做「^{けいせつ}螢雪」。「^{けいせつ}螢雪」の意味は、^{いっしょうけんめいべんきょう}一生懸命勉強するこ
と、^{ほたる}螢の^{ひかり}光で、^{たし}確か^{ひかり}光で、あるいは^{ゆき}雪の^{ひかり}光で、硬是讀書，苦讀（^{khóo-tók}），叫做「^{けい}螢^{せつ}雪」。

（けい^{ほたる}是^い螢^み嘛？啊〔後面加上〕雪，叫做「^{けいせつ}螢雪」。「^{けいせつ}螢雪」的意思是努力讀書，用螢火蟲的光，應該是用〔螢火蟲的〕光，或是雪的亮光，硬是讀書，苦讀，叫做「^{けいせつ}螢雪」。)

林：那也是叫做 ^{khóo-tók}？（笑）

蔡：苦讀（^{khóo-thók}），苦讀（^{khóo-thák}）啦。苦讀啦，苦讀（^{khóo-thák}）啦乎，苦讀（^{khóo-}

^{thák}）才對……那叫做「^{けいせつ}螢雪」。だから他會，為了要^{じゅけん}受^{ほちまき}驗^{いっ}母^つ（--m̄）乎，^{しょうけんめいがんば}鉢^{じゅけん}卷^{ざつ}して^な這樣^{じゅけんざつ}乎，一
生^{じゅけんざつ}懸命^し頑張る。だから、^{ざつし}雜誌^{けいせつ}原^{なに}仔^な叫做^な螢雪^なか何か^なみたい^な啦乎，^{すuah}煞（^{すuah}）變做說「^{じゅけんざつ}受^{じゅけんざつ}驗^{じゅけんざつ}雜
誌」，看到就知道說乎，為了要^{ちゅうがく}考^{ちゅうがく}這些^{ちゅうがく}中^{ちゅうがく}学^{ちゅうがく}，考^{ちゅうがく}什麼^{ちゅうがく}乎，還是將來要^{おうぶんしゃ}苦^{おうぶんしゃ}考^{おうぶんしゃ}啦^{おうぶんしゃ}這樣。那^{おうぶんしゃ}旺文社
的^{おうぶんしゃ}啦。小^{おうぶんしゃ}孩^{おうぶんしゃ}子^{おうぶんしゃ}的^{おうぶんしゃ}雜^{おうぶんしゃ}誌^{おうぶんしゃ}差不多乎，不要說^{おうぶんしゃ}小^{おうぶんしゃ}孩^{おうぶんしゃ}子^{おうぶんしゃ}啦，說^{おうぶんしゃ}後^{おうぶんしゃ}來^{おうぶんしゃ}就^{おうぶんしゃ}差^{おうぶんしゃ}不^{おうぶんしゃ}多^{おうぶんしゃ}青^{おうぶんしゃ}少^{おうぶんしゃ}年^{おうぶんしゃ}的^{おうぶんしゃ}，青^{おうぶんしゃ}少^{おうぶんしゃ}年^{おうぶんしゃ}的^{おうぶんしゃ}雜
誌。

（苦讀（^{khóo-thók}），苦讀（^{khóo-thák}）啦。苦讀啦，苦讀（^{khóo-thák}）啦乎，苦讀（^{khóo-}
^{thák}）才對……那叫做「^{けいせつ}螢雪」。所以他會，為了要^{けいせつ}考^{けいせつ}試^{けいせつ}嘛，^{けいせつ}綁^{けいせつ}頭^{けいせつ}巾^{けいせつ}這^{けいせつ}樣^{けいせつ}乎，^{けいせつ}竭^{けいせつ}盡^{けいせつ}全^{けいせつ}力^{けいせつ}努^{けいせつ}力^{けいせつ}
〔讀書〕。所以，雜誌原本叫做「^{けいせつ}螢雪」還是什麼的樣子，卻變成「^{じゅけんざつ}受^{じゅけんざつ}驗^{じゅけんざつ}雜^{じゅけんざつ}誌」，看到就知道
說，為了要^{じゅけんざつ}考^{じゅけんざつ}這些^{じゅけんざつ}中^{じゅけんざつ}学^{じゅけんざつ}，考^{じゅけんざつ}什麼^{じゅけんざつ}乎，還是將來要^{じゅけんざつ}苦^{じゅけんざつ}考^{じゅけんざつ}這^{じゅけんざつ}樣。那是^{じゅけんざつ}旺文社^{じゅけんざつ}的^{じゅけんざつ}啦。小^{じゅけんざつ}孩^{じゅけんざつ}子^{じゅけんざつ}的^{じゅけんざつ}雜^{じゅけんざつ}誌
差不多，不要說^{じゅけんざつ}小^{じゅけんざつ}孩^{じゅけんざつ}子^{じゅけんざつ}啦，後^{じゅけんざつ}來^{じゅけんざつ}就^{じゅけんざつ}差^{じゅけんざつ}不^{じゅけんざつ}多^{じゅけんざつ}青^{じゅけんざつ}少^{じゅけんざつ}年^{じゅけんざつ}的^{じゅけんざつ}，青^{じゅけんざつ}少^{じゅけんざつ}年^{じゅけんざつ}的^{じゅけんざつ}雜
誌。)

林：《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》是差不多國中，那個時候不是說國中乎？

蔡：沒，那個^{しょうがっこう}小^{しょうがくせい}学^{こうがくねん}校。小^{しょうがくせい}学^{こうがくねん}生^{こうがくねん}の高^{こうがくねん}学^{こうがくねん}年^{こうがくねん}ぐ^{こうがくねん}ら^{こうがくねん}い^{こうがくねん}か^{こうがくねん}な（應該是^{こうがくねん}小^{こうがくねん}学^{こうがくねん}生^{こうがくねん}的高^{こうがくねん}学^{こうがくねん}年^{こうがくねん}左右^{こうがくねん}吧）。

² 和台語「苦毒（^{khóo-tók}，虐待）」諧音。

林：^{こうがくねん}高学年。

蔡：嘿，啊低^{ていがくねん}学年は《幼年俱樂部》^{しょうねんくらぶ}母(--m)？乎，啊高^{こうがくねん}学年才是，乎。它就普通尋常^{ふつうじんじょうしょうがっこう}小學校
と……^{こうとうしょうがっこう}高等小學校というね。だから、都有啦，叫做「^{じんじょうこうとうしょうがっこう}尋常高等小學校」乎。

(對，低學年是《幼年俱樂部》嘛？啊高學年才是〔《少年俱樂部》〕。它就普通尋常小學校
和……叫做高等小學校。所以都有啦，叫做尋常高等小學校。)

林：「^{じんじょうこうとうしょうがっこう}尋常高等小學校」。

蔡：(笑) 有的是只有尋常^{じんじょうしょうがっこう}小學校，尋常^{じんじょうしょうがっこう}小學校是到^{ねん}6年^{まで}而已，再爬上去有高等^{こうとうか}科的，那
就變做……^{こうとうじんじょう}欸？高等尋常……^{じんじょうこうとうしょうがっこう}尋常高等小學校というみたい乎(笑)，不太記得了，そ
うような……分啦。啊台灣像我們學校，清水那個公學校，就也有高等^{こうとうか}科，清水好像有高等
科。

((笑) 有的只是尋常小學校，尋常小學校是到六年級而已。再上去有高等科的，那就變成
……欸？高等尋常……叫做尋常高等小學校的樣子(笑)，不太記得了，那樣……分啦。啊台
灣像我們學校，清水那個公學校，就也有高等科，清水好像有高等科。)

林：啊你後來去台中一中嘛。

蔡：嘿，對。

林：台中一中的時候你是住學校的宿舍這樣嗎？

蔡：最早是住學校的宿舍，叫做^{がくりょう}学寮。

林：^{がくりょう}学寮乎。

蔡：嘿，它沒有叫做^{しゆくしゃ}宿舍，叫^{がくりょう}学寮。

林：「^{がくせいりょう}学生寮」じゃなくて、「^{がくりょう}学寮」？

蔡：^{がくりょう}学寮です。學寮(hák-liâu)，所以台語原仔(uân-nā，也)叫做學寮。我們住學寮。

林：那時候就沒有在看《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》了嗎？是嗎？

蔡：そうね、也有……《^{しょうねんくらぶ}少年俱樂部》也會看這就……好像當作小孩子的雜誌みたいな(一樣)，
感覺這樣乎。

林：不然一中的時候是看……都看什麼書啊？

蔡：我們那個時候還有戰時だからね、乎？這個雜誌啊、出版、統制、厳しくなってる。我們進去已經是昭和18年諾 (--hioh)，昭和 18 年，1943年，もう戦局真悪化してる。16 年、17 年還，昭和 16 年 17 年還，喔！直直贏直直贏，一下シンガポール陥落、一下マニラ陥落的就直直贏啊乎。但是到昭和，我們進去的那個昭和 18 年就有開始有空襲啊呢 (--neh)。所以我們口頭試問的時候，乎，要入學試驗的口頭試問，突然會跟你說：「空襲警報！空襲！」就趕緊標準動作乎，耳就這樣，塞いで這樣，趴下，趴下去地板。那我們在口頭試問有做呢 (--neh) (笑)。

(我們那個時候還有戰時嘛，所以這個雜誌啊、出版、統治，都變得很嚴。我們進去已經是昭和 18 年吧，昭和 18 年，1943 年。戰局已經很惡化了。16 年、17 年〔的時候〕還，喔！一直贏一直贏，一下子新加坡陷落，一下子馬尼拉陷落的就一直贏。但是到昭和，我們進去〔中學〕的那個昭和 18 年就開始有空襲了喔。所以我們口試的時候，要入學考試的口試，突然會跟你說：「空襲警報！空襲！」就趕緊〔做〕標準動作，耳朵就這樣，搵著這樣，趴下，趴到地板上。那個我們在口試的時候有做呢 (笑)。

林：(笑) 時代も時代ですね。

((笑) 那個時代嘛。)

蔡：所以あの頃就呢 (--neh)，もう、あまり……雜誌の出版，出版都統制啊，為了要生紙，還是怎樣啦乎。だからもう有雜誌還沒雜誌，我現在記憶ない。

(所以那個時候就，已經……雜誌的出版，出版〔就已經〕都〔被〕統制了啊，為了要生紙，還是怎樣的緣故。所以〔那個時候〕有雜誌還是沒有雜誌，我現在不記得。)

林：有書……這本³裡面好像有說，說因為那時候就統制嘛乎？所以就紙就……紙的品質就變得較不好。

蔡：已經不好，再生紙か(再生紙什麼的)這樣，嘿。

林：還有上次有說，說一個「講談」。你可以再跟我再解說一遍說「講談」是什麼？

³ 指《逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史》一書。

蔡：「講談」諾 (--hioh)？講談就是說，好像我們台灣的「講古」啦。它有「講古仙」があつてね、「講談士」というのがあつてね乎。

(「講談」嗎？講談就是說，好像我們台灣的「講古」啦。它有「講古仙」，〔也〕有叫做「講談士」的。)

林：「講談士」，就「弁士」的「士」乎？

蔡：嘿，弁士の「士」。「落語」返 (huán)「落語」啦乎，啊「講談」は「講談」。「講談」是講較正經的那個乎……言葉でね，說到有一個說，例えば……這個……源 義經の 鶴 越の乎……什麼決戰這樣乎，說 源 義經がね，跟平家在相殺的時候，啊從平家の背後をついてね，從那邊好像 兵庫縣有一個 鶴 越か乎，あそこ後壁 (ā-piah) からね，高い険しい山でね，這個平家沒想到說乎，那個源氏可以從那邊攻下來。それはね乎，もう面白おかしく，好像是說在場みたいに在講給人聽，那叫做「講談」。「講談」當然就較心適 (sim-sik) 的，也有忍者の物語乎，猿飛佐助が怎樣とか言うね (笑)。

(對，「辯士」的「士」。「落語」是「落語」啦，啊「講談」是「講談」。「講談」是講較正經的那個……用說話的，說到有一個說，比方……這個……源義經的鶴越的……什麼決戰這樣，說源義經跟平家在相殺的時候，跟在平家的背後，從那邊好像兵庫縣有一個〔叫做〕鶴越〔的地方〕，在那邊從後面，又高又險峻的山，這個平家沒想到那個源氏可以從那邊攻下來。那個就很有趣又奇妙，好像在〔故事〕現場一樣講給人聽，那叫做「講談」。「講談」當然就較有趣，有忍者物語，會說猿飛佐助怎樣之類的 (笑)。

林：這都是什麼人在說的？

蔡：講談士毋 (--m)？講談士在說的啦。但是乎，講談社就是乎，把那樣的講談はね、仕様に持ってきてるんだよね，だから它寫的乎，在寫歷史乎，不是正經的歷史の生のままでなくつて⁴ね、歴史 (lik-sú) をもつと面白くね乎。講談是在說のみにね，好像我們台灣那時候一個……艋舺有一個，叫做什麼名字？那個講古、講古の師傅嘛呼，那個講那個我們那……

⁴ 應為口誤，可能是要說「めぐって」。

什麼啊？做賊出名的，這個廖……

（講談士不是嗎？講談士在說的啦。但是，講談社就是，把那樣的講談當範本，所以它寫的，在寫歷史，不是去回顧正經的歷史原有的樣子，而是把歷史〔改編得〕更有趣。講談是講得好像，好像我們台灣那時候一個……艋舺有一個，叫做什麼名字？那個講古、講古的師傅啊，那個講那個我們那……什麼啊？做賊出名的，這個廖……）

林：廖添丁？

蔡：添丁乎？喔！說：「（模仿講古語氣）廖添丁喔！他有辦法這樣乎，那個乎，晚上這樣乎，三更半夜啊！大家都在睡覺的這個時候啊，往哪裡這樣鑽（躡 nng）下去乎這樣，爬到樹上去，口*（iā，撒）落下來，把這個好額人（hó-giáh-lâng，有錢人），這個不義的乎，拿一些東西，啊就去……救這些散食人（sàn-tsiáh-lâng，窮人）。」這個，講得很心適（sim-sik，有趣）（笑），那就是「講談」。我們是說「講古」啦，「講談」。

林：所以「講談」是……是日本人嗎？

蔡：日本人啊，日本的。

林：啊「講古仙」是台灣人這樣？

蔡：講古是台灣的啊，對啊。講古，我們講……台灣是說「講古」嘛乎，啊日本是說「講談」嘛乎。都是說歷史，但是不是正史啊。

林：嘿、嘿、嘿，就是較面白（有趣）這樣的乎？

蔡：對對，不是……『三国志』ではなくて（不是《三國志》），《三國演義》啦（笑）。

林：啊！那種的。

蔡：那叫做「講談」嘛乎。講談は本当は是乎，寄せ在那講的，但是講談社乎，それはね，把它變成紙上的乎，雜誌中間乎，在給它揭載的啦。不是人寫的小……小説ではなくてね乎，講談搬來那個。啊也有落語搬來雜誌的，雜誌の上でも也可以讀到落語，啊雜誌の上で可以看到講談，這是《少年俱樂部》とか那種的講談社の雜誌的一個特色啦。那就很心適（sim-sik）的，所以我們……我……很小的時候，就對里見八犬伝とかね乎、あるいは這個伊賀の忍者、甲賀の忍者、猿飛佐助、霧隠才蔵這種的都，都記得那個名字（笑）。猿飛佐助は何

が得意で……就那種的乎，都……乎，從那個雜誌看過的啦，不是去聽講談啦，這是——
（那叫做「講談」嘛。講談原本是演藝藝人在講的，但是講談社把它變成紙上的，在雜誌中間給它揭載的啦。不是人寫的小……不是小說，〔是〕講談社〔從「講談」〕搬來那個。啊也有落語搬來雜誌的，在雜誌上也可以讀到落語，雜誌上可以看到講談，這是《少年俱樂部》之類那種講談社的雜誌的一個特色啦。那就很有趣，所以我們……我……很小的時候，就對〈里見八犬傳〉之類，或是這個〈伊賀忍者〉、〈甲賀忍者〉、〈猿飛佐助〉、〈霧隱才藏〉這種的都，都記得那個名字（笑）。猿飛佐助擅長什麼……就那種的，都從那個雜誌看到的，不是去聽講談啦，這是——）

林：所以你有聽過真正的講談嗎？

蔡：沒沒沒沒，台灣就沒那個機會。

林：台灣沒那種。若說台灣——

蔡：啊台灣是有乎，有一個出名的這個這個……我現在都不記得名字啊乎，這個先生がね，從……
每年都乎，會來巡回，各學校まわってね乎（巡回各個學校），跟人講古啦乎。不然就是跟他們說講談這樣乎，這樣啦。

林：那是台灣人的先生？

蔡：日本。

林：日本人的先生。

蔡：日本的，從日本來的。每年都會定期喔，一些像說春啊何か乎，就會來乎。他不是只有去一個學校而已，去台灣乎好幾個學校。

林：巡回這樣嗎？

蔡：欸？可能它這個那個……游老師出的那本⁵好像有寫出來，不一定。

林：喔喔（Ooh-ooh），好好好，我回去再……回去再去看看。喔喔（Ooh-ooh），所以如果說小時候要聽講古仙講故事……你有聽過嗎？你有聽過啊。

⁵ 指游珮芸《日治時期台灣的兒童文化》一書。

蔡：有啊，就是等那個老師來，那個先生來學校的時候，我們都集中在那個講堂聽啊。

林：喔喔（Ooh-ooh），沒，我是說台灣人的講古仙在講——

蔡：沒沒沒，講古，台……那陣子我們在讀書的時代，沒在說聽台語的啦。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

蔡：啊台語的文學我們也沒有在看啦，學生不會去看台語的嘛，就在鼓勵那個國語の家囉，日本語的那個乎。原本有的新聞有漢文的，原仔（uân-nā，也）已經到我們那時候是就沒有了嘛。

林：所以說你知道「講古仙」是長輩跟你說的這樣嗎？

蔡：就是差不多是那個啦，戰後啦。

林：戰後才知道說有「講古仙」。

蔡：有一個講古仙嘛，戰後很出名嘛，一個ラジオ（radio，收音機、廣播）乎，會放送啊。

林：所以「講古仙」是，戰爭以前是沒聽過說有人在做「講古仙」這種？

蔡：對啊對啊，那時候是鼓勵日本話啊。尤其是戰時總動員乎，就不給你說台語、台灣話啊乎。

所以台語的講古仙是一定……我們的來說啦乎，較早可能我們老爸（lāu-pē）那邊有啦，有遇到乎。我們的時代是，差不多學校的時代沒有啦，就要到這個戰後……才有乎，再復興，才起來這樣。

林：復興起來這樣。所以你爸爸媽媽的時代可能是有？

蔡：有。

林：有乎。是確定說有？

蔡：對，有，確實有。

林：是這樣喔。

蔡：嘿。啊它也有歌仔戲，也有那個乎……歌仔戲啦乎。又歌仔戲又不是那個專門的歌仔戲團乎，是有時候是那個……街的人啦乎，鎮上的人啦乎，自己有趣味（tshù-bī，興趣）的人乎，去組起來的，那種的歌仔戲團。啊歌仔戲團……好像有分成什麼派、什麼派，這個我較不曉得啦乎（笑）。啊那個……傳統的歌仔戲團是乎，那個……沒有查某（tsa-bóo，女人、女

性、女生)的呢(--neh)。

林：都是查埔人(tsa-poo-lâng, 男人)？

蔡：都是查埔(tsa-poo, 男人、男性、男生)的乎。那個「旦」,「旦」的角色原仔(uân-nā, 也)是,「花旦」原仔是那個……查埔的。

林：下去搬(puann, 演)的？

蔡：去搬(puann, 演)的。對。

林：喔喔(Ooh-ooh), 是這樣。

蔡：嘿、嘿、嘿。

林：若這樣, 那個時候的——

蔡：傳統的是這樣。

林：嗯。你看……所以你小時候也有看過歌仔戲……嗎？清水那邊有在演嗎？

蔡：小時候就有在拚(piànn)乎, 但是很早就沒了。我們讀書的時候就開始都在戰爭啊嘛, 日本人說十五年戰爭, 我們就十五年戰爭の落とし子(十五年戰爭下的孩子)啊, 所以我們那時候就較沒有古早的乎, 一些本職ほんしよく囉, 還是什麼囉, 就漸漸不見了。

林：所以就是——

蔡：啊叫家裡的那個……觀音媽搬走啊, 挈(khèh, 拿)あまてらすおおかみ かみだな天照大神的神棚的時代啊啦。

林：所以那時候家裡是有說拜祖先嗎？還是？

蔡：有啊, 有啊, 原來有神主牌囉, 還是什麼囉, 後來又〔有〕觀音媽嘛乎。但是到我們那個時代乎, 尤其是大政翼贊会的国民総動員就開始乎, 啊皇民化運動こうみん か うんどう, 皇民化運動就是, 原仔(uân-nā, 也)是1937那個盧溝橋事件、支那事變し な じ へん的那一年開始那個皇民化運動啊嘛, 就這些東西漸漸不見啦乎。

林：是有說, 不行——

蔡：家裡的這個——

林：——家裡不行放神主牌嗎？

蔡：可以放著啦, 但是祂這かく隠れて(藏起來)乎, 啊一定要有那個神棚かみだな啊, 神棚來佔在中間啊

嘛，佔原來是觀音媽的……（笑）佛像的地方嘛。

林：才又……啊所以觀音媽就放旁邊嗎？（笑）

蔡：觀音媽放較旁邊去了，不然就收起來了這樣乎。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣。

蔡：啊偷拜這樣。

林：會偷拜這樣啦乎。

蔡：會啦會啦。

林：拜也是說初一、十五這樣拜嗎？還是？

蔡：本來是，普通的家庭是每日都要燒香（hiunn）啦。

林：嘿、嘿、嘿。喔，燒香（hionn），hiong，hiunn。

蔡：對，燒香（hiunn）。

林：hiunn（笑）。可能我們台南那個腔跟台中的腔較不同，燒香（hionn），hiunn，乎。

蔡：燒香（hiunn），沒〔在〕說 hiong かな（嗎，表疑問或推測語氣）。

林：可能我們台南有說 hionn 這樣，拈香（hionn）。

蔡：拈香（hionn）乎，拈香（hionn）乎，乎乎……這樣台灣人是府城だから（所以），較正確
啦。

林：沒啦沒啦沒啦。啊若這樣，那時候，就日本時代的時候，你在家裡都是說……因為我有看書
嘛，你說你媽媽較不會講日語——

蔡：對啊，她不會講。

林：所以你跟她都是說台語這樣？

蔡：說台語啊。

林：但是說——

蔡：普通是說台語啦，跟老爸（lāu-pē）也是說台語啊。

林：喔，是這樣啊。

蔡：嘿啊。啊但是給家裡……那個……去和學校，和它們報告是說：「我盡量跟爸爸媽媽說那日文

啦……」(笑)那無影(bô-iánn, 沒有的事)啦(笑)。真的都有說日文那才是「^{こくご}國語^かの家^{てい}庭^{こくご}、^{いえ}國語の家」嘛。

林：啊，所以在……就是公^{こうがっこう}學校的時候，你不是說有台灣人的^{せんせい}先生嗎？

蔡：對，有啊。

林：跟台灣人的^{せんせい}先生也是日語在說話？

蔡：都日語日語日語。

林：所以台灣人的先生日語是很輾轉(liàn-tńg, 流利)這樣嗎？

蔡：很輾轉(liàn-tńg, 流利)啊。

林：喔喔(Ooh-ooh)，他們都是受到那個日本的教育？

蔡：嘿啊嘿啊嘿啊。

林：是在台灣長大的——

蔡：台灣。

林：還是說有去——

蔡：台灣台灣台灣台灣。那時候師範學校就是專門培養那個……

林：喔喔(Ooh-ooh)，是這樣。

蔡：師範學校就是很早就成立嘛乎，這裡本來對面這間⁶就最久的嘛乎，叫做「^{こくごがっこう}國語學校」嘛，
「國語學校」啦。

林：「國語學校」。

蔡：「國語學校」變成，後來才變成「台北師範」嘛。啊「台北師範」才有分做「^{だいいちしほん}第一師範」、跟
「^{だいにしほん}第二師範」，這樣分嘛乎。

林：所以在戰爭還沒結束之前，你覺得說你是哪裡的人？會怎麼想？是說是可能台灣人啊，還是說……？

蔡：我們知道說我們是日本人啦乎，國籍是日本人啊，但是知道說是祖先是……我們是福佬人か

⁶ 指國立臺北教育大學。

ら（從），從福建那邊來的。

林：嗯。

蔡：家裡也有家譜啊。

林：嗯。啊你們家有家譜？

蔡：有家譜，都用毛筆寫的，多厚的。我們是第 12 世，這都知道嘛乎。

林：嗯嗯，有。所以是感覺說自己是日本人，但是在台灣出生的這樣？那時候是這樣想的？

蔡：對啊，啊也知道說是這個日清戰爭乎，就是說甲午戰爭啦乎，日清戰爭後面才歸日本統治的。但是我們是從出生就是日本人了，這樣啦。

林：那時候對中國，現在我們說的中國啦，是怎麼想的？

蔡：不怎麼看得起啊。因為支那事變的乎，不會團結啦乎……啊常常這個軍閥在殺來殺去乎，就看不起，較落後嘛。尤其是甲午戰爭的時候，日清戰爭的時候，這樣輸了以後，換世界各國列強來那個佔據，快要都被分割去了，是看不怎麼得起啦。雖然是……原來就是那個乎，祖先是從那邊來的，啊不過祖先……我們老爸（lāu-pē）老母（lāu-bú）沒在說「支那」啊，沒說這樣啦，他們沒照日本人這樣說啦，他們是說「唐山」嘛。

林：「唐山」？喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：「唐山」。

林：「唐山」的「唐山（Tîng-suann）」乎。唐山來的。

蔡：唐山人，所以後來這個戰後來的才會叫做「阿山」。

林：喔喔（Ooh-ooh），是這樣（笑）。

蔡：這樣是唐山的那個……省略嘛。另外一個說「內山」，那是在說台灣自己啦乎。我老母（lāu-bú）是那個……台中北屯，還是烏日，他們那個口口*（lua-ke）來的嘛，台中的口口*（lua-ke）來的嘛。所以我老母是……那個內山人啦。啊我老爸（lāu-pē）是海口的，在那個清水嘛，在地的嘛。

林：所以你爸爸媽媽都是台中……家族這樣。

蔡：台中……對。但是一個是……我們是本來是海口的，娶那個內山的，就嫁過來嘛。

林：若這樣，那時候你感覺自己是日本人，跟你那時候受到……就是接受到這樣日本教育，是有關係的嗎？

蔡：對啊對啊對啊，有關係的啊。

林：啊和……可能——

蔡：日本教育，出生就是日本人這樣，所以沒有懷疑那個。但是知道說是祖先是那個來的，是台灣人啦乎。我本身是台灣人，這知道啊，乎。啊所以變做說雖然是日本人，但是變做原仔（uân-nā，也）二等國民，這知道的。

林：所以那時候說自己是「台灣人」，會像現在日本人〔說〕這樣啊我從東京來，我是東京人，這樣的講法嗎？

蔡：嘿。

林：較相像？

蔡：嘿，應該是。我在哪裡出生的、出身的乎，那種的意思來說的。所以雖然是日本人，但是，不是……跟內地人^{ないちじん}有分就對了啦，變做說變做內地人還有本島人^{ほんとうじん}母（--m̄）乎。

林：所以那時候看那個日本的電影啊，那不是都說日語嗎？

蔡：對啊。

林：你會覺得說：「喔！我們大家全部都做伙（tsò-hué），都是日本人」這樣，是這樣想的嗎？

蔡：因為受的教育，我們是用日本人的那個啦……乎，也是所以也是想說為了……就要為了天皇那……去那個乎啊（笑），去戰啊呢（--neh），有那個覺悟啊。

林：這樣……那時候台灣說的日語的腔，跟那內地人說的腔，有相同嗎？

蔡：不一樣。

林：不一樣。

蔡：嘿，不一樣。啊因為就是說本身就是說，一方面是我們原本的言語是那個台灣……台灣話嘛乎，所以學日本話一定就原仔（uân-nā，也）腔會不一樣。另外一方面，同樣日本でもね乎，我們現在最多的老師，差不多從九州、還是沖繩^{おきなわ}，來的老師較多啦。啊自然乎，我們學的……日本話乎，就跟東京的標準語^{ひょうじゆんご}，又不一樣了。那腔是這樣來的。

林：喔喔 (Ooh-ooh)，是這樣喔。那從九州、還是說從沖繩——

蔡：來的較多。

林：——是因為說他們離台灣較近這樣嗎？

蔡：可能是這樣的喔，因為實際上就是這樣毋 (--m̄)？實際上這樣就是，應該是他們那較近乎，啊較窮 (khîng) 乎，還有九州、沖繩就是較貧赤 (sàn-tshiah，貧窮、窮困) 的地方，還是說為了要找一個新天地，乎，就那種的較有可能較有啦。應該不會說，我住在東京住得很好勢 (hó-sè，舒適) 的人，說我要來，刁工 (thiau-kang，專程、特地) 要來台灣乎。應該是這樣啦。

林：嗯。但是好像說，你這……讀那個公學校的時候，是不是有一個查某 (tsa-bóo，女人、女性、女生) 的先生是從橫濱來的？

蔡：查埔 (tsa-poo，男性、男生) 的。

林：查埔 (tsa-poo，男性、男生) 的。

蔡：那查埔 (tsa-poo，男性、男生) 的。

林：那查埔 (tsa-poo，男性、男生) 的。

蔡：四年級的時候的植村先生。

林：那是橫濱？

蔡：他很愛跳舞。愛，ダンスが好き (喜歡跳舞)。

林：(笑) 那就是就較靠東京那邊乎？

蔡：對啊，它那靠東京。

林：但是大部分都是九州——

蔡：因為傳統上最大一個是九州、沖繩較多啦乎。後來才漸漸從別的來，像說剛剛從橫濱來的就，會加減 (ke-kiám，多少) 就那 (ná，愈) 庄跤 (tsng-kha，鄉下) 嘛，久了〔之後〕毋 (--m̄) 乎。

林：嗯，是這樣。若這樣，就是……你現在覺得說你是哪裡的人？你如果要說自我介紹的時候，你都說什麼？

蔡：什麼時候要自我介紹？

林：嗯……不知道……

蔡：日本時代？

林：沒，現在。就是現在，不管是說戰後……不然我們分成說戰後跟解嚴之後好了。戰後的時
候，你說你是哪裡的人？

蔡：台灣人啊。

林：台灣人，那時候也是說是台灣人？

蔡：台灣人，我們台灣人啊，那個是從大陸來的，那是「阿山」啊（笑）。

林：我好……我好像有看到說這本書最後有講到說，有想說那時候有受到可能一些書，還是什麼
的影響，就覺得說那個中國那邊是「祖國」這樣，會嗎？

蔡：對。

林：有？

蔡：那是在戰後的時候，這個……說要「回歸祖國」。那時候才開始，欸！還有那時候的祖國是這
個……聯合國的這個戰勝國，是聯合國的乎，那個……安全理事會，安全理事會的 5 個常務委
員之一啊，勝利國。所以原來對「支那」乎，「支那」的那個印象乎，在戰後卻飛走了。台
灣人就是說，喔現在要回歸祖國，我們是祖國是變做乎，戰勝國呢（--neh），戰勝國乎，勝
利的國家這樣，從那個時候開始卻變成……有一個祖國的意識再來。啊但是看到的現實，卻
讓人失望乎，所以我現在在準備的講的就是說「祖國的迷思」嘛。這個「祖國的迷思」害死
很多人，我們這樣舉旗子乎，還是張燈結綵乎給他們歡迎，這個祖國來就是因為這「祖國的
迷思」啊。啊但是這個「祖國的迷思」，看歷史並不是說……我們這些少年（siàu-liân，年
輕）的是戰後才有啦，說要回歸祖國才有這個。不然以前是看不起這個「支那」的，給世界
各國在給它欺負的，極弱的東亞病夫嘛乎。這樣的關係，戰後說要回歸祖國才變過去的。但
是其實是台灣是差不多 1920 年代乎，在日本的殖民統治下，就有那個……覺醒乎，覺醒，那
個一些運動嘛，像是從文化協會開始的。林獻堂啦、蔣渭水，這個「文化協會」，然後這個
「文化協會」發展變做這個「民眾黨」嘛乎，他們自己的黨乎，那種種的。另外一方面又左

派的有一個「台共」乎，啊但是這個是無論左派的「台共」也好，或是說「文化協會」也好，還是說「民眾黨」成立也好，都有那種的祖國意識在，認為說中國是我們的祖國。所以你給它看「民眾黨」的那個……這個黨旗乎，都是……原本是好像青天白日……滿地紅去改的，那樣的黨旗呢 (--neh)，乎。

林：所以你小時候的時候就知道林獻堂那些人嗎？還是說？那也是都戰後——

蔡：沒沒沒，因為戰後才……不過他們戰前有名是乎，林獻堂啦、辜顯榮啊，都是日本的貴族院的議員，^{きぞくいんぎいん}貴族院議員乎。這樣出名的啦，變成說他是給日本也重視的人（日本方也重視的人）。

林：所以是戰後才了解他們的思想，還是什麼的乎？

蔡：嘿，對。

林：喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：因為戰前是林獻堂啦、辜顯榮這些人都是乎，設立台中一中的乎，投資、自己出錢出土地，才有台中一中的。在我們那個建校的那個碑上，裡面都有寫在那，怎樣捐錢、多少人，好像好幾百人有捐錢嘛，啊大多的就是他們這些人乎。所以，掠做（liáh-tsuè，當做、以為）說我們台灣的勢人（gâu-lâng，能人），日本統治時代就是說台灣的勢人，給他們看〔做是台灣有能力的人〕。

林：若這樣解……所以就是戰後也是會說自己是「台灣人」，但是就……最早的時候就有那種「祖國的迷思」這樣就對了？

蔡：欸……「祖國的迷思」是台灣的歷史上是這樣，但是我們小孩是沒有。我們小孩子是在日本的教育下乎，根本是沒有那個「祖國的迷思」，是只有說這個「^{しな}支那」嘛乎，「^{しな}支那」他們在說那個是東亞病夫嘛乎。就和日本在殺母（--m̄）乎，啊日本連戰連勝^{れんせんれんしょう}啊，啊我們就要去參加「^{なんきょうかんらく}南京陷落」乎，啊就去舉旗子啦、去颯（iānn，表「旗子飄來飄去」之意）乎，啊甚至晚上這^{ちようちんぎようれつ}提灯行列，我就^{ちようちんぎようれつ}提灯行列感覺想睡覺去了，我大哥就把我借（āinn，揹）回來，種種的（笑）乎，這是這樣乎。

林：（笑）喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：所以我出生的時候已經是十五年戰爭的乎，就落とし子だから（戰爭下的孩子），變成較沒有那種的祖國意識啦。有祖國意識只是說，戰後，聽說，要「回歸祖國」啊。那時候「祖國」還是戰勝國，啊原來跟的日本是戰敗國啊，喔這樣就很開心了說。啊一些在日本的那些年輕人也是乎，留學去在讀大學，那些也是說喜び（欣喜）他口就回來了。これから（從今以後）乎，我們是變做自己是中國人啊乎，啊是世界一頂國。これから（從今以後），就要來乎，奉獻自己的專才乎，來為了我們的國家乎。那時候想的國家也不一定說是想到「台灣國」啊，想到說啊就「中國」啊，中國的台灣來拚什麼的，應該是那時候要回來的人都這樣想。但是回來到地煞（suah）一切都不一樣（笑），幻滅。所以這個 1945 年戰爭結束以後，46、47、48、49 到 50 乎，這個 45 年的時候〔我〕是一個中學生而已，到 50 我就變成政治犯了。這個很大的變化，（笑）我們那個時代是這樣。所以，變成認同乎，所謂アイデンティティ（identity）乎，就是這個中間就直直……乎。

林：直直在變化這樣？

蔡：直直在變化啊。身份也大變化啊，從一個中學生，我很快，我 15 歲就變成國民黨員了（笑）。很快就變成模範生啊，很快就做那個級長，很快就變做參加那個讀書會，很快就變成政治犯了（笑）。

林：嗯……所以解嚴之後是……也……你說——

蔡：1987 才——

林：嘿，你說的這種想法在解嚴之後也是直直在變化的嗎？還是說那時候就——

蔡：意識變化？那時候是認定說乎，解嚴以後，我們變成政治犯以後乎，又被放出來什麼就是說，這個台灣……你說強調中華民國說那是假的，說中華民國就滅亡了嘛，1949 年就滅亡去了。所以它是假的，它是為了要統治的正當性乎，所以說它是中華民國，啊照中華民國的憲法。但是它說的中華民國，你聽郝柏村在說就知道了啊，它是包括那個蒙古人民共和國的那個什麼啊？海棠？

林：秋海棠。

蔡：秋海棠嘿嘛，乎，其實是變成黑雞母啊咧（笑），母雞一樣的。但是這個中華民國也是主張

說，他們的中華民國啦。這很痛苦的事情咧，我這個做出版嘛，啊我這個出版的時候，那個把那個オックスフォード（Oxford）的 Illustrated Dictionary，就是說有插畫的那個 dictionary，把它……把它買版權乎，來印做英漢辭典啊。啊中國的，介紹中國它的 Oxford 有中國的地圖啊，那是黑雞母的啊。我們把它改成秋海棠，那個啦乎，哇！Oxford 大學的出版社不肯啊，說這個不對啦！不行乎……我說，我沒有這樣做，我根本在台灣沒辦法出版啊，我沒辦法出版不打緊啊，掠做（liáh-tsuè，當做、以為）說我思想有問題又把我抓去了啊（笑）。後來，□□沒辦法就說，要不然只能協議說，這種的地圖的乎，只可以□□*（li-tak）在台灣島內，甚至海外的那個……

林：澎湖——

蔡：發展協會都不行，不行去發行。

林：台灣島內是說澎湖那也可以嗎？有包括？

蔡：包括，對啊有包括台灣的。就是說中華民國之……這個所控制的這個土地範圍內。連香港都不行去啊呢（--neh）。

林：喔喔（Ooh-ooh），所以那時候出版就是在台灣本土這樣出版就對了。

蔡：嘿啦，嘿，給你限制乎，要不然那原來，做英漢的時候，我們可以去全世界那個……華語的……華人的……社會……去發行才對嘛，我們的、我們做的國語辭典就是這樣啊，可以乎，去全世界去發行的。但是跟オックスフォード（Oxford）合作的跟它買版權的這個乎，不行了，因為那個地圖。所以我做國語辭典的時候，我就不要刊地圖了。我刊的是那個……變做，廣東省〔就〕廣東省的地圖，啊浙江省〔就〕浙江省的，啊這都依照現在的中國的，像說過去的「東三省」乎，後來中國……中華人民共和國有改變，我們就照它的。但是那是省的乎，那個政府不會去發覺到說（笑），有畫到它們的（笑）。

林：（笑）喔喔（Ooh-ooh），你剛剛有拿到說……就說有講到那個——

蔡：認同的問題乎？

林：還有統治的正當……性。

蔡：正當性。嘿啦。

林：嘿，啊——

蔡：所以我們是承認說中華人民共和國……中國的代表是中華人民共和國啊，那你要說我是中國人，你是中華人民共和國的那不才是中國人？我在台灣說中華民國人，那不是真正的中國人啦。

林：嗯。啊——

蔡：啊原來它還對中國，在中共有一個幻想在的嘛乎，因為他們那個共產主義，還是說馬克思主義是 20 世紀的很重要的一個思想嘛乎。在世界各國，連那個很大學者也是，乎，有論戰嘛，算說 1953 年的，1953 年的沙特，サルトル乎，跟カミュ（卡繆）的論戰，兩個都是同情、贊成這個共產主義的乎，贊成。但是蘇聯那種的，用……用那個那個……武力乎，硬要統治的那個乎，カミュ就反對啊，啊沙特是贊成的啊，在這個中間兩人論戰。1953 年的時候，結果沙特較會說話，他贏了。但是從那時候 70 幾年後的現在來看起來，是カミュ才對啊。所以，這個……這個這個難說，這個認同的問題，這很難說就是說乎，我們這個做一個年輕人乎，在這中間，一定是徬徨的嘛。彎來彎去、彎來彎去嘛乎，說一個較那個的就是說，1987 年就解嚴啊毋（--ñ）？解嚴啦乎。解嚴了應該是自由了，但是台灣這個白色恐怖還閣（koh，再）繼續。所以 1989 年這個鄭南榕才會觸法了，因為他好像刊登一個……什麼啊？那個……許世楷先生的台灣共和國的憲法草案而已就說他是叛亂罪，要給他抓。這個事情，1990 年還有去看史明的書的乎，「獨台會」的學生，軍警也是沒有跟學校照會，就進去清華校園去抓那個……學生啊。所以這個……白色恐怖我們繼續那麼久，後來是 1992 年這個刑法 100 條修正，才不會說因為你的思想，還是說你的言論，就會變成說被別人判叛亂罪，那個事情就不見了。真正言論的自由，思想的自由，那陣子才開始有乎，才沒有白色恐怖了。在這中間，我們這個人的那個……認同，原仔（uân-nā，也）在這中間也直直變化啊，隨著這個我們的民主運動的乎，形勢會變化。我是要這樣說啦。所以，到這個 19……大概 90 年還 91 年，我有去參加那個……日本乎，一個在京都，京都的那個很出名很大間的什麼堂⁷乎，那裡

⁷ 指「名古屋國際會議場」。

有舉辦世界的那個……心理學的那個……大會吧？哪知道？〔好像是〕應用心理的樣子，應用心理學的那個……大會⁸啦，世界訓練。啊那時候日本那個^{きょうと どうししゃだいがく}京都の同志社大学的^{せんせい}（é）先生，乎，一方面……結合乎，韓國、中國，就是說中華人民共和國，跟台灣好幾個乎，學者，要來說這個廣告心理的乎，的情形，啊廣告，廣告乎，這個在這些不同的地方，得到多少的認同とか（之類）這樣種種的問題啦乎。啊那個同志社大学的原仔^{どうししゃだいがく}（uân-nā，也）邀請我要去毋（--m）乎，還有邀請我們一個台灣人，那時候在^{こうし えんだいがく}甲子園大学在當教授的乎，^{おおつかせんせい}大塚先生乎，叫我們去參加。^{おおつかせんせい}大塚先生原來的姓是吳，姓吳。

林：喔喔（Ooh-oooh），他是台灣人，啊去歸化的。

蔡：台灣人，啊去歸化，歸化去，啊娶日本太太在〔日本〕的。^{おおつかせんせい}大塚先生也邀請我乎，說在台灣廣告公司，較有辦法說日本話跟他們那個的乎。我做一個關於廣告方面的那個問卷調查啦乎，分去那個……有一個工作坊啦乎，workshop 乎，在那個。啊同志社大学的^{どうししゃだいがく}先生拜託我們，說乎，我們不要……掛乎，代表就是說「中國台灣」的代表啦。我們是說：「哇……說『中國』是『中華人民共和國』咧。」啊不過，我那時候的思想是，認同是「中華人民共和國」才是「中國」啊。我假使說中國人應該是，原仔^{どうししゃだいがく}（uân-nā，也）是那個嘛乎，中華人民共和國嘛乎，那個嘛。啊台灣的「中華民國」是假的啊，它就已經原來就亡國的嘛，而且它又對台灣人用這種獨裁這樣乎。之後^{おおつか}□□*（khoo-lih）在說，跟大塚先生在說，好啦不然我們給它乎……給它承認啦乎，不要給我掛說「中華人民共和國」就好了，我們「中國」這個通稱乎，可以接受這樣乎，所以用「中國台灣」的那個名字去（笑）……我們去參加啦。這是我們的「認同」的問題乎，在這個 1990 年我還是這樣啦乎。但是後來發展就又不一樣去了喔，所以我是原仔^{どうししゃだいがく}（uân-nā，也）〔認為〕「認同」是會變化的。

林：你感覺現在有說……^{ていちゃく}定着了，還是說還是直直在變化？

蔡：現在^{ていちゃく}定着啊啦，應該是，台灣人嘛。

林：啊你，我想要問一些，關於……就跟語言有關係的問題啦乎。就是你戰後的時候都是說什麼

⁸ 應指「國際應用心理學會大會」。

語言？如果說戰爭剛結束的時候，也是說日語嗎？

蔡：在學校、朋友這些少年的中間，是說日語較多乎。啊回去家裡，原來就是回到家就是說台灣話嘛乎。還是學生嘛，乎，所以回到家都說台灣話啊。啊跟朋友中間是日本話較多，但是漸漸、漸漸會插台灣話下去說了嘛乎，因為大家就常用語，在家裡都是說台灣話。所以變成說台灣話跟日語乎，「ちゃんぼん」（混著說），我們都叫〔那個〕做「ちゃんぼん」的，變做我們的……啊很心適（sim-sik，有趣）就是說，這種的情形乎，會抓去當做政治犯以後乎，就變成我們的武器了。就「ちゃんぼん」，因為被抓去以後，到處都有那個「抓耙仔（jiàu-pê-á，檢舉人）」。

林：你說那個「抓耙仔」，是那個書⁹裡面寫的那個「犬」嗎？

蔡：「犬」，對。

林：那是說……「抓耙仔」是說他們國民黨的人嗎？還是說？

蔡：不是啦，同樣被抓去的嘛，就給別人抓耙仔。

林：喔！同樣被抓去的人裡面有抓耙仔。

蔡：裡面乎，因為有的想說乎，看可不可以〔因此〕得一個功勞咧乎。當抓耙仔有功勞的，看可不可以較早把他放出來乎，有這個空想、妄想嘛。其實是不可能的啦乎，但是他就去做抓耙仔的啦乎。

林：但是你〔書裡〕說抓耙仔都聽不懂日語跟台語，所以他們是……？

蔡：會「ちゃんぼん」的啦。他們有的人會台灣話，啊外省人也有一些台灣話，會台灣話毋（--m̄）？抓耙仔外省的較多嘛乎，會台灣話。但是乎，他們從福建來的乎、閩南來的都會台灣話啊乎，但是他們就聽不懂日語啊。啊有的是乎，抓耙仔凡勢（huān-sè，也許、可能）有一些懂日語的啊，留學去在日本囉還是什麼囉，啊現在做大官啦還是什麼的，那種的乎，但是他就不會台灣話，這也有啊乎。所以我們用那個「ちゃんぼん」的乎，日本話跟台灣話摻在一起，哇！變成我們的一個新的武器啊。我們這個台灣小孩乎，尤其學生囡仔較多啦乎，年

⁹ 指《逆風行走的人生：蔡焜霖口述生命史》一書。

輕的，在說話〔ちゃんぼん〕是一個，很好的那個……這就變成說□□*（gian-tiong）嘛，在外面的時候是ちゃんぼん啦乎，進去那邊就變成我們一個很好的武器這樣。

林：若這樣去被關出來之後，是說什麼較多？

蔡：……關出來乎，在家庭跟職場不一樣啦。

林：嗯，啊，若這樣，這樣講好了，這樣問好了，你那時候就是被關出來，啊才去找你現在的太太嘛乎。啊你去找你現在的太太，還是說你去找她爸爸的時候，是都用什麼話在說話的？

蔡：日本話跟台語摻雜的。因為傳統我是教育學日本話的啊，我那丈人，諱（hooh）！日本話很會喔，才會去做日本的海軍的那個……翻譯官嘛乎。啊就是因為這個才會後來在做□□*（to-hak）的時候，被人……被人黑函乎，檢舉嘛，才會被抓去啊，啊他才可以留下來。

林：嗯……是這樣。

蔡：（笑）

林：若這樣，在……就是做工作的時候都是說北京話較多嗎？

蔡：欸……看你服務的單位不一樣。啊我自己《王子》的時候是台灣話跟那個……北京話嘛乎，年輕人就都會北京話啦乎，但是這個漫畫家（bān-uē-ka）囉那種的乎，都台灣人較多毋（--m̄）乎，啊台灣人都說台灣話較多嘛，做漫畫（bān-uē）的時候啦乎。啊進去國華廣告，就差不多那陣子乎，我們總經理是當然是〔說〕台灣話乎，跟日本話啦乎。但是那時候年輕的做課長啦那些乎，都是台大畢業囉什麼的囉，比我年紀小的，較……乎，都已經在說「國語」啦乎，在開會啦什麼啦，都說「中國話」了啦，說「華語」了乎，嘿。但是私底下，啊像說我的這個コピーライター（copywriter，行銷文案）的課長，我有說過嘛，那是……原仔（uān-nā，也）是政治犯放出來的，那是東北人。所以都是說……在職場乎，應該是講……講華語較多啊。

林：那時候，是你講……就是說「華語」這個語言的時候，你是用「華語」這個名字去說它？還是說「國語」？

蔡：「國語」……他們都說「國語」啦。啊我們是掠做（liáh-tsuè，當做、以為）說那是「北京語」啦，因為我們剛戰爭結束，我們就是說開始學，學的是學「北京語」啊，沒在學「國

語」。啊我們的「國語」是日文啦，日語啊。我們說的「^{こくご}國語」是^{にほんご}日本語。

林：若這樣，後來你就是小孩子出生之後，你都是跟他們說什麼話較多？就是你們的……^{むすこ}息子さん（兒子）。

蔡：煞（suah，怎麼、哪有；竟然）都變做說講這個華語較多。

林：是為什麼會說華語較多咧？

蔡：啊他在學校都用華語……（笑）

林：不會說他們在學校用華語，啊在台……在家裡——

蔡：那時候沒那個……想法，沒說……那個，那時候的「台灣人認同」還沒有那麼強乎。啊所以變做說……乎，較方便嘛，他們回來都跟我講……那個華語，我就跟他們說華語這樣。尤其是乎，怕說乎，他在學校在讀書乎，要把那個……功課還是什麼囉乎，應該要讓他……讓他不會去受到說這樣種種的混亂，還是什麼囉，才配合他啊。啊他的課本都是那個……〔華語〕在讀的嘛乎，連數學他也是用華語在讀的，所以要給他說明，要給他教也都要用華語母（--m̄）？跟老師一樣母（--m̄）？

林：嗯，但是他們都聽得懂，他們現在都聽得懂台灣話，不是嗎？那是什麼時候……學的？

蔡：去美國留學才學較多（笑）。

林：（笑）喔，是這樣喔。喔喔（Ooh-ooh）。

蔡：在台灣的中間也是會說……

林：嗯。若這樣，我……我們上禮拜是有說到說那個電影的事情嘛乎。你說你愛看チャンバラ（武打片），還是說チャップリン（卓別林），那時候的事情。想要請問說，你在……想那時候的事情，你是抱……你是用什麼樣的心情在想的？說日本時代的事情？

蔡：都懷念啊。

林：懷念。懷念是因為說那都是很久以前的事情，還是說——

蔡：古早的事情，好像跟懷念故鄉一樣啊。

林：懷念故鄉一樣。

蔡：現在已經沒有了啊乎。啊小孩子的時候，啊尤其是小孩子的時候是生活是……較快樂的嘛，

乎。啊那個快樂是因為戰爭結束以後，完全變〔化〕去了嘛乎，很淒慘嘛。啊所以，若想到說小孩子的時候的事情，是較快樂啊，啊很可惜啊。所以看《少年俱樂部》還是什麼乎，雖然它是用……那個鼓舞戰爭的，差不多《少年俱樂部》你這樣看都是在鼓舞戰爭的乎，但是在……在這個記憶裡面是……是快樂的事情啊。

林：很快樂的事情。

蔡：のらくろ也是很心適（sim-sik，有趣）呢（--neh），乎。雖然他是當兵，啊從二等兵起來乎。啊當兵那是很痛苦的事情啦，實際上是，我們自己也去當兵，很痛苦的事情啊。但是乎，在漫畫（bān-uē）裡面是〔看起來〕快樂的。

林：還有……可能跟電影較有關係啦，就是說你對電影的見方（看法），在戰爭之前跟戰爭之後有什麼變化？還是說？

蔡：應該沒變化呢（--neh），都很愛……很愛看電影。

林：都很愛看電影。但是戰後不是說拍的電影就沒什麼相同，還是說戰——

蔡：不一樣，當然不一樣啊。

林：嘿啊。戰後有辦法再看到日本的電影，日本的電影？

蔡：我們是很晚才有這……因為我過沒多久就被抓去關了。啊所以後來社會較安定，差不多日本電影有在進來的時候，我不在了，我就在火燒島了（笑），沒電影可以看（笑）。是回來乎，才開始有那個電影嘛，啊我不在的時候就有什麼《青い山脈》囉什麼的，那種的都差不多我們不在的時候直直進來的。啊……啊我們回來以後，啊就有日本電影可以看了乎，啊那些我就很愛去看啊，尤其是我家內（khah-neh，太太）很愛看電影啊。所以，岩下志麻演的乎，あるいは……あれは何だった？あり什麼いねこか¹⁰？（或是……那個叫什麼啊？あり什麼いねこ嗎？）我這些人的名字都不記得了乎，那時候出名的這個……這就我問家內（太太），她有她的……ファン（粉絲、影迷），她的好きな（喜歡的）。それからまだ山本富士子というのがいた（另外還有一個叫做山本富士子的）。

¹⁰ 可能是指演員「有馬稲子」（ありま いねこ）。

林：山本富士子^{やまもとふじこ}，喔！

蔡：山本富士子^{やまもとふじこ}是後來變成日本小姐嘛，去選上日本小姐嘛乎。啊那個是有島稻子^{ありしまいねこ}かあり什麼？
何^{なん}とかいねことというのは……

（山本富士子^{やまもとふじこ}是後來變成日本小姐嘛，去選上日本小姐嘛乎。啊那個是有島稻子^{ありしまいねこ}還是あり什麼？〔有一個〕叫什麼稻子的……）

林：可能我較不懂（笑）。

蔡：這樣喔！岩下志麻^{いわしたしま}有聽過嗎？

林：嗯，有！

蔡：乎。はい。そういうふうなのが……（是。這種的……）這個戰後的，回來的時候可以看的啦。啊戰後台灣是那個……日本雜誌普通我們都不能進來，只有那個《婦人俱樂部》^{ふじんくらぶ}，啊跟《主婦の友》^{しゅふとも}，跟那陣子乎，何が^{なに}あったか……（有什麼呢……）《主婦と生活》^{しゅふせいかつ}，還有一個……我剛剛有想到，煞（suah，怎麼、哪有；竟然）……《家の光》^{いえひかり}。

林：《家の光》^{いえひかり}？

蔡：嘿。

林：喔！これは^き聞いたことないです（這個我沒有聽過）。

蔡：《家の光》^{いえひかり}較特別な^{とくべつ}……那個咧。あれで^{こうこく}広告とらない。啊一定乎，商品的^{しょうひん}（é）紹介乎，一定^{じっけん}実験する。啊○○○○○*（本当に^{ほんとう}近くて），啊去……科学的な^{かがくてき}実験をやってね乎，中了它才會介紹。だ……だったはず^{おち}啦，……と思う。那我看是戰後的……還是戰前就有？現在，記憶^{きおく}が薄^{うす}れて……

（《家の光》較特別的……那個咧。那個不放廣告。啊一定，介紹商品〔之前〕一定〔會先經過〕實驗。啊○○○○○，啊去……做科學實驗，中了它才會介紹。應……應該是這樣啦，……我想是這樣。那我看是戰後的……還是戰前就有，現在記憶模糊了……）

林：大丈夫^{だいじょうぶ}です、大丈夫^{だいじょうぶ}です。

（沒關係、沒關係。）

蔡：就是說，婦人雜誌^{ふじんざっし}だけ（只有婦人雜誌），あの……可以輸入^{ゆにゅう}（那個……可以進口），可以

看。我回來的那一些時代，是這樣啦乎。

林：我剛才聽你說，我雄雄（hiông-hiông，突然）想起來說，其實我看到那日本時代的那個報紙的廣告，我有看到一個也是那個……就是有《幼年俱樂部》跟《少年俱樂部》嘛？還有一個叫做《講談俱樂部》，你有聽過嗎？

蔡：そうね……聞いたことがあったみたい乎。有可能喔乎。

（這樣……好像是有聽過。有可能喔。）

林：那可能是較……就是年歲較大的人在看的啦乎？

蔡：較大人的乎，だから講談が好きな……ね（喜歡講談的），乎。

林：嗯，所以你自己是沒看過，有聽……可能有聽過這樣？

蔡：嘿，我只有看過《キング》。

林：喔喔（Ooh-oooh），《キング》。

蔡：欸？あるいは《家の光》是那時候的かな（還是《家の光》是那時候的）？應該是戰後的，剛剛說過的。

林：不要緊，我再來查。《家の光》嘛乎？

蔡：とにかく那種的あれが，1960年我回來的時候，あの頃からずっと10年（tsáp-nì）ぐらいの間乎，日本の雜誌是只有那個可以進來。

（總之那種的，1960年我回來的時候，從那個時候開始整整有10年左右的時間，日本的雜誌是只有那個可以進來。）

林：歹勢，我再借問一下。就是1945年開始，到……1950年中間，你有去過電影院看過電影嗎？

蔡：1945。

林：嘿，開始。

蔡：開始，到什麼時候？

林：就是被關之前。

蔡：之前喔，有啊。

林：有？

蔡：那陣子——

林：那電影院的名字是什麼？

蔡：欸……那陣子都在台中嘛，「^{たいちゅうざ}台中座」。

林：「^{たいちゅうざ}台中座」？

蔡：台中有名的是「^{たいちゅうざ}台中座」でしょ（啊、嘛，表確認語氣）？ほかにどういふ……（其他還有什麼……）天……天外……「天外天」。

林：喔「天外天」，現在被拆掉的那個。

蔡：嘿、嘿、嘿。「天外天」也曾去，「^{たいちゅうざ}台中座」也曾去。

林：「^{たいちゅうざ}台中座」是在日本時代就有的嗎？

蔡：對啊，日本時代就有。

林：所以你一中的時候，你有去「^{たいちゅうざ}台中座」看過電影嗎？

蔡：有啊。

林：有。那是老師帶去，還是說？

蔡：沒，自己看。

林：自己去？

蔡：中學生自己去，ほとんど（幾乎）沒有老師帶的呢（--neh）。

林：じゃ（那）……^{こくみがっこう}国民学校的時候，有說老師一起帶整……就是——

蔡：也沒有呢（--neh）。

林：也沒有？

蔡：是那個來我們的^{こうどう}講堂演的，敢若（kánn-ná，好像、似乎）……嗯。

林：是這樣喔。一中的時候有去說……有去「^{たいちゅうざ}台中座」看過電影這樣。

蔡：嘿，嘿。

蔡：戰後乎，戰後也有去看啊。戰後看的印象深的就是……中國電影是那個……《一江春水向東

流》。它會有上下兩〔集〕……乎，一個是《天亮前後》，一個是叫是什麼^{なまえわす}！……名前忘れただけど乎（忘記名字了），它有上下兩〔集〕……乎。

林：嗯，喔！所以你上禮拜說你小時候看電影是你爸爸媽媽帶你去看——

蔡：帶的，嘿。

林：啊不是媽媽，是都跟爸爸去看的。

蔡：爸爸。

林：都跟爸爸去看的。在一中的時候是跟朋友——

蔡：自己啦，跟……跟朋友啦。

林：跟朋友一起去看。啊那時候是，就電影票的價格是差不多說是一個中學生可以——

蔡：忘記了啦！

林：（笑）

蔡：錢我忘記了啦！

林：就是跟友^{ともだち}達一起去看的啦乎？

蔡：嘿、嘿。

林：一中的友^{ともだち}達這樣？

蔡：嘿。也不會說很貴啦。

林：嗯。

蔡：啊……戰前也有看電影啊，「^{たいちゆうざ}台中座」乎，戰後有看。啊戰後就是說，剛剛說的《一江春水向東流》啦乎，喔那陣子轟動。啊這個……^{おんがく}音樂的有這個ショパン（蕭邦），《一曲難忘》，乎。啊後來好像有那個來……《翠堤春曉》。

林：嗯，都中國的電影嗎？都是——

蔡：欸，不是！（笑）《翠堤春曉》是那個……那個……什麼ワルツ（waltz，華爾滋）的，ウィン

¹¹ 1947 年的《一江春水向東流》，分成前篇《八年離亂》和後篇《天亮前後》兩集。

參考資料：

好並晶（2014）「“自尽”という名のメロドラマ——中国映画『一江春水向東流』再釋——」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要 外国語編』5 卷 2 号，近畿大学教養・外国語教育センター編，31-53 頁。

ナ・ワルツ (Viennese waltz, 維也納華爾滋) 的乎, 叫做那作曲家叫做什麼……梅特勞斯¹²還是什麼的……的故事啦, 乎, 啊它的主題歌が^{しゅだい か}〈One Day When We Were Young〉乎。「One day when we were young, one wonderful morning in May (唱)」, 叫做《翠堤春曉》。所以那首歌, 後來我們在島^{しま}¹³, 啊常常唱嘛乎。

林: 是大家都看過這齣電影才會唱?

蔡: 欸……對, 這樣流行起來啦乎。我有一片那個……國家人權館替我拍的呢 (--neh), 那個……就是唱這個, 《翠堤春曉》。我在這個……One Day 乎, When We Were Young One Day 啦乎, 啊它給我拍的時候, 在綠島的牛頭山, 那山頭頂叫我唱這首歌呢 (--neh) 乎, 面白いよ (很有趣喔), 有時間再給你看。

[中略]

林: 但是我想要請問說, 因為我遇到很多說我去訪問, 啊還是說我跟他們拜訪, 那些日本時代……有日本時代生活經驗的人, 他們都會給我唱一首那個桃太郎^{ももたろう}的歌, 那是大家都會唱呢 (--nih)? 就是——

蔡: 日本時代有讀書的人都會唱。

林: 那是學校有教嗎?

蔡: 對, 我是幼稚園^{ようちえん}就教了。

林: 喔喔 (Ooh-ooh), 幼稚園^{ようちえん}就教。

蔡: 普通如果沒有讀幼稚園^{ようちえん}, 也是學校會教。

林: 學校的課本有桃太郎^{ももたろう}的故事嗎?

蔡: 嗯……應該 1 年生, 1 年生就有的樣子喔。それから (還有) 講談社^{こうだんしゃ}の繪本^{えほん}一定有, 乎。啊一個桃太郎^{ももたろう}, 啊一個金太郎^{きんたろう}這樣, 那些故事。

林: 桃太郎^{ももたろう}……我再看看一下喔, 可能有準備一些要問, 但是忘記問的問題。啊! 你有說到說一個……「非國民^{ひこくみん}」, 說你們老師罵你們的時候都說——

¹² 應指德國作曲家「小約翰史特勞斯」(Johann Baptist Strauss), 著名作品如〈藍色多瑙河〉。

¹³ 指綠島。

遅れるよ（遅到），那陣子乎，不會照班……班¹⁴所來啊，有時候會遇到空襲^{くうしゅう}，啊就空襲^{くうしゅう}就給它停著啊……就給它〔停著〕乎。真……喔那陣子我通学^{つうがく}真痛苦啦。それでも乎，為了要勞動服務啦，為了奉仕^{ほうし}作業^{さぎょう}，刁工（thiau-kang，專程）再來的乎，啊你又給我罵啊，這個老師沒資格啦。

¹⁴ 應指「班表」。